Salesforce Spring '19 リリースノート

Salesforce, Spring '19

つながりのあるカスタマーエクスペリエンスへの道を切り開く



@salesforcedocs

最終更新日: 2019/01/31

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2019 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Spring '19 リリースノート 1
リリースノートの使用方法 4
機能が使用可能になる方法と状況 15
サポートされるブラウザ 52
Salesforce 全体 55
Lightning Experience 77
Essentials Edition 88
Salesforce Einstein 92
セールス 95
サービス 184
Analytics 252
コミュニティ 305
Chatter 354
Files 356
モバイル 358
Financial Services Cloud 368
Health Cloud 370
カスタマイズ 380
セキュリティと ID 425
リリース 449
Salesforce IoT 450
開発 452
マーケティング 540
重要な更新 540
ドキュメントコンテンツ 542
その他の Salesforce 製品とサービス 550

Salesforce Spring '19 リリースノート

Spring'19リリースは、パーソナライズと統合がより進んだカスタマージャーニーを実現し、組織全体で情報の理解を深めて、チームがより効率的に作業できるようにします。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

Salesforceのリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

機能が使用可能になる方法と状況

Spring '19の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

Apple® Safari®のサポートをバージョン12.x以上に変更しました。Salesforce用にサポートされるブラウザは、Salesforce ClassicまたはLightning Experienceのどちらを使用しているかによって異なります。

Salesforce全体: Lightning Experienceを採用するツールの増加と生産性の向上

Lightning Experienceへの適切な移行をガイドする新しいツールが導入されました。お気に入りのリストビューをデフォルトのリストにしたり、新しいLightning Schedulerを使用して予定のスケジュールを簡略化したりすることもできます。翻訳、新しい質問種別、招待を使用してアンケートからより多くのインサイトを取得します。ポップアウトユーティリティを備えた複数のウィンドウ、およびコンソールアプリケーション内のカスタマイズされたサブタブを使いこなします。さらに、レコードページを印刷したり、感謝バッジを使用して同僚に感謝したり、より多くのデータストレージを利用したりできます(もちろんこれだけではありません)。

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experienceは、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、Lightningプラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。

Salesforce Essentials: セールスとサービスの組み合わせ、アプリケーション内ヘルプ、ユーザ管理と設定フローの更新

Sales EssentialsとService Essentialsが1つの製品、Salesforce Essentialsに組み合わされました。アプリケーション内ヘルプは、Salesforceを離れることなくリソースを検索するのに役立ちます。ユーザライセンスを追加または削減してチームに適切な数が割り当てられるようにし、[設定]の再設計された[ユーザ]ページでユーザを管理します。新しい音声サポートの設定フローを使用して、サードパーティの音声サポートシステムをSalesforceと統合し、セールスフェーズの設定フローでリードと商談の詳細を確認します。

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

Einstein によりインサイトと取引先責任者の提案レポートが提供され、Einstein データインサイトではレポートからより詳しい情報を得ることができます。Einstein 活動キャプチャでの改善された同期、共有、総計値に加えて、ケース分類とさらにスマートになったボットにより、エージェントとシステム管理者の効率が向上します。予測ビルダーでは、モデルの各プレディクターの影響が示され、準備が整ったときに通知されます。

セールス: High Velocity Sales ツール、Google インテグレーションの改善、CPQ による柔軟な価格設定、Pardot での Einstein

内部の営業担当に、High Velocity Sales で成功するために必要なツールを提供します。Salesforce を Gmail および Google カレンダーと統合し、お気に入りの方法で作業をすばやく実行します。Salesforce CPQ の使用量ベースの価格設定を使用して、価格設定方法の柔軟性を高めます。Einstein 行動スコアリングと Pardot のキャンペーンのインサイトを使用して、見込み客のターゲティングに関して営業チームとマーケティングチームの連携を図ります。

サービス: Einstein ケース分類、Lightning Knowledge 移行ツール、予防メンテナンスの改善

新規ケースの項目値を過去のデータに基づいて推奨する Einstein ケース分類を使用して、エージェントがよりすばやくスマートに作業できるようサポートします。SMS テキストメッセージングチャネルのサポートを含め、Einstein ボットの機能強化を確認してください。Lightning Knowledge 移行ツールを使用して、Salesforce Classic 知識ベースを移行します。すべてのメンテナンス計画の納入商品を 1 つの作業指示にグループ化し、各納入商品を作業指示品目にリンクして、フィールドサービスの予防メンテナンスの追跡を簡略化します。また、ケース管理ツールで新たに Lightning Experience がサポートされるようになりました。

Analytics: レポートでの AI 駆動のインサイト、Lightning Experience の結合レポート、コミュニティのアクションメニュー

レポートの Einstein データインサイトで興味深いパターンについて注意が促されるため、グループ化、絞り込み、集計を行うことなくビジネスに関する新たな情報を知ることができます。Lightning 結合レポートで最大 5 個のレポートタイプからインサイトを取得し、12 列のダッシュボードでインサイトを共有します。コミュニティでアクションメニューを使用して、埋め込み Analytics ダッシュボードから直接レコードを更新します。レポートとダッシュボードおよび Einstein Analytics 全体で、これらとその他多数の機能や機能強化のメリットを得ることができます。

コミュニティ: Mobile Publisher、パートナー取引先リレーション、フィードの翻訳、Einstein Next Best Action など

Spring '19 には、コミュニティに関する機能と機能強化が数多く含まれています。Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher を使用して既存のコミュニティをモバイルアプリケーションに変換し、App Store または Google Play でリリースします。流通業者や再販業者などのパートナー種別間の共有リレーションを容易に作成できます。Google Cloud Translation API と統合し、コミュニティメンバーが質問、投稿、コメント、回答、返信を 50 の言語にすぐに翻訳できるようにします。Einstein Next Best Action を使用して適切な提案を適切なタイミングで提供します。

Chatter: 並び替えの保持、投稿のハイパーリンク、リダイレクト URL の改善、トピックおよび投稿に関するレポート

ユーザのフィードの並び替えオプションは、移動しても保持されます。投稿やコメントにハイパーリンクを追加します。フィードのリダイレクト URL が短くなり、フィード項目 ID が含まれます。特定のトピックが含まれる投稿およびコメントに関するレポートを実行し、投稿およびコメントのコンテンツやその他の詳細を確認します。

ファイル: 管理パッケージ内のアセットファイルの更新、組織アセットライブラリのフォルダ

管理パッケージ内のアセットファイルを更新し、フォルダを使用して組織アセットファイルを整理します。

モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

場所を問わずより多くの作業を実行できる最新機能を確認してください。

Financial Services Cloud: Lightning Scheduler と Financial Services Analytics

Lightning Scheduler では、顧客や見込み客の予定のスケジュールを簡略化するために必要なツールが提供されます。Financial Services Analytics は、データセット、データフロー、ダッシュボードを備えたアプリケーションスイートで、迅速にデータをインサイトに変換するのに役立ちます。

Health Cloud: ケアの社会的決定要因、紹介管理など

患者の包括的な支援、患者紹介の合理化、事前承認要請の業界標準コードの提供を行います。患者リレーションやパーソナライズされたジャーニーを構築したり、より柔軟性の高い評価を提供したり、カスタムスマートフォンアプリケーションを作成したりします。

カスタマイズ: Einstein Next Best Action、Lightning Flow Builder、Salesforce Connect の機能強化

正式リリースされた Einstein Next Best Action を使用して、組織をスマートにします。新しい Flow Builder で、よりシンプルで合理化されたフローを作成します。新しいツール、既存のツールの改善、制限の緩和により、これまでより簡単に外部データシステムへの接続を作成して操作します。

セキュリティと ID: 新しいログインオプション、デバイス管理、キャッシュのみの鍵の正式リリース

ユーザはメールアドレス、電話番号などを使用してログインできます。デバイス管理を使用して、デバイスアクセスの追跡と取り消しを行います。また、キャッシュのみの鍵サービスが正式にリリースされました。

リリース: 変更セット操作のクリック数の削減

変更セットの詳細ページを読み込まずに、変更セットに対するアクションを実行できます。

Salesforce IoT: Field Service Lightning for Android で使用可能な IoT Insights、Service Cloud の IoT、改善されたコンテキスト設定プロセス

派遣作業員は IoT Insights を使用して Field Service Lightning for Android で Salesforce IoT データを表示できるようになりました。Salesforce IoT が Unlimited Edition の Service Cloud の一部として提供されるようになりました。また、プロセスを簡略化するウィザードやプロセスのナビゲーションを効率化するその他の機能が追加され、コンテキスト設定フローが改善されました。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用する、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでも、Lightning プラットフォームの次の機能強化は、別の組織に再販するための優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

マーケティング: Google Analytics 360 利用者の有効化、Social Studio の Instagram エンゲージメントおよびストーリー

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを 1 か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

重要な更新

このリリースには、Lightning Experience ユーザ、ユーティリティ、コミュニティおよびポータル、プロセスおよびフロー、エンタープライズテリトリー管理、ガイド付きアクションリストコンポーネント、組織スキーマに関する新しい重要な更新が含まれています。URL のインスタンス名、および自動項目更新によるメール通知に関する重要な更新は延期されました。

ヘルプ & トレーニング

CLI プラグイン開発者ガイドの導入、Outlook および Gmail インテグレーションの機能に関するコンテンツの追加、省略されていたサポート言語に関するドキュメントの追加が行われました。Trailhead のモジュール、トレイル、プロジェクトが追加され、手順動画が作成および更新されました。また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

その他の Salesforce 製品とサービス

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
- HTML 版では、使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。
- リリースノートは新機能や変更された機能に関するものであり、既知の問題に関するものではありません。既知の問題については Salesforce の「既知の問題」サイトを参照してください。

メモ: 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。

一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースは、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができるように作成されています。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

環境

Lightning Experience、モバイル、および Salesforce Classic で使用できる機能を参照してください。

エディション

使用可能な機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

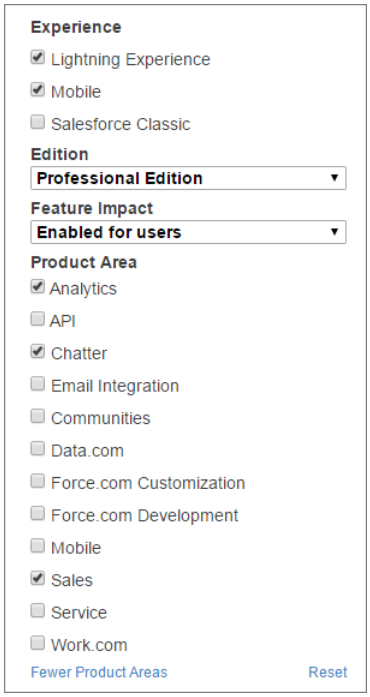
機能の影響

有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

製品エリア

組織で使用する商品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、右側にある [条件を表示] をクリックします。



絞り込まれたリリースノートのリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択して URL をコピーし、その URL を任意の方法で配信します。

Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

この移行期間を成功させる鍵は、1 つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのため、該当するリリースノートには最上位レベル(クラウド全体またはクラウド内の個々の機能)での環境情報を追加しました。いくつか例を見てみましょう。

- Service Cloud の新機能は、*両方のデスクトップ環境*で使用可能であるため、リリースノートの「対象」セクションには、「この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。」と記載されています。
- Sales Cloud の新機能は、Lightning Experience でのみ使用可能であるため、リリースノートの「対象」セクションには、「この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。」と記載されています。

主要機能が Salesforce アプリケーションでも使用可能な場合は、リリースノートの「対象」セクションでその点を示しています。新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することもできます。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現したアイデア
Salesforce 全体	
Configurable Default List View in Lightning Experience (Lightning Experience の設定可能なデフォルトのリストビュー)	固定表示リストを使用した最も重要なリストビューへの直接移動
Thanks and Links in Lightning Experience (Lightning Experience での感謝とリンク)	Lightning Experience での感謝バッジの使用
Lightning Experience	
Suppress "Help & Training" link ([ヘルプ & トレーニング] リンクの非表示)	更新された Lightning Experience ヘルプメニューへのカスタムリソースの追加
Customize Help & Training Link on Homepage in Lightning (Lightning でのホームページの [ヘルプ & トレーニング] リンクのカスタマイズ)	更新された Lightning Experience ヘルプメニューへのカスタムリソースの追加
セールス	
Territory Sharing for Custom Objects in Enterprise Territory Management (エンタープライズテリトリー管理でのカスタムオブジェクトのテリトリー共有)	テリトリー別の個々のレコードの共有
Lightning Email Templates not accessible in Salesforce Inbox (Mobile) (Salesforce Inbox で Lightning メールテンプレートにアクセスできない (モバイル))	Salesforce Inbox での Lightning テンプレートを使用した迅速なメールの作成
Create Folders for Email Templates in Salesforce Engage (Salesforce Engage でのメールテンプレートのフォルダの作成)	Engage キャンペーン用のメールテンプレートの迅速な検索
Connect Multiple Pardot Accounts to One Salesforce Org (1 つの Salesforce 組織への複数の Pardot アカウントの接続)	Pardot ビジネスユニットを使用したマーケティング活動への専念
Support Multiple CNames (複数の CName のサポート)	メールのリンクとバニティ URL でのカスタムトラッカードメインの使用
Required Fields for Tasks in Salesforce Inbox (Salesforce Inbox の ToDo の必須項目)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Ability to Create Custom Objects from Salesforce Inbox in Outlook and Chrome (Outlook および Chrome の Salesforce Inbox からカスタムオブジェクトを作成する機能)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Auto-Populating Profile Records When Creating New Leads and Contacts (新しいリードおよび取引先責任者を作成するときのプロファイルレコードの自動入力)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Edit Contact and Lead Information in Salesforce Inbox (Salesforce Inbox での取引先責任者およびリード情報の編集)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用

IdeaExchange	実現したアイデア
Change Log Email Icon When I've Already Added an Email to Salesforce (すでにメールを Salesforce に追加している場合の [メールを記録] アイコンの変更)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Ability to Edit New Contact Record Details When Adding to Salesforce from Inbox (Inbox から Salesforce に追加するときに新しい取引先責任者レコードの詳細を編集する機能)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
E-Mail Opt Out Doesn't Disable E-mailing (メール送信除外でメール送信が無効にならない)	新しい設定を使用して送信除外設定と「追跡しない」設定を遵守
	顧客のメール送信除外設定を考慮
Email Opt Out Functionality in Lightning (Lightning でのメール送信除外機能)	新しい設定を使用して送信除外設定と「追跡しない」設定を遵守
	顧客のメール送信除外設定を考慮
Email Templates in Lightning - Need to Control Visibility / Folders (Lightning のメールテンプレート - 表示/フォルダの制御)	フォルダとネストを使用したメールテンプレートの整理
	共有するメールテンプレートの制御
List View: Checklist (リストビュー: チェックリスト)	リストを使用しないワンクリックでの ToDo の完了
Need to Log Even Using Salesforce Inbox (Salesforce Inbox を使用した行動の記録)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Log Emails to Campaigns (キャンペーンへのメールの記録)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Allow Us to Change the Visible Fields in Salesforce Inbox for Custom Objects (Salesforce Inbox でのカスタムオブジェクトの参照可能項目の変更)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Use Lightning Email Templates As Well As Classic Templates in Salesforce Inbox (Salesforce Inbox での Classic テンプレートと Lightning メールテンプレートの使用)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Add Salesforce Inbox Email Attachments Under Files not Attachments ([添付ファイル] ではなく [ファイル] での Salesforce Inbox メール添付ファイルの追加)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Create Accounts from Salesforce Inbox (Salesforce Inbox からの取引先の作成)	1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Sync recurring events with Lightning Sync for Microsoft Exchange (Lightning Sync for Microsoft Exchange との定期的な行動の同期)	一連の行動の同期 (正式リリース)

IdeaExchange	実現したアイデア
コミュニティ	
"Sort By" choice saved for user or session in Customer Service (Napili) template (カスタマーサービス (Napili) テンプレートでのユーザまたはセッションの[並び替え]の選択内容の保存)	コミュニティビルダーでのデフォルトのフィード並び替え順の定義
Change Default sort order discussions overview community (コミュニティのディスカッションのデフォルトの並び替え順の変更)	コミュニティビルダーでのデフォルトのフィード並び替え順の定義
Chatter answers default sorting in communities (Compact Feed) (コミュニティの Chatter アンサーのデフォルトの並び替え (コンパクトフィード))	コミュニティビルダーでのデフォルトのフィード並び替え順の定義
Hyperlink button in Lightning for Chatter posts (Lightning での Chatter 投稿のハイパーリンクボタン)	コミュニティの投稿とコメントへのハイパーリンクの追加
Chatter	
Hyperlink button in Lightning for Chatter posts (Lightning での Chatter 投稿のハイパーリンクボタン)	投稿とコメントへのハイパーリンクの追加
カスタマイズ	
Assign Lightning Home Pages by App (アプリケーションごとの Lightning ホームページの割り当て)	Lightning アプリケーションに基づくデフォルトのホームページの割り当て

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースは、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができるように作成されています。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

Release Readiness の基本

- Release Readiness Trailblazers。各種リソースと専門家にアクセスし、リリース準備状況に関するあらゆることを確認します。
- リリースのマイルストン。リリースの重要な日付を確認します。
- Trust 状況のメンテナンス。Sandbox およびその他のリリース日時を確認します。メンテナンス日を確認するには、[Instances (インスタンス)] をクリックし、自分のインスタンスをクリックします。
- Sandbox 更新の計算機能。既存の Sandbox 組織を更新する必要があるかどうかや、いつ更新する必要があるのかを計画します。
- Sandbox プレビュー動画。Sandbox プレビュープロセスのナビゲーション方法について学習します。
- Sandbox プレビュー手順。Sandbox で新機能への早期アクセスを取得します。

- カスタマーサクセスのイベントカレンダー。リリースの概要の Web セミナーに登録したり、Web セミナーの録画にアクセスしたりします。
- Certification Release Maintenance Schedule (認証リリースメンテナンススケジュール)。Trailhead の認定資格を更新します。
- Salesforce リリースへの準備。Trailhead を使用してリリース戦略を作成します。
- Releases Email Journey (リリースメールジャーニー)。メールに登録してリリースの準備を整えます。

このリリースの新機能

- リリース概要デッキ (ROD)。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- リリースマトリックス。ユーザにすぐに影響を与える機能をすばやく確認します。
- Spring '19 プレリリースのサインアップ。プレリリース組織にサインアップして、新機能に早期アクセスを取得します。
- Release Readiness の提供。新しい機能を登録し、活用します。
- リリースデモ。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- Spring '19 リリース Web サイト。新しい機能を確認します。
- 「Spring '19 リリースの特長」モジュール。Spring '19 Trailhead バッジを取得します。
- Release in a Box。このキットを使用して新しいリリースの準備をして、新しいリリースを組織とユーザに提示します。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

最新の情報 (以下の日付以降の差分) は英語版ご覧ください。

2019 年 2 月 4 日

ビューステートの制限の緩和によるより複雑な Visualforce ページの作成

ビューステートサイズの上限が 135KB から 170KB に増加しました。

Client Segmentation Analytics を使用したルール適用時のアクションの Financial Services 顧客の特定

Financial Services Cloud のお客様向けの新しい Analytics アプリケーションが発表されました。

フィード項目を最適な場所に移動

フィード項目を移動するために必要なユーザ権限が修正されました。

Community Cloud 向け CMS のさらなる活用 (ベータ)

本番環境の CMS コンテンツのビデオサポートの遅延が明記されました。

Visual Studio Code での Apex 記号の名前変更

2019 年 2 月 9 日に正式リリースされる Apex Refactor: Rename のリリースノートが追加されました。

変更されたオブジェクト

Folder オブジェクトの `Type` 項目の値として `EmailTemplate` が追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

`tabindex` 属性の変更に関する情報が追加されました。

`lightning:formattedDateTime` の `timeZone` 属性の IANA タイムゾーン名に関する注記が追加されました。

Lightning Locker の変更

Locker による SVG ファイルのサニタイズに関する注記が追加されました。

お客様のご要望

IdeaExchange (Lightning Sync を使用した Microsoft® Exchange の定期的な行動の同期) の実現が発表されました。

修正時に必須になった [バンドル構造を保持] 項目

契約を修正するときの新しい要件に関するリリースノートが追加されました。

Salesforce Billing Spring '19 のインストール前の手順

Salesforce Billing Spring '19 をインストールする前に支払の実行および請求書の実行のバッチプロセスを一時停止するための新しい要件が追加されました。

カスタム Salesforce コミュニティモバイルアプリケーションの作成、ブランド設定、配布

2019 年 2 月 11 日に正式リリースされる Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher のリリースノートが追加されました。

2019 年 1 月 31 日

削除: Apex トリガでの変更イベントのキャプチャ (開発者プレビュー)

この機能はまだ準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。

2019年 1 月 30 日

ヘルプ & トレーニング

省略されていたサポート言語に関するドキュメントが追加され、新しい Trailhead のトレイル、モジュール、手順動画が追加されました。

メタデータ API

BotVersion メタデータ型に関するリリースノートが更新され、`sourceType` のサブタイプは BotStepCondition ではなく BotVariableOperand で、`sourceType` が必須項目でなくなったことが記載されるようになりました。

ProfileActionOverride メタデータ型に関する変更が追加されました。このメタデータ型は、Profile で定義できなくなりました。代わりに、関連する CustomApplication からメタデータ型を定義します。

変更されたオブジェクト

PricebookEntry オブジェクトに `IsArchived` 項目が追加されました。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)

重要な更新が Summer '19 に延期されたことを示すようにリリースノートが更新されました。

動的に作成されたコンポーネントでのスクリプトタグのブロック

Aura コンポーネントの新しい制限に関するリリースノートが追加されました。

コミュニティでのページの読み込み時間の短縮

`https://static.lightning.force.com` を会社のホワイトリストに含めて動作を保証するためのガイダンスでリリースノートが更新されました。また、わかりやすくするためにコンテキストが追加されました。

メールテンプレートをすばやく見つける

[メールテンプレート]ページにはLightningメールテンプレートのみが表示されることが明確になるようにトピックが更新されました。

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新) の延期

重要な更新の延期に関するリリースノートが追加されました。

OAuth 2.0 接続アプリケーションクライアントの秘密に必要な文字数の増加

クライアントの秘密のサイズの変更は既存のOAuth接続アプリケーションに影響しないことが明確になるようにトピックが更新されました。

Einstein 予測ビルダー: 改善されたスコアカード、通知、新しい設定フロー (正式リリース)

Einstein 予測ビルダーの正式リリースに関するリリースノートが追加されました。

削除: Google アナリティクスを使用した利用者の効果の評価

この機能はまだ準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。

削除: 無効な選択リスト値によるレポートの絞り込み

この機能はまだ準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新)

[重要な更新]に更新が表示されるタイミングと更新が自動的に有効化されるタイミングが更新されました。

Lightning Data サービスで返される新しいエラー値

Lightning Data サービスで返される新しいエラー値に関するリリースノートが追加されました。

2019 年 1 月 23 日

Lightning Experience 設定コンバータを使用した Lightning Experience 用の Visualforce ページの準備 (ベータ)

準備状況チェックのVisualforceチェックがLightning Experience設定コンバータのVisualforceタブに置き換わることが明記されました。

Flow Builder を使用したより直感的なフローの作成

Flow Builderで使用される用語を反映してフローのエラーメッセージの更新に関する注記が明記されました。

Field Service Mobile アプリケーション: バージョン 5.0 へようこそ

Field Service Mobile アプリケーションバージョン 5.0 は 1 月にリリースされます。

お客様のご要望

当社が配信したアイデアが追加されました。

変更されたオブジェクト

EmailMessage オブジェクトの新しい項目 `EmailTemplateId` の名前が修正されました。

EmailMessage オブジェクトに新しい項目 `ActionCadenceStepTrackerId` が追加されました。

顧客のメール送信除外設定を考慮

メール送信除外の以前の機能が明記されました。

削除: メールリレーの有効化設定を別のページに移動

この機能はまだ準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。

Lightning Experience 移行アシスタントの一部の機能の名前変更
Lightning Experience 移行アシスタントの [Lightning Experience にとどまるようにユーザを促す] と [Lightning Experience でのみ Lightning Experience ユーザを保持] の 2 つのオプションの名前が変更されました。

レコード詳細でのインライン編集の使用
Lightning コミュニティのレコード詳細コンポーネントのインライン編集の拡張を発表する新しいトピック。

更新された Lightning Experience ヘルプメニューへのカスタムリソースの追加
[Trailhead の詳細] セクションがヘルプメニューの他のセクションの Trailhead モジュールへのリンクに置き換わったことが明確になるように改定されました。また、Salesforce ヘルプのコンテンツを検索するためのリンクがヘルプメニュー内からドキュメントを検索する機能に置き換わったことが明記されました。

イベント公開の失敗の新しい状況コード
プラットフォームイベントの公開制限を超えたときに返される状況コードに関する情報が追加されました。

変更される可能性がある DOM 検査テスト
エンドツーエンド UI テストのメッセージングが明記されました。

Analytics for iOS/Android の Spring '19 バージョンへのアップグレード
Einstein Analytics モバイルの新規リリース (新しい配色、テーブル内の画像、推奨グラフ、グラフでの長押しなど) に関するリリースノートが追加されました。

Dev Hub: 新しい Limited Access ライセンス
Free Limited Access ライセンスを使用してユーザを Dev Hub 組織に追加し、スクラッチ組織を作成できるようにします。

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期
重要な更新の延期に関するリリースノートが追加されました。

2019 年 1 月 16 日

フォルダとネストを使用したメールテンプレートの整理
[Lightning メールテンプレートのフォルダの作成] 権限が必要な場合が明記されました。

Salesforce レコードへの Quip 文書の直接追加 (ベータ)
新しい Quip 文書コンポーネントに関するリリースノートが追加されました。

2019 年 10 月に廃止される Force.com IDE
2019 年 10 月に予定されている Eclipse の Force.com IDE プラグインの廃止に関するリリースノートが追加されました。

Tooling API
PackageInstallRequest オブジェクトの新しい `UpgradeType` 項目が追加されました。

強化された Field Service のヘルプコンテンツの概要
新しい Field Service Lightning のヘルプコンテンツに関するリリースノートが追加されました。

削除: 検索されたオブジェクトを一目で確認
この機能はまだ公開する準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。再び公開される場合は、公開の時期をお知らせいたします。

削除: スプレッドシートからのオブジェクトの作成
リリースノートが削除されました。Spring'19 では、スプレッドシートからオブジェクトを作成できません。

スクラッチ組織: 設定可能な Salesforce 環境
新規追加または廃止されたスクラッチ組織機能に関する情報が追加されました。組織設定が Winter '19 で廃止されないことが発表されました。

外部オブジェクトのデータ変更のより簡単な追跡 (ベータ)
外部変更データキャプチャ (ベータ) に関するリリースノートが追加されました

2019 年 1 月 9 日

Pardot ビジネスユニットを使用したマーケティング活動への専念
機能の使用可能状況に関するリリースノートが追加されました。

アウトバウンドメッセージでのセッション ID の安全な送信
アウトバウンドメッセージのセキュリティの機能強化に関するリリースノートが追加されました。

変更されたオブジェクト
PermissionSetAssignment オブジェクトの新しい `PermissionSetGroupId` 項目に関するリリースノートが追加されました。

Lightning で参照可能な Classic アプリケーションのホームページプロファイルの割り当てが編集不可に変更
機能の使用可能状況に関するリリースノートが追加されました。

更新されたパスワードブラックリストによるセキュリティの強化
パスワードブラックリストを拡張するための Salesforce カスタマーサポートに問い合わせる手順が削除されました。パスワードブラックリストはデフォルトで拡張されています。

Salesforce Billing Spring '19 のインストール前の手順
Salesforce Billing のインストール前の手順が追加されました。

Salesforce CPQ と Salesforce Billing 用に消費スケジュールを有効化
消費スケジュールの有効化手順が追加されました。

カスタムスクリプトでの消費スケジュールと消費レートの使用
リリースノートが「Salesforce CPQ」セクションの「その他の変更」から「消費スケジュールを使用した使用量の価格設定」セクションに移動されました。

2019 年 1 月 8 日

幅広くなった共有継承によるデータセットセキュリティの改善
リリースノートが削除されました。

2018 年 12 月 26 日

変更されたオブジェクト
ForecastingShare に対する変更が追加されました。

ForecastingType に対する変更が追加されました。

Apex を使用したプロセスのスケジュール済みアクションとフローの再開イベントのテスト
イベントプロセスでのスケジュール済みアクションのテスト方法に関する詳細が追加されました。

変更された Apex クラス
プラットフォームイベントメッセージが受信されたときに開始されるプロセスでも stopTest が機能することを反映して更新されました。

Flow Builder を使用したより直感的なフローの作成
Flow Builder で使用される用語を反映してフローのエラーメッセージの更新に関する注記が追加されました。

Lightning Experience 設定コンバータでの変換と移行の迅速化
変更の使用可能日が 2019 年前半から更新されるように Where ステートメントが更新されました。

GoodData の廃止
GoodData の廃止に関するリリースノートが追加されました。

2018 年 12 月 20 日

Salesforce Billing: 使用量サマリーおよびエバーグリーンサブスクリプション用の新しい請求書オプション
Avalara for Salesforce Billing を使用しているユーザに、Salesforce Billing Spring '19 へのアップグレードをお待ちいただくように警告しました。

注文商品の予約金額に基づく収益スケジュールの作成
[注文商品の予約] 項目に注文商品の予約金額が表示されることが明記されました。

Salesforce CPQ と Salesforce Billing: 拡張された請求書機能、修正オプション、使用量サマリーのための消費スケジュール
Spring '19 の Salesforce CPQ および Salesforce Billing のすべての新しいオブジェクト、項目、選択リスト値を示すナレッジ記事へのリンクが追加されました。

2018 年 12 月 17 日

Salesforce Spring '19 リリースノート
公開済みプレビューリリースノート。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- フィードバックフォーム: Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter** — Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

機能が使用可能になる方法と状況

Spring '19 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

Apple® Safari® のサポートをバージョン 12.x 以上に変更しました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience でサポートされるブラウザ	✅			
Salesforce Classic でサポートされるブラウザ	✅			
Einstein Analytics でサポートされるブラウザ	✅			

Salesforce 全体

Lightning Experienceへの適切な移行をガイドする新しいツールが導入されました。お気に入りのリストビューをデフォルトのリストにしたり、新しい Lightning Scheduler を使用して予定のスケジュールを簡略化したりすることもできます。翻訳、新しい質問種別、招待を使用してアンケートからより多くのインサイトを取得します。ポップアウトユーティリティを備えた複数のウィンドウ、およびコンソールアプリケーション内のカスタマイズされたサブタブを使いこなします。さらに、レコードページを印刷したり、感謝バッジを使用して同僚に感謝したり、より多くのデータストレージを利用したりできます (もちろんこれだけではありません)。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加				
1 か所での Lightning Experience の移行の促進			✅	
Lightning Experience 移行アシスタントの一部の機能の名前変更			✅	
Lightning Experience の有効化 (重要な更新) (リリース遅延)		✅		
Sandbox環境での採用アシスタンス機能の表示			✅	
[設定] の [オンボーディング & アシスタンス] から [採用アシスタンス] への名称変更		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
更新された Lightning Experience ヘルプメニューへのカスタムリソースの追加	✅			
Lightning Experience 設定コンバータ: Visualforce ページのスキャンおよび準備、一度にすべてのオブジェクトのスキャン				
Lightning Experience 設定コンバータを使用した Lightning Experience 用の Visualforce ページの準備 (ベータ)	✅			
Lightning Experience 設定コンバータでの変換と移行の迅速化			✅	
フィードバックの送信 (リリース遅延)	✅			
固定表示リストを使用した最も重要なリストビューへの直接移動	✅			
レコードページの印刷	✅			
Lightning Scheduler: 予定のスケジュールの簡略化				
Lightning Scheduler を使用したパーソナライズされた予定の作成			✅	
Salesforce アンケート: グローバル化と新しい質問種別によるインサイトの増加				
アンケートの翻訳	✅			
新しい質問種別を使用した顧客のインサイトの取得	✅			
ネットプロモータースコア®、ランキング、評価、スコアリング、スライダ質問種別のカスタムレポートの作成			✅	
取引先責任者と個人取引先のアンケートへの招待の生成	✅			
アンケートへの招待の有効期限の設定	✅			
コンソール				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ポップアウトユーティリティを使用して生産性を高めるウィンドウを開く (重要な更新)	✅			
新しいサブタブオプションを使用したワークスペースの管理	✅			
コンソールアプリケーション用の2範囲ページテンプレートの使用			✅	
ユーティリティバーでの Lightning Web コンポーネントの使用		✅		
Lightning コンソール JavaScript API によるタブの色の設定、ユーティリティポップアウトの無効化、ブラウザタブのタイトルの編集		✅		
Lightning Experience での感謝バッジの使用			✅	
検索				
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に	✅			
データストレージの増加		✅		
数式項目でハイパーリンクを正しく開く			✅	
項目履歴データの保持制限の更新		✅		

Lightning Experience

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、Lightning プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
このリリースの Lightning Experience の機能			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Spring '19 の Lightning Experience で新しく追加された機能と使用できなくなった機能			✅	

Essentials Edition

Sales Essentials と Service Essentials が 1 つの製品、Salesforce Essentials に組み合わされました。アプリケーション内ヘルプは、Salesforce を離れることなくリソースを検索するのに役立ちます。ユーザライセンスを追加または削減してチームに適切な数が割り当てられるようにし、[設定] の再設計された [ユーザ] ページでユーザを管理します。新しい音声サポートの設定フローを使用して、サードパーティの音声サポートシステムを Salesforce と統合し、セールスフェーズの設定フローでリードと商談の詳細を確認します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
セールスとサービスの統合	✅			
アプリケーション内ヘルプでの役に立つリソースと推奨コンテンツの検索	✅			
チームの変更を反映したユーザの追加または削減		✅		
[ユーザ]ページでのチームの情報と権限の管理		✅		
音声サポートの設定フローを使用したコールセンターの作成		✅		
セールスフェーズの設定フローでのリードと商談の把握		✅		

セールス

内部の営業担当に、High Velocity Sales で成功するために必要なツールを提供します。Salesforce を Gmail および Google カレンダーと統合し、お気に入りの方法で作業をすばやく実行します。Salesforce CPQ の使用量ベースの価格設定を使用して、価格設定方法の柔軟性を高めます。Einstein 行動スコアリングと Pardot のキャンペーンのインサイトを使用して、見込み客のターゲティングに関して営業チームとマーケティングチームの連携を図ります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
High Velocity Sales (リリース遅延)				
セールスケイデンスを使用してアウトリーチを合理化し、営業担当の販売を迅速化			✅	
High Velocity Sales ワークスペースおよび作業キューによる営業担当の強化			✅	
Sales Cloud Einstein				
Einstein 商談スコアリング				
より多くのユーザに商談スコアを提供	✅			
より多くの場所に商談スコアを表示	✅			
Einstein 活動キャプチャ			✅	
Einstein インサイト			✅	
Einstein 自動取引先責任者			✅	
中核的なセールス機能				
コラボレーション売上予測				
商品ファミリの売上予測をテリトリー別に取得			✅	
テリトリー売上予測の機能の共有	✅			
売上予測の対象期間の拡大	✅			
エンタープライズテリトリー管理				
テリトリー別のレコード、レポートおよびダッシュボードフォルダ、リストビューへのアクセス権の付与		✅		
テリトリー割り当てに基づいたグループおよびキューへの営業担当の追加		✅		
テリトリー別の個々のレコードの共有	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新)			✅	
テリトリーの商品ファミリ収益売上予測の取得			✅	
テリトリー売上予測の共有	✅			
取引先				
Lightning Experience での取引先チームの削除	✅			
Lightning Experience で取引先を転送する場合により多くの関連レコードを保持	✅			
商談	✅			
中核的なセールス機能のその他の変更				
カスタマイザブル売上予測の廃止		✅		
元のテリトリー管理の廃止		✅		
商品セレクタの機能強化	✅			
生産性機能				
Einstein 活動キャプチャ				
Einstein 活動キャプチャによる行動と取引先責任者の同期			✅	
Einstein 活動キャプチャを使用しないユーザとの活動の共有			✅	
活動総計値で活動データに関する全体像を把握 (ベータ)			✅	
Activities ダッシュボードをさらに活用	✅			
Einstein 活動キャプチャからのメールの追跡	✅			
より多くの推奨コネクションを使用した対人スキルの向上	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein メールインサイト: 新しいインサイト、カスタムインサイトのより詳細な制御、可視性の向上	✅			
Sandbox での Einstein 活動キャプチャの使用			✅	
メール操作環境				
新しい設定を使用して送信除外設定と「追跡しない」設定を遵守			✅	
顧客のメール送信除外設定を考慮			✅	
リストメールの状況を使用して顧客のプライバシーを尊重			✅	
新しい組織の日次外部メール制限の適用を拡大		✅		
より長い RSA 鍵サイズを使用した安全な DKIM 鍵の作成		✅		
エラーが発生したメールを添付ファイルとして送信者に返す			✅	
メールテンプレート				
フォルダとネストを使用したメールテンプレートの整理			✅	
共有するメールテンプレートの制御			✅	
メールテンプレートをすばやく見つける			✅	
「公開 Lightning メールテンプレートを管理」権限の機能強化			✅	
活動				
リストを使用しないワンクリックでの ToDo の完了	✅			
ワンクリックでのフォローアップ行動の作成	✅			
Lightning Dialer			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Inbox アプリケーション				
Salesforce Inbox での Lightning テンプレートを使用した迅速なメールの作成				
Android デバイスでの Inbox 通知の改善	✅			
新しい標準メールインサイトへのアクセス			✅	
よりスマートなメール送信のための統合されたカスタムメールインサイトの使用	✅			
メモ	✅			
カレンダー				
一連の行動のスケジュール (正式リリース)			✅	
Lightning Experience の公開カレンダーを使用したチームの連携			✅	
行動のリソースの予約			✅	
Lightning Sync の設定を使用しない被招集者の追加			✅	
行動のプレビューでの詳細の表示			✅	
カレンダーを印刷するときに詳細を表示	✅			
行動に関連するファイルの参照			✅	
データ品質			✅	
Google とのインテグレーション				
Gmail インテグレーション				
1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用			✅	
Gmail™ での High Velocity Sales 作業キューを使用した販売の加速化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
セッション有効限が切れたときににログイン情報を要求		✅		
Google カレンダーから直接 Salesforce 情報にアクセス	✅			
Gmail™ からのメール受信者以外のユーザに対するメールの記録	✅			
Lightning Sync: API を介して加えられた被招集者の変更を Google カレンダーで表示	✅			
Microsoft® とのインテグレーション				
Outlook® インテグレーション				
Microsoft® Outlook® での High Velocity Sales 作業キューを使用した販売の加速化			✅	
Outlook® からのメール受信者以外のユーザに対するメールの記録	✅			
Outlook® 2019 での Outlook インテグレーションの実行			✅	
Microsoft® Outlook® で Salesforce 2 要素認証を使用			✅	
Lightning Sync for Microsoft® Exchange®				
一連の行動の同期 (正式リリース)			✅	
API を介して加えられた被招集者の変更を Microsoft カレンダーで表示	✅			
Salesforce for Outlook				
最新のクラウドベースの代替製品の探索			✅	
Salesforce for Outlook v3.4.5 へのアップグレード			✅	
Connect for Office	✅			
Salesforce CPQ と Salesforce Billing: 拡張された請求書機能、修正オプション、使用量サマリーのための消費スケジュール				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce CPQ				
消費スケジュールを使用した使用量の価格設定 (正式リリース)	✅			
見積品目エディタでのサブスクリプションの修正	✅			
Salesforce CPQ のその他の変更				
Salesforce Billing				
Salesforce Billing Spring '19 のインストール前の手順	✅			
Salesforce Billing Spring '19 へのアップグレードの完了			✅	
消費スケジュールを使用した使用量サマリーの評価および請求書	✅			
終了日のないサブスクリプションの請求書およびキャンセル	✅			
注文商品の予約金額に基づく収益スケジュールの作成	✅			
Pardot				
Salesforce-Pardot インテグレーション: より簡単な設定、よりスマートな同期				
Pardot ビジネスユニットを使用したマーケティング活動への専念				
改善されたナビゲーションとデザインによる Salesforce-Pardot コネクタの設定	✅			
Pardot 設定アシスタントを使用した簡単な Pardot プロビジョニング			✅	
Salesforce と Pardot 間で同期するレコードの選択				
キャンペーンでのマーケットアセットのパフォーマンスの表示 (正式リリース)			✅	
フランス語、ドイツ語、スペイン語での Pardot の使用 (正式リリース)	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
メールのリンクとバニティ URL でのカスタムトラッカードメインの使用	✅			
Engage キャンペーン用のメールテンプレートの迅速な検索	✅			
ボットクリックなしで Pardot アクションとレポートを取得	✅			
B2B Marketing Analytics の容易な設定			✅	
エンゲージメントアクティビティでのプロスペクトのスコアリング			✅	
GoodData の廃止	✅			

サービス

新規ケースの項目値を過去のデータに基づいて推奨する Einstein ケース分類を使用して、エージェントがよりすばやくスマートに作業できるようサポートします。SMS テキストメッセージングチャネルのサポートを含め、Einstein ボットの機能強化を確認してください。Lightning Knowledge 移行ツールを使用して、Salesforce Classic 知識ベースを移行します。すべてのメンテナンス計画の納入商品を 1 つの作業指示にグループ化し、各納入商品を作業指示品目にリンクして、フィールドサービスの予防メンテナンスの追跡を簡略化します。また、ケース管理ツールで新たに Lightning Experience がサポートされるようになりました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein				
Einstein ケース分類によるエージェントの時間の節約と精度および完了の改善			✅	
ボットがどの程度顧客を理解しているかの評価			✅	
顧客の入力の分類とフィードバックでボットをさらにスマートにする			✅	
SMS テキストメッセージングチャネルでのボットの使用			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ボットビルダーのチャネル設定を使用した簡単な Einstein ボットの設定		✅		
チャネルに依存しないボットの作成			✅	
改善されたボットのパフォーマンスダッシュボードの確認			✅	
新しいボット用語の概要		✅		
Einstein Next Best Action を使用した適切なおすすめの提案 (正式リリース)		✅		
	フィールドサービス			
サービスクルーの迅速な作成 (ベータ)			✅	
サービス予定フィード設定のカスタマイズ			✅	
ガントチャートでの絞り込みの迅速化	✅			
ディスパッチャコンソールの色分け	✅			
メンテナンス計画内の各納入商品の作業指示品目の作成	✅			
リードのサービス予定の作成	✅			
ガントチャートの独自のアイコンの作成			✅	
予定を予約するときの日付による時間枠の並び替え	✅			
一括スケジュール解除へのアクセスの制御			✅	
複数日ビューでの不在の表示	✅			
強化されたフィールドサービスのヘルプコンテンツの概要	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Field Service Mobile アプリケーション				
レイアウトのより詳細な制御			✅	
数式関数と演算子のオフラインサポート			✅	
転送通知用の改善された接続アプリケーション			✅	
サービスレポートの改善			✅	
コンテキストに応じた商品リクエストを使用して商品注文の時間を節約 (Android)			✅	
IoT Insights **カード**: Field Service Lightning (Android) **での** Salesforce IoT **データの表示**			✅	
オフライン Chatter **の機能強化による明確なコミュニケーション** (Android)			✅	
関連リストを使用した Salesforce **アプリケーションへのリンク** (Android)			✅	
作業指示または作業指示品目の通貨をデフォルトで使用 (Android)			✅	
Field Service Lightning **モバイルの他の機能強化**			✅	
ナレッジ				
Lightning Knowledge 移行ツールを使用した未来の受け入れ (正式リリース)				✅
Lightning Experience アクションを使用した記事の管理			✅	
Lightning Knowledge を使用したメールへのファイルの添付			✅	
コミュニティの記事での関連ファイルの表示			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ナレッジ記事への Ooyala 動画の埋め込み			✅	
チャネル				
Messaging				
LiveMessage ライセンスなしでトランスクリプトを表示	✅			
テキストメッセージングチャネルへの Einstein ボットのリリース			✅	
オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのテキストメッセージの転送			✅	
自動リンクで取引先責任者レコードが作成されなくなる	✅			
コミュニティ			✅	
チャット				
Live Agent ライセンスなしのトランスクリプトの表示	✅			
Snap-In チャット会議の利用			✅	
オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのチャットの転送 (正式リリース)			✅	
Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor の機能強化によるエージェントのサポート			✅	
電話				
新規ウィンドウでソフトフォンを開く	✅			
ガイド付き環境を使用した Open CTI の設定		✅		
ソーシャルカスタマーサービス				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
重複する Facebook メッセージの回避		✅		
取引先責任者、取引先、またはリードのマージ時にソーシャル人格とソーシャル投稿を継承	✅			
モバイルアプリケーション用 Snap-in			✅	
Web 用の Snap-in				
転送中の顧客の順番の表示			✅	
チームとして顧客をサポート			✅	
チャット後の更新による応答率の増加			✅	
ゲストユーザによるフローの実行の許可			✅	
ケース管理				
サービスコンソール				
サービスの Lightning フロー				
[ガイド付きアクションリスト]設定から [設定] のリリースへの変換 (重要な更新)			✅	
リリースでの [ガイド付きアクションリスト] 設定の再利用			✅	
ガイド付きアクションリストでの一時停止中のフローの簡単な検索および再開			✅	
ガイド付きアクションの削除オプションの非表示			✅	
最新かつ最高のガイド付きアクションリストの常時表示			✅	
ケース				
メールドラフト承認による顧客とのコミュニケーションの確認			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ケース階層を使用した関連作業の一目での確認			✅	
ケース取引先責任者の役割を使用したユーザの区別			✅	
ケースを引き受けるボタンによる作業の受け入れ	✅			
オムニチャネル				
スキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのテキストメッセージおよびチャットの転送 (正式リリース)			✅	
オムニチャネルによる顧客連絡要求の転送				
オムニスーパーバイザの機能強化による支援			✅	
属性ベースのルーティングを使用して項目データに基づいて作業を割り当て (ベータ)			✅	
生産性				
マクロでの相対日付を使用した正確な日時の設定	✅			
マクロの完了後にタブを閉じる	✅			
Lightning Experience でのすべての Salesforce Classic マクロとクイックテキストの表示	✅			
Lightning Scheduler			✅	
その他の変更				
Lightning Experience での音声サポート設定フローを使用したコールセンターの作成		✅		
Live Agent 設定フローでのオフラインサポートと関連レコードの設定		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Service Cloud Unlimited Edition への IoT の導入によるカスタマーサービスの改善		✅		

Analytics

レポートの Einstein データインサイトで興味深いパターンについて注意が促されるため、グループ化、絞り込み、集計を行うことなくビジネスに関する新たな情報を知ることができます。Lightning 結合レポートで最大 5 個のレポートタイプからインサイトを取得し、12 列のダッシュボードでインサイトを共有します。コミュニティでアクションメニューを使用して、埋め込み Analytics ダッシュボードから直接レコードを更新します。レポートとダッシュボードおよび Einstein Analytics 全体で、これらとその他多数の機能や機能強化のメリットを得ることができます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポートとダッシュボード				
レポート				
Lightning Experience での結合レポートの導入 (正式リリース)	✅			
実行ページからデータをより容易に確認 (正式リリース)				
コンテンツに合わせた列のサイズ変更				
条件付き書式を使用した迅速な関連データの絞り込み (ベータ)				
積み上げ集計を使用してインサイトをすばやく集める				
Lightning Experience での履歴追跡レポートの表示				
ダッシュボード				
12 列ダッシュボードを使用したより多くのデータの表示	✅			
Lightning テーブルに集計項目を数式列として追加	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コンパクトコンポーネントを使用して、より小さいスペースにより多くのデータを配置	✅			
Lightning Experience のダッシュボードのその他の機能強化	✅			
登録				
グループまたはロール別のレポートおよびダッシュボードの登録	✅			
Einstein Analytics				
設定およびデータインテグレーション				
Analytics の初回設定の確実な実行			✅	
Google アナリティクスコネクタによる Analytics への Web サイト統計の取り込み		✅		
接続の作成時のテスト		✅		
SAQL を使用したより複雑なデータフロー検索条件の作成		✅		
イベントベースのスケジュールを使用したデータ同期とデータフロー実行の調整		✅		
スケジュールなしの通知の設定		✅		
予想以上に時間がかかっているデータフローの確認		✅		
実行可能なデータジョブ数の増加 (リリース遅延)		✅		
データセット編集ページのメタデータビューの改善		✅		
アプリケーションの構築				
Analytics ジャーニーをすぐに開始可能なテンプレートからのアプリケーションの作成		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
スマートダッシュボードテンプレートを使用した視覚化の迅速な作成	✅			
アプリケーションおよびダッシュボードテンプレートピッカーによる目的の対象の検索		✅		
他のダッシュボードのページへのリンク	✅			
棒、折れ線、および積み上げを使用した複合グラフのカスタマイズ	✅			
派生ディメンション値のカスタマイズ	✅			
エクスプローラからの将来の売上予測	✅			
Einstein Analytics Classic デザイナの廃止の計画	✅			
アプリケーションの構築のその他の機能強化	✅			
Analytics インテリジェンス				
Einstein データインサイトによるレポートからの詳細情報の取得 (正式リリース)	✅			
2倍の行制限による分析可能なデータの増加	✅			
追加分析用のストーリーのエクスポート	✅			
Salesforce オブジェクトへの簡単なモデルのリリース	✅			
Analytics の拡張				
コミュニティの Analytics からの Salesforce のアクションの実行		✅		
Salesforce モバイルアプリケーションでのスムーズな分析	✅			
エンドユーザ向け Analytics				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Analytics Studio ホームのウォークスルー	✅			
プレイリストから視聴する動画の選択	✅			
歓迎メッセージ内でのオンボーディング動画の視聴	✅			
その他のオンボーディングの機能強化	✅			
Analytics for iOS/Android の Spring '19 バージョンへのアップグレード	✅			

コミュニティ

Spring '19 には、コミュニティに関する機能と機能強化が数多く含まれています。Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher を使用して既存のコミュニティをモバイルアプリケーションに変換し、App Store または Google Play でリリースします。流通業者や再販業者などのパートナー種別間の共有リレーションを容易に作成できます。Google Cloud Translation API と統合し、コミュニティメンバーが質問、投稿、コメント、回答、返信を 50 の言語にすぐに翻訳できるようにします。Einstein Next Best Action を使用して適切な提案を適切なタイミングで提供します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
モバイルコミュニティ				
カスタム Salesforce コミュニティモバイルアプリケーションの作成、ブランド設定、配布			✅	
コミュニティビルダーを使用してモバイルアプリケーションでコンポーネントを非表示にする			✅	
モバイルでの画像環境の改善			✅	
Lightning コミュニティ				
Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ナビゲーションメニュー、関連記事、トピック別トレンド記事でのセレクタの更新			✅	
フィード項目をその場で翻訳			✅	
ミッションを使用したメンバーのエンゲージメントレベルの向上		✅		
フィード項目を最適な場所に移動		✅		
ユーザがトピックから逸れないようにサポート			✅	
Community Cloud 向け CMS のさらなる活用 (ベータ)		✅		
コミュニティでナレッジ記事のファイル関連リストを使用		✅		
プラス投票による影響度カードと、いいね! と言われた数への影響	✅			
テンプレートおよびテーマのエクスポートの機能強化		✅		
ナビゲーション API コールを使用したリンクの将来への対応		✅		
コミュニティでのページの読み込み時間の短縮		✅		
コミュニティの投稿とコメントへのハイパーリンクの追加	✅			
検索エンジンへの最新のコンテンツスナップショットの提供		✅		
より多くのオブジェクト詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加		✅		
SEO について把握		✅		
コミュニティビルダーでの Lightning コンポーネント				
コミュニティでのカスタム Lightning Web コンポーネントの使用			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コミュニティで Lightning コンテナコンポーネントを使用してコードを再利用		✅		
ユーザへの推奨アクションと提案 (正式リリース)		✅		
コミュニティのコンテンツの役立ち度に関するフィードバックの取得		✅		
ユーザが回答をすばやく得られるように支援し、サポートの負荷を軽減			✅	
コミュニティメンバーがサポートからの電話を要求できるボタンを追加			✅	
さまざまなスタイルプロパティを使用してボタンを洗練する		✅		
主要トピックへのスタイルの追加		✅		
コミュニティビルダーでのデフォルトのフィード並び替え順の定義		✅		
レコード詳細でのインライン編集の使用		✅		
レコードリストのオプションの制御		✅		
カスタマー取引先ポータルテンプレートで使用できるコンポーネントの増加		✅		
利用者				
更新された利用者エディタによる作業効率と使いやすさの向上		✅		
カスタム利用者数式の作成		✅		
新しい条件およびデータ型による利用者の機能強化		✅		
パートナーコミュニティ				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
パートナー取引先のリレーションおよびデータ共有ルールの作成 (正式リリース)			✅	
商談およびリードのパートナー取引先の更新			✅	
パートナーユーザによる予算階層を使用した各自の予算の管理			✅	
内部ユーザとシステム管理者による取引先からのコミュニティメンバーの表示および管理			✅	
重複する取引先の取引先ブランド情報のマージ			✅	
		共有とセキュリティ		
キャンペーン、商談、注文での共有セットの使用 (正式リリース) (リリース遅延)		✅		
複数の取引先がある取引先責任者で共有セットを使用(正式リリース)		✅		
コミュニティまたはポータルを使用する組織の外部組織の共有設定の有効化 (重要な更新)			✅	
コミュニティへのコンテンツセキュリティポリシーレベルの割り当て		✅		
CMS Connect を使用する場合の CSP エラーの回避		✅		
CSP リソースの問題の検出と解決		✅		
コミュニティビルダーでクリックジャック保護を容易に有効化		✅		
ケースへのコミュニティユーザアクセスの制限 (正式リリース)			✅	
ゲストユーザに何が表示されるかを確認		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Internet Explorer でサイトおよびコミュニティの iframeDomain Cookie を設定		✅		
ログイン検出のログイン画面とエラーメッセージのローカライズ		✅		
新規ユーザによるサインアップ前のコミュニティの体験		✅		
コミュニティサインアップ用の独自の検証ページの作成		✅		
重要な更新「Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルのURLからインスタンス名を削除」の延期			✅	
Lightning コミュニティのファイル				
コミュニティのファイル詳細ページで統計を追跡		✅		
コミュニティのゲストユーザによるファイルのアップロード			✅	
コミュニティのその他の変更				
コミュニティユーザ表示の制御 (正式リリース)			✅	
コミュニティのトピックの使用状況に関するレポートの作成			✅	
Analytics ダッシュボードからの Salesforce のアクションの実行		✅		

Chatter

ユーザのフィードの並び替えオプションは、移動しても保持されます。投稿やコメントにハイパーリンクを追加します。フィードのリダイレクトURLが短くなり、フィード項目IDが含まれます。特定のトピックが含まれる投稿およびコメントに関するレポートを実行し、投稿およびコメントのコンテンツやその他の詳細を確認します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
並び替えの選択内容の保持	✅			
投稿とコメントへのハイパーリンクの追加	✅			
リダイレクト URL の短縮と有益性の向上	✅			
トピックおよびトピックを使用する投稿に関するレポートの作成			✅	

Files

管理パッケージ内のアセットファイルを更新し、フォルダを使用して組織アセットファイルを整理します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
管理パッケージ内のアセットファイルの更新		✅		
フォルダを使用したアセットライブラリの整理		✅		
すべてのファイルのクエリ (リリース遅延)			✅	
完全に機能する Quip 文書を Salesforce に直接埋め込む			✅	

モバイル

場所を問わずより多くの作業を実行できる最新機能を確認してください。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce アプリケーション				
Salesforce アプリケーションのすべての新機能				
モバイルでの並び替え順の保持			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
モバイルデバイスでのコミュニティフィード項目の翻訳			✅	
質問でのトピックの選択のブロック	✅			
回答をすぐに取得			✅	
Salesforce アプリケーションの要件の更新	✅			
Salesforce アプリケーションを使用して取引先および商談レコードを削除	✅			
Salesforce アプリケーションを使用して取引先を転送するときに維持できる関連レコードの増加	✅			
モバイルデバイスの転送登録の削除				
Salesforce モバイルアプリケーションドキュメントの更新				
Salesforce アプリケーションでは機能上の差異があるか使用不可となる Spring '19 の機能			✅	

Financial Services Cloud

Lightning Scheduler では、顧客や見込み客の予定のスケジュールを簡略化するために必要なツールが提供されます。Financial Services Analytics は、データセット、データフロー、ダッシュボードを備えたアプリケーションスイートで、迅速にデータをインサイトに変換するのに役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Scheduler を使用した顧客の予定のパーソナライズ			✅	
Einstein Analytics for Financial Services を使用して顧客インサイトをすばやく取得			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Client Segmentation Analytics を使用したルール適用時のアクションの Financial Services 顧客の特定			✅	

Health Cloud

患者の包括的な支援、患者紹介の合理化、事前承認要請の業界標準コードの提供を行います。患者リレーションやパーソナライズされたジャーニーを構築したり、より柔軟性の高い評価を提供したり、カスタムスマートフォンアプリケーションを作成したりします。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ヘルスインサイトの社会的決定要因による包括的なケアとサポートの提供			✅	
紹介管理による患者紹介の合理化			✅	
キャンペーンおよびパーソナライズされたジャーニーを使用した患者ケアの設定				✅
健康評価の代行	✅			
事前承認要請および承認プロセスへのコードセットの追加			✅	
Health Cloud アプリケーションテンプレートを使用した患者およびメンバーへの関与			✅	
Lightning Scheduler を使用した患者およびメンバーの予定のパーソナライズ			✅	
Health Cloud の新しいオブジェクト		✅		
Health Cloud オブジェクトの変更		✅		
新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント			✅	

カスタマイズ

正式リリースされた Einstein Next Best Action を使用して、組織をスマートにします。新しい Flow Builder で、よりシンプルで合理化されたフローを作成します。新しいツール、既存のツールの改善、制限の緩和により、これまでより簡単に外部データシステムへの接続を作成して操作します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein: Next Best Action および予測ビルダー				
Einstein 予測ビルダー: 改善されたスコアカード、通知、新しい設定フロー (正式リリース)				
モデルの各プレディクターによる影響の理解			✅	
予測状況に関する通知の受信			✅	
合理化された予測フローによる作業時間の短縮			✅	
Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)		✅		
推奨アクションと提案を生成するアクション戦略の構築		✅		
Lightning フロー				
Flow Builder を使用したより直感的なフローの作成		✅		
プロセスおよびフロー設計				
カスタマイズ可能な事前作成済みのビジネスプロセスの作成またはインストール		✅		
プロセスまたはフローを使用した Salesforce エラーへの応答		✅		
コミュニティユーザが支援を要求できるようにするフローの作成		✅		
フローでのより簡単な画像の表示と住所情報のキャプチャ		✅		
プロセスおよびフローによる外部オブジェクトを介した Salesforce 外部のデータへのアクセス		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
イベントプロセスでのスケジュール済みアクションの実行		✅		
プロセスのアクションをすぐに実行するスケジュール		✅		
プロセスおよびフロー数式でNull値を返す (重要な更新)			✅	
重要な更新「自動項目更新によるメール通知の抑制の防止」の延期			✅	
フローの配布				
アクション戦略および Einstein Next Best Action を使用してユーザとコミュニティメンバーにフローを推奨 (正式リリース)		✅		
[ガイド付きアクションリスト]設定の再利用と一時停止中のフローの表示		✅		
ゲストユーザがフローを実行できるようにするための Snap-In の使用		✅		
Apex を使用したプロセスのスケジュール済みアクションとフローの再開イベントのテスト		✅		
		Salesforce Connect		
外部オブジェクトのデータ変更のより簡単な追跡 (ベータ)		✅		
1時間あたりの制限の緩和による、ユーザが接続可能な外部データ量の増加		✅		
外部オブジェクトデータへの接続の検証		✅		
Salesforce Connect の OData 2.0 アダプタの改善		✅		
プロセスおよびフローでの外部オブジェクトの使用		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
開発者のための関連更新		✅		
Lightning アプリケーションビルダー				
Lightningページから別のテンプレートへの切り替え		✅		
Lightning Experience ユーザへのおすすめと提案の推奨 (パイロット)		✅		
Salesforce レコードへの Quip 文書の直接追加 (ベータ)			✅	
メールアプリケーションペインへの作業キューコンポーネントの追加			✅	
リッチテキストコンポーネントでの Quill テキストエディタの使用		✅		
Lightning ページテンプレートの標準の表示ラベルの変更		✅		
コンポーネントの表示ルールのフォーム要素の表示ラベルの改善		✅		
データ保護とプライバシー				
新しいオブジェクトを使用したデータプライバシー追跡の調整			✅	
複数アクションエンドポイントを使用した 1 つのコールへの Consent API 要求の統合		✅		
Lightning Experience でのデータプライバシーレコードのマージ	✅			
データプライバシーレコードへのデモグラフィック情報の追加	✅			
データプライバシーレコードの項目履歴に関するレポート	✅			
データ管理ポリシーをサポートするための機密データの分類(ベータ)			✅	
グローバリゼーション				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しいプラットフォーム言語によるつながりを持てる顧客の増加	✅			
右から左へ記述される言語による適切な表示 (ベータ)			✅	
トランスレーションワークベンチでのアンケートの翻訳のサポート			✅	
共有				
エンタープライズテリトリー管理に追加された新しい共有オプション			✅	
共有ルールのドキュメントの改善	✅			
一般設定				
[設定] からのカスタム Big Object の作成		✅		
Lightning アプリケーションに基づくデフォルトのホームページの割り当て		✅		
Lightning で参照可能な Classic アプリケーションのホームページプロファイルの割り当てが編集不可に変更		✅		
項目の参照を編集前に確認(ベータ)		✅		
外部サービススキーマへの予約済み Apex 名の追加		✅		
pageReference.state プロパティとクエリパラメータへの名前空間プレフィックスの追加			✅	
アウトバウンドメッセージでのセッション ID の安全な送信		✅		
「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新)の延期			✅	

セキュリティと ID

ユーザはメールアドレス、電話番号などを使用してログインできます。デバイス管理を使用して、デバイスアクセスの追跡と取り消しを行います。また、キャッシュのみの鍵サービスが正式にリリースされました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
認証と ID				
私のドメインのログイン検出		✅		
証明書ベースの認証			✅	
ローカライズされたログイン応答画面エラーメッセージ		✅		
Auth 2.0 エンドポイントとのインテグレーション			✅	
クライアントの秘密の新しいサイズ要件		✅		
カスタム検証ページ		✅		
非同期メール検証		✅		
連絡先のない外部 ID ユーザ		✅		
デバイス管理				✅
ログアウト時におけるカスタム URL		✅		
セルフ登録後の Web サイトへのリダイレクト		✅		
パスワードの特殊文字		✅		
更新されたパスワードブラックリスト				✅
セッションアクセス中の認証情報セキュリティ				
ロールの編集へのアクセスの保護			✅	
Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保(重要な更新)の延期				
Salesforce Shield				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
項目監査履歴での追加オブジェクトのサポート				✅
Shield Platform Encryption				
キャッシュのみの鍵サービス (正式リリース)			✅	
セルフサービスバックグラウンド暗号化によるデータの同期			✅	
管理パッケージのセルフサービス暗号化			✅	
カスタムリッチテキストエリア (正式リリース)			✅	
一連の行動と暗号化の互換性			✅	
イベントモニタリング				
実行時間が長い同時 Apex 要求の終了時に詳細を取得		✅		
予期しない Apex 例外イベント種別		✅		
トランザクションポリシー管理		✅		

リリース

変更セットの詳細ページを読み込まずに、変更セットに対するアクションを実行できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
より少ないクリック数での変更セットのコピー、リリース、アップロード、検証		✅		
変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント		✅		

Salesforce IoT

派遣作業員は IoT Insights を使用して Field Service Lightning for Android で Salesforce IoT データを表示できるようになりました。Salesforce IoT が Unlimited Edition の Service Cloud の一部として提供されるようになりました。また、プロセスを簡略化するウィザードやプロセスのナビゲーションを効率化するその他の機能が追加され、コンテキスト設定フローが改善されました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Service Cloud Unlimited Edition の IoT を使用したカスタマーエクスペリエンスの向上			✅	
より簡単にコンテキストを作成できる設定プロセス			✅	
Field Service Lightning Mobile for Android での Salesforce IoT データの表示			✅	

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用する、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでも、Lightning プラットフォームの次の機能強化は、別の組織に再販するための優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning コンポーネント				
Lightning Web コンポーネント (正式リリース)		✅		
Locker Service から Lightning Locker への名称変更		✅		
Lightning Locker の変更		✅		
配列、設定、リスト属性の角括弧のないデフォルト値の廃止		✅		
保存されていない変更に関する通知の受信		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
$ContentAsset グローバル値プロバイダを使用したアセットファイルの参照		✅		
日時の新しい $Locale 属性		✅		
コミュニティのパフォーマンスの改善			✅	
Aura ページテンプレートコンポーネントへの領域の表示ラベルの追加		✅		
変更される可能性がある DOM 検査テスト		✅		
動的に作成されたコンポーネントでのスクリプトタグのブロック		✅		
standard__webPage のページ参照データ型を使用した URL への移動		✅		
Lightning Data サービスで返される新しいエラー値		✅		
	Visualforce			
新しい New JavaScript 関数を使用したトーストの表示		✅		
Visualforce ページの外部 iframe をクリックジャック保護で許可		✅		
<apex:detail> コンポーネントと <apex:enhancedList> コンポーネントの区別		✅		
ビューステートの制限の緩和によるより複雑な Visualforce ページの作成		✅		
重要な更新「Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」の延期			✅	
空白ページの問題の修正にはテスト更新が必要		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Apex				
SOQL クエリの項目レベルセキュリティ権限の適用 (ベータ)		✅		
組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)		✅		
API				
呼び出し可能アクション		✅		
sObject コレクションを使用した FlexiPage オブジェクトの往復回数の減少		✅		
カスタムメタデータ型		✅		
Salesforce CLI (リリース遅延)				
Salesforce CLI での Lightning Web コンポーネントの拡張機能の活用		✅		
オープンソースツールを使用した独自の Salesforce CLI プラグインの作成		✅		
AppExchange パートナー				
登録者が開いたり、作成元として使用したりできる事前作成済みのビジネスプロセスのパッケージ化		✅		
無効なプロセスおよびフローのパッケージ化		✅		
Trialforce Web フォームのサポートの終了		✅		
エンタープライズメッセージング				
変更データキャプチャを使用した外部データの最新の状態の維持 (正式リリース) (リリース遅延)				
メタデータ API による変更データキャプチャの選択済みエンティティの移行		✅		
データ型の変換によるデータ変更のキャプチャ		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レコードの選択リスト値のデータ変更のキャプチャ		✅		
大規模プラットフォームイベントによるイベントベースのアプリケーションの拡張 (正式リリース)		✅		
標準量プラットフォームイベントの利用状況の監視		✅		
イベント公開の失敗の新しい状況コード		✅		
プロセスおよびフローでの標準プラットフォームイベントの登録		✅		
Sandbox				
Sandboxのコピーによる時間の節約 (正式リリース)		✅		
Sandboxでのユーザのメールアドレスの形式の簡素化		✅		
VS Code 向け Salesforce 拡張機能				
VS Code 拡張機能パックを使用した Lightning Web コンポーネントの開発の簡素化		✅		
Visual Studio Code での Apex 記号の名前変更		✅		
2019年10月に廃止される Force.com IDE		✅		

サポートされるブラウザ

Apple® Safari® のサポートをバージョン 12.x 以上に変更しました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

Lightning Experience でサポートされるブラウザ
Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10 (9 および 10 でのサポートは 2019 年 4 月 5 日をもって終了)、11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 12.x でサポートされています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。

Einstein Analytics でサポートされるブラウザ

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

対象: Lightning Experience は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

メモ:

- Salesforce では、Salesforce Classic、Lightning Experience、または Salesforce モバイル Web のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを埋め込む非ブラウザアプリケーションはサポートされていません。このコントロール種別を埋め込むアプローチの例として、Salesforce Mobile SDK、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込み Chromium ブラウザ、iOS の UIWebView および WKWebView、Android の WebView などが挙げられます。
- モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザのリストについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。

重要: Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、Summer '16 以降サポートされなくなります。

- 2017 年 12 月 16 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 の延長サポートを選択すると、2020 年 12 月 31 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 での Lightning Experience の使用には、重大なパフォーマンスの問題があります。
- コミュニティビルダーで Internet Explorer 11 を使用しないことを強くお勧めします。
- この変更は、Salesforce Classic には影響しません。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	IE 11 (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新	最新	最新	12.x+
Lightning コミュニティ	IE 11	最新	最新	最新	12.x+

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
設定に関する特別な考慮事項?	なし	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	なし	あり	あり

メモ: 「最新」の用語は、ブラウザベンダーによって定義されます。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10 (9 および 10 でのサポートは 2019 年 4 月 5 日をもって終了)、11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 12.x でサポートされています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。

対象: Salesforce Classic はすべてのエディションで使用できます。

メモ:

- Internet Explorer 9 および 10 のサポートは 2019 年 4 月 5 日をもって終了します。Chrome、Firefox、Safari、Edge、Internet Explorer バージョン 11 などのサポート対象ブラウザに移行することをお勧めします。2019 年 4 月 5 日以降も、IE9 および IE10 を使用して Salesforce Classic にアクセスできます。ただし、これらのブラウザで発生する問題に対して Salesforce からサポートが提供されることはなくなります。
- モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。

	Microsoft Internet Explorer	Microsoft Edge	Google Chrome	Mozilla Firefox	Apple Safari
Salesforce Classic	IE 11 (IE 9 および 10 のサポートは 2019 年 4 月 5 日をもって終了)	最新	最新	最新	12.x+
Salesforce コンソール	IE 11 (IE 9 および 10 のサポートは 2019 年 4 月 5 日をもって終了)	最新	最新	最新	なし
設定に関する特別な考慮事項?	あり	なし	なし	あり	なし
制限事項?	あり	あり	なし	なし	あり

メモ:

- 「最新」の用語は、ブラウザベンダーによって定義されます。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。
- Salesforce Classic での Microsoft Internet Explorer バージョン 7 および 8 のサポートは Summer '15 をもって終了しました。

Einstein Analytics でサポートされるブラウザ

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

Salesforce 全体: Lightning Experience を採用するツールの増加と生産性の向上

Lightning Experience への適切な移行をガイドする新しいツールが導入されました。お気に入りのリストビューをデフォルトのリストにしたり、新しい Lightning Scheduler を使用して予定のスケジュールを簡略化したりすることもできます。翻訳、新しい質問種別、招待を使用してアンケートからより多くのインサイトを取得します。ポップアウトユーティリティを備えた複数のウィンドウ、およびコンソールアプリケーション内のカスタマイズされたサブタブを使いこなします。さらに、レコードページを印刷したり、感謝バッジを使用して同僚に感謝したり、より多くのデータストレージを利用したりできます (もちろんこれだけではありません)。

このセクションの内容:

Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加

より簡単に Lightning Experience に移行できるように、すべての推奨手順の中央ハブが作成されました。Lightning Experience を推奨する Salesforce 応答画面を本番組織だけでなく Sandbox 環境に表示します。再設計されたヘルプメニューのカスタムヘルプを使用してユーザをガイドします。

固定表示リストを使用した最も重要なリストビューへの直接移動

定番のリストビューがある場合、デフォルトのリストとして読み込むことができれば便利です。それが可能になりました。固定表示リストを使用すれば、すべてのユーザが任意のリストを新しいデフォルトに設定できます。

レコードページの印刷

Salesforce Classic のように Lightning Experience のレコードページから重要な詳細と関連リストを印刷します。印刷用ページでレコードの詳細の表示を指定し、ブラウザのページを印刷します。この機能は、取引先、キャンペーン、ケース、取引先責任者、契約、リード、商談、注文、およびカスタムオブジェクトですべてのユーザが使用できます。

Lightning Scheduler: 予定のスケジュールの簡略化

Lightning Scheduler では、予定のスケジュールを簡略化するために必要なツールが提供されます。

Salesforce アンケート: グローバル化と新しい質問種別によるインサイトの増加

アンケートを翻訳したり、さまざまな質問種別を追加したり、対象を絞ったアンケートへの招待を生成したり、カスタムレポートを作成したり、招待の有効期限を設定したりできるようになりました。

Lightning コンソールアプリケーション: ポップアウトユーティリティ、サブタブオプション、API の等価性

ポップアップユーティリティを使用して、ワークフローを複数のウィンドウに広げます。サブタブをカスタマイズして、ワークスペースタブに昇格します。タブの色を変更して、新しいAPIメソッドでブラウザタブのタイトルを編集します。

Lightning Experience での感謝バッジの使用

あなたの賛辞を山頂から、または少なくとも Chatter フィードから唱えましょう。感謝バッジが Lightning Experience で使用できるようになりました。一連の感謝バッジを使用して、同僚をいかに高く評価しているかを知らせましょう。

検索: 検索可能なオブジェクトの増加

Salesforce Classic と Lightning Experience でより多くのオブジェクトの結果を検索できます。

データストレージの増加

データストレージの計算が変わります。最小ストレージが 1 GB から 10 GB に増加します。素晴らしいですね。

数式項目でハイパーリンクを正しく開く

Spring '19 リリースノートに記載されているように、この重要な更新は数式項目でハイパーリンクを開いたときの問題に対応します。`HYPERLINK` 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この重要な更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この重要な更新は、2019 年 5 月 17 日に Summer '19 で有効になります。

項目履歴データの保持制限の更新

Salesforce では、組織経由で最大 18 か月、API 経由で最大 24 か月の項目履歴データの保持が保証されています。Winter '19 でお知らせしたように、Spring '19 以降、24 か月より古い項目履歴データの削除プロセスが開始されます。一括削除を開始する場合の性質上、Spring '19 の後でもしばらくの間はデータを使用できる可能性があります。

Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加

より簡単に Lightning Experience に移行できるように、すべての推奨手順の中央ハブが作成されました。Lightning Experience を推奨する Salesforce 応答画面を本番組織だけでなく Sandbox 環境に表示します。再設計されたヘルプメニューのカスタムヘルプを使用してユーザをガイドします。

このセクションの内容:

1 か所での Lightning Experience の移行の促進

会社の Lightning Experience への移行が容易になりました。移行を成功させるために、2019 年前半から Lightning Experience 移行アシスタントがすべての推奨手順の中央ハブになります。プロセス全体 (ビジネスケースの作成に始まり、組織の準備状況の評価、Lightning Experience を起動するための実装の準備、ユーザの採用の追跡を経て、最終的に Salesforce Classic の無効化にいたるまで) をガイドします。現在の Lightning Experience 移行アシスタントは、この移行アシスタントに置き換わります。

Lightning Experience 移行アシスタントの一部の機能の名前変更

Lightning Experience 移行アシスタントの [Lightning Experience にとどまるようにユーザを促す] と [Lightning Experience でのみ Lightning Experience ユーザを保持] の 2 つの機能の名前が変更されました。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新)

Salesforce は、ユーザがより迅速に多くの作業を行い、生産性を高めることができるように、Winter '20 からローリング方式で Lightning Experienc を有効化していきます。新機能で提供されるすべてをユーザが利用できるように、すぐに Lightning Experience への移行準備を始めることをお勧めします。Salesforce のユーザエクスペリエンスとプラットフォームの未来は Lightning Experience にかかっています。今後、すべてのイノベーションは Lightning Experience で行われます。Lightning Experience が有効になる前にリードタイムを利用して、新しいインターフェースで組織の機能とカスタマイズがどのように動作するかを理解し、変更管理を使用してユーザの準備を整えてください。後で Lightning Experience が有効になたっときに全員のエクスペリエンスが向上するように、今すぐ開始しましょう。できればこの更新が自動的に有効になる前に、チームのユーザの Lightning Experience を管理して有効にしてください。

Sandbox 環境での採用アシスタンス機能の表示

過去数回のリリースで、Salesforce は Lightning Experience を試すようにユーザに促すアプリケーション内応答画面を導入しました。これらの応答画面は、本番環境でのみ表示されていましたが、Sandbox で応答画面を表示するかどうかを制御できるようになりました。本番環境にロールアウトする前に歓迎メッセージをテストします。または、他のタイプのアプリケーション内応答画面がどのようにユーザに表示されるのかを確認します。

[設定] の [オンボーディング & アシスタンス] から [採用アシスタンス] への名称変更

[Salesforce Classic に切り替える]、[今すぐ Lightning Experience を試す]、[使いなれた機能が Lightning でさらに便利に]、[Lightning Experience の歓迎メッセージ] アプリケーション内応答画面の設定ホームの名前が [採用アシスタンス] に変更されました。

更新された Lightning Experience ヘルプメニューへのカスタムリソースの追加

独自のリソースの領域を確保するためにヘルプメニューが再設計されました。Web サイト、PDF ファイル、動画、Trailmix への独自の URL のリンクを使用して、組織で作業しているユーザをガイドします。[使用開始] セクションは、ユーザやシステム管理者が新しいユーザエクスペリエンスを取得するのに役立ちます。誰もがヘルプメニュー内からドキュメントを検索してその結果を確認できるようになりました。

Lightning Experience 設定コンバータ: Visualforce ページのスキャンおよび準備、一度にすべてのオブジェクトのスキャン

Lightning Experience 設定コンバータを使用して組織の Visualforce ページをスキャンし、Lightning Experience への移行に影響する問題がないかどうかを確認します。このツールでは、推奨事項を含む優先順位付きレポートが提供され、Lightning Experience スタイルシートが自動的に適用されます。[JavaScript ボタン] タブと [アクションとボタン] タブでは、1 回のクリックですべてのオブジェクトのすべてのアクションとボタンがスキャンされ、表示されます。また、すべてのオブジェクトのアクションとボタンを一度に移行する手段も導入されました。

フィードバックの送信

ご意見をお聞かせください。私たちは、お客様からのフィードバックに基づいて常に革新しています。より多くのユーザの意見を聞けるように、フィードバックフォームが Lightning Experience に表示されるようになりました。フォームは無効できます。

1 か所での Lightning Experience の移行の促進

会社の Lightning Experience への移行が容易になりました。移行を成功させるために、2019 年前半から Lightning Experience 移行アシスタントがすべての推奨手順の中央ハブになります。プロセス全体 (ビジネスケースの作成に始まり、組織の準備状況の評価、Lightning Experience を起動するための実装の準備、ユーザの採用の追跡を経て、最終的に Salesforce Classic の無効化にいたるまで) をガイドします。現在の Lightning Experience 移行アシスタントは、この移行アシスタントに置き換わります。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: 移行アシスタントは、2019 年の第 1 四半期 (Spring '19 リリースの完了後) に使用できます。

対象ユーザ: 移行アシスタントを使用するには、「設定・定義を参照する」および「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。移行アシスタントの一部のツールを使用するには、組織に [私のドメイン] がリリースされている必要があります。

理由: 移行アシスタントをガイドとして使用することで、整理や進行状況の監視ができ、見落としがないことに確信を持てます。移行アシスタントにより、認知、ロールアウト、最適化のフェーズに分割されて管理しやすくなります。フェーズごとに、順を追った手順の説明があり、多くの移行タスクを迅速化するツールが提供されます。詳細情報をお待ちください。

Lightning Experience 移行アシスタントの一部の機能の名前変更

Lightning Experience 移行アシスタントの [Lightning Experience にとどまるようにユーザを促す] と [Lightning Experience でのみ Lightning Experience ユーザを保持] の 2 つの機能の名前が変更されました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法 [**Lightning Experience** にとどまるようにユーザを促す] 機能の名前が [定期的にユーザを **Lightning Experience** に切り替える] に変更されました。

[**Lightning Experience** でのみ **Lightning Experience** ユーザを保持] 機能の名前が [お客様の組織の環境を **Lightning Experience** に限定] に変更されました。

これらの機能を制御するボタンの表示ラベルが [無効化] と [有効化] ではなく [オフ] と [オン] になりました。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新)

Salesforce は、ユーザがより迅速に多くの作業を行い、生産性を高めることができるように、Winter '20 からローリング方式で Lightning Experienc を有効化していきます。新機能で提供されるすべてをユーザが利用できるように、すぐに Lightning Experience への移行準備を始めることをお勧めします。Salesforce のユーザエクスペリエンスとプラットフォームの未来は Lightning Experience にかかっています。今後、すべてのイノベーションは Lightning Experience で行われます。Lightning Experience が有効になる前にリードタイムを利用して、新しいインターフェースで組織の機能とカスタマイズがどのように動作するかを理解し、変更管理を使用してユーザの準備を整えてください。後で Lightning Experience が有効になたっときに全員のエクスペリエンスが向上するように、今すぐ開始しましょう。できればこの更新が自動的に有効になる前に、チームのユーザの Lightning Experience を管理して有効にしてください。

対象: この変更は、まだ Lightning Experience が有効になっていない組織の Group Edition、Developer Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition に適用されます。

時期: この変更は、2019 年 1 月 28 日から [重要な更新] に表示されます。この更新は、2019 年 10 月 12 日以降自動的に有効になります。

対象ユーザ: 「Lightning Experience ユーザ」権限が有効になっているすべてのユーザがこの重要な更新の影響を受けます。これには、標準プロファイルを持つすべてのユーザ、およびシステム管理者によって「Lightning Experience ユーザ」権限が有効化されたカスタムプロファイルまたは権限セットを持つユーザが含まれます。Salesforce Classic では、Lightning Experience に切り替える 2 つのオプション (ヘッダーとユーザプロファイルメニューに表示される Lightning Experience への切り替えリンク) がユーザに表示されます。

全員が Lightning Experience で作業するように促すため、Salesforce Classic で作業しているユーザは毎週 Lightning Experience に切り替えられます。ユーザはユーザプロファイルメニューから Salesforce Classic と Lightning Experience を切り替えることができます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[Lightning Experience の有効化] で、[確認] をクリックします。Lightning Experience を有効にする準備ができたら、設定の [重要な更新] または [Lightning Experience] でこの更新を有効化できます。

Salesforce がサポートします。

- この重要な更新についての詳細は、ナレッジ記事「Turn on Lightning Experience (Critical Update) FAQ (Lightning Experience の有効化 (重要な更新) に関する FAQ)」を参照してください。
- プロセスを自動化および高速化するための推奨される移行ツールについては、「Journey to Lightning Experience Learning Map (Lightning Experience への移行に関する学習マップ)」を参照してください。
- Lightning Experience エキスパートのアドバイスを受け、Salesforce Ohana でコラボレーションするには、Lightning Now Trailblazer Community にアクセスしてください。

Sandbox 環境での採用アシスタンス機能の表示

過去数回のリリースで、Salesforce は Lightning Experience を試すようにユーザに促すアプリケーション内応答画面を導入しました。これらの応答画面は、本番環境でのみ表示されていましたが、Sandbox で応答画面を表示するかどうかを制御できるようになりました。本番環境にロールアウトする前に歓迎メッセージをテストします。または、他のタイプのアプリケーション内応答画面がどのようにユーザに表示されるのかを確認します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*採用アシスタンス*」と入力し、[採用アシスタンス] を選択します。[Sandbox で採用アシスタンスを表示] を選択します。

Sandbox で自動化が実行されている場合、採用アシスタンス機能をオンにすると、自動テストに影響する可能性があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience で作業するようにユーザを促す (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[設定] の [オンボーディング & アシスタンス] から [採用アシスタンス] への名称変更

[Salesforce Classic に切り替える]、[今すぐ Lightning Experience を試す]、[使いなれた機能が Lightning でさらに便利に]、[Lightning Experience の歓迎メッセージ] アプリケーション内応答画面の設定ホームの名前が [採用アシスタンス] に変更されました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「採用アシスタンス」* と入力し、[採用アシスタンス] を選択します。*[オンボーディング & アシスタンス]* を検索して、サブページの [採用アシスタンス] および [ヘルプメニュー] を表示することもできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience で作業するようにユーザを促す (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

更新された Lightning Experience ヘルプメニューへのカスタムリソースの追加

独自のリソースの領域を確保するためにヘルプメニューが再設計されました。Web サイト、PDF ファイル、動画、Trailmix への独自の URL のリンクを使用して、組織で作業しているユーザをガイドします。[使用開始] セクションは、ユーザやシステム管理者が新しいユーザエクスペリエンスを取得するのに役立ちます。誰もがヘルプメニュー内からドキュメントを検索してその結果を確認できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ヘルプメニューは、学習ジャーニー、使用開始のヒント、コンテキストヘルプトピックのワンストップショップですが、ここに組織のユーザ用に作成されたリソースが追加されました。

ヘルプメニューには 4 つのメインセクションがあります。リンクは [カスタムヘルプ] セクションにのみ追加できます。

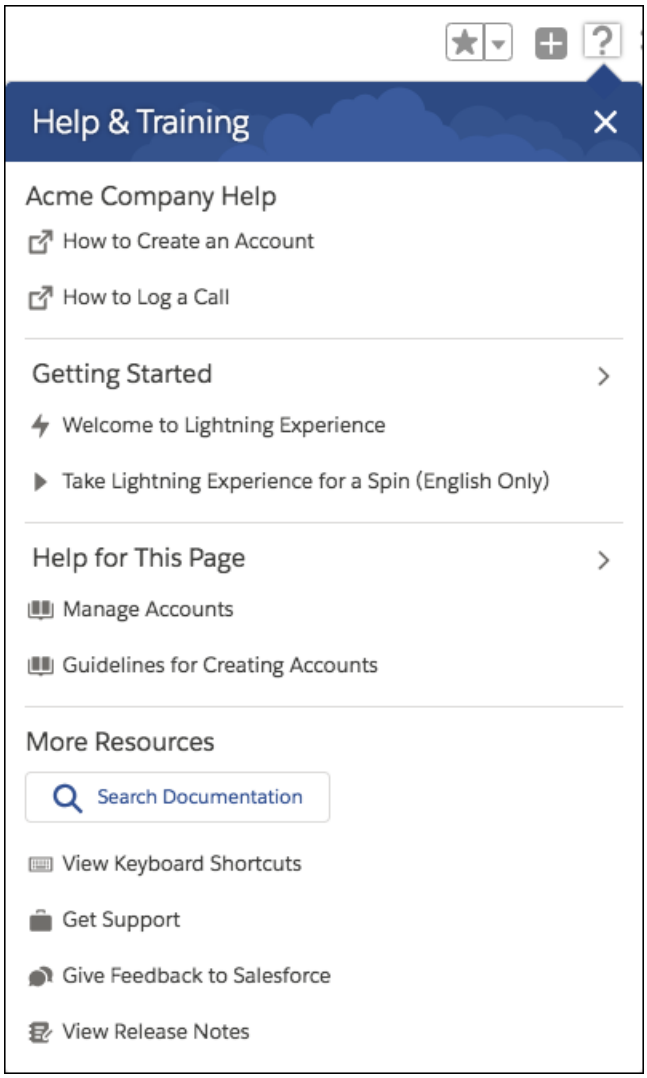
- カスタムヘルプ — このセクションを追加すると、Lightning Experience の各ページのヘルプメニューの上部にこのセクションが表示されます。セクションに名前を付けて、表示するリソースを決定できます。
- 使用開始 — ユーザやシステム管理者が Lightning Experience の使用を開始するのに役立つリソース。さまざまなリソースがユーザやシステム管理者に表示されます。推奨リソースを参照すると、他のトピックがリストの上部で循環するため、新しい内容を継続的に学習できます。
- このページのヘルプ — ユーザが作業中に疑問が生じたときのためのページ関連のアシスタンス。ページの推奨リソースがない場合、このセクションは非表示になります。

  メモ: Salesforce が推奨する Trailhead モジュールが [使用開始] と [このページのヘルプ] の両方に表示されます。以前のリリースで使用できた [Trailhead の詳細] セクションは、重複を避けるために削除されました。

- その他のリソース — キーボードショートカットおよびフィードバックへのリンクがすべてのユーザに表示されます。システム管理者には、サポートおよびリリースノートのリンクも表示されます。誰もがヘルプ

メニューで Salesforce ドキュメントを検索して上位の結果を確認し、アプリケーションから移動することなくトピックを参照できます。

メモ: 以前のリリースで使用できた [Salesforce ヘルプを検索] が削除され、ヘルプメニュー内のドキュメントを検索する機能が追加されました。



方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ヘルプメニュー」と入力し、[ヘルプメニュー] を選択します。カスタムヘルプセクションに名前を付けて、最大 15 個のリソースを追加します。[ヘルプメニューをカスタマイズ] をオンにして、ユーザにリソースが表示されるようにします。

必要に応じて、Salesforce リソースを非表示にできます。**[Salesforce ヘルプコンテンツをユーザに表示]** をオフにします。[使用開始] セクション、[このページのヘルプ] セクション、および Salesforce ドキュメントの検索機能

が非表示になります。キーボードショートカットおよびSalesforceへのフィードバックのリンクは常に表示されます。システム管理者には、常にすべてのリソースが表示されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Define Custom Help for the Lightning Experience Help Menu (Lightning Experience ヘルプメニューのカスタムヘルプの定義) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのヘルプの検索 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience 設定コンバータ: Visualforce ページのスキャンおよび準備、一度にすべてのオブジェクトのスキャン

Lightning Experience 設定コンバータを使用して組織の Visualforce ページをスキャンし、Lightning Experience への移行に影響する問題がないかどうかを確認します。このツールでは、推奨事項を含む優先順位付きレポートが提供され、Lightning Experience スタイルシートが自動的に適用されます。[JavaScript ボタン] タブと [アクションとボタン] タブでは、1 回のクリックですべてのオブジェクトのすべてのアクションとボタンがスキャンされ、表示されます。また、すべてのオブジェクトのアクションとボタンを一度に移行する手段も導入されました。

このセクションの内容:

Lightning Experience 設定コンバータを使用した Lightning Experience 用の Visualforce ページの準備 (ベータ)

Lightning Experience 設定コンバータの新しい Visualforce タブでは、組織の Visualforce ページがスキャンされ、Lightning Experience への移行に影響する問題があるかどうかがチェックされます。また、プロファイル別にページがグループ化され、最も高いユーザへの影響と最も低い作業レベルによって、必要な修正に優先順位が付けられます。検出された問題をツールで解決できない場合は、ユーザによる修正手順が示されます。また、ツールを使用して Lightning Experience スタイルシートを自動的に適用することで、新しいインターフェースのほとんどのページのスタイルを再設定することもできます。設定コンバータの Visualforce タブは、Lightning Experience 準備状況チェックにより生成される、Visualforce チェックと Visualforce 準備状況の PDF レポートを置き換えます。

Lightning Experience 設定コンバータでの変換と移行の迅速化

JavaScript ボタンおよびアクションに関する最新情報をスキャンするオブジェクトを選択することにうんざりしていませんか?代わりに、すべてのオブジェクトの関連するメタデータについて各タブをスキャンして全体像を把握できます。一度に 1 つのオブジェクトのアクションとボタンを移行することにうんざりしていませんか? すべてのオブジェクトのアクションとボタンを一度に移行できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience 設定コンバータ

Lightning Experience 設定コンバータを使用した Lightning Experience 用の Visualforce ページの準備 (ベータ)

Lightning Experience 設定コンバータの新しい Visualforce タブでは、組織の Visualforce ページがスキャンされ、Lightning Experience への移行に影響する問題があるかどうかがチェックされます。また、プロファイル別にページがグループ化され、最も高いユーザへの影響と最も低い作業レベルによって、必要な修正に優先順位が付けられます。検出された問題をツールで解決できない場合は、ユーザによる修正手順が示されます。また、ツールを使用して Lightning Experience スタイルシートを自動的に適用することで、新しいインターフェースのほとんどのページのスタイルを再設定することもできます。設定コンバータの Visualforce タブは、Lightning Experience 準備状況チェックにより生成される、Visualforce チェックと Visualforce 準備状況の PDF レポートを置き換えます。

> **重要**: Lightning Experience 設定コンバータの Visualforce ページ機能はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Visualforce ページについてのフィードバックと提案は、Lightning Exp Configuration Converter Trailblazer Community からお寄せください。

対象: このツールは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

時期: この機能は 2019 年 1 月に使用可能になります。

対象ユーザ: Visualforce ページ機能を使用するには、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」権限が必要です。

方法: Lightning Experience 設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または開発者組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

Lightning Experience 設定コンバータでの変換と移行の迅速化

JavaScript ボタンおよびアクションに関する最新情報をスキャンするオブジェクトを選択することにうんざりしていませんか? 代わりに、すべてのオブジェクトの関連するメタデータについて各タブをスキャンして全体像を把握できます。一度に 1 つのオブジェクトのアクションとボタンを移行することにうんざりしていませんか? すべてのオブジェクトのアクションとボタンを一度に移行できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この変更は 2019 年前半からローリング方式で使用できるようになります。

理由: Salesforce は、Lightning Experience 設定コンバータに関するフィードバックに耳を傾けてきました。このツールの次のバージョンでは、必要な変更を行うときに組織の全容を把握できるようになり、時間を節約できます。

- 設定、ユーザへの影響、および更新のボタンが [JavaScript ボタンをスキャン] と [アクションとボタンをスキャン]に置き換わりました。スキャンすると、ツールによってすべてのオブジェクトのタブの関連するすべてのメタデータが分析されます。ユーザへの影響情報も計算されます。スキャンの実行中は、他のタブで作業できません。スキャンが終了すると、Salesforce からメールで通知されます。ツールに戻ると、すべてのタブの項目の更新されたリストが表示されます。
- オブジェクトのボタンを一度に 1 つずつ移行する代わりに、サポートされているすべてのオブジェクトのアクションとボタンを一度に移行できます。このショートカットの一環として、モバイルスマートアクションバンドルが削除され、欠落したレコードタイプが作成されます。何が更新されるのかを確認するには、1つ以上のオブジェクトを選択し、[選択済みを移行]をクリックします。移行が実行されている間、他のタブで作業できません。移行が完了すると、メールで通知されます。

重要: Lightning Experience 設定コンバータのアクションおよびボタン機能はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。アクションおよびボタンについてのフィードバックと提案は、Lightning Exp Configuration Converter Trailblazer Community からお寄せください。

方法: Lightning Experience 設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または開発者組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience 設定コンバータ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フィードバックの送信

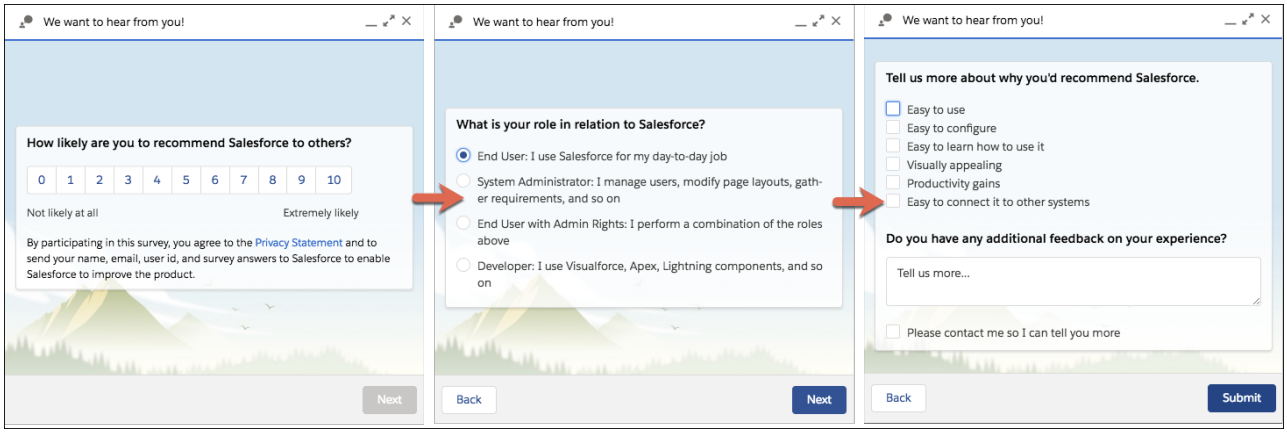
ご意見をお聞かせください。私たちは、お客様からのフィードバックに基づいて常に革新しています。より多くのユーザの意見を聞けるように、フィードバックフォームが Lightning Experience に表示されるようになりました。フォームは無効できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: この変更は、2019 年 3 月に有効になります。

対象ユーザ: さまざまな回答を得るために、フォームは各組織のユーザのランダムなサブセットに表示されます。

理由: フォームはアプリケーションの下部に表示されます。ユーザはフォームを入力したり、閉じたりできます。



方法: フォームを無効にするには、Lightning Experience の [設定] に移動して、[クイック検索] ボックスに「*採用アシスタンス*」と入力し、[採用アシスタンス] を選択します。[Salesforce 製品のフィードバックフォーム] をオフにします。

関連トピック:

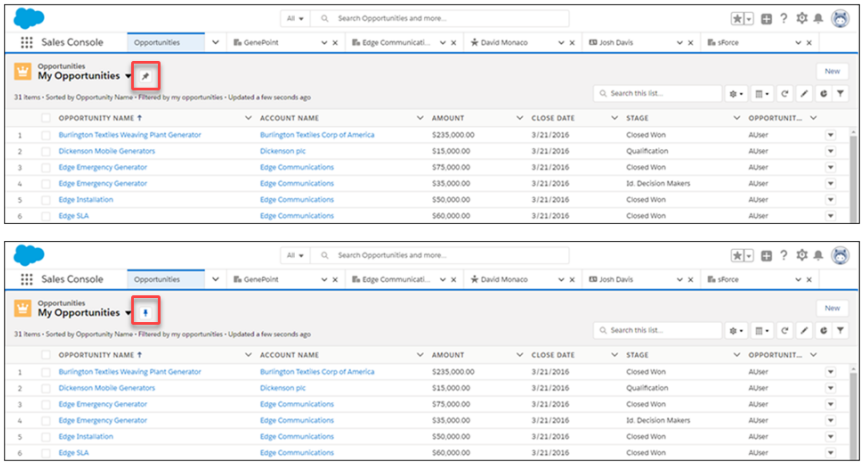
Salesforce ヘルプ: Salesforce 製品のフィードバックフォーム (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

固定表示リストを使用した最も重要なリストビューへの直接移動

定番のリストビューがある場合、デフォルトのリストとして読み込むことができれば便利です。それが可能になりました。固定表示リストを使用すれば、すべてのユーザが任意のリストを新しいデフォルトに設定できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 固定されていないリストを固定するには、その固定アイコンをクリックします。別のリストを固定するには、代わりのリストビューを選択して固定します。すべてのオブジェクトのデフォルトの固定表示リストは、[最近参照したデータ] です。



関連トピック:

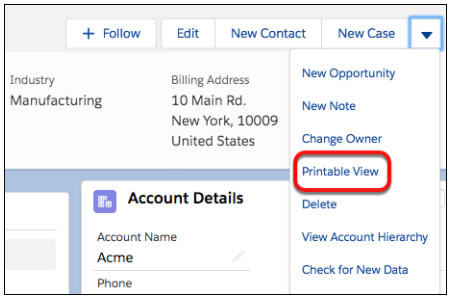
Salesforce ヘルプ: Pin List Views in Lightning Experience (Lightning Experience でのリストビューの固定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

レコードページの印刷

Salesforce Classic のように Lightning Experience のレコードページから重要な詳細と関連リストを印刷します。印刷用ページでレコードの詳細の表示を指定し、ブラウザのページを印刷します。この機能は、取引先、キャンペーン、ケース、取引先責任者、契約、リード、商談、注文、およびカスタムオブジェクトですべてのユーザが使用できます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: レコードホームページで、[印刷用に表示] をクリックします。印刷用表示のセクションと項目には、現在のユーザのページレイアウトが反映されます。関連リストには、現在のユーザの関連リスト設定が反映されます。



印刷用表示は、レコードのホームページの表示に基づいて、レコードの詳細が展開されたまたは折りたたまれた状態で開きます。すべてのレコードの詳細または個々の詳細セクションの表示を変更できます。関連リスト

は印刷用表示に表示されます。印刷用の表示は変更できません。



システム管理者は、ページレイアウトエディタでレコードページレイアウトから[印刷用に表示]ボタンを削除して、機能を無効にできます。

Lightning Scheduler: 予定のスケジュールの簡略化

Lightning Scheduler では、予定のスケジュールを簡略化するために必要なツールが提供されます。

このセクションの内容:

Lightning Scheduler を使用したパーソナライズされた予定の作成
適切な時間と場所で適切な人物との予定をスケジュールすることで、顧客や見込み客の満足度を高めます。Lightning Scheduler を使用して、リード、紹介、商談、取引先など、標準の Salesforce ワークフロー内ですばやく予定を設定します。予定の可視性を高めることで、リソースを効率的に割り当てて、顧客のニーズに適切に対応できます。

Lightning Scheduler を使用したパーソナライズされた予定の作成

適切な時間と場所で適切な人物との予定をスケジュールすることで、顧客や見込み客の満足度を高めます。Lightning Scheduler を使用して、リード、紹介、商談、取引先など、標準の Salesforce ワークフロー内ですばやく予定を設定します。予定の可視性を高めることで、リソースを効率的に割り当てて、顧客のニーズに適切に対応できます。

対象: この機能は、Enterprise Edition および Unlimited Edition で有料で使用できます。

理由: Lightning Scheduler を使用して実行できることを次にいくつか示します。

- 従業員を表すレコードを作成し、スキル、ロケーション、対応可能状況に関する詳細を追加する。
- 事業所と業務時間を定義する。

- 予定のトピック (*account opening (口座開設)* や *mortgage application (住宅ローン申請)* など) を作成する。
- 予定の適切なスキル (資格や専門分野など) を持つ従業員を検索する。
- 顧客の予定をスケジュールし、必須被招集者に関する詳細を追加する。

方法: 関連する権限を割り当て、サービスリソースとサービステリトリーを設定します。

関連トピック:

新しいオブジェクト

Salesforce ヘルプ: Manage Appointments with Lightning Scheduler (Lightning Scheduler を使用した予定の管理) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Scheduler を使用した顧客の予定のパーソナライズ

Lightning Scheduler を使用した患者およびメンバーの予定のパーソナライズ

Salesforce アンケート: グローバル化と新しい質問種別によるインサイトの増加

アンケートを翻訳したり、さまざまな質問種別を追加したり、対象を絞ったアンケートへの招待を生成したり、カスタムレポートを作成したり、招待の有効期限を設定したりできるようになりました。

このセクションの内容:

アンケートの翻訳

顧客の言語で表示できます。10 を超える言語でアンケートが翻訳されるため、世界中の利用者とつながることができます。組織の参加者には、自動的にデフォルト言語でアンケートが表示されます。組織外の参加者は、アンケートが翻訳されている言語のリストから選択できます。

新しい質問種別を使用した顧客のインサイトの取得

2つの新しい質問種別を利用して、顧客からより絞り込まれたデータを収集します。ネットプロモータースコア® (NPS®) 質問種別では、製品およびサービスの顧客ロイヤルティを評価します。ランキング質問種別を使用して、選択肢のリストから参加者の好みを判断します。

ネットプロモータースコア®、ランキング、評価、スコアリング、スライダ質問種別のカスタムレポートの作成

ネットプロモータースコア®、ランキング、評価、スコアリング、スライダ質問種別の参加者の回答に関するカスタムレポートを作成します。

取引先責任者と個人取引先のアンケートへの招待の生成

アンケート範囲を広げます。取引先責任者または個人取引先のカスタマイズされたアンケートへの招待をレコードから直接生成できるようになりました。

アンケートへの招待の有効期限の設定

アンケートへの招待の有効期限が切れる正確な日付を決定します。招待のライフサイクルの任意の時点で有効期限を改訂できます。

アンケートの翻訳

顧客の言語で表示できます。10を超える言語でアンケートが翻訳されるため、世界中の利用者とつながることができます。組織の参加者には、自動的にデフォルト言語でアンケートが表示されます。組織外の参加者は、アンケートが翻訳されている言語のリストから選択できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: トランスレーションワークベンチ権限を持つ組織の翻訳者は、権限のある言語でアンケートを翻訳できます。

方法: 翻訳者が権限のある言語でアンケートを表示および翻訳できる [言語] タブがアンケートレコードに追加されました。

新しい質問種別を使用した顧客のインサイトの取得

2つの新しい質問種別を利用して、顧客からより絞り込まれたデータを収集します。ネットプロモータースコア®(NPS®)質問種別では、製品およびサービスの顧客ロイヤルティを評価します。ランキング質問種別を使用して、選択肢のリストから参加者の好みを判断します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アンケートビルダーで、[質問を追加] ドロップダウンをクリックして、新しい質問種別をアンケートに追加します。

ネットプロモータースコア®、ランキング、評価、スコアリング、スライダ質問種別のカスタムレポートの作成

ネットプロモータースコア®、ランキング、評価、スコアリング、スライダ質問種別の参加者の回答に関するカスタムレポートを作成します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: システム管理者は、アンケートへの回答に関するカスタムレポートを作成できます。アンケートの所有者やアンケートへの招待の所有者は、所有するアンケートまたは招待のカスタムレポートを作成できます。システム管理者、アンケートの所有者、アンケートへの招待の所有者は、カスタムレポートを他のユーザと共有できます。

取引先責任者と個人取引先のアンケートへの招待の生成

アンケート範囲を広げます。取引先責任者または個人取引先のカスタマイズされたアンケートへの招待をレコードから直接生成できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 取引先責任者または個人取引先レコードで、[アンケートへの招待を取得] をクリックします。

アンケートへの招待の有効期限の設定

アンケートへの招待の有効期限が切れる正確な日付を決定します。招待のライフサイクルの任意の時点で有効期限を改訂できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートへの招待のレコード、アンケートビルダーでアンケートへの招待を生成しているとき、または取引先責任者または個人取引先で有効期限を設定できます。

Lightning コンソールアプリケーション: ポップアウトユーティリティ、サブタブオプション、API の等価性

ポップアップユーティリティを使用して、ワークフローを複数のウィンドウに広げます。サブタブをカスタマイズして、ワークスペースタブに昇格します。タブの色を変更して、新しい API メソッドでブラウザタブのタイトルを編集します。

メモ: Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、転送通知などの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。詳細はこちら。

このセクションの内容:

ポップアウトユーティリティを使用して生産性を高めるウィンドウを開く (重要な更新)
ユーティリティバーからユーティリティを個別のウィンドウにポップアウトします。ポップアウトしたユーティリティを配列したり、別のモニターに移動したりできます。メインウィンドウと共にポップアウトしたユーティリティを操作できるため、マルチタスクが容易になります。ユーティリティの使用を終了する場合、ユーティリティバーに再度ポップインするか、ウィンドウを閉じます。

新しいサブタブオプションを使用したワークスペースの管理
サブタブがついに昇格可能になりました。サブタブを使用していてスペースがさらに必要な場合、サブタブをワークスペースタブに昇格できます。個々のサブタブを更新して、そのタイトルとアイコンをカスタマイズすることもできます。

コンソールアプリケーション用の 2 範囲ページテンプレートの使用
3 範囲は必要以上にスペースを取りすぎていますか? コンソールアプリケーション用の 2 つの 2 範囲ページテンプレート (コンソール: 固定された左サイドバー (2 範囲)、コンソール: 固定されたヘッダーと左サイドバー (2 範囲)) が追加されました。

ユーティリティバーでの Lightning Web コンポーネントの使用
最新で非常に高速な Lightning Web コンポーネント (LWC) のメタ設定に `lightning__UtilityBar` の対象を追加して、LWC をユーティリティバーに組み込みます。LWC ユーティリティはまだ API をサポートしておらず、バックグラウンドユーティリティ項目として使用することもできません。

Lightning コンソール JavaScript API によるタブの色の設定、ユーティリティポップアウトの無効化、ブラウザタブのタイトルの編集

タブの色の設定、ユーティリティポップアウトの無効化、ブラウザタブのタイトルの編集ができます。これらの新しいメソッドにより、Lightning コンソール JavaScript API は、従来の Salesforce コンソールインテグレーションツールキットで最も使用されるメソッドおよびイベントと同等になりました。

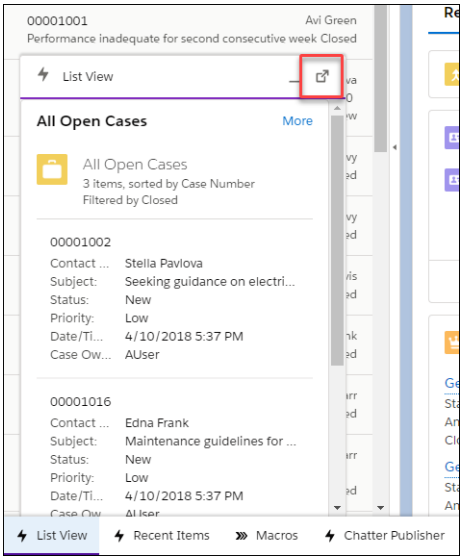
ポップアウトユーティリティを使用して生産性を高めるウィンドウを開く (重要な更新)

ユーティリティバーからユーティリティを個別のウィンドウにポップアウトします。ポップアウトしたユーティリティを配列したり、別のモニターに移動したりできます。メインウィンドウと共にポップアウトしたユーティリティを操作できるため、マルチタスクが容易になります。ユーティリティの使用を終了する場合、ユーティリティバーに再度ポップインするか、ウィンドウを閉じます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

時期: ポップアウトは、Spring '19 でほとんどの標準ユーティリティで自動的に使用できるようになります。この重要な更新により、カスタムユーティリティのポップアウトが可能になります。この重要な更新は、2019年6月17日にカスタムユーティリティで有効になります。カスタムユーティリティのポップアウトの準備がまだ整っていない場合、またはユーザがポップアウトできないようにする場合は、ユーティリティごとにポップアウトを無効にできます。

方法: ユーティリティバーで、ユーティリティを開いてポップアウトアイコンをクリックすると、そのユーティリティが独自のウィンドウで開きます。



次の標準ユーティリティをポップアウトできます。

- Open CTI ソフトフォン
- 履歴

- リッチテキスト
- レポートグラフ
- Visualforce
- フロー
- リストビュー
- 最近使ったデータ
- Chatter フィード
- Chatter パブリッシャー

関連トピック:

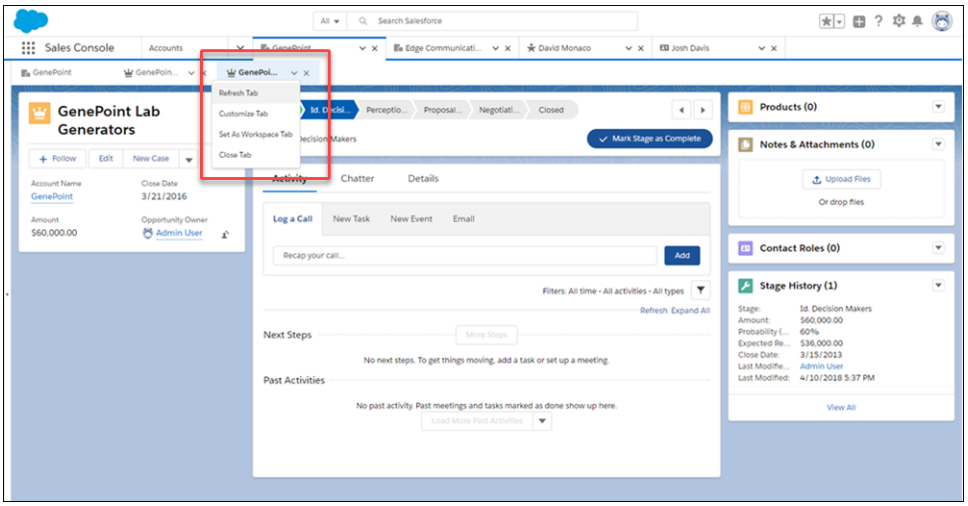
Salesforce コンソール開発者ガイド: ポップアウトユーティリティの使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しいサブタブオプションを使用したワークスペースの管理

サブタブがついに昇格可能になりました。サブタブを使用していてスペースがさらに必要な場合、サブタブをワークスペースタブに昇格できます。個々のサブタブを更新して、そのタイトルとアイコンをカスタマイズすることもできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: サブタブの新しいドロップダウンメニューを使用して、サブタブを閉じたり、更新したり、カスタマイズしたり、ワークスペースタブに昇格したりします。



コンソールアプリケーション用の 2 範囲ページテンプレートの使用

3 範囲は必要以上にスペースを取りすぎていますか? コンソールアプリケーション用の 2 つの 2 範囲ページテンプレート (コンソール: 固定された左サイドバー (2 範囲)、コンソール: 固定されたヘッダーと左サイドバー (2 範囲)) が追加されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

ユーティリティバーでの Lightning Web コンポーネントの使用

最新で非常に高速な Lightning Web コンポーネント (LWC) のメタ設定に `lightning__UtilityBar` の対象を追加して、LWC をユーティリティバーに組み込みます。LWC ユーティリティはまだ API をサポートしておらず、バックグラウンドユーティリティ項目として使用することもできません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

- Lightning Web コンポーネント (正式リリース)

Lightning コンソール JavaScript API によるタブの色の設定、ユーティリティポップアウトの無効化、ブラウザタブのタイトルの編集

タブの色の設定、ユーティリティポップアウトの無効化、ブラウザタブのタイトルの編集ができます。これらの新しいメソッドにより、Lightning コンソール JavaScript API は、従来の Salesforce コンソールインテグレーションツールキットで最も使用されるメソッドおよびイベントと同等になりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

- Lightning コンソール JavaScript API
- 保存されていない変更に関する通知の受信
- *Salesforce コンソール開発者ガイド*: Lightning コンソール API でサポートされている Classic コンソール API メソッド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

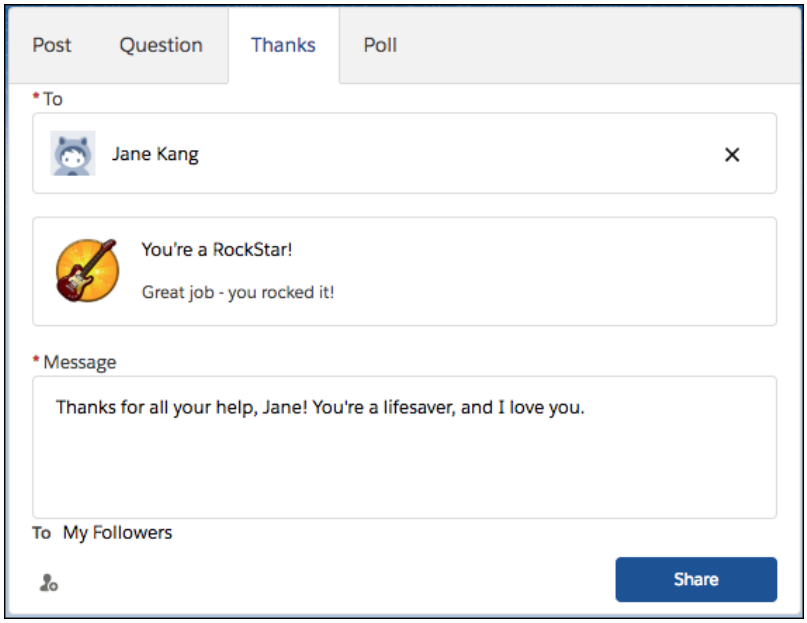
Lightning Experience での感謝バッジの使用

あなたの賛辞を山頂から、または少なくとも Chatter フィードから唱えましょう。感謝バッジが Lightning Experience で使用できるようになりました。一連の感謝バッジを使用して、同僚をいかに高く評価しているかを知らせましょう。

対象: この変更は、 Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

メモ: Lightning **の感謝バッジはパイロット機能としてのプレビュー版であり、** Salesforce **とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。** Salesforce **はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。また、いかなる時点でもお客様に責任を負うことなくこの機能を終了できるものとします。この機能は、評価のみを目的とします。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して** Salesforce **は一切の責任を負わないものとします。制限、** Salesforce **の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する** Salesforce **以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。** Lightning **の感謝のバッジ機能を使用するには、** Salesforce **カスタマーサポートにお問い合わせください。**

理由: Chatter **ユーザは、** Lightning Experience **でユーザのプロファイル、レコード、またはグループから感謝できるようになりました。感謝することは、** Salesforce Classic **と同様に簡単です。** Chatter **フィードから [感謝] タブをクリックして、バッジの詳細を入力します。**



バッジは Salesforce Classic **で作成および管理します。** Lightning Experience **では、報酬バッジはサポートされていません。**

方法: 感謝パイロットを有効にするには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。登録されたら、Salesforce Classic で [感謝] 設定にアクセスできます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Work.com`」と入力し、**[Work.com の設定]** を選択します。

関連トピック:

IdeaExchange: Thanks and Links in Lightning Experience (Lightning Experience での感謝およびリンク) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

検索: 検索可能なオブジェクトの増加

Salesforce Classic と Lightning Experience でより多くのオブジェクトの結果を検索できます。

このセクションの内容:

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に
取引先ブランド、取引先リレーション、連絡先種別に関する同意、データ使用の法的根拠、データ使用目的、および作業種別グループの各オブジェクトが検索可能になりました。カレンダーオブジェクトは Lightning Experience のルックアップ検索を介して検索可能です。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

取引先ブランド、取引先リレーション、連絡先種別に関する同意、データ使用の法的根拠、データ使用目的、および作業種別グループの各オブジェクトが検索可能になりました。カレンダーオブジェクトは Lightning Experience のルックアップ検索を介して検索可能です。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce Classic のオブジェクトで検索可能な項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のオブジェクトで検索可能な項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

データストレージの増加

データストレージの計算が変わります。最小ストレージが 1 GB から 10 GB に増加します。素晴らしいですね。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: 2019 年 3 月の後半から組織のストレージが増加します。

方法: たとえば、10 ユーザの Professional Edition または Unlimited Edition がある場合、次のようにストレージが計算されます。他のエディションの場合、受け取るユーザライセンス(アドオンライセンスを含む)の割り当てを確認してください。

エディション	Spring '19 の前	Spring '19 の後
Professional	10 ユーザ * ユーザあたり 20 MB = 200 MB。1 GB の合計データストレージに切り上げられます。	10 ユーザ * ユーザあたり 20 MB = 200 MB + 10 GB。10.2 GB の合計データストレージ。
Unlimited	10 ユーザ * 120 MB = 1.2 GB の合計データストレージ。	10 ユーザ * 120 MB = 1.2 GB + 10 GB。11.2 GB の合計データストレージ。

数式項目でハイパーリンクを正しく開く

Spring '19 リリースノートに記載されているように、この重要な更新は数式項目でハイパーリンクを開いたときの問題に対応します。`HYPERLINK` 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この重要な更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この重要な更新は、2019 年 5 月 17 日に Summer '19 で有効になります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: 組織で自動有効化日付として 2019 年 1 月 10 日と表示されたとしても、無視してください。この日付は延期前の重要な更新の有効化日です。組織が Spring '19 に更新されると、正しい自動有効化日付が表示されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。次に、[重要な更新] を選択します。[Lightning Experience で数式項目のハイパーリンクの target 値を適用] で、[承認] をクリックします。

項目履歴データの保持制限の更新

Salesforce では、組織経由で最大 18 か月、API 経由で最大 24 か月の項目履歴データの保持が保証されています。Winter '19 でお知らせしたように、Spring '19 以降、24 か月より古い項目履歴データの削除プロセスが開始されます。一括削除を開始する場合の性質上、Spring '19 の後でもしばらくの間はデータを使用できる可能性があります。

対象: このポリシーは、2011 年 6 月 1 日以降に作成され、項目監査履歴 (FAT) アドオンを購入していないすべての組織に適用されます。

メモ: 組織が 2011 年 6 月 1 日より前に作成されている場合、Salesforce では 18 か月の制限を超えて項目履歴が保持されます。

方法: 項目履歴データが 18 か月の制限に達すると、Salesforce でさらに 6 か月保持されますが、データにアクセスするには、データローダの [すべてをエクスポート] または `queryAll()` API を使用する必要があります。Salesforce によって削除されたデータは、`getDeleted()` API を使用して取得できません。

項目履歴データへのアクセスを保証するには、FAT アドオンを購入します。FAT を使用すると、アーカイブ済みの項目履歴データを、データがアーカイブされた時点から最長 10 年保持するポリシーを定義できます。FAT を購入するには、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。削除前の項目履歴の取得についてサポートが必要な場合は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

関連トピック:

- *Winter '19 リリースノート*: Retention Limit for Field History Data Is Now Enforced (項目履歴データの保存制限の適用)
- *Salesforce ヘルプ*: 項目履歴管理
- *Salesforce ヘルプ*: 項目監査履歴
- *Salesforce ヘルプ*: Export Data with Data Loader (データローダを使用したデータのエクスポート)
- *開発者ガイド*: queryAll() API

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、Lightning プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。

このセクションの内容:

- このリリースの Lightning Experience の機能
  Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。
- Spring '19 の Lightning Experience で新しく追加された機能と使用できなくなった機能
  Lightning Experience の新機能と機能強化に関する次のトピックを参照して、ビジネスに不可欠な機能がこのリリースで制限されたり、使用できなくなったりしていないか確認してください。

このリリースの Lightning Experience の機能

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Salesforce 全体

固定表示リストを使用した最も重要なリストビューへの直接移動

レコードページの印刷

Lightning コンソールアプリケーション: ポップアウトユーティリティ、サブタブオプション、API の等価性

Lightning Experience での感謝バッジの使用

データストレージの増加

数式項目でハイパーリンクを正しく開く

Lightning Experience の採用: 新しい Salesforce の認知および採用の手段の増加

1 か所での Lightning Experience の移行の促進

Lightning Experience 移行アシスタントの一部の機能の名前変更

Lightning Experience の有効化 (重要な更新)

Sandbox 環境での採用アシスタンス機能の表示

[設定] の [オンボーディング & アシスタンス] から [採用アシスタンス] への名称変更

更新された Lightning Experience ヘルプメニューへのカスタムリソースの追加

Lightning Experience 設定コンバータ: Visualforce ページのスキャンおよび準備、一度にすべてのオブジェクトのスキャン

フィードバックの送信

Lightning Scheduler: 予定のスケジュールの簡略化

Lightning Scheduler を使用したパーソナライズされた予定の作成

Salesforce アンケート: グローバル化と新しい質問種別によるインサイトの増加

アンケートの翻訳

新しい質問種別を使用した顧客のインサイトの取得

ネットプロモータースコア®、ランキング、評価、スコアリング、スライダ質問種別のカスタムレポートの作成

取引先責任者と個人取引先のアンケートへの招待の生成

アンケートへの招待の有効期限の設定

検索

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

Essentials Edition

セールスとサービスの統合

アプリケーション内ヘルプでの役に立つリソースと推奨コンテンツの検索

チームの変更を反映したユーザの追加または削減

[ユーザ] ページでのチームの情報と権限の管理

音声サポートの設定フローを使用したコールセンターの作成

セールスフェーズの設定フローでのリードと商談の把握

セールス

High Velocity Sales: セールスケイデンスと作業キューを使用して営業チームの作業を加速

Sales Cloud Einstein: すべてのユーザの商談スコアリング、Einstein 活動キャプチャの大幅な改善、レポートの追加

Lightning Data: データの自動更新

中核的なセールス機能

コラボレーション売上予測: テリトリー別の商品ファミリ売上予測、テリトリー売上予測の共有、拡大された売上予測範囲

エンタープライズテリトリー管理: テリトリーベースの共有オプションとテリトリー売上予測の機能強化

取引先: 取引先チームの削除、新しい所有者への関連レコードの転送

商談: Lightning Experience でのチームの削除

中核的なセールス機能のその他の変更

生産性機能

Einstein 活動キャプチャ: 新しい同期機能、拡張された共有、改善された総計値、メールインサイトの機能強化

メール操作環境: メールのプライバシーの適用の改善、営業以外のメールの送信機能、リストメール状況の詳細の追加、制限の拡張

メールテンプレート: フォルダ、共有、テンプレートのレポート

活動と ToDo: 合理化された行動の作成と終了

Lightning Dialer: 各通話の結果の追跡

Salesforce Inbox アプリケーション: Lightning Experience テンプレート、Android 通知、複合メールインサイト

メモ: メモ内の安全でない文字の削除

カレンダー: Lightning Experience での整理方法の追加

Google とのインテグレーション

Gmail インテグレーション: 統合された Chrome 拡張機能、High Velocity Sales 作業キュー、メールの記録オプションの追加

Lightning Sync: API を介して加えられた被招集者の変更を Google カレンダーで表示

Microsoft® とのインテグレーション

Outlook インテグレーション: High Velocity Sales 作業キュー、記録オプションの追加、2 要素認証と Outlook 2019 のサポート

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 一連の行動の同期 (正式リリース)、被招集者の同期の改善

Salesforce for Outlook: より多くのクラウドベースの代替製品、最新のインストール可能バージョン

Salesforce CPQ と Salesforce Billing: 拡張された請求書機能、修正オプション、使用量サマリーのための消費スケジュール

Salesforce CPQ: 使用量サマリー用の消費スケジュール、より多くの修正オプション

Salesforce Billing: 使用量サマリーおよびエバーグリーンサブスクリプション用の新しい請求書オプション

Pardot

キャンペーンでのマーケットアセットのパフォーマンスの表示 (正式リリース)

B2B Marketing Analytics の容易な設定

エンゲージメントアクティビティでのプロスペクトのスコアリング

サービス

Einstein

Einstein ケース分類によるエージェントの時間の節約と精度および完了の改善

ボットがどの程度顧客を理解しているかの評価

顧客の入力の分類とフィードバックでボットをさらにスマートにする

SMS テキストメッセージングチャネルでのボットの使用

ボットビルダーのチャネル設定を使用した簡単な Einstein ボットの設定

チャネルに依存しないボットの作成

改善されたボットのパフォーマンスダッシュボードの確認

新しいボット用語の概要

Einstein Next Best Action を使用した適切なおすすめの提案 (正式リリース)

フィールドサービス

サービスクルーの迅速な作成 (ベータ)

サービス予定フィード設定のカスタマイズ

ガントチャートでの絞り込みの迅速化

ディスパッチャコンソールの色分け

メンテナンス計画内の各納入商品の作業指示品目の作成

リードのサービス予定の作成

ガントチャートの独自のアイコンの作成

予定を予約するときの日付による時間枠の並び替え

一括スケジュール解除へのアクセスの制御

複数日ビューでの不在の表示

強化されたフィールドサービスのヘルプコンテンツの概要

Field Service Mobile アプリケーション: バージョン 5.0 へようこそ

ナレッジ

Lightning Knowledge 移行ツールを使用した未来の受け入れ (正式リリース)

Lightning Experience アクションを使用した記事の管理

Lightning Knowledge を使用したメールへのファイルの添付

コミュニティの記事での関連ファイルの表示

ナレッジ記事への Ooyala 動画の埋め込み

チャネル

メッセージング: トランスクリプトアクセス、SMS の Einstein ボット、スキルベースのルーティング

コミュニティ: 顧客がサポートからの電話を要求可能

チャット: 拡張トランスクリプトアクセスとスキルベースのルーティング

電話: ソフトフォンのポップアウトと Open CTI のガイド付き設定フロー

ソーシャルカスタマーサービス:Facebook メッセージの重複を回避、ソーシャル人格およびソーシャル投稿と共にレコードをマージ

モバイルアプリケーション用 Snap-in: 顧客へのより充実したチャット環境の提供

Web 用の Snap-in: 転送のキューの位置、チャット会議、更新された事後チャット

ケース管理

サービスコンソール: システム管理者、エージェント、顧客の利便性の向上

サービスの Lightning フロー: 再利用可能なリリースと見つけやすい一時停止中のフロー

ケース: メール承認、ケース階層、取引先責任者の役割、ケースを引き受けるボタン

オムニチャネル: チャットおよびテキストのスキルベースのルーティング、連絡要求のルーティング、オムニスーパーバイザの機能強化、属性ベースのルーティング (ベータ)

エージェントの生産性: マクロの相対日付およびタブを閉じる操作

Lightning Scheduler: 予定のスケジュールの簡略化

その他の変更

Live Agent 設定フローでのオフラインサポートと関連レコードの設定

Service Cloud Unlimited Edition への IoT の導入によるカスタマーサービスの改善

Analytics

レポートとダッシュボード

レポート: Lightning 結合レポート (正式リリース)、高度な実行ページ (正式リリース)、条件付き書式 (ベータ)、履歴追跡レポートの表示

ダッシュボード: 12 列レイアウト、Lightning テーブルの数式列、コンパクト総計値コンポーネント

登録: ユーザ、グループ、およびロールのレポートおよびダッシュボードの登録

Einstein Analytics

設定およびデータインテグレーション: 新しい Google アナリティクスコネクタ、データフロー検索条件での SAQL、イベントベースのデータフロースケジュール

アプリケーションの構築: Analytics アプリケーションおよびスマートダッシュボードテンプレート、ダッシュボードページのリンク、複合グラフのカスタマイズ

Analytics インテリジェンス: Einstein データインサイト (正式リリース)、Einstein Discovery の機能強化

Analytics の拡張: コミュニティのアクションメニュー、Salesforce モバイルアプリケーションのサポートの強化

エンドユーザ向け Analytics: Studio ウォークスルー、動画プレイリスト、モバイルアプリケーション

コミュニティ

モバイルコミュニティ: Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher の概要

Lightning コミュニティ

Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新

ナビゲーションメニュー、関連記事、トピック別トレンド記事でのセレクタの更新
フィード項目をその場で翻訳
ミッションを使用したメンバーのエンゲージメントレベルの向上
フィード項目を最適な場所に移動
ユーザがトピックから逸れないようにサポート
Community Cloud 向け CMS のさらなる活用 (ベータ)
コミュニティでナレッジ記事のファイル関連リストを使用
プラス投票による影響度カードと、いいね! と言われた数への影響
テンプレートおよびテーマのエクスポートの機能強化
ナビゲーション API コールを使用したリンクの将来への対応
コミュニティでのページの読み込み時間の短縮
コミュニティの投稿とコメントへのハイパーリンクの追加
検索エンジンへの最新のコンテンツスナップショットの提供
より多くのオブジェクト詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加
SEO について把握
コミュニティビルダーでの Lightning コンポーネント
コミュニティでのカスタム Lightning Web コンポーネントの使用
コミュニティで Lightning コンテナコンポーネントを使用してコードを再利用
ユーザへの推奨アクションと提案 (正式リリース)
コミュニティのコンテンツの役立ち度に関するフィードバックの取得
ユーザが回答をすばやく得られるように支援し、サポートの負荷を軽減
コミュニティメンバーがサポートからの電話を要求できるボタンを追加
さまざまなスタイルプロパティを使用してボタンを洗練する
主要トピックへのスタイルの追加
コミュニティビルダーでのデフォルトのフィード並び替え順の定義
レコード詳細でのインライン編集の使用
レコードリストのオプションの制御
カスタマー取引先ポータルテンプレートで使用できるコンポーネントの増加
利用者
更新された利用者エディタによる作業効率と使いやすさの向上
カスタム利用者数式の作成
新しい条件およびデータ型による利用者の機能強化
パートナーコミュニティ
パートナー取引先のリレーションおよびデータ共有ルールの作成 (正式リリース)

商談およびリードのパートナー取引先の更新

パートナーユーザによる予算階層を使用した各自の予算の管理

内部ユーザとシステム管理者による取引先からのコミュニティメンバーの表示および管理

重複する取引先の取引先ブランド情報のマージ

共有とセキュリティ

キャンペーン、商談、注文での共有セットの使用 (正式リリース)

複数の取引先がある取引先責任者で共有セットを使用 (正式リリース)

コミュニティまたはポータルを使用する組織の外部組織の共有設定の有効化 (重要な更新)

コミュニティへのコンテンツセキュリティポリシーレベルの割り当て

CMS Connect を使用する場合の CSP エラーの回避

CSP リソースの問題の検出と解決

コミュニティビルダーでクリックジャック保護を容易に有効化

ケースへのコミュニティユーザアクセスの制限 (正式リリース)

ゲストユーザに何が表示されるかを確認

Internet Explorer でサイトおよびコミュニティの iframeDomain Cookie を設定

ログイン検出のログイン画面とエラーメッセージのローカライズ

新規ユーザによるサインアップ前のコミュニティの体験

コミュニティサインアップ用の独自の検証ページの作成

重要な更新「Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」の延期

Lightning コミュニティのファイル

コミュニティのファイル詳細ページで統計を追跡

コミュニティのゲストユーザによるファイルのアップロード

コミュニティのその他の変更

コミュニティユーザ表示の制御 (正式リリース)

コミュニティのトピックの使用状況に関するレポートの作成

Analytics ダッシュボードからの Salesforce のアクションの実行

Chatter

並び替えの選択内容の保持

投稿とコメントへのハイパーリンクの追加

リダイレクト URL の短縮と有益性の向上

トピックおよびトピックを使用する投稿に関するレポートの作成

Files

管理パッケージ内のアセットファイルの更新

フォルダを使用したアセットライブラリの整理

すべてのファイルのクエリ

完全に機能する Quip 文書を Salesforce に直接埋め込む

Financial Services Cloud

Lightning Scheduler を使用した顧客の予定のパーソナライズ

Einstein Analytics for Financial Services を使用して顧客インサイトをすばやく取得

Client Segmentation Analytics を使用したルール適用時のアクションの Financial Services 顧客の特定

カスタマイズ

Einstein: Next Best Action および予測ビルダー

Einstein 予測ビルダー: 改善されたスコアカード、通知、新しい設定フロー (正式リリース)

Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)

推奨アクションと提案を生成するアクション戦略の構築

Lightning フロー

Flow Builder を使用したより直感的なフローの作成

プロセスおよびフロー設計: 外部データアクセス、プロセスおよびフローテンプレート、コミュニティの支援要求フロー

フローの配布: Next Best Action を使用する推奨フロー、ガイド付きアクションリリース、ゲストユーザがフローを実行できるようにする Snap-In

Apex を使用したプロセスのスケジュール済みアクションとフローの再開イベントのテスト

Salesforce Connect

外部オブジェクトのデータ変更のより簡単な追跡 (ベータ)

1 時間あたりの制限の緩和による、ユーザが接続可能な外部データ量の増加

外部オブジェクトデータへの接続の検証

Salesforce Connect の OData 2.0 アダプタの改善

プロセスおよびフローでの外部オブジェクトの使用

開発者のための関連更新

Lightning アプリケーションビルダー

Lightning ページから別のテンプレートへの切り替え

Lightning Experience ユーザへのおすすめと提案の推奨 (パイロット)

Salesforce レコードへの Quip 文書の直接追加 (ベータ)

メールアプリケーションペインへの作業キューコンポーネントの追加

リッチテキストコンポーネントでの Quill テキストエディタの使用

Lightning ページテンプレートの標準の表示ラベルの変更

コンポーネントの表示ルールのフォーム要素の表示ラベルの改善

データ保護とプライバシー

新しいオブジェクトを使用したデータプライバシー追跡の調整

複数アクションエンドポイントを使用した 1 つのコールへの Consent API 要求の統合

Lightning Experience でのデータプライバシーレコードのマージ

データプライバシーレコードへのデモグラフィック情報の追加

データプライバシーレコードの項目履歴に関するレポート

データ管理ポリシーをサポートするための機密データの分類 (ベータ)

グローバリゼーション

新しいプラットフォーム言語によるつながりを持てる顧客の増加

右から左へ記述される言語による適切な表示 (ベータ)

トランスレーションワークベンチでのアンケートの翻訳のサポート

共有

エンタープライズテリトリー管理に追加された新しい共有オプション

共有ルールのドキュメントの改善

一般設定

[設定] からのカスタム Big Object の作成

Lightning アプリケーションに基づくデフォルトのホームページの割り当て

Lightning で参照可能な Classic アプリケーションのホームページプロファイルの割り当てが編集不可に変更

項目の参照を編集前に確認 (ベータ)

外部サービススキーマへの予約済み Apex 名の追加

pageReference.state プロパティとクエリパラメータへの名前空間プレフィックスの追加

アウトバウンドメッセージでのセッション ID の安全な送信

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

セキュリティと ID

認証と ID

[私のドメイン] のログイン検出を使用した ID ファーストログインページの作成

証明書によるユーザの認証

ログイン検出のログイン画面とカスタムエラーメッセージのローカライズ

OAuth 2.0 エンドポイントと接続アプリケーションのインテグレーションの合理化 (正式リリース)

OAuth 2.0 接続アプリケーションクライアントの秘密に必要な文字数の増加

コミュニティサインアップ用の独自の検証ページの作成

非同期メール検証の送信

軽量な、連絡先のない External Identity ユーザの作成 (正式リリース)

デバイス管理を使用したデバイスの表示および取り消し (ベータ)

ログアウト時にユーザをカスタム URL に転送

セルフ登録後の Web サイトへのユーザのリダイレクト

パスワードに含める特殊文字の追加

更新されたパスワードブラックリストによるセキュリティの強化

ロールの編集へのアクセスを保護するようにセッションセキュリティポリシーを設定

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新) の延期

Salesforce Shield

Shield Platform Encryption: キャッシュのみの鍵の正式リリース、セルフサービスバックグラウンド暗号化、クラウド間の互換性の向上

イベント監視: Apex トラブルシューティング用の新しいイベント種別、改善されたトランザクションポリシーウィザード

リリース

より少ないクリック数での変更セットのコピー、リリース、アップロード、検証

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント

Salesforce IoT

Service Cloud Unlimited Edition の IoT を使用したカスタマーエクスペリエンスの向上

より簡単にコンテキストを作成できる設定プロセス

Field Service Lightning Mobile for Android での Salesforce IoT データの表示

開発

Lightning コンポーネント: Lightning Web コンポーネントの概要

Visualforce: JavaScript でのトーストの表示、コンポーネントの互換性の改善、重要な更新の延期

Apex

API

カスタムメタデータ: カスタムメタデータ型を使用したデフォルト項目値の設定

Salesforce CLI: プレリリースバージョン、Salesforce プラグインジェネレータ

VS Code 向け Salesforce 拡張機能: Lightning Web コンポーネントのサポート、Apex のリファクタリング、予定されている Force.com IDE の廃止

AppExchange パートナー

登録者が開いたり、作成元として使用したりできる事前作成済みのビジネスプロセスのパッケージ化

無効なプロセスおよびフローのパッケージ化

Trialforce Web フォームのサポートの終了

エンタープライズメッセージング

変更データキャプチャを使用した外部データの最新の状態の維持 (正式リリース)

大規模プラットフォームイベントによるイベントベースのアプリケーションの拡張 (正式リリース)

標準量プラットフォームイベントの利用状況の監視

イベント公開の失敗の新しい状況コード

プロセスおよびフローでの標準プラットフォームイベントの登録

Sandbox

Sandbox のコピーによる時間の節約 (正式リリース)

Sandbox でのユーザのメールアドレスの形式の簡素化

開発者向けの新規および変更された項目

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

Apex: 新規および変更された項目

API: 新規および変更された項目

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド

Dev Hub: 新しい Limited Access ライセンス

スクラッチ組織: 設定可能な Salesforce 環境

ドキュメントコンテンツ

新しい開発者ガイドを使用した独自の Salesforce CLI プラグインの作成

Outlook および Gmail インテグレーションの追加されたコンテンツ

動画を見る (英語のみ)

Spring '19 の Lightning Experience で新しく追加された機能と使用できなくなった機能

Lightning Experience の新機能と機能強化に関する次のトピックを参照して、ビジネスに不可欠な機能がこのリリースで制限されたり、使用できなくなったりしていないか確認してください。

メモ: Lightning Experience で使用できない機能とその制限事項の完全なリストは、Salesforce ヘルプの「Lightning Experience と Salesforce Classic 間の機能の違い」を参照してください。

生産性

カレンダービュー

行動のプレビューでは、種別、時刻、所要時間、被招集者、メールが表示されません。

公開カレンダー、リソースカレンダー、および他のユーザのカレンダーの行動では、行動のプレビューの詳細で件名、開始時刻、終了時刻を表示できますが、コンパクトレイアウトに追加されたその他の項目は表示できません。

一連の行動

- 行動の説明のプラットフォームの暗号化を有効にしている場合でも、Winter'19で作成された一連の行動は自動的に暗号化されません。Winter'19で作成された一連の行動を暗号化するには、一連の行動を編集します。更新されて一連の行動パターンに該当しなくなった行動は、一連の行動と共に暗号化されません。一連の行動のこれらの例外を暗号化するには、個々の行動を編集します。
- 一連の行動の個々の行動に関連ファイルやメモを追加できますが、一連の行動全体に追加することはできません。
- Lightning Experience で作成した一連の行動は、Salesforce Classic では更新または削除できません。
- 一連の行動の開始日は編集できません。代わりに、一連の行動を削除してから新しい開始日で再作成します。
- 一連の行動パターンに該当しない行動の一連の行動は編集できません。
- 一連の行動の次の項目を編集する場合、一連の行動パターンに該当しない行動も一連の行動と共に更新されます。以前は、そのような行動の変更は保持されませんでした。
  - 終日の行動のチェックボックス
  - 開始時刻または終了時刻
  - 繰り返しパターン
  - 繰り返しの開始日または終了日
  - 場所
- 一連の行動の [割り当て先] 項目を編集しても、一連の行動パターンに該当しない行動は更新されません。これらの行動は個別に新しい所有者に再割り当てします。
- 過去 180 日より前の行動を使用して一連の行動をスケジュールする場合、一連の行動の一部の行動はカレンダーに表示されません。一連の行動の最初の行動と、現在の日付から 180 日以内の行動のみが表示されます。

Salesforce Essentials: セールスとサービスの組み合わせ、アプリケーション内ヘルプ、ユーザ管理と設定フローの更新

Sales Essentials と Service Essentials が 1 つの製品、Salesforce Essentials に組み合わされました。アプリケーション内ヘルプは、Salesforceを離れることなくリソースを検索するのに役立ちます。ユーザライセンスを追加または削減してチームに適切な数が割り当てられるようにし、[設定] の再設計された [ユーザ] ページでユーザを管理します。新しい音声サポートの設定フローを使用して、サードパーティの音声サポートシステムをSalesforceと統合し、セールスフェーズの設定フローでリードと商談の詳細を確認します。

このセクションの内容:

セールスとサービスの統合

Sales Essentials と Service Essentials が 1 つの製品、Salesforce Essentials に統合されました。商談を管理するかカスタマーサポート要求を管理するかに関わらず、営業ツールとカスタマーサポートツールをシームレスに組み合わせることができます。Essentials を使用しているすべてのお客様は、セールスとサービス両方の機能にアクセスできます。

アプリケーション内ヘルプでの役に立つリソースと推奨コンテンツの検索

Salesforce を離れることなく、ヘルプを検索して推奨リソースを確認します。アプリケーション内ヘルプでは、必要なときに必要なヘルプを参照できるため、予定どおりに物事を進めて生産性を高めることができます。追加サポートが必要な場合は、ケースを登録して Essentials のコーチに相談できます。

チームの変更を反映したユーザの追加または削減

ユーザの数を瞬時に調整します。Essentials を初めて購入しているか、Salesforce を使用するユーザ数を調整しているかに関わらず、ビジネスに必要な数だけのライセンスを取得するために電話やメールで連絡する必要はなくなりました。

[ユーザ] ページでのチームの情報と権限の管理

チームの成長と変更に伴い、ユーザを招待、更新、無効化する必要があります。[設定]の再設計された[ユーザ]ページで、ユーザ情報を表示および更新し、パスワードをリセットし、プロファイルと権限セットを割り当てることができます。

音声サポートの設定フローを使用したコールセンターの作成

サードパーティの音声サポートシステムを Salesforce と統合し、チームがサービスコンソールから電話を受けることができるようにします。新しいガイド付き設定フローに従って、音声プロバイダに接続し、必要な AppExchange パッケージをインストールし、電話を受けることができるユーザを選択します。

セールスフェーズの設定フローでのリードと商談の把握

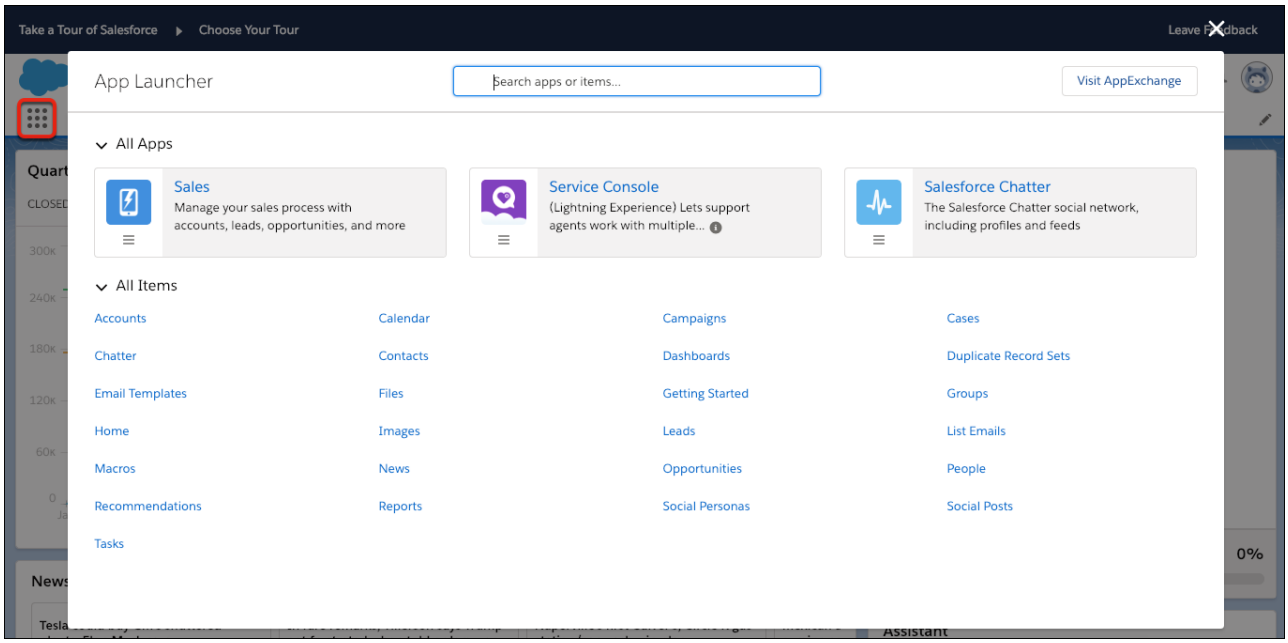
リードのファネルの上部から商談成立まで、セールスプロセスのすべてのフェーズをカスタマイズします。以前は、このフローでは商談フェーズのみが作成されていました。さらに、リードと商談を説明する新しい開始画面で、チームにとって最適なパスを作成するために必要なコンテキストを取得できます。

セールスとサービスの統合

Sales Essentials と Service Essentials が 1 つの製品、Salesforce Essentials に統合されました。商談を管理するかカスタマーサポート要求を管理するかに関わらず、営業ツールとカスタマーサポートツールをシームレスに組み合わせることができます。Essentials を使用しているすべてのお客様は、セールスとサービス両方の機能にアクセスできます。

対象: この変更は Essentials Edition に適用されます。

方法: アプリケーションランチャーを使用してセールスとサービスを切り替えます。



アプリケーション内ヘルプでの役に立つリソースと推奨コンテンツの検索

Salesforceを離れることなく、ヘルプを検索して推奨リソースを確認します。アプリケーション内ヘルプでは、必要なときに必要なヘルプを参照できるため、予定どおりに物事を進めて生産性を高めることができます。追加サポートが必要な場合は、ケースを登録してEssentialsのコーチに相談できます。

対象:

方法: ホームページで を選択します。

チームの変更を反映したユーザの追加または削減

ユーザの数を瞬時に調整します。Essentialsを初めて購入しているか、Salesforceを使用するユーザ数を調整しているかに関わらず、ビジネスに必要な数だけのライセンスを取得するために電話やメールで連絡する必要はなくなりました。

対象: この変更はEssentials Editionに適用されます。

方法: を選択して[ユーザ]を選択します。ライセンス数を調整するには、[ライセンスを管理]を選択して必要なインスタンス数を指定します。

[ユーザ] ページでのチームの情報と権限の管理

チームの成長と変更に伴い、ユーザを招待、更新、無効化する必要があります。[設定] の再設計された [ユーザ] ページで、ユーザ情報を表示および更新し、パスワードをリセットし、プロファイルと権限セットを割り当てることができます。

対象: この変更は Essentials Edition に適用されます。

音声サポートの設定フローを使用したコールセンターの作成

サードパーティの音声サポートシステムを Salesforce と統合し、チームがサービスコンソールから電話を受けることができるようにします。新しいガイド付き設定フローに従って、音声プロバイダに接続し、必要な AppExchange パッケージをインストールし、電話を受けることができるユーザを選択します。

関連トピック:

- ガイド付き環境を使用した Open CTI の設定

セールスフェーズの設定フローでのリードと商談の把握

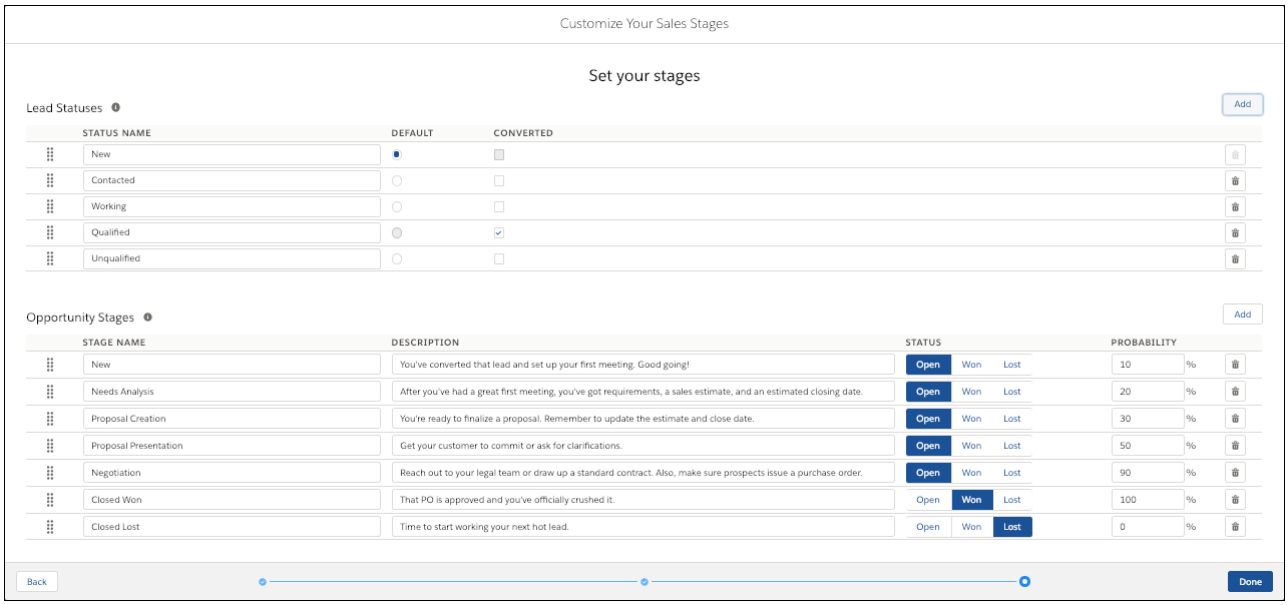
リードのファネルの上部から商談成立まで、セールスプロセスのすべてのフェーズをカスタマイズします。以前は、このフローでは商談フェーズのみが作成されていました。さらに、リードと商談を説明する新しい開始画面で、チームにとって最適なパスを作成するために必要なコンテキストを取得できます。

対象: この変更は Essentials Edition に適用されます。

理由: 新しい開始画面は、リードと商談がどのように連携するかの理解を深め、セールスプロセス全体でチームを強化するために役立ちます。



フロー内のフェーズステップでリード状況と商談フェーズ両方をカスタマイズできるため、リードがどこでどのように商談に変換されたかを簡単に追跡できます。独自のフェーズを使用することをお勧めします。そうすれば、固有のビジネスに合わせてフェーズを調整できます。



Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

Einstein によりインサイトと取引先責任者の提案レポートが提供され、Einstein データインサイトではレポートからより詳しい情報を得ることができます。Einstein 活動キャプチャでの改善された同期、共有、総計値に加えて、ケース分類とさらにスマートになったボットにより、エージェントとシステム管理者の効率が向上します。予測ビルダーでは、モデルの各プレディクターの影響が示され、準備が整ったときに通知されます。

Einstein で業務を効率化する方法を次に示します。

セールス

Einstein 活動キャプチャ: 同期機能、拡張された共有、および改善された総計値によって次のレベルへ

取引先責任者と行動を同期します。Einstein 活動キャプチャを使用しない同僚と活動を共有します。活動総計値と改善された Activities ダッシュボードを使用して、活動に対する理解を深めることができます。また、Einstein メールインサイトと推奨コネクションをさらに活用できます。

Einstein インサイト: インサイトに基づくレポートの作成

取引先インサイトと商談インサイトに関連するレポートとダッシュボードを作成できるようになりました。たとえば、特定の取引先または商談に関するすべてのインサイトを表示するレポートを実行して、顧客についての理解を深めます。

Einstein 自動取引先責任者: 提案に基づくレポートの作成

取引先責任者の提案および取引先責任者の役割の提案に関連するレポートとダッシュボードを作成できます。たとえば、レポートを使用して、Einsteinがどの提案をSalesforceのどの取引先に追加したかをすばやく参照できます。

より多くのユーザに商談スコアを提供

すべてのユーザが商談に優先度を付けて、商談成立数を増やせるようになりました。1 つ以上の Sales Cloud Einstein ライセンスがある場合、会社のすべての Salesforce ユーザに対して Einstein 商談スコアリングが有効になります。Sales Cloud Einstein ライセンスが割り当てられたユーザにはすべての商談でスコアが表示されますが、その他のユーザでは、スコアを表示する商談の数が制限されます。

より多くの場所に商談スコアを表示

商談の[最近参照したデータ]リストビューがテーブルとして表示される場合、そのリストビューに商談スコアが表示されるようになりました。このため、営業担当は商談の優先リストから数クリックで作業できます。

エンゲージメントアクティビティでのプロスペクトのスコアリング

プロスペクトにより多数のデータが生成されますが、その利用方法を把握するのは困難です。EinsteinではPardotプロスペクトのアクティビティが分析され、エンゲージメントの集計とグレーディングが行われるため、ビジネスにとって最も重要なプロスペクトに集中できます。プロスペクトレコードに [Einstein スコアリング] コンポーネントを配置して、有意義かつ詳細なインサイトを表示します。

サービス

Einstein ケース分類によるエージェントの時間の節約と精度および完了の改善

Einsteinケース分類を使用して、過去のデータに基づいて新規ケースの選択リストおよびチェックボックス項目の値を推奨または入力します。それらのおすすめを Lightning Experience および Saleseforce Classic のサービスコンソールのエージェントに表示します。Lightning Experienceでは、エージェントは関連レコードコンポーネントでおすすめを表示します。

ボットがどの程度顧客を理解しているかの評価

[モデル管理]ページには、ボットのインテントモデルの品質に関する総計値と個々のインテントの詳細が表示されます。この情報を使用してインテントを微調整し、ボットによる顧客の理解度を高めます。

顧客の入力の分類とフィードバックでボットをさらにスマートにする

顧客がチャットで入力した内容をボットがどのように分類するか確認し、各入力を承認するか、無視するか、適切なインテントに再分類します。このフィードバックプロセスはボットの学習に役立ち、時間が経つにつれてボットがスマートになります。

SMS テキストメッセージングチャネルでのボットの使用

ボットを作成したら、Live Agent チャットチャネルに加えて LiveMessage SMS テキストメッセージングチャネルにそのボットをリリースします。

ボットビルダーのチャネル設定を使用した簡単な Einstein ボットの設定

LiveAgent で使用するボットの設定時に混乱していますか? あなたは 1 人ではありません! チャネル設定がボットビルダーに移動されて合理化されました。

チャネルに依存しないボットの作成

Live Agent と SMS テキストメッセージングチャネルの両方でボットを使用する予定はありますか? その場合、チャネルに関係なくボットで顧客情報を収集する、新しいコンテキスト変数とシステム変数を確認してください。事前チャットフォームのルールアクションやカスタムコードは必要ありません。

改善されたボットのパフォーマンスダッシュボードの確認

パフォーマンスダッシュボードを日付とチャネル (チャット、メッセージング) で絞り込めるようになりました。ボットのパフォーマンスを理解する方法として、[上位の最終ダイアログ]、[エスカレーション成功]、[Einstein Intent 使用状況]、[インタラクション] が追加されました。

新しいボット用語の概要

自然言語処理をサポートするため、用語「*発言*」が導入され、「*顧客の入力*」と区別されています。

Analytics

Einstein データインサイトによるレポートからの詳細情報の取得 (正式リリース)

Einstein データインサイトはレポートが AI で拡張され、データに関する新しい有益なインサイトを取得するために役立ちます。

2 倍の行制限による分析可能なデータの増加

Einstein Discovery は、最大 2 千万行の Einstein Analytics データセットからストーリーを作成できます。

追加分析用のストーリーのエクスポート

データサイエンティストが各自の言語でモデルを分析およびカスタマイズできるように、ストーリーをRにエクスポートします。ストーリーを Quip にエクスポートし、チームのビジネスユーザと共有します。

Salesforce オブジェクトへの簡単なモデルのリリース

モデルと Salesforce オブジェクト間で項目を対応付けて、コードを記述せずに必要なおすすめと予測を取得できます。

カスタマイズ

Einstein 予測ビルダー: 改善されたスコアカード、通知、新しい設定フロー (正式リリース)

ベータプログラムが正常に完了し、Einstein 予測ビルダーが正式リリースされました。スコアカードの各プレディクターの影響についての詳細を確認してください。予測の準備ができたら通知を受け取ります。合理化された設定フローで予測をより効率的に構築します。

Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)

Einstein Next Best Action で適切なおすすめを、適切なタイミングで、適切なユーザに表示します。Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、データを統合し、すべての使用事例で一意の戦略を作成します。特定の条件下でのみ関連を持つ提案 (割引やアップグレードなど) はないでしょうか。または、サービスエージェントが顧客をサポートする方法が複数あり、最適なアクションにエージェントを誘導したいと考えていませんか。その場合は、Einstein Next Best Action の使用を検討してください。

推奨アクションと提案を生成するアクション戦略の構築

Strategy Builder を使用して、Lightning レコードページおよびコミュニティページに表示できるアクションと提案のストリームを作成します。Strategy Builder は、Einstein Next Best Action の戦略を作成するためのポイント & クリッ

ク自動化ツールです。Strategy Builder では、おすすめの並び替え、絞り込み、優先順位付けを行うことができます。

セールス: High Velocity Sales ツール、Google インテグレーションの改善、CPQ による柔軟な価格設定、Pardot での Einstein

内部の営業担当に、High Velocity Sales で成功するために必要なツールを提供します。Salesforce を Gmail および Google カレンダーと統合し、お気に入りの方法で作業をすばやく実行します。Salesforce CPQ の使用量ベースの価格設定を使用して、価格設定方法の柔軟性を高めます。Einstein 行動スコアリングと Pardot のキャンペーンのインサイトを使用して、見込み客のターゲティングに関して営業チームとマーケティングチームの連携を図ります。

このセクションの内容:

High Velocity Sales: セールスケイデンスと作業キューを使用して営業チームの作業を加速
高生産性ワークスペースを使用して、インサイドセールスプロセスを加速します。マネージャはセールスケイデンスを使用して、さまざまな種別の見込み客を処理する方法を営業担当に示す、カスタムセールスプロセスを作成できます。セールスケイデンスは、High Velocity Sales ワークスペース内に表示される優先リストである作業キューで営業担当に表示されます。また Lightning Dialer、Einstein リードスコアリング、標準のレポートなど、生産性を向上させるその他の機能を使用することで、営業チームは以前と比べるとほんのわずかな時間で見込み客の処理に必要なすべてを入手できます。

Sales Cloud Einstein: すべてのユーザの商談スコアリング、Einstein 活動キャプチャの大幅な改善、レポートの追加
Einstein 商談スコアリングは自動でオンになっており、すべてのユーザが使用できます。Einstein 活動キャプチャには、同期機能、拡張された共有、改善された総計値が追加されています。取引先インサイト、商談インサイト、および自動取引先責任者はレポートとダッシュボードで利用できます。

中核的なセールス機能: 売上予測の機能強化、テリトリー別の共有、取引先チームと商談チームの容易な管理
テリトリー別の商品ファミリの売上予測を含め、コラボレーション売上予測でより多くのオプションを使用できます。テリトリー別にレコード、フォルダ、リストビューへのアクセス権を付与します。取引先チームと商談チームをより少ないクリック操作で維持します。

生産性機能: Einstein 活動キャプチャの改善、メールのプライバシーとテンプレートの管理の改善、Salesforce Inbox の機能強化
Einstein 活動キャプチャには、同期機能、拡張された共有、改善された総計値が追加されています。メールの受信に関する顧客の設定を遵守します。メールテンプレートをこれまで以上に適切に整理および共有します。また、Salesforce Inbox アプリケーションで Lightning Experience メールテンプレートと複合メールインサイトがサポートされます。

Lightning Data: データの自動更新

カスタムオブジェクトの参照を介してレコードの項目を更新する Lightning Data ルールで、古いデータを新しい情報で自動的に置き換えることができるようになりました。[設定] で、既存の値に対する新しい項目対応付けオプションを選択します。以前は、営業担当が取引先、取引先責任者、またはリードを更新する場合、Lightning Data は空の項目のみを埋めることができました。データがすでに含まれている項目は、そのデータが古くても更新できませんでした。営業担当は、人員、収益、取引先責任者情報など、最新のデータを参照するためのリンクをクリックする必要がなくなりました。また、この自動化により、セグメント化が改善され、より包括的なレポートが提供され、ToDo の割り当てが容易になります。

Google とのインテグレーション: 統合された Chrome 拡張機能、High Velocity Sales 作業キュー、被招集者の同期の改善

Lightning for Gmail と Salesforce Inbox を、統合された Chrome 拡張機能で使用できるようになりました。High Velocity Sales 作業キューを Gmail™ で使用できます。また、Lightning Sync ユーザは、API を介して加えられた、行動の被招集者の変更を Google カレンダーで表示できるようになりました。

Microsoft® とのインテグレーション: High Velocity Sales 作業キュー、メールの記録オプションの追加、一連の行動の同期

Outlook® 内から High Velocity Sales 作業キューで作業できます。Salesforce の任意のユーザに対してメールを記録できます。より少ない労力で一連の行動を最新の状態に保ちます。

Salesforce CPQ と Salesforce Billing: 拡張された請求書機能、修正オプション、使用量サマリーのための消費スケジュール

Salesforce CPQ に使用量ベースの価格設定を取り込んで、エバーグリーンサブスクリプションのカスタム請求可能単価を定義します。見積品目エディタ内で取引先のいずれかの契約からのサブスクリプションを修正します。消費スケジュールを使用して、使用量サマリーを評価します。消費スケジュールおよび終了日を持たないサブスクリプションを使用して、使用量サマリーの請求書を作成することで、請求書機能を拡張します。

Pardot: 容易になった設定と同期、エンゲージメント履歴、Einstein プロスペクトスコアリング、その他

Pardot の設定アシスタントで設定作業とプロビジョニングを容易に行って、複雑な共有ルールなしで Salesforce にレコードを同期します。エンゲージメント履歴が正式にリリースされました。Salesforce から離れることなく、接続されたキャンペーンでプロスペクトのエンゲージメントを追跡します。さらに、Einstein の人工知能が行動スコアと共に Pardot に取り込まれました。この行動スコアの学習により、購入準備ができているプロスペクトが特定され評価されます。

High Velocity Sales: セールスケイデンスと作業キューを使用して営業チームの作業を加速

高生産性ワークスペースを使用して、インサイドセールスプロセスを加速します。マネージャはセールスケイデンスを使用して、さまざまな種別の見込み客を処理する方法を営業担当に示す、カスタムセールスプロセスを作成できます。セールスケイデンスは、High Velocity Sales ワークスペース内に表示される優先リストである作業キューで営業担当に表示されます。また Lightning Dialer、Einstein リードスコアリング、標準のレポートなど、生産性を向上させるその他の機能を使用することで、営業チームは以前と比べるとほんのわずかな時間で見込み客の処理に必要なすべてを入手できます。

High Velocity Sales とその機能は、有料オプションで使用できます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

セールスケイデンスを使用してアウトリーチを合理化し、営業担当の販売を迅速化
セールスケイデンスを使用すると、社内営業担当は見込み客に対するすべての作業を最速で行うことができます。社内営業マネージャはセールスケイデンスビルダーを使用して、アウトリーチ活動に関する一貫したスケジュール済みのケイデンスを作成し、最大の効率で営業担当が見込み客を育成できるようにします。セールスケイデンスには、メールの送信、電話連絡、会議の手配、テキストメッセージの送信など、各種活動を含めることができます。営業マネージャと営業担当は各セールスケイデンスにリードと取引先責任者を追加できます。営業担当は、アウトリーチごとに準備が整っているプロスペクトを一目で確認できる優先順位付き作業キューからセールスケイデンス活動に対処します。

High Velocity Sales ワークスペースおよび作業キューによる営業担当の強化
営業担当は、High Velocity Sales アプリケーションを使用して必要なすべての情報を参照できます。このアプリケーションには、営業担当が見込み客に対して行う必要がある次のステップに優先順位を付ける、作業キューが含まれます。Lightning Dialer は、Salesforce で直接クリック発信を行うことができます。また、営業担当はメールテンプレートとコールスクリプトを使用して、自信を持って見込み客とコミュニケーションを取ることができます。

セールスケイデンスを使用してアウトリーチを合理化し、営業担当の販売を迅速化

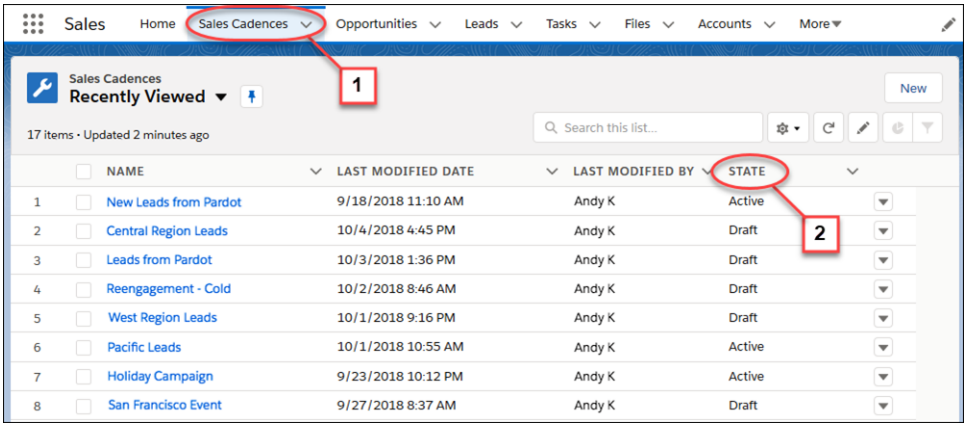
セールスケイデンスを使用すると、社内営業担当は見込み客に対するすべての作業を最速で行うことができます。社内営業マネージャはセールスケイデンスビルダーを使用して、アウトリーチ活動に関する一貫したスケジュール済みのケイデンスを作成し、最大の効率で営業担当が見込み客を育成できるようにします。セールスケイデンスには、メールの送信、電話連絡、会議の手配、テキストメッセージの送信など、各種活動を含めることができます。営業マネージャと営業担当は各セールスケイデンスにリードと取引先責任者を追加できます。営業担当は、アウトリーチごとに準備が整っているプロスペクトを一目で確認できる優先順位付き作業キューからセールスケイデンス活動に対処します。

対象: High Velocity Sales アプリケーションとセールスケイデンスは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で有料オプションで使用できます。

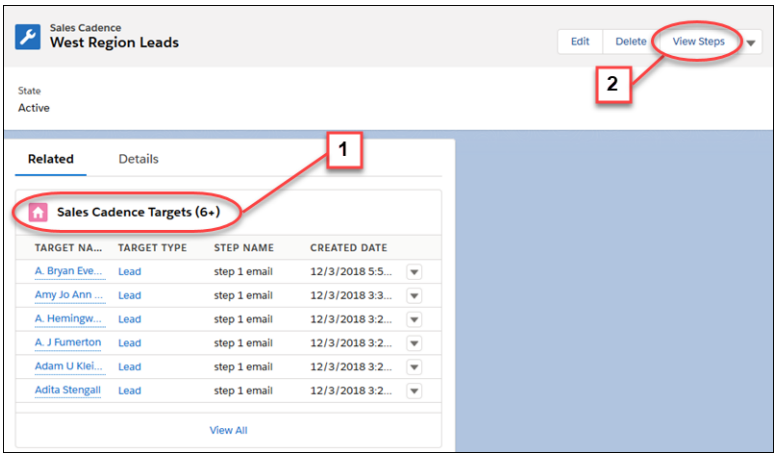
対象ユーザ: セールスケイデンスを作成するには、ユーザに「High Velocity Sales ケイデンス作成者」権限が必要です。メールテンプレートを作成するには、ユーザに「公開 Lightning メールテンプレートを管理」権限が必要です。

理由: マネージャはベストプラクティスを Salesforce に直接埋め込んで、プロスペクティングの結果を最適化できます。セールスケイデンスは、見込み客にいつメールを送信するか、いつ電話をかけるか、いつ待機するかを含め、プロスペクティングプロセス全体を通して新人やベテランの営業担当などをガイドします。マネージャはステップごとにコールスクリプトやメールテンプレートを指定することもできます。

セールスケイデンスは営業担当のすべての保留中の活動を1つのビューに表示し、営業担当が活動を完了したときにその活動を記録します。営業担当がセールスケイデンスの使用を開始すると、マネージャは、最良の営業結果につながるセールスケイデンスに関するレポートを作成できます。



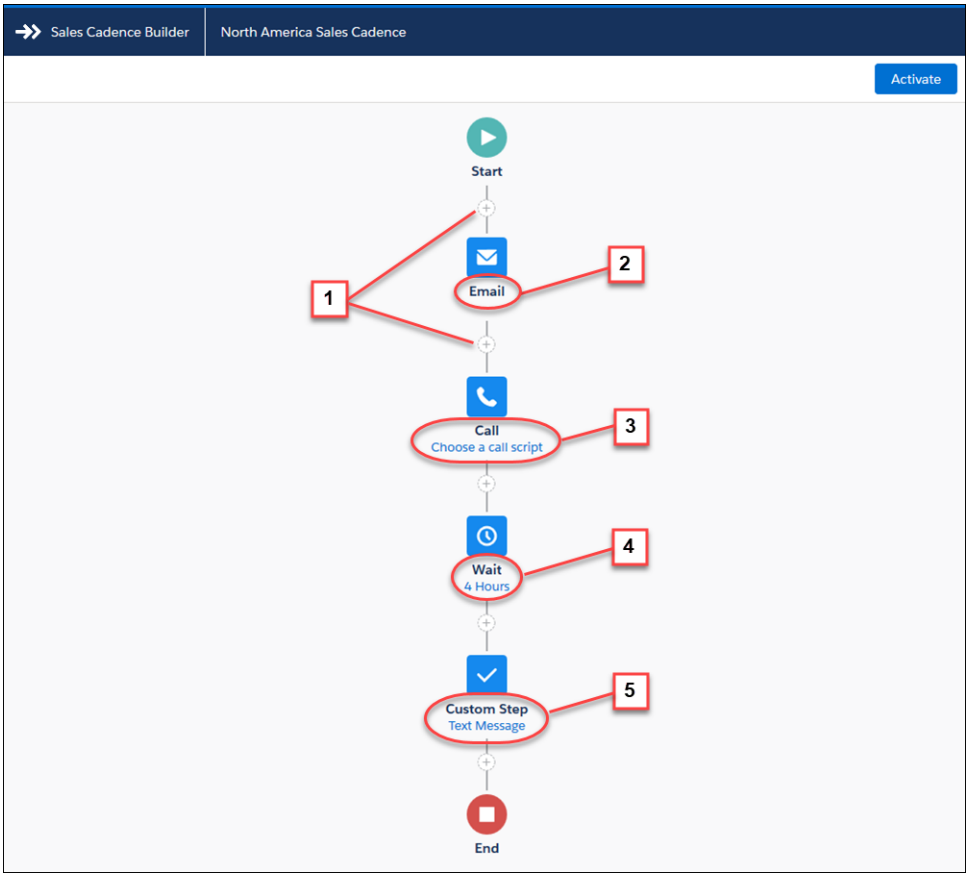
[セールスケイデンス] タブ (1) には、セールスケイデンスの状況 (ドラフト、有効化中、または有効 (2)) を含め、各セールスケイデンスの詳細が表示されます。ドラフトの場合、営業マネージャはセールスケイデンスを編集できます。セールスケイデンスが有効化されている場合、営業マネージャはセールスケイデンスにリードと取引先責任者を割り当てることができますが、ステップは変更できません。



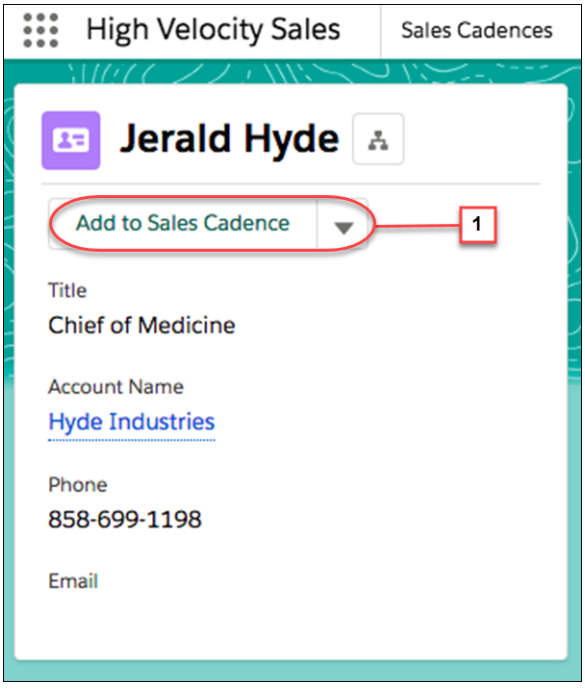
マネージャはセールスケイデンスレコードの詳細ページで、セールスケイデンスの対象になっているリードと取引先責任者 (1) およびそのアウトリーチステップ (2) を含め、詳細を確認できます。

たとえば、見込み客に連続して2回の電話をかけて、半日待機した後、再び電話をかけるかメールを送信するように営業担当をガイドするセールスケイデンスを営業マネージャは作成できます。このシーケンスは、プロスペクティング結果を最適化するためのベストプラクティスです。

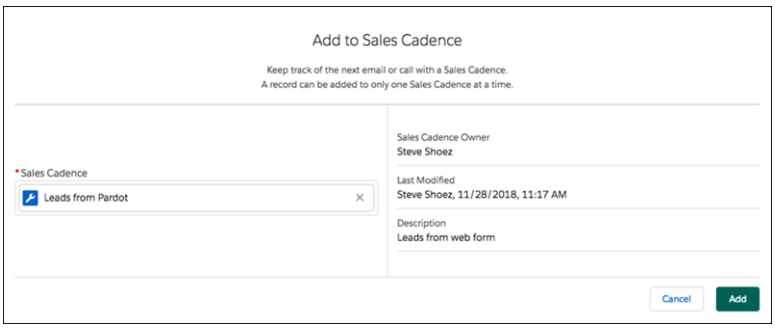
方法: 営業マネージャはセールスケイデンスビルダーを使用して、スケジュール済みの各アウトリーチプランを作成します。



[+] アイコン (1) をクリックして、メール (2)、通話 (3)、待機期間 (4)、またはカスタムステップ (5) (会議の設定、テキストメッセージの送信など) を追加します。



セールスケイデンスを有効化すると、営業マネージャまたは営業担当は、リードまたは取引先責任者の詳細ページから[セールスケイデンスに追加]アクション(1)をクリックして、見込み客を追加できます。次に、セールスケイデンスを選択し、スケジュール済みのアウトリーチに基づいて見込み客への対応を開始します。



リードと取引先責任者は一度に1つのセールスケイデンスにのみ割り当てることができます。リードまたは取引先責任者はレコード所有者の作業キューに表示されます。新しい見込み客が取り込まれたときに、特定のセールスプロセスを使用してその見込み客にすぐに対処する必要がある場合、見込む客をセールスケイデンスに自動的に追加できます。コードなしでプロセスビルダーとフローデザイナを使用するか、プロセスビルダーと Apex を使用します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: High Velocity Sales ケイデンスへの見込み客の自動追加(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

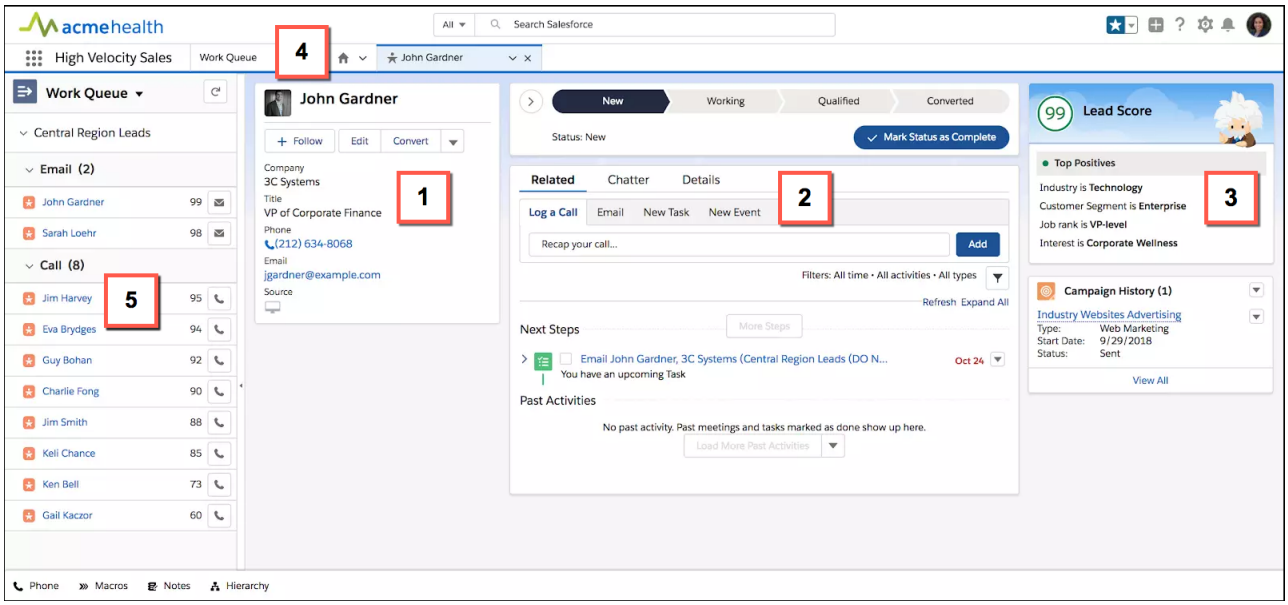
High Velocity Sales ワークスペースおよび作業キューによる営業担当の強化

営業担当は、High Velocity Sales アプリケーションを使用して必要なすべての情報を参照できます。このアプリケーションには、営業担当が見込み客に対して行う必要がある次のステップに優先順位を付ける、作業キューが含まれます。Lightning Dialer は、Salesforce で直接クリック発信を行うことができます。また、営業担当はメールテンプレートとコールスクリプトを使用して、自信を持って見込み客とコミュニケーションを取ることができます。

対象: High Velocity Sales アプリケーションと作業キューは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: High Velocity Sales 機能を使用するには、ユーザに「High Velocity Sales ユーザ」権限セットが必要です。Lightning Dialer は有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

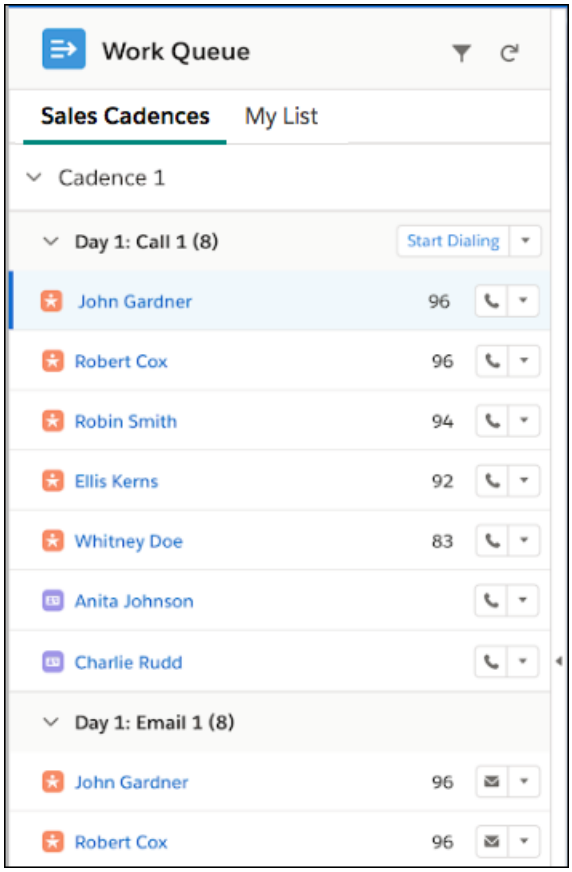
理由: High Velocity Sales は Lightning セールスコンソール上に構築されており、営業担当に必要なすべての情報をタブベースのワークスペースで提供します。



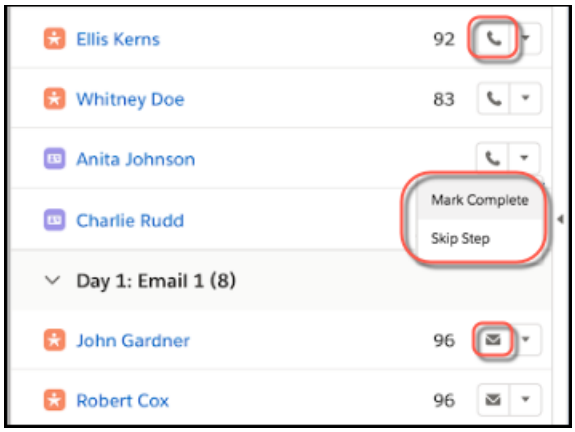
コンソールはナビゲーションしやすい 3 列レイアウトで構成され、強調表示パネル (1)、使い慣れたワークスペース (2)、便利な関連リスト (3) を含みます。分割ビューにより、営業担当はリストビューを表示しながらワークスペースタブとサブタブを表示できるため、1 つのワークスペースで必要なすべての情報を得ることができます。デフォルトのレイアウトは、会社のビジネスプロセスに合わせてカスタマイズできます。

営業担当はホーム (4) などのタブを固定して、便利なコンテンツに簡単にアクセスできます。ホームでは、作業キューに溜まっている作業の概要が営業担当に示されます。また、ユーザに応じて関連するレポートとダッシュボードを表示するようにホームをカスタマイズすることもできます。

ユーザは分割ビューで作業キュー (5) を使用して High Velocity Sales を最大限活用できます。リードまたは取引先責任者レコードを所有する営業担当は作業キューを使用してメール、通話、および ToDo の優先リストを表示します。これらの活動はセールスケイデンスによって定義され、営業マネージャによって作成されます。営業担当は、[私のリスト] から独自の 1 回限りの活動のリストに対処することもできます。

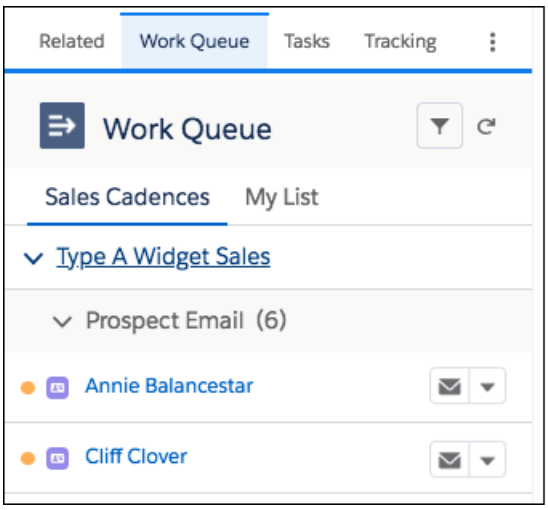


会社で Einstein リードスコアリングを使用している場合、作業キュー内のリードはリードスコアによって優先順位が付けられます。営業担当は、ビジネスにおけるリードの取引開始パターンに関する人工知能に基づいて、取引開始の可能性が最も高いリードに即座に対処できます。Einstein リードスコアリングが有効化されていない場合、レコードはアルファベット順に並び替えられます。



営業担当はアクションを作業キューから直接実行できます。電話アイコンをクリックして、コンソールから Lightning Dialer を起動できます。営業担当はメールアクションを使用してメールを送信できます。また、セールスケイデンスのステップにコールスクリプトとメールテンプレートを割り当てることで、営業担当は各アク

ションをさらに効率的に実行できます。ToDo の実行に作業キューを使用しない場合、営業担当はステップを手動で完了することもできます。また、関連のないステップはスキップできます。



コンポーネントをメールインテグレーションペインに追加すると、作業キューを Outlook および Gmail インテグレーションに表示することもできます。

High Velocity Sales には Einstein 活動キャプチャが含まれるため、関連するイベントとメールが Salesforce 内の関連するレコードに自動的に関連付けられます。営業担当はさまざまな活動を手動で記録することもできます。

方法: [設定] の [High Velocity Sales] ペインで機能を設定し、カスタマイズします。詳細は、「High Velocity Sales Implementation Guide (High Velocity Sales 実装ガイド)」を参照してください。

Sales Cloud Einstein: すべてのユーザの商談スコアリング、Einstein 活動キャプチャの大幅な改善、レポートの追加

Einstein 商談スコアリングは自動でオンになっており、すべてのユーザが使用できます。Einstein 活動キャプチャには、同期機能、拡張された共有、改善された総計値が追加されています。取引先インサイト、商談インサイト、および自動取引先責任者はレポートとダッシュボードで利用できます。

メモ: 一部のサービスおよびサブスクリプションでは、この機能が有料オプションで用意されています。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

Einstein 商談スコアリング: スコアをより多くのユーザと場所に提供
Einstein 商談スコアリングが有効になり、より多くのユーザに提供されます。さらに、商談スコアが [最近参照したデータ] 商談リストビューに表示されます。

Einstein 活動キャプチャ: 同期機能、拡張された共有、および改善された総計値によって次のレベルへ
取引先責任者と行動を同期します。Einstein 活動キャプチャを使用しない同僚と活動を共有します。活動総計値と改善された Activities ダッシュボードを使用して、活動に対する理解を深めることができます。また、Einstein メールインサイトと推奨コネクションをさらに活用できます。

Einstein インサイト: インサイトに基づくレポートの作成

取引先インサイトと商談インサイトに関連するレポートとダッシュボードを作成できるようになりました。たとえば、特定の取引先または商談に関するすべてのインサイトを表示するレポートを実行して、顧客についての理解を深めます。

Einstein 自動取引先責任者: 提案に基づくレポートの作成

取引先責任者の提案および取引先責任者の役割の提案に関連するレポートとダッシュボードを作成できます。たとえば、レポートを使用して、Einstein がどの提案を Salesforce のどの取引先に追加したかをすばやく参照できます。

関連トピック:

エンゲージメントアクティビティでのプロスペクトのスコアリング

Einstein 商談スコアリング: スコアをより多くのユーザと場所に提供

Einstein 商談スコアリングが有効になり、より多くのユーザに提供されます。さらに、商談スコアが [最近参照したデータ] 商談リストビューに表示されます。

このセクションの内容:

より多くのユーザに商談スコアを提供

すべてのユーザが商談に優先度を付けて、商談成立数を増やせるようになりました。1 つ以上の Sales Cloud Einstein ライセンスがある場合、会社のすべての Salesforce ユーザに対して Einstein 商談スコアリングが有効になります。Sales Cloud Einstein ライセンスが割り当てられたユーザにはすべての商談でスコアが表示されますが、その他のユーザでは、スコアを表示する商談の数が制限されます。

より多くの場所に商談スコアを表示

商談の [最近参照したデータ] リストビューがテーブルとして表示される場合、そのリストビューに商談スコアが表示されるようになりました。このため、営業担当は商談の優先リストから数クリックで作業できます。

より多くのユーザに商談スコアを提供

すべてのユーザが商談に優先度を付けて、商談成立数を増やせるようになりました。1 つ以上の Sales Cloud Einstein ライセンスがある場合、会社のすべての Salesforce ユーザに対して Einstein 商談スコアリングが有効になります。Sales Cloud Einstein ライセンスが割り当てられたユーザにはすべての商談でスコアが表示されますが、その他のユーザでは、スコアを表示する商談の数が制限されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

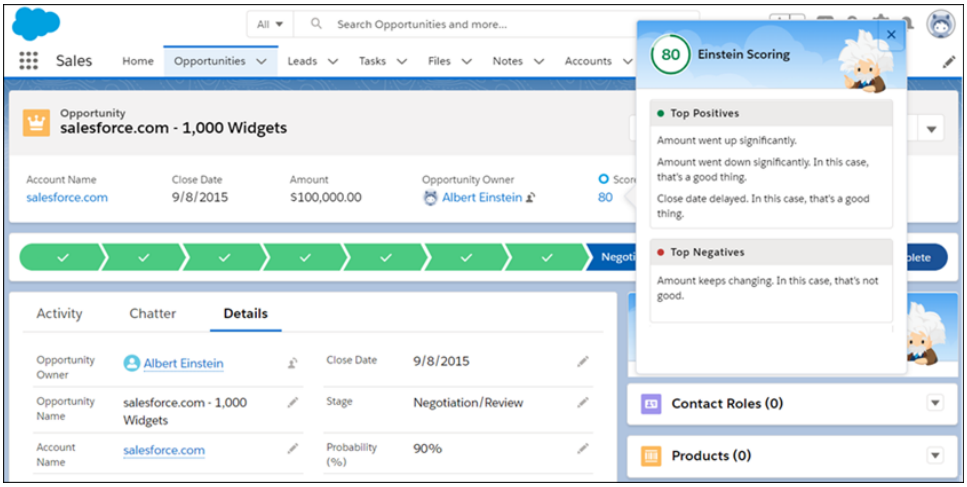
時期: リリース後の少なくとも 30 日間、変更はありません。正確な時期とオプトアウトの詳細について、Salesforce からの追加の連絡を見逃さないようにしてください。

対象ユーザ: Einstein 商談スコアリングをすでに使用している場合、ライセンスのないユーザに商談スコアへのアクセス権を付与するかどうかにかかわらず、Sales Cloud Einstein ライセンスを持っているユーザに変更はありません。

この変更によりプラスの影響が確実に与えられるようにするため、会社が次のいずれかの条件に該当する場合、すべてのユーザに対する Einstein 商談スコアリングは有効化されません。

- Einstein 商談スコアリングの最小データ要件を満たしていない
- 機能を自動的に有効化しないように選択している
- Salesforce 組織のデータをコピーしないように選択している

理由: すべての営業担当にスコアを提供することで、商談チーム全体で商談に優先順位を付けて、より多くの商談を成立できます。



関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

Salesforce ヘルプ: Einstein 商談スコアをすべてのユーザに表示するかどうかを管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

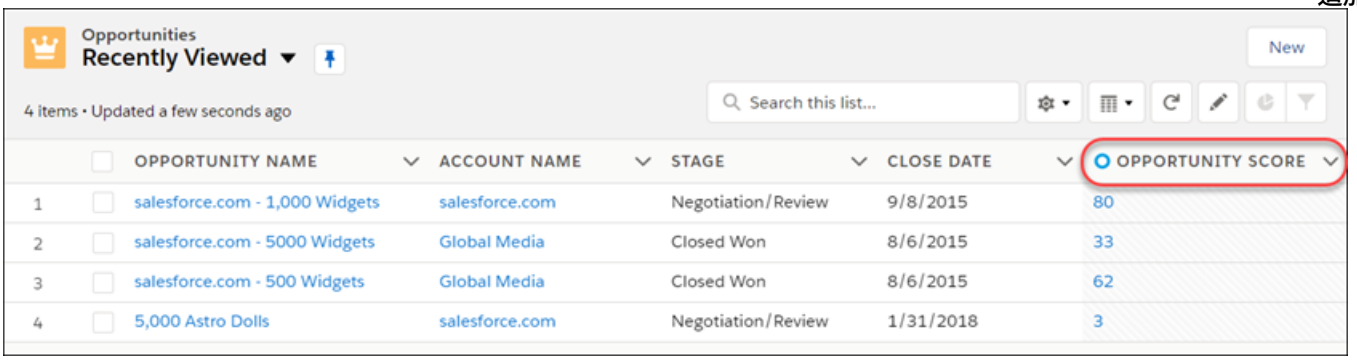
Salesforce ヘルプ: Einstein 商談スコアリング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より多くの場所に商談スコアを表示

商談の [最近参照したデータ] リストビューがテーブルとして表示される場合、そのリストビューに商談スコアが表示されるようになりました。このため、営業担当は商談の優先リストから数クリックで作業できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: デフォルトでは、[商談スコア] 項目は [最近参照したデータ] リストビューにあります。



関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

Salesforce ヘルプ: Einstein 商談スコアリング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein 活動キャプチャ: 同期機能、拡張された共有、および改善された総計値によって次のレベルへ

取引先責任者と行動を同期します。Einstein 活動キャプチャを使用しない同僚と活動を共有します。活動総計値と改善された Activities ダッシュボードを使用して、活動に対する理解を深めることができます。また、Einstein メールインサイトと推奨コネクションをさらに活用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Einstein 活動キャプチャ: 新しい同期機能、拡張された共有、改善された総計値、メールインサイトの機能強化

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

Einstein インサイト: インサイトに基づくレポートの作成

取引先インサイトと商談インサイトに関連するレポートとダッシュボードを作成できるようになりました。たとえば、特定の取引先または商談に関するすべてのインサイトを表示するレポートを実行して、顧客についての理解を深めます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 使用を開始するには、カスタムレポートタイプを作成します。商談インサイトに関するレポートを作成するには、[商談] を主オブジェクトとして使用し、[Einstein 商談インサイト] を第 2 オブジェクトとして使用します。取引先インサイトに関するレポートを作成するには、[取引先] を主オブジェクトとして使用し、[Einstein

取引先インサイト] を第 2 オブジェクトとして使用します。次に、必要なデータに焦点を絞るためのその他の条件を追加します。

次の制限に注意してください。

- 関連性がなくなったインサイトは Einstein コンポーネントから削除されるため、レポートに表示されなくなります。たとえば、見込み客とのコミュニケーションがないことに関するインサイトは、コミュニケーションが再確立されると削除されます。
- レポートは、インサイトが関連付けられているオブジェクトに対してのみ実行できます。ホームページに表示されているものに基づいてインサイトのレポートを実行することはできません。

関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

Einstein 自動取引先責任者: 提案に基づくレポートの作成

取引先責任者の提案および取引先責任者の役割の提案に関連するレポートとダッシュボードを作成できます。たとえば、レポートを使用して、Einstein がどの提案を Salesforce のどの取引先に追加したかをすばやく参照できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 使用を開始するには、カスタムレポートタイプを作成します。取引先責任者の提案に関するレポートを作成するには、[取引先] を主オブジェクトとして使用し、[Einstein 取引先責任者の提案] を第 2 オブジェクトとして使用します。取引先責任者の役割の提案に関するレポートを作成するには、[商談] を主オブジェクトとして使用し、[Einstein 取引先責任者の役割の提案] を第 2 オブジェクトとして使用します。次に、必要なデータに焦点を絞るためのその他の条件を追加します。

関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

中核的なセールス機能:売上予測の機能強化、テリトリー別の共有、取引先チームと商談チームの容易な管理

テリトリー別の商品ファミリの売上予測を含め、コラボレーション売上予測でより多くのオプションを使用できます。テリトリー別にレコード、フォルダ、リストビューへのアクセス権を付与します。取引先チームと商談チームをより少ないクリック操作で維持します。

このセクションの内容:

コラボレーション売上予測:テリトリー別の商品ファミリ売上予測、テリトリー売上予測の共有、拡大された売上予測範囲
商品ファミリ収益をテリトリー別に予測します。テリトリー売上予測を共有します。最大15か月間または会計期間の売上予測を表示します。

エンタープライズテリトリー管理: テリトリーベースの共有オプションとテリトリー売上予測の機能強化
共有は Spring '19 のテリトリー管理のキーワードです。テリトリーを使用して、レコード、レポートおよびダッシュボードフォルダ、リストビューへのアクセスレベルを定義します。テリトリーに基づいて公開グループとキューを作成できます。商品ファミリ収益をテリトリー別に予測します。また、テリトリー売上予測を共有できます。

取引先: 取引先チームの削除、新しい所有者への関連レコードの転送
Lightning Experience で、取引先担当者は取引先チーム全体を 1 回のクリックで削除できます。また、担当者が取引先を別の担当者に転送すると、より多くの関連レコードも一緒に転送されます。

商談: Lightning Experience でのチームの削除
営業担当がチームセリングの方法を使用していない場合、商談所有者は商談チーム全体を 1 回のクリックで削除できます。以前は、チームのメンバーを 1 人ずつ削除する必要がありました。

中核的なセールス機能のその他の変更
カスタマイザブル売上予測および元のテリトリー管理機能は廃止される予定です。また、商談の商品セレクタが拡張されています。

コラボレーション売上予測: テリトリー別の商品ファミリ売上予測、テリトリー売上予測の共有、拡大された売上予測範囲

商品ファミリ収益をテリトリー別に予測します。テリトリー売上予測を共有します。最大 15 か月間または会計期間の売上予測を表示します。

このセクションの内容:

商品ファミリの売上予測をテリトリー別に取得
営業チームは商品ファミリ収益をテリトリー別に予測できるようになったため、売上予測をより明確に把握できます。たとえば、カナダでのソフトウェアの販売がどの程度好調であるかや、アリゾナでどの商品ファミリの販売が停滞しているかを確認できます。以前は、テリトリー売上予測は商談収益売上予測でのみ利用できました。

テリトリー売上予測の機能の共有
売上予測マネージャはテリトリー売上予測を会社の任意の Salesforce ユーザと共有できるようになりました。売上予測を参照、調整し、売上予測に関するレポートを作成する必要があるすべてのユーザが、共有によってそれらを確実に実行できます。以前は、テリトリー売上予測以外のすべての売上予測種別で共有を使用できました。テリトリー売上予測が設定されている場合、この機能強化を得るための必要な手順はありません。

売上予測の対象期間の拡大

チームは 15 か月またはカスタム会計期間の売上予測を一目で確認する必要がありますか? 今回のリリースでそれが可能になりました。以前の制限は 12 か月でした。四半期別売上予測の場合、制限は引き続き 8 か月です。

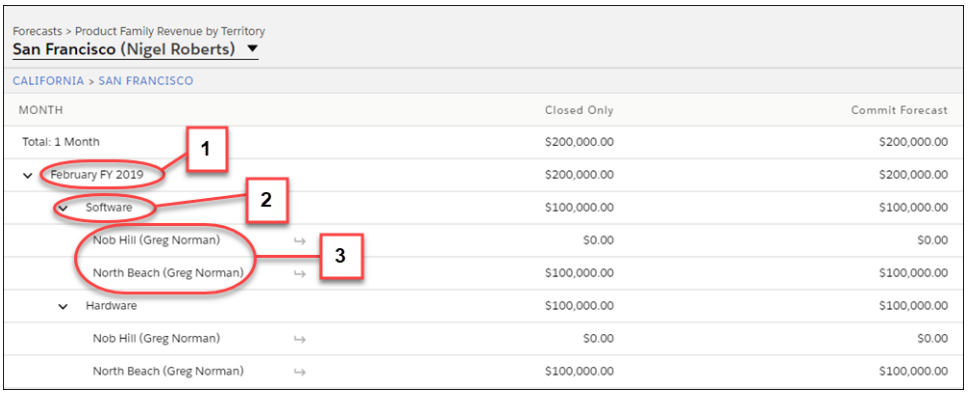
商品ファミリの売上予測をテリトリー別に取得

営業チームは商品ファミリ収益をテリトリー別に予測できるようになったため、売上予測をより明確に把握できます。たとえば、カナダでのソフトウェアの販売がどの程度好調であるかや、アリゾナでどの商品ファミリの販売が停滞しているかを確認できます。以前は、テリトリー売上予測は商談収益売上予測でのみ利用できました。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

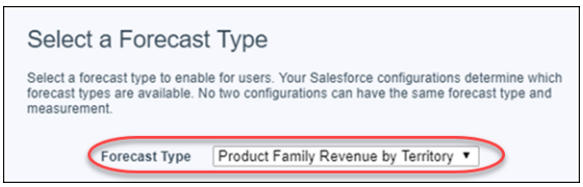
対象ユーザ: エンタープライズテリトリー管理が有効になっている場合、売り上げ予測ユーザは商品ファミリ収益をテリトリー別に予測できます。

理由: 売上予測ページでは、テリトリーの商品ファミリの売上予測の体系が示されます。



ユーザは、商品ファミリ (2) で分割された、期間 (1) の金額を参照します。商品ファミリはさらにテリトリー (3) で分割されます。

方法: 会社のビジネスニーズを反映するように、有効なテリトリーモデルと商品ファミリーが設定されていることを確認します。次に、[設定] の [売上予測の設定] ページで、[テリトリー別商品ファミリ収益] 売上予測種別を追加します。



有効化されている他の商品ファミリ売上予測種別がない場合、売上予測ページに表示する商品ファミリと、その表示順序を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Territory Forecasts (テリトリー売上予測) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Enable and Set Up Territory Forecasts (テリトリー売上予測の有効化および設定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測の売上予測種別の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

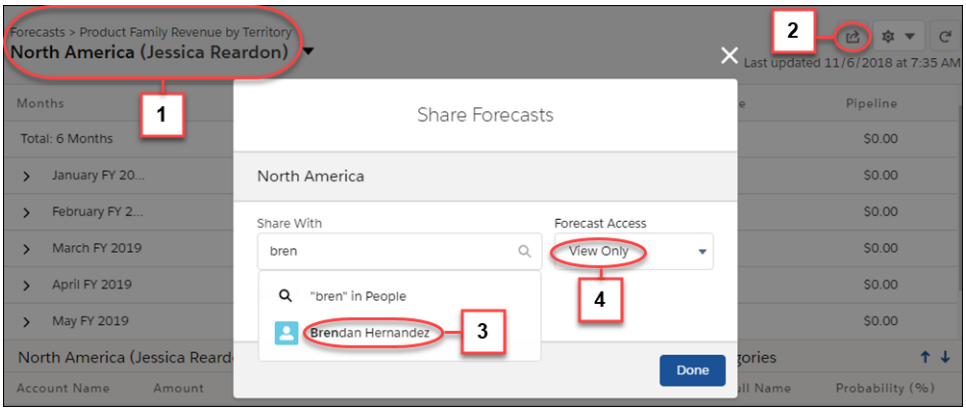
テリトリー売上予測の機能の共有

売上予測マネージャはテリトリー売上予測を会社の任意の Salesforce ユーザと共有できるようになりました。売上予測を参照、調整し、売上予測に関するレポートを作成する必要があるすべてのユーザが、共有によってそれらを確実に実行できます。以前は、テリトリー売上予測以外のすべての売上予測種別で共有を使用できました。テリトリー売上予測が設定されている場合、この機能強化を得るための必要な手順はありません。

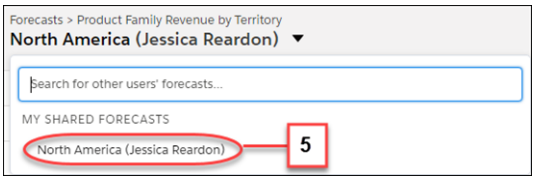
対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: テリトリーに割り当てられた売上予測マネージャは自分のテリトリー売上予測を共有できます。

理由: テリトリー売上予測を容易に共有できることを次の例で示します。



売上予測マネージャの Jessica は売上予測ページで自分のテリトリー売上予測 (1) を参照します。共有ボタン (2) をクリックして、Brendan を共有先 (3) として選択します。これで Brendan は Jessica のテリトリー売上予測を参照 (4) できます。ただし、調整はできません。



Jessica が共有した売上予測を表示するには、Brendan は売上予測ページで [私の共有売上予測] リストから売上予測を選択します (5)。

関連トピック:

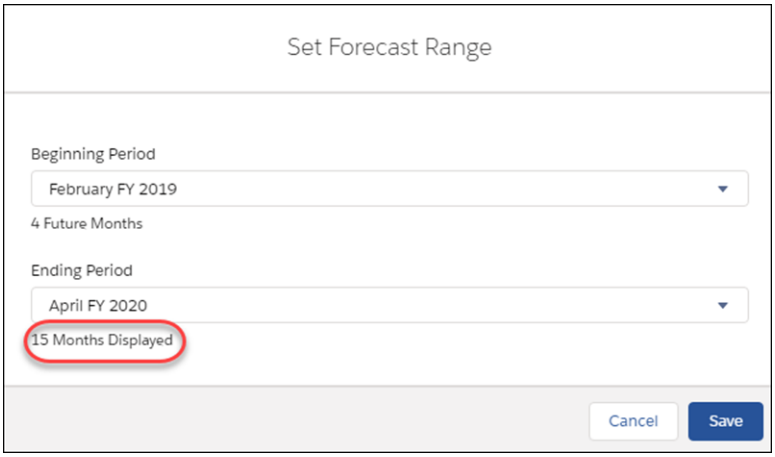
Salesforce ヘルプ: Share Forecasts and Manage Shared Forecasts (売上予測の共有および共有した売上予測の管理) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

売上予測の対象期間の拡大

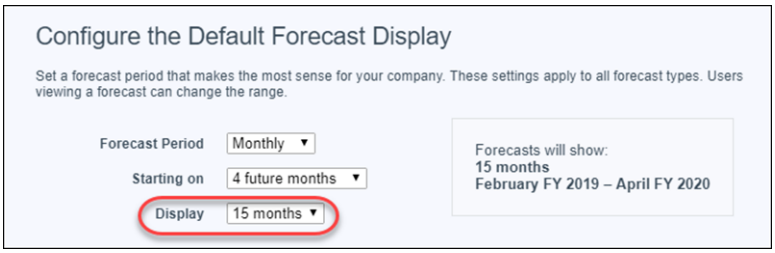
チームは 15 か月またはカスタム会計期間の売上予測を一目で確認する必要がありますか? 今回のリリースでそれが可能になりました。以前の制限は 12 か月でした。四半期別売上予測の場合、制限は引き続き 8 か月です。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 売上予測ページの [表示設定] で、売上予測ユーザはより広範な売上予測範囲を設定できます。



方法: この機能強化をチームに提供するために必要な手順はありません。デフォルトの売上予測期間を拡大するには、[設定] の [売上予測の設定] ページで月数または期間数を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コラボレーション売上予測の日付範囲表示の変更 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 会社の売上予測日付範囲の定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エンタープライズテリトリー管理: テリトリーベースの共有オプションとテリトリー売上予測の機能強化

共有はSpring'19のテリトリー管理のキーワードです。テリトリーを使用して、レコード、レポートおよびダッシュボードフォルダ、リストビューへのアクセスレベルを定義します。テリトリーに基づいて公開グループとキューを作成できます。商品ファミリ収益をテリトリー別に予測します。また、テリトリー売上予測を共有できます。

このセクションの内容:

テリトリー別のレコード、レポートおよびダッシュボードフォルダ、リストビューへのアクセス権の付与
テリトリー割り当てに基づいたグループおよびキューへの営業担当の追加
テリトリー別の個々のレコードの共有
エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新)
テリトリーの商品ファミリ収益売上予測の取得
テリトリー売上予測の共有

テリトリー別のレコード、レポートおよびダッシュボードフォルダ、リストビューへのアクセス権の付与

共有ルールにより、ユーザは組織の共有設定よりも幅広いアクセス権をユーザグループに付与できます。営業担当は、テリトリーに割り当てられたユーザに基づいて共有ルールを定義できるようになりました。たとえば、商談は非公開のままで、カリフォルニアの営業担当がオレゴンの営業担当に割り当てられた商談を参照および編集できるようにします。レポートフォルダ、ダッシュボードフォルダ、リストビューをテリトリー別に共有することもできます。

テリトリー割り当てに基づいたグループおよびキューへの営業担当の追加

数回のクリックだけで、特定のテリトリーに割り当てられたすべての営業担当をグループまたはキューに追加できるようになりました。たとえば、フロリダのすべての営業担当を東海岸の公開グループに追加できます。営業担当を1人ずつ追加するよりも高速で、ユーザのグルーピングが冗長になることを避けることができます。

テリトリー別の個々のレコードの共有

Salesforce Classicで、営業担当は所有するレコードをテリトリーに割り当てられたユーザと共有できます。この共有方法により、ユーザは組織の共有設定よりも幅広いアクセス権をレコードに付与できます。たとえば、チームの商談が非公開の場合に、カリフォルニアに割り当てられた営業担当は協力して商談に取り組んでいるため、商談を同僚と共有できるようにします。

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新)

この更新により、AccountShareレコードの`TerritoryManual`理由コードが`Territory2AssociationManual`に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。本番環境で更新を有効化してから変更が表示されるまで最大2週間かかる場合があります。

テリトリーの商品ファミリ収益売上予測の取得

チームがコラボレーション売上予測を使用している場合、テリトリーの商品ファミリ収益売上予測を表示できるようになりました。たとえば、どのテリトリーがソフトウェアの商談から最も大きな収益をもたらしているかを表示したり、どの商品ファミリがカナダで最も売れているかを表示したりできます。

テリトリー売上予測の共有

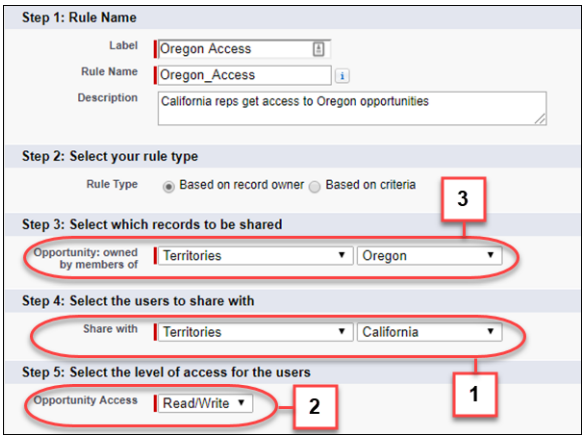
チームがコラボレーション売上予測を使用している場合、売上予測マネージャはテリトリー売上予測を会社のSalesforceユーザと共有できるようになりました。売上予測の共有により、マネージャが共有する売上予測を参照、調整し、売上予測に関するレポートを作成する必要のあるすべての人が、それを確実にできるようになります。

テリトリー別のレコード、レポートおよびダッシュボードフォルダ、リストビューへのアクセス権の付与

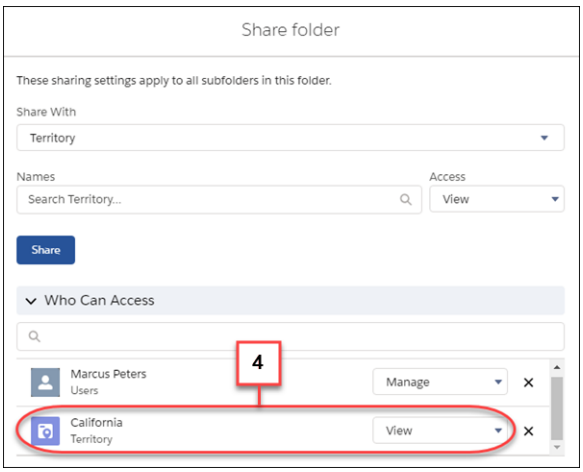
共有ルールにより、ユーザは組織の共有設定よりも幅広いアクセス権をユーザグループに付与できます。営業担当は、テリトリーに割り当てられたユーザに基づいて共有ルールを定義できるようになりました。たとえば、商談は非公開のままで、カリフォルニアの営業担当がオレゴンの営業担当に割り当てられた商談を参照および編集できるようにします。レポートフォルダ、ダッシュボードフォルダ、リストビューをテリトリー別に共有することもできます。

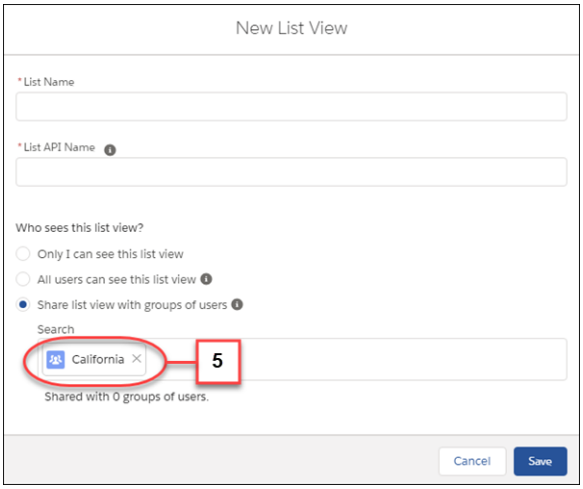
対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で、[共有設定] の共有ルールを作成するときに、[テリトリー] または [テリトリーおよび下位テリトリー] を選択します。次に、テリトリーを指定します。使用できるのは、有効なテリトリーモデルのテリトリーのみです。



この共有ルールは、カリフォルニアの営業担当 (1) にオレゴンの営業担当 (3) が所有する商談への「参照・更新」アクセス権 (2) を付与します。





レポートフォルダ (4)、ダッシュボードフォルダ、リストビュー (5) を共有する場合も同様のプロセスを実行します。

関連トピック:

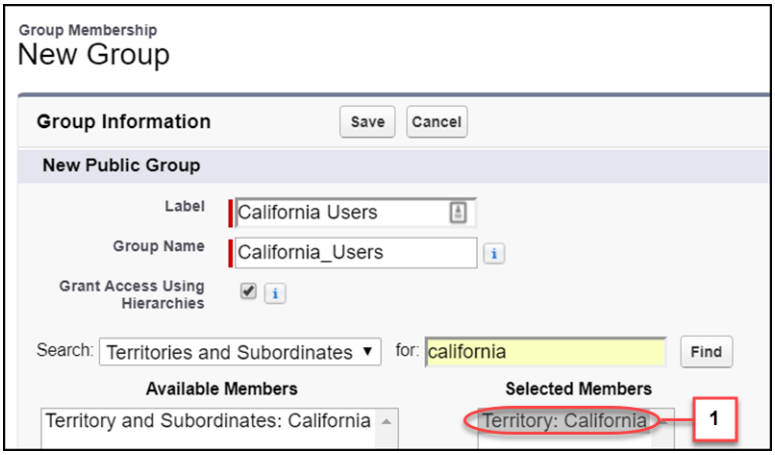
- デモ: Who Sees What: Record Access via Sharing Rules (Who Sees What: 共有ルールによるレコードアクセス) (英語のみ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 共有ルール (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience でのレポートフォルダまたはダッシュボードフォルダの共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Salesforce Classic でのレポートフォルダまたはダッシュボードフォルダの共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience のリストビューの作成またはコピー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Salesforce Classic でのカスタムリストビューの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

テリトリー割り当てに基づいたグループおよびキューへの営業担当の追加

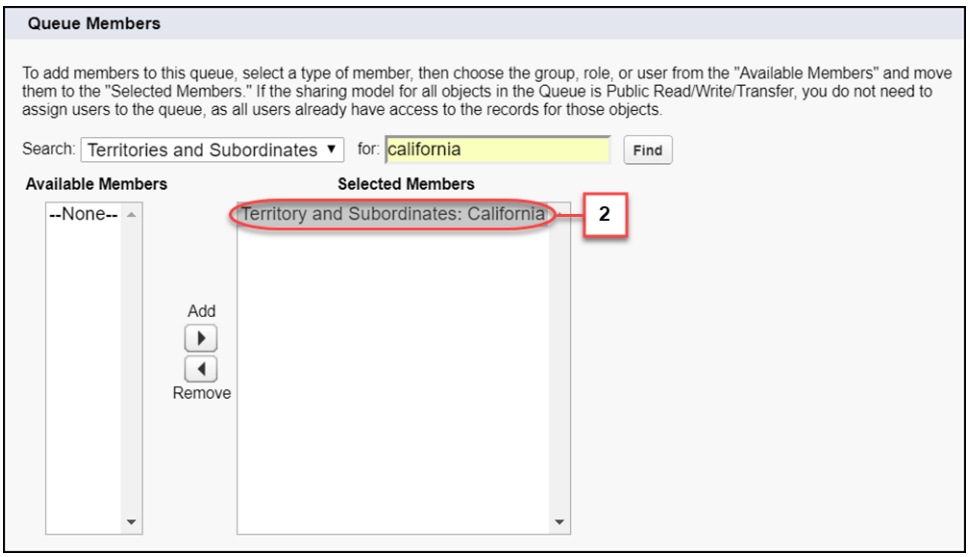
数回のクリックだけで、特定のテリトリーに割り当てられたすべての営業担当をグループまたはキューに追加できるようになりました。たとえば、フロリダのすべての営業担当を東海岸の公開グループに追加できます。営業担当を 1 人ずつ追加するよりも高速で、ユーザのグルーピングが冗長になることを避けることができます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で、グループまたはキューを作成または編集するときに、[テリトリー] または [テリトリーおよび下位テリトリー] を選択します。



次に、グループ (1) またはキュー (2) に追加するテリトリーを選択します。使用できるのは、有効なテリトリーモデルのテリトリーのみです。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: グループとは? (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

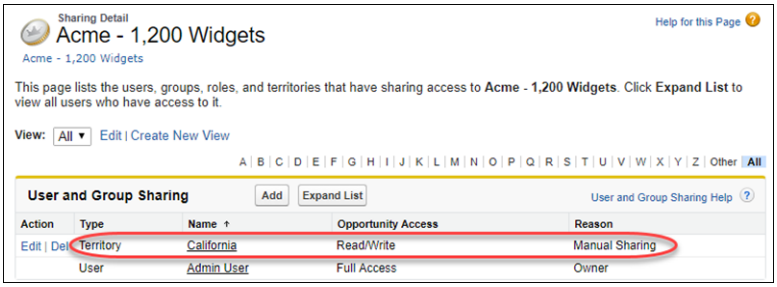
Salesforce ヘルプ:キューの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

テリトリー別の個々のレコードの共有

Salesforce Classic で、営業担当は所有するレコードをテリトリーに割り当てられたユーザと共有できます。この共有方法により、ユーザは組織の共有設定よりも幅広いアクセス権をレコードに付与できます。たとえば、チームの商談が非公開の場合に、カリフォルニアに割り当てられた営業担当は協力して商談に取り組んでいるため、商談を同僚と共有できるようにします。

対象: この機能は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic で使用できます。

理由: レコードを共有するときに、営業担当は [テリトリー] または [テリトリーおよび下位テリトリー] を選択できるようになりました。使用できるのは、有効なテリトリーモデルのテリトリーのみです。



方法: 営業担当がテリトリー別に取引先レコードを共有できるようにするには、エンタープライズテリトリー管理で取引先の手動共有を有効化する重要な更新を有効にします。営業担当がテリトリー別に他のレコードタイプを共有するために必要な設定はありません。

関連トピック:

- エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新)
- *Salesforce* ヘルプ:レコードへのアクセスの許可 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:取引先の共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- お客様のご要望

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新)

この更新により、AccountShare レコードの `TerritoryManual` 理由コードが `Territory2AssociationManual` に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。本番環境で更新を有効化してから変更が表示されるまで最大 2 週間かかる場合があります。

対象: この更新は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は Spring '19 で有効化できます。この更新は 2019 年 10 月 30 日に自動的に有効化されます。

理由: Winter '19 以前:

- 取引先をテリトリーに手動で割り当てたときに、`TerritoryManual` 理由コードが AccountShare レコードに書き込まれていました。
- 取引先をテリトリーグループと手動で共有することはできませんでした。

この更新が有効化されている場合:

- すべての `TerritoryManual` インスタンスが `Territory2AssociationManual` 理由コードに置き換えられます。
- 取引先をテリトリーに手動で割り当てたときに、`Territory2AssociationManual` 理由コードが AccountShare レコードに書き込まれます。
- 取引先をテリトリーグループと手動で共有できます。

方法: この更新を Sandbox または Developer Edition 組織でテストしてから、本番組織で有効にすることをお勧めします。この更新を有効にするには、[設定] で [重要な更新] に移動し、[エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化] の横にある [有効化] をクリックします。更新を有効化すると無効化できません。

AccountShare オブジェクトを直接操作する Apex コードまたはインテグレーションがある場合、`TerritoryManual` 理由コードのすべてのインスタンスを `Territory2AssociationManual` に更新してください。

関連トピック:

テリトリー別の個々のレコードの共有

テリトリーの商品ファミリ収益売上予測の取得

チームがコラボレーション売上予測を使用している場合、テリトリーの商品ファミリ収益売上予測を表示できるようになりました。たとえば、どのテリトリーがソフトウェアの商談から最も大きな収益をもたらしているかを表示したり、どの商品ファミリがカナダで最も売れているかを表示したりできます。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

商品ファミリの売上予測をテリトリー別に取得

テリトリー売上予測の共有

チームがコラボレーション売上予測を使用している場合、売上予測マネージャはテリトリー売上予測を会社の Salesforce ユーザと共有できるようになりました。売上予測の共有により、マネージャが共有する売上予測を参照、調整し、売上予測に関するレポートを作成する必要のあるすべての人が、それを確実にできるようになります。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

テリトリー売上予測の機能の共有

取引先: 取引先チームの削除、新しい所有者への関連レコードの転送

Lightning Experience で、取引先担当者は取引先チーム全体を 1 回のクリックで削除できます。また、担当者が取引先を別の担当者に転送すると、より多くの関連レコードも一緒に転送されます。

このセクションの内容:

Lightning Experience での取引先チームの削除

取引先チームが必要でない場合、取引先所有者はチーム全体を 1 回のクリックで削除できます。以前は、チームのメンバーを 1 人ずつ削除する必要がありました。

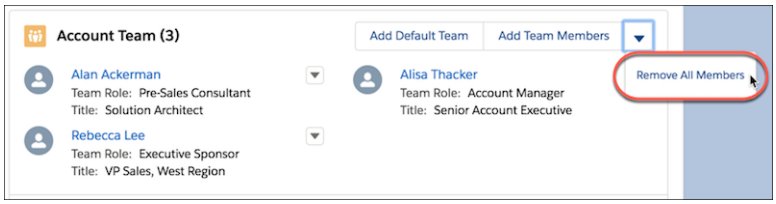
Lightning Experience で取引先を転送する場合により多くの関連レコードを保持
取引先担当者が取引先を別の所有者に転送すると、新しい所有者に必要とされるより多くの履歴情報も転送されます。

Lightning Experience での取引先チームの削除

取引先チームが必要でない場合、取引先所有者はチーム全体を1回のクリックで削除できます。以前は、チームのメンバーを 1 人ずつ削除する必要がありました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: チームを削除するには、[取引先チーム] 関連リストで [すべてのメンバーを削除] を選択します。



関連トピック:

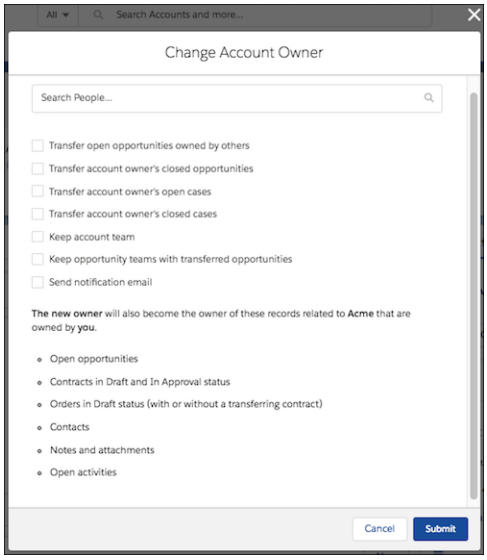
Salesforce アプリケーションを使用して取引先および商談レコードを削除

Lightning Experience で取引先を転送する場合により多くの関連レコードを保持

取引先担当者が取引先を別の所有者に転送すると、新しい所有者に必要とされるより多くの履歴情報も転送されます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 取引先所有者は、所有している商談や、オープンケースとクローズケースを転送できます。転送される商談に関連する取引先チームと商談チームを保持または削除できます。



関連トピック:

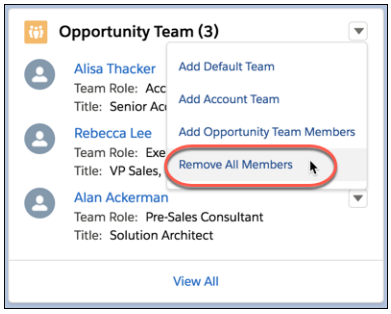
Salesforce アプリケーションを使用して取引先を転送するときに維持できる関連レコードの増加

商談: Lightning Experience でのチームの削除

営業担当がチームセリングの方法を使用していない場合、商談所有者は商談チーム全体を1回のクリックで削除できます。以前は、チームのメンバーを 1 人ずつ削除する必要がありました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: チームを削除するには、[商談チーム] 関連リストで [すべてのメンバーを削除] を選択します。



関連トピック:

Salesforce アプリケーションを使用して取引先および商談レコードを削除

中核的なセールス機能のその他の変更

カスタマイザブル売上予測および元のテリトリー管理機能は廃止される予定です。また、商談の商品セレクタが拡張されています。

このセクションの内容:

カスタマイザブル売上予測の廃止
カスタマイザブル売上予測は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザはカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

元のテリトリー管理の廃止
元のテリトリー管理機能は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

商品セレクタの機能強化
商談の商品セレクタは、営業担当が小さい画面で作業しやすいように改良されました。商談に商品を追加するときに、より多くの商品が営業担当の画面に表示され、選択した商品を 1 画面で確認できます。

カスタマイザブル売上予測の廃止

カスタマイザブル売上予測は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザはカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: コラボレーション売上予測の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。元のテリトリー管理機能を使用している場合も、エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

関連トピック:

- ナレッジ記事: カスタマイズ可能な売上予測を Summer '20 リリースで廃止
- 元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理機能は Summer '20 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法:エンタープライズテリトリー管理の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。カスタマイザブル売上予測を使用している場合も、コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

関連トピック:

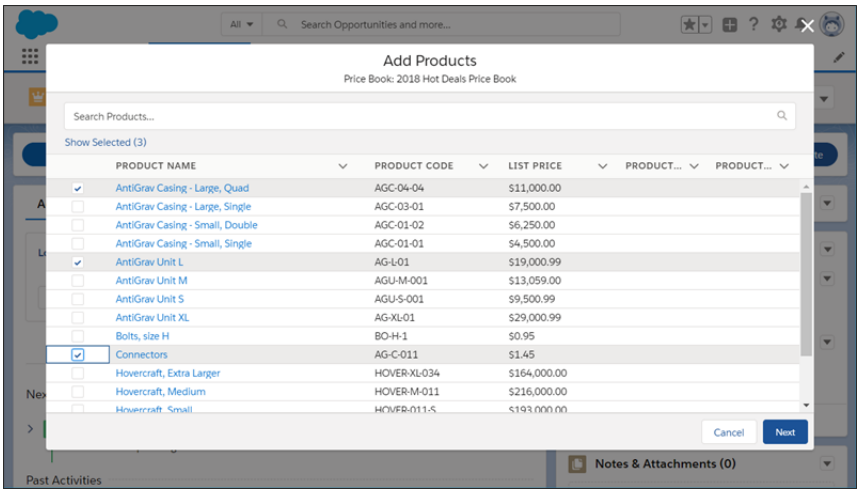
- ナレッジ記事:元のテリトリー管理モジュールを Summer '20 リリースで廃止
- カスタマイザブル売上予測の廃止

商品セレクタの機能強化

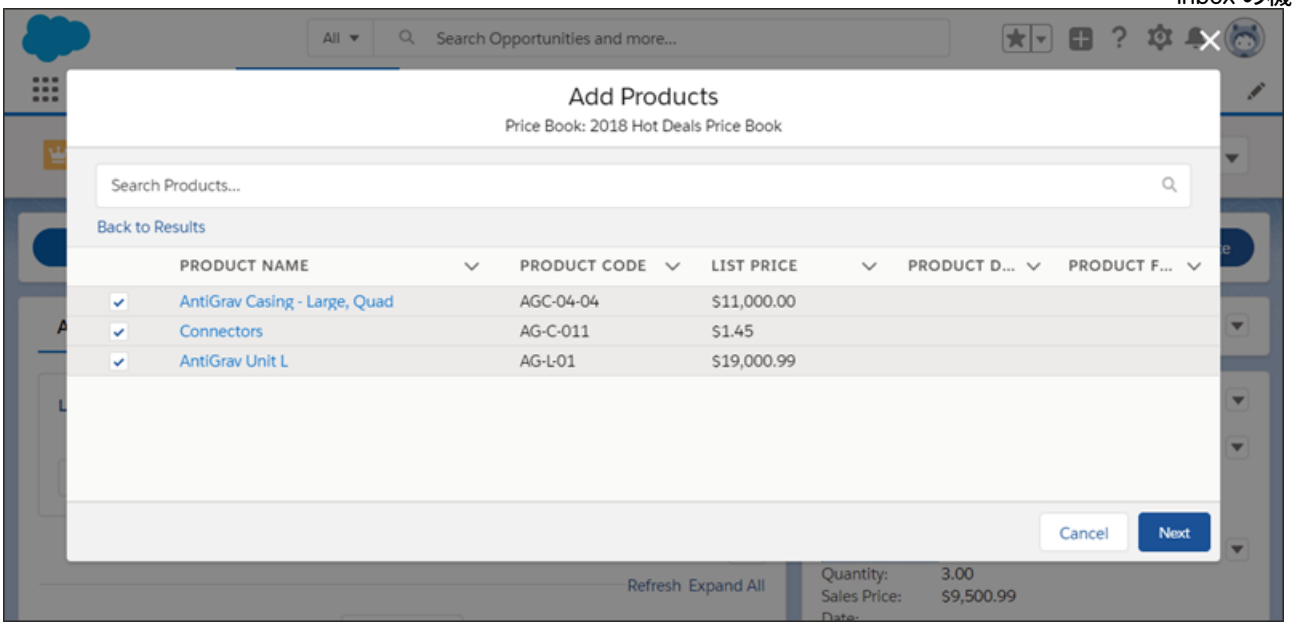
商談の商品セレクタは、営業担当が小さい画面で作業しやすいように改良されました。商談に商品を追加するときに、より多くの商品が営業担当の画面に表示され、選択した商品を 1 画面で確認できます。

対象:この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由:新しい商品セレクタは画面領域をより効率的に使用しているため、営業担当の生産性が向上します。集約されたリストから商品を選択するか、商品を検索して選択します。



[選択済みを表示]をクリックすると、選択した商品の詳細なリストが表示されます。追加する商品がリスト内にあることをすばやく確認するには、選択済みの商品を検索します。次のページに進んで選択内容を設定する前に商品を削除するには、その商品を選択解除します。



生産性機能: Einstein 活動キャプチャの改善、メールのプライバシーとテンプレートの管理の改善、Salesforce Inbox の機能強化

Einstein 活動キャプチャには、同期機能、拡張された共有、改善された総計値が追加されています。メールの受信に関する顧客の設定を遵守します。メールテンプレートをこれまで以上に適切に整理および共有します。また、Salesforce Inbox アプリケーションで Lightning Experience メールテンプレートと複合メールインサイトがサポートされます。

このセクションの内容:

Einstein 活動キャプチャ:新しい同期機能、拡張された共有、改善された総計値、メールインサイトの機能強化

取引先責任者と行動を同期します。Einstein 活動キャプチャを使用しない同僚と活動を共有します。活動総計値と改善された Activities ダッシュボードを使用して、活動に対する理解を深めることができます。また、Einstein メールインサイトと推奨コネクションをさらに活用できます。

メール操作環境: メールのプライバシーの適用の改善、営業以外のメールの送信機能、リストメール状況の詳細の追加、制限の拡張

メールの受信や受信したメールの追跡を拒否する顧客の設定を遵守します。営業担当が営業メールの受信をオプトアウトしたユーザにメールを送信する前に、アラートを表示します。営業以外のメールを顧客に送信する権限を営業担当に付与します。リストメールの受信者の状況に関する詳細を取得します。新しい組織では、より多くの種別のメールが日次外部メール制限にカウントされます。

メールテンプレート: フォルダ、共有、テンプレートのレポート

サブフォルダとネストされたフォルダを使用して、メールテンプレートを容易に整理できます。また、フォルダを使用して、メールテンプレートを適切なユーザと容易に共有することもできます。

活動と ToDo: 合理化された行動の作成と終了

ボタンをクリックするだけ ToDo を閉じることができます。また、ToDo に基づくフォローアップ行動も 1 回クリックするだけで作成できます。

Lightning Dialer: 各通話の結果の追跡

1 回のクリックで、営業担当は通話がつながったかどうかや、通話の状況を追跡できます。通話処置とも呼ばれるこの重要な情報は、Salesforce の通話ログと、関連レコードの活動タイムラインでキャプチャされます。

Salesforce Inbox アプリケーション: Lightning Experience テンプレート、Android 通知、複合メールインサイト

iOS および Android の Salesforce Inbox アプリケーションで、Lightning Experience テンプレートを使用します。Salesforce Inbox 通知が Android の通知カテゴリに接続されるようになったため、ユーザは受信する通知を選択できます。Salesforce Inbox アプリケーションで複合メールインサイトを使用できます。

メモ: メモ内の安全でない文字の削除

以前は、特定の HTML 文字 (単一引用符 (') など) が含まれるメモを保存できませんでした。この文字が原因でクロスサイトスクリプティング (XSS) 攻撃を受ける可能性があるためです。この面倒な処理を Salesforce が実行するようになりました。安全でない文字が自動的に削除され、メモが保存されます。

カレンダー: Lightning Experience での整理方法の追加

営業担当は、Lightning Experience と Salesforce アプリケーションで行動に必要なすべてのロジスティックスを管理できます。一連の行動が正式にリリースされ、より柔軟に一連の行動から行動を削除できるようになりました。グループカレンダーの行動の作成、リソースの予約、被招集者の簡単な追加など、より多くの行動のオプションを利用できます。また、ミーティングの関連ファイルを参照したりカレンダーを印刷したりして、行動の準備を整えることができます。

Einstein 活動キャプチャ: 新しい同期機能、拡張された共有、改善された総計値、メールインサイトの機能強化

取引先責任者と行動を同期します。Einstein 活動キャプチャを使用しない同僚と活動を共有します。活動総計値と改善された Activities ダッシュボードを使用して、活動に対する理解を深めることができます。また、Einstein メールインサイトと推奨コネクションをさらに活用できます。

このセクションの内容:

Einstein 活動キャプチャによる行動と取引先責任者の同期

この生産性向上機能は、メールと行動を、関連する Salesforce レコードに関連付けるだけではありません。Einstein 活動キャプチャで、営業担当の Google または Microsoft® アカウントと Salesforce 間で行動と取引先責任者が同期されるようになりました。すべてが取得されて同期されるため、営業担当は販売などのより重要な作業に集中できます。

Einstein 活動キャプチャを使用しないユーザとの活動の共有

Einstein 活動キャプチャユーザの共有設定が [全員と共有] に設定されている場合、あらゆるユーザと共有できます。以前のこの設定では、Einstein 活動キャプチャによってキャプチャされたメールと行動が他の Einstein 活動キャプチャユーザと共有されていました。この表示対象者の拡張により、営業担当はコラボレーションをより容易に行うことができます。

活動総計値で活動データに関する全体像を把握 (ベータ)

レポート、トリガ、リストビュー、ページレイアウトなどに活動総計値項目を含めると、手動および Einstein 活動キャプチャによって Salesforce に追加された活動がデータに反映されます。

Activities ダッシュボードをさらに活用

Activities ダッシュボードに要望の高かった変更が加えられただけでなく、配置と検索条件も改善されました。これらの改善により、必要なデータに簡単にアクセスできます。

Einstein 活動キャプチャからのメールの追跡

Einstein 活動キャプチャが関連 Salesforce レコードに追加するメールに追跡情報が含まれるようになったため、営業担当は受信者がメールを開封したかどうかと開封日を確認できます。活動タイムラインで追跡情報を取得します。

より多くの推奨コネクションを使用した対人スキルの向上

営業担当が参照できる推奨コネクション数が多いほど、ネットワーク内で取引関係を見つけることが容易になります。営業担当に表示されるコネクション数が 3 から 50 に増加したため、より簡単に同僚からアドバイスや紹介を受けることができます。

Einstein メールインサイト: 新しいインサイト、カスタムインサイトのより詳細な制御、可視性の向上

新しい標準インサイトで Einstein メールインサイトを新しいレベルに引き上げます。カスタムメールインサイトを使用する場合、インサイトを編集し、インサイトを組み合せることができます。また、Einstein 活動キャプチャを使用しない営業担当には、共有メールの標準メールインサイトが表示されます。

Sandbox での Einstein 活動キャプチャの使用

Einstein 活動キャプチャを Sandbox 環境で使用できます。設定が容易であることを確認し、営業担当が機能をどのように使用するかをプレビューしてください。

Einstein 活動キャプチャによる行動と取引先責任者の同期

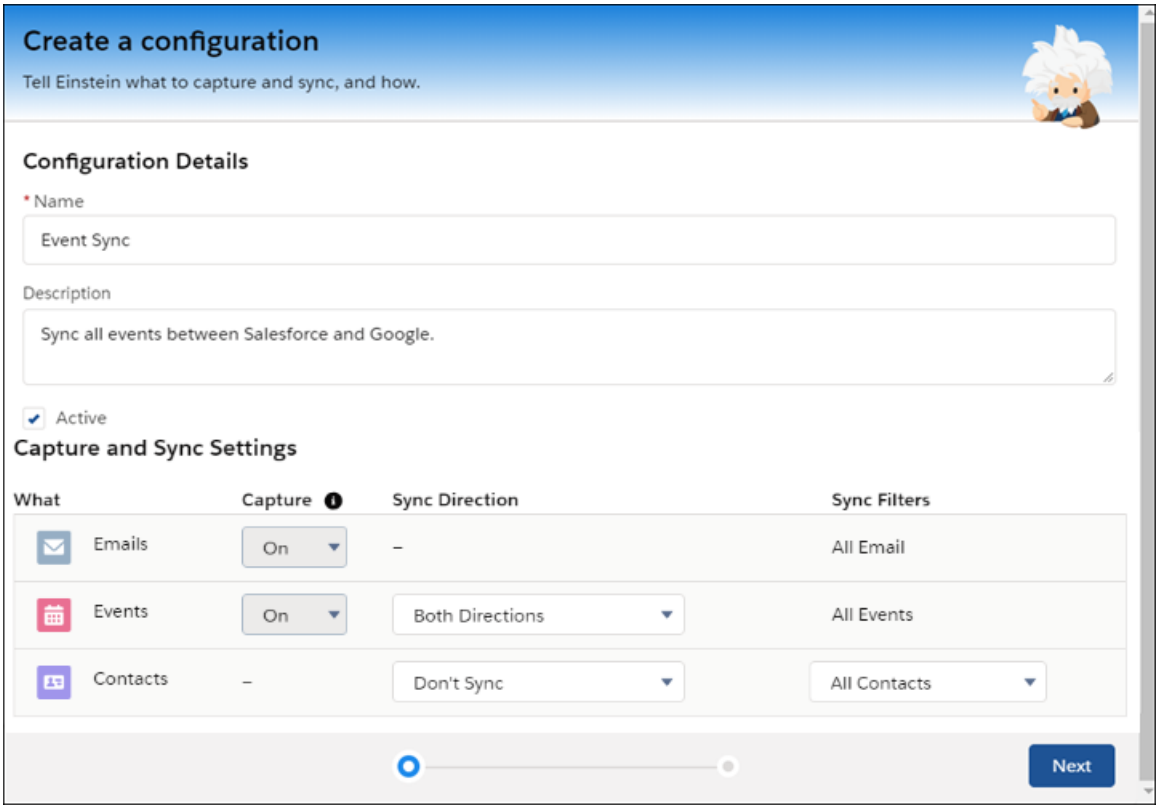
この生産性向上機能は、メールと行動を、関連する Salesforce レコードに関連付けるだけではありません。Einstein 活動キャプチャで、営業担当の Google または Microsoft® アカウントと Salesforce 間で行動と取引先責任者が同期されるようになりました。すべてが取得されて同期されるため、営業担当は販売などのより重要な作業に集中できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 次の条件を満たす Einstein 活動キャプチャユーザに対して同期が行われます。

- ユーザレコードのメールアカウントが Salesforce に接続されている。
- 同期を含む Einstein 活動キャプチャ設定に追加されている。

方法: [設定] から、[Einstein 活動キャプチャ] 設定ページに移動します。取引先責任者または行動を同期する設定を作成します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの設定の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein 活動キャプチャを使用しないユーザとの活動の共有

Einstein 活動キャプチャユーザの共有設定が [全員と共有] に設定されている場合、あらゆるユーザと共有できます。以前のこの設定では、Einstein 活動キャプチャによってキャプチャされたメールと行動が他の Einstein 活動キャプチャユーザと共有されていました。この表示対象者の拡張により、営業担当はコラボレーションをより容易に行うことができます。

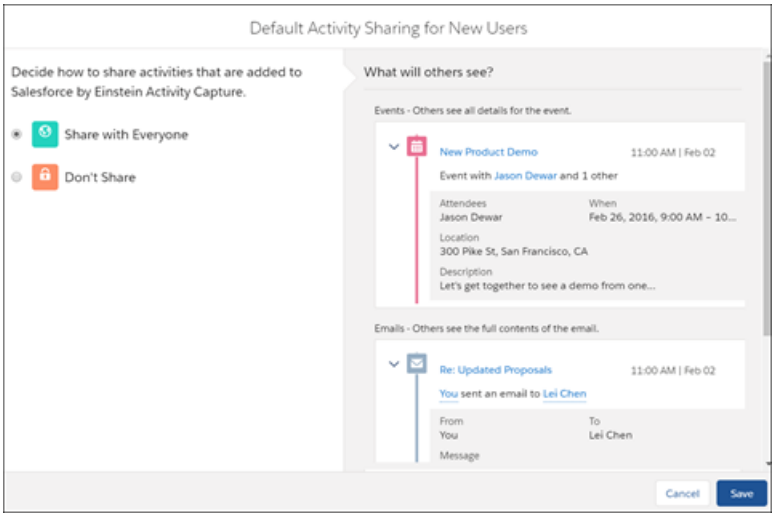
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Einstein 活動キャプチャを使用しない営業担当に、Einstein 活動キャプチャユーザと同様に活動を表示します。

- 共有された活動については、行動の詳細とメールの内容を活動タイムラインですべて参照できます。メールインサイト (ある場合) も参照できますが、インサイトからアクションを実行したり、インサイトについてフィードバックを残したりすることはできません。
- 非公開の活動については、行動の日付、時刻、および被招集者のみと、メールの送信者、受信者、および日付のみを活動タイムラインで参照できます。営業担当はフルアクセスをメールまたは行動から直接要求できます。

- Einstein 活動キャプチャユーザが活動を Chatter グループと共有すると、その共有がグループのすべてのメンバーに適用されるようになりました。

方法: この変更は自動的に適用されます。[Einstein 活動キャプチャ] 設定から新しい Einstein 活動キャプチャユーザのデフォルトの共有を設定できます。Einstein 活動キャプチャユーザは、個人設定と個々のメールまたは行動からいつでも活動の共有を変更できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャユーザのデフォルトの活動共有の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

活動総計値で活動データに関する全体像を把握 (ベータ)

レポート、トリガ、リストビュー、ページレイアウトなどに活動総計値項目を含めると、手動および Einstein 活動キャプチャによって Salesforce に追加された活動がデータに反映されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。ユーザは Salesforce Classic に戻って活動総計値を参照することもできます。

メモ: 活動総計値はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。活動総計値に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

対象ユーザ: ライセンスを持つ Einstein 活動キャプチャユーザが 1 人以上いる場合、活動総計値を使用できます。

理由: Einstein 活動キャプチャデータは Salesforce の外部に保存されるため、レポートやトリガなど、多くの Salesforce プラットフォーム機能では使用できません。活動総計値を使用すると、手動で管理することなく活動データが完全であることを確信できます。

方法: [Einstein 活動キャプチャ] 設定から、[活動総計値] を有効にします。データ量に応じて、活動総計値項目が使用できるようになるまで数時間かかることがあります。使用できるようになった時点で通知を送信します。

たとえば、[過去 7 日間の活動] 項目は、過去 7 日間に完了した活動の数を示します。トリガを使用して、過去 7 日間に完了した活動がない場合は商談所有者にメールを送信します。

関連トピック:

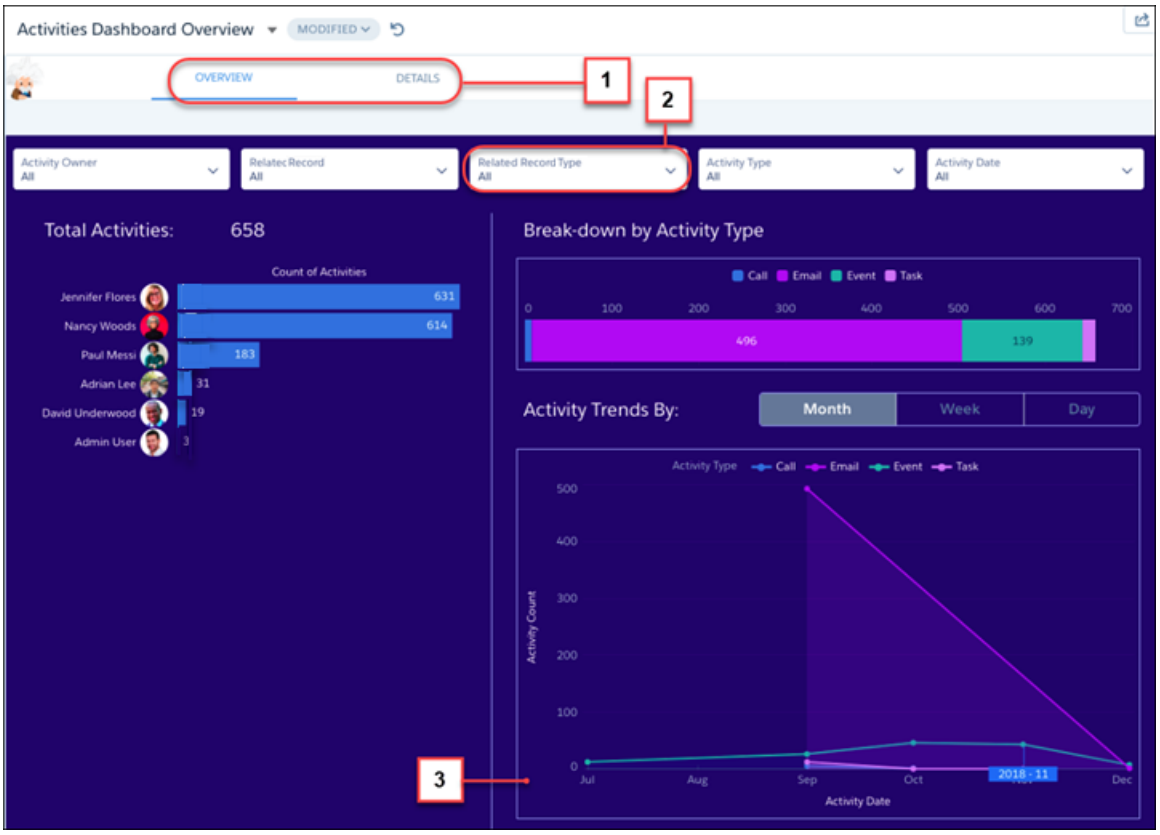
Salesforce ヘルプ: 活動総計値 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Activities ダッシュボードをさらに活用

Activities ダッシュボードに要望の高かった変更が加えられただけでなく、配置と検索条件も改善されました。これらの改善により、必要なデータに簡単にアクセスできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 更新された Activities ダッシュボードでは、次の点が強化されています。



- 各グラフがタブによって整理されます (1)。[概要] タブに元のグラフが含まれます。[詳細] タブには [取引先別の活動] と [商談別の活動] の 2 つの新規グラフが含まれ、営業担当は取引先および商談間で活動を比較できます。
- [関連レコードタイプ] 検索条件 (2) には、Einstein 活動キャプチャでサポートされるすべてのオブジェクトが含まれます。以前は、この検索条件には商談と見積のみが含まれていました。
- ダッシュボードに表示される活動データ (3) の量が 90 から 180 日に増加しました。この増加により、営業サイクルの長い会社は、サイクル全体で活動データを分析できます。この変更は、ライセンスを持つ Einstein 活動キャプチャユーザに適用され、Einstein 活動キャプチャの標準ユーザには適用されません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ユーザに Activities ダッシュボードへのアクセス権を付与 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein 活動キャプチャからのメールの追跡

Einstein 活動キャプチャが関連 Salesforce レコードに追加するメールに追跡情報が含まれるようになったため、営業担当は受信者がメールを開封したかどうかと開封日を確認できます。活動タイムラインで追跡情報を取得します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 会社のメール追跡情報の収集と表示を行うには、[メール追跡] を有効にします。

Lightning Experience では (Lightning Experience のみ)、個人のプライバシー設定を遵守しながらメール追跡の収集と表示を行うには、[データ保護とプライバシー] と [メールのプライバシー設定を適用] も有効にします。

関連トピック:

新しい設定を使用して送信除外設定と「追跡しない」設定を遵守

Salesforce ヘルプ: データ保護とプライバシー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 会社から送信したメールを開封したすべての顧客の追跡を有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

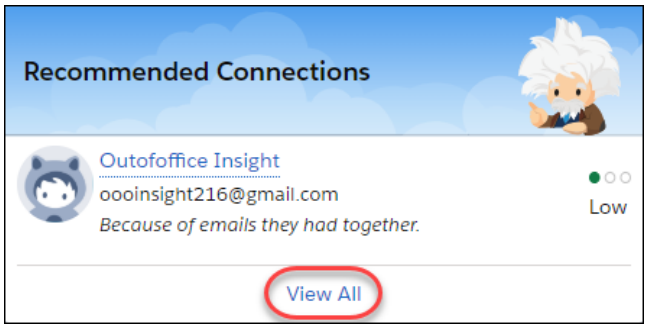
Salesforce ヘルプ: [メールのプライバシー設定を適用] 設定の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より多くの推奨コネクションを使用した対人スキルの向上

営業担当が参照できる推奨コネクション数が多いほど、ネットワーク内で取引関係を見つけることが容易になります。営業担当に表示されるコネクション数が 3 から 50 に増加したため、より簡単に同僚からアドバイスや紹介を受けることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [推奨コネクション] コンポーネントがページにすでに存在する場合、[すべて表示] ボタンが表示されます。[すべて表示] をクリックすると、最大 50 個の推奨コネクションが表示されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning ページへの推奨コネクションの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein メールインサイト: 新しいインサイト、カスタムインサイトのより詳細な制御、可視性の向上

新しい標準インサイトで Einstein メールインサイトを新しいレベルに引き上げます。カスタムメールインサイトを使用する場合、インサイトを編集し、インサイトを組み合せることができます。また、Einstein 活動キャプチャを使用しない営業担当には、共有メールの標準メールインサイトが表示されます。

このセクションの内容:

Einstein の新しい標準メールインサイトによる注意喚起

Einstein メールインサイトには、競合他社とエグゼクティブにメンションする重要なメールを営業担当が常に把握するために役立つ新しいインサイトがあります。

完璧になるまでカスタム Einstein メールインサイトを編集

役に立つカスタムメールインサイトの作成には慣れが必要です。インサイトをドラフトとして保存し、前のバージョンを保持しましょう。インサイトで使用するキーワードを編集できるようになりました。以前は、キーワードを追加できましたが、編集はできませんでした。役立つものと役立たないものを確認することで、メールインサイトを完璧にすることができます。

メールインサイトを組み合わせてメールをさらにスマートにする

2つ以上のカスタムインサイトを組み合わせて、さらにインテリジェントなメールインサイトを作成できるようになりました。たとえば、ゴルフに関するカスタムメールインサイトを [エグゼクティブ関与済み] インサイトに表示すると、会社が毎年スポンサーとなっている CEO ゴルフ大会に最適な候補者を見つけられる可能性があります。

標準 Einstein メールインサイトをすべてのユーザに表示

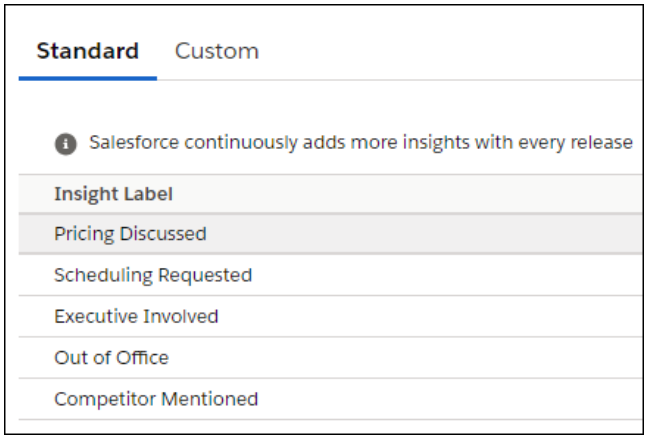
インサイトの豊富な情報を広めましょう。組織に有料の Einstein Activity Capture ライセンスが 1 つ以上ある場合、すべてのユーザは共有メールで標準およびカスタムメールインサイトを表示できます。

Einstein の新しい標準メールインサイトによる注意喚起

Einstein メールインサイトには、競合他社とエグゼクティブにメンションする重要なメールを営業担当が常に把握するために役立つ新しいインサイトがあります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用可能な、Salesforce Inbox モバイルアプリケーションの新機能でもあります。

対象ユーザ: Einstein 活動キャプチャの標準ユーザは、カスタム Einstein メールインサイトを使用できません。



関連トピック:

- 標準 Einstein メールインサイトをすべてのユーザに表示
- *Salesforce* ヘルプ: Einstein メールインサイトの有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

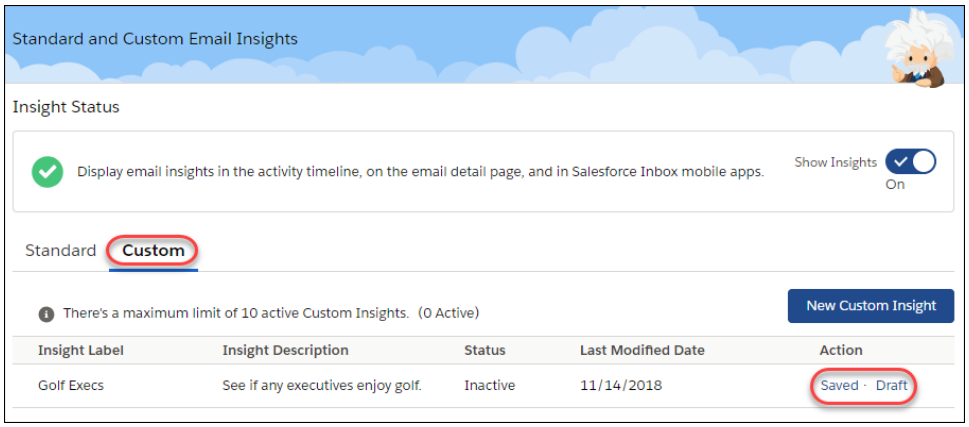
完璧になるまでカスタム Einstein メールインサイトを編集

役に立つカスタムメールインサイトの作成には慣れが必要です。インサイトをドラフトとして保存し、前のバージョンを保持しましょう。インサイトで使用するキーワードを編集できるようになりました。以前は、キーワードを追加できましたが、編集はできませんでした。役立つものと役立たないものを確認することで、メールインサイトを完璧にすることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限を持つ営業担当は、カスタムメールインサイトを作成および編集できます。Einstein 活動キャプチャの標準ユーザは、カスタム Einstein メールインサイトを使用できません。

理由: 現在のバージョンのカスタムメールインサイトと保存したドラフトにアクセスすることで、営業担当は既存の作業を失わずにインサイトを細かく調整し、インサイトを最も関連性の高い役立つ結果にすることができます。



関連トピック:

メールインサイトを組み合わせてメールをさらにスマートにする

Salesforce ヘルプ: カスタム Einstein メールインサイトの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

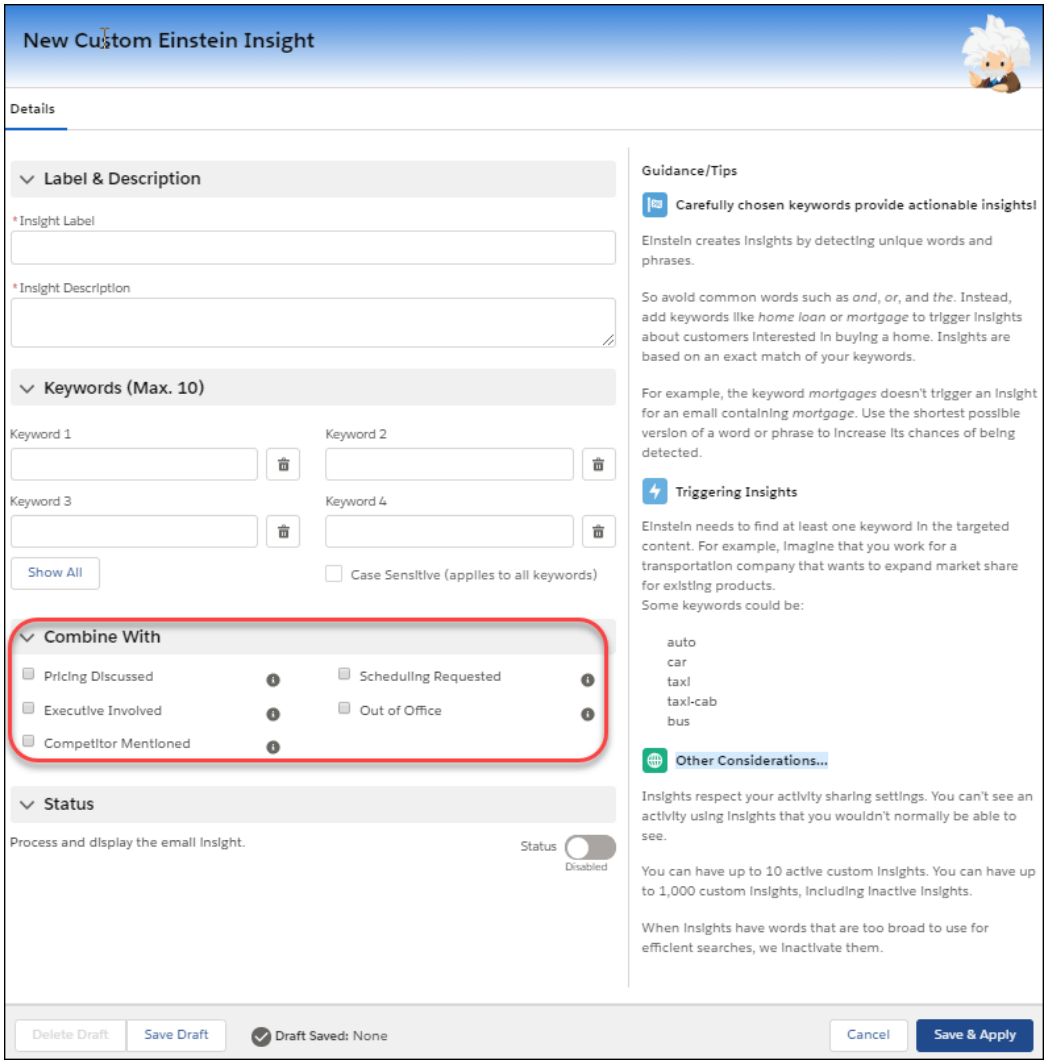
メールインサイトを組み合わせてメールをさらにスマートにする

2 つ以上のカスタムインサイトを組み合わせて、さらにインテリジェントなメールインサイトを作成できるようになりました。たとえば、ゴルフに関するカスタムメールインサイトを [エグゼクティブ関与済み] インサイトに表示すると、会社が毎年スポンサーとなっている CEO ゴルフ大会に最適な候補者を見つけられる可能性があります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この変更も、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用可能な、Salesforce Inbox モバイルアプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 営業担当がカスタムメールインサイトを作成および編集するには、「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。Einstein 活動キャプチャの標準ユーザは、カスタム Einstein メールインサイトを使用できません。

理由: 標準メールインサイトを愛用している営業担当は、それらを他のインサイトやキーワードと組み合わせ可能になったため、さらに気に入ることでしょう。



[カスタム] タブで、営業担当は 1 つ以上の標準インサイトと 10 個のキーワードを選択できます。営業担当が作成できる組み合わせ数にほとんど制限はありません。完璧な顧客を対象とすることがさらに簡単になります。

カスタムメールインサイトは標準メールインサイトと同様に活動タイムラインとメール詳細ページに表示されます。Inbox モバイルアプリケーションのユーザの場合、Inbox にカスタムメールインサイトが表示されます。

関連トピック:

- 完璧になるまでカスタム Einstein メールインサイトを編集
- *Salesforce* ヘルプ: カスタム Einstein メールインサイトの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

標準 Einstein メールインサイトをすべてのユーザに表示

インサイトの豊富な情報を広めましょう。組織に有料の Einstein Activity Capture ライセンスが 1 つ以上ある場合、すべてのユーザは共有メールで標準およびカスタムメールインサイトを表示できます。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience の新機能です。この機能は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用可能な、Salesforce Inbox モバイルアプリケーションの新機能でもあります。

理由: Einstein 活動キャプチャを使用しないユーザは、メールインサイトの参照のみを行うことができます。それらのインサイトに対してアクションの実行やフィードバックの送信を行うことはできません。

関連トピック:

- Einstein の新しい標準メールインサイトによる注意喚起
- *Salesforce* ヘルプ: Einstein メールインサイトの有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Sandbox での Einstein 活動キャプチャの使用

Einstein 活動キャプチャを Sandbox 環境で使用できます。設定が容易であることを確認し、営業担当が機能をどのように使用するかをプレビューしてください。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Einstein 活動キャプチャのすべての機能を確認するには、Sandbox を本番の Microsoft® または Google サーバに接続し、一部のユーザのメールおよびカレンダーアカウントを接続します。本番のユーザに対して同期をオンにする前に、Sandbox で同期機能がオフになっていることを確認してください。Sandbox で Einstein 活動キャプチャを設定すると、その Sandbox に本番組織をコピーできなくなります。

メール操作環境: メールのプライバシーの適用の改善、営業以外のメールの送信機能、リストメール状況の詳細の追加、制限の拡張

メールの受信や受信したメールの追跡を拒否する顧客の設定を遵守します。営業担当が営業メールの受信をオプトアウトしたユーザにメールを送信する前に、アラートを表示します。営業以外のメールを顧客に送信する権限を営業担当に付与します。リストメールの受信者の状況に関する詳細を取得します。新しい組織では、より多くの種別のメールが日次外部メール制限にカウントされます。

このセクションの内容:

- 新しい設定を使用して送信除外設定と「追跡しない」設定を遵守
  顧客がプライバシーを求めたら、新しい設定を使用して顧客にプライバシーを提供します。ユーザのメールのプライバシー設定が [取引しない]、[追跡しない]、[この個人を破棄]、[処理しない] のどれであっても、この設定によりその設定が適用されます。
- 顧客のメール送信除外設定を考慮
  顧客がメールのプライバシー設定で [メール送信除外] または [取引しない] を選択した場合、会社が顧客に送信するメールは営業以外のメールのみ (商品の最新の配送情報やサービスプランの変更など) とする必要があります。以前は、Salesforce でこの設定が考慮されず、このような顧客に警告なしでメールを送信できていました。営業担当の「営業以外のメールの送信」権限を削除することで、このプライバシー設定を選択した顧客に営業担当がメールを送信することを回避できるようになりました。

リストメールの状況を使用して顧客のプライバシーを尊重

リストメールの配信にエラーがある場合、CSV ファイルが添付された配信の概要がユーザに送信されます。このファイルでは、メールのプライバシー設定を含め、メールの各送信先の状況が示されます。一般データ保護規則 (GDPR) やその他の要件など、データ保護とプライバシーの規制を遵守しているかどうかに関係なく、この情報は顧客のプライバシーに関する要求を尊重するのに役立ちます。

新しい組織の日次外部メール制限の適用を拡大

各組織は 1 日あたり 5,000 件の単一メールを外部のメールアドレスに送信できます。Spring '19 以降に作成された組織では、この日次制限はメールアラート、単純なメールアクション、[メールを送信] アクション、および REST API にも適用されます。組織がこの制限に達したため新しくカウントされたいずれかのメールを送信できない場合、通知のメールがユーザに送信され、エントリがデバッグログに追加されます。Spring '19 よりも前に作成された組織では、この日次制限は、Apex と Salesforce API (REST API を除く) を介して送信されたメールに対してのみ適用されます。

より長い RSA 鍵サイズを使用した安全な DKIM 鍵の作成

DKIM (DomainKeys Identified Mail) 鍵を作成する場合、1024 ビットまたは 2048 ビットの RSA 鍵サイズを選択できるようになりました。鍵サイズを選択する前に、FIPS (Federal Information Processing Standards) のような業界固有のセキュリティ規則の順守など、考えられる制限とセキュリティ要件を調査してください。既存の DKIM 鍵は 1024 ビットサイズに設定されます。RSA 鍵サイズは新しい DKIM 鍵に対してのみ指定できます。

エラーが発生したメールを添付ファイルとして送信者に返す

不達メッセージを営業担当に返すことで、営業担当が、配信されなかったメールを容易に追跡できるようにします。不達になったメールがメール添付ファイルとして送信者のメールアドレスに送信されるようになりました。不達メールを添付ファイルとして返すことで、偽装メールからの保護に役立つセキュリティ対策に準拠します。

新しい設定を使用して送信除外設定と「追跡しない」設定を遵守

顧客がプライバシーを求めたら、新しい設定を使用して顧客にプライバシーを提供します。ユーザのメールのプライバシー設定が [取引しない]、[追跡しない]、[この個人を破棄]、[処理しない] のどれであっても、この設定によりその設定が適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [データ保護とプライバシー] が有効になっていることを確認します。次に、[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「送信」* と入力し、[送信] を選択します。[データ保護とプライバシー] セクションで、[メールのプライバシー設定を適用] を選択します。

メモ: 以前のリリースでは、[データ保護とプライバシー]のみを有効にする必要がありました。[メールのプライバシー設定を適用]も有効にすることができるようになりました。

関連トピック:

- 顧客のメール送信除外設定を考慮
- *Salesforce* ヘルプ: メールの開封追跡とメール送信除外 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *IdeaExchange*: E-Mail Opt Out Doesn't Disable E-mailing (メール送信除外でメール送信が無効にならない)
- *IdeaExchange*: Email Opt Out Functionality in Lightning (Lightning でのメール送信除外機能)

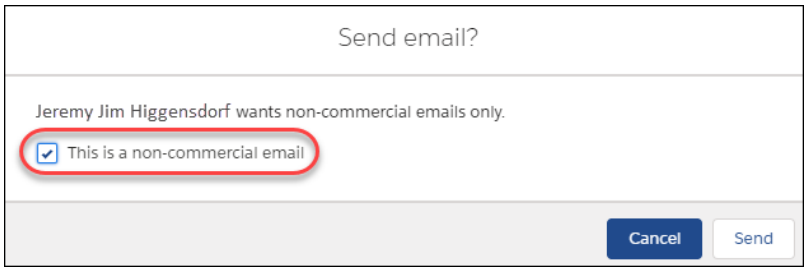
顧客のメール送信除外設定を考慮

顧客がメールのプライバシー設定で [メール送信除外] または [取引しない] を選択した場合、会社が顧客に送信するメールは営業以外のメールのみ (商品の最新の配送情報やサービスプランの変更など) とする必要があります。以前は、Salesforce でこの設定が考慮されず、このような顧客に警告なしでメールを送信できていました。営業担当の「営業以外のメールの送信」権限を削除することで、このプライバシー設定を選択した顧客に営業担当がメールを送信することを回避できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 「営業以外のメールの送信」権限を持つ営業担当は、営業以外のメールを送信できます。デフォルトでは、この権限は、メールを送信するすべての標準プロファイルと、すでに作成されているカスタムプロファイルでオンになっています。

方法: この権限を持つ営業担当は、メールを送信する前にメールが営業以外のメールであることを確認します。



メモ: Lightning Experience では、営業担当にリードおよび取引先責任者の [メール送信除外] 項目に対する「参照」権限が必要です。この項目の項目レベルセキュリティをチェックして、表示を確認してください。項目へのアクセス権がないと、営業担当が [送信] をクリックするまで警告メッセージが表示されません。

メール送信除外を選択した顧客に営業担当がメールを送信することを回避するには、営業担当の権限セットで [営業以外のメールの送信] を削除します。

メモ: メールのプライバシー設定で [メール送信除外] または [取引しない] を選択した受信者にリストメールは送信されません。ケースメールは、これらのメールのプライバシー設定を選択した受信者にも常に送信できます。

関連トピック:

- 新しい設定を使用して送信除外設定と「追跡しない」設定を遵守
- *Salesforce* ヘルプ: 営業以外のメールを送信できる営業担当の選択 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 営業のメールと営業以外のメールの違い (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *IdeaExchange*: E-Mail Opt Out Doesn't Disable E-mailing (メール送信除外でメール送信が無効にならない)
- *IdeaExchange*: Email Opt Out Functionality in Lightning (Lightning でのメール送信除外機能)

リストメールの状況を使用して顧客のプライバシーを尊重

リストメールの配信にエラーがある場合、CSV ファイルが添付された配信の概要がユーザに送信されます。このファイルでは、メールのプライバシー設定を含め、メールの各送信先の状況が示されます。一般データ保護規則 (GDPR) やその他の要件など、データ保護とプライバシーの規制を遵守しているかどうかに関係なく、この情報は顧客のプライバシーに関する要求を尊重するのに役立ちます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

新しい組織の日次外部メール制限の適用を拡大

各組織は 1 日あたり 5,000 件の単一メールを外部のメールアドレスに送信できます。Spring '19 以降に作成された組織では、この日次制限はメールアラート、単純なメールアクション、[メールを送信] アクション、および REST API にも適用されます。組織がこの制限に達したため新しくカウントされたいずれかのメールを送信できない場合、通知のメールがユーザに送信され、エントリがデバッグログに追加されます。Spring '19 よりも前に作成された組織では、この日次制限は、Apex と Salesforce API (REST API を除く) を介して送信されたメールに対してのみ適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、Spring '19 以降に作成された組織にのみ適用されます。

より長い RSA 鍵サイズを使用した安全な DKIM 鍵の作成

DKIM (DomainKeys Identified Mail) 鍵を作成する場合、1024 ビットまたは 2048 ビットの RSA 鍵サイズを選択できるようになりました。鍵サイズを選択する前に、FIPS (Federal Information Processing Standards) のような業界固有のセキュリティ規則の順守など、考えられる制限とセキュリティ要件を調査してください。既存の DKIM 鍵は 1024 ビットサイズに設定されます。RSA 鍵サイズは新しい DKIM 鍵に対してのみ指定できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*DKIM 鍵*」と入力し、[DKIM 鍵] を選択します。[鍵を新規作成] をクリックして、鍵サイズを選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: セキュリティが強化された DKIM 鍵の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: DKIM 鍵の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エラーが発生したメールを添付ファイルとして送信者に返す

不達メッセージを営業担当に返すことで、営業担当が、配信されなかったメールを容易に追跡できるようにします。不達になったメールがメール添付ファイルとして送信者のメールアドレスに送信されるようになりました。不達メールを添付ファイルとして返すことで、偽装メールからの保護に役立つセキュリティ対策に準拠します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 不達メールを添付ファイルとして返すには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*送信*」と入力し、[送信] を選択します。[不達管理] で不達メッセージを有効化して、[エラーが発生したメールを送信者に返す] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Enable Email Bounce Handling (メール不達処理の有効化) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メールテンプレート: フォルダ、共有、テンプレートのレポート

サブフォルダとネストされたフォルダを使用して、メールテンプレートを容易に整理できます。また、フォルダを使用して、メールテンプレートを適切なユーザと容易に共有することもできます。

このセクションの内容:

フォルダとネストを使用したメールテンプレートの整理

システム管理者と営業担当は「非公開」と「公開」以外のフォルダにもメールテンプレートを分類できるようになりました。また、ネストしたフォルダにより、メールテンプレートの整理と検索が容易になります。

共有するメールテンプレートの制御

システム管理者と営業担当は、テンプレートが含まれるフォルダに基づいて、メールテンプレートに異なるアクセスレベルを設定できます。

メールテンプレートをすばやく見つける

Lightning メールテンプレートを容易に見つけることができるように [メールテンプレート] ページにいくつかの機能を付加しました。

「公開 Lightning メールテンプレートを管理」権限の機能強化

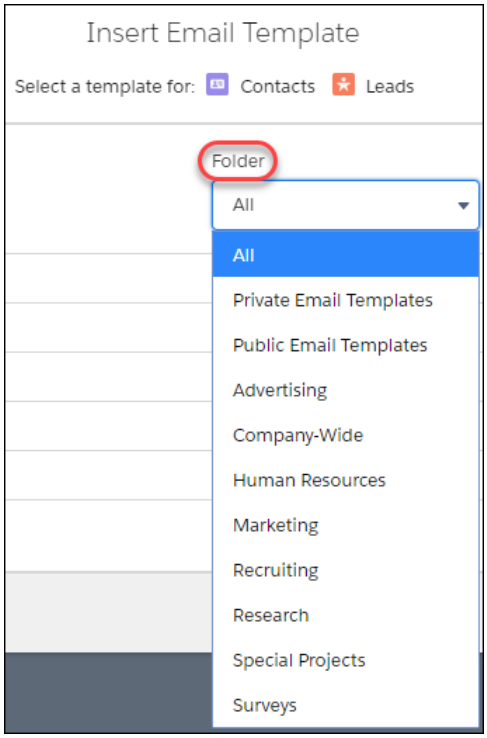
以前のリリースでは、この権限を持つ標準ユーザは新しい公開テンプレートを作成できましたが、編集および削除できるのは、所有するテンプレートのみでした。この権限を持つユーザはすべての公開テンプレートを編集および削除できるようになりました。

フォルダとネストを使用したメールテンプレートの整理

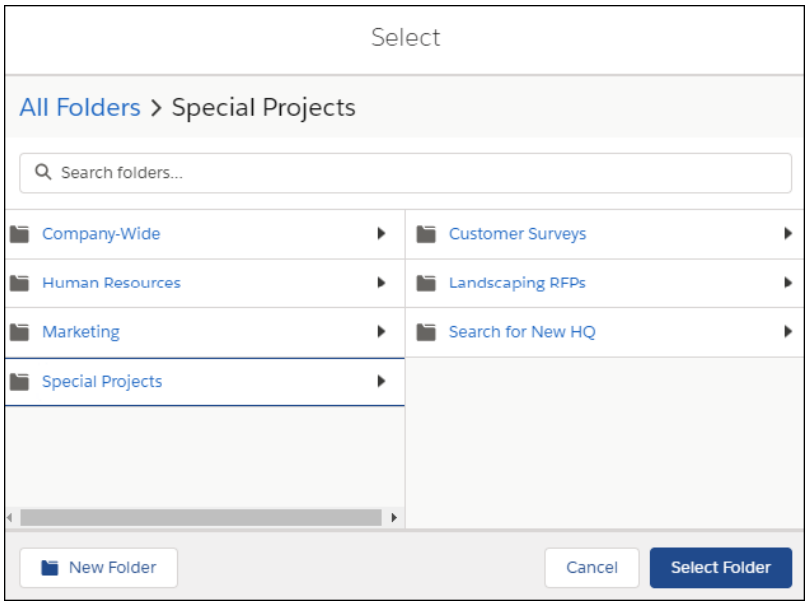
システム管理者と営業担当は「非公開」と「公開」以外のフォルダにもメールテンプレートを分類できるようになりました。また、ネストしたフォルダにより、メールテンプレートの整理と検索が容易になります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: メールテンプレートを整理すると、見つけやすくなります。営業担当は既存のフォルダを使用できますが、「Lightning メールテンプレートのフォルダの作成」権限を持つユーザはフォルダを作成することもできます。



最大 4 つのネストレベルでメーテンプレートの階層を作成します。営業担当は会社全体のテンプレートを第 1 レベルのフォルダに格納し、会社の各部署のフォルダを次のレベルに作成できます。この例では、[Special Projects (特別プロジェクト)] フォルダに [Customer Surveys (顧客調査)]、[Landscaping RFPs (景観 RFP)]、および [Search for New HQ (新しい本社の探索)] の 3 つのサブフォルダが含まれます。



営業担当は、行動への招待用のメールテンプレートを、同僚がアクセスできるフォルダ内で同僚が使用できるようにしたいと考える場合があります。また、カスタマイズした行動のフォローアップメールテンプレートを、自分のみがアクセスできるフォルダに厳重に保存しています。

方法: 組織権限 「Lightning メールテンプレートのフォルダおよび拡張共有」を有効にします。次に、フォルダを作成するユーザに「Lightning メールテンプレートのフォルダの作成」権限を付与します。

システム管理者または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザには、「Lightning メールテンプレートのフォルダの作成」権限は不要です。上記の権限がなくてもフォルダを作成できます。

メモ: [Lightning メールテンプレートのフォルダおよび拡張共有] を無効にした場合、自分が作成したメールテンプレートフォルダと、そのフォルダ内のメールテンプレートにアクセスできなくなります。アクセスを再度取得するには、[Lightning メールテンプレートのフォルダおよび拡張共有] を有効にします。

関連トピック:

共有するメールテンプレートの制御

Salesforce ヘルプ: Enable Folders and Enhanced Sharing for Email Templates (メールテンプレートのフォルダおよび拡張共有の有効化) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: メールテンプレートフォルダを作成および共有できるユーザの選択 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: メールテンプレートフォルダと共有に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

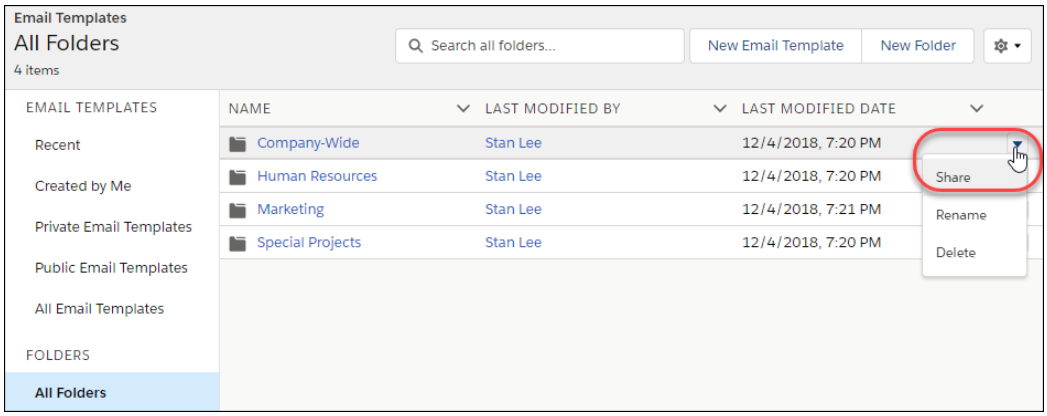
IdeaExchange: Email Templates in Lightning - Need to Control Visibility / Folders (Lightning のメールテンプレート - 表示/フォルダの制御)

共有するメールテンプレートの制御

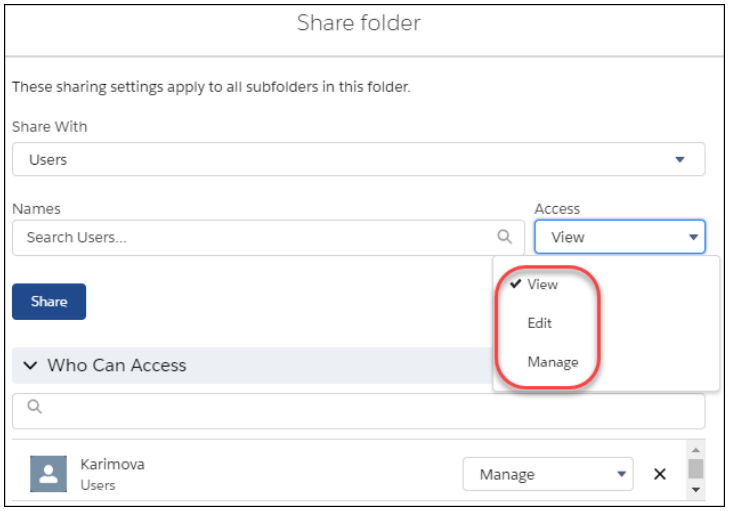
システム管理者と営業担当は、テンプレートが含まれるフォルダに基づいて、メールテンプレートに異なるアクセスレベルを設定できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

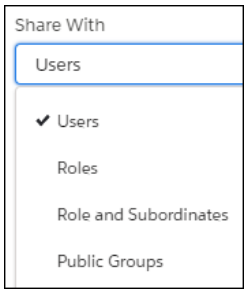
理由: 営業担当は、メールテンプレートフォルダの設定に基づいて、どのユーザがどのメールテンプレートにどのようにアクセスできるのかを制御できます。



共有設定を変更するには、[メールテンプレート] ページで、またはフォルダの編集中に [共有] をクリックします。



フォルダを共有するユーザと、そのユーザに付与するアクセス権を選択します。



方法: 組織権限 「Lightning メールテンプレートのフォルダおよび拡張共有」を有効にします。デフォルトでは、フォルダを作成するユーザに「管理」アクセス権があります。

メモ: [Lightning メールテンプレートのフォルダおよび拡張共有] を無効にした場合、自分が作成したメールテンプレートフォルダと、そのフォルダ内のメールテンプレートにアクセスできなくなります。アクセスを再度取得するには、[Lightning メールテンプレートのフォルダおよび拡張共有] を有効にします。

関連トピック:

フォルダとネストを使用したメールテンプレートの整理

Salesforce **ヘルプ**: Enable Folders and Enhanced Sharing for Email Templates (**メールテンプレートのフォルダおよび拡張共有の有効化**) (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

Salesforce **ヘルプ**: **メールテンプレートフォルダを作成および共有できるユーザの選択** (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

Salesforce **ヘルプ**: **メールテンプレートフォルダを作成および共有できるユーザの選択** (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

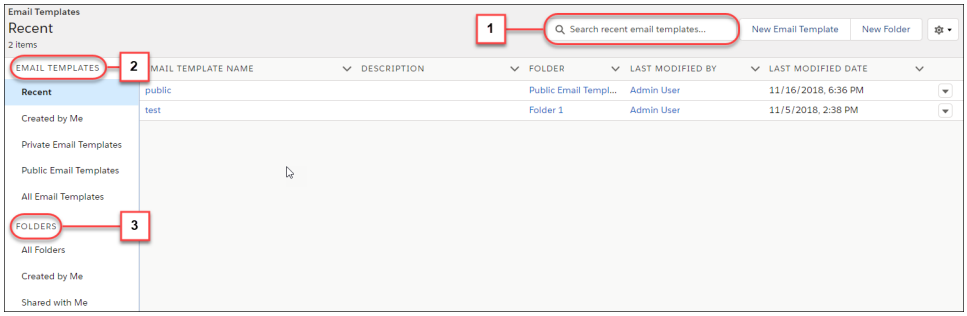
IdeaExchange: Email Templates in Lightning - Need to Control Visibility / Folders (Lightning **のメールテンプレート - 表示/フォルダの制御**)

メールテンプレートをすばやく見つける

Lightning メールテンプレートを容易に見つけることができるように [メールテンプレート] ページにいくつかの機能を付加しました。

対象: これらの変更は、 Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

理由: 検索バー (1) **により、テンプレートまたはフォルダの検索が容易になります。** Lightning **メールテンプレート** (2) **とフォルダ** (3) **の新しいナビゲーションを使用すると、** Lightning **テンプレートを容易に整理して配置できます。**



メモ: Classic メールテンプレートを表示するには、[設定] の [Classic メールテンプレート] を使用します。

「公開 Lightning メールテンプレートを管理」権限の機能強化

以前のリリースでは、この権限を持つ標準ユーザは新しい公開テンプレートを作成できましたが、編集および削除できるのは、所有するテンプレートのみでした。この権限を持つユーザはすべての公開テンプレートを編集および削除できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

活動と ToDo: 合理化された行動の作成と終了

ボタンをクリックするだけ ToDo を閉じることができます。また、ToDo に基づくフォローアップ行動も 1 回クリックするだけで作成できます。

このセクションの内容:

リストを使用しないワンクリックでの ToDo の完了
ToDo の完了が面倒な作業ではなくなりました。営業担当は [状況] ドロップダウンリストをスクロールすることなく、ワンクリックで ToDo を完了としてマークできます。

ワンクリックでのフォローアップ行動の作成
1 回のクリックで、ToDo を完了するための時間をカレンダーですばやく予約したり、既存の ToDo のフォローアップ行動を作成したりします。主要な情報は元の ToDo からコピーされるため、営業担当がデータを 2 回入力する必要がなくなりました。

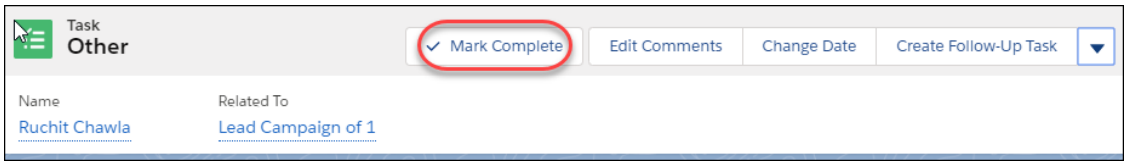
リストを使用しないワンクリックでの ToDo の完了

ToDo の完了が面倒な作業ではなくなりました。営業担当は [状況] ドロップダウンリストをスクロールすることなく、ワンクリックで ToDo を完了としてマークできます。

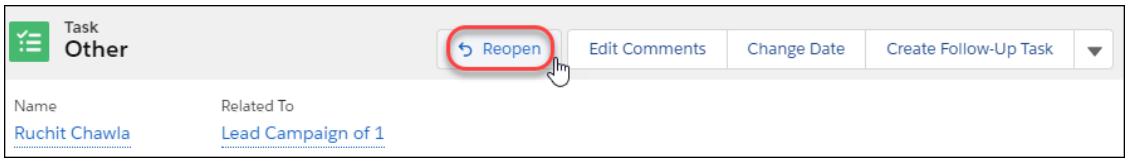
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 活動タイムラインまたは ToDo の詳細ビューで、ToDo をクリックして完了としてマークします。





また、ToDo の詳細ビューで 簡単に ToDo を再度開くことができます。



関連トピック:

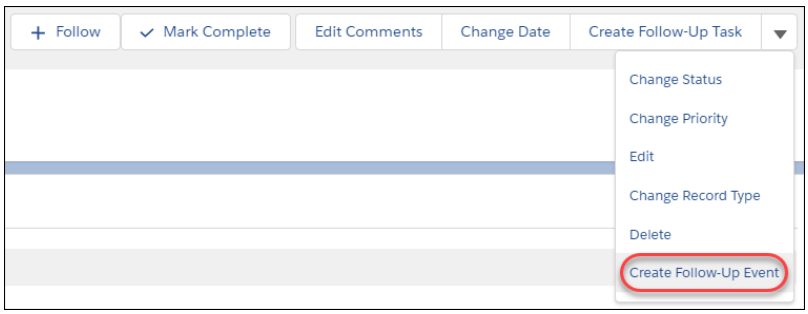
- ワンクリックでのフォローアップ行動の作成
- *IdeaExchange*: List View: Checklist (リストビュー: チェックリスト)

ワンクリックでのフォローアップ行動の作成

1 回のクリックで、ToDo を完了するための時間をカレンダーですばやく予約したり、既存の ToDo のフォローアップ行動を作成したりします。主要な情報は元の ToDo からコピーされるため、営業担当がデータを 2 回入力する必要がなくなりました。

対象: この変更は、Personal Edition 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: フォローアップ行動を作成するには、[フォローアップ行動の作成] をクリックします。



関連トピック:

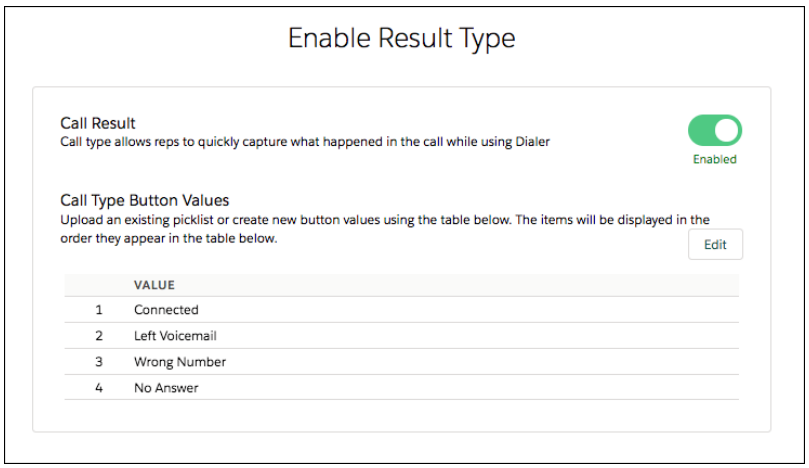
- リストを使用しないワンクリックでの ToDo の完了

Lightning Dialer: 各通話の結果の追跡

1 回のクリックで、営業担当は通話がつながったかどうかや、通話の状況を追跡できます。通話処置とも呼ばれるこの重要な情報は、Salesforce の通話ログと、関連レコードの活動タイムラインでキャプチャされます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 各通話の結果を追跡します。営業担当は通話パネルで 4 つのオプションから選択できます。デフォルトで有効化されている通話結果のオプションには、[接続済み]、[ボイスメールを残した]、[間違った番号]、[応答なし] が含まれます。会社に適したオプションをカスタマイズできます。



この機能を有効にした場合、営業担当は値を選択して活動を記録する必要があります。値は関連 ToDo の [通話結果] に保存されます。

方法: この機能を設定するには、[設定] の [Dialer 設定] で [活動の記録] を選択します。

Salesforce Inbox アプリケーション: Lightning Experience テンプレート、Android 通知、複合メールインサイト

iOS および Android の Salesforce Inbox アプリケーションで、Lightning Experience テンプレートを使用します。Salesforce Inbox 通知が Android の通知カテゴリに接続されるようになったため、ユーザは受信する通知を選択できます。Salesforce Inbox アプリケーションで複合メールインサイトを使用できます。

このセクションの内容:

Salesforce Inbox での Lightning テンプレートを使用した迅速なメールの作成
iOS および Android デバイスの Salesforce Inbox アプリケーションで、Lightning Experience で作成したテンプレートを使用できるようになりました。テンプレートを使用すると、営業担当の生産性が向上し、ビジネス全体でメッセージの一貫性を確保できます。営業担当は、Lightning Experience で使用しているテンプレートをモバイルデバイスの Inbox でも使用できます。

Android デバイスでの Inbox 通知の改善
Salesforce Inbox 通知が Android の通知カテゴリに接続されるようになったため、営業担当は受信する通知をより詳細に制御できます。通知は、忙しい営業担当が毎日の ToDo と行動を常に把握するために重要です。ただし、通知が多すぎたり誤っていたりすると混乱を招く可能性があるため、営業担当は Inbox から受信する通知を選択できるようになっています。営業担当は通知をタップして、今後どのように通知を表示するかを設定できます

新しい標準メールインサイトへのアクセス
Einstein メールインサイトをさらに活用できます。組織に有料の Einstein Activity Capture ライセンスがあり、Einstein メールインサイトが有効になっている場合、Salesforce Inbox モバイルユーザはすべての標準メールインサイトを使用できます。標準メールインサイトには、Spring '19 で使用可能な新しいエグゼクティブのメンションと競合他社のメンションのインサイトが含まれます。

よりスマートなメール送信のための統合されたカスタムメールインサイトの使用
2 つ以上のカスタムインサイトを組み合わせて、iOS および Android の Salesforce Inbox でさらにインテリジェントなインサイトを作成できるようになりました。

Salesforce Inbox での Lightning テンプレートを使用した迅速なメールの作成

iOS および Android デバイスの Salesforce Inbox アプリケーションで、Lightning Experience で作成したテンプレートを使用できるようになりました。テンプレートを使用すると、営業担当の生産性が向上し、ビジネス全体でメッセージの一貫性を確保できます。営業担当は、Lightning Experience で使用しているテンプレートをモバイルデバイスの Inbox でも使用できます。

対象: この変更は、iOS および Android デバイスの Salesforce Inbox アプリケーションに適用されます。Salesforce Inbox は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用できます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience のメールテンプレート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *IdeaExchange*: Lightning Email Templates Not Accessible in Salesforce Inbox (Salesforce Inbox で Lightning メールテンプレートにアクセスできない)

Android デバイスでの Inbox 通知の改善

Salesforce Inbox 通知が Android の通知カテゴリに接続されるようになったため、営業担当は受信する通知をより詳細に制御できます。通知は、忙しい営業担当が毎日の ToDo と行動を常に把握するために重要です。ただし、通知が多すぎたり誤っていたりすると混乱を招く可能性があるため、営業担当は Inbox から受信する通知を選択できるようになっています。営業担当は通知をタップして、今後どのように通知を表示するかを設定できます

対象: この変更は、Android デバイスの Salesforce Inbox アプリケーションに適用されます。Salesforce Inbox は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用できます。

新しい標準メールインサイトへのアクセス

Einstein メールインサイトをさらに活用できます。組織に有料の Einstein Activity Capture ライセンスがあり、Einstein メールインサイトが有効になっている場合、Salesforce Inbox モバイルユーザはすべての標準メールインサイトを使用できます。標準メールインサイトには、Spring '19 で使用可能な新しいエグゼクティブのメンションと競合他社のメンションのインサイトが含まれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この変更も、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用可能な、Salesforce Inbox モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

- Einstein の新しい標準メールインサイトによる注意喚起
- 標準 Einstein メールインサイトをすべてのユーザに表示

よりスマートなメール送信のための統合されたカスタムメールインサイトの使用

2 つ以上のカスタムインサイトを組み合わせて、iOS および Android の Salesforce Inbox でさらにインテリジェントなインサイトを作成できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この変更も、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用可能な、Salesforce Inbox モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

- メールインサイトを組み合わせてメールをさらにスマートにする
- *Salesforce* ヘルプ: カスタム Einstein メールインサイトの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メモ: メモ内の安全でない文字の削除

以前は、特定の HTML 文字 (単一引用符 (') など) が含まれるメモを保存できませんでした。この文字が原因でクロスサイトスクリプティング (XSS) 攻撃を受ける可能性があるためです。この面倒な処理を Salesforce が実行するようになりました。安全でない文字が自動的に削除され、メモが保存されます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

カレンダー: Lightning Experience での整理方法の追加

営業担当は、Lightning Experience と Salesforce アプリケーションで行動に必要なすべてのロジスティックスを管理できます。一連の行動が正式にリリースされ、より柔軟に一連の行動から行動を削除できるようになりました。グループカレンダーの行動の作成、リソースの予約、被招集者の簡単な追加など、より多くの行動のオプションを利用できます。また、ミーティングの関連ファイルを参照したりカレンダーを印刷したりして、行動の準備を整えることができます。

このセクションの内容:

一連の行動のスケジュール (正式リリース)
毎日、毎週、毎月、終了時刻まで継続するその他の繰り返される行動、または次の 1 か月間のみをスケジュールできます。また、シフトが発生した場合、1つの行動を更新したり、特定の行動の後のすべての行動を削除したりできます。

Lightning Experience の公開カレンダーを使用したチームの連携
公開カレンダーを使用して、より簡単にチームメンバー間で最新情報を共有し、全員のプロジェクトを予定どおりに進めることができます。公開カレンダーを共有するすべてのユーザは、Salesforce Classic に切り替えることなく、行動を表示、スケジュール、および更新できます。以前は、公開カレンダーを有効化できましたが、営業担当は Lightning Experience から公開カレンダーにアクセスできませんでした。

行動のリソースの予約
必要なツールの重複予約を避けるため、ミーティングリソース (プロジェクターなど) を予約します。

Lightning Sync の設定を使用しない被招集者の追加
営業担当が Salesforce ユーザ、取引先責任者、個人取引先、リードを行動によりすばやく追加できるように設定します。Lightning Sync を操作する必要はありません。

行動のプレビューでの詳細の表示
カレンダーで行動をクリックすると、最大 10 個の項目のプレビューが表示されます。以前は、表示できる項目は最大 4 個でした。

カレンダーを印刷するときに詳細を表示
印刷されたカレンダーに線で囲まれた日時ブロックが表示されるため、サイドパネルに邪魔されずに行動の詳細を確認できます。

行動に関連するファイルの参照
行動所有者が行動にファイルを関連付けた場合、その行動へのアクセス権を持つすべてのユーザがファイルを参照できます。以前は、関連ファイルを参照できるのはファイル所有者のみでした。

一連の行動のスケジュール (正式リリース)

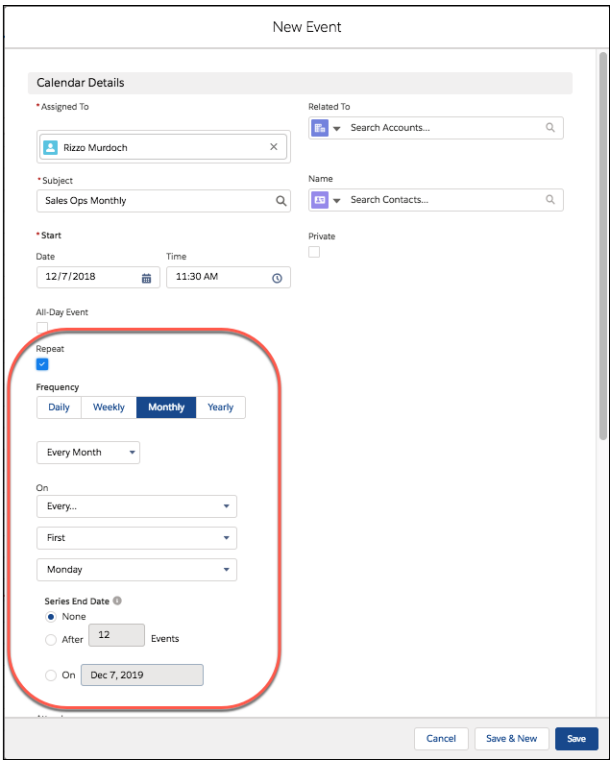
毎日、毎週、毎月、終了時刻まで継続するその他の繰り返される行動、または次の1か月間のみをスケジュールできます。また、シフトが発生した場合、1つの行動を更新したり、特定の行動の後のすべての行動を削除したりできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: この機能のベータバージョンからいくつかの改善が加えられています。

- [行動の説明]項目に対してプラットフォームの暗号化を有効にしている場合、Spring'19で作成または更新した一連の行動は暗号化されます。
- 営業担当はカスタム項目を更新できます。
- 変更が必要な場合、営業担当は 1 つの行動、特定の行動から後のすべての行動、および一連の行動全体を削除できます。

方法: 一連の行動を営業担当がスケジュールできるようにするには、行動のページレイアウトで [繰り返し] チェックボックスを追加します。これで、営業担当は一連の行動をスケジュールするのに［繰り返し］を選択できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience で行動およびカレンダーを使用する場合の考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

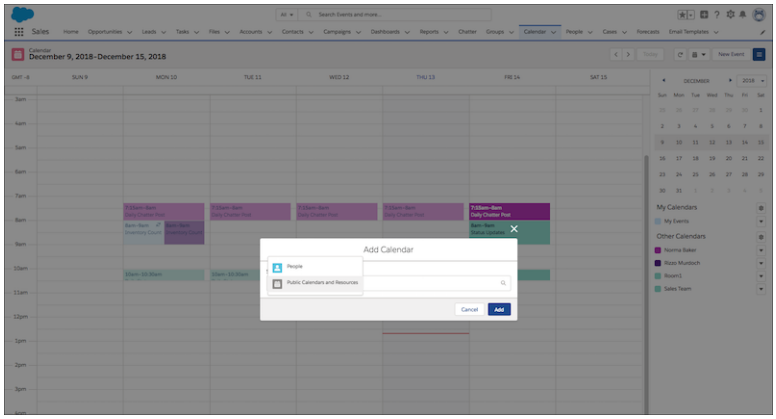
一連の行動と暗号化の互換性

Lightning Experience の公開カレンダーを使用したチームの連携

公開カレンダーを使用して、より簡単にチームメンバー間で最新情報を共有し、全員のプロジェクトを予定どおりに進めることができます。公開カレンダーを共有するすべてのユーザは、Salesforce Classic に切り替えることなく、行動を表示、スケジュール、および更新できます。以前は、公開カレンダーを有効化できましたが、営業担当は Lightning Experience から公開カレンダーにアクセスできませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: サイドパネルの [他のカレンダー] で、営業担当はカレンダービューに公開カレンダーを追加したり、公開カレンダーを非表示にしたりできます。



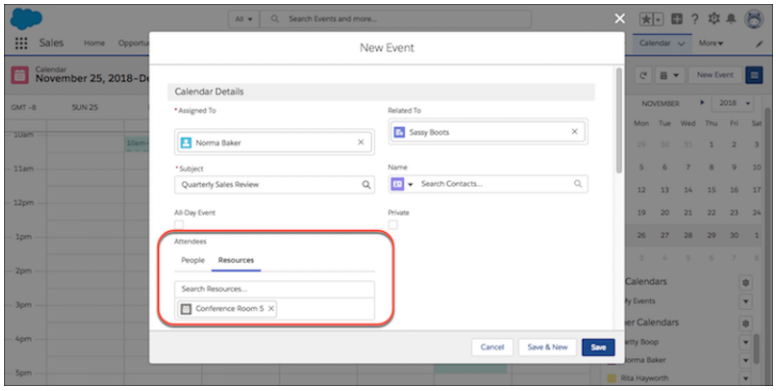
方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「*公開 & リソースカレンダー*」と入力し、[公開 & リソースカレンダー] をクリックします。[公開カレンダー] で、[新規] を選択します。

行動のリソースの予約

必要なツールの重複予約を避けるため、ミーティングリソース (プロジェクターなど) を予約します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: 行動の作成時にリソースを被招集者として追加し、予約できます。複数のリソースの利用可能状況を比較する必要がある場合、リソースカレンダーをカレンダービューに追加します。



方法: [設定] で [リソース] を追加します。次に、行動のページレイアウトから、[被招集者] 項目を追加します。

関連トピック:

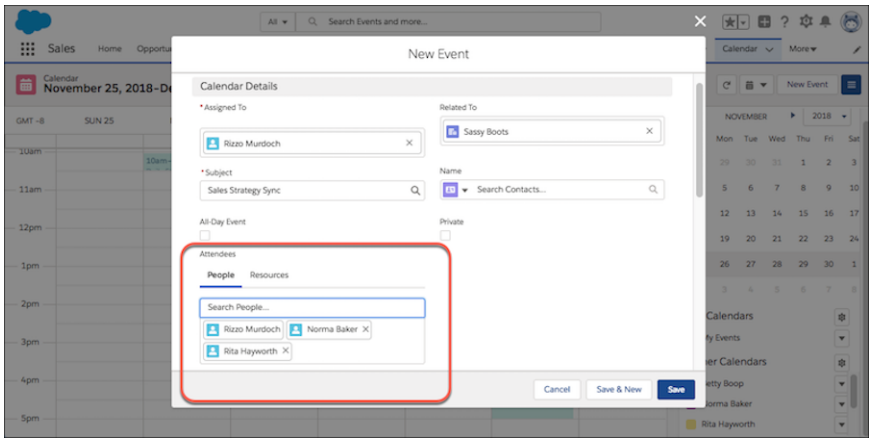
Salesforce ヘルプ: Salesforce Classic での公開カレンダーまたはリソースカレンダーの作成および管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Sync の設定を使用しない被招集者の追加

営業担当が Salesforce ユーザ、取引先責任者、個人取引先、リードを行動によりすばやく追加できるように設定します。Lightning Sync を操作する必要はありません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 営業担当が Lightning Experience と Salesforce アプリケーションで被招集者を追加または削除できるようにするには、行動のページレイアウトに [被招集者] 項目を追加します。



Salesforce で被招集者に招待を送信してその返答を取得するには、行動主催者は引き続き Lightning Sync を使用する必要があります。

関連トピック:

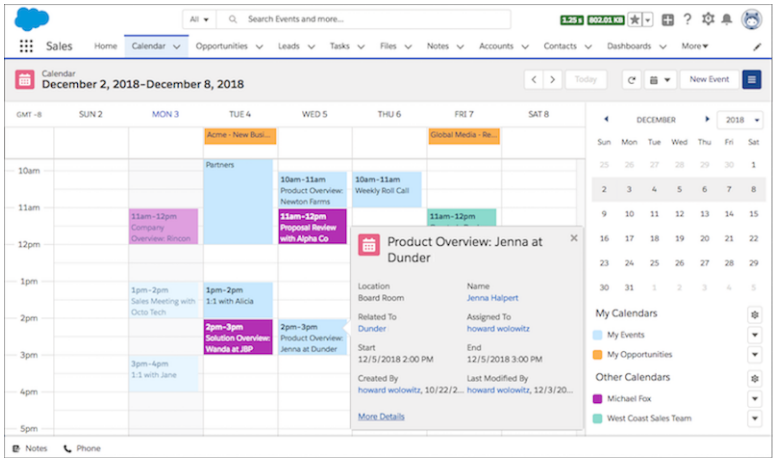
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience および Salesforce アプリケーションから被招集者が行動に招待された場合に招待を受信するように設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

行動のプレビューでの詳細の表示

カレンダーで行動をクリックすると、最大 10 個の項目のプレビューが表示されます。以前は、表示できる項目は最大 4 個でした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: 営業担当は行動を開いて重要な詳細を表示しなくても、より多くの行動情報をカレンダーホームページから直接参照できます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コンパクトレイアウトの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

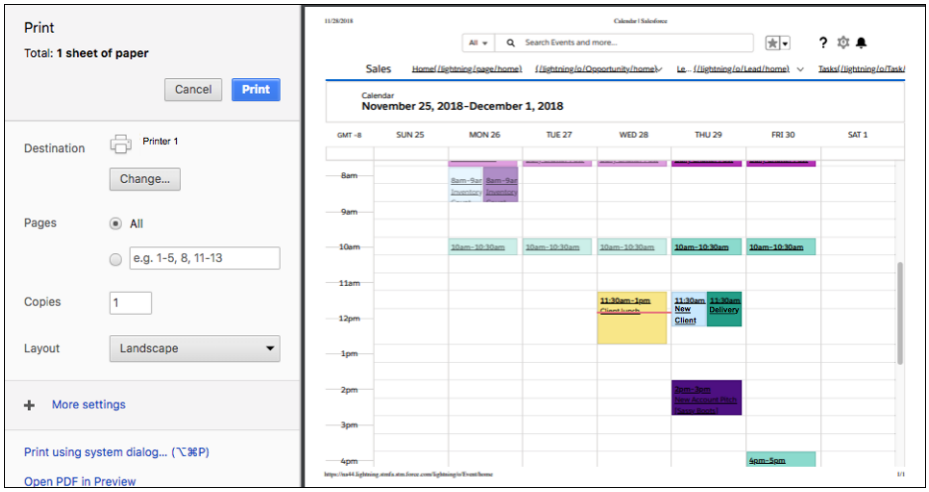
カレンダーを印刷するときに詳細を表示

印刷されたカレンダーに線で囲まれた日時ブロックが表示されるため、サイドパネルに邪魔されずに行動の詳細を確認できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Google Chrome、Microsoft Internet Explorer、Mozilla Firefox を使用する営業担当はこの機能強化からメリットを得ることができます。

理由: カレンダービューから、週表示または月全体の最大 12 時間の行動を印刷できます。

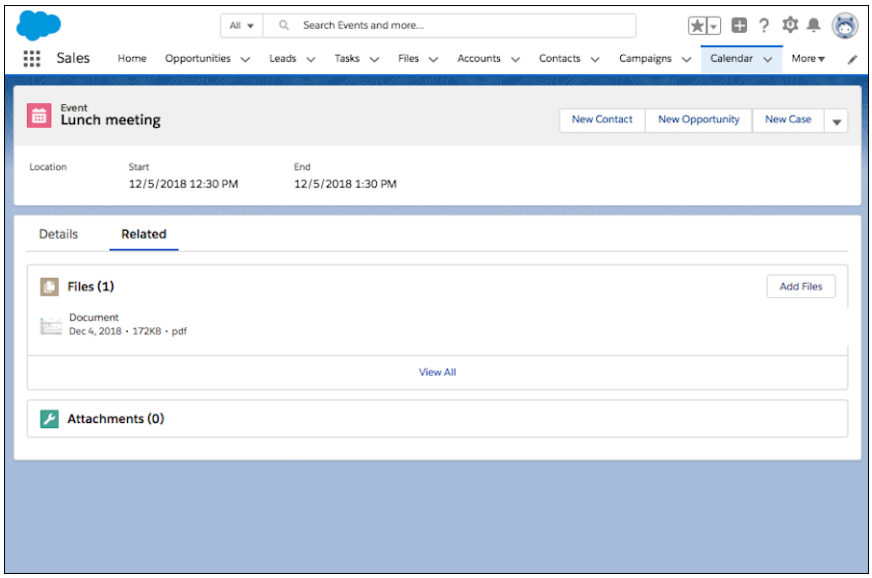


行動に関連するファイルの参照

行動所有者が行動にファイルを関連付けた場合、その行動へのアクセス権を持つすべてのユーザがファイルを参照できます。以前は、関連ファイルを参照できるのはファイル所有者のみでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: 全員が同じ情報を共有するようにします。行動の詳細ページから、営業担当は [関連] を選択し、行動所有者によって追加されたファイルを参照できます。



関連トピック:

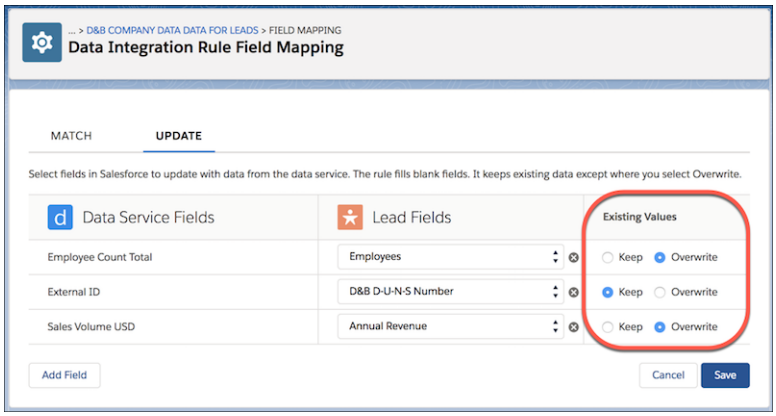
Salesforce ヘルプ: ページレイアウトへの [ファイル] 関連リストの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Data: データの自動更新

カスタムオブジェクトの参照を介してレコードの項目を更新する Lightning Data ルールで、古いデータを新しい情報で自動的に置き換えることができるようになりました。[設定] で、既存の値に対する新しい項目対応付けオプションを選択します。以前は、営業担当が取引先、取引先責任者、またはリードを更新する場合、Lightning Data は空の項目のみを埋めることができました。データがすでに含まれている項目は、そのデータが古くても更新できませんでした。営業担当は、人員、収益、取引先責任者情報など、最新のデータを参照するためのリンクをクリックする必要がなくなりました。また、この自動化により、セグメント化が改善され、より包括的なレポートが提供され、ToDo の割り当てが容易になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] で [クイック検索] ボックスを使用して、[データインテグレーションルール] を検索し、レコードを更新するルールを開きます。ルールの項目の対応付け設定で、[更新] を選択します。各項目で [上書き] または [保持] を選択します。[上書き] を選択する前に、項目の履歴管理を有効にします。



Google とのインテグレーション: 統合された Chrome 拡張機能、High Velocity Sales 作業キュー、被招集者の同期の改善

Lightning for Gmail と Salesforce Inbox を、統合された Chrome 拡張機能で使用できるようになりました。High Velocity Sales 作業キューを Gmail™ で使用できます。また、Lightning Sync ユーザは、API を介して加えられた、行動の被招集者の変更を Google カレンダーで表示できるようになりました。

このセクションの内容:

Gmail インテグレーション:統合された Chrome 拡張機能、High Velocity Sales 作業キュー、メールの記録オプションの追加
Lightning for Gmail と Salesforce Inbox を、統合された Chrome 拡張機能で使用できるようになりました。High Velocity Sales 作業キューが Gmail で使用可能になり、営業担当はメールに含まれない Salesforce のユーザに対してもメールを記録できるようになりました。

Lightning Sync: API を介して加えられた被招集者の変更を Google カレンダーで表示
API を介して被招集者項目に変更が加えられたときに、営業担当がそれらの変更を Google カレンダーで簡単に確認できるようになりました。その理由は、変更が Salesforce から自動的に同期されるためです。以前は、API を介して加えられた変更は、行動の追加項目への変更によってトリガされるまで同期されませんでした。被招集者の状況 (参加、不参加、または無回答) の同期に関する考慮事項は引き続き適用されます。

Gmail インテグレーション: 統合された Chrome 拡張機能、High Velocity Sales 作業キュー、メールの記録オプションの追加

Lightning for Gmail と Salesforce Inbox を、統合された Chrome 拡張機能で使用できるようになりました。High Velocity Sales 作業キューが Gmail で使用可能になり、営業担当はメールに含まれない Salesforce のユーザに対してもメールを記録できるようになりました。

このセクションの内容:

1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用
Chrome ウェブストアのリストで、Lightning for Gmail が Salesforce として掲載されるようになりました。この Chrome 拡張機能により、営業担当が標準機能とプレミアム Inbox 機能のどちらを使用するように設定されているかにかかわらず、営業担当の G Suite Gmail 内に Salesforce 環境が提供されます。この 1 つの拡張機能で基本の Gmail インテグレーション機能が無料で提供されるほか、Inbox ライセンスの購入により Inbox 機能を追加するオプションが提供されます。

Gmail™ での High Velocity Sales 作業キューを使用した販売の加速化
Gmail で作業する営業担当は、High Velocity Sales の作業キュー機能にアクセスできます。Gmail でのアクセス権を持つ営業担当は、お気に入りの作業場所 (Lightning Experience またはメールアプリケーション) からキューを使用して作業できます。

セッション有効限が切れたときににログイン情報を要求
異なるセキュリティポリシーをサポートするため、営業担当の Salesforce セッションの有効期限が切れるたびに Salesforce ログイン情報の入力を要求するように Gmail インテグレーションを設定できるようになりました。デフォルトでは、Gmail™ とのインテグレーションはシングルサインオン (SSO) を使用して、最初のログイン後に Salesforce セッションを保持および復元します。

Google カレンダーから直接 Salesforce 情報にアクセス
営業担当は、カレンダービューで行動を表示または作成しているときに、一致する Salesforce データに簡単にアクセスできるようになりした。Salesforce データを表示するために、行動をダブルクリックして詳細にドリルインする必要はありません。

Gmail™ からのメール受信者以外のユーザに対するメールの記録
以前は、営業担当はメールの [宛先] または [CC] 項目のアドレスに一致する Salesforce の取引先責任者、リード、および個人取引先に対してのみ Gmail からのメールを記録できました。メールには重要な情報が含まれている可能性があるため、営業担当はメッセージを任意のユーザレコードに記録できるようになりました。これにより、関連情報が Salesforce に記録されます。営業担当は Gmail インテグレーションペインでグローバル検索を使用して、他のユーザを検索できます。他のユーザレコードに記録されたメールは、そのレコードの活動タイムラインに含まれます。

1 つの Chrome 拡張機能での Lightning for Gmail と Salesforce Inbox の使用

Chrome ウェブストアのリストで、Lightning for Gmail が Salesforce として掲載されるようになりました。この Chrome 拡張機能により、営業担当が標準機能とプレミアム Inbox 機能のどちらを使用するように設定されているかにかかわらず、営業担当の G Suite Gmail 内に Salesforce 環境が提供されます。この 1 つの拡張機能で基本の Gmail インテグレーション機能が無料で提供されるほか、Inbox ライセンスの購入により Inbox 機能を追加するオプションが提供されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: すでに Lightning for Gmail を使用している場合、準備は整っています。インストール済みの Lightning for Gmail 拡張機能を置き換える必要はありません。Inbox ライセンスを所有していない場合に Inbox 機能を Gmail インテグレーションに追加するには、Salesforce にお問い合わせください。

すべての Gmail インテグレーション設定は、Salesforce の [設定] の [Gmail インテグレーションおよび同期] ページにあります。

関連トピック:

- 外部リンク: Salesforce Extension in the Chrome Web Store (Chrome ウェブストアの Salesforce 拡張機能) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *IdeaExchange*: Required Fields for Tasks in Salesforce Inbox (Salesforce Inbox の ToDo の必須項目)
- *IdeaExchange*: Ability to Create Custom Objects from Salesforce Inbox in Outlook and Chrome (Outlook および Chrome の Salesforce Inbox からカスタムオブジェクトを作成する機能)
- *IdeaExchange*: Auto-Populating Profile Records When Creating New Leads and Contacts (新しいリードおよび取引先責任者を作成するときのプロファイルレコードの自動入力)
- *IdeaExchange*: Edit Contact and Lead Information in Salesforce Inbox (Salesforce Inbox での取引先責任者およびリード情報の編集)
- *IdeaExchange*: Change Log Email Icon When I've Already Added an Email to Salesforce (すでにメールを Salesforce に追加している場合の [メールを記録] アイコンの変更)
- *IdeaExchange*: Ability to Edit New Contact Record Details When Adding to Salesforce from Inbox (Inbox から Salesforce に追加するときに新しい取引先責任者レコードの詳細を編集する機能)
- *IdeaExchange*: Log Emails to Campaigns (キャンペーンへのメールの記録)
- *IdeaExchange*: Allow Us to Change the Visible Fields in Salesforce Inbox for Custom Objects (Salesforce Inbox でのカスタムオブジェクトの参照可能項目の変更)
- *IdeaExchange*: Use Lightning Email Templates As Well As Classic Templates in Salesforce Inbox (Salesforce Inbox での Classic テンプレートと Lightning メールテンプレートの使用)
- *IdeaExchange*: Add Salesforce Inbox Email Attachments Under Files not Attachments ([添付ファイル] ではなく [ファイル] での Salesforce Inbox メール添付ファイルの追加)
- *IdeaExchange*: Create Accounts from Salesforce Inbox (Salesforce Inbox からの取引先の作成)

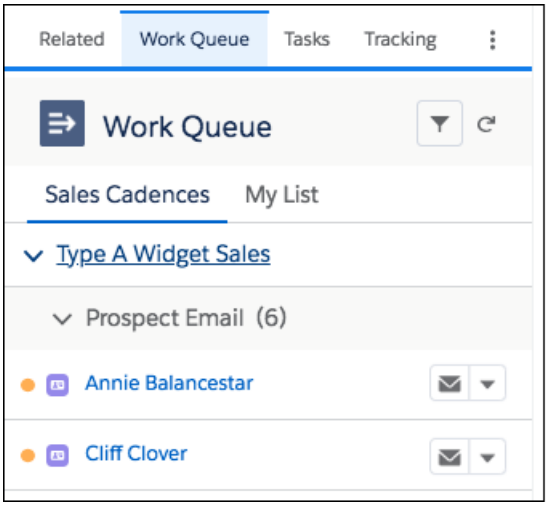
Gmail™ での High Velocity Sales 作業キューを使用した販売の加速化

Gmail で作業する営業担当は、High Velocity Sales の作業キュー機能にアクセスできます。Gmail でのアクセス権を持つ営業担当は、お気に入りの作業場所 (Lightning Experience またはメールアプリケーション) からキューを使用して作業できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: High Velocity Sales 権限セットおよび Inbox 権限セットを持つユーザは、メールアプリケーションペインに追加された作業キューを表示できます。

方法: High Velocity Sales と Inbox が有効化されたら、Lightning アプリケーションビルダーを使用して、[作業キュー] コンポーネントを含めるようにメールアプリケーションペインを更新します。最適な操作性を得るために、Gmail インテグレーションの [タブ] コンポーネントにタブを追加し、その新しいタブに [作業キュー] コンポーネントを配置することをお勧めします。High Velocity Sales 機能を使用している社内営業担当に割り当てられた各ペインにコンポーネントを追加します。



関連トピック:

- High Velocity Sales: セールスケイデンスと作業キューを使用して営業チームの作業を加速
- *Salesforce* ヘルプ: Gmail インテグレーションペインのカスタマイズ

セッション有効限が切れたときににログイン情報を要求

異なるセキュリティポリシーをサポートするため、営業担当の Salesforce セッションの有効期限が切れるたびに Salesforce ログイン情報の入力を要求するように Gmail インテグレーションを設定できるようになりました。デフォルトでは、Gmail™ とのインテグレーションはシングルサインオン (SSO) を使用して、最初のログイン後に Salesforce セッションを保持および復元します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [Gmail インテグレーションおよび同期] 設定ページで、**[Gmail と Salesforce の接続を保持]** を無効にします。Salesforce ユーザと Gmail ユーザの対応付けが削除され、各ユーザはインテグレーションで現在のセッションの有効期限が切れたときに Salesforce にログインするように求められます。

Google カレンダーから直接 Salesforce 情報にアクセス

営業担当は、カレンダービューで行動を表示または作成しているときに、一致する Salesforce データに簡単にアクセスできるようになりした。Salesforce データを表示するために、行動をダブルクリックして詳細にドリルインする必要はありません。

対象: この機能は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

Gmail™ からのメール受信者以外のユーザに対するメールの記録

以前は、営業担当はメールの [宛先] または [CC] 項目のアドレスに一致する Salesforce の取引先責任者、リード、および個人取引先に対してのみ Gmail からのメールを記録できました。メールには重要な情報が含まれている可能性があるため、営業担当はメッセージを任意のユーザレコードに記録できるようになりました。これにより、関連情報が Salesforce に記録されます。営業担当は Gmail インテグレーションペインでグローバル検索を使用して、他のユーザを検索できます。他のユーザレコードに記録されたメールは、そのレコードの活動タイムラインに含まれます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Lightning Sync: API を介して加えられた被招集者の変更を Google カレンダーで表示

API を介して被招集者項目に変更が加えられたときに、営業担当がそれらの変更を Google カレンダーで簡単に確認できるようになりました。その理由は、変更が Salesforce から自動的に同期されるためです。以前は、API を介して加えられた変更は、行動の追加項目への変更によってトリガされるまで同期されませんでした。被招集者の状況 (参加、不参加、または無回答) の同期に関する考慮事項は引き続き適用されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 被招集者の状況は Google から Salesforce には同期しますが、Salesforce から Google には同期しません。双方向に同期するように設定されたユーザの場合、Salesforce で被招集者の状況を更新する API フローの作成には注意してください。最終的に、Salesforce で加えられた更新は Google の元の状況で上書きされます。

Microsoft® とのインテグレーション: High Velocity Sales 作業キュー、メールの記録オプションの追加、一連の行動の同期

Outlook® 内から High Velocity Sales 作業キューで作業できます。Salesforce の任意のユーザに対してメールを記録できます。より少ない労力で一連の行動を最新の状態に保ちます。

このセクションの内容:

Outlook インテグレーション: High Velocity Sales 作業キュー、記録オプションの追加、2 要素認証と Outlook 2019 のサポート

High Velocity Sales 作業キューを Mircrosoft® Outlook® で使用できます。営業担当は、ユーザがメールに含まれない場合でも、Salesforce のユーザレコードに対してメールを記録できるようになりました。さらに、Outlook インテグレーションが Salesforce 2 要素認証設定をサポートするようになり、Outlook 2019 で使用できます。

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 一連の行動の同期 (正式リリース)、被招集者の同期の改善

一連の行動の同期が正式にリリースされました。Lightning Sync ユーザは、API を介して加えられた、行動の被招集者の変更を Microsoft カレンダーで表示できるようになりました。

Salesforce for Outlook: より多くのクラウドベースの代替製品、最新のインストール可能バージョン

手動のアップグレードにうんざりしていますか? 私たちもです! 最新の代替製品 (Outlook インテグレーション、Lightning Sync、Einstein 活動キャプチャ) への改善点を確認してください。今日がより良いものに移行する日かもしれません。または、慣れ親しんだ環境を使用し続けるには、Salesforce for Outlook v3.4.5 にアップグレードするときにセキュリティ強化とバグ修正を取得してください。

Connect for Office および標準差し込み印刷の廃止

Microsoft® Excel アドオン、Microsoft® Word アドオン、および標準差し込み印刷は使用できなくなります。営業担当がこれらの機能をまだ使用している場合は、製品の廃止に関する記事を参照して代替方法を確認してください。

Outlook インテグレーション: High Velocity Sales 作業キュー、記録オプションの追加、2 要素認証と Outlook 2019 のサポート

High Velocity Sales 作業キューを Mircrosoft® Outlook® で使用できます。営業担当は、ユーザがメールに含まれない場合でも、Salesforce のユーザレコードに対してメールを記録できるようになりました。さらに、Outlook インテグレーションが Salesforce 2 要素認証設定をサポートするようになり、Outlook 2019 で使用できます。

このセクションの内容:

Microsoft® Outlook® での High Velocity Sales 作業キューを使用した販売の加速化

Outlook で作業する営業担当は、High Velocity Sales の作業キュー機能にアクセスできます。Outlook でのアクセス権を持つ営業担当は、お気に入りの作業場所 (Lightning Experience またはメールアプリケーション) からキューを使用して作業できます。

Outlook® からのメール受信者以外のユーザに対するメールの記録

以前は、営業担当はメールの [宛先] または [CC] 項目のアドレスに一致する Salesforce の取引先責任者、リード、および個人取引先に対してのみ Microsoft® Outlook からのメールを記録できました。メールには重要な情報が含まれている可能性があるため、営業担当はメッセージを任意のユーザレコードに記録できるようになりました。これにより、関連情報が Salesforce に記録されます。営業担当は Gmail インテグレーションペインでグローバル検索を使用して、他のユーザを検索できます。他のユーザレコードに記録されたメールは、そのレコードの活動タイムラインに含まれます。

Outlook® 2019 での Outlook インテグレーションの実行

Outlook インテグレーションが Outlook 2019 でサポートされるようになりました。他の Outlook バージョン同様、インテグレーションが期待どおりに機能するように最新ビルドの Outlook 2019 を実行することをお勧めします。

Microsoft® Outlook® で Salesforce 2 要素認証を使用

営業担当が Outlook を Salesforce に接続するときにユーザ名、パスワード、および 3 つ目のセキュリティコンポーネント (コードなど) を要求することで、セキュリティを強化します。2 要素認証は Salesforce でこれまでも使用されていました。今回のリリースで、Salesforce 用に設定した 2 要素認証が Outlook インテグレーションに適用されるようになりました。

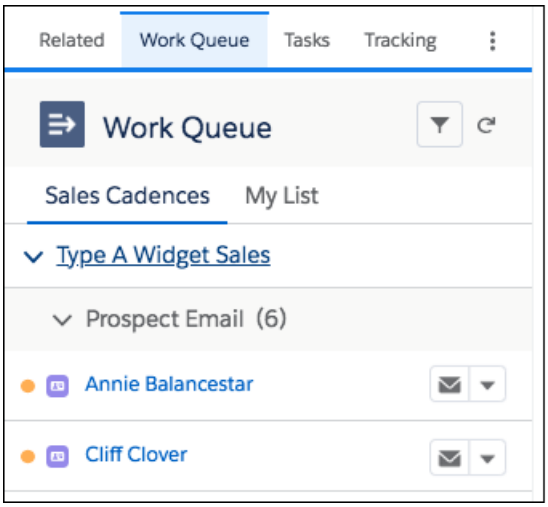
Microsoft® Outlook® での High Velocity Sales 作業キューを使用した販売の加速化

Outlook で作業する営業担当は、High Velocity Sales の作業キュー機能にアクセスできます。Outlook でのアクセス権を持つ営業担当は、お気に入りの作業場所 (Lightning Experience またはメールアプリケーション) からキューを使用して作業できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: High Velocity Sales 権限セットおよび Inbox 権限セットを持つユーザは、メールアプリケーションペインに追加された作業キューを表示できます。

方法: High Velocity Sales と Inbox が有効化されたら、Lightning アプリケーションビルダーを使用して、[作業キュー] コンポーネントを含めるようにメールアプリケーションペインを更新します。最適な操作性を得るために、Outlook インテグレーションの [タブ] コンポーネントにタブを追加し、その新しいタブに [作業キュー] コンポーネントを配置することをお勧めします。High Velocity Sales 機能を使用している社内営業担当に割り当てられた各ペインにコンポーネントを追加します。



関連トピック:

- High Velocity Sales: セールスケイデンスと作業キューを使用して営業チームの作業を加速
- *Salesforce* ヘルプ: Outlook インテグレーションペインのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Outlook® からのメール受信者以外のユーザに対するメールの記録

以前は、営業担当はメールの [宛先] または [CC] 項目のアドレスに一致する Salesforce の取引先責任者、リード、および個人取引先に対してのみ Microsoft® Outlook からのメールを記録できました。メールには重要な情報が含まれている可能性があるため、営業担当はメッセージを任意のユーザレコードに記録できるようになりました。これにより、関連情報が Salesforce に記録されます。営業担当は Gmail インテグレーションペインでグローバル検索を使用して、他のユーザを検索できます。他のユーザレコードに記録されたメールは、そのレコードの活動タイムラインに含まれます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Outlook® 2019 での Outlook インテグレーションの実行

Outlook インテグレーションが Outlook 2019 でサポートされるようになりました。他の Outlook バージョン同様、インテグレーションが期待どおりに機能するように最新ビルドの Outlook 2019 を実行することをお勧めします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Microsoft® Outlook® で Salesforce 2 要素認証を使用

営業担当が Outlook を Salesforce に接続するときにユーザ名、パスワード、および 3 つ目のセキュリティコンポーネント (コードなど) を要求することで、セキュリティを強化します。2 要素認証は Salesforce でこれまでも使用されていました。今回のリリースで、Salesforce 用に設定した 2 要素認証が Outlook インテグレーションに適用されるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この機能は、すべての Salesforce インスタンスが Spring '19 にアップグレードされた後、使用できます。正確な日付については、trust.salesforce.com を参照してください。

対象ユーザ: 2 要素認証は、Outlook とのインテグレーションを使用するすべての Salesforce ユーザが使用できます。ただし、Outlook for Mac の制限により、Outlook for Mac ユーザに対して 2 要素認証はサポートされていません。

関連トピック:

- *Salesforce* セキュリティガイド: 2 要素認証の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 一連の行動の同期 (正式リリース)、被招集者の同期の改善

一連の行動の同期が正式にリリースされました。Lightning Sync ユーザは、API を介して加えられた、行動の被招集者の変更を Microsoft カレンダーで表示できるようになりました。

このセクションの内容:

- 一連の行動の同期 (正式リリース)
  一連の行動の同期が正式リリースされ、営業担当の一連の新しい行動と更新された行動を Salesforce と Microsoft® カレンダーとの間で同期できるようになりました。
- API を介して加えられた被招集者の変更を Microsoft カレンダーで表示
  API を介して被招集者項目に変更が加えられたときに、営業担当がそれらの変更を Microsoft カレンダーで簡単に確認できるようになりました。その理由は、変更が Salesforce から自動的に同期されるためです。以前は、API を介して加えられた変更は、行動の追加項目への変更によってトリガされるまで同期されませんでした。被招集者の状況 (参加、不参加、または無回答) の同期に関する考慮事項は引き続き適用されます。

一連の行動の同期 (正式リリース)

一連の行動の同期が正式リリースされ、営業担当の一連の新しい行動と更新された行動を Salesforce と Microsoft® カレンダーとの間で同期できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 営業担当の同期設定で [一連の行動を同期] を選択します。Lightning Experience、Salesforce アプリケーション、または Microsoft カレンダーで作成された一連の新しい行動と更新された行動は、営業担当の行動の同期方向に従って同期します。

営業担当が一連の行動から個別の行動を削除した場合、Lightning Sync はカレンダーを一致させるため、削除された行動を同期の方向に従って他のアプリケーションからシームレスに削除します。スタンドアロンの行動または一連の行動とは異なり、一連の行動の中の個別の行動は、営業担当の同期設定で [同期された行動を削除] 設定が選択されているかどうかに関係なく削除されます。営業担当の [同期された行動を削除] を選択した場合、一連の行動から個別の行動を削除すると行動は両方のシステムから削除されることを営業担当に伝えてください。

関連トピック:

- 一連の行動のスケジュール (正式リリース)
- *Salesforce ヘルプ*: 営業担当の Lightning Sync for Microsoft® Exchange 設定の定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *IdeaExchange*: Sync Recurring Events with Lightning Sync for Microsoft Exchange (Lightning Sync for Microsoft Exchange との定期的な行動の同期)

API を介して加えられた被招集者の変更を Microsoft カレンダーで表示

API を介して被招集者項目に変更が加えられたときに、営業担当がそれらの変更を Microsoft カレンダーで簡単に確認できるようになりました。その理由は、変更が Salesforce から自動的に同期されるためです。以前は、API を介して加えられた変更は、行動の追加項目への変更によってトリガされるまで同期されませんでした。被招集者の状況 (参加、不参加、または無回答) の同期に関する考慮事項は引き続き適用されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 被招集者の状況は Exchange から Salesforce には同期しますが、Salesforce から Exchange には同期しません。双方向に同期するように設定されたユーザの場合、Salesforce で被招集者の状況を更新する API フローの作成には注意してください。最終的に、Salesforce で加えられた更新は Exchange の元の状況で上書きされます。

Salesforce for Outlook: より多くのクラウドベースの代替製品、最新のインストール可能バージョン

手動のアップグレードにうんざりしていますか? 私たちもです! 最新の代替製品 (Outlook インテグレーション、Lightning Sync、Einstein 活動キャプチャ) への改善点を確認してください。今日がより良いものに移行する日かもしれません。または、慣れ親しんだ環境を使用し続けるには、Salesforce for Outlook v3.4.5 にアップグレードするときにセキュリティ強化とバグ修正を取得してください。

このセクションの内容:

最新のクラウドベースの代替製品の探索

手動による製品インストールを排除する準備ができている場合、クラウドベースの Microsoft インテグレーション製品の最新の利点を比較してください。Outlook インテグレーションと Lightning Sync に加えて、Einstein 活動キャプチャもオプションに追加されました。これらの製品はリリースごとに最新の機能と改善が含まれて自動的に更新されるため、優れています。手動アップグレードはもう必要ありません。

Salesforce for Outlook v3.4.5 へのアップグレード

Summer '18 でリリースされた Salesforce for Outlook v3.4.3 の次に利用可能なバージョンは、Salesforce for Outlook v3.4.5 です。セキュリティを強化して Microsoft® Outlook® のクラッシュを防ぎます。詳細は、2019 年 1 月上旬に Salesforce for Outlook の Trailblazer Community でバージョン固有のリリースノートを確認してください。

最新のクラウドベースの代替製品の探索

手動による製品インストールを排除する準備ができている場合、クラウドベースの Microsoft インテグレーション製品の最新の利点を比較してください。Outlook インテグレーションと Lightning Sync に加えて、Einstein 活動キャプチャもオプションに追加されました。これらの製品はリリースごとに最新の機能と改善が含まれて自動的に更新されるため、優れています。手動アップグレードはもう必要ありません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: お気に入りの機能、特定のシステムサポート、または簡素化された設定のいずれを期待している場合でも、以下の改善点が会社のニーズを満たすかどうかを確認してください。

- Einstein 活動キャプチャでは、取引先責任者と行動が同期されるほか、生産性を向上させるメールと行動のキャプチャが提供されます。設定と接続の要件が複雑ではないため、Einstein 活動キャプチャはユーザに適した同期機能を提供できます。
- Lightning Sync では、Lightning Experience と Salesforce アプリケーションで作業しているユーザの一連の行動が同期されます。
- Outlook インテグレーションでは、Salesforce for Outlook サイドパネルでは使用できない生産性機能が提供されます。新機能には、High Velocity Sales 作業キューと、Salesforce のあらゆるユーザへのメールの記録が含まれます。

方法: 詳細はリリースノートと比較ドキュメントを参照してください。適切な製品が決まったら、設定ドキュメントから開始してください。

関連トピック:

- Einstein 活動キャプチャ: 新しい同期機能、拡張された共有、改善された総計値、メールインサイトの機能強化
- Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 一連の行動の同期 (正式リリース)、被招集者の同期の改善
- Outlook インテグレーション: High Velocity Sales 作業キュー、記録オプションの追加、2 要素認証と Outlook 2019 のサポート
- *Salesforce* ヘルプ: 適切なメールインテグレーション製品の選択 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *Salesforce* ヘルプ: Einstein 活動キャプチャの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Trailhead*: Outlook インテグレーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce for Outlook v3.4.5 へのアップグレード

Summer '18 でリリースされた Salesforce for Outlook v3.4.3 の次に利用可能なバージョンは、Salesforce for Outlook v3.4.5 です。セキュリティを強化して Microsoft® Outlook® のクラッシュを防ぎます。詳細は、2019 年 1 月上旬に Salesforce for Outlook の Trailblazer Community でバージョン固有のリリースノートを確認してください。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

- *Salesforce Trailblazer Community*: Salesforce for Outlook リリースノート v3.4.5 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Connect for Office および標準差し込み印刷の廃止

Microsoft® Excel アドオン、Microsoft® Word アドオン、および標準差し込み印刷は使用できなくなります。営業担当がこれらの機能をまだ使用している場合は、製品の廃止に関する記事を参照して代替方法を確認してください。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: Connect for Office の Excel Add-In が廃止されます。
- *ナレッジ記事*: Connect for Office の Word Add-in および標準差し込み印刷が廃止されます

Salesforce CPQ と Salesforce Billing: 拡張された請求書機能、修正オプション、使用量サマリーのための消費スケジュール

Salesforce CPQ に使用量ベースの価格設定を取り込んで、エバーグリーンサブスクリプションのカスタム請求可能単価を定義します。見積品目エディタ内で取引先のいずれかの契約からのサブスクリプションを修正します。消費スケジュールを使用して、使用量サマリーを評価します。消費スケジュールおよび終了日を持たないサブスクリプションを使用して、使用量サマリーの請求書を作成することで、請求書機能を拡張します。

このセクションの内容:

Salesforce CPQ: 使用量サマリー用の消費スケジュール、より多くの修正オプション
使用量ベースの価格設定を Salesforce CPQ に取り込んで、使用量の価格を設定するための消費レートを定義します。見積プロセスが改善されました。多くの見積品目を一度に削除する場合、より大きなバンドルがサポートされ、パフォーマンスが向上します。

Salesforce Billing: 使用量サマリーおよびエバーグリーンサブスクリプション用の新しい請求書オプション
エバーグリーンサブスクリプションの請求書を作成することで、請求書機能を拡張します。消費スケジュールを使用して、使用量サマリーを評価し、使用量サマリーに対してどのように請求書を作成するかをカスタマイズします。エバーグリーンサブスクリプションの請求可能単価を上書きし、注文商品予約に基づいて収益スケジュールを作成します。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects and Fields for Salesforce CPQ and Billing Spring '19 (Salesforce CPQ および Billing Spring '19 の新しいオブジェクトと項目) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ: 使用量サマリー用の消費スケジュール、より多くの修正オプション

使用量ベースの価格設定を Salesforce CPQ に取り込んで、使用量の価格を設定するための消費レートを定義します。見積プロセスが改善されました。多くの見積品目を一度に削除する場合、より大きなバンドルがサポートされ、パフォーマンスが向上します。

メモ: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

消費スケジュールを使用した使用量の価格設定 (正式リリース)
定義済みの消費レートに基づいて使用量の価格を設定します。以前は、営業担当は、価格一覧を使用して、注文商品ごとに 1 つの使用量レートセットに対してのみ価格を定義できました。消費スケジュールは価格設定の柔軟性を高めます。複数の商品にまたがって消費スケジュールを適用したり、複数の消費スケジュールを 1 つの商品に接続したりします。

見積品目エディタでのサブスクリプションの修正

見積品目エディタに修正見積用の [サブスクリプションを修正] ボタンを追加しました。営業担当が見積品目エディタで [サブスクリプションを修正] をクリックすると、Salesforce CPQ に [サブスクリプションを修正] ページが表示されます。このページで、営業担当は、見積の取引先の修正可能なサブスクリプションを選択して修正見積に追加できます。この機能は、営業担当が別の契約から修正見積にサブスクリプションを取り込む場合に役立ちます。

Salesforce CPQ のその他の変更

見積品目エディタで、より簡単な契約の修正、より大きなバンドルの作成、より多くの品目の削除を行うことができます。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects and Fields for Salesforce CPQ and Billing Spring '19 (Salesforce CPQ および Billing Spring '19 の新しいオブジェクトと項目) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

消費スケジュールを使用した使用量の価格設定 (正式リリース)

定義済みの消費レートに基づいて使用量の価格を設定します。以前は、営業担当は、価格一覧を使用して、注文商品ごとに1つの使用量レートセットに対してのみ価格を定義できました。消費スケジュールは価格設定の柔軟性を高めます。複数の商品にまたがって消費スケジュールを適用したり、複数の消費スケジュールを1つの商品に接続したりします。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

このセクションの内容:

消費スケジュール価格の定義

使用量の単位を設定し、使用量に基づいて異なるレートを設定できます。たとえば、携帯電話プランで 2 GBを超えるデータを使用した顧客に低いレートを提供し、10GBを超えた場合にさらに低いレートを提供します。

Salesforce CPQ および Salesforce Billing での消費スケジュールの使用

以前は、消費スケジュールは Salesforce でのみ使用できました。CPQ および Billing の管理パッケージサポートによって、消費スケジュールを Salesforce CPQ および Salesforce Billing のライフサイクル全体に取り込むことができます。消費スケジュールを持つ使用量商品の見積、契約、注文、請求処理ができるようになりました。

消費スケジュールの請求ルールを使用した使用量請求のカスタマイズ

請求ルール、税金ルール、収益認識ルールを消費スケジュールに追加しました。親のサブスクリプション注文商品からの各種ルールを使用して使用量サマリーの請求書を作成できるようになりました。

カスタムスクリプトでの消費スケジュールと消費レートの使用

会社のニーズをより的確に満たすように消費スケジュールと消費レートにさらに機能を追加します。消費レートおよび消費スケジュールオブジェクトから最大 10 個の項目をカスタム JavaScript コードに含めます。

Salesforce CPQ と Salesforce Billing 用に消費スケジュールを有効化

Salesforce CPQ と Salesforce Billing で消費スケジュールを使用するには、Salesforce CPQ パッケージ設定で消費スケジュールを有効にして、ユーザに適切な権限を付与します。

消費スケジュール価格の定義

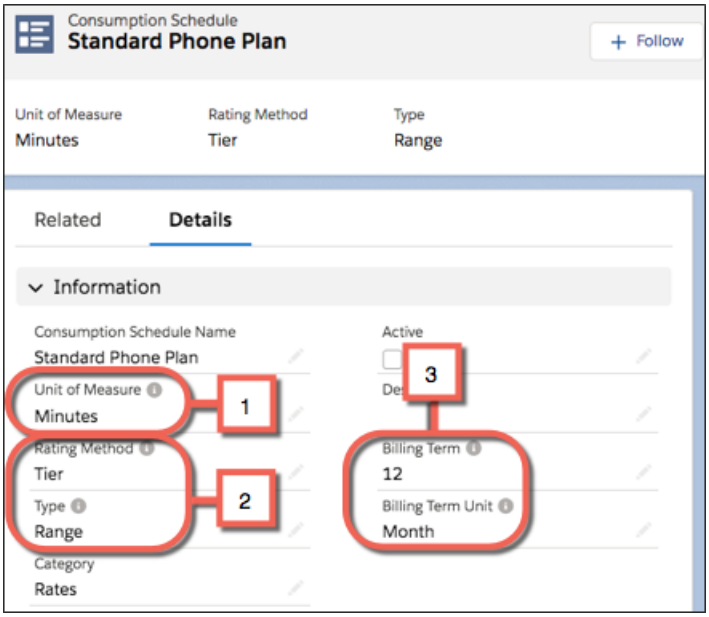
使用量の単位を設定し、使用量に基づいて異なるレートを設定できます。たとえば、携帯電話プランで2GBを超えるデータを使用した顧客に低いレートを提供し、10 GB を超えた場合にさらに低いレートを提供します。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、営業担当は、価格一覧を使用して、注文商品ごとに 1 つの使用量レートセットに対してのみ価格を定義できました。消費スケジュールは価格設定の柔軟性を高めます。複数の商品にまたがって消費スケジュールを適用したり、複数の消費スケジュールを 1 つの商品に接続したりします。

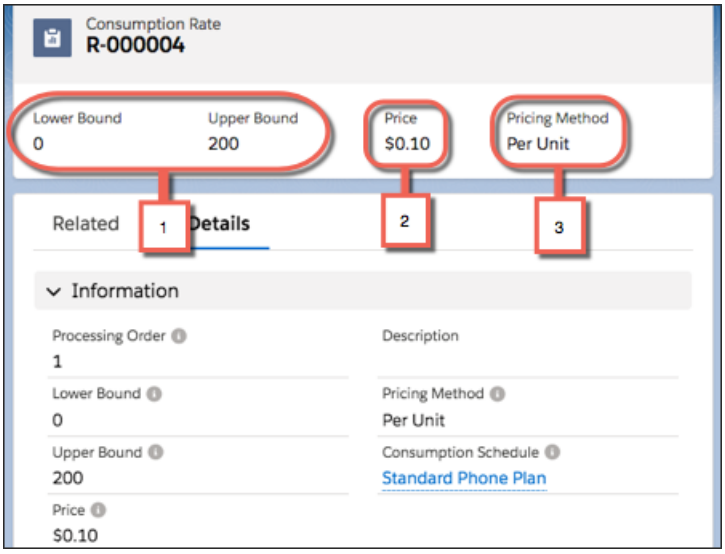
方法: 使用量ベースの価格設定を有効にするには、CPQ 管理パッケージをインストールするか、CPQ 管理パッケージを最新バージョンに更新します。次に、CPQ パッケージ設定で使用量ベースの価格設定を有効にします。[設定]から、［クイック検索］ボックスに「*インストール済みパッケージ*」と入力し、[インストール済みパッケージ] を選択します。CPQ パッケージを見つけ、[設定] をクリックします。[価格設定と計算] タブに移動します。[使用量ベースの価格設定を有効化] を選択します。

営業担当はレートプランに同意したら、Salesforce で消費スケジュールオブジェクトを使用してレートをグループ化します。



消費スケジュールは、すべてのレートの測定単位 (1) と評価方法 (2) を定義します。1 つの消費スケジュールを複数の商品と関連付けたり、複数の消費スケジュールを複数の使用種別がある1つの商品と関連付けたりできます。また、消費スケジュールは Salesforce Billing で商品の請求書を作成するために使用する請求サイクル (3) も定義します。

消費スケジュールには、消費レートが少なくとも 1 つ必要です。



消費レートは、単位ベースの使用量の境界 (1) を設定し、その境界内に入っている商品の価格レート (2) を定義します。価格方式 (3) は、その境界内の使用量の価格を定額と単位ごとのどちらで設定するかを指定します。たとえば、電話のデータプランの消費スケジュールに、最初の 200 分は 1 分あたり $0.10、201 分目からは 1 分あたり $0.20 の 2 つの消費レートが含まれるとします。

顧客の使用量商品の請求書を作成すると、Salesforce Billing は使用量サマリーの価格を 2 つの要素に基づいて計算します。

- 使用期間中の顧客の使用量
- 各使用量がどの消費レート内にあるか

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:使用量ベースの商品 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:消費スケジュール価格レートの定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:消費レートの関係 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:使用量ベースの価格設定の使用事例 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:基本的な使用量価格設定の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ および Salesforce Billing での消費スケジュールの使用

以前は、消費スケジュールは Salesforce でのみ使用できました。CPQ および Billing の管理パッケージサポートによって、消費スケジュールを Salesforce CPQ および Salesforce Billing のライフサイクル全体に取り込むことができます。消費スケジュールを持つ使用量商品の見積、契約、注文、請求処理ができるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ および Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforceのアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: 使用量ベースの価格設定を有効にするには、CPQ 管理パッケージをインストールするか、CPQ 管理パッケージを最新バージョンに更新します。次に、CPQ パッケージ設定で使用量ベースの価格設定を有効にします。[設定]から、［クイック検索］ボックスに「*インストール済みパッケージ*」と入力し、[インストール済みパッケージ] を選択します。CPQ パッケージを見つけ、[設定] をクリックします。[価格設定と計算] タブに移動します。[使用量ベースの価格設定を有効化] を選択します。

Salesforceは、商品の消費スケジュールと呼ばれるリンクオブジェクトを使用して、商品と消費スケジュール間のリレーションを定義します。商品の消費スケジュールには商品との一対多リレーションがあるため、同じ商品に複数のスケジュールを関連付けることができます。また、1 つの消費スケジュールを複数の商品に関連付けることもできます。

使用量価格は、商品に消費スケジュールを関連付けた時点で開始されます。この関連付けにより、営業担当は見積の作成中に見積品目エディタで使用量価格を確認および編集できます。営業担当がCPQワークフローを進むと、Salesforce CPQ は、商品から作成された見積品目、サブスクリプション、および注文商品に対して一意の消費スケジュールを作成します。使用量を使用量サマリーにアップロードすると、Salesforce CPQ は注文商品の消費スケジュールから価格を設定します。その後、使用量サマリーの請求書を作成できます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: 消費スケジュールのデータフロー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 見積品目エディタでの消費スケジュールの表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 消費スケジュールを使用した使用量サマリーの評価 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 消費スケジュールを使用した商品の契約 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 消費スケジュールを使用した商品の修正 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 消費スケジュールを使用した商品の更新 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

消費スケジュールの請求ルールを使用した使用量請求のカスタマイズ

請求ルール、税金ルール、収益認識ルールを消費スケジュールに追加しました。親のサブスクリプション注文商品からの各種ルールを使用して使用量サマリーの請求書を作成できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ および Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforceのアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: 以前は、使用量商品で価格一覧を使用した場合、Salesforce Billing は注文商品とその使用量サマリーの請求書を注文商品のルールに基づいて作成していました。消費スケジュールに基づく独立した請求ルールセットを使用すると、使用量サマリーの請求書作成、税金計算、収益認識の柔軟性が高まります。たとえば、使用量注文商品に課税し、その使用量サマリーは非課税にすることができます。また、使用量サマリーのトランザクションを使用量注文商品のトランザクションとは別の GL 取引先に記録することもできます。

方法: 使用量ベースの価格設定を有効にするには、CPQ 管理パッケージをインストールするか、CPQ 管理パッケージを最新バージョンに更新します。次に、CPQ パッケージ設定で使用量ベースの価格設定を有効にします。[設定]から、[クイック検索] ボックスに *「インストール済みパッケージ」* と入力し、[インストール済みパッケージ] を選択します。CPQ パッケージを見つけ、[設定] をクリックします。[価格設定と計算] タブに移動します。[使用量ベースの価格設定を有効化] を選択します。

消費スケジュールを作成する場合、[請求ルール]、[課税ルール]、および [収益認識ルール] 項目を指定します。営業担当が、消費スケジュールに関連する使用量ベースの商品を注文すると、Salesforce Billing は、元の消費スケジュールからすべてのルール項目値を継承した、注文商品の消費スケジュールを作成します。注文商品の各使用量サマリーは注文商品の消費スケジュールを参照します。Salesforce Billing が使用量ベースの注文商品の請求書を作成する場合、使用量サマリーを注文商品の消費スケジュールのルールと処理に基づいて請求します。一方、注文商品は注文商品のルールと処理に基づいて請求します。

カスタムスクリプトでの消費スケジュールと消費レートの使用

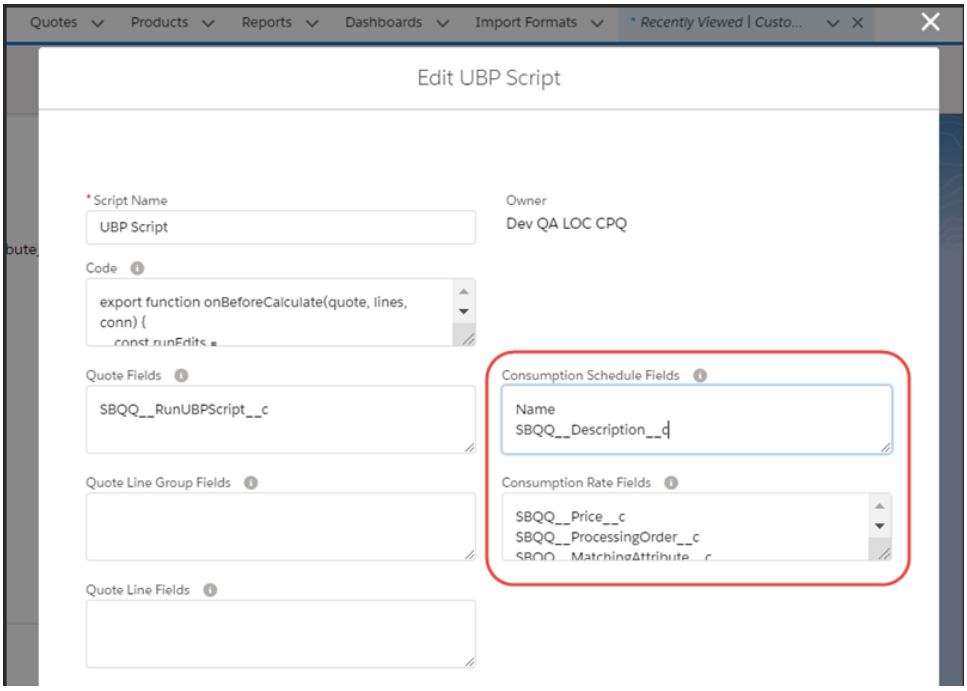
会社のニーズをより的確に満たすように消費スケジュールと消費レートにさらに機能を追加します。消費レートおよび消費スケジュールオブジェクトから最大 10 個の項目をカスタム JavaScript コードに含めます。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: 消費スケジュールを使用すると、使用量ベースの商品の価格設定が柔軟になりますが、ビジネスプロセスは会社ごとに異なります。会社のニーズをより的確に満たすように、カスタムスクリプトを使用して機能をさらに追加します。

方法: 消費スケジュールオブジェクトから最大 10 個の項目の API 参照名を入力し、消費レートオブジェクトから最大 10 個の項目の API 参照名を入力します。カスタムスクリプトを使用するには、CPQ 見積計算プラグインからカスタムスクリプトをコールします。

ヒント: スクリプトで必要とされない項目を入力しないでください。入力する項目が多いほど、スクリプトの実行時間が長くなります。



Salesforce CPQ と Salesforce Billing 用に消費スケジュールを有効化

Salesforce CPQ と Salesforce Billing で消費スケジュールを使用するには、Salesforce CPQ パッケージ設定で消費スケジュールを有効にして、ユーザに適切な権限を付与します。

1. Salesforce CPQ パッケージ設定で使用量ベースの価格設定を有効にします。
   a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*インストール済みパッケージ*」と入力し、[インストール済みパッケージ] を選択します。
   b. Salesforce CPQ パッケージを見つけ、[設定] をクリックします。
   c. [価格設定と計算] タブを選択します。
   d. [使用量ベースの価格設定を有効化] を選択します。
2. 消費スケジュールが必要なユーザに、以下のオブジェクトの「作成」、「参照」、「編集」、および「削除」権限があることを確認します。
   - 消費スケジュール
   - 契約品目の消費スケジュール (Service Cloud for Salesforce CPQ のみ)
   - 契約品目の消費レート (Service Cloud for Salesforce CPQ のみ)
   - ローカライズ (組織で CPQ 翻訳を使用している場合)
   - 注文商品の消費スケジュール
   - 注文商品の消費レート
   - 見積品目の消費スケジュール
   - 見積品目の消費レート
   - サブスクリプションの消費スケジュール (Service Cloud for Salesforce CPQ では不要)
   - サブスクリプションの消費レート (Service Cloud for Salesforce CPQ では不要)

見積品目エディタでのサブスクリプションの修正

見積品目エディタに修正見積用の[サブスクリプションを修正]ボタンを追加しました。営業担当が見積品目エディタで [サブスクリプションを修正] をクリックすると、Salesforce CPQ に [サブスクリプションを修正] ページが表示されます。このページで、営業担当は、見積の取引先の修正可能なサブスクリプションを選択して修正見積に追加できます。この機能は、営業担当が別の契約から修正見積にサブスクリプションを取り込む場合に役立ちます。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、修正見積で営業担当が修正できるのは、元の見積から取得した納入商品とサブスクリプションのみでした。

方法: 修正見積で、[商品を追加] ドロップダウンボタンを選択し、[サブスクリプションを修正] を選択します。

Salesforce CPQ のその他の変更

見積品目エディタで、より簡単な契約の修正、より大きなバンドルの作成、より多くの品目の削除を行うことができます。

このセクションの内容:

修正時に必須になった [バンドル構造を保持] 項目
ユーザが契約を修正する前に契約の [バンドル構造を保持] 項目を選択することが必須になりました。以前は、[バンドル構造を保持] が選択されていない状態で営業担当が契約またはその関連商談から修正を行っても、Salesforce CPQ は修正バンドルの設定を無視して、修正見積でスタンドアロン見積品目に変換していました。その結果、修正見積で検証エラーや不要な価格変更が発生し、商品ルールや価格ルールが無視されていました。

見積品目の迅速な削除
大量の削除 (150 以上の見積品目の削除など) がよりすばやく完了するように見積品目エディタの機能を拡張しました。

見積プレビューページからの見積ドキュメント PDF のダウンロード
[見積プレビュー] ページから CPQ 見積ドキュメントの PDF コピーをダウンロードできるようになりました。

修正時に必須になった [バンドル構造を保持] 項目

ユーザが契約を修正する前に契約の [バンドル構造を保持] 項目を選択することが必須になりました。以前は、[バンドル構造を保持] が選択されていない状態で営業担当が契約またはその関連商談から修正を行っても、Salesforce CPQ は修正バンドルの設定を無視して、修正見積でスタンドアロン見積品目に変換していました。その結果、修正見積で検証エラーや不要な価格変更が発生し、商品ルールや価格ルールが無視されていました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: [バンドル構造を保持] 項目により、修正見積のバンドルの設定が営業担当が修正した見積と同じになります。

方法: Salesforce CPQ Spring '19 にアップグレードする前に、修正可能にするすべての契約で [バンドル構造を保持] 項目が選択されていることを確認します。

営業担当が取引先を作成すると、Salesforce CPQ 品目エディタのパッケージ設定の [バンドル構造を保持] の値が継承されます。営業担当が契約を作成すると、その親取引先の [バンドル構造を保持] の値が継承されます。すべての新規取引先および契約で [バンドル構造を保持] が選択されるように、パッケージ設定で [バンドル構造を保持] を選択することをお勧めします。どのレベルの [バンドル構造を保持] の値も、レコード作成時に関連レコードにのみ影響します。たとえば、取引先の項目を選択しても、その取引先の現在の契約の [バンドル構造を保持] は選択されません。現在の契約の [バンドル構造を保持] を更新するには、プロセスビルダーまたはワークフロールールを使用することをお勧めします。

見積品目の迅速な削除

大量の削除 (150 以上の見積品目の削除など) がよりすばやく完了するように見積品目エディタの機能を拡張しました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 複数品目削除を有効化している組織。

見積プレビューページからの見積ドキュメント PDF のダウンロード

[見積プレビュー] ページから CPQ 見積ドキュメントの PDF コピーをダウンロードできるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: CPQ 見積ドキュメントのプレビューが完了したら、その PDF を容易にダウンロードできるようになりました。[見積プレビュー] ページでダウンロードアイコンをクリックします。



Salesforce Billing: 使用量サマリーおよびエバーグリーンサブスクリプション用の新しい請求書オプション

エバーグリーンサブスクリプションの請求書を作成することで、請求書機能を拡張します。消費スケジュールを使用して、使用量サマリーを評価し、使用量サマリーに対してどのように請求書を作成するかをカスタマイズします。エバーグリーンサブスクリプションの請求可能単価を上書きし、注文商品予約に基づいて収益スケジュールを作成します。

重要: Salesforce Billing 向け Avalara を使用している場合、Salesforce Billing Spring '19 をインストールした後に Version 3.0 にアップグレードする必要があります。

対象: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforceのアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

Salesforce Billing Spring '19 のインストール前の手順
Salesforce Billing Spring '19 にアップグレードする前に、組織が主要な互換性要件に従っていることを確認します。

Salesforce Billing Spring '19 へのアップグレードの完了
Salesforce Billing Spring '19 にアップグレードしたら、営業チームがパッケージからすべての機能を取得できるように主要な権限とレコードを必ず変更します。

消費スケジュールを使用した使用量サマリーの評価および請求書
請求期間に消費された使用量に基づいて請求書を作成することで、請求書機能を拡張します。消費スケジュールを使用してサブスクリプション商品を注文すると、Salesforce Billing はその使用量レコードを評価し、使用量と注文商品の消費スケジュールに基づいて価格を計算します。その後、使用量を個別の請求書品目として請求できます。

終了日のないサブスクリプションの請求書およびキャンセル
エバーグリーンサブスクリプションをより詳細に制御します。Salesforce Billing でエバーグリーンサブスクリプションの請求書処理およびキャンセルを行うことができるようになりました。

注文商品の予約金額に基づく収益スケジュールの作成
注文商品の収益スケジュールの作成に使用する請求項目を拡張しました。注文商品の予約金額を収益スケジュールの合計金額の取得元として使用できるようになりました。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects and Fields for Salesforce CPQ and Billing Spring '19 (Salesforce CPQ および Billing Spring '19 の新しいオブジェクトと項目) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Billing Spring '19 のインストール前の手順

Salesforce Billing Spring '19 にアップグレードする前に、組織が主要な互換性要件に従っていることを確認します。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: すべての組織の支払の実行および請求書の実行のバッチプロセスを一時停止します。これらは、Salesforce Billing Spring '19 のインストール後に再開できます。

Salesforce Billing Spring '19 へのアップグレードの完了

Salesforce Billing Spring '19 にアップグレードしたら、営業チームがパッケージからすべての機能を取得できるように主要な権限とレコードを必ず変更します。

重要: Salesforce Billing 向け Avalara を使用している場合、Salesforce Billing Spring '19 をインストールした後に Version 3.0 にアップグレードする必要があります。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: 次の手順に従います。

1. 注文商品オブジェクトで、SBQQ__OrderItemConsumptionSchedule__c 項目に対する「作成」、「書き込み」、「更新」、および「削除」権限を提供します。
2. デフォルトでは、Salesforce Billing Winter '19 で作成され、有効化されたエバーグリーンサブスクリプション注文商品には、次の請求日がありません。このエバーグリーンサブスクリプション注文商品の請求書を Salesforce Billing Spring '19 で作成するには、エバーグリーンサブスクリプション注文商品を無効化した後、有効化して、次の請求日を計算します。注文商品が契約されたため無効化できない場合は、次の請求日を請求書処理のニーズに基づいて手動で追加します。

   重要: ほとんどの場合、注文商品の次の請求日を手動で変更することは推奨されません。この変更を推奨するのは、このアップグレードシナリオの場合のみです。

消費スケジュールを使用した使用量サマリーの評価および請求書

請求期間に消費された使用量に基づいて請求書を作成することで、請求書機能を拡張します。消費スケジュールを使用してサブスクリプション商品を注文すると、Salesforce Billing はその使用量レコードを評価し、使用量と注文商品の消費スケジュールに基づいて価格を計算します。その後、使用量を個別の請求書品目として請求できます。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: 以前は、Salesforce Billing では、消費スケジュールに関連する注文商品の使用量サマリーが作成されませんでした。ユーザは価格一覧に関連する使用量サマリーの請求書のみを作成できましたが、使用量価格の設定に関するオプションは少ないものでした。

方法: 使用量商品を注文すると、Salesforce Billing は使用量商品の元の消費スケジュールに基づいて注文商品の消費スケジュールを作成します。その後、Salesforce Billing は、注文商品の日付範囲と、注文商品の消費スケジュールの請求期間に基づいて、注文商品の使用量サマリーを作成します。このスケジュールの請求期間は1つの使用量サマリーの長さを表し、Salesforce Billing は注文商品の開始日から終了日までこの期間を繰り返します。たとえば、注文商品を 2019 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日まで毎月請求します。注文商品の消費スケジュールの期間が 1 か月の場合、注文商品の期間中、1 か月の使用量サマリーが毎月作成されます。この設定により、合計 12 個の使用量サマリーが作成されます。

使用量を使用量サマリーにアップロードすると、Salesforce Billing は、使用量サマリーの数量が注文商品の消費レート内のどの場所に入るかに基づいて、未請求の小計に対する価格を設定します。たとえば、使用量サマリーの数量が 50 であり、注文商品の消費レートの 1 つに、1 ～ 100 単位あたり $0.50 の価格が記載されているとします。この場合、使用量サマリーの未請求の小計は $25 になります。

使用量サマリーには、親の注文商品から独立した [次の請求日] があります。Salesforce Billing が使用量サマリーを作成すると、次の請求日がサマリーの終了日と同じ日付に設定されます。この設定によって、使用量サマリーの請求を親のサブスクリプションと同じ請求書で行うことも、別個の請求書で行うこともできます。たとえば、注文商品の請求サイクルを月次に設定できます。次に、注文商品の消費スケジュールの期間を3か月に設定することで、使用量サマリーに四半期の請求サイクルを与えることができます。注文商品とその使用量サマリーの [次の請求日] が同じ場合、それらは 1 つの請求書の個別の請求書品目として請求されます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:消費スケジュールを使用した使用量サマリーの請求書(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:消費スケジュールを使用した使用量サマリーの評価(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

終了日のないサブスクリプションの請求書およびキャンセル

エバーグリーンサブスクリプションをより詳細に制御します。Salesforce Billing でエバーグリーンサブスクリプションの請求書処理およびキャンセルを行うことができるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

このセクションの内容:

終了日のないサブスクリプションの請求書

エバーグリーンサブスクリプションの請求書を作成できるようになりました。注文商品にエバーグリーンサブスクリプション種別が含まれる場合、Salesforce Billing はその各請求期間の請求書を無期限に作成します。これにより、顧客がキャンセルを決定するまで顧客のサブスクリプションを請求できます。契約終了時にサブスクリプションを更新しないため、更新プロセスで必要になる追加のレコードについて心配する必要はありません。

キャンセルされたエバーグリーンサブスクリプションの請求書

顧客は請求期間の範囲に対する支払の前または後で、エバーグリーンサブスクリプションをキャンセルしなければならない場合があります。営業担当は、エバーグリーンサブスクリプションをキャンセルし、顧客の支払済みの残高に対する請求書を作成したり、顧客の保留中の残高を請求したりできるようになりました。

エバーグリーンサブスクリプションの請求可能単価の上書き

有効化の前にカスタムの請求可能単価を定義して、エバーグリーンサブスクリプションの請求価格をカスタマイズします。[請求可能単価の上書き] 項目を使用して、エバーグリーンサブスクリプションの注文商品のデフォルトの請求可能単価を無効にできるようになりました。この項目は、Salesforce Billing に移行されたエバーグリーンサブスクリプションレコードの請求可能単価の丸めエラーを修正したり、その請求可能単価を上書きしたりするのに便利です。

終了日のないサブスクリプションの請求書

エバーグリーンサブスクリプションの請求書を作成できるようになりました。注文商品にエバーグリーンサブスクリプション種別が含まれる場合、Salesforce Billing はその各請求期間の請求書を無期限に作成します。これにより、顧客がキャンセルを決定するまで顧客のサブスクリプションを請求できます。契約終了時にサブスクリプションを更新しないため、更新プロセスで必要になる追加のレコードについて心配する必要はありません。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: Salesforce Billing は、注文商品の請求可能単価に基づいてエバーグリーンサブスクリプションの請求書を作成します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:エバーグリーンサブスクリプションの請求書(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

キャンセルされたエバーグリーンサブスクリプションの請求書

顧客は請求期間の範囲に対する支払の前または後で、エバーグリーンサブスクリプションをキャンセルしなければならない場合があります。営業担当は、エバーグリーンサブスクリプションをキャンセルし、顧客の支払済みの残高に対する請求書を作成したり、顧客の保留中の残高を請求したりできるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: キャンセル注文商品を有効化すると、Salesforce Billing は注文商品の請求日がその解除日の前または後のどちらであるかに基づいて、異なる方法でエバーグリーンのキャンセルを処理します。

- 次回の請求日が解除日より前の場合:元の注文商品上で、Salesforce Billing は請求可能単価に、次回の請求日から解除日までの請求期間の数を乗じます。注文商品の保留中の残高に計算の結果が表示されます。次の請求書の実行または「今すぐ請求」プロセスで、保留中の残高と、注文商品の解除日までの請求サイクルに基づいて請求書処理が開始されます。
- 次回の請求日が解除日より後の場合:キャンセル注文商品上で、Salesforce Billing は請求可能単価に、解除日から次回の請求日までの請求期間の数を乗じます。返金を表すため、Salesforce Billing は結果を取得して反転します。正数が負数に、またはその逆になります。キャンセル注文商品の保留中の残高に計算の結果が表示されます。次の請求書の実行または「今すぐ請求」で、キャンセル注文商品の保留中の残高が 1 つの請求書品目にまとめられて請求されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:エバーグリーンサブスクリプションのキャンセル(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

エバーグリーンサブスクリプションの請求可能単価の上書き

有効化の前にカスタムの請求可能単価を定義して、エバーグリーンサブスクリプションの請求価格をカスタマイズします。[請求可能単価の上書き] 項目を使用して、エバーグリーンサブスクリプションの注文商品のデフォルトの請求可能単価を無効にできるようになりました。この項目は、Salesforce Billing に移行されたエバーグリーンサブスクリプションレコードの請求可能単価の丸めエラーを修正したり、その請求可能単価を上書きしたりするのに便利です。

重要: Salesforce Billing 向け Avalara を使用している場合、Salesforce Billing Spring '19 にアップグレードしないでください。Avalara パッケージには Salesforce Billing Spring '19 のどのバージョンとの互換性もありません。Avalara がこの問題に対応したら、Salesforce Billing Spring '19 へのアップグレードが可能になったときにお知らせします。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: 請求書が作成されていないエバーグリーンサブスクリプションの有効化されていない注文商品の [請求可能単価を上書き] 項目のみを編集します。

エバーグリーン注文商品の請求書の作成を開始すると、Salesforce Billing は請求書品目の作成時に請求可能単価ではなく [請求可能単価を上書き] を使用します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:請求可能単価の上書き(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

注文商品の予約金額に基づく収益スケジュールの作成

注文商品の収益スケジュールの作成に使用する請求項目を拡張しました。注文商品の予約金額を収益スケジュールの合計金額の取得元として使用できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Billing のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Billing をインストールするには、Salesforce CPQ が必要です。一部のサブスクリプションでは、このパッケージが有料オプションとして用意されています。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: 注文商品の [注文商品予約] 項目には、注文商品の請求書を作成する前に認識しておくことを目的とする収益金額(予約金額とも呼ばれる)が表示されます。多くの場合、注文商品の収益を認識している企業は、収益スケジュールを注文商品の予約金額に基づいて作成したいと考えています。以前は、Salesforce Billing は、収益金額とトランザクション金額のみに基づいて収益スケジュールを作成できました。

方法: 収益認識処理で、[収益スケジュール額] 項目を [予約金額] に設定します。[予約金額] は、処理の [収益スケジュールの作成アクション] 項目に [注文の有効化] の値が含まれている場合のみ使用できます。

標準サブスクリプション注文商品と 1 回限りの注文商品では、予約金額は注文商品の合計金額と等しくなります。エバーグリーンサブスクリプション注文商品に終了日はないため、その予約金額はゼロになります。収益認識処理で予約金額に基づいて収益スケジュールを作成する場合、標準サブスクリプション注文商品とエバーグリーンサブスクリプション注文商品で正確な収益スケジュールを作成できます。

Pardot: 容易になった設定と同期、エンゲージメント履歴、Einstein プロスペクトスコアリング、その他

Pardot の設定アシスタントで設定作業とプロビジョニングを容易に行って、複雑な共有ルールなしで Salesforce にレコードを同期します。エンゲージメント履歴が正式にリリースされました。Salesforce から離れることなく、接続されたキャンペーンでプロスペクトのエンゲージメントを追跡します。さらに、Einstein の人工知能が行動スコアと共に Pardot に取り込まれました。この行動スコアの学習により、購入準備ができているプロスペクトが特定され評価されます。

このセクションの内容:

Salesforce-Pardot インテグレーション: より簡単な設定、よりスマートな同期
Salesforce-Pardot インテグレーションにいくつかの大幅な改善が加えられ、設定のナビゲーションが容易になり、新しい設定アシスタントが追加され、ユーザがアクセスできるアセットやプロスペクトをより詳細に制御できるようになりました。

キャンペーンでのマーケットアセットのパフォーマンスの表示 (正式リリース)
Pardot と Salesforce のキャンペーンを接続すると、マーケティングキャンペーンでどの程度のエンゲージメントが生成されたかを Salesforce で正確に把握できます。Salesforce でキャンペーンとマーケティングアセットを検索し、レコードとレポートからエンゲージメントのパフォーマンスを参照します。レポートを共有するために Pardot アセットデータをエクスポートする必要がなくなりました。ユーザは Salesforce からすべてを行うことができます。

フランス語、ドイツ語、スペイン語での Pardot の使用 (正式リリース)

Pardot ユーザインターフェースは、フランス語、ドイツ語、スペイン語 (EU) にも翻訳されるようになりました。ユーザはプロファイルを編集して、ロケールと言語の設定を簡単に変更できます。Pardot 管理者はデフォルトの言語とロケールを Pardot のアカウント設定ページから変更します。[Salesforce ユーザの同期] を有効にしているアカウントでは、一致する、ユーザの言語設定が Salesforce から継承されます。

メールのリンクとバニティ URL でのカスタムトラッカードメインの使用

メールのリンクとバニティ URL をメッセージに合わせて調整できます。リンク書き換えとバニティ URL にプライマリドメインを使用する必要がなくなりました。リンク書き換え用のメールテンプレートに任意のトラッカードメインを割り当て、任意のトラッカードメインを使用してバニティ URL を作成します。

Engage キャンペーン用のメールテンプレートの迅速な検索

ユーザはメールの作成中に Pardot フォルダ階層を参照したり、フォルダ別にテンプレートを検索したりできます。ユーザは参照権限があるフォルダ内で 1 対 1 のメール用としてマークされたすべてのテンプレートを参照できます。Pardot エディションにフォルダ権限が含まれない場合、ユーザは 1 対 1 用としてマークされたメールテンプレートを含むすべてのフォルダを参照できます。

ボットクリックなしで Pardot アクションとレポートを取得

レポートおよび自動アクションを改善するため、Pardot は、メールセキュリティスキャナに関連付けられた特定の IP 範囲からのクリックを無視するようになりました。すべてのクリックとクリックスルー率が収集されますが、新しい設定では、スキャナアクティビティがレポートから除外されます。この IP 範囲からのアクティビティも完了アクション、トリガ、スコアの起動に使用されなくなります。この設定はデフォルトでオンになっていますが、変更できます。

B2B Marketing Analytics の容易な設定

B2B Marketing Analytics が提供する強力なダッシュボードとインサイトはこれまでと同じですが、設定が容易になりました。新しいフローの手順に従って、Pardot アカウント、省略可能なダッシュボード、ロケール設定の選択などを行うことができます。

エンゲージメントアクティビティでのプロスペクトのスコアリング

プロスペクトにより多数のデータが生成されますが、その利用方法を把握するのは困難です。Einstein では Pardot プロスペクトのアクティビティが分析され、エンゲージメントの集計とグレーディングが行われるため、ビジネスにとって最も重要なプロスペクトに集中できます。プロスペクトレコードに [Einstein スコアリング] コンポーネントを配置して、有意義かつ詳細なインサイトを表示します。

GoodData の廃止

GoodData は 2019 年 2 月 1 日に廃止される予定です。ニーズに応じて Salesforce レポートまたは B2B Marketing Analytics を考慮してください。さらにカスタマイズするには、Pardot の API を使用できます。

Salesforce-Pardot インテグレーション: より簡単な設定、よりスマートな同期

Salesforce-Pardot インテグレーションにいくつかの大幅な改善が加えられ、設定のナビゲーションが容易になり、新しい設定アシスタントが追加され、ユーザがアクセスできるアセットやプロスペクトをより詳細に制御できるようになりました。

このセクションの内容:

Pardot ビジネスユニットを使用したマーケティング活動への専念
会社に場所や製品ラインに基づくマーケティング目標がある場合、Pardot ビジネスユニットを使用して、各部門がそれぞれの固有のマーケティング目標に専念できるようにします。ビジネスユニットを使用すると、ユーザがアクセスできるプロスペクトやアセットを制御できるため、各部門で独立したマーケティングを実行できます。B2B Marketing Analytics を使用すれば、引き続きグローバルビューを取得できます。

改善されたナビゲーションとデザインによる Salesforce-Pardot コネクタの設定
刷新された Salesforce-Pardot コネクタ編集ページを使用して、より迅速に営業チームとマーケティングチームを連携させることができます。コネクタページから直接、[接続されているキャンペーン]、[Salesforce ユーザーの同期]、および [マーケティングデータ共有] を設定できるようになりました。コネクタの編集中にタブを選択すると、オプションが表示されます。

Pardot 設定アシスタントを使用した簡単な Pardot プロビジョニング
設定アシスタントでは、Salesforce-Pardot コネクタが自動的に作成されるため、インテグレーションが容易になり、インテグレーションでエラーが発生しなくなります。Pardot アカウントのプロビジョニングと Pardot アカウントの初期設定タスクを Salesforce から直接完了します。Pardot Advanced Edition を使用している場合、サポートに連絡することなく Salesforce アカウントの複数の Pardot ビジネスユニットを作成できます。

Salesforce と Pardot 間で同期するレコードの選択
共有ルールと組織の共有設定を調整する必要はもうありません。[マーケティングデータ共有] を使用して、Salesforce と Pardot 間で何を同期するかを決定できます。また、選択的同期ルールは Pardot で管理されるため、Salesforce システム管理者である必要はなく、Sales Cloud ライセンスを持つ必要もありません。

Pardot ビジネスユニットを使用したマーケティング活動への専念

会社に場所や製品ラインに基づくマーケティング目標がある場合、Pardot ビジネスユニットを使用して、各部門がそれぞれの固有のマーケティング目標に専念できるようにします。ビジネスユニットを使用すると、ユーザがアクセスできるプロスペクトやアセットを制御できるため、各部門で独立したマーケティングを実行できます。B2B Marketing Analytics を使用すれば、引き続きグローバルビューを取得できます。

対象: これらの変更は、Pardot Advanced Edition の Pardot Lightning アプリケーションで使用できます。

理由: Pardot ビジネスユニットを使用すると、マーケティング活動や効率性に関するレポートの調整が容易になります。具体的には、次の作業を実行できます。

- マーケティングデータ共有を使用して、Pardot と Salesforce 間で同期するレコードを制御する。
- バニティ URL とメールテンプレートでカスタムトラッカードメインを使用する。
- Pardot 設定アシスタントを使用して Salesforce からビジネスユニットを作成する。
- B2B Marketing Analytics を使用してビジネスユニットの統合ビューを取得する。

関連トピック:

メールのリンクとバニティ URL でのカスタムトラッカードメインの使用
Salesforce と Pardot 間で同期するレコードの選択
Pardot 設定アシスタントを使用した簡単な Pardot プロビジョニング
B2B Marketing Analytics の容易な設定

改善されたナビゲーションとデザインによる Salesforce-Pardot コネクタの設定

刷新された Salesforce-Pardot コネクタ編集ページを使用して、より迅速に営業チームとマーケティングチームを連携させることができます。コネクタページから直接、[接続されているキャンペーン]、[Salesforce ユーザーの同期]、および [マーケティングデータ共有] を設定できるようになりました。コネクタの編集中にタブを選択すると、オプションが表示されます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。[マーケティングデータ共有] は、Pardot Lightning アプリケーションでのみ使用できます。

対象ユーザ: Pardot 管理者はコネクタ編集ページにアクセスできます。

Pardot 設定アシスタントを使用した簡単な Pardot プロビジョニング

設定アシスタントでは、Salesforce-Pardot コネクタが自動的に作成されるため、インテグレーションが容易になり、インテグレーションでエラーが発生しなくなります。Pardot アカウントのプロビジョニングと Pardot アカウントの初期設定タスクを Salesforce から直接完了します。Pardot Advanced Edition を使用している場合、サポートに連絡することなく Salesforce アカウントの複数の Pardot ビジネスユニットを作成できます。

対象: この変更は、すべての新規 Pardot アカウントの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: 最適な設定の操作性を得るために、Lightning Experience で Pardot 設定アシスタントを使用することをお勧めします。Salesforce Classic では機能が制限されています。

Salesforce と Pardot 間で同期するレコードの選択

共有ルールと組織の共有設定を調整する必要はもうありません。[マーケティングデータ共有] を使用して、Salesforce と Pardot 間で何を同期するかを決定できます。また、選択的同期ルールは Pardot で管理されるため、Salesforce システム管理者である必要はなく、Sales Cloud ライセンスを持つ必要もありません。

対象: この変更は、すべての Pardot エディションの Pardot Lightning アプリケーションに適用されます。

方法: Salesforce-Pardot コネクタを編集して、[マーケティングデータ共有] 設定を変更します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: マーケティングデータの共有ルールの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

キャンペーンでのマーケットアセットのパフォーマンスの表示 (正式リリース)

Pardot と Salesforce のキャンペーンを接続すると、マーケティングキャンペーンでどの程度のエンゲージメントが生成されたかを Salesforce で正確に把握できます。Salesforce でキャンペーンとマーケティングアセットを検索し、レコードとレポートからエンゲージメントのパフォーマンスを参照します。レポートを共有するために Pardot アセットデータをエクスポートする必要がなくなりました。ユーザは Salesforce からすべてを行うことができます。

対象: この変更は、Pardot を購入し、接続されているキャンペーンを使用している Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 使用を開始するには、エンゲージメント履歴設定アシスタントを使用します。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*エンゲージメント履歴*」と入力し、[エンゲージメント履歴] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce でのプロスペクトエンゲージメントのトラッキング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フランス語、ドイツ語、スペイン語での Pardot の使用 (正式リリース)

Pardot ユーザインターフェースは、フランス語、ドイツ語、スペイン語 (EU) にも翻訳されるようになりました。ユーザはプロファイルを編集して、ロケールと言語の設定を簡単に変更できます。Pardot 管理者はデフォルトの言語とロケールを Pardot のアカウント設定ページから変更します。[Salesforce ユーザの同期] を有効にしているアカウントでは、一致する、ユーザの言語設定が Salesforce から継承されます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 言語とロケールの変更 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メールのリンクとバニティ URL でのカスタムトラッカードメインの使用

メールのリンクとバニティ URL をメッセージに合わせて調整できます。リンク書き換えとバニティ URL にプライマリドメインを使用する必要がなくなりました。リンク書き換え用のメールテンプレートに任意のトラッカードメインを割り当て、任意のトラッカードメインを使用してバニティ URL を作成します。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: トラッカードメインの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: メールリンクのトラッキング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Engage キャンペーン用のメールテンプレートの迅速な検索

ユーザはメールの作成中に Pardot フォルダ階層を参照したり、フォルダ別にテンプレートを検索したりできます。ユーザは参照権限があるフォルダ内で 1 対 1 のメール用としてマークされたすべてのテンプレートを参照できます。Pardot エディションにフォルダ権限が含まれない場合、ユーザは 1 対 1 用としてマークされたメールテンプレートを含むすべてのフォルダを参照できます。

対象: この変更は Salesforce Engage を使用するすべての Pardot エディションに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フォルダー権限を使用したアクセス制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ボットクリックなしで Pardot アクションとレポートを取得

レポートおよび自動アクションを改善するため、Pardot は、メールセキュリティスキャナに関連付けられた特定の IP 範囲からのクリックを無視するようになりました。すべてのクリックとクリックスルー率が収集されますが、新しい設定では、スキャナアクティビティがレポートから除外されます。この IP 範囲からのアクティビティも完了アクション、トリガ、スコアの起動に使用されなくなります。この設定はデフォルトでオンになっていますが、変更できます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: デフォルトの動作を変更し、ボットクリックによるアクティビティの起動とレポートへのボットクリックの表示を許可するには、[ビジターフィルター] テーブルを変更します。Pardot で **[管理]** (Pardot Lightning では **[Pardot 設定]**) をクリックし、**[オートメーション設定]** > **[ビジターフィルター]** をクリックします。`[PD-SYS]` のプレフィックスで始まるエントリを削除します。

B2B Marketing Analytics の容易な設定

B2B Marketing Analytics が提供する強力なダッシュボードとインサイトはこれまでと同じですが、設定が容易になりました。新しいフローの手順に従って、Pardot アカウント、省略可能なダッシュボード、ロケール設定の選択などを行うことができます。

対象: この変更は Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Pardot Plus Edition と Pardot Advanced Edition に含まれています。

対象ユーザ: ManageTemplatedApp または WaveEmbeddedApp 権限セットを持つユーザは、B2B Marketing Analytics アプリケーション、ダッシュボード、データフローを作成および編集できます。WaveEmbeddedApp 権限セットでは、外部ソースからカスタムアプリケーションとデータセットを作成できます。

エンゲージメントアクティビティでのプロスペクトのスコアリング

プロスペクトにより多数のデータが生成されますが、その利用方法を把握するのは困難です。Einstein では Pardot プロスペクトのアクティビティが分析され、エンゲージメントの集計とグレーディングが行われるため、ビジネスにとって最も重要なプロスペクトに集中できます。プロスペクトレコードに [Einstein スコアリング] コンポーネントを配置して、有意義かつ詳細なインサイトを表示します。

対象: この変更は Lightning Experience に適用され、Pardot Advanced Edition に含まれています。

方法: Einstein 行動スコアリングを表示するには、リードを Pardot プロスペクトに同期する必要があります。Einstein 行動スコアリングを有効にするには、[設定] で有効にして、Lightning アプリケーションビルダーを使用

してコンポーネントを配置します。[設定]から、［クイック検索］ボックスに「*Einstein*」と入力し、**[Einstein 行動スコア]**を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Pardot と Salesforce 間でのプロスペクトの同期 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

GoodData の廃止

GoodData は 2019 年 2 月 1 日に廃止される予定です。ニーズに応じて Salesforce レポートまたは B2B Marketing Analytics を考慮してください。さらにカスタマイズするには、Pardot の API を使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: GoodData の廃止 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

サービス: Einstein ケース分類、Lightning Knowledge 移行ツール、予防メンテナンスの改善

新規ケースの項目値を過去のデータに基づいて推奨する Einstein ケース分類を使用して、エージェントがよりすばやくスマートに作業できるようサポートします。SMS テキストメッセージングチャネルのサポートを含め、Einstein ボットの機能強化を確認してください。Lightning Knowledge 移行ツールを使用して、Salesforce Classic 知識ベースを移行します。すべてのメンテナンス計画の納入商品を 1 つの作業指示にグループ化し、各納入商品を作業指示品目にリンクして、フィールドサービスの予防メンテナンスの追跡を簡略化します。また、ケース管理ツールで新たに Lightning Experience がサポートされるようになりました。

このセクションの内容:

Einstein for Service: ケース分類、ボットの機能強化、Next Best Action

Service Cloud Einstein への画期的な追加機能により、顧客の操作性が改善され、エージェントの効率が向上します。Einstein ケース分類は、新規ケースの項目値を推奨してエージェントの時間を節約します。Einstein ボットの機能強化には、SMS テキストメッセージングチャネルのサポート、合理化されたチャネルの設定、改善されたモデル管理が含まれます。Einstein Next Best Action は、顧客とエージェントに最適なオプションを提示できるように、おすすめを絞り込みます。

Field Service: クルー管理、ガントチャートのカスタマイズ、メンテナンス計画の改善

オールインワンのクルー管理ツールでサービスクルーを作成、更新、表示します。カスタムガントチャートアイコン、絞り込みの改善、新しい色分けオプションにより、派遣担当者はディスパッチャコンソールでより効率的に作業できます。作業指示品目にリンクされている納入商品ごとに、メンテナンス計画の納入商品を 1 つの作業指示にグループ化して予防メンテナンスの追跡を簡略化します。

ナレッジ: Lightning Knowledge の使いやすさの向上、Lightning Knowledge 移行ツールの導入

Lightning Knowledge に Salesforce Classic 知識ベースを移行するための Lightning Knowledge 移行ツールが正式リリースされました。また、記事の管理を合理化し、記事ファイルの共有を容易にするための機能とアクションが Lightning Knowledge に追加されています。Lightning Experience ですべてのすばらしい新機能の利用を開始してください。

チャネル: SMS の Einstein ボット、スキルベースのルーティング、コミュニティの連絡要求

顧客が必要なサポートを必要なときに受けることができるように、顧客のお気に入りのチャネルが拡張されました。SMS テキストメッセージングチャネルで Einstein ボットをリリースし、ケースの発生を防止して顧客の待機時間を短縮します。オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用して、その作業に関してスキルが最も高いエージェントにケースを転送します。コミュニティの連絡要求を使用すれば、顧客は保留のまま長時間待つ必要がなくなります。

ケース管理: Lightning Experience に移行するその他の理由

Salesforce は愛用されている機能の Lightning Experience への移行に精力的に取り組んできました。エージェントは顧客にメールを送信する前に、そのメールの承認を受ける必要があります。ケース取引先責任者とケース階層を表示および管理できます。Omni-Channel Supervisor を使用している場合、Lightning Experience で示唆およびフラグの有効化機能を使用できます。さらに、リリースによりガイド付きアクションリストの設定が簡単になります。

Service Cloud のその他の変更

Service Cloud に加えられたその他の変更について説明します。

Einstein for Service: ケース分類、ボットの機能強化、Next Best Action

Service Cloud Einstein への画期的な追加機能により、顧客の操作性が改善され、エージェントの効率が向上します。Einstein ケース分類は、新規ケースの項目値を推奨してエージェントの時間を節約します。Einstein ボットの機能強化には、SMS テキストメッセージングチャネルのサポート、合理化されたチャネルの設定、改善されたモデル管理が含まれます。Einstein Next Best Action は、顧客とエージェントに最適なオプションを提示できるように、おすすめを絞り込みます。

このセクションの内容:

Einstein ケース分類によるエージェントの時間の節約と精度および完了の改善

Einstein ケース分類を使用して、過去のデータに基づいて新規ケースの選択リストおよびチェックボックス項目の値を推奨または入力します。それらのおすすめを Lightning Experience および Salesforce Classic のサービスコンソールのエージェントに表示します。Lightning Experience では、エージェントは関連レコードコンポーネントでおすすめを表示します。

ボットがどの程度顧客を理解しているかの評価

[モデル管理] ページには、ボットのインテントモデルの品質に関する総計値と個々のインテントの詳細が表示されます。この情報を使用してインテントを微調整し、ボットによる顧客の理解度を高めます。

顧客の入力の分類とフィードバックでボットをさらにスマートにする

顧客がチャットで入力した内容をボットがどのように分類するか確認し、各入力を承認するか、無視するか、適切なインテントに再分類します。このフィードバックプロセスはボットの学習に役立ち、時間が経つにつれてボットがスマートになります。

SMS テキストメッセージングチャネルでのボットの使用

ボットを作成したら、Live Agent チャットチャネルに加えて LiveMessage SMS テキストメッセージングチャネルにそのボットをリリースします。

ボットビルダーのチャネル設定を使用した簡単な Einstein ボットの設定

LiveAgent で使用するボットの設定時に混乱していますか?あなたは 1 人ではありません!チャネル設定がボットビルダーに移動されて合理化されました。

チャネルに依存しないボットの作成

Live Agent と SMS テキストメッセージングチャネルの両方でボットを使用する予定はありますか?その場合、チャネルに関係なくボットで顧客情報を収集する、新しいコンテキスト変数とシステム変数を確認してください。事前チャットフォームのルールアクションやカスタムコードは必要ありません。

改善されたボットのパフォーマンスダッシュボードの確認

パフォーマンスダッシュボードを日付とチャネル (チャット、メッセージング) で絞り込めるようになりました。ボットのパフォーマンスを理解する方法として、[上位の最終ダイアログ]、[エスカレーション成功]、[Einstein Intent 使用状況]、[インタラクション] が追加されました。

新しいボット用語の概要

自然言語処理をサポートするため、用語「*発言*」が導入され、「*顧客の入力*」と区別されています。

Einstein Next Best Action を使用した適切なおすすめの提案 (正式リリース)

エージェントと顧客に最適なオプション (割引、修正、推奨される次のステップなど) を提示します。会社のビジネスルール、予測モデル、データを適用し、提案とアクションを調整およびパーソナライズします。Einstein Next Best Action は多数の候補をいくつかの正確なおすすめに絞り込むため、カスタマイズされたサービスエクスペリエンスを簡単に提供できます。

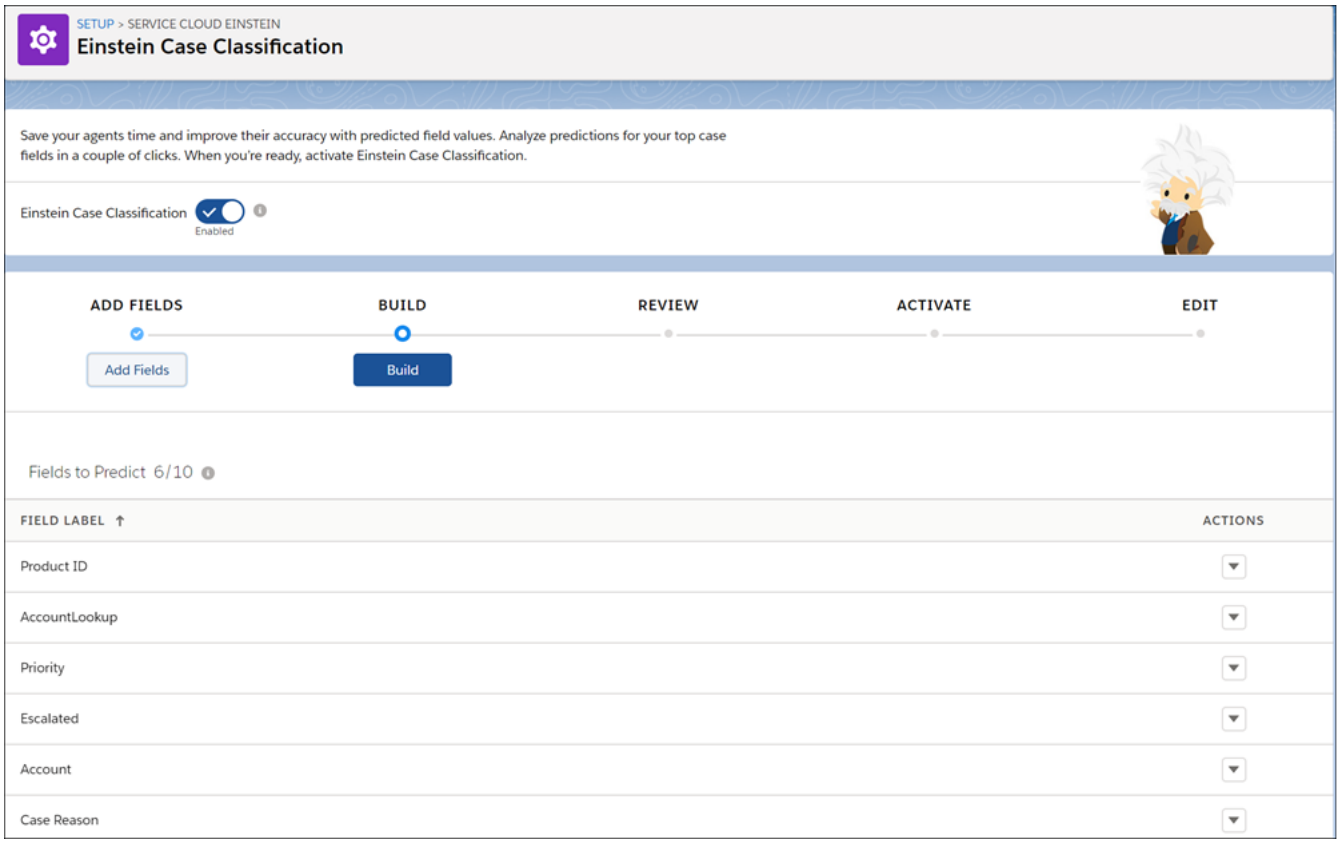
Einstein ケース分類によるエージェントの時間の節約と精度および完了の改善

Einstein ケース分類を使用して、過去のデータに基づいて新規ケースの選択リストおよびチェックボックス項目の値を推奨または入力します。それらのおすすめを Lightning Experience および Saleseforce Classic のサービスコンソールのエージェントに表示します。Lightning Experience では、エージェントは関連レコードコンポーネントでおすすめを表示します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein エージェントは、Enterprise Edition および Unlimited Edition の有料オプションで Lightning Experience で使用できます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

メモ: Einstein ケース分類は、Salesforce Government Cloud では使用できません。

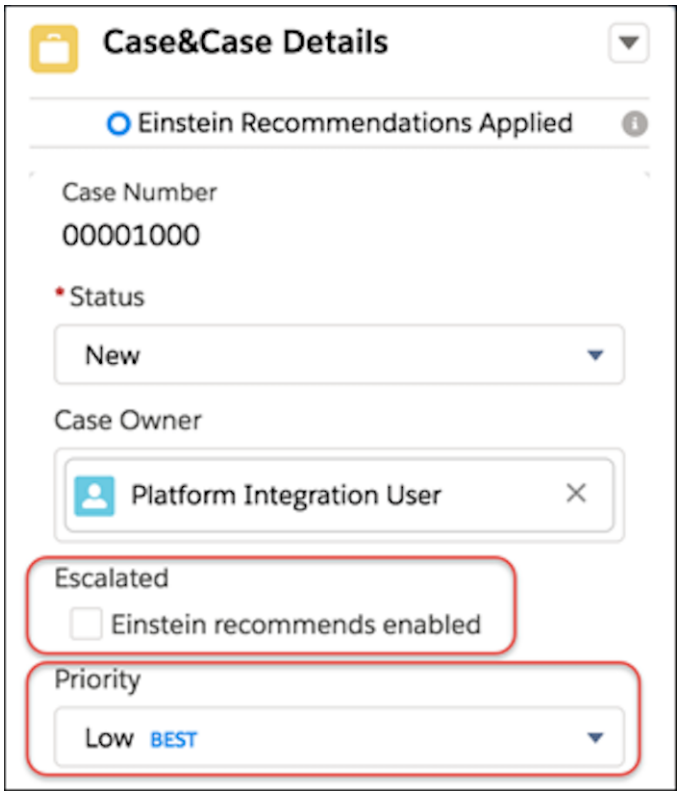
方法: エージェントのために予測する項目を追加します。次に、予測モデルを作成します。Einstein ケース分類はクローズケースデータの項目を分析し、新規ケースでそれらの項目のおすすめを決定します。



モデルを作成したら、おすすめを確認します。項目ごとに、[最適なおすすめを選択]をオンにすることができます。この設定により、項目の適切なおすすめの値をエージェントが選択する必要があるかどうか、または最適なおすすめを自動的に選択して (ある場合) エージェントに表示するかどうかを制御します。

Einstein ケース分類を有効にして、エージェントにおすすめを表示します。

サービスコンソールで、エージェントに Einstein のおすすめがあることを示すアラートが表示されます。エージェントがおすすめを表示するには、アラートをクリックします。



ケース分類が正常に動作するには、十分な量のケースがクローズしている必要があります。過去6か月間に次の量のケースが作成され、クローズしていることを推奨します。

- 最小 1,000 件のケース。ただし、最良のパフォーマンスを得るには 10,000 件以上をお勧めします。
- エージェントのために予測する各項目と値を使用した最小 100 件のクローズケース。
- 項目ごとに 100 個未満の値。項目ごとの可能な値の数が 100 を超える場合、モデルの精度は低下します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein ケース分類 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

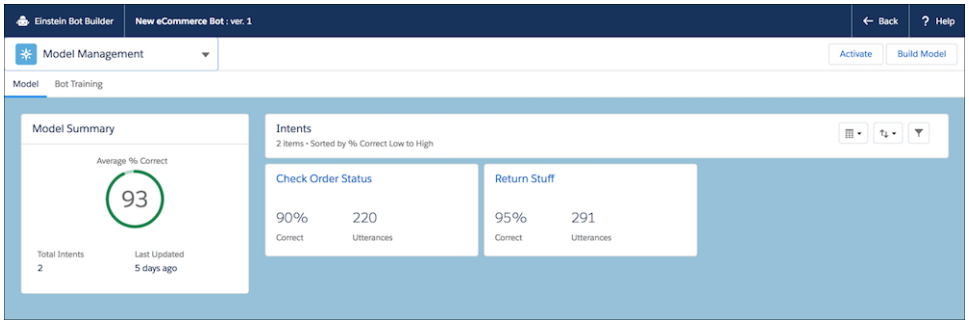
ボットがどの程度顧客を理解しているかの評価

[モデル管理] ページには、ボットのインテントモデルの品質に関する総計値と個々のインテントの詳細が表示されます。この情報を使用してインテントを微調整し、ボットによる顧客の理解度を高めます。

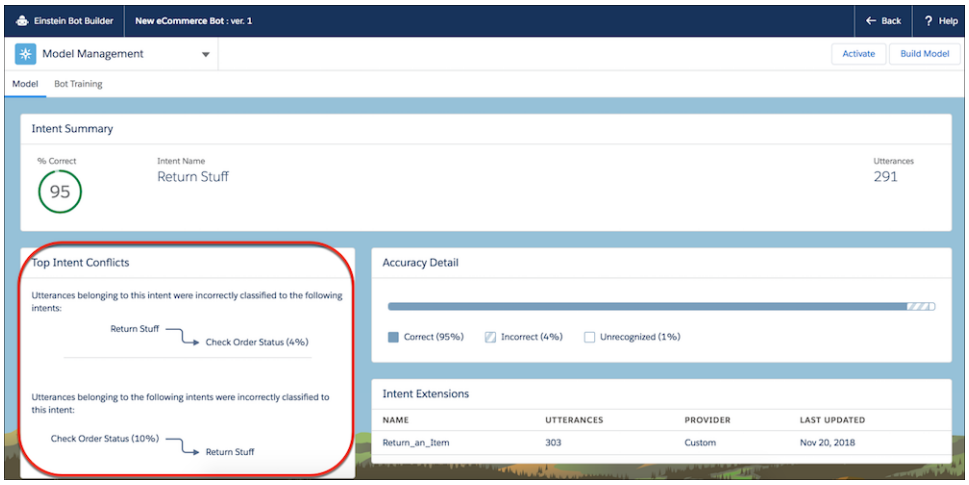
対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と Live Agent の両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つ Live Agent ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: モデル管理が [概要] ページから独自のページに移動されました。ボットの [モデル管理] ページで、インテントモデル総計値を参照します。



インテントをクリックすると、詳細が表示されます。[上位のインテント競合]セクションには、モデルをテストしたときに発言がどこに誤って分類されたかが表示されます。発言はそのインテントまたは別のインテントに属さないことが明確なため、データサイエンティストはこれを「インテントの混乱」と呼びます。インテント競合を使用して、インテントを調整します。誤って分類された発言の割合が高い場合、2つの類似するインテントを1つにマージしてみます。同様に、一般的なインテントをより具体的な複数のインテントに分割してみます。それに応じて、発言のセットを調整します。



関連トピック:

- 顧客の入力の分類とフィードバックでボットをさらにスマートにする

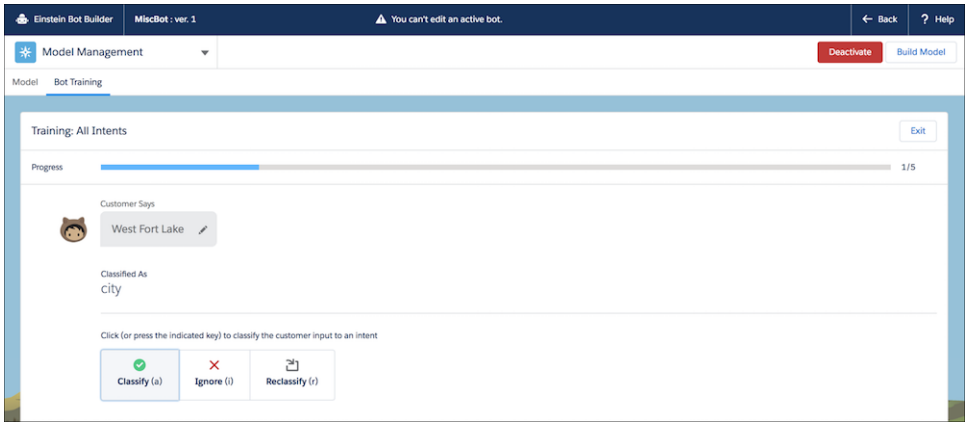
顧客の入力の分類とフィードバックでボットをさらにスマートにする

顧客がチャットで入力した内容をボットがどのように分類するか確認し、各入力を承認するか、無視するか、適切なインテントに再分類します。このフィードバックプロセスはボットの学習に役立ち、時間が経つにつれてボットがスマートになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と Live Agent の両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つ Live Agent ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: ボットをトレーニングするには、[モデル管理]ページの[ボットのトレーニング]タブに移動します。インテントモデルが顧客の入力をどのように分類したかを確認した後、必要に応じて承認、無視、または再分類します。



関連トピック:

- ボットがどの程度顧客を理解しているかの評価

SMS テキストメッセージングチャネルでのボットの使用

ボットを作成したら、Live Agent チャットチャネルに加えて LiveMessage SMS テキストメッセージングチャネルにそのボットをリリースします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と Live Agent の両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つ Live Agent ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

顧客とメッセージのやりとりをするには、ユーザに Service Cloud ライセンス、LiveMessage ユーザ権限セットライセンス、「設定・定義の参照」権限が必要です。LiveMessage を設定するには、ユーザに「LiveMessage の設定」権限と「設定・定義の参照」権限が必要です。

メモ: Einstein ボットでは、オムニチャネルのスキルベースのルーティングはサポートされていません。

関連トピック:

テキストメッセージングチャネルへの Einstein ボットのリリース

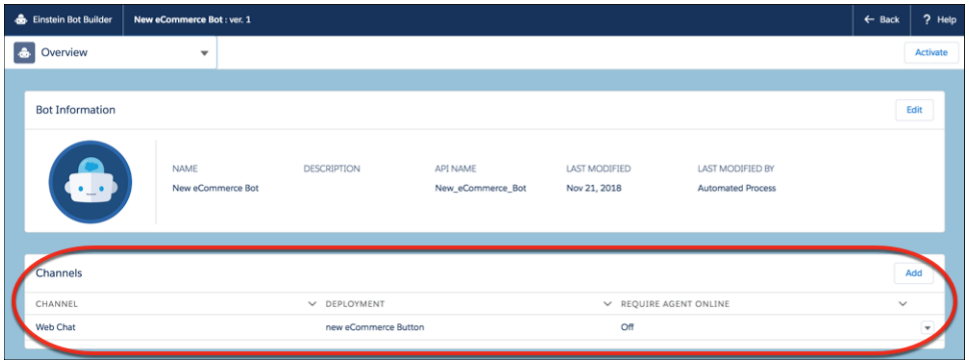
ボットビルダーのチャネル設定を使用した簡単な Einstein ボットの設定

LiveAgent で使用するボットの設定時に混乱していますか? あなたは 1 人ではありません! チャネル設定がボットビルダーに移動されて合理化されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と Live Agent の両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つ Live Agent ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: ボットの [概要] ページで、選択可能なチャネルの表示、新規チャネルの追加、ボットのリリースをすばやく簡単に行います。



チャネルに依存しないボットの作成

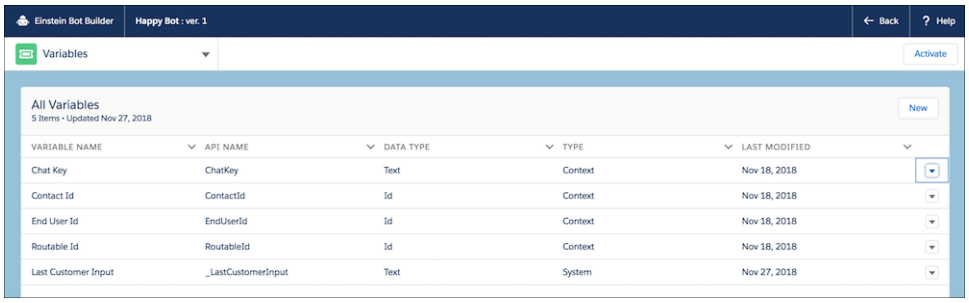
Live Agent と SMS テキストメッセージングチャネルの両方でボットを使用する予定はありますか? その場合、チャネルに関係なくボットで顧客情報を収集する、新しいコンテキスト変数とシステム変数を確認してください。事前チャットフォームのルールアクションやカスタムコードは必要ありません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

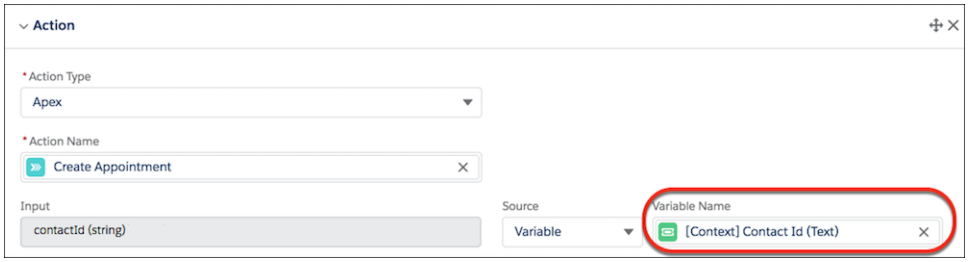
対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と Live Agent の両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つ Live Agent ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

方法: 事前チャットフォームのルールアクションを使用している場合、既存のボットを更新する必要はありません。この変更は自動的に処理されます。事前チャットフォームのルールアクションは適切なコンテキスト変数で置き換えられます。

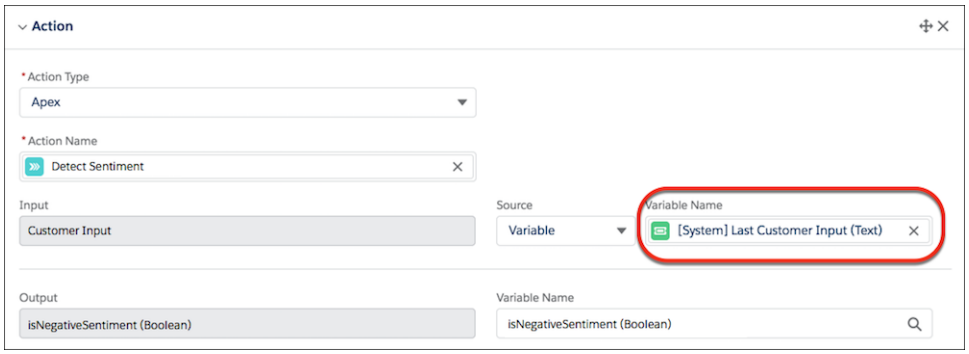
次のコンテキスト変数と 1 つの新しいシステム変数が用意されています。



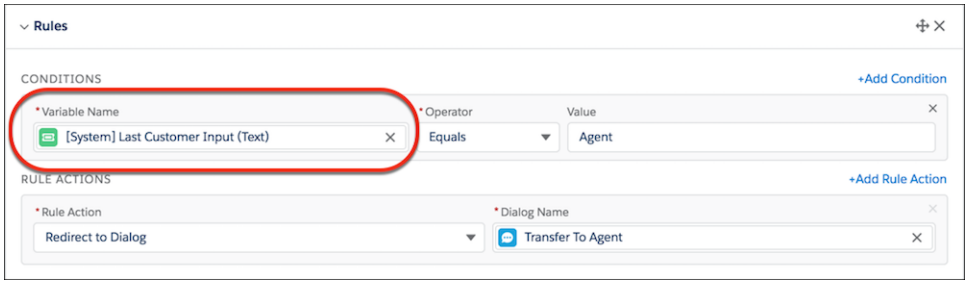
コンテキスト変数は、ダイアログアクションの入力として使用します。



ダイアログアクションで[前回の顧客の入力]システム変数を使用して、前回の顧客の入力を取得し、Apexに渡して追加処理を行うことができます。



ダイアログルール条件で [前回の顧客の入力] システム変数を使用することもできます。



他の Einstein ボットの変数同様、差し込み構文を使用してコンテキスト変数とシステム変数をボットメッセージにマージできます。

```
{!$System.LastCustomerInput}
{!$Context.ContactId}
{!VariableName}
```

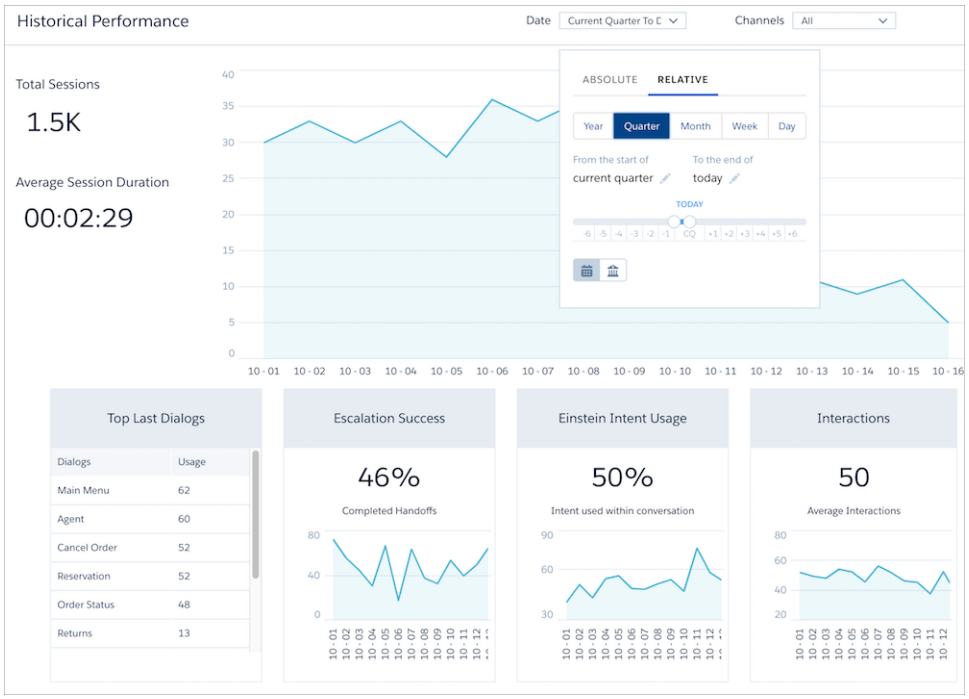
改善されたボットのパフォーマンスダッシュボードの確認

パフォーマンスダッシュボードを日付とチャネル (チャット、メッセージング) で絞り込めるようになりました。ボットのパフォーマンスを理解する方法として、[上位の最終ダイアログ]、[エスカレーション成功]、[Einstein Intent 使用状況]、[インタラクション] が追加されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と Live Agent の両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つ Live Agent ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。Einstein ボットパフォーマンスダッシュボードを最大限活用するには、Service Cloud 分析も必要です。

方法: ボットの [パフォーマンス] ページで、更新されたダッシュボードを参照します。



新しいダッシュボードが表示されませんか? 問題ありません。Einstein ボットをオフに切り替えてから再度オンにしてください。

新しいボット用語の概要

自然言語処理をサポートするため、用語「*発言*」が導入され、「*顧客の入力*」と区別されています。

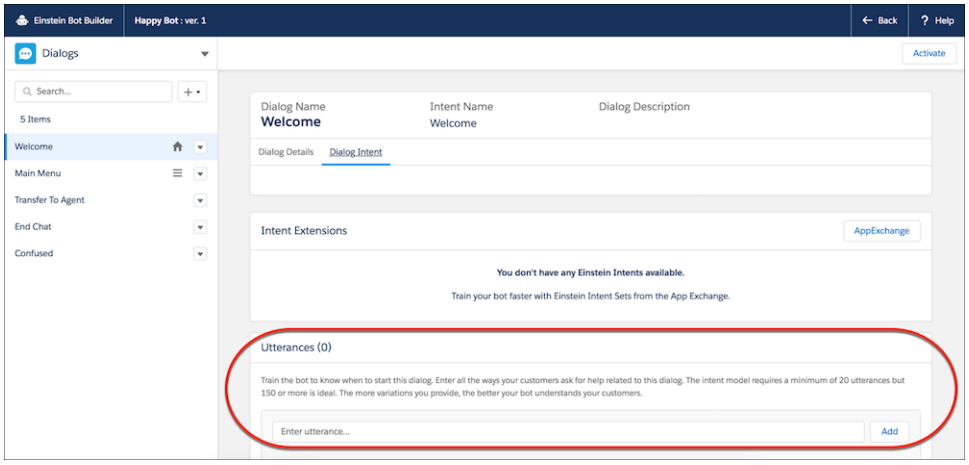
対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud と Live Agent の両方のユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つ Live Agent ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が各組織に提供されます。

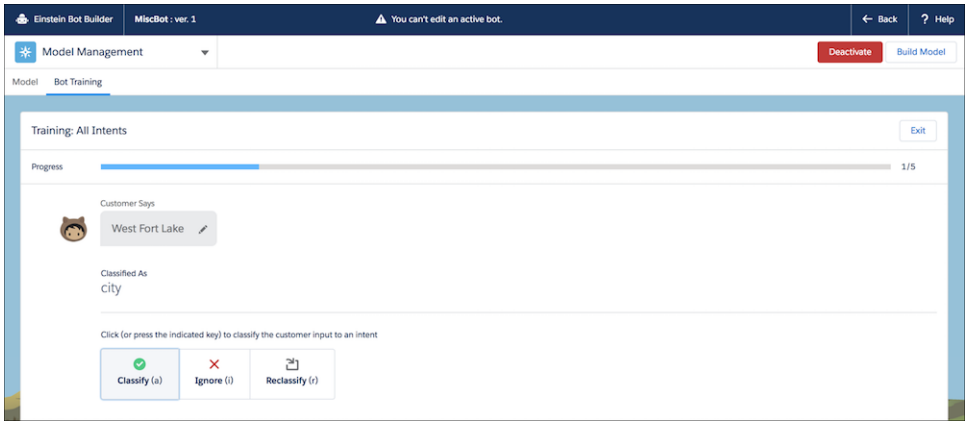
理由: 発言と顧客の入力は、顧客が何か質問したことを表す同じことを指しますが、Einstein ボットではこの 2 つを区別しています。発言は、チームによって確認された後に、インテントを表す入力セットに追加されます。発言はボットが学習するために役立ちます。顧客の入力は、チャットで顧客が入力した言葉です。ボットに学習させるインテントを表すとは限りません。

[ボットのトレーニング] タブを使用して、顧客の入力を確認します。インテントを表す顧客の入力が見つかった場合、それをインテントに分類します。これがインテントの発言になります。モデルを作成するときに、新しい発言が組み込まれてボットの学習に利用されます。

ダイアログインテントを作成するときに発言を追加します。



顧客がチャットで入力した内容を理解するようボットを訓練するときに、顧客の入力を分類、無視、または再分類します。



関連トピック:

顧客の入力の分類とフィードバックでボットをさらにスマートにする

Einstein Next Best Action を使用した適切なおすすめの提案 (正式リリース)

エージェントと顧客に最適なオプション(割引、修正、推奨される次のステップなど)を提示します。会社のビジネスルール、予測モデル、データを適用し、提案とアクションを調整およびパーソナライズします。Einstein Next Best Action は多数の候補をいくつかの正確なおすすめに絞り込むため、カスタマイズされたサービスエクスペリエンスを簡単に提供できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)

Field Service: クルー管理、ガントチャートのカスタマイズ、メンテナンス計画の改善

オールインワンのクルー管理ツールでサービスクルーを作成、更新、表示します。カスタムガントチャートアイコン、絞り込みの改善、新しい色分けオプションにより、派遣担当者はディスパッチャコンソールでより効率的に作業できます。作業指示品目にリンクされている納入商品ごとに、メンテナンス計画の納入商品を1つの作業指示にグループ化して予防メンテナンスの追跡を簡略化します。

このセクションの内容:

サービスクルーの迅速な作成 (ベータ)
少ないクリック数で、より多くの情報が表示されます。新しいドラッグアンドドロップクルー管理ツールでは、急速に変化する予定スケジュールに対応するためにサービスクルーを簡単に作成および更新できます。適切なスキルを持つメンバーをすばやく見つけて追加し、予定時間に合わせてクルーメンバーシップの日付を調整し、クルーのスケジュールとメンバーをすべて 1 か所で表示できます。

サービス予定フィード設定のカスタマイズ
Field Service Lightning モバイルアプリケーションユーザのガントチャート Chatter メッセージ、緊急予定通知、派遣通知の可視性を高めます。現在、これらのメッセージは関連するサービス予定のフィードに投稿されますが、モバイルアプリケーションの[フィード]タブには表示されません。代わりに、親レコードのフィードに投稿できるようになりました。

ガントチャートでの絞り込みの迅速化
絞り込みをよく利用されますか? 朗報です! ガントチャートのテリトリーの絞り込みで、テリトリーを検索したり、お気に入りのテリトリーを選択したり、選択したテリトリーをすばやく切り替えたりできます。ガントチャートのスキルの絞り込みで、スキルを検索したり、検索条件ロジックを定義したり、すべてのスキルを選択したりできます。

ディスパッチャコンソールの色分け
色を使用して、派遣担当者がガントチャートでより効率的に作業できるようにします。ガントチャートパレットを作成するか、予定のガントチャートの色を設定して、ディスパッチャコンソールで予定を色分けすることはすでにできていましたが、サービスクルーの色を割り当てたり、予定リストの背景の影を適用したり、ガントチャートのリストの予定を強調表示したりできるようになりました。

メンテナンス計画内の各納入商品の作業指示品目の作成
メンテナンス計画の対象となる各納入商品の作業指示品目を含む 1 つの親作業指示を作成し、その計画で生成される作業指示の数を減らします。

リードのサービス予定の作成
新しいサービス予定の親 (レコード) が登場しました。チームでサイトへの訪問をスケジュールして有望なリードを追跡する必要がある場合、リードの子サービス予定を作成して Salesforce で訪問を追跡します。

ガントチャートの独自のアイコンの作成
ガントチャートのカスタマイズされたアイコンを使用して、派遣担当者が特定のサービス予定の特性をすばやく識別できるようにします。たとえば、VIP の予定なのか、新規顧客の予定なのかを示すアイコンを作成します。

予定を予約するときの日付による時間枠の並び替え

日付ごとに空いている予定時間枠を表示して、より迅速に予定を予約します。顧客が次の火曜日の予定を要求した場合、[予定の予約] ウィンドウでその日付をクリックすれば、その時間枠が表示されます。もうスクロールする必要はありません。

一括スケジュール解除へのアクセスの制御

複数の予定のスケジュールを一度に解除すると、フィールドサービスチームのスケジュールに大きく影響する可能性があります。ユーザがこのアクションを実行できないようにするには、ユーザのプロファイルから新しい「一括スケジュール解除」カスタム権限を削除します。この権限は、「FSL 管理権限」または「FSL 派遣担当者権限」権限セットを持つユーザにデフォルトで割り当てられます。

複数日ビューでの不在の表示

ガントチャートの複数日ビューを使用している派遣担当者は、各自のスケジュールでリソースの不在を確認できます。以前は、このビューにサービス予定のみが表示されていました。

強化されたフィールドサービスのヘルプコンテンツの概要

フィールドサービスのマスターになるために必要な情報を確認できるようになりました。フィールドサービスのすべてのヘルプコンテンツを徹底的に見直し、よくある質問に対する答えが見つかるようにしました。

Field Service Mobile アプリケーション: バージョン 5.0 へようこそ

このバージョンは、従業員のデバイスに関係なく、統一された環境に従業員を近づけます。派遣作業員が必要とする情報を表示するように各カードのレイアウトを決定できます。転送通知用の改善された接続アプリケーションが Android と iOS の両方で機能します。クイックアクション、フィードでの @メンション、オフラインでの Chatter フィードの使用、必要商品の確認、メンテナンス計画の改善、Android デバイスでの IoT データへのアクセスがモバイル環境で使用できるようになりました。

サービスクルーの迅速な作成 (ベータ)

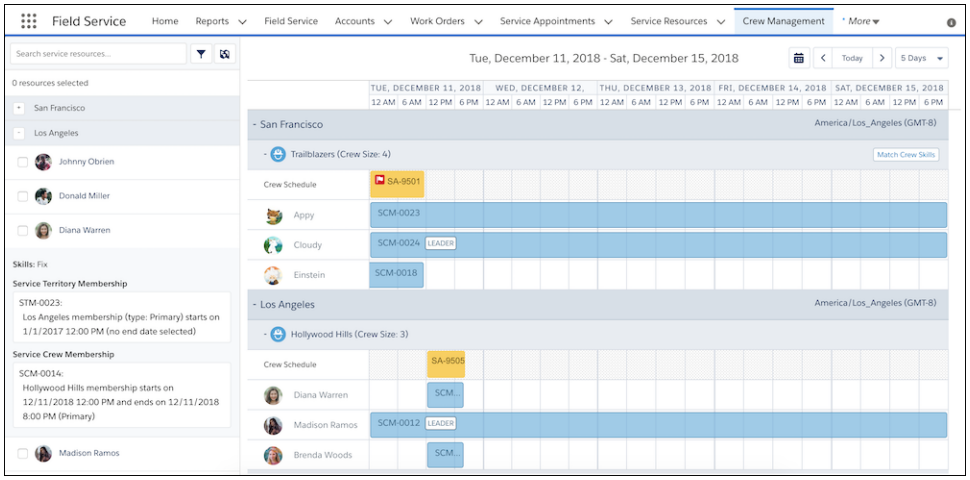
少ないクリック数で、より多くの情報が表示されます。新しいドラッグアンドドロップクルー管理ツールでは、急速に変化する予定スケジュールに対応するためにサービスクルーを簡単に作成および更新できます。適切なスキルを持つメンバーをすばやく見つけて追加し、予定時間に合わせてクルーメンバーシップの日付を調整し、クルーのスケジュールとメンバーをすべて 1 か所で表示できます。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: クルー管理はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。クルー管理に関するフィードバックや提案は、IdeaExchange または Trailblazer Community に投稿してください。組織でのこの機能の有効化については、Salesforce にお問い合わせください。

対象ユーザ:ユーザがクルー管理にアクセスするには、「FSL管理権限」または「FSL派遣担当者権限」権限セットが必要です。クルー管理の Visualforce ページと Apex クラスへのアクセス権も必要です。詳細は、「クルー管理の設定 (ベータ)」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

理由: サービスクルーレコードの [サービスクルーメンバー] 関連リストからの手動によるクルーメンバーシップの管理には時間がかかり、他のフィールドサービス作業の妨げになる可能性があります。サービスクルーが頻繁に変更される場合、クルー管理ツールを使用してすべてのクルーのメンバーシップを表示および更新することで、作業時間が短縮されます。



クルー管理ツールでは、次の操作を実行できます。

- サービステリトリーでクルーを絞り込み、スキルでサービスリソースを絞り込む
- 各クルーのスケジュールとメンバーを参照する
- スキル要件に基づいてクルーメンバーを検索および追加する
- 各サービスリソースのスキル、サービスクルーメンバーシップ、およびサービステリトリーメンバーシップを参照する
- 各サービス予定とその親レコード (クルーサイズとスキル要件を含む) の詳細を参照する
- リソースをクルーにドラッグして表示されている日付のクルーに追加したり、リソースを予定にドラッグして予定の範囲内のクルーに追加したりする

メモ: クルー管理ツールには、[Crew (クルー)] 種別の有効なサービスリソースを含むクルーのみが表示されます。

方法: ユーザがクルー管理にアクセスできるようにするには、Lightning コンポーネントにクルー管理カスタム Lightning コンポーネントを埋め込むか、クルー管理 Visualforce タブを作成します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: クルー管理の設定 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: サービスクルーの管理 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Visualforce タブの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning ページのカスタムコンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

サービス予定フィード設定のカスタマイズ

Field Service Lightning モバイルアプリケーションユーザのガントチャート Chatter メッセージ、緊急予定通知、派遣通知の可視性を高めます。現在、これらのメッセージは関連するサービス予定のフィードに投稿されますが、モバイルアプリケーションの [フィード] タブには表示されません。代わりに、親レコードのフィードに投稿できるようになりました。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

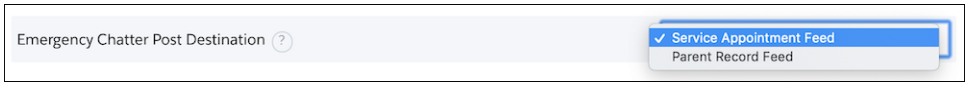
方法: 派遣担当者は、予定のアクションメニューで **[Chatter]** > [カスタムメッセージ] を選択して、ガントチャートからサービス予定の Chatter メッセージを作成できます。カスタムメッセージが投稿される場所を制御するには、Field Service Admin アプリケーションを開き、**[Field Service 設定]** > [ディスパッチャコンソール UI] > [ガントチャート設定] を選択します。次に、[ガントチャート Chatter 投稿先] 項目で値を選択します。



予定が割り当てられると、割り当てられたリソースは Chatter 投稿で通知されます。派遣メッセージが投稿される場所を制御するには、Field Service Admin アプリケーションを開き、**[Field Service 設定]** > [派遣] > [自動] を選択します。次に、[派遣 Chatter 投稿先] 項目で値を選択します。



緊急予定が割り当てられると、割り当てられたリソースは Chatter 投稿で通知されます。緊急メッセージが投稿される場所を制御するには、Field Service Admin アプリケーションを開き、**[Field Service 設定]** > [グローバルアクション] > [緊急ウィザード] を選択します。次に、[緊急 Chatter 投稿先] 項目で値を選択します。



関連トピック:

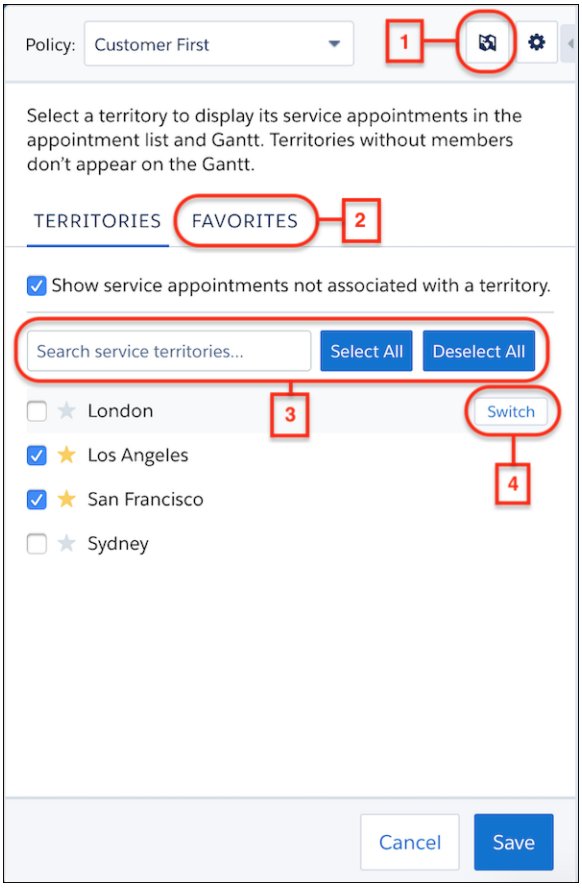
Salesforce ヘルプ: サービス予定 Chatter 設定のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ガントチャートでの絞り込みの迅速化

絞り込みをよく利用されますか?朗報です!ガントチャートのテリトリーの絞り込みで、テリトリーを検索したり、お気に入りのテリトリーを選択したり、選択したテリトリーをすばやく切り替えたりできます。ガントチャートのスキルの絞り込みで、スキルを検索したり、検索条件ロジックを定義したり、すべてのスキルを選択したりできます。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

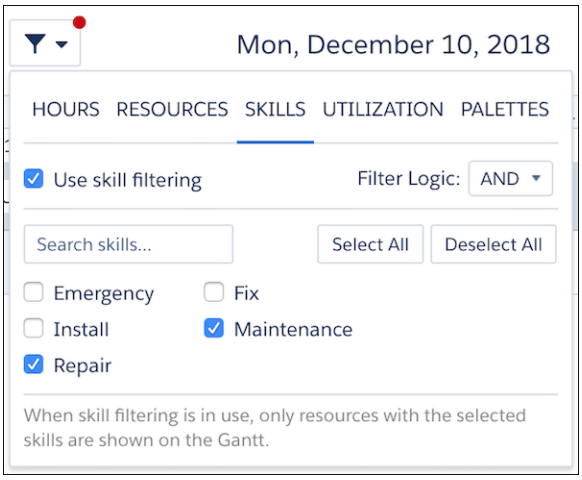
方法: 予定リストとガントチャートをサービステリトリーで絞り込むには、予定リストでテリトリーの絞り込みアイコン (1) をクリックします。



- 星をクリックして、最も頻繁に参照されるテリトリーをお気に入りに登録します。[お気に入り] タブ (2) でお気に入りを表示します。

- 検索項目および選択ボタン (3) を使用して、テリトリーを迅速に検索します。
- テリトリーにマウスポインタを置いて [切り替え] (4) をクリックし、すべてのテリトリーをオフにしてそのテリトリーのみをオンします。
- [保存] をクリックし、検索条件を適用して予定リストに戻ります。

ガントチャート検索条件の [スキル] タブから、ガントチャートリソースリストをスキルで絞り込みます。[条件ロジック] を [OR] を変更して、選択した 1 つ以上のスキルを持つリソースを表示します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:ガントの絞り込み(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

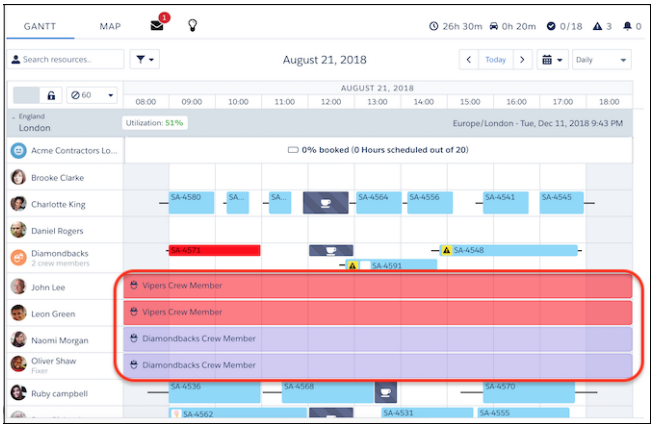
Salesforce ヘルプ:サービステリトリーによるディスパッチャコンソールの絞り込み(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ディスパッチャコンソールの色分け

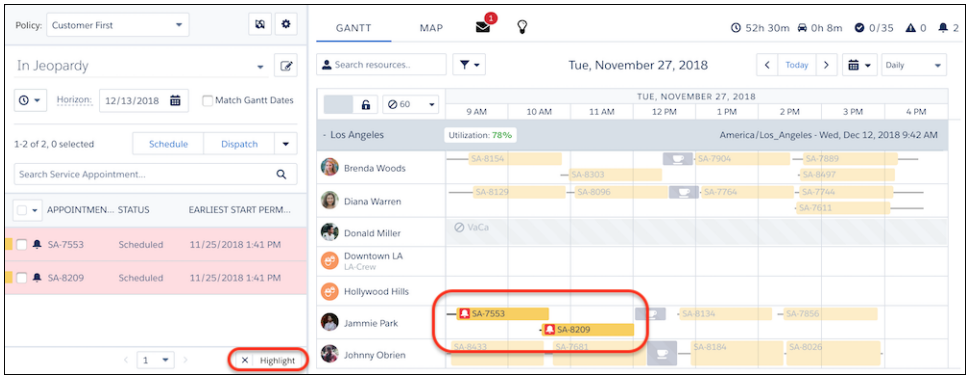
色を使用して、派遣担当者がガントチャートでより効率的に作業できるようにします。ガントチャートパレットを作成するか、予定のガントチャートの色を設定して、ディスパッチャコンソールで予定を色分けすることはすでにできていましたが、サービスクルーの色を割り当てたり、予定リストの背景の影を適用したり、ガントチャートのリストの予定を強調表示したりできるようになりました。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

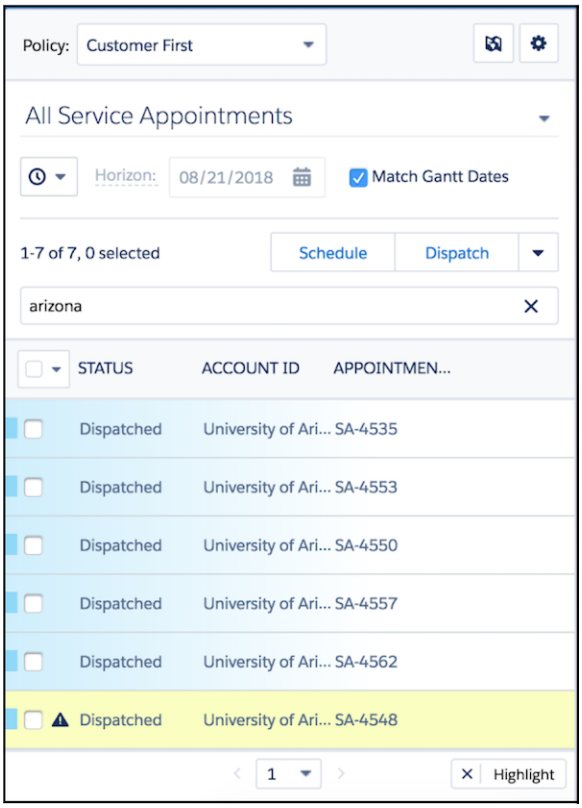
方法: サービスクルーのガントチャートの背景色を設定するには、[ガントチャートの色] 項目をサービスクルーレイアウトに追加します。次に、任意のサービスクルーレコードでその項目に 16 進数コードを入力します。たとえば、会社の車両がクルーに割り当てられている場合、サービスクルーメンバーを赤色で表示します。ガントチャートの色が定義されていないクルーメンバーは紫色で表示されます。



ガントチャートの予定リストに表示される予定を強調表示するには、予定リスト検索条件を選択するか、検索語を入力します。たとえば、予定リストを絞り込んで、「修理」という単語が含まれる予定のみを表示します。リスト下部の[強調表示]をクリックします。リストに表示されていないすべての予定と不在が薄い色で表示されます。



背景の影を予定リストに適用するには、ギアアイコンをクリックし、[ディスパッチャコンソール設定]を選択します。[予定リストの色分け]項目で、[デフォルト](白の背景色)、[完全な影](フラットな背景色)、[横方向のグラデーション](ここに表示)のいずれかを選択します。



メモ:

- ガントチャートと予定リストの予定の色は、その状況に基づいています。ただし、サービス予定のガントチャートパレットや [ガントチャートの色] 項目は、状況ベースの配色よりも優先されます。
- 予定リストの色分け設定に関係なく、ルール違反のある予定は黄色、対応が必要な予定は赤色で強調表示されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ガントチャートの色コード (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: ディスパッチャコンソールのサービス予定リスト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

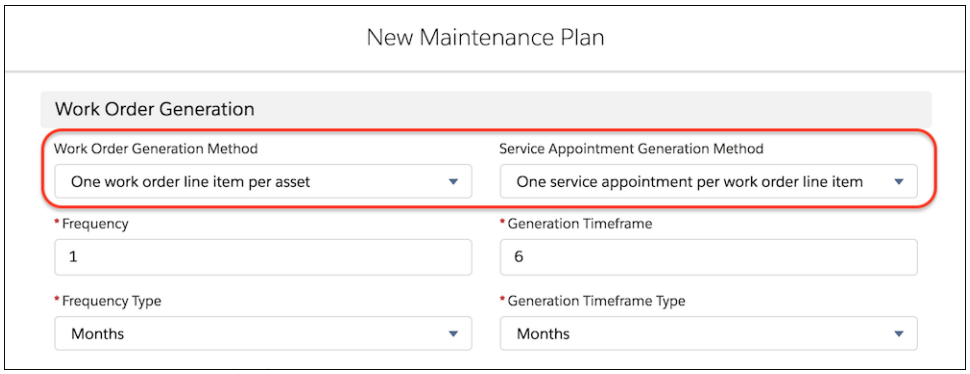
メンテナンス計画内の各納入商品の作業指示品目の作成

メンテナンス計画の対象となる各納入商品の作業指示品目を含む1つの親作業指示を作成し、その計画で生成される作業指示の数を減らします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: メンテナンス計画で、生成方法の設定を選択します。

- メンテナンス納入商品ごとに 1 つの作業指示を作成するか、1 つの作業指示品目を作成するかを選択します。
- [納入商品あたり1つの作業指示品目]を選択した場合、サービス予定を作業指示ごとに作成するか、作業指示品目ごとに作成するかを選択します。



すべての納入商品が 1 つの作業指示で管理されるようにするには、[納入商品あたり 1 つの作業指示品目] を選択します。各納入商品に個別のサービス予定が必要な場合は、[作業指示品目あたり 1 つのサービス予定] を選択します。

すべてのメンテナンス納入商品でメンテナンス計画の次の推奨メンテナンス日が同じ場合、1 つの作業指示にグループ化されます。ただし、メンテナンス納入商品に異なる次の推奨メンテナンス日がある場合、各日付に対して作業指示が作成されます。

ヒント: どの注文に納入商品を含めるかのガイダンスを提供するには、親作業指示でガイド付きアクションまたはフローを作成します。

[作業指示の生成方法] が [なし] のままの場合、デフォルトで納入商品あたり 1 つの作業指示が設定されます。

重要: 既存のメンテナンス計画に作業指示または作業指示品目が関連付けられている場合、その生成方法は変更できません。既存のメンテナンス計画の生成方法を変更するには、作業指示を削除して再生成するか、メンテナンス計画を削除して必要な生成方法で再作成します。

関連トピック:

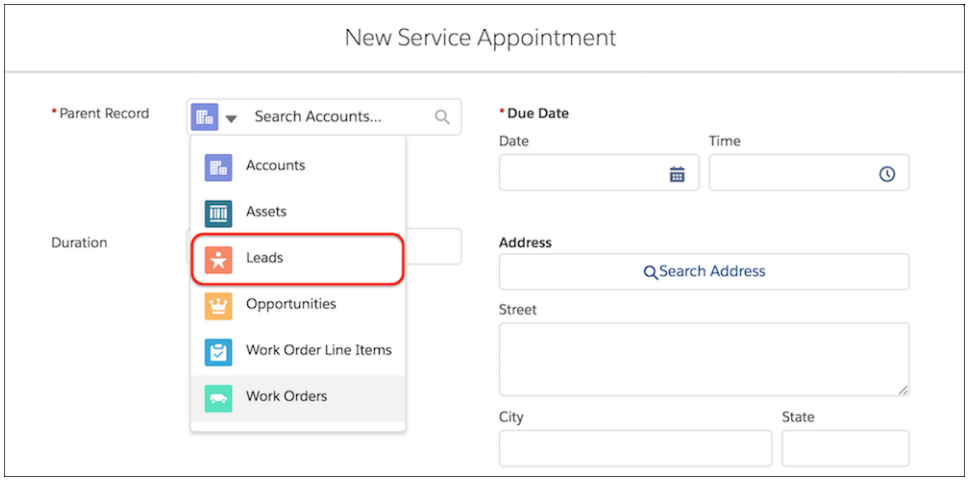
Salesforce ヘルプ: メンテナンス計画からの作業指示の生成に関するガイドライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リードのサービス予定の作成

新しいサービス予定の親(レコード)が登場しました。チームでサイトへの訪問をスケジュールして有望なリードを追跡する必要がある場合、リードの子サービス予定を作成して Salesforce で訪問を追跡します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: サービス予定の [親レコード] 項目に、システム管理者による設定を必要とせずにリードを選択できるオプションが追加されました。[サービス予定] 関連リストでリードの予定を管理します。



メモ: 親が作業指示または作業指示品目であるサービス予定のみがスケジュールの最適化に含まれます。

ガントチャートの独自のアイコンの作成

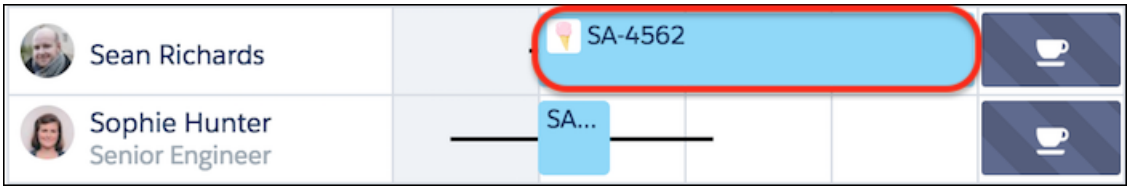
ガントチャートのカスタマイズされたアイコンを使用して、派遣担当者が特定のサービス予定の特性をすばやく識別できるようにします。たとえば、VIP の予定なのか、新規顧客の予定なのかを示すアイコンを作成します。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [ガントチャートアイコン] 項目をサービス予定ページレイアウトを追加したら、サービス予定の項目にアイコン URL を入力できます。URL は画像のサフィックス (.png や .gif など) で終わる必要があります。透明な背景の画像は、ガントチャートでは白い背景で表示されます。

たとえば、お気に入りのアイスクリームショップの横にある予定にアイスクリームアイコンを追加します。アイスクリームアイコンへの URL を見つけ、リンクを予定の [ガントチャートアイコン] 項目に貼り付けます (もちろん、予定の後におやつ休憩をスケジュールすることをお勧めします)。





関連トピック:

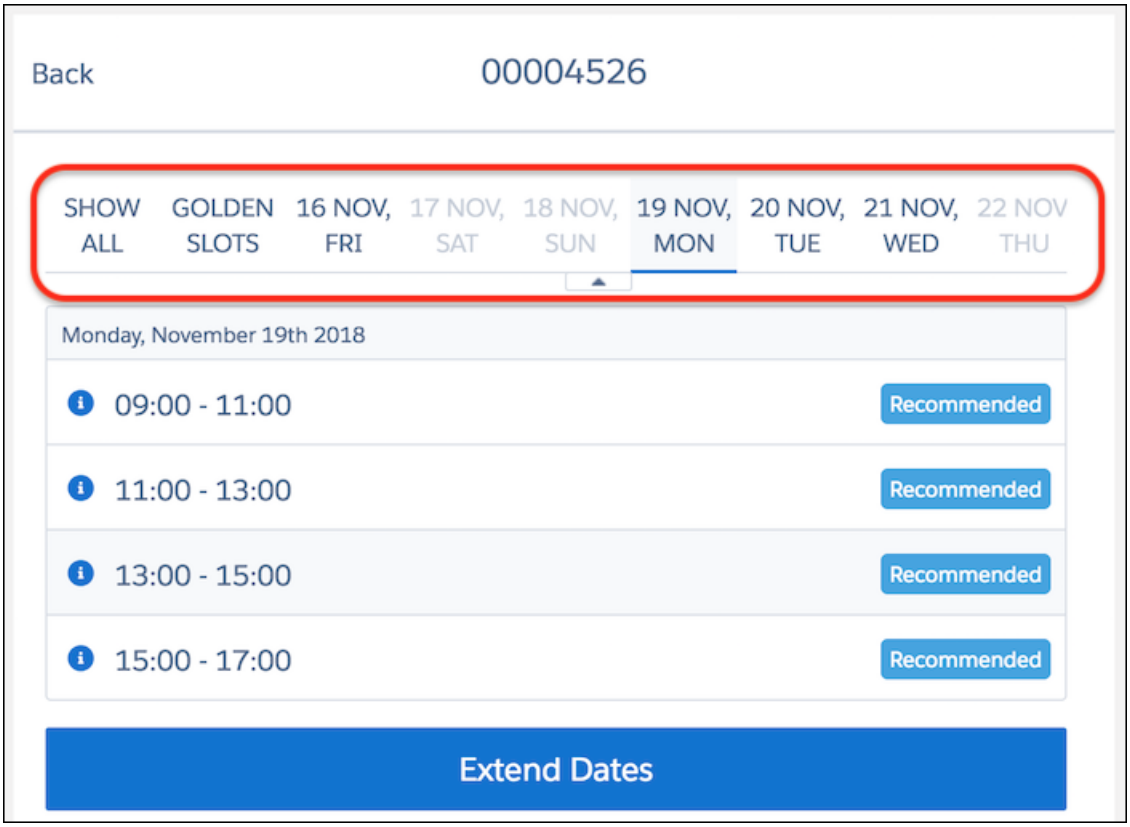
Salesforce ヘルプ: カスタムガントチャートアイコンの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

予定を予約するときの日付による時間枠の並び替え

日付ごとに空いている予定時間枠を表示して、より迅速に予定を予約します。顧客が次の火曜日の予定を要求した場合、[予定の予約]ウィンドウでその日付をクリックすれば、その時間枠が表示されます。もうスクロールする必要はありません。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [予定を予約] アクションを使用して空き時間枠のリストを表示する場合、新しい横型のパネルで日付をクリックします。時間枠のない日付は灰色で表示され、クリックできません。パネルを非表示にするには、矢印アイコンをクリックします。

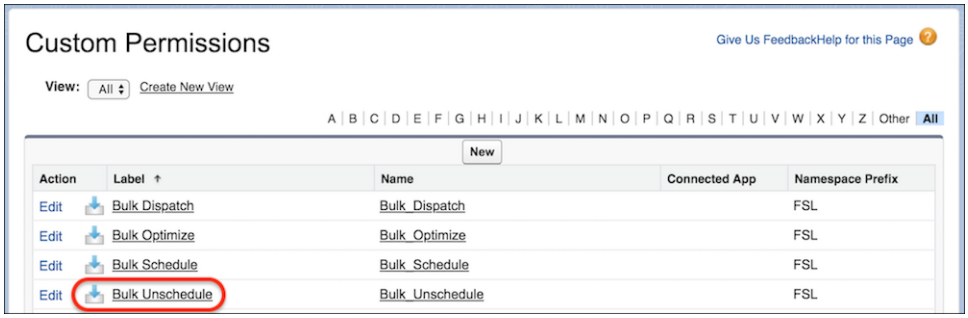


一括スケジュール解除へのアクセスの制御

複数の予定のスケジュールを一度に解除すると、フィールドサービスチームのスケジュールに大きく影響する可能性があります。ユーザがこのアクションを実行できないようにするには、ユーザのプロファイルから新しい「一括スケジュール解除」カスタム権限を削除します。この権限は、「FSL管理権限」または「FSL派遣担当者権限」権限セットを持つユーザにデフォルトで割り当てられます。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 権限セットの [カスタム権限] セクションで、権限を追加または削除します。「一括スケジュール解除」権限がないユーザには、予定リストのアクションメニューに [スケジュール解除] アクションが表示されません。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: プロファイルでのカスタム権限の有効化(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

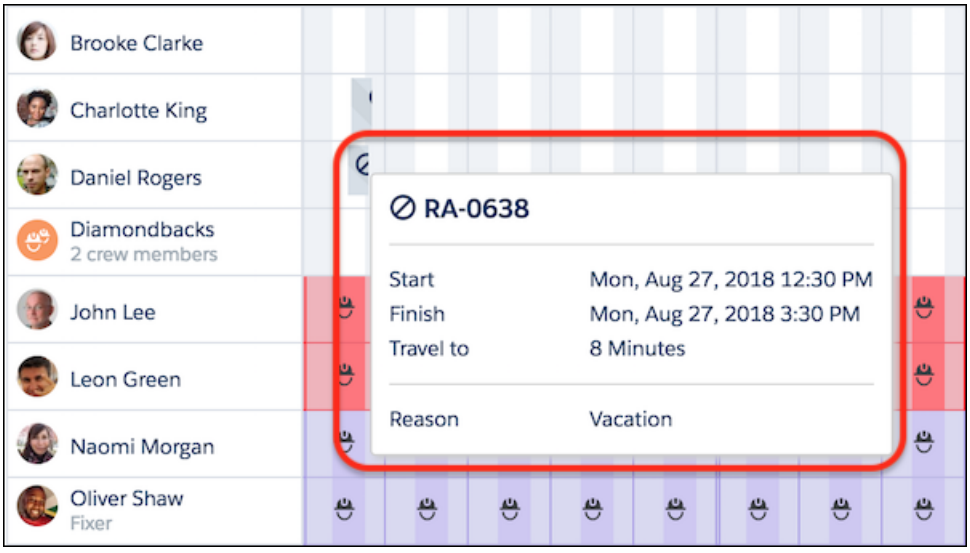
Salesforce ヘルプ: ディスパッチャコンソールのサービス予定リスト(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

複数日ビューでの不在の表示

ガントチャートの複数日ビューを使用している派遣担当者は、各自のスケジュールでリソースの不在を確認できます。以前は、このビューにサービス予定のみが表示されていました。

対象: この変更は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 不在にマウスポインタを置いてその詳細を表示するか、右クリックして使用可能なアクションを表示します。



強化されたフィールドサービスのヘルプコンテンツの概要

フィールドサービスのマスターになるために必要な情報を確認できるようになりました。フィールドサービスのすべてのヘルプコンテンツを徹底的に見直し、よくある質問に対する答えが見つかるようにしました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: この新しい記事では、スケジュールの最適化、ガントチャートでの作業などを確認できます。

- ガントチャートのキーボードショートカット(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります) — キーボードショートカットを使用すれば、ディスパッチャコンソールでよりスムーズに作業できます。
- フィールドサービススケジュールの最適化(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります) — スケジュールの最適化を使用すれば、チームおよび顧客にとって最適なスケジュールを策定できます。スケジュールの最適化により、サービスレベル契約に準拠し、移動時間やコスト、無断キャンセルを最小限に抑えることができます。
- 最適化ジョブの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります) — 指定された日数の範囲で 1 つまたは複数のサービステリトリーのチームのスケジュールを最適化します。
- 関連性グループの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります) — 関連性グループとは、独自の作業ルールまたはサービス内容が必要なサービス予定またはサービステリトリーメンバーのグループです。たとえば、関連性グループを使用してフルタイムおよびパートタイムの従業員の休憩時間や移動時間に会社のポリシーを適用します。
- 予定の予約設定のカスタマイズ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります) — ユーザは [Book Appointment (予定を予約)] Chatter アクションを使用して作業指示、作業指示品目、その他のレコードのサービス予定をスケジュールできます。
- タイムゾーンと予定の予約(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります) — 大規模なフィールドサービス業務では、サービス予定のサポートエージェント、割り当てられたリソース、顧客のすべてのタイムゾーンが異なる場合もあります。Field Service Lightning の予定の予約プロセスには、ユーザのタイムゾーンで各ユーザの予定の詳細が表示されます。
- サービスリソースの不在の作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります) — サービスリソースが作業できない期間を示します。スケジュールの最適化中、サービスリソースは不在と競合する予定には割り当てられません。

さらに、『Field Service Lightning 開発者ガイド』に Field Service Lightning 管理パッケージに関する参照コンテンツが追加されました。開発者の皆さま、ご確認ください!

Field Service Mobile アプリケーション: バージョン 5.0 へようこそ

このバージョンは、従業員のデバイスに関係なく、統一された環境に従業員を近づけます。派遣作業員が必要とする情報を表示するように各カードのレイアウトを決定できます。転送通知用の改善された接続アプリケーションが Android と iOS の両方で機能します。クイックアクション、フィードでの @メンション、オフラインでの Chatter フィードの使用、必要商品の確認、メンテナンス計画の改善、Android デバイスでの IoT データへのアクセスがモバイル環境で使用できるようになりました。

このセクションの内容:

レイアウトのより詳細な制御
このバージョンは、従業員が Android または iOS デバイスのどちらを使用しているかに関係なく、統一された環境に従業員を近づけます。このため、モバイルアプリケーションの外観と管理方法に大幅な変更が加えられました。

数式関数と演算子のオフラインサポート
ユーザがフローをさらに有効に利用できるように、数式関数と演算子がオフラインでサポートされるようになりました。数式とは、他の項目、式、または値から値を取得するアルゴリズムのことです。数式は、他の項目に基づいて、項目の値を自動的に計算します。

転送通知用の改善された接続アプリケーション
接続アプリケーションは、実際の Field Service Lightning モバイルアプリケーションとは異なりますが、転送通知と、サービスレポートの生成およびアプリケーションのカスタマイズに関連するその他のアプリケーション設定を提供します。

サービスレポートの改善
パフォーマンスを向上するため、派遣作業員のアバターの下にあるアクション (SMS の送信、メール、詳細の表示など) と必要なデータは、必要になるまでプライミングされません。

コンテキストに応じた商品リクエストを使用して商品注文の時間を節約 (Android)
Android デバイスでの商品リクエストの作成が簡素化および迅速化されます。Android デバイスで必要商品を使用できるようになりました。

IoT Insights カード: Field Service Lightning (Android) での Salesforce IoT データの表示
Field Service Lightning for Android の Salesforce IoT Insights を使用して、フィールドサービスユーザの場所に関係なく、接続商品に関する新しいデータをフィールドサービスユーザに提供します。

オフライン Chatter の機能強化による明確なコミュニケーション (Android)
Field Service Lightning for Android では、インターネットアクセスなしで作業するときでもお気に入りの Chatter 機能の多くにアクセスできます。オフラインで作業するユーザは、Chatter フィードの表示、投稿の作成、編集、および削除、投稿に対するコメント、プライミングされたレコードの Chatter フィードへの画像のアップロードができます。

関連リストを使用した Salesforce アプリケーションへのリンク (Android)
パフォーマンスを強化するために、オフラインプライミングルールでダウンロードされる関連リストレコードを減らせるようになりました。

作業指示または作業指示品目の通貨をデフォルトで使用 (Android)
バージョン 5.0 よりも前は、通貨項目は Android モバイルデバイスのロケールに基づいていました。通貨項目は作業指示または作業指示品目の通貨項目に基づくようになりました。

Field Service Lightning モバイルの他の機能強化
モバイル環境に対する次の改善点を確認してください。

レイアウトのより詳細な制御

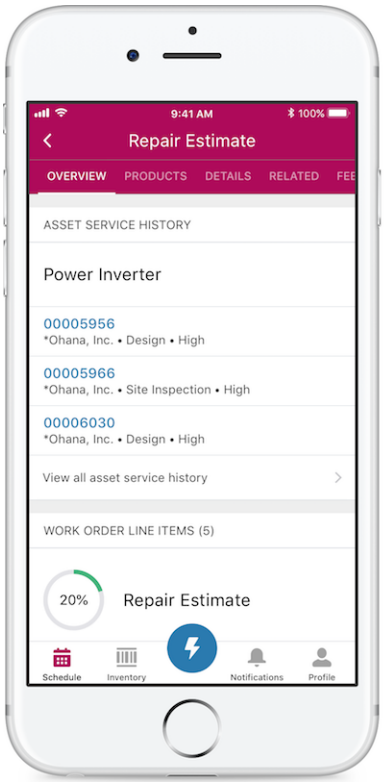
このバージョンは、従業員が Android または iOS デバイスのどちらを使用しているかに関係なく、統一された環境に従業員を近づけます。このため、モバイルアプリケーションの外観と管理方法に大幅な変更が加えられました。

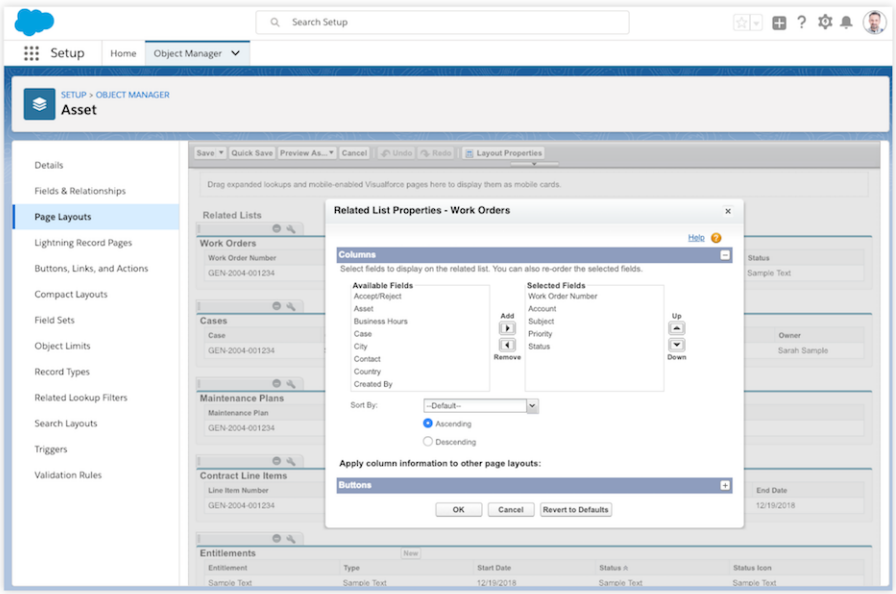
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が App Store と Google Play でダウンロード可能になります。

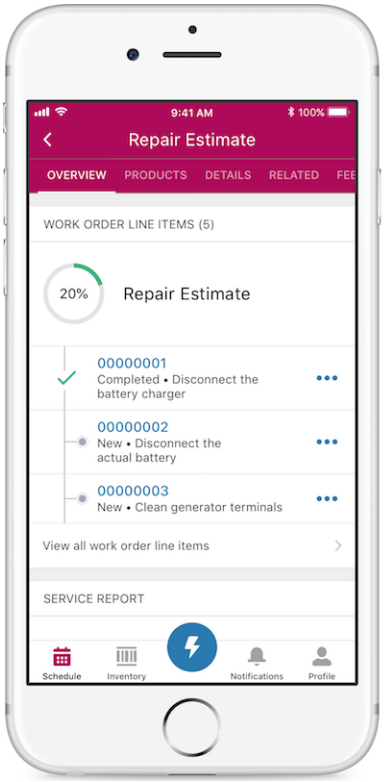
方法: 多くのユーザインターフェースが関連リストレイアウトによって決定されます。関連リストレイアウトの最初の項目が空の場合、デフォルトでは最終更新日が表示されます。参照項目名が空の場合、表示されるタブはありません。

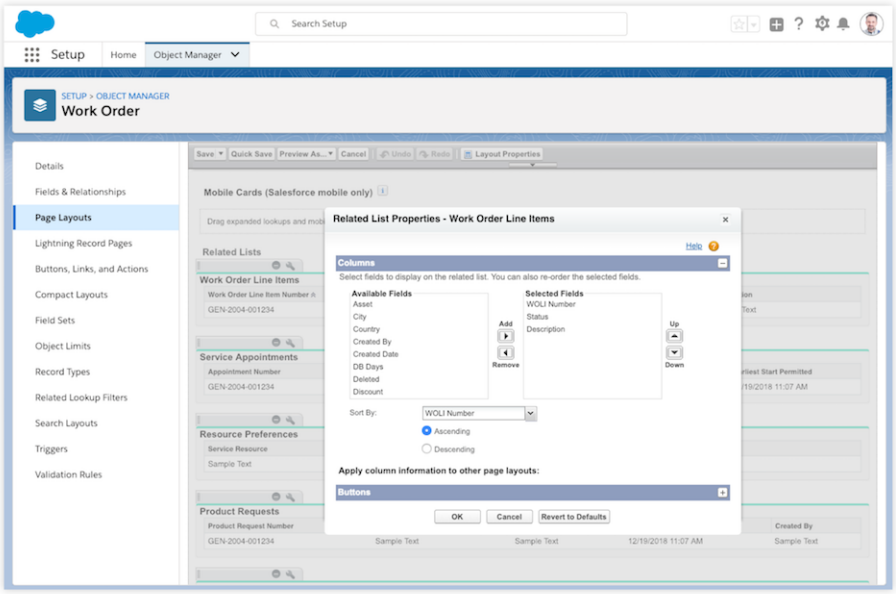
サービス予定では、[納入商品サービス履歴] に 3 つの項目が表示されなす。これらは、納入商品オブジェクトのページレイアウトの [作業指示] 関連リストから取り込まれます。



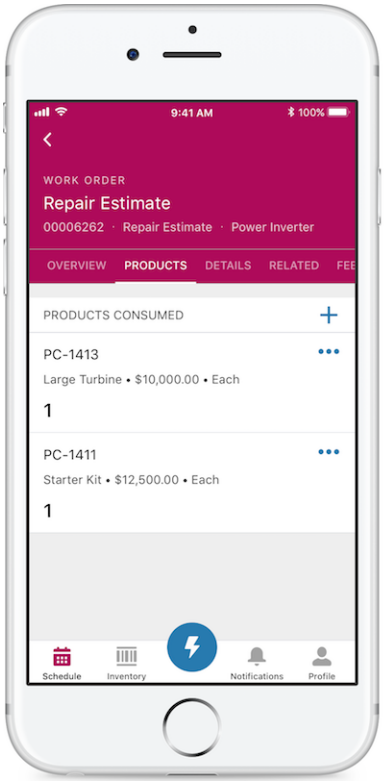


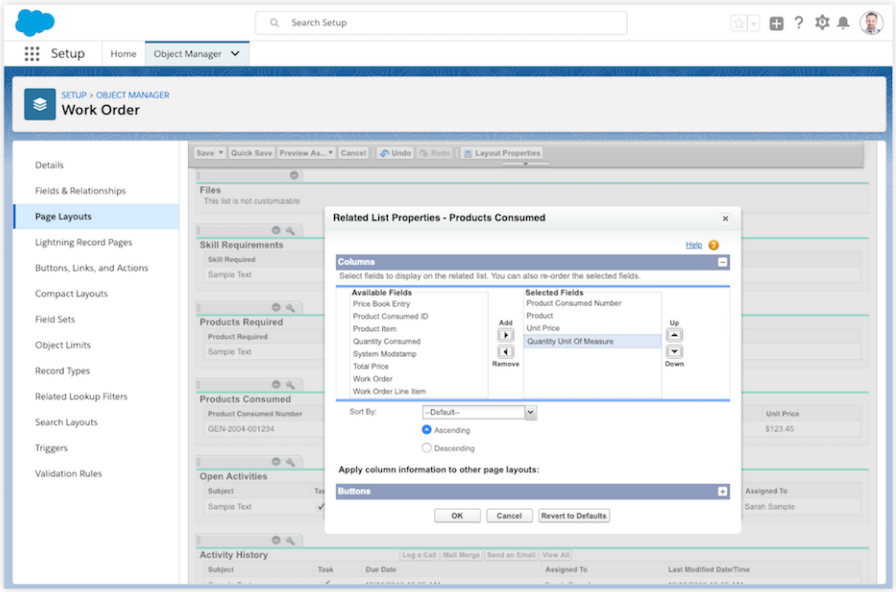
サービス予定では、[作業指示品目] に 2 つのサブ項目も含まれます。これらは、作業指示の作業指示品目の関連リストレイアウトから取り込まれます。



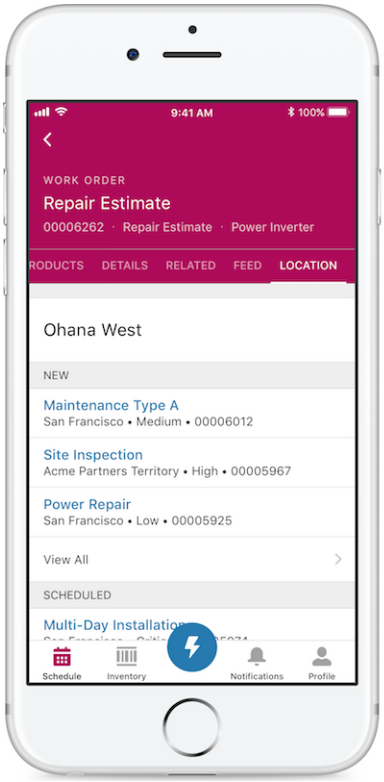


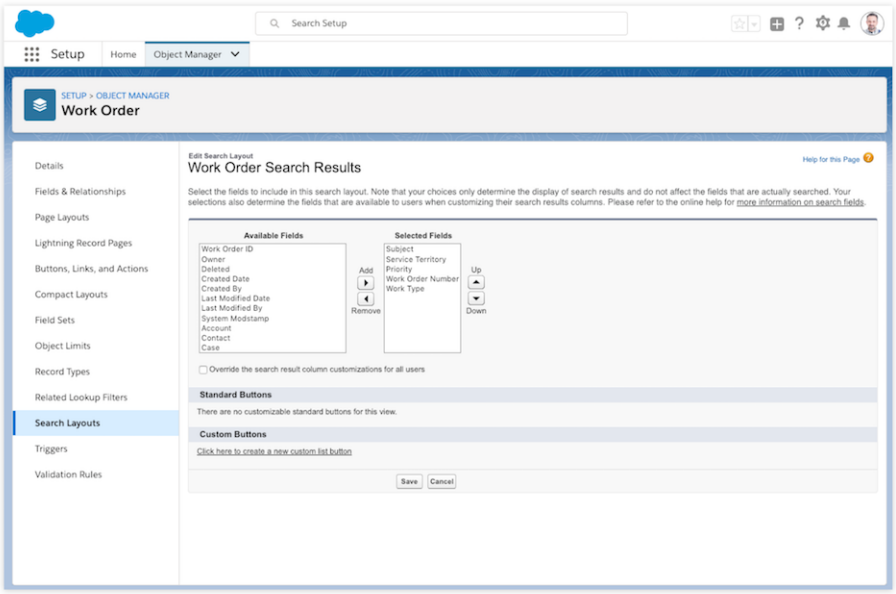
作業指示では、[消費した商品] が作業指示の [消費した商品] 関連リストレイアウトから取り込まれます。この関連リストでは、商品番号が最初の項目でなければなりません、





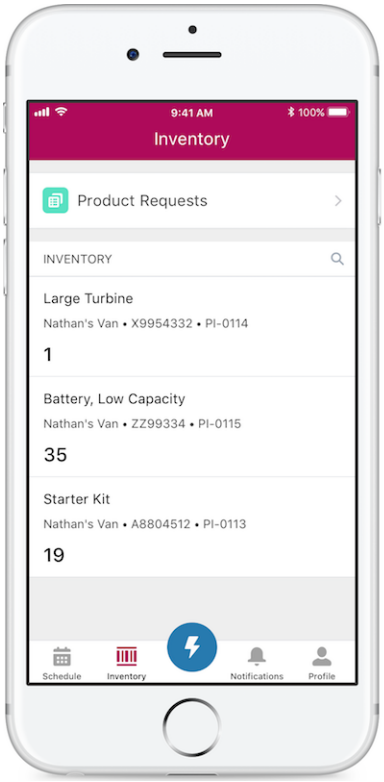
また、技術者のスケジュールの[ロケーション]タブは、作業指示の検索結果レイアウトから取り込まれます。

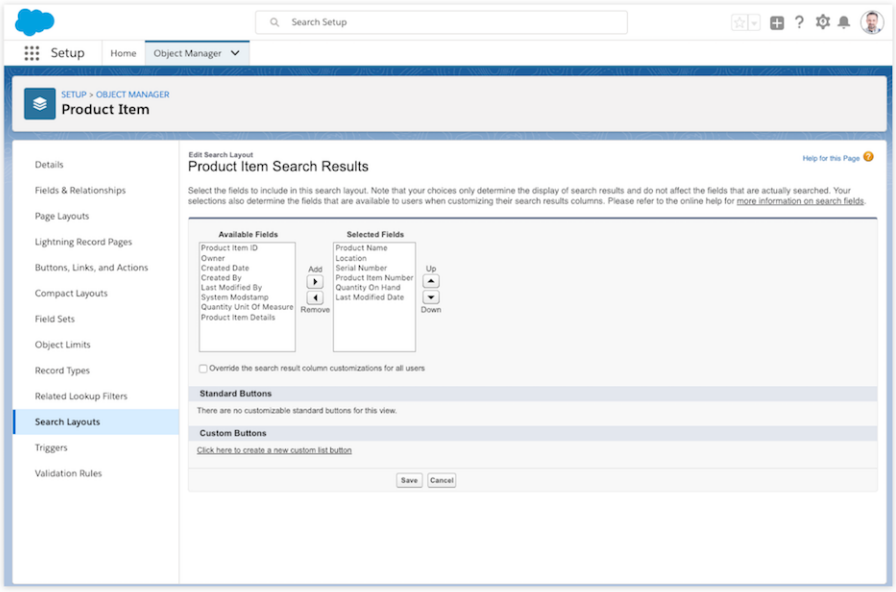




[在庫] タブでは、レイアウトは商品項目オブジェクトの検索結果レイアウトから取得されます。

メモ: 数量は変更できません。





数式関数と演算子のオフラインサポート

ユーザがフローをさらに有効に利用できるように、数式関数と演算子がオフラインでサポートされるようになりました。数式とは、他の項目、式、または値から値を取得するアルゴリズムのことです。数式は、他の項目に基づいて、項目の値を自動的に計算します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が App Store と Google Play でダウンロード可能になります。

方法: Field Service Lightning モバイルアプリケーションでの数式関数と演算子のオフラインサポートについての詳細は、「数式を使用した項目値の計算」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)を参照してください。ただし、いくつかの例外があります。「Field Service Lightning モバイルアプリケーションでのフロー使用に関する考慮事項」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

転送通知用の改善された接続アプリケーション

接続アプリケーションは、実際の Field Service Lightning モバイルアプリケーションとは異なりますが、転送通知と、サービスレポートの生成およびアプリケーションのカスタマイズに関連するその他のアプリケーション設定を提供します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が App Store と Google Play でダウンロード可能になります。

方法: チームが転送通知を使用している場合、Field Service Lightning の接続アプリケーションをダウンロードします。

サービスレポートの改善

パフォーマンスを向上するため、派遣作業員のアバターの下にあるアクション (SMS の送信、メール、詳細の表示など) と必要なデータは、必要になるまでプライミングされません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が App Store と Google Play でダウンロード可能になります。

方法: [すべてのサポートレポートを表示] をクリックすると、現在のサービス予定とその親 (作業指示または作業指示品目) のすべてのサービスレポートが表示されます。サービス予定ピッカーのパフォーマンスが低下しなくなくなりました。

このリリースでは、サービスレポートのメモが使いやすくなっています。

コンテキストに応じた商品リクエストを使用して商品注文の時間を節約 (Android)

Android デバイスでの商品リクエストの作成が簡素化および迅速化されます。Android デバイスで必要商品を使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

方法: 作業指示番号が商品リクエストにコピーされると、その項目はアプリケーションでは参照のみになります。

Android を使用する派遣作業員は、作業指示の [消費した商品] 画面から [すべての必要商品を表示] をクリックし、[必要商品] に移動できます。

作業指示または作業指示品目の詳細ビューからクイックアクションを使用して商品リクエストを作成すると、商品リクエストで作業指示または作業指示品目の番号が継承されるようになりました。以前は、この番号を商品リクエストに手動で入力する必要がありました。作業指示品目の詳細ページからクイックアクションを介してアプリケーションから作成された商品リクエストでは、作業指示と作業指示品目が自動的に入力されます。

作業指示または作業指示品目の番号が継承された後、商品リクエストでその番号を更新すると、アプリケーションがデータを Salesforce にアップロードするときに同期エラーが発生します。ユーザは問題を修正するまでこの変更をアップロードできません。

必要商品では、複数のロケーションが有効になっている場合にのみ必要商品のリストが表示され、在庫内の商品数は表示されません。また、追加するためのオプションはありません。

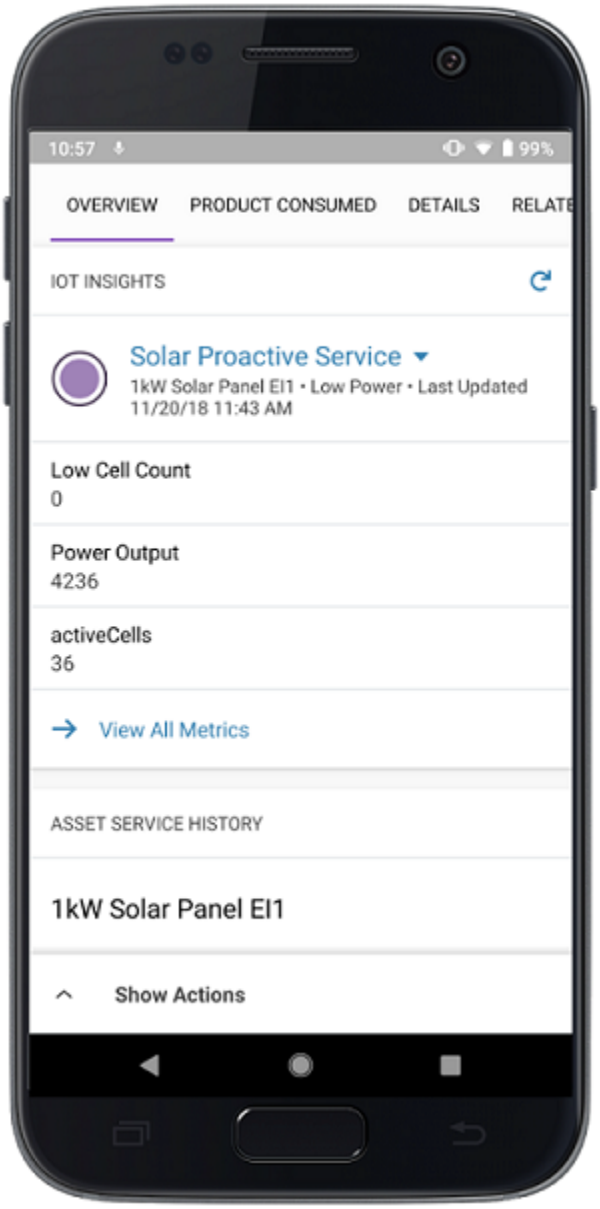
IoT Insights カード: Field Service Lightning (Android) での Salesforce IoT データの表示

Field Service Lightning for Android の Salesforce IoT Insights を使用して、フィールドサービスユーザの場所に関係なく、接続商品に関する新しいデータをフィールドサービスユーザに提供します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

理由: Field Service Lightning の IoT Insights を使用することで、派遣作業員は顧客の接続デバイスの貴重な IoT データにあらゆる場所からアクセスできるようになりました。貴重な診断データにアクセスできることで、フィールドサービス技術者は現場にいる間に顧客の問題をよりすばやく分析し、解決できます。



方法: モバイル用 Field Service Lightning の IoT Insights を有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定]から、［クイック検索］ボックスに「*接続アプリケーション*」と入力し、[接続アプリケーションを管理する] を選択します。
2. [Salesforce Field Service for Android] の横にある [編集] をクリックします。
3. `ENABLED_IOT` が [TRUE] に設定されていることを確認するか、[編集] をクリックしてこの属性を [TRUE] に変更します。

4. [保存] をクリックします。

オフライン Chatter の機能強化による明確なコミュニケーション (Android)

Field Service Lightning for Android では、インターネットアクセスなしで作業するときでもお気に入りの Chatter 機能の多くにアクセスできます。オフラインで作業するユーザは、Chatter フィードの表示、投稿の作成、編集、および削除、投稿に対するコメント、プライミングされたレコードの Chatter フィードへの画像のアップロードができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

方法: Field Service Lightning Android ユーザは、プライミングされた (モバイルデバイスにダウンロードされた) レコードに対する Chatter フィードをオフラインで表示できます。レコードは、[Field Service Mobile 設定] のデフォルトリストビューと、割り当てられたサービス予定のユーザのカレンダーに従って自動的にダウンロードされます。デフォルトリストビューに含まれないレコードは、インターネットへの接続中にアプリケーションでユーザが手動で開いたときにダウンロードされます。

オフラインで作業するユーザは、投稿の作成、投稿に対するコメント、プライミングされたレコードの Chatter フィードへの画像のアップロードもできます。Chatter フィードに対する投稿、コメント、または投稿されたファイルは、インターネット接続が復元されるまで待機中のアップロードキューに追加されます。

必要商品では、複数のロケーションが有効になっている場合にのみ必要商品のリストが表示され、在庫内の商品数は表示されません。また、追加するためのオプションはありません。

関連リストを使用した Salesforce アプリケーションへのリンク (Android)

パフォーマンスを強化するために、オフラインプライミングルールでダウンロードされる関連リストレコードを減らせるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

方法: 関連リストの全レコードをダウンロードするのではなく、ユーザが特定の関連リストを表示すると Salesforce アプリケーションにリンクされます。サービス予定、作業指示、作業指示品目、および納入商品の関連リストは引き続き Field Service Lightning for Android によってプライミングされます。Salesforce モバイルアプリケーションで使用可能なオンライン (プライミングされていない) データに容易にアクセスできます。

この機能を有効にするための操作は必要ありません。Salesforce アプリケーションがインストールされていないユーザが Field Service Lightning でまだダウンロードされていない関連リストを開こうとすると、Salesforce アプリケーションをダウンロードしてインストールするように要求されます。

作業指示または作業指示品目の通貨をデフォルトで使用 (Android)

バージョン 5.0 よりも前は、通貨項目は Android モバイルデバイスのロケールに基づいていました。通貨項目は作業指示または作業指示品目の通貨項目に基づくようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

Field Service Lightning モバイルの他の機能強化

モバイル環境に対する次の改善点を確認してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Lightning for Android/iOS に適用されます。

時期: 2019 年 1 月にバージョン 5.0 が Google Play でダウンロード可能になります。

スキップされなくなった空の項目
モバイルユーザは、値のない項目を Field Service Lightning モバイルアプリケーションで参照できます。

実際よりも未来の日付
モバイルデバイスの時間がサーバよりも進んでいる場合、モバイルの日時スタンプはレコード更新の検証に影響しません。

リソース不在の開始日と終了日
リソースを抑制します。すべてのリソース不在に開始日と終了日が必要です。

拡張用の簡単なマークアップ
アプリケーション拡張で `{!$` の代わりに `{!` のパラメータ置き換えが機能します。

デバイスプレーヤーからの動画の参照
パフォーマンスを向上するため、iOS デバイスでは Chatter フィードから動画をダウンロードし、デバイスプレーヤーで参照する必要があります。

iOS 10 以前はサポート対象外
iOS デバイスを iOS 11 以降にアップグレードしてください。

ナレッジ: Lightning Knowledge の使いやすさの向上、Lightning Knowledge 移行ツールの導入

Lightning Knowledge に Salesforce Classic 知識ベースを移行するための Lightning Knowledge 移行ツールが正式リリースされました。また、記事の管理を合理化し、記事ファイルの共有を容易にするための機能とアクションが Lightning Knowledge に追加されています。Lightning Experience ですべてのすばらしい新機能の利用を開始してください。

このセクションの内容:

Lightning Knowledge 移行ツールを使用した未来の受け入れ (正式リリース)

Lightning Experience の Lightning Knowledge 移行ツールを使用して、Salesforce Classic の知識ベースを移行するときの面倒な作業の大部分を処理できます。Lightning Knowledge は標準 Salesforce コンポーネントを利用するため、作成時間の短縮と品質向上が実現します。移行ツールは、記事タイプを標準ナレッジオブジェクトに統合して、前の記事タイプからレコードタイプを作成し、記事およびファイルを移行して、フィードやスマートリンクを更新します。また、無効なユーザが所有する記事も移行できるようになりました。

Lightning Experience アクションを使用した記事の管理

3つの新しい拡張アクション(復元、ドラフトとして編集、アーカイブ)により、Lightning Experience でより多くの作業を実行できます。Lightning Knowledge でアーカイブ済み記事または過去のバージョンを復元します。以前は、過去のバージョンを復元するには Salesforce Classic に切り替える必要がありました。記事の同期を維持するために公開された翻訳または公開キューにある翻訳に対して緊急の変更を行います。リストビューから一度に複数の記事をアーカイブして、知識ベースをすばやく整理します。知識ベースを自由にカスタマイズします。これらの Lightning Experience アクションは、Salesforce API やフローで使用できます。

Lightning Knowledge を使用したメールへのファイルの添付

Lightning Experience の [記事をメールに挿入] アクションを使用して、関連リストからナレッジ記事ファイルを添付します。メールから不要な添付ファイルを削除して、含める添付ファイルを選択します。組織のメール添付ファイル制限より大きなファイルはリンクとして送信できます。

コミュニティの記事での関連ファイルの表示

添付ファイルやリソースをコミュニティのメンバーと共有します。[ファイル] 関連リストをコミュニティのナレッジ記事に追加します。

ナレッジ記事への Ooyala 動画の埋め込み

Lightning Knowledge の著者は、顧客のために動画を埋め込んでリッチ記事環境を作成することが大好きです。Salesforce Classic と Lightning Experience の両方で、動画の埋め込みがサポートされるドメインのリストに `ooyala.com` が追加されました。

Lightning Knowledge 移行ツールを使用した未来の受け入れ (正式リリース)

Lightning Experience の Lightning Knowledge 移行ツールを使用して、Salesforce Classic の知識ベースを移行するときの面倒な作業の大部分を処理できます。Lightning Knowledge は標準 Salesforce コンポーネントを利用するため、作成時間の短縮と品質向上が実現します。移行ツールは、記事タイプを標準ナレッジオブジェクトに統合して、前の記事タイプからレコードタイプを作成し、記事およびファイルを移行して、フィードやスマートリンクを更新します。また、無効なユーザが所有する記事も移行できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。有料オプションで Salesforce ナレッジを Professional Edition、Performance Edition、および Enterprise Edition で使用できます。

対象ユーザ: Lightning Knowledge 移行ツールにアクセスするには、システム管理者はナレッジユーザライセンスを持っている必要があります。

方法: Sandbox で Lightning Knowledge 移行ツールを有効にするには、Salesforce サポートにお問い合わせください。本番組織でツールを有効にする前に、フルコピーの Sandbox で移行をテストして検証する必要があります。

有効になったら、Lightning Experience の [設定] で Lightning Knowledge 移行ツールを見つけます。何が移行に含まれるのかを理解するために必ず計画ステップを完了してください。Lightning Knowledge を効果的に使用するには、権限、ページレイアウト、カスタマイズを改訂する必要もあります。

以前は、レコード所有者が無効なユーザである場合、その記事を移行できず、ベータバージョンではこの特殊なケースが処理されませんでしたが、移行ツールで [「レコードの作成時に監査項目を設定」および「無効な

所有者のレコードを更新」ユーザ権限を有効化] 組織設定をオンにして、移行中に一時的に有効化できるようになりました。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Knowledge 移行ツール (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience アクションを使用した記事の管理

3 つの新しい拡張アクション (復元、ドラフトとして編集、アーカイブ) により、Lightning Experience でより多くの作業を実行できます。Lightning Knowledge でアーカイブ済み記事または過去のバージョンを復元します。以前は、過去のバージョンを復元するには Salesforce Classic に切り替える必要がありました。記事の同期を維持するために公開された翻訳または公開キューにある翻訳に対して緊急の変更を行います。リストビューから一度に複数の記事をアーカイブして、知識ベースをすばやく整理します。知識ベースを自由にカスタマイズします。これらの Lightning Experience アクションは、Salesforce API やフローで使用できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。有料オプションで Salesforce ナレッジを Professional Edition、Performance Edition、および Enterprise Edition で使用できます。

対象ユーザ: Lightning Knowledge アクションを操作するには、ユーザに次の権限が必要です。

- 復元—レコードホームで使用できます。ナレッジに対する「作成」、「編集」、「更新」権限、ユーザプロファイルに対する「記事の管理」および「記事のアーカイブ」権限が必要です。
- リストビューからのアーカイブ—レコードホームおよびリストビューで使用できます。ナレッジに対する「参照」、「更新」、「削除」権限、ユーザプロファイルに対する「記事のアーカイブ」権限が必要です。
- ドラフトとして編集—レコードホームで使用できます。ナレッジに対する「更新」権限、ユーザプロファイルに対する「記事の管理」権限が必要です。翻訳を編集する場合は、「翻訳の編集」権限も必要です。

方法: [復元]、[ドラフトとして編集]、[アーカイブ] ボタンをレコードホームページレイアウトに追加し、ユーザプロファイル権限を設定します。[アーカイブ] ボタンは、適切なアクセス権を持つユーザのリストビューに表示されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Knowledge ユーザのアクセス権 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Knowledge のアクションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Knowledge を使用したメールへのファイルの添付

Lightning Experience の [記事をメールに挿入] アクションを使用して、関連リストからナレッジ記事ファイルを添付します。メールから不要な添付ファイルを削除して、含める添付ファイルを選択します。組織のメール添付ファイル制限より大きなファイルはリンクとして送信できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。有料オプションで Salesforce ナレッジを Professional Edition、Performance Edition、および Enterprise Edition で使用できます。

コミュニティの記事での関連ファイルの表示

添付ファイルやリソースをコミュニティのメンバーと共有します。[ファイル]関連リストをコミュニティのナレッジ記事に追加します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。有料オプションで Salesforce ナレッジを Professional Edition、Performance Edition、および Enterprise Edition で使用できます。

ナレッジ記事への Ooyala 動画の埋め込み

Lightning Knowledge の著者は、顧客のために動画を埋め込んでリッチ記事環境を作成することが大好きです。Salesforce Classic と Lightning Experience の両方で、動画の埋め込みがサポートされるドメインのリストに `ooyala.com` が追加されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Developer Edition、および Unlimited Edition に適用されます。有料オプションで Salesforce ナレッジを Professional Edition、Performance Edition、および Enterprise Edition で使用できます。

チャネル: SMS の Einstein ボット、スキルベースのルーティング、コミュニティの連絡要求

顧客が必要なサポートを必要なときに受けることができるように、顧客のお気に入りのチャネルが拡張されました。SMS テキストメッセージングチャネルで Einstein ボットをリリースし、ケースの発生を防止して顧客の待機時間を短縮します。オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用して、その作業に関してスキルが最も高いエージェントにケースを転送します。コミュニティの連絡要求を使用すれば、顧客は保留のまま長時間待つ必要がなくなります。

このセクションの内容:

メッセージング: トランスクリプトアクセス、SMS の Einstein ボット、スキルベースのルーティング
すべてのサポートエージェントが LiveMessage トランスクリプトを表示できます。テキストメッセージングチャネルに Einstein ボットをリリースしてエージェントの時間を節約します。オムニチャネルのスキルベースのルーティングでは、作業に最も適したエージェントにテキストメッセージが転送されます。

コミュニティ: 顧客がサポートからの電話を要求可能
顧客がサポートを受けるフリーダイヤルで長時間保留音を聞く必要はもうありません。コミュニティユーザはボタンをクリックして、カスタマーサポートからの折り返し電話を要求できます。ポップアップフォームで、ユーザは問題の詳細を入力できます。その後、適切なエージェントが折り返し電話できます。顧客との末永い関係と同様に顧客の時間も重視していることを示しましょう。連絡要求により、顧客は保留音を聞くことなく進行中の作業に戻ることができます。

チャット: 拡張トランスクリプトアクセスとスキルベースのルーティング

すべてのサポートエージェントが Live Agent のトランスクリプトを表示できるようになりました。Snap-in チャット会議を使用して、複数のサポートエージェントが顧客の問題を一緒に解決できます。オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用して、ケースをそのジョブのスキルが最も高いエージェントに転送できます。

電話: ソフトフォンのポップアウトと Open CTI のガイド付き設定フロー

エージェントは、新規ウィンドウでソフトフォンユーティリティをポップアウトできます。また、Lightning Experience のガイド付き設定フローに従い、コードではなくクリックを使用して、電話チャネルと CTI パートナーを設定します。

ソーシャルカスタマーサービス: Facebook メッセージの重複を回避、ソーシャル人格およびソーシャル投稿と共にレコードをマージ

Facebook メッセージの重複を回避し、レコードのマージ時にソーシャル人格とソーシャル投稿を維持します。

モバイルアプリケーション用 Snap-in: 顧客へのより充実したチャット環境の提供

iOS および Android SDK には、ハイパーリンクプレビュー、独自のユーザインターフェースを作成する顧客向けの低レベルのコア API など、チャットへの機能強化がいくつか含まれています。また、顧客に最適なモバイルアプリケーション環境を提供できるように、全般的な機能強化も SDK にいくつか加えられました。

Web 用の Snap-in: 転送のキューの位置、チャット会議、更新された事後チャット

転送中に顧客のキューの位置を表示します。複数のサポートエージェントが Salesforce Classic でチャット会議を使用して、顧客の問題を協力して解決できるようにします。チャットが終了したときに顧客に直接チャット後フォームを表示して、応答数を増やします。

メッセージング: トランスクリプトアクセス、SMS の Einstein ボット、スキルベースのルーティング

すべてのサポートエージェントが LiveMessage トランスクリプトを表示できます。テキストメッセージングチャネルに Einstein ボットをリリースしてエージェントの時間を節約します。オムニチャネルのスキルベースのルーティングでは、作業に最も適したエージェントにテキストメッセージが転送されます。

このセクションの内容:

LiveMessage ライセンスなしでトランスクリプトを表示

より一貫性のあるサポートを提供するために、Service Cloud ライセンスを持っていればどのユーザも顧客のサポート履歴の全体像を把握したり、過去のチャットトランスクリプトを表示したりできるようになりました。以前は、サポートエージェントはチャットトランスクリプトを表示するのに LiveMessage ライセンスが必要でした。そのため、エージェントが顧客とチャットした後で、新しいエージェントがメールなどの別のチャネルでフォローアップするときに全履歴を表示できないことがありました。Lightning サービスコンソールで LiveMessage を使用してサービスを提供するには、引き続き LiveMessage ライセンスが必要です。

テキストメッセージングチャネルへの Einstein ボットのリリース

SMS 向けの Einstein ボットリリースを作成し、エージェントが対応できない場合でも簡単な質問や作業について顧客をサポートします。

オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのテキストメッセージの転送

チャットを解決するために必要なスキルに基づいて、エージェントにチャットを転送します。スキル、エージェントの対応可能状況、スキルレベルを使用して、作業に適したエージェントにテキストメッセージを割り当てます。

自動リンクで取引先責任者レコードが作成されなくなる

自動リンクを有効にしている場合、その動作が変わりました。メッセージユーザに一致する取引先責任者レコードが見つからない場合、LiveMessage はその取引先責任者レコードを自動的に作成しません。一致するレコードが見つかった場合の LiveMessage の自動リンクの動作は変わっていません。

LiveMessage ライセンスなしでトランスクリプトを表示

より一貫性のあるサポートを提供するために、Service Cloud ライセンスを持っていればどのユーザも顧客のサポート履歴の全体像を把握したり、過去のチャットトランスクリプトを表示したりできるようになりました。以前は、サポートエージェントはチャットトランスクリプトを表示するのに LiveMessage ライセンスが必要でした。そのため、エージェントが顧客とチャットした後で、新しいエージェントがメールなどの別のチャネルでフォローアップするときに全履歴を表示できないことがありました。Lightning サービスコンソールで LiveMessage を使用してサービスを提供するには、引き続き LiveMessage ライセンスが必要です。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して LiveMessage にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の LiveMessage は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

テキストメッセージングチャネルへの Einstein ボットのリリース

SMS 向けの Einstein ボットリリースを作成し、エージェントが対応できない場合でも簡単な質問や作業について顧客をサポートします。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して LiveMessage にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の LiveMessage は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

関連トピック:

- SMS テキストメッセージングチャネルでのボットの使用

オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのテキストメッセージの転送

チャットを解決するために必要なスキルに基づいて、エージェントにチャットを転送します。スキル、エージェントの対応可能状況、スキルレベルを使用して、作業に適したエージェントにテキストメッセージを割り当てます。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して LiveMessage にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の LiveMessage は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

メモ: Einstein ボットでは、オムニのスキルベースのルーティングはサポートされません。

関連トピック:

スキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのテキストメッセージおよびチャットの転送 (正式リリース)

自動リンクで取引先責任者レコードが作成されなくなる

自動リンクを有効にしている場合、その動作が変わりました。メッセージユーザに一致する取引先責任者レコードが見つからない場合、LiveMessage はその取引先責任者レコードを自動的に作成しません。一致するレコードが見つかった場合の LiveMessage の自動リンクの動作は変わっていません。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して LiveMessage にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の LiveMessage は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

コミュニティ: 顧客がサポートからの電話を要求可能

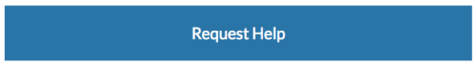
顧客がサポートを受けるフリーダイヤルで長時間保留音を聞く必要はもうありません。コミュニティユーザはボタンをクリックして、カスタマーサポートからの折り返し電話を要求できます。ポップアップフォームで、ユーザは問題の詳細を入力できます。その後、適切なエージェントが折り返し電話できます。顧客との末永い関係と同様に顧客の時間も重視していることを示しましょう。連絡要求により、顧客は保留音を聞くことなく進行中の作業に戻ることができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

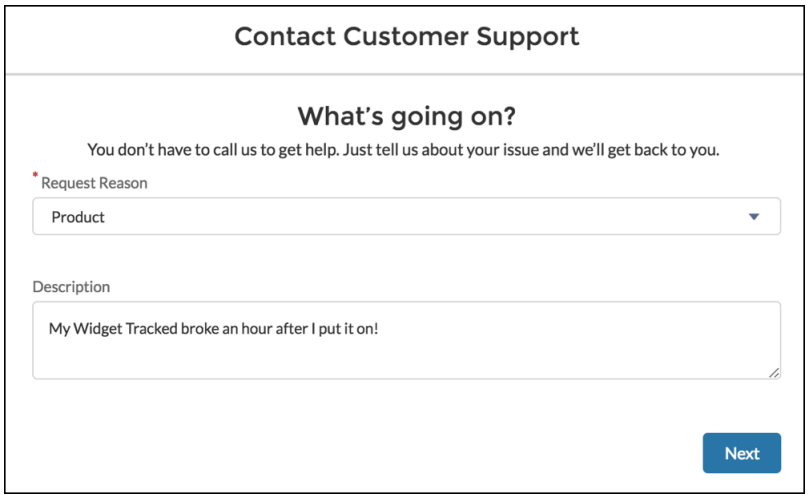
対象ユーザ: 連絡要求は、公開コミュニティと認証が必要なコミュニティで機能します。公開コミュニティで使用しているゲストユーザプロファイルを含め、コミュニティユーザに「フローを実行」権限があることを確認します。この権限がないと、連絡要求を送信するボタンまたはフォームがメンバーに表示されません。

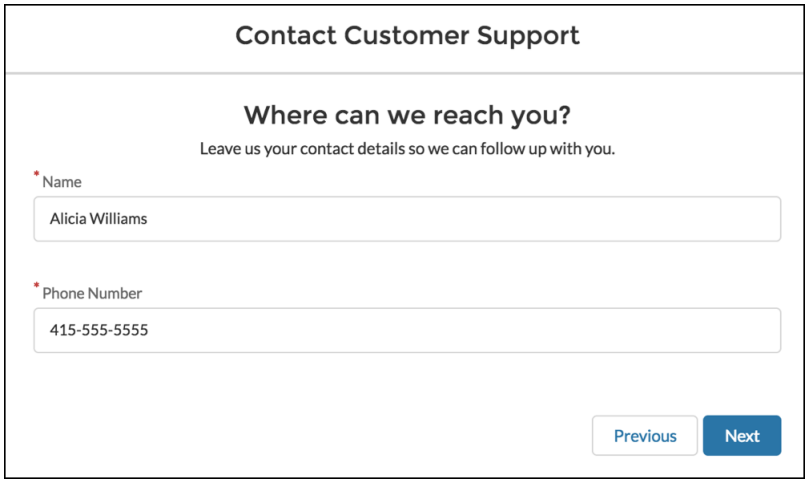
コンソールで連絡要求を操作するには、エージェントのプロファイルに少なくとも連絡要求オブジェクトへの参照アクセス権があることを確認します。デフォルトでは、すべての標準ユーザプロファイルとシステム管理者プロファイルにオブジェクトへのアクセス権があります。

理由: 連絡要求ボタンおよびフローコンポーネントをコミュニティに追加すると、ユーザはサポートからの電話を要求できます。このボタンの表示レベルは変更できます。

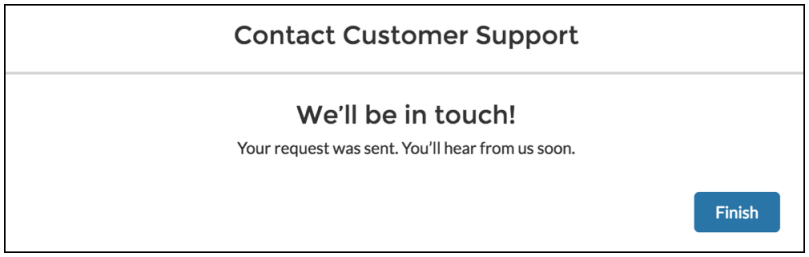


ポップアップで、顧客が問題と連絡先の詳細を入力します。





ユーザが [次へ] をクリックすると、要求が送信されます。



方法: 連絡要求フォームを設定するには、ガイド付き設定操作を使用してフローを作成します。[設定] で、[顧客問い合わせ要求] ページに移動します。次に、コンポーネントを使用してコミュニティにフローを追加します。コミュニティビルダーで、次のいずれかのコンポーネントを追加します。

- 連絡要求ボタンおよびフロー—ユーザはボタンをクリックして、ポップアップフォームに問題の詳細を入力できます。

- フロー—フローがページに埋め込まれ、ページが読み込まれたときにユーザにフローの最初の画面が表示されます。

これらのコンポーネントは、[カスタマー取引先ポータル]、[カスタマーサービス]、[Partner Central]、[Build Your Own] テンプレートでサポートされています。フローコンポーネントは [ヘルプセンター] テンプレートでもサポートされています。

連絡要求は他のサービス関連レコードと共に動作します。エージェントは [要求者] 項目を使用して、連絡要求を人 (取引先責任者、リードなど) に関連付けることができます。また、[関連先] 項目で連絡要求を取引先、ケース、商談、作業指示、カスタムオブジェクトに接続します。

エージェントを適切に設定するには、連絡要求オブジェクトをサービスコンソールに追加し、エージェントに少なくとも連絡要求オブジェクトへの参照アクセス権があることを確認します。必要に応じて、オムニチャネルによる転送を設定します。

コミュニティの他に、連絡要求は自動音声応答 (IVR) システムでも使用できます。Open CTI プロバイダと連携してインテグレーションを行ってください。

関連トピック:

オムニチャネルによる顧客連絡要求の転送

Salesforce ヘルプ:問い合わせ要求の設定と管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

チャット: 拡張トランスクリプトアクセスとスキルベースのルーティング

すべてのサポートエージェントが Live Agent のトランスクリプトを表示できるようになりました。Snap-in チャット会議を使用して、複数のサポートエージェントが顧客の問題を一緒に解決できます。オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用して、ケースをそのジョブのスキルが最も高いエージェントに転送できます。

このセクションの内容:

Live Agent ライセンスなしのトランスクリプトの表示

より一貫性のあるサポートを提供するために、Service Cloud ライセンスを持っていればどのユーザも顧客のサポート履歴の全体像を把握したり、過去のチャットトランスクリプトを表示したりできるようになりました。以前は、サポートエージェントがチャットトランスクリプトを表示するには Live Agent ライセンスが必要でした。そのため、エージェントが顧客とチャットした後で、新しいエージェントがメールなどの別のチャネルでフォローアップするときに全履歴を表示できないことがありました。Lightning サービスコンソールで Live Agent を使用してサービスを提供するには、引き続き Live Agent ライセンスが必要です。

Snap-In チャット会議の利用

Salesforce Classic の Live Agent チャット会議で Snap-ins を使用します。チャット会議では、サポートエージェントが協力して顧客の最も難しい問題を解決できます。

オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのチャットの転送 (正式リリース)

チャットを解決するために必要なスキルに基づいて、エージェントにチャットを転送します。スキル、エージェントの対応可能状況、およびスキルレベルを使用して、Live Agent チャットをその作業に適したエージェントに割り当てます。以前は、この機能はベータでした。

Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor の機能強化によるエージェントのサポート

チャット中にエージェントがフラグを有効にして、支援が必要なことをスーパーバイザに知らせることができます。エージェントと顧客のライブメッセージセッション中、スーパーバイザは個別に提案することもできます。スーパーバイザのメッセージはエージェントに表示されますが、顧客には表示されません。

Live Agent ライセンスなしのトランスクリプトの表示

より一貫性のあるサポートを提供するために、Service Cloud ライセンスを持っていればどのユーザも顧客のサポート履歴の全体像を把握したり、過去のチャットトランスクリプトを表示したりできるようになりました。以前は、サポートエージェントがチャットトランスクリプトを表示するには Live Agent ライセンスが必要でした。そのため、エージェントが顧客とチャットした後で、新しいエージェントがメールなどの別のチャネルでフォローアップするときに全履歴を表示できないことがありました。Lightning サービスコンソールで Live Agent を使用してサービスを提供するには、引き続き Live Agent ライセンスが必要です。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Live Agent は、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance および Developer エディション組織と、Service Cloud が付属する Unlimited および Enterprise エディション組織で使用できます。

Snap-In チャット会議の利用

Salesforce Classic の Live Agent チャット会議で Snap-ins を使用します。チャット会議では、サポートエージェントが協力して顧客の最も難しい問題を解決できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Live Agent は、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance および Developer エディション組織と、Service Cloud が付属する Unlimited および Enterprise エディション組織で使用できます。

関連トピック:

チームとして顧客をサポート

オムニチャネルのスキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのチャットの転送 (正式リリース)

チャットを解決するために必要なスキルに基づいて、エージェントにチャットを転送します。スキル、エージェントの対応可能状況、およびスキルレベルを使用して、Live Agent チャットをその作業に適したエージェントに割り当てます。以前は、この機能はベータでした。

対象: この変更は Lightning Experience に適用されます。Live Agent は、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance および Developer エディション組織と、Service Cloud が付属する Unlimited および Enterprise エディション組織で使用できます。

関連トピック:

スキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのテキストメッセージおよびチャットの転送 (正式リリース)

Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor の機能強化によるエージェントのサポート

チャット中にエージェントがフラグを有効にして、支援が必要なことをスーパーバイザに知らせることができます。エージェントと顧客のライブメッセージセッション中、スーパーバイザは個別に提案することもできます。スーパーバイザのメッセージはエージェントに表示されますが、顧客には表示されません。

関連トピック:

- オムニスーパーバイザの機能強化による支援

電話: ソフトフォンのポップアウトと Open CTI のガイド付き設定フロー

エージェントは、新規ウィンドウでソフトフォンユーティリティをポップアウトできます。また、Lightning Experience のガイド付き設定フローに従い、コードではなくクリックを使用して、電話チャネルと CTI パートナーを設定します。

このセクションの内容:

- 新規ウィンドウでソフトフォンを開く
  エージェントは、画面スペースを最大限活用できます。マルチモニターを使用するエージェントは、ソフトフォンユーティリティを自分のウィンドウにポップアウトできます。エージェントは、画面の任意の場所にユーティリティを移動して、スペースを最大限活用できます。設定は不要です。エージェントにユーティリティの右上隅にあるポップアウトアイコンをクリックするように伝えるだけです。以前は、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。
- ガイド付き環境を使用した Open CTI の設定
  ガイド付きフローを使用して、Open CTI を設定します。CTI パートナーのリストから選択して、数回クリックするだけでそのパートナーから管理パッケージをインストールできます。

新規ウィンドウでソフトフォンを開く

エージェントは、画面スペースを最大限活用できます。マルチモニターを使用するエージェントは、ソフトフォンユーティリティを自分のウィンドウにポップアウトできます。エージェントは、画面の任意の場所にユーティリティを移動して、スペースを最大限活用できます。設定は不要です。エージェントにユーティリティの右上隅にあるポップアウトアイコンをクリックするように伝えるだけです。以前は、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

- ポップアウトユーティリティを使用して生産性を高めるウィンドウを開く (重要な更新)

ガイド付き環境を使用した Open CTI の設定

ガイド付きフローを使用して、Open CTI を設定します。CTI パートナーのリストから選択して、数回クリックするだけでそのパートナーから管理パッケージをインストールできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

方法: [サービスの設定] ホームページで、[音声サポートの設定] を選択します。[サービスの設定] ホームページに表示されていない場合は、[すべて表示] をクリックして [音声サポートの設定] を選択します。

ソーシャルカスタマーサービス: Facebook メッセージの重複を回避、ソーシャル人格およびソーシャル投稿と共にレコードをマージ

Facebook メッセージの重複を回避し、レコードのマージ時にソーシャル人格とソーシャル投稿を維持します。

このセクションの内容:

重複する Facebook メッセージの回避
同じ Facebool の非公開メッセージを 2 回取得しましたか? ソーシャルカスタマーサービスと LiveMessage の両方を使用している場合、これが 2 回表示されている可能性があります。余分なメッセージでシステムが一杯になることを回避し、クリアな視界をすぐに取り戻します。

取引先責任者、取引先、またはリードのマージ時にソーシャル人格とソーシャル投稿を継承
取引先責任者、取引先、またはリードをマージすると、マージプロセス中に子のソーシャル人格および関連するソーシャル投稿が継承されるため、レコードのソーシャル履歴を保持できます。

重複する Facebook メッセージの回避

同じ Facebool の非公開メッセージを 2 回取得しましたか? ソーシャルカスタマーサービスと LiveMessage の両方を使用している場合、これが2回表示されている可能性があります。余分なメッセージでシステムが一杯になることを回避し、クリアな視界をすぐに取り戻します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

設定: [設定] の [ソーシャルビジネスルール] セクションの [受信設定] タブで Facebook メッセージングをオフにします。

取引先責任者、取引先、またはリードのマージ時にソーシャル人格とソーシャル投稿を継承

取引先責任者、取引先、またはリードをマージすると、マージプロセス中に子のソーシャル人格および関連するソーシャル投稿が継承されるため、レコードのソーシャル履歴を保持できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic の取引先責任者に適用されます。

モバイルアプリケーション用 Snap-in: 顧客へのより充実したチャット環境の提供

iOS および Android SDK には、ハイパーリンクプレビュー、独自のユーザインターフェースを作成する顧客向けの低レベルのコア API など、チャットへの機能強化がいくつか含まれています。また、顧客に最適なモバイルアプリケーション環境を提供できるように、全般的な機能強化も SDK にいくつか加えられました。

対象: この更新は、Mobile Apps SDK for iOS (バージョン 216.0.0) および Android (バージョン 216.0.2) 用 Snap-in に適用されます。

新機能についての詳細は、iOS および Android に関するリリースノートを参照してください。その他のリソースについては、「Snap-ins for Mobile Apps (モバイルアプリケーション用 Snap-in)」開発者センターにアクセスしてください。

Web 用の Snap-in: 転送のキューの位置、チャット会議、更新された事後チャット

転送中に顧客のキューの位置を表示します。複数のサポートエージェントが Salesforce Classic でチャット会議を使用して、顧客の問題を協力して解決できるようにします。チャットが終了したときに顧客に直接チャット後フォームを表示して、応答数を増やします。

このセクションの内容:

転送中の顧客の順番の表示
顧客は複雑な作業でさらなる支援が必要な場合があります。最初のサポートエージェントまたはボットから新しいエージェントへの転送を待機している間、顧客はキュー内の自分の位置を確認できます。

チームとして顧客をサポート
Salesforce Classic の Live Agent チャット会議で Snap-ins を使用します。チャット会議では、サポートエージェントが協力して顧客の最も難しい問題を解決できます。グループチャットで誰が誰かを顧客が判断できるようにカスタムアバターを追加するか、1 対 1 のチャットに独自のスタイルを追加します。アバターを設定しない場合、代わりにエージェントのイニシャルが配色に表示されます。

チャット後の更新による応答率の増加
顧客のフィードバックが重要なのはわかっています。顧客がチャットを閉じることを選択できる場合、チャット後 URL にアクセスする確率は低いこともわかっています。チャット後ボタンを削除し、顧客がチャットを終了したときに直接チャット後 URL を表示するように Snap-in コードを更新します。

ゲストユーザによるフローの実行の許可
埋め込みフローにより、ユーザが Web サイト内から簡単な自動タスクを実行できるようにします。最大の利点は、ユーザがログインせずにフローを実行できるようになったことです。

転送中の顧客の順番の表示

顧客は複雑な作業でさらなる支援が必要な場合があります。最初のサポートエージェントまたはボットから新しいエージェントへの転送を待機している間、顧客はキュー内の自分の位置を確認できます。

対象: この変更は、Snap-in コードスニペットバージョン 5.0 以降を使用する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

方法: Snap-in リリースに割り当てられているチャットボタンで、Live Agent 設定の [キューを有効化] 設定が有効になっていることを確認します。Snap-in 設定で [キューの位置を表示] を選択します。

チームとして顧客をサポート

Salesforce Classic の Live Agent チャット会議で Snap-ins を使用します。チャット会議では、サポートエージェントが協力して顧客の最も難しい問題を解決できます。グループチャットで誰が誰かを顧客が判断できるようにカスタムアバターを追加するか、1対1のチャットに独自のスタイルを追加します。アバターを設定しない場合、代わりにエージェントのイニシャルが配色に表示されます。

対象: この変更は Salesforce Classic に適用されます。Live Agent は、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance および Developer エディション組織と、Service Cloud が付属する Unlimited および Enterprise エディション組織で使用できます。チャット会議は、Snap-in のコードスニペットバージョン 5.0 以降で使用できます。

方法: チャット会議を有効にするには、Snap-in で使用している Live Agent 設定を特定します。Salesforce Classic で [Live Agent 設定] ページに移動し、チャット会議を有効にします。カスタムアバターを設定するには、Snap-in リリースの Live Agent 設定でカスタムブランドを編集します。

重要: オムニチャネルルーティングはチャット会議ではサポートされていません。Live Agent 設定で Live Agent ルーティングが使用されていることを確認します。サポートエージェントは、Salesforce Classic でのみチャット会議を使用できます。

チャット後の更新による応答率の増加

顧客のフィードバックが重要なのはわかっています。顧客がチャットを閉じることを選択できる場合、チャット後 URL にアクセスする確率は低いこともわかっています。チャット後ボタンを削除し、顧客がチャットを終了したときに直接チャット後 URL を表示するように Snap-in コードを更新します。

対象: この変更は、Snap-in コードスニペットバージョン 5.0 以降を使用する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

方法: Live Agent チャットボタンにチャット後 URL を追加していることを確認します。`embedded_svc.init` コールより前の任意の場所で、JavaScript スニペットに次の設定を追加します。

```
embedded_svc.settings.autoOpenPostChat = true;
```

ゲストユーザによるフローの実行の許可

埋め込みフローにより、ユーザが Web サイト内から簡単な自動タスクを実行できるようにします。最大の利点は、ユーザがログインせずにフローを実行できるようになったことです。

対象: この変更は、Snap-in コードスニペットバージョン 5.0 以降を使用する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

理由: たとえば保険会社の場合、保険契約者がログインせずにネットワーク内で医療提供者を検索できるようにすると便利です。または、オンライン小売業者の場合、新規顧客がアカウントを作成する方法を合理化すると役立ちます。どのようなビジネスでも、埋め込みフローは顧客にとって最も重要な作業をサポートするように簡単に設定できます。

方法: Snap-in で使用するフローを決定します。まだない場合は、[設定] で [フロー] ページに移動し、[新規フロー] を選択します。次に、[設定] で [Snap-ins] ページに移動します。Snap-in リリースを作成し、フロー設定の [開始] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Web サイトへのフローの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケース管理: Lightning Experience に移行するその他の理由

Salesforce は愛用されている機能の Lightning Experience への移行に精力的に取り組んできました。エージェントは顧客にメールを送信する前に、そのメールの承認を受ける必要があります。ケース取引先責任者とケース階層を表示および管理できます。Omni-Channel Supervisor を使用している場合、Lightning Experience で示唆およびフラグの有効化機能を使用できます。さらに、リリースによりガイド付きアクションリストの設定が簡単になります。

このセクションの内容:

サービスコンソール: システム管理者、エージェント、顧客の利便性の向上

「連絡要求ボタンおよびフロー」という新しいコンポーネントにより、顧客は保留状態で待つことなくサポートからの折り返し電話を要求できます。エージェントはコンソールユーティリティをポップアウトして、必要なレコードの詳細を確認できます。リリースを使用して、ガイド付きアクションリストコンポーネントを簡単に設定できます。

サービスの Lightning フロー: 再利用可能なリリースと見つけやすい一時停止中のフロー

ガイド付きアクションリストコンポーネントを簡単に設定および使用できるようになりました。リリースでは、異なるレコードページおよび組織をまたいでリスト設定をキャプチャして再利用できます。エージェントが一時停止中のフローをすばやく見つけて完了できるように、ガイド付きアクションリストには現在のレコードページのすべての一時停止中のフローが表示されます。

ケース: メール承認、ケース階層、取引先責任者の役割、ケースを引き受けるボタン

一貫性のあるコミュニケーションを提供し、エージェントから送信されたケースメールを承認します。ケース階層でエージェントが全体像を把握できるようにします。エージェントはケース取引先責任者の役割を使用して、最初から適切なユーザに連絡できます。エージェントはワンクリックでケースを引き受けることもできます。これらの機能はこれまで Salesforce Classic で使用可能でしたが、新たに Lightning Experience でも使用できるようになりました。

オムニチャネル:チャットおよびテキストのスキルベースのルーティング、連絡要求のルーティング、オムニスーパーバイザの機能強化、属性ベースのルーティング (ベータ)

対応可能なエージェントが顧客に連絡するように連絡要求レコードを転送します。スキルベースのルーティングが Live Agent と LiveMessage に導入されます。オムニスーパーバイザの機能強化により、エージェントはサポートが必要であることを通知でき、スーパーバイザはライブメッセージセッションでエージェントにアドバイスできます。属性ベースのルーティングがベータになり、項目と項目値をルーティング条件として使用できます。

エージェントの生産性: マクロの相対日付およびタブを閉じる操作

相対日付を使用して、将来の日時を設定するマクロを作成します。ステップをマクロに追加して、マクロの完了時にコンソールタブを閉じることができます。さらに、Salesforce Classic に戻る理由がまた 1 つ減ります。Salesforce Classic で共有されるマクロとクイックテキストが Lightning Experience に表示されます。

Lightning Scheduler: 予定のスケジュールの簡略化

リード、商談、取引先など、標準の Salesforce ワークフロー内で顧客の予定をすばやくスケジュールします。トピックで予定をパーソナライズし、それらを適切なスキルを持つ従業員に割り当て、業務時間内にスケジュールされていることを確認します。

サービスコンソール: システム管理者、エージェント、顧客の利便性の向上

「連絡要求ボタンおよびフロー」という新しいコンポーネントにより、顧客は保留状態で待つことなくサポートからの折り返し電話を要求できます。エージェントはコンソールユーティリティをポップアウトして、必要なレコードの詳細を確認できます。リリースを使用して、ガイド付きアクションリストコンポーネントを簡単に設定できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

メモ: Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、転送通知やカスタムキーボードショートカットなどの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。詳細はこちら。

方法: サービスコンソールで使用可能な新機能を確認してください。

コミュニティ: 顧客がサポートからの電話を要求可能

顧客がサポートを受けるフリーダイヤルで長時間保留音を聞く必要はもうありません。コミュニティユーザはボタンをクリックして、カスタマーサポートからの折り返し電話を要求できます。ポップアップフォームで、ユーザは問題の詳細を入力できます。その後、適切なエージェントが折り返し電話できます。顧客との末永い関係と同様に顧客の時間も重視していることを示しましょう。連絡要求により、顧客は保留音を聞くことなく進行中の作業に戻ることができます。

エージェントの生産性: マクロの相対日付およびタブを閉じる操作

相対日付を使用して、将来の日時を設定するマクロを作成します。ステップをマクロに追加して、マクロの完了時にコンソールタブを閉じることができます。さらに、Salesforce Classic に戻る理由がまた 1 つ減ります。Salesforce Classic で共有されるマクロとクイックテキストが Lightning Experience に表示されます。

サービスの Lightning フロー: 再利用可能なリリースと見つけやすい一時停止中のフロー

ガイド付きアクションリストコンポーネントを簡単に設定および使用できるようになりました。リリースでは、異なるレコードページおよび組織をまたいでリスト設定をキャプチャして再利用できます。エージェントが一時停止中のフローをすばやく見つけて完了できるように、ガイド付きアクションリストには現在のレコードページのすべての一時停止中のフローが表示されます。

ケース: メール承認、ケース階層、取引先責任者の役割、ケースを引き受けるボタン

一貫性のあるコミュニケーションを提供し、エージェントから送信されたケースメールを承認します。ケース階層でエージェントが全体像を把握できるようにします。エージェントはケース取引先責任者の役割を使用して、最初から適切なユーザに連絡できます。エージェントはワンクリックでケースを引き受けるこ

ともできます。これらの機能はこれまで Salesforce Classic で使用可能でしたが、新たに Lightning Experience でも使用できるようになりました。

Lightning コンソールアプリケーション: ポップアウトユーティリティ、サブタブオプション、API の等価性
ポップアップユーティリティを使用して、ワークフローを複数のウィンドウに広げます。サブタブをカスタマイズして、ワークスペースタブに昇格します。タブの色を変更して、新しい API メソッドでブラウザタブのタイトルを編集します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience コンソールの制限事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

サービスの Lightning フロー: 再利用可能なリリースと見つけやすい一時停止中のフロー

ガイド付きアクションリストコンポーネントを簡単に設定および使用できるようになりました。リリースでは、異なるレコードページおよび組織をまたいでリスト設定をキャプチャして再利用できます。エージェントが一時停止中のフローをすばやく見つけて完了できるように、ガイド付きアクションリストには現在のレコードページのすべての一時停止中のフローが表示されます。

このセクションの内容:

[ガイド付きアクションリスト] 設定から [設定] のリリースへの変換 (重要な更新)
既存の [ガイド付きアクションリスト] 設定から [設定] で管理するリリースに移行します。その後、別のレコードページおよび組織で [ガイド付きアクションリスト] 設定を再利用できます。Spring '19 以降、コンポーネントのプロパティでこれらの設定を定義できなくなります。代わりに、[設定] で管理するリリースを使用します。移行を簡略化するには、既存の設定からリリースへの 1 回限りの移行を実行します。

リリースでの [ガイド付きアクションリスト] 設定の再利用
ガイド付きアクションリストコンポーネントの設定を再利用することで、持続可能なリリースを実践できます。設定リリースで [ガイド付きアクションリスト] 設定をキャプチャすると、複数のレコードページで再利用できます。さらに時間と労力を節約するには、リリースをパッケージ化して他の組織で再利用します。

ガイド付きアクションリストでの一時停止中のフローの簡単な検索および再開
エージェントの引き継ぎまたは顧客からの折り返しがあると、エージェントは途中で一時停止したフローを検索することがよくあります。エージェントのレコードページのガイド付きアクションリストには、すべての一時停止中のフローが表示されます。この頼りになる 1 つの場所で、エージェントは手順を自動化するフローを簡単に見つけて完了できます。

ガイド付きアクションの削除オプションの非表示
ユーザが削除できるアクションを決定して、ガイド付きアクションリストのアクションを保持します。完了するまで不可欠なステップがリストに残るように削除オプションを非表示にします。以前は、ユーザは上部または下部の領域に固定したアクションを削除できませんでした。

最新かつ最高のガイド付きアクションリストの常時表示

エージェントが実行すべきステップを明確に把握できるようにします。ガイド付きアクションリストは、レコードの更新時に動的に更新されます。たとえば、ケース状況が [新規] から [エスカレーション済み] に変更されると、ガイド付きアクションリストが更新され、エージェントに最新のステップのリストが表示されます。更新されると、完了したアクションの削除も行われます。

関連トピック:

Lightning Flow for Service Developer Guide (サービスの Lightning フロー開発者ガイド)(英語のみ)

[ガイド付きアクションリスト] 設定から [設定] のリリースへの変換 (重要な更新)

既存の [ガイド付きアクションリスト] 設定から [設定] で管理するリリースに移行します。その後、別のレコードページおよび組織で [ガイド付きアクションリスト] 設定を再利用できます。Spring '19 以降、コンポーネントのプロパティでこれらの設定を定義できなくなります。代わりに、[設定] で管理するリリースを使用します。移行を簡略化するには、既存の設定からリリースへの 1 回限りの移行を実行します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。更新についての詳細を確認するには、[確認] をクリックします。ガイド付きアクションリストコンポーネントの設定を移行するには、[有効化] をクリックします。

重要: この更新は一度有効化すると、無効化できません。

更新により、設定が各コンポーネントの対応するリリースに変換されます。有効化したら、ガイド付きアクションリストが表示されるレコードページをレビューし、結果を検証して、コンポーネントの動作が同じであることを確認します。

更新を有効化する前に、ガイド付きアクションリリースを作成してコンポーネントで指定できます。その場合、移行で作成された変換ではなくリリースから設定がコンポーネントに取り込まれます。

更新を有効化しても、すでにパッケージ化されているコンポーネントの設定は移行されません。組織の更新後、パッケージを更新します。

関連トピック:

リリースでの [ガイド付きアクションリスト] 設定の再利用

Lightning Flow for Service Developer Guide (サービスの Lightning フロー開発者ガイド)(英語のみ)

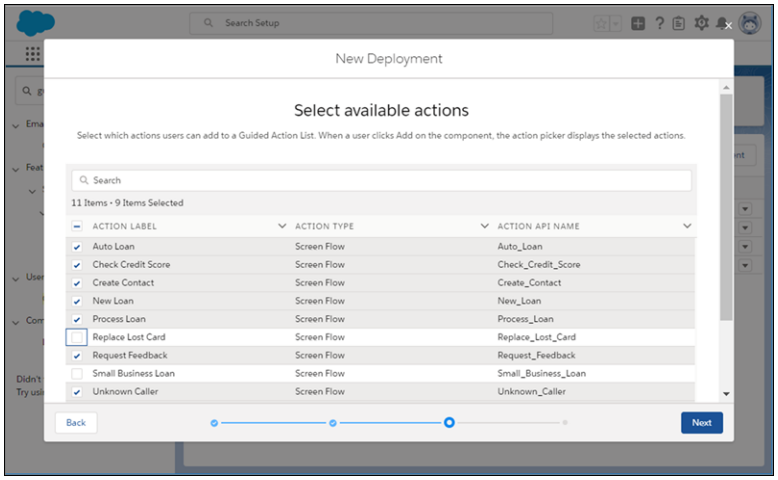
リリースでの [ガイド付きアクションリスト] 設定の再利用

ガイド付きアクションリストコンポーネントの設定を再利用することで、持続可能なリリースを実践できます。設定リリースで [ガイド付きアクションリスト] 設定をキャプチャすると、複数のレコードページで再利用できます。さらに時間と労力を節約するには、リリースをパッケージ化して他の組織で再利用します。

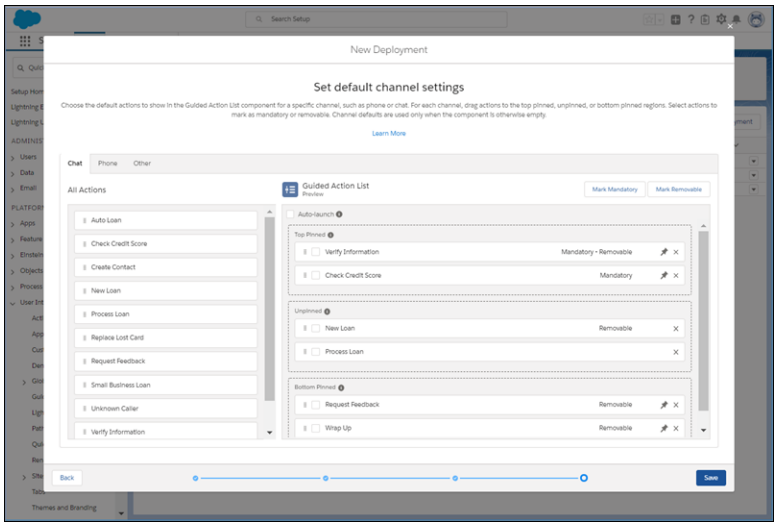
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法:すでにガイド付きアクションリストコンポーネントがレコードページに表示されている場合、1回限りの更新を使用して、既存のコンポーネント設定をガイド付きアクションリリースに移行できます。次に、[設定]を使用して、リリースを作成するか、既存のリリースを変更します。ポイント&クリックでリリースを設定できます。また、アクセシビリティを考慮してキーボードコントロールも実装されています。

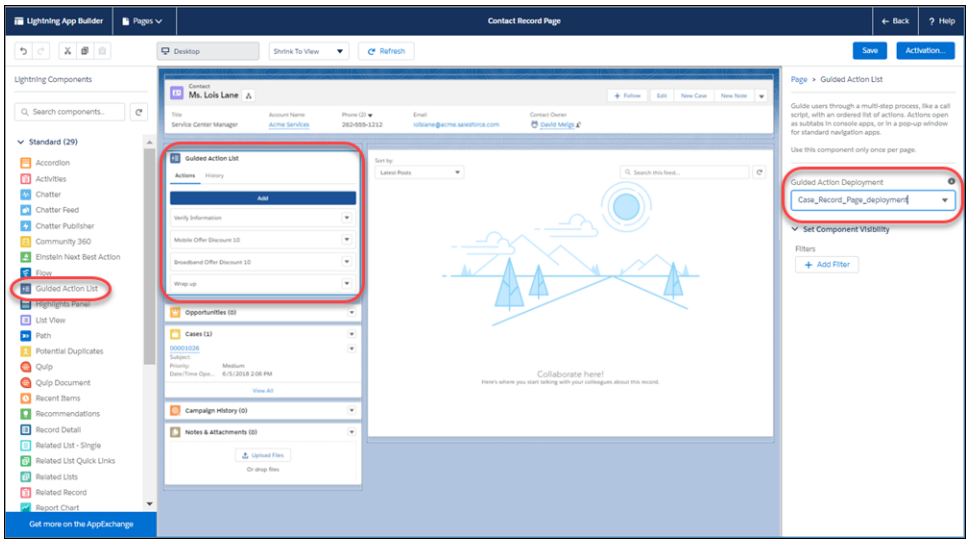
[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*ガイド付きアクション*」と入力します。[新規リリース] をクリックし、リリースに名前を付けます。ユーザが必要に応じて追加できるアクションを選択します。



チャネルごとに、デフォルトとして表示するアクションを選択します。削除可能なアクションと必須のアクションをマークします。以前は、プロセスビルダーでしか必須アクションを定義できませんでした。必須アクションを完了せずに終了しようとすると、アラームがユーザに表示されます。



Lightning アプリケーションビルダーで、ガイド付きアクションリストコンポーネントをレコードページにドラッグし、コンポーネントのプロパティでリリースを選択します。リリースとその設定を複数のレコードページで再利用します。



パッケージ化を使用して、ガイド付きアクションリストおよびリリースをキャプチャできます。ガイド付きアクションリストが含まれるレコードページをパッケージ化する場合、パッケージでコンポーネント、リリース設定、および RecordActions のレコードに関連付けられているすべてのプロセスとフローがキャプチャされます。ガイド付きアクションリリースを使用してパッケージを作成する前に、有効なフローが参照されていることを確認します。

メモ: ガイド付きアクションリストが含まれる以前のリリースでパッケージを作成した場合、組織の設定を変換するための更新を有効化します。次に、ガイド付きアクションリリースが含まれるようにパッケージを更新します。

関連トピック:

[ガイド付きアクションリスト] 設定から [設定] のリリースへの変換 (重要な更新)

Lightning Flow for Service Developer Guide (サービスの Lightning フロー開発者ガイド)(英語のみ)

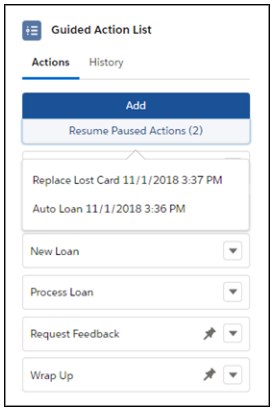
Salesforce ヘルプ: サービスの Lightning フローおよびガイド付きアクションリストコンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ガイド付きアクションリストでの一時停止中のフローの簡単な検索および再開

エージェントの引き継ぎまたは顧客からの折り返しがあると、エージェントは途中で一時停止したフローを検索することがよくあります。エージェントのレコードページのガイド付きアクションリストには、すべての一時停止中のフローが表示されます。この頼りになる 1 つの場所で、エージェントは手順を自動化するフローを簡単に見つけて完了できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ガイド付きアクションリストには、フローがリストから開始されたかどうかに関係なく、現在のレコードページのすべての一時停止中のフローが表示されます。



方法: [一時停止中のアクションを再開] をクリックし、再開する一時停止中のフローを選択します。再開されたフローは、ガイド付きアクションリストに追加されます。リストの上部または下部の固定領域から開始されたフローは、その領域の最後に追加されます。それ以外の場合、固定されていない領域の最下部に追加されます。フローが必須または削除可能としてマークされている場合、それらの属性は再開されたフローでも保持されます。

メモ: フローでは、`Flow.CurrentRecord` 変数を使用して、フローに関連付けられている現在のレコードを追跡できます。API またはフローロジックでこの変数を更新する場合もあります。たとえば、フローがリードレコードに関連付けられていて、リードが取引先責任者に変換されると、レコードの関連付けが更新されます。ユーザがフローを一時停止すると、ガイド付きアクションリストにより、現在関連付けられているレコードがチェックされます。レコードのコンテキストが変更されると、その一時停止中のフローはレコードページのガイド付きアクションリストに表示されません。代わりに、フローを再開できるようにメッセージによって、フローに関連付けられている新しいレコードにユーザが転送されます。

関連トピック:

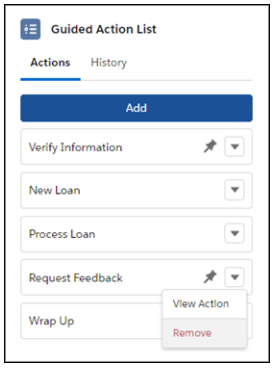
- *Lightning Flow for Service Developer Guide (サービスの Lightning フロー開発者ガイド)*(英語のみ)
- *Salesforce ヘルプ*: フローインタビューの一時停止をユーザに許可 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: フローへのレコードコンテキストの追加(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ガイド付きアクションの削除オプションの非表示

ユーザが削除できるアクションを決定して、ガイド付きアクションリストのアクションを保持します。完了するまで不可欠なステップがリストに残るように削除オプションを非表示にします。以前は、ユーザは上部または下部の領域に固定したアクションを削除できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 固定されているかどうかに関係なく、ユーザが削除できるアクションを決定します。



メモ: アクションの削除オプションを非表示にしても、API を使用すればガイド付きアクションリストから削除できます。

方法:デフォルトでは、アクションは削除可能です。削除オプションを非表示にするには、ガイド付きアクションリリースでチャネルのデフォルトを変更するか、プロセスビルダーまたは API で RecordAction 属性を設定します。

関連トピック:

リリースでの [ガイド付きアクションリスト] 設定の再利用

Lightning Flow for Service Developer Guide (サービスの Lightning フロー開発者ガイド)(英語のみ)

最新かつ最高のガイド付きアクションリストの常時表示

エージェントが実行すべきステップを明確に把握できるようにします。ガイド付きアクションリストは、レコードの更新時に動的に更新されます。たとえば、ケース状況が [新規] から [エスカレーション済み] に変更されると、ガイド付きアクションリストが更新され、エージェントに最新のステップのリストが表示されます。更新されると、完了したアクションの削除も行われます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Lightning Flow for Service Developer Guide (サービスの Lightning フロー開発者ガイド)(英語のみ)

ケース: メール承認、ケース階層、取引先責任者の役割、ケースを引き受けるボタン

一貫性のあるコミュニケーションを提供し、エージェントから送信されたケースメールを承認します。ケース階層でエージェントが全体像を把握できるようにします。エージェントはケース取引先責任者の役割を使用して、最初から適切なユーザに連絡できます。エージェントはワンクリックでケースを引き受けることもできます。これらの機能はこれまで Salesforce Classic で使用可能でしたが、新たに Lightning Experience でも使用できるようになりました。

このセクションの内容:

メールドラフト承認による顧客とのコミュニケーションの確認
Lightning Experience を使用するエージェントと顧客間のメッセージを制御し、会社と同様にメールの内容も秀逸であることを確認します。エージェントが顧客とコミュニケーションを取るときに、指定された承認者にメールドラフトを送信するように要求します。これまで、ケースメールのドラフト承認は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

ケース階層を使用した関連作業の一目での確認
サポートエージェントがケースの子-親のリレーションを明確に確認して関連作業を把握できるようにします。ケース番号をクリックすると、階層内のケースが表示されます。他のケース項目の詳細(件名や場所など)を表示するには、列を調整します。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

ケース取引先責任者の役割を使用したユーザの区別
取引先責任者の役割を使用すると、Lightning Experience のエージェントはユーザの役割または専門分野に基づいて誰に連絡すべきかを把握できます。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

ケースを引き受けるボタンによる作業の受け入れ
Lightning Experience で、[引き受ける] ボタンを使用して一度に 1 つ以上のケースを受け入れることができるようになりました。これまで、このボタンは Salesforce Classic のキューに割り当てられているケースのリストビューでしか使用できませんでした。Salesforce Classic と同様、Lightning Experience のユーザにはリストビューにこのボタンが表示されますが、ケースのレコード詳細ビューにもこのボタンが表示されます。

メールドラフト承認による顧客とのコミュニケーションの確認

Lightning Experience を使用するエージェントと顧客間のメッセージを制御し、会社と同様にメールの内容も秀逸であることを確認します。エージェントが顧客とコミュニケーションを取るときに、指定された承認者にメールドラフトを送信するように要求します。これまで、ケースメールのドラフト承認は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [サポート設定] ページで、メールドラフト承認を有効にします。次に、メールメッセージのワークフロープロセスを設定して、承認時および却下時のアクションを定義します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ケースフィードのメールドラフトの確認と承認 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: ケースフィードのドラフトメールの使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケース階層を使用した関連作業の一目での確認

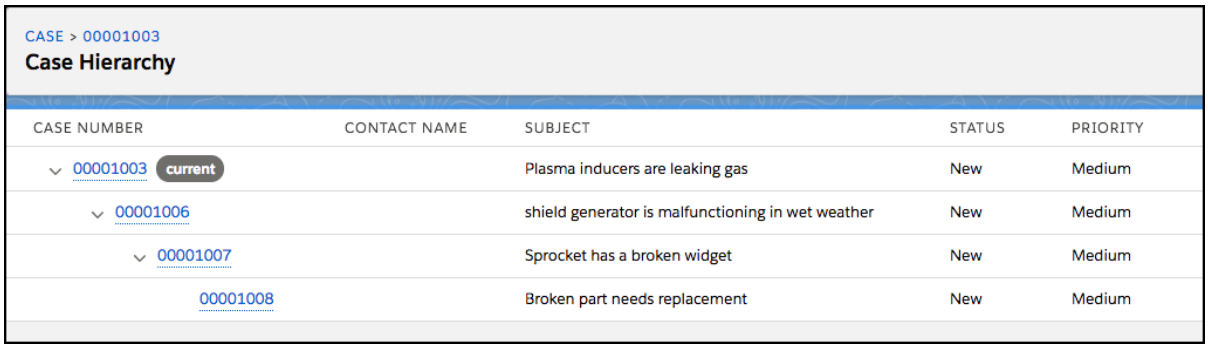
サポートエージェントがケースの子-親のリレーションを明確に確認して関連作業を把握できるようにします。ケース番号をクリックすると、階層内のケースが表示されます。他のケース項目の詳細(件名や場所など)を表示するには、列を調整します。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。ケース階層はコミュニティでは使用できません。

対象ユーザ: ユーザにケースに対する参照権限を付与し、ケースの親項目の項目レベルセキュリティを「参照」に設定します。

方法: ケースページレイアウトを編集し、[親ケース] 項目と [ケース階層を表示] アクションを [Salesforce モバイルおよび Lightning Experience のアクション] に追加します。

[階層の列] として表示するケース項目を選択できます。デフォルトでは、階層ビューには最近参照したケースリストビューと同じ列が使用されます。



ユーザはリストの一部を展開したり折りたたんだりし、ケース番号をクリックして階層内のケースを表示できます。

関連トピック:

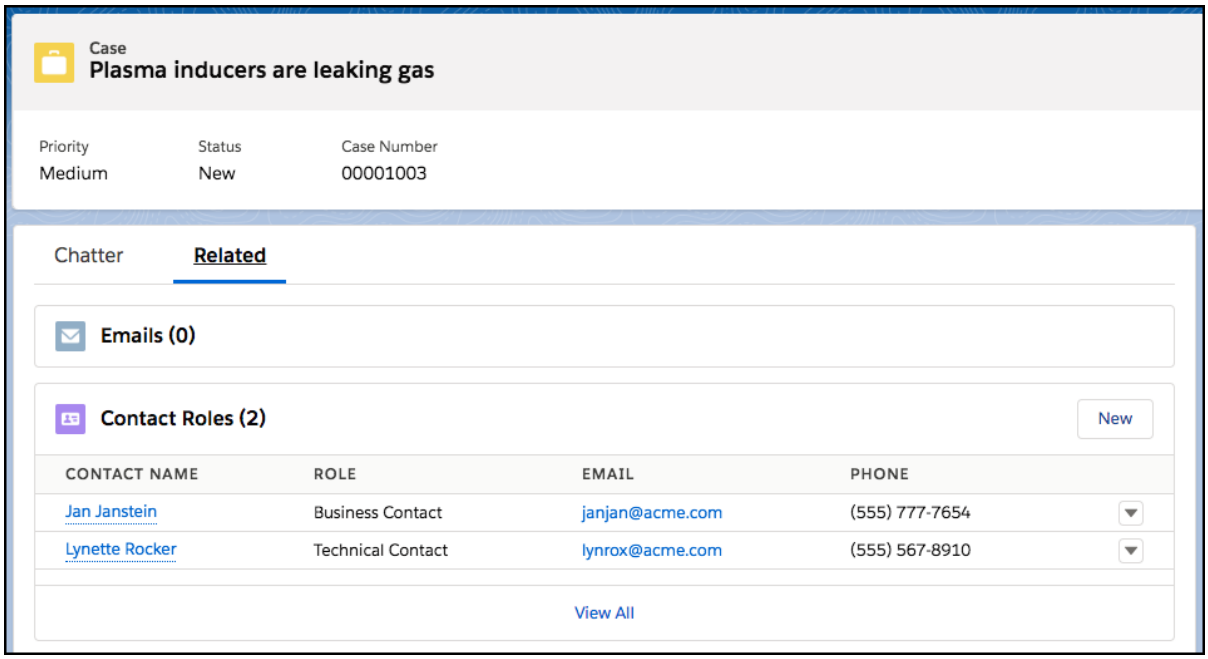
Salesforce ヘルプ: ケース階層 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ケース取引先責任者の役割を使用したユーザの区別

取引先責任者の役割を使用すると、Lightning Experience のエージェントはユーザの役割または専門分野に基づいて誰に連絡すべきかを把握できます。これまで、この機能は Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ケース取引先責任者の役割を設定するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「ケース *取引先責任者の役割*」と入力し、[ケース 取引先責任者の役割] を選択します。[新規] をクリックし、組織にとって最も役立つ取引先責任者の役割を定義します。次に、[設定] でケースのオブジェクトマネージャを開き、ケースページレイアウトを編集して [取引先責任者の役割] 関連リストを追加します。



ケースを引き受けるボタンによる作業の受け入れ

Lightning Experience で、[引き受ける] ボタンを使用して一度に 1 つ以上のケースを受け入れることができるようになりました。これまで、このボタンは Salesforce Classic のキューに割り当てられているケースのリストビューでしか使用できませんでした。Salesforce Classic と同様、Lightning Experience のユーザにはリストビューにこのボタンが表示されますが、ケースのレコード詳細ビューにもこのボタンが表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

オムニチャネル: チャットおよびテキストのスキルベースのルーティング、連絡要求のルーティング、オムニスーパーバイザの機能強化、属性ベースのルーティング (ベータ)

対応可能なエージェントが顧客に連絡するように連絡要求レコードを転送します。スキルベースのルーティングが Live Agent と LiveMessage に導入されます。オムニスーパーバイザの機能強化により、エージェントはサポートが必要であることを通知でき、スーパーバイザはライブメッセージセッションでエージェントにアドバイスできます。属性ベースのルーティングがベータになり、項目と項目値をルーティング条件として使用できます。

このセクションの内容:

スキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのテキストメッセージおよびチャットの転送 (正式リリース)
顧客を支援するのに必要なスキルに基づいて、Live Agent と LiveMessage の両方のチャネルの顧客を適格なエージェントに転送します。スキル、エージェントの対応可能状況、スキルレベルを使用して、作業に適したエージェントに顧客を割り当てます。これまで、この機能は Live Agent ではベータで、LiveMessage では使用できませんでした。

オムニチャネルによる顧客連絡要求の転送
顧客はサポートに電話して保留状態のまま待つ必要はありません。連絡要求では、コミュニティユーザがオンラインフォームを使用して、カスタマーサポートからの折り返し電話を要求できます。要求が送信されると、問題を追跡する連絡要求レコードが作成されます。オムニチャネルを使用して、対応可能なエージェントに連絡要求を転送できます。

オムニスーパーバイザの機能強化による支援
チャット中にエージェントがフラグを有効にして、支援が必要なことをスーパーバイザに知らせることができます。エージェントと顧客のライブメッセージセッション中、スーパーバイザは個別に提案することもできます。スーパーバイザのメッセージはエージェントに表示されますが、顧客には表示されません。

属性ベースのルーティングを使用して項目データに基づいて作業を割り当て (ベータ)
属性ベースのルーティングを使用して、適切なエージェントに作業を転送します。受信レコードの項目を使用して、最も有能で対応可能なエージェントに作業を割り当てます。受信したサービス要求をビジネスニーズに従ってグループ化するようにルーティングソリューションを調整します。属性ベースのルーティングは、ケース、リード、注文、カスタムオブジェクトで機能します。この非公開ベータに参加するには、Salesforce サポートにお問い合わせください。

スキルベースのルーティングを使用した適格なエージェントへのテキストメッセージおよびチャットの転送 (正式リリース)

顧客を支援するのに必要なスキルに基づいて、Live Agent と LiveMessage の両方のチャネルの顧客を適格なエージェントに転送します。スキル、エージェントの対応可能状況、スキルレベルを使用して、作業に適したエージェントに顧客を割り当てます。これまで、この機能は Live Agent ではベータで、LiveMessage では使用できませんでした。

対象: この機能は、Live Agent または LiveMessage のある組織で使用できます。Live Agent は、2012 年 6 月 14 日以降に作成された Performance および Developer エディション組織と、Service Cloud が付属する Unlimited および Enterprise エディション組織で使用できます。LiveMessage は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して使用できます。Lightning Experience の LiveMessage は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。

理由: スキルベースのルーティングでは、キューベースのルーティングより高度で動的な条件を使用して作業項目を転送できます。

方法: スキルベースのルーティングを利用するには、この機能の有効化、スキルの有効化と作成、エージェントのサービスリソースの作成、サービスリソースへのスキルの割り当てを行います。次にルーティングを設定します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: スキルベースのルーティングのしくみ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *Salesforce* ヘルプ: スキルベースのルーティングとキューベースのルーティングの違い (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *Salesforce* ヘルプ: スキルベースのルーティングの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

オムニチャネルによる顧客連絡要求の転送

顧客はサポートに電話して保留状態のまま待つ必要はありません。連絡要求では、コミュニティユーザがオンラインフォームを使用して、カスタマーサポートからの折り返し電話を要求できます。要求が送信されると、問題を追跡する連絡要求レコードが作成されます。オムニチャネルを使用して、対応可能なエージェントに連絡要求を転送できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 要求をオムニチャネルに転送するには、オムニチャネルが連絡要求オブジェクトを含めるために使用するキューを作成または編集します。次に、連絡要求フローの設定時にこのキューを所有者として指定します。このフローで、コミュニティメンバーが使用するオンラインフォームを作成します。連絡要求フローを作成するにするには、[設定] の [顧客問い合わせ要求] ページに移動します。

関連トピック:

- コミュニティ: 顧客がサポートからの電話を要求可能
- *Salesforce* ヘルプ: ルーティング設定およびエージェントのキューへの関連付け (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

オムニスーパーバイザの機能強化による支援

チャット中にエージェントがフラグを有効にして、支援が必要なことをスーパーバイザに知らせることができます。エージェントと顧客のライブメッセージセッション中、スーパーバイザは個別に提案することもできます。スーパーバイザのメッセージはエージェントに表示されますが、顧客には表示されません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

方法: エージェントはフラグボタンをクリックして、チャットセッションのフラグを有効化できます。スーパーバイザのオムニスーパーバイザの新しい列には、フラグが設定されたチャットセッションが表示されます。これらのセッションをリストの上部に表示してすばやく支援できるように、フラグが設定された列で並び替えることもできます。

スーパーバイザは、以前と同様にチャットを監視できるだけでなく、セッションの監視中に非公開メッセージを送信することもできるようなっています。これらのメッセージはエージェントにのみ表示されます。1 人以上のスーパーバイザがエージェントにフラグが有効化された原因を解決する方法についてアドバイスできますが、顧客にはエージェントが入力したメッセージのみが表示されます。

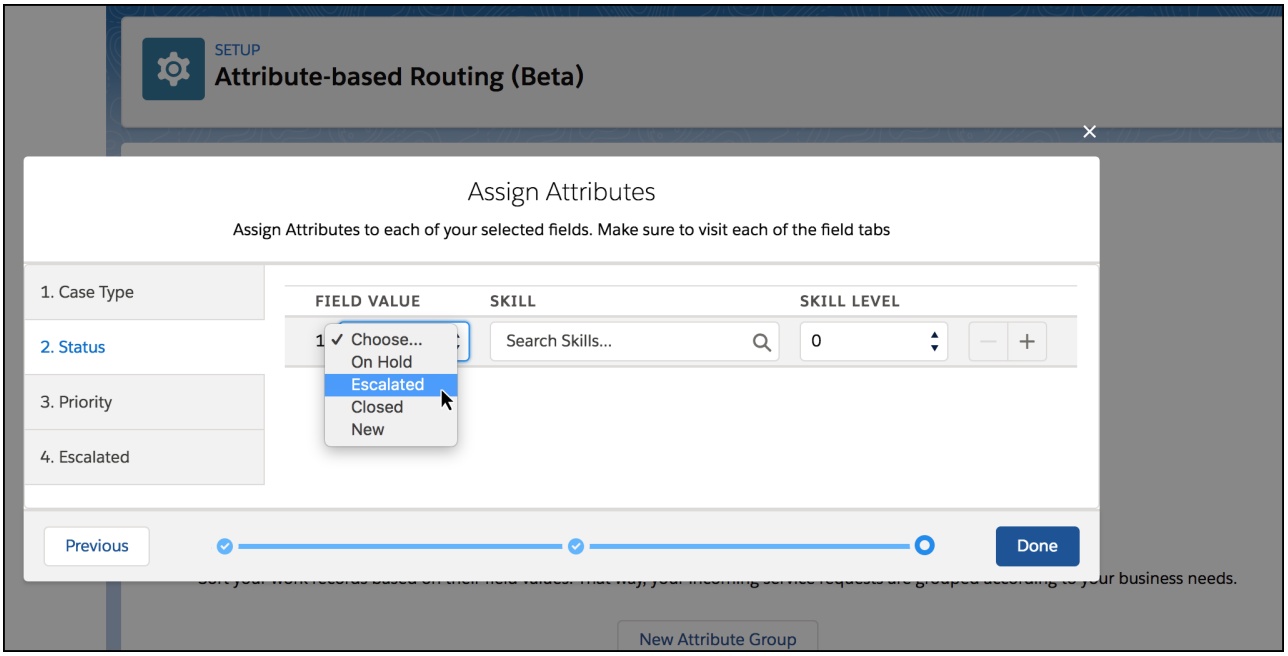
属性ベースのルーティングを使用して項目データに基づいて作業を割り当て (ベータ)

属性ベースのルーティングを使用して、適切なエージェントに作業を転送します。受信レコードの項目を使用して、最も有能で対応可能なエージェントに作業を割り当てます。受信したサービス要求をビジネスニーズに従ってグループ化するようにルーティングソリューションを調整します。属性ベースのルーティングは、ケース、リード、注文、カスタムオブジェクトで機能します。この非公開ベータに参加するには、Salesforce サポートにお問い合わせください。

メモ: ベータ機能である属性ベースのルーティングはプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象: この機能は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ルーティング条件として使用する項目と項目値を指定できます。



エージェントの生産性: マクロの相対日付およびタブを閉じる操作

相対日付を使用して、将来の日時を設定するマクロを作成します。ステップをマクロに追加して、マクロの完了時にコンソールタブを閉じることができます。さらに、Salesforce Classic に戻る理由がまた 1 つ減ります。Salesforce Classic で共有されるマクロとクイックテキストが Lightning Experience に表示されます。

このセクションの内容:

マクロでの相対日付を使用した正確な日時の設定
スケジュールや日付が変更されることはよくあります。マクロで具体的な日時を使用する代わりに、スケジュールが変更された場合でも常に適用できるように、相対日時を使用しましょう。たとえば、フォローアップ ToDo を作成するマクロが必要だとします。相対日付では、期日をマクロの実行日から特定の日数経過した日付で設定できます。

マクロの完了後にタブを閉じる
マクロがレコードでの作業を完了したときにタブを閉じて、完了したことをエージェントがわかるようにします。タブが開いたままだと、エージェントはマクロがまだ作業中だと勘違いする可能性があります。マクロビルダーで、簡単に終了時にタブを閉じる命令をマクロに追加できるようになりました。

Lightning Experience でのすべての Salesforce Classic マクロとクイックテキストの表示
Salesforce Classic で作成および共有された項目でも、すべてのマクロとクイックテキストを Lightning Experience で操作できます。以前は、Salesforce Classic で共有された項目は、フォルダが有効化されたときに Lightning Experience では表示されませんでした。

マクロでの相対日付を使用した正確な日時の設定

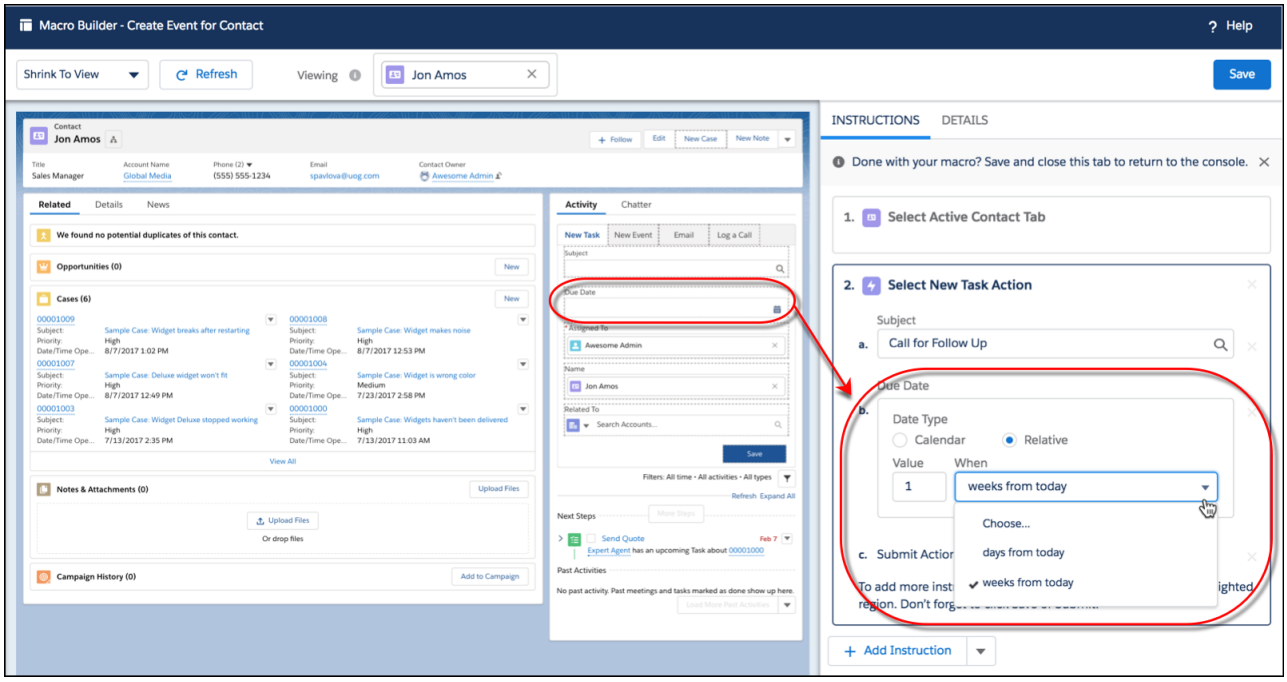
スケジュールや日付が変更されることはよくあります。マクロで具体的な日時を使用する代わりに、スケジュールが変更された場合でも常に適用できるように、相対日時を使用しましょう。たとえば、フォローアップ ToDo を作成するマクロが必要だとします。相対日付では、期日をマクロの実行日から特定の日数経過した日付で設定できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 日時を操作する場合、相対日付で次の内容を指定できます。

- 分後
- 時間後
- 日後
- 週間後

方法: マクロビルダーで、日時項目を操作するときに [相対] を選択します。値を入力し、期間を選択します。ToDo の [期日] 項目の例を次に示します。



[相対]オプションは、[時間]、[日付]、[日時]項目で使用できます。たとえば、1週間後の午前8時の行動を作成できます。

関連トピック:

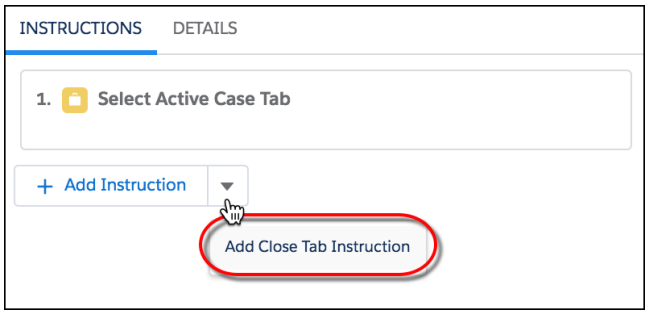
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のマクロの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

マクロの完了後にタブを閉じる

マクロがレコードでの作業を完了したときにタブを閉じて、完了したことをエージェントがわかるようにします。タブが開いたままだと、エージェントはマクロがまだ作業中だと勘違いする可能性があります。マクロビルダーで、簡単に終了時にタブを閉じる命令をマクロに追加できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: マクロビルダーで、[命令を追加] ドロップダウンから [タブを閉じる命令を追加] を選択します。必ず最後に追加してください。そうしないと、残りのマクロが実行されません。



メモ: タブは標準ナビゲーションを使用するアプリケーションには存在しないため、この命令は Lightning コンソールアプリケーションでのみ機能します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のマクロの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

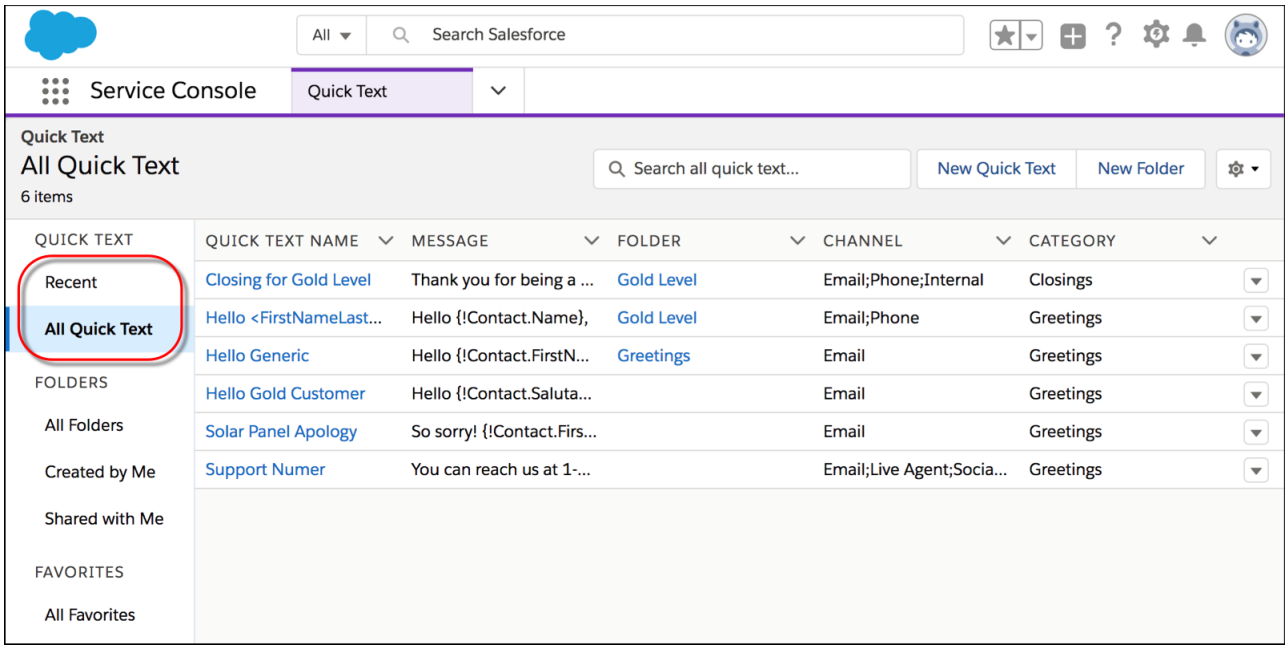
Lightning Experience でのすべての Salesforce Classic マクロとクイックテキストの表示

Salesforce Classic で作成および共有された項目でも、すべてのマクロとクイックテキストを Lightning Experience で操作できます。以前は、Salesforce Classic で共有された項目は、フォルダが有効化されたときに Lightning Experience では表示されませんでした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。マクロとクイックテキストのフォルダは、Essentials ではサポートされていません。

方法: Lightning Experience でマクロとクイックテキストを操作するには、[設定] の [マクロ設定] と [クイックテキスト設定] ページでフォルダを有効にします。フォルダを有効にすると、マクロユーティリティとクイックテキストブラウザが更新されます。

デフォルトでは、Salesforce Classic で共有された項目は [クイックテキスト] または [マクロ] リストビューの [すべて] ビューに表示されます。アクセスした項目は、[最近] にも表示されます。



ユーザが混乱しないように、Lightning Experience で項目がフォルダに割り当てられた場合、レコード詳細ページで Salesforce Classic の [共有] ボタンは無効になります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのフォルダを使用したクイックテキストの共有(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのフォルダを使用したマクロの共有(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Scheduler: 予定のスケジュールの簡略化

リード、商談、取引先など、標準の Salesforce ワークフロー内で顧客の予定をすばやくスケジュールします。トピックで予定をパーソナライズし、それらを適切なスキルを持つ従業員に割り当て、業務時間内にスケジュールされていることを確認します。

対象: この機能は、Enterprise Edition および Unlimited Edition で有料で使用できます。

関連トピック:

Lightning Scheduler を使用したパーソナライズされた予定の作成

Service Cloud のその他の変更

Service Cloud に加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

Lightning Experience での音声サポート設定フローを使用したコールセンターの作成
サードパーティの音声サポートシステムを Salesforce と統合し、チームがサービスコンソールから電話を受けることができるようにします。新しいガイド付き設定フローに従って、音声プロバイダに接続し、必要な AppExchange パッケージをインストールし、電話を受けることができるユーザを選択します。

Live Agent 設定フローでのオフラインサポートと関連レコードの設定
Snap-in チャットウィンドウで事前チャットおよびオフラインサポートをこれまで以上にシームレスに使用できるようになりました。設定フローでオフラインサポートを直接追加して、チャットに対応できるサポートエージェントがいないときに顧客がケースを登録できるようにします。さらに、事前チャットフォームの項目を使用して、作成およびチャットへのリンクを行うレコードを選択します。

Service Cloud Unlimited Edition への IoT の導入によるカスタマーサービスの改善
Salesforce IoT の制限付きバージョンが追加費用なしで Service Cloud で使用できるようになりました。Salesforce IoT により、エージェントは顧客の接続デバイスの状況に関する診断情報を取得し、問題をすばやく分析して解決できます。

Lightning Experience での音声サポート設定フローを使用したコールセンターの作成

サードパーティの音声サポートシステムを Salesforce と統合し、チームがサービスコンソールから電話を受けることができるようにします。新しいガイド付き設定フローに従って、音声プロバイダに接続し、必要な AppExchange パッケージをインストールし、電話を受けることができるユーザを選択します。

関連トピック:

ガイド付き環境を使用した Open CTI の設定

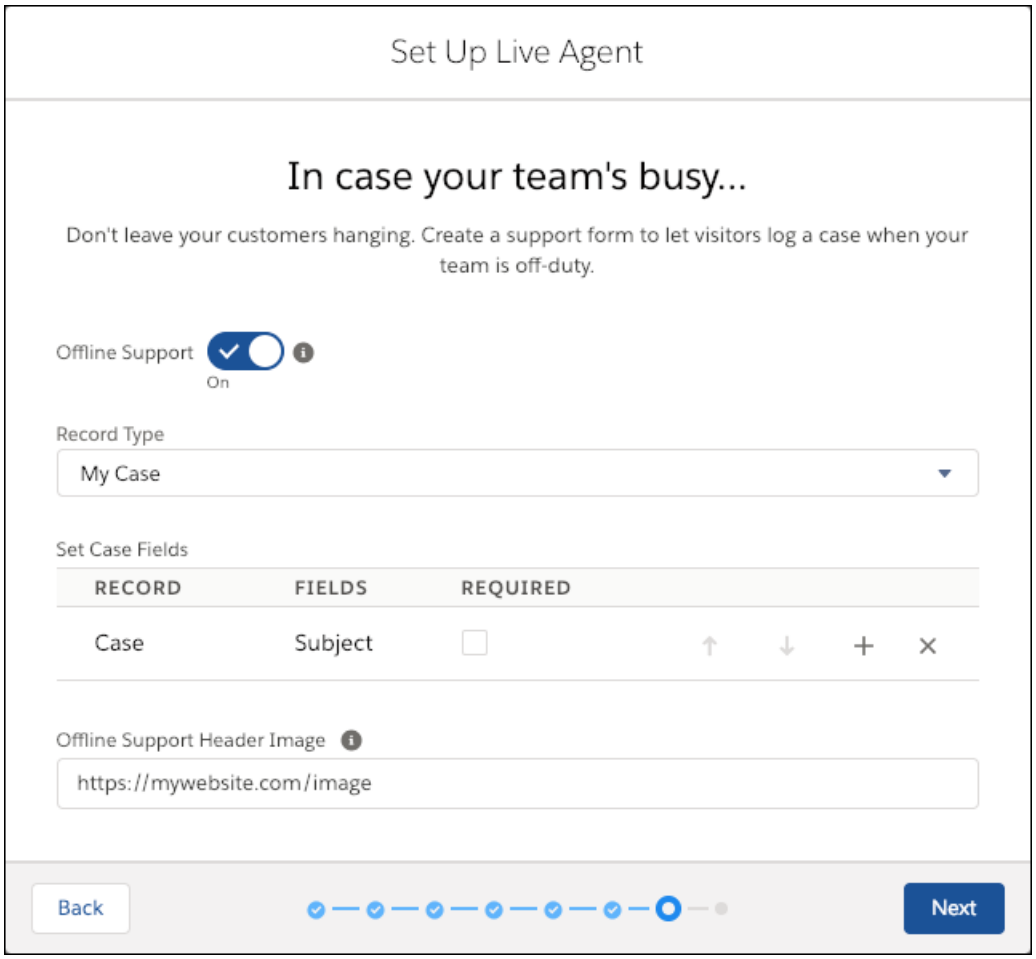
Live Agent 設定フローでのオフラインサポートと関連レコードの設定

Snap-in チャットウィンドウで事前チャットおよびオフラインサポートをこれまで以上にシームレスに使用できるようになりました。設定フローでオフラインサポートを直接追加して、チャットに対応できるサポートエージェントがいないときに顧客がケースを登録できるようにします。さらに、事前チャットフォームの項目を使用して、作成およびチャットへのリンクを行うレコードを選択します。

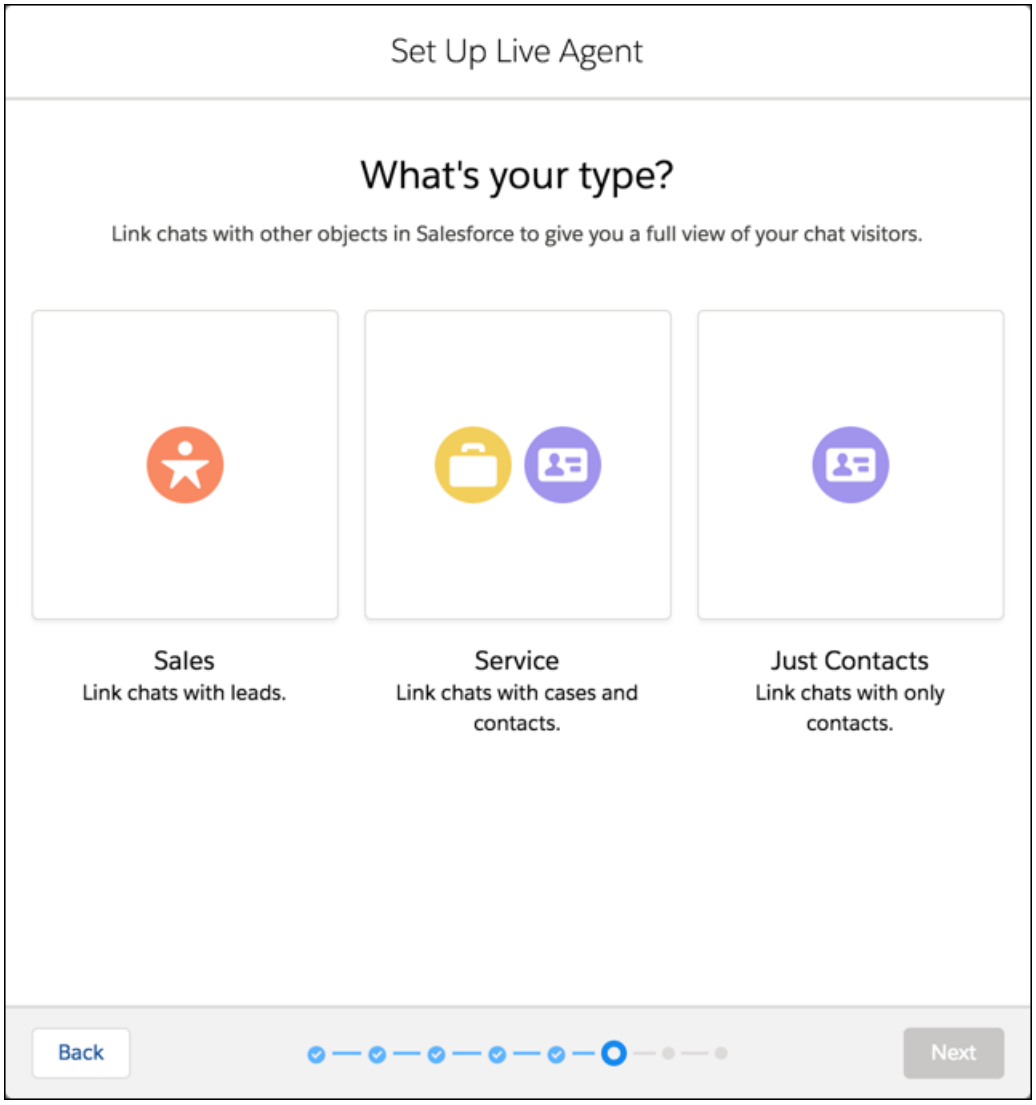
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 設定フローでオフラインサポートフォームを作成します。これを有効にすると、チャットエージェントのオフライン時に顧客が入力できるケースフォームを作成できます。また、ケースフォームの上部に表示されるヘッダー画像を追加することもできます。

メモ: オフラインサポートを有効にすると、フローで以前に選択したサイトのサポート API のゲストアクセスが有効になります。これは、ケースの登録を顧客に許可するために必要になります。



フローの簡単な選択でチャットを他の Salesforce レコードにリンクします。いずれかのオプションを選択すると、チャットでレコードが検索または作成されるため、顧客の全容を把握できます。[セールス](リード)、[サービス](ケースと取引先責任者)、または [取引先責任者のみ] を選択できます。



方法: [サービスの設定] から、**[Live Agent の設定]** を選択します。おすすめに表示されていない場合、[すべて表示] をクリックし、**[Live Agent の設定]** を選択します。

Service Cloud Unlimited Edition への IoT の導入によるカスタマーサービスの改善

Salesforce IoT の制限付きバージョンが追加費用なしで Service Cloud で使用できるようになりました。Salesforce IoT により、エージェントは顧客の接続デバイスの状況に関する診断情報を取得し、問題をすばやく分析して解決できます。

対象: この変更は、Unlimited Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

- Service Cloud Unlimited Edition の IoT を使用したカスタマーエクスペリエンスの向上

Analytics: レポートでの AI 駆動のインサイト、Lightning Experience の結合レポート、コミュニティのアクションメニュー

レポートの Einstein データインサイトで興味深いパターンについて注意が促されるため、グループ化、絞り込み、集計を行うことなくビジネスに関する新たな情報を知ることができます。Lightning 結合レポートで最大 5 個のレポートタイプからインサイトを取得し、12 列のダッシュボードでインサイトを共有します。コミュニティでアクションメニューを使用して、埋め込み Analytics ダッシュボードから直接レコードを更新します。レポートとダッシュボードおよび Einstein Analytics 全体で、これらとその他多数の機能や機能強化のメリットを得ることができます。

このセクションの内容:

レポートおよびダッシュボード: Lightning 結合レポート (正式リリース)、条件付き書式 (ベータ)、12 列ダッシュボード

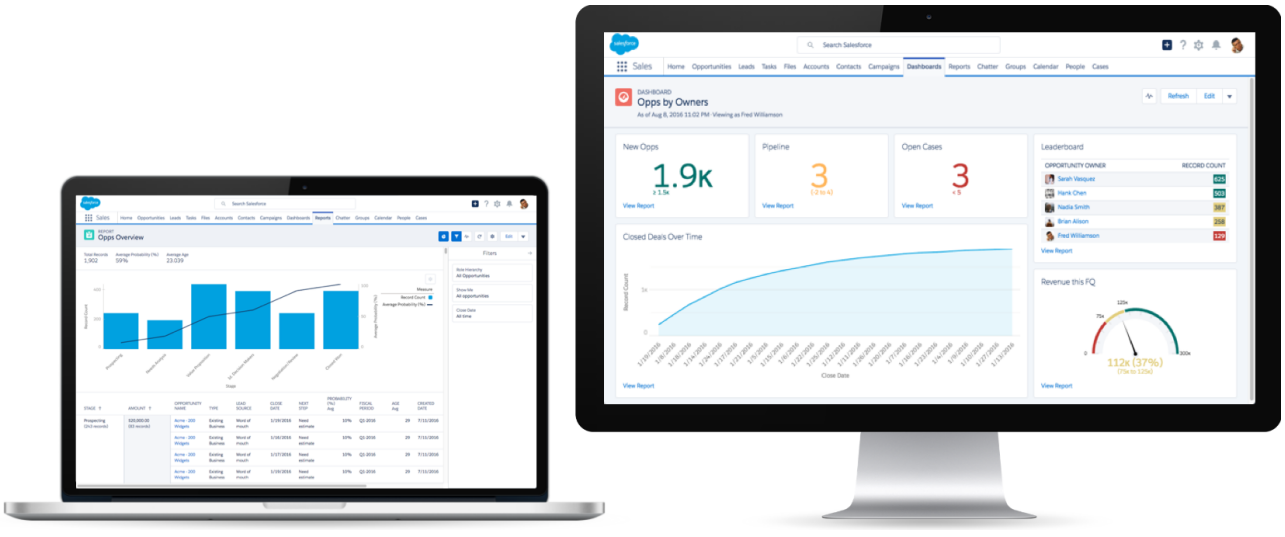
Lightning Experience で結合レポートを使用して、複数のレポートタイプからインサイトを得ます。次に、12 列ダッシュボードでインサイトを共有します。

Einstein Analytics: Einstein データインサイト、金融サービステンプレートアプリケーション、コミュニティのアクションメニュー

すべてのユーザに AI を提供します。金融サービスに固有の事前作成済み分析を使用して、データからインサイトをすばやく取得します。コミュニティを離れることなく Salesforce レコードを更新します。

レポートおよびダッシュボード: Lightning 結合レポート (正式リリース)、条件付き書式 (ベータ)、12 列ダッシュボード

Lightning Experience で結合レポートを使用して、複数のレポートタイプからインサイトを得ます。次に、12 列ダッシュボードでインサイトを共有します。



このセクションの内容:

レポート:Lightning結合レポート (正式リリース)、高度な実行ページ (正式リリース)、条件付き書式 (ベータ)、履歴追跡レポートの表示
結合レポートを作成した後、高度な実行ページで結合レポートを表示します。この高度な実行ページはすべてのレポートの標準の実行ページになりました。条件付き書式 (ベータ) を使用してインサイトを引き出し、Lightning Experience の履歴追跡レポートを表示してデータが時間と共にどのように変化しているかを確認します。

ダッシュボード: 12 列レイアウト、Lightning テーブルの数式列、コンパクト総計値コンポーネント
ダッシュボードはビジネスデータの詳細を表示するのに優れていますが、列数を 9 から 12 に増やすことでより多くのデータを表示できるようになりました。ソースレポートからの集計項目を Lightning テーブルに表示します。コンパクト総計値コンポーネントを使用して、より小さいスペースにより多くのデータを表示します。

登録: ユーザ、グループ、およびロールのレポートおよびダッシュボードの登録
ローカルセールスグループのユーザは、毎週月曜日の朝にInboxで受信する営業パイプラインダッシュボードに満足しています。数か月前に設定したダッシュボード登録は正常に機能していました。ただし、チームは現在拡大中であり、数人のユーザが別の業務に異動したため、受信者リストが最新でなくなりました。問題ありません。グループまたはロール別にレポートおよびダッシュボードの登録を設定することで、ユーザが異動しても最新の受信者リストを維持できます。

レポート: Lightning 結合レポート (正式リリース)、高度な実行ページ (正式リリース)、条件付き書式 (ベータ)、履歴追跡レポートの表示

結合レポートを作成した後、高度な実行ページで結合レポートを表示します。この高度な実行ページはすべてのレポートの標準の実行ページになりました。条件付き書式 (ベータ) を使用してインサイトを引き出し、Lightning Experience の履歴追跡レポートを表示してデータが時間と共にどのように変化しているかを確認します。

このセクションの内容:

Lightning Experience での結合レポートの導入 (正式リリース)
最大 5 つのブロックを含めた結合レポートを使用して、さまざまな種類の情報を 1 つのレポートに表示できます。各ブロックには、1つの標準レポートタイプまたはカスタムレポートタイプからデータを表示できます。

実行ページからデータをより容易に確認 (正式リリース)
実行ページ (以前の「高度な実行ページ」) のヘッダーが更新され、レポートのデータからインサイトがより迅速に得られるようになりました。

コンテンツに合わせた列のサイズ変更
切り捨てられたデータや未使用の空白が列に含まれていることが望ましくない場合は、それらに対応します。Lightning Experience レポートビルダーと実行ページでレポートの列幅を調整できるようになりました。

条件付き書式を使用した迅速な関連データの絞り込み (ベータ)

当面の注目すべき最重要案件を営業担当が容易に特定することや、$100,000 ～ $500,000 の金額の商談を持つ取引先を一目で確認することが可能になります。Lightning Experience で条件付き書式をサマリーレポートまたはマトリックスレポートに適用し、レポートに色を添えて、複数のインサイトを同時に集めます。

積み上げ集計を使用してインサイトをすばやく集める

この複雑で素晴らしいマトリックスレポートを作成したら、大量のデータを集計し、さまざまな項目の値を比較できます。ただし、比較する集計した総計値が常に都合よく並んで配置されているとは限りません。レポートを見やすくするには、スクロールを少なくする必要があります。[積み上げ集計] オプションを有効にしてレポートを表示してください。

Lightning Experience での履歴追跡レポートの表示

ただ履歴追跡レポートを表示するだけの目的で Salesforce Classic に戻る必要はありません。すべての履歴追跡レポートを Lightning Experience の [レポート] ページから表示できるようになりました。

Lightning Experience での結合レポートの導入 (正式リリース)

最大 5 つのブロックを含めた結合レポートを使用して、さまざまな種類の情報を 1 つのレポートに表示できます。各ブロックには、1 つの標準レポートタイプまたはカスタムレポートタイプからデータを表示できます。

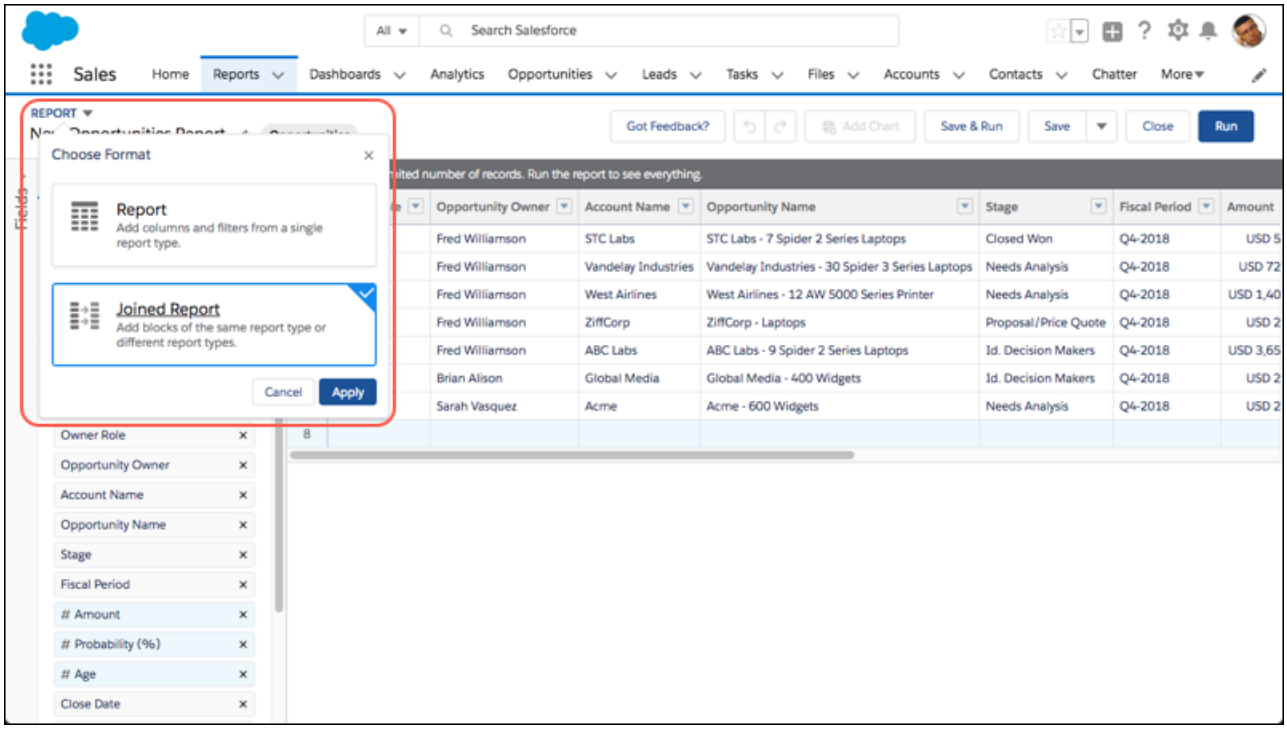
対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience で正式リリースされます。

理由: 結合レポートは、複数のレポートタイプをまたがって Salesforce データを分析するのに適しています (商品が関連する商談を納入商品が関連するケースに結合するなど)。また、1 つのオブジェクトの複数のビューを同時に取得することもできます (成立商談と不成立商談など)。

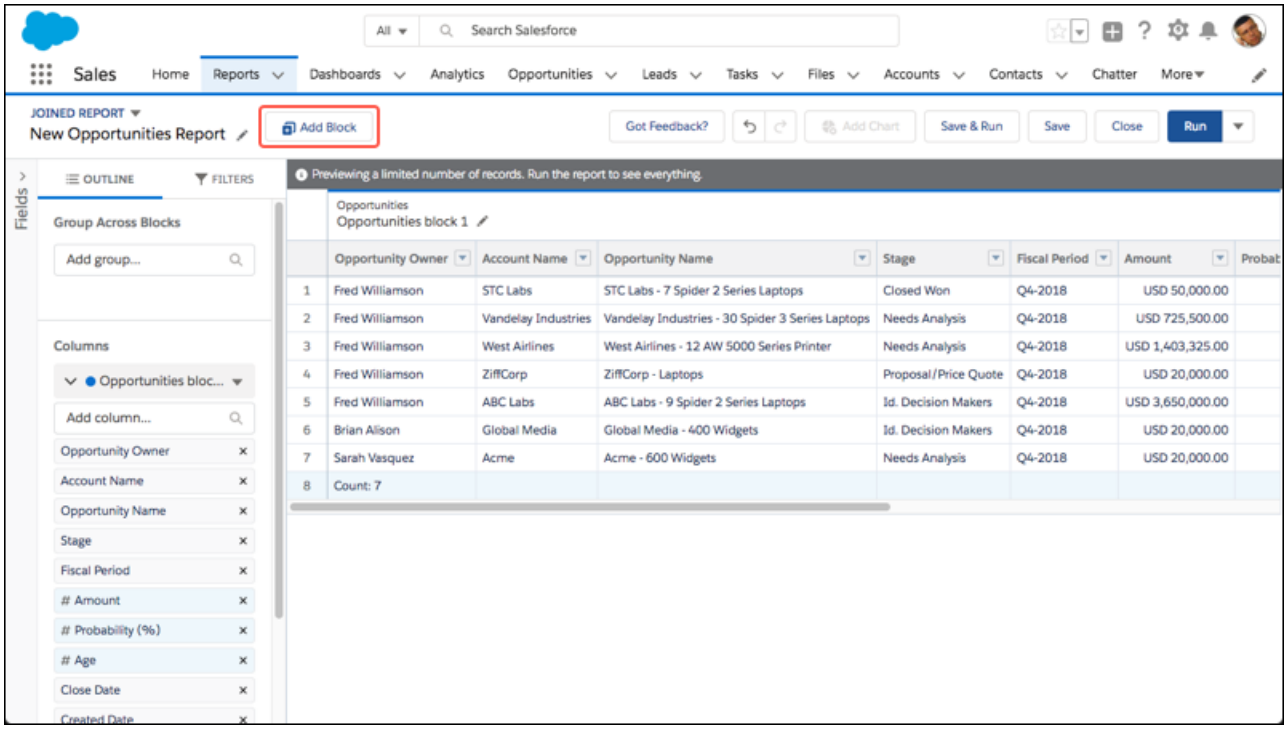
たとえば、結合レポートを構築して最終的な売上レポートを作成します。取引先、商談、およびケースの全体像を把握するための 3 つのブロックを結合レポートに追加します。

つまり、カスタマーサービス業務を俯瞰するための結合レポートを構築します。3 つのブロックを追加し、それぞれに [ケース] レポートタイプを割り当てます。1 つのブロックをオープン状況で絞り込み、別のブロックを処理中状況、3 つ目のブロックをクローズ状況で絞り込みます。

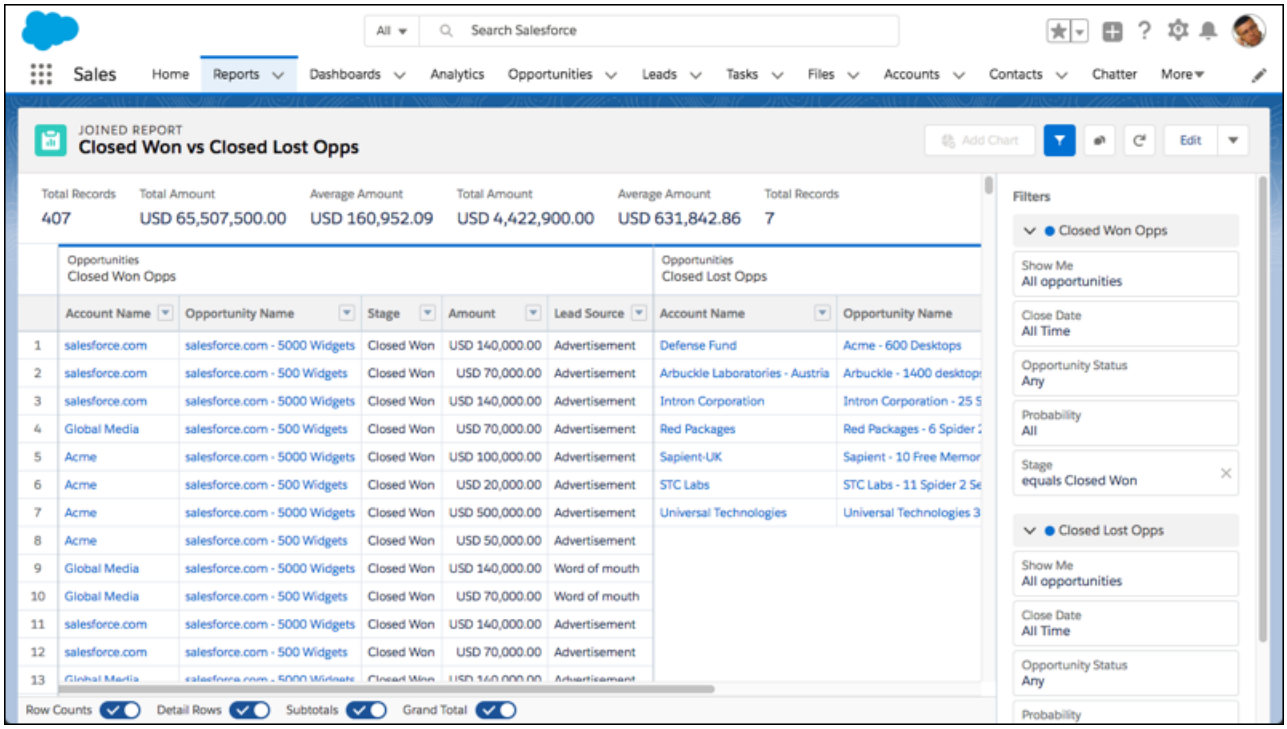
方法: [レポート] ▼ >[結合レポート]>[適用] をクリックしてあらゆるレポートを結合レポートに変換できます。



ブロックを追加するには、 [ブロックを追加] をクリックし、レポートタイプを選択します。



レポートデータのグループ化、絞り込み、集計、グラフ化を他のレポートの場合と同様に行います。いつの間にか結合レポートから有益なビジネスインサイトが得られるようになります。次の結合レポートは、成立した商談と不成立の商談を比較しています。



Lightning 結合レポートが正式リリースされ、次のアクションがサポートされるようになりました。

- 結合レポートを作成する
- 既存の未結合レポートを結合レポートに変換する
- ブロック名を変更する
- ブロックを並び替える
- 主レポートタイプを変更する (Lightning 結合レポートの最初のブロックのレポートタイプが常に主レポートタイプになります)
- 集計項目とクロスブロック集計項目の追加と編集を行う
- Chatter フィード

Lightning 結合レポートでは、以下の機能はサポートされません。

- 登録
- エクスポート
- Quip で開く
- 条件付き書式
- 通貨選択リストセレクタ
- Einstein Analytics トレンドレポートデータ
- Einstein データインサイト

メモ: [設定] の [レポートおよびダッシュボードの設定] から **[Lightning 結合レポートを有効化 (ベータ)]** を削除しました。

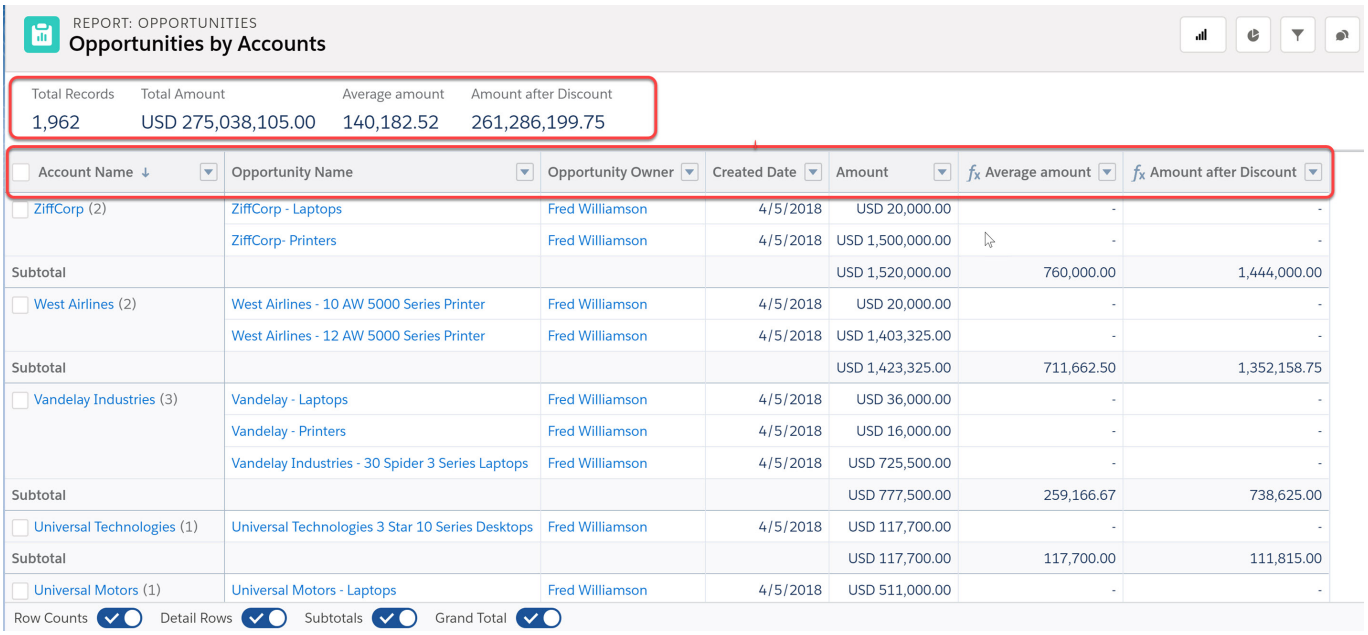
実行ページからデータをより容易に確認 (正式リリース)

実行ページ (以前の「高度な実行ページ」) のヘッダーが更新され、レポートのデータからインサイトがより迅速に得られるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: レポートで主要な総計値をすばやく参照するには、Lightning Experience レポートヘッダーのみを探します。最大 8 個の総計値が、レポートに表示される順番で左から右に表示されるようになりました。この総計値には、総数、小計、レコード件数、および数式列の結果が含まれます。

また、非常に大きなサイズのレポートのスクロールが管理しやすくなりました。列ヘッダーが固定されるようになりました。これで、レポートレコードのページを移動しても列ヘッダーが見えなくなることはありません。



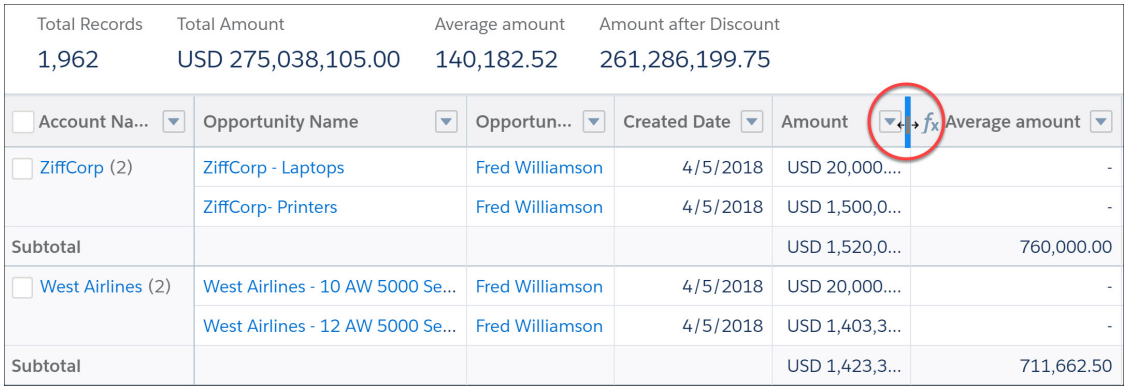
メモ: この実行ページ (以前の「高度な実行ページ」) が正式リリースされ、従来の実行ページに切り替えるオプションが削除されました。

コンテンツに合わせた列のサイズ変更

切り捨てられたデータや未使用の空白が列に含まれていることが望ましくない場合は、それらに対応します。Lightning Experience レポートビルダーと実行ページでレポートの列幅を調整できるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 列幅のサイズを変更するには、列ヘッダーの右端にマウスポインタを置きます。サイズ変更カーソルが表示されたら、データが適切なサイズになるまで端をドラッグします。完了したら、カーソルをクリックして新しい幅を設定します。



Total Records	Total Amount	Average amount	Amount after Discount
1,962	USD 275,038,105.00	140,182.52	261,286,199.75

Account Na...	Opportunity Name	Opportun...	Created Date	Amount	Average amount
ZiffCorp (2)	ZiffCorp - Laptops	Fred Williamson	4/5/2018	USD 20,000....	-
	ZiffCorp- Printers	Fred Williamson	4/5/2018	USD 1,500,0...	-
Subtotal				USD 1,520,0...	760,000.00
West Airlines (2)	West Airlines - 10 AW 5000 Se...	Fred Williamson	4/5/2018	USD 20,000....	-
	West Airlines - 12 AW 5000 Se...	Fred Williamson	4/5/2018	USD 1,403,3...	-
Subtotal				USD 1,423,3...	711,662.50

メモ: 次のような場合は、列の新しい幅が保持されません。

- ブラウザを切り替える、シークレットモードで参照する、別のアカウントにログインする、ブラウザのローカルストレージをクリアする。
- レポート形式を表形式、サマリー形式、またはマトリックス形式から結合レポートまたは履歴追跡レポートに変更する。
- 結合レポートのブロックの順序を変更する。

条件付き書式を使用した迅速な関連データの絞り込み (ベータ)

当面の注目すべき最重要案件を営業担当が容易に特定することや、$100,000 ～ $500,000 の金額の商談を持つ取引先を一目で確認することが可能になります。Lightning Experience で条件付き書式をサマリーレポートまたはマトリックスレポートに適用し、レポートに色を添えて、複数のインサイトを同時に集めます。

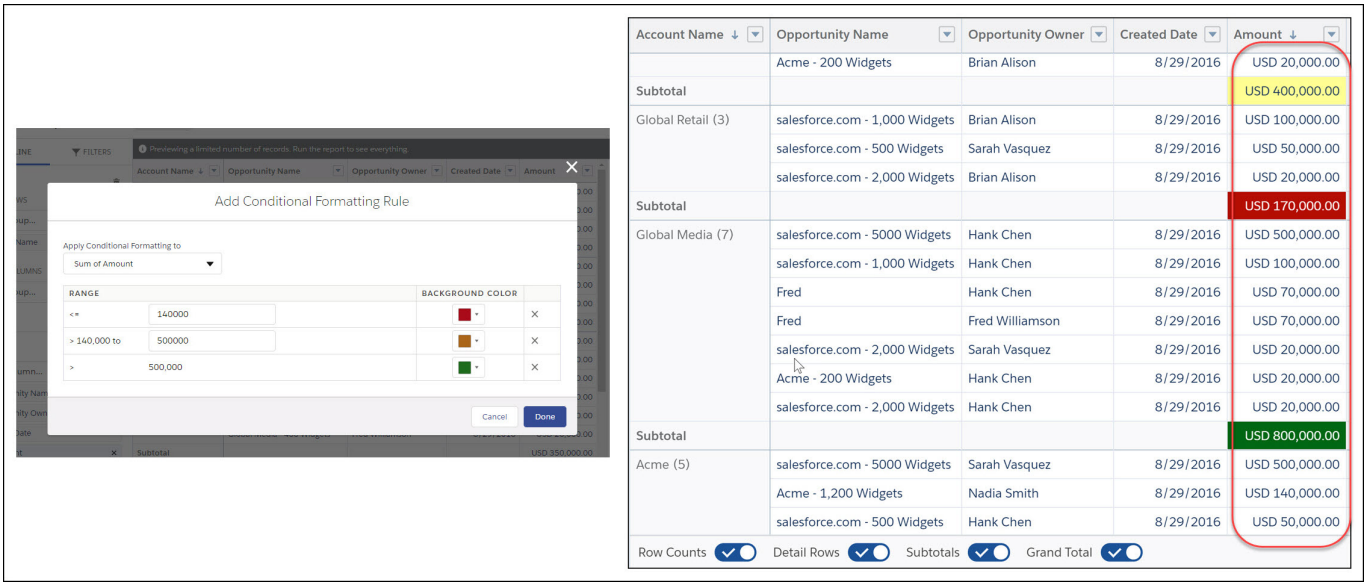
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: Lightning Experience の条件付き書式はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Lightning Experience の条件付き書式に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

理由: Salesforce Classic でレポートに条件付き書式を適用することに満足していただけたなら、Lightning Experience でさらに満足していただけることでしょう。正確性を高めるため、最大 5 つの書式ルールを Lightning Experience のレポートに適用できるようになりました。また、適用するルールごとに最大3つのビンを定義できます。各ビンの色をすばやく設定し、色もカスタマイズします。

方法: 条件付き書式は組織でデフォルトで有効になっています。1 つ以上の基準または集計を含むサマリーレポートまたはマトリックスレポートを編集モードで開きます。[条件付き書式]をクリックします。[条件付き書式ルールを追加] で、条件付き書式ルールを適用する集計項目またはカスタム集計項目を選択します。ブレー

クポイントの値と、各ビンの範囲の色を設定します。条件付き書式ルールを適用する準備ができたら、[完了] をクリックします。

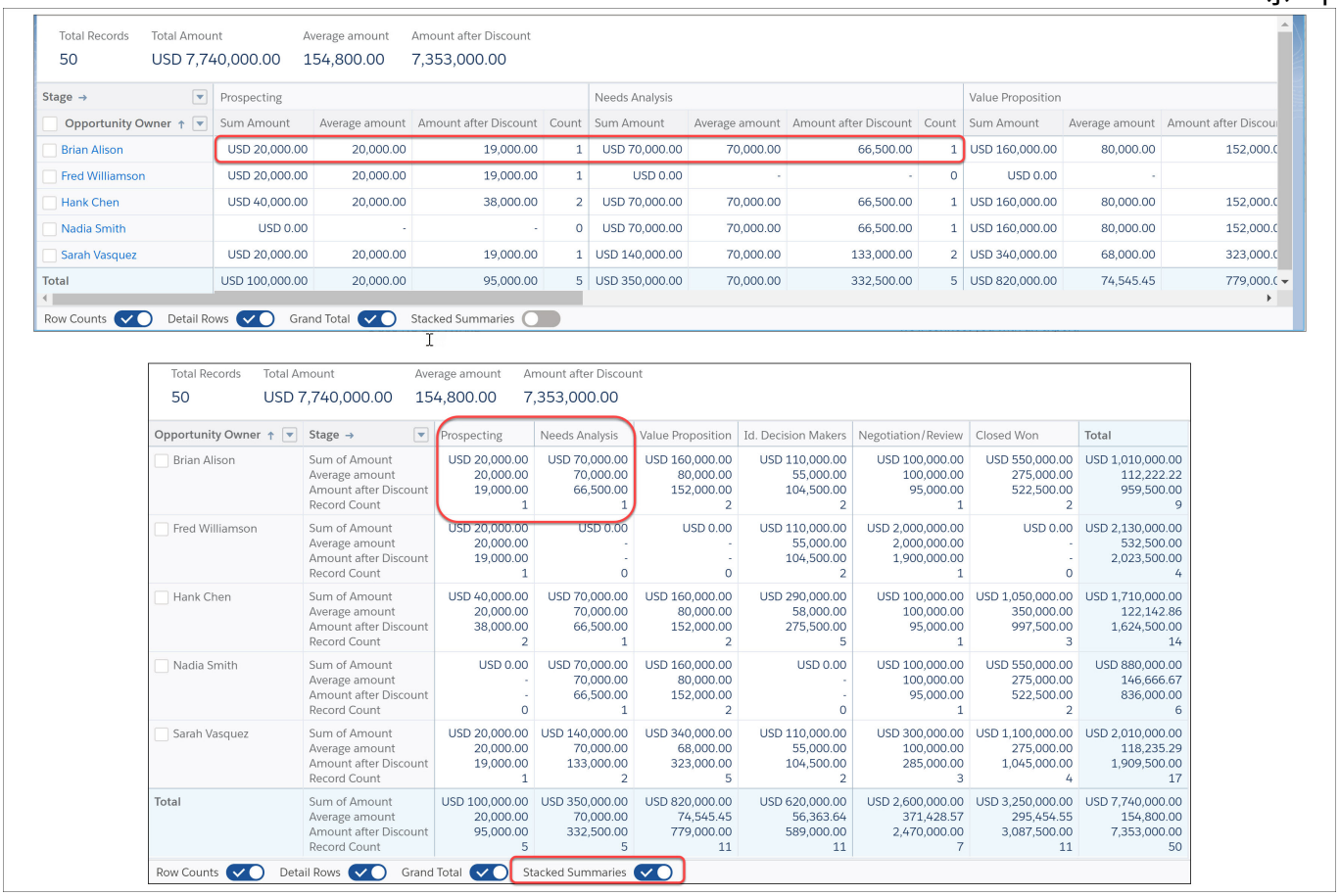


積み上げ集計を使用してインサイトをすばやく集める

この複雑で素晴らしいマトリックスレポートを作成したら、大量のデータを集計し、さまざまな項目の値を比較できます。ただし、比較する集計した総計値が常に都合よく並んで配置されているとは限りません。レポートを見やすくするには、スクロールを少なくする必要があります。[積み上げ集計]オプションを有効にしてレポートを表示してください。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [積み上げ集計] オプションは、すべてのマトリックスレポートのレポートフッターで利用できます。デフォルトでは、積み上げ集計は Lightning レポートビルダーと実行ページで有効になっています。積み上げ集計を有効にすることで同じデータのレビューと比較が容易になることを確認してください。



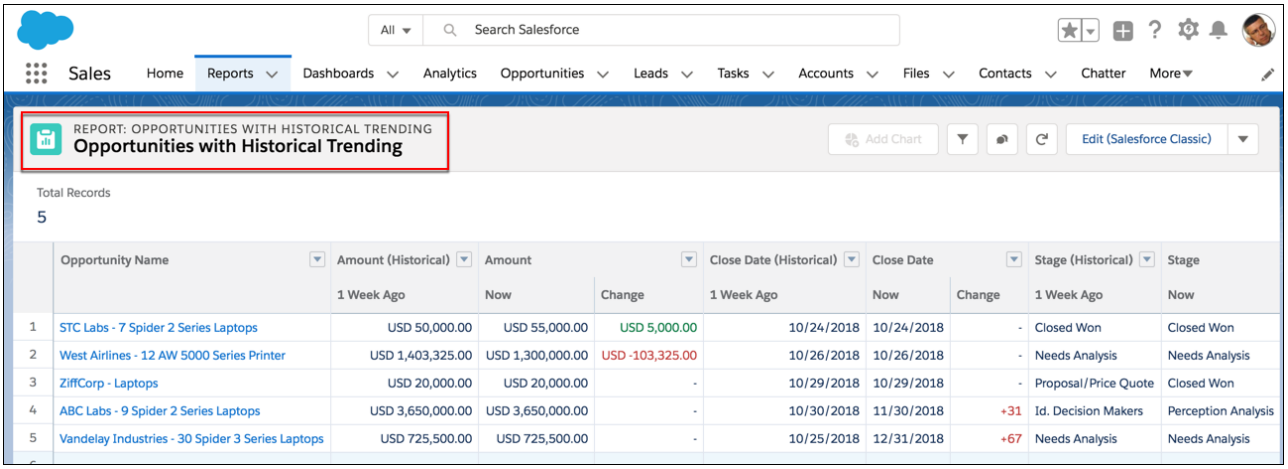
Lightning Experience での履歴追跡レポートの表示

ただ履歴追跡レポートを表示するだけの目的で Salesforce Classic に戻る必要はありません。すべての履歴追跡レポートを Lightning Experience の [レポート] ページから表示できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: これより前のリリースでは、Lightning Experience で履歴追跡レポートをマトリックス形式で表示できました。今回のリリースで、すべてのサポートされる形式(表形式およびマトリックス形式)を表示できるようになりました。

方法: Lightning Experience の [レポート] ページから表形式の履歴追跡レポートをクリックすると、レポートが実行され、表示されるようになりました。追跡されている項目については、[変更を表示] および [形式の変更] オプションを使用すると、履歴値と現在の値の変化を表示できます。



ダッシュボード: 12 列レイアウト、Lightning テーブルの数式列、コンパクト総計値コンポーネント

ダッシュボードはビジネスデータの詳細を表示するのに優れていますが、列数を 9 から 12 に増やすことでより多くのデータを表示できるようになりました。ソースレポートからの集計項目を Lightning テーブルに表示します。コンパクト総計値コンポーネントを使用して、より小さいスペースにより多くのデータを表示します。

このセクションの内容:

12 列ダッシュボードを使用したより多くのデータの表示

12 列ダッシュボードはデータレイアウトをより詳細に制御できますが、9 列ダッシュボードも必要に応じて引き続き作成できます。このリリースで作成された 12 列または 9 列ダッシュボードの行の高さは、以前に作成されたダッシュボードの半分になります。以前に作成したダッシュボードでは、行の元の高さが維持されます。

Lightning テーブルに集計項目を数式列として追加

Lightning テーブルのソースレポートに集計項目列が含まれる場合、その集計項目を Lightning テーブルに追加できます。

コンパクトコンポーネントを使用して、より小さいスペースにより多くのデータを配置

コンパクトコンポーネントは、データの多いダッシュボードの新時代を開きます。あらゆるコンポーネントをコンパクトコンポーネントにできますが、総計値が最も適しています。ダッシュボードエディタで 1 行 1 列 (1x1) コンポーネントをダッシュボードに追加できるようになりました。以前は、可能な最小のコンポーネントは 1 行 2 列でした。

Lightning Experience のダッシュボードのその他の機能強化

このリリースの主要機能に加えて、ダッシュボードに小さいながら重要な改善がいくつか行われました。

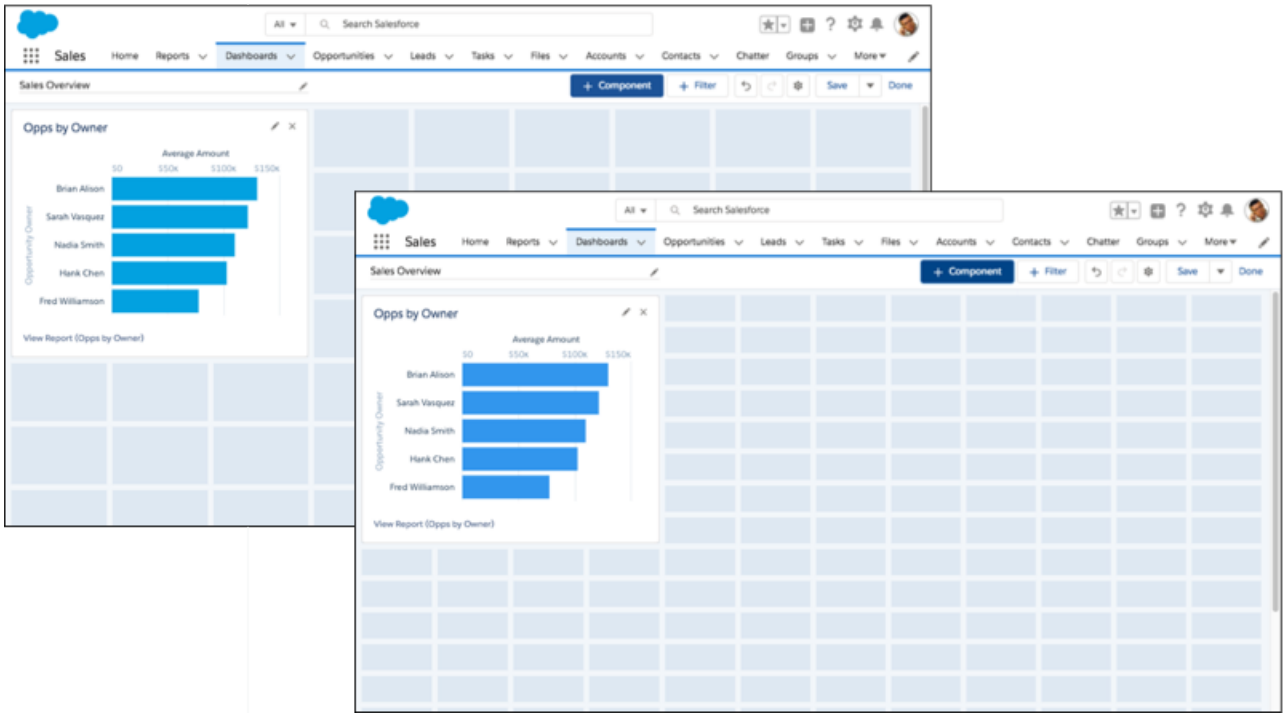
12 列ダッシュボードを使用したより多くのデータの表示

12 列ダッシュボードはデータレイアウトをより詳細に制御できますが、9 列ダッシュボードも必要に応じて引き続き作成できます。このリリースで作成された 12 列または 9 列ダッシュボードの行の高さは、以前に作成されたダッシュボードの半分になります。以前に作成したダッシュボードでは、行の元の高さが維持されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 列数が多くなり、行の高さが低くなると、同じスペースでより多くのコンポーネントとより多くのレイアウトオプションを使用できます。

方法: 12 列と 9 列を切り替えるには、ダッシュボードを作成または編集します。プロパティアイコン (⚙) をクリックして、ダッシュボードプロパティを開きます。プロパティウィンドウの [ダッシュボードグリッドサイズ] セクションで、**[12 列]** または **[9 列]** を選択します。



Lightning テーブルに集計項目を数式列として追加

Lightning テーブルのソースレポートに集計項目列が含まれる場合、その集計項目を Lightning テーブルに追加できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

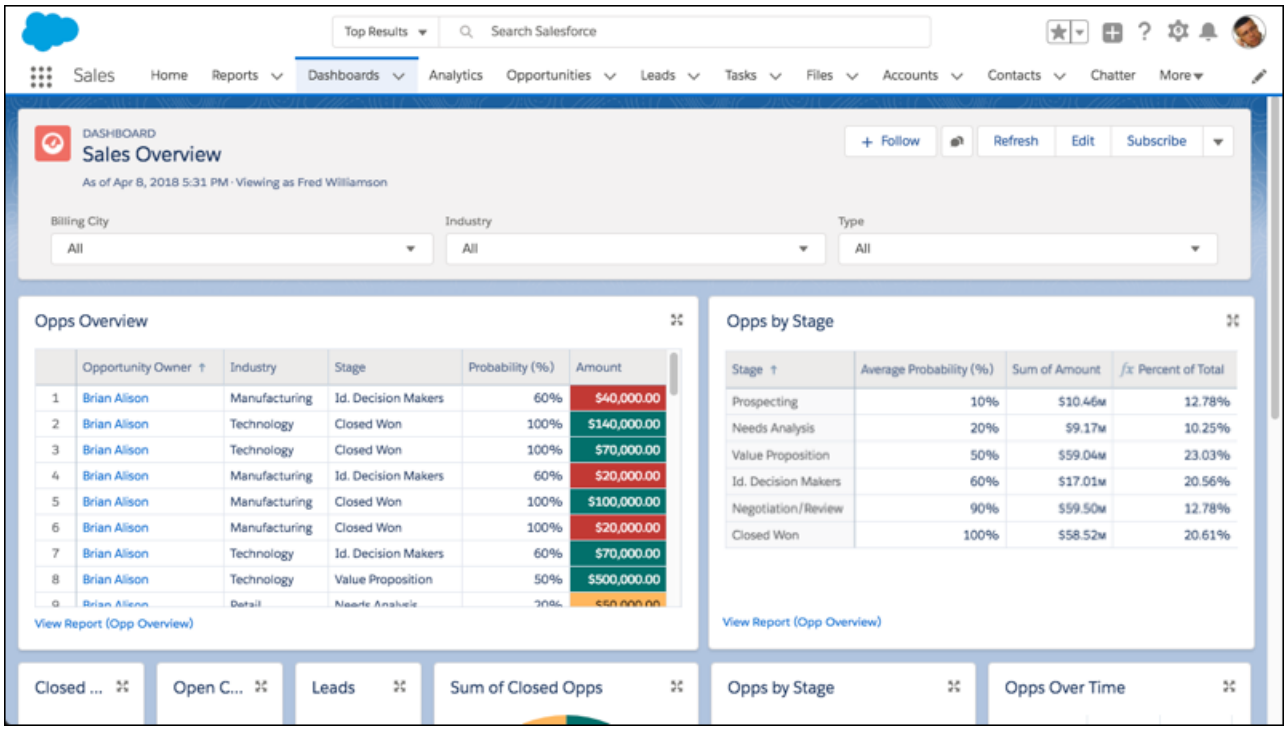
理由: 集計項目列を使用して、レポートデータを論理的および数学的に評価します。

会社の売上に累進税率 (売上 $1,000,000 までは 15%、$1,000,000 以上は 20%) が課される場合、「Amount After Tax (税引後の金額)」という名前の集計項目列を使用して税引後の利益を計算できます。

```
IF(AMOUNT:SUM < 1000000, AMOUNT:SUM * (1 - 0.15), AMOUNT:SUM * (1 - 0.20))
```

方法:数式列を追加するには、Lightning テーブルを編集します。必要に応じて、[グループを追加] をクリックして、グループ化する項目を選択し、Lightning テーブルのデータをグループ化します。最後に、数式列 (名前の前に表示される数式アイコン *fx* で識別できる) を選択します。

たとえば、次の Sales Overview ダッシュボードでは、左側にある Lightning テーブルを使用して個々の商談レコードの詳細を表示します。右側の Lightning テーブルはフェーズでグループ化されており、平均確度や合計金額といった主要な総計値を参照するのに便利です。右端の列は数式列です (「Amount After Tax (税引後の金額)」)。



メモ: ソースレポートの集計項目列を [すべての集計レベル] で評価する場合、すべての Lightning テーブルと互換性があります。集計項目列を [特定のグループ] で評価する場合、ソースレポートと同じ方法で Lightning テーブルのデータをグループ化し、数式列を表示します。Lightning テーブルでは、[総計のみ] で評価される集計項目列はサポートされていません。

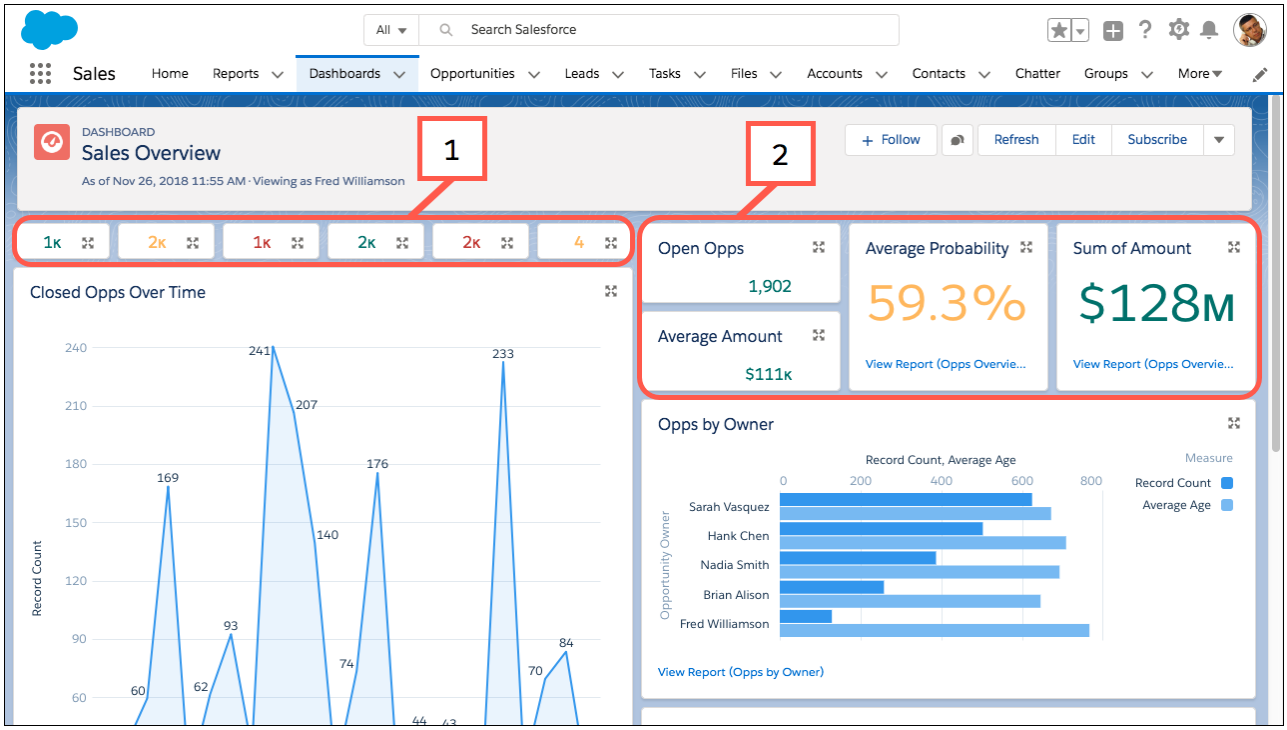
レポートでは最大 4 つのグループがサポートされますが、Lightning テーブルでサポートされるのは 2 つのグループであるため、3 番目または 4 番目のレポートグルーピングに基づいて数式列を追加することはできません。行と列の両方でグループ化されたソースレポートを使用する Lightning テーブルでは、レポートの第 1 レベルの行と列のグルーピングに基づく数式列がサポートされます。

コンパクトコンポーネントを使用して、より小さいスペースにより多くのデータを配置

コンパクトコンポーネントは、データの多いダッシュボードの新時代を開きます。あらゆるコンポーネントをコンパクトコンポーネントにできますが、総計値が最も適しています。ダッシュボードエディタで 1 行 1 列 (1x1) コンポーネントをダッシュボードに追加できるようになりました。以前は、可能な最小のコンポーネントは 1 行 2 列でした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: コンパクトコンポーネントでは、より多くの関連総計値をグループ化できます。



このダッシュボードは 1x1 総計値コンポーネントの行を使用して、重要な詳細の商談パイプラインを表示しています (1)。また、1x2 と 2x2 の総計値コンポーネントを使用して、商談パイプラインの詳細を表示しています (2)。1x1 総計値コンポーネントにタイトルまたはソースレポートのリンクは表示されません。

方法: コンポーネントをコンパクト化するには、まずダッシュボードを編集します。次に、コンパクト化するコンポーネントを選択し、隅を掴んで縮小します。

コンパクトコンポーネントのタイトルとソースレポートのリンク、およびコンポーネントの大きなビューを表示するには、展開アイコン ( ) をクリックして展開します。

Lightning Experience のダッシュボードのその他の機能強化

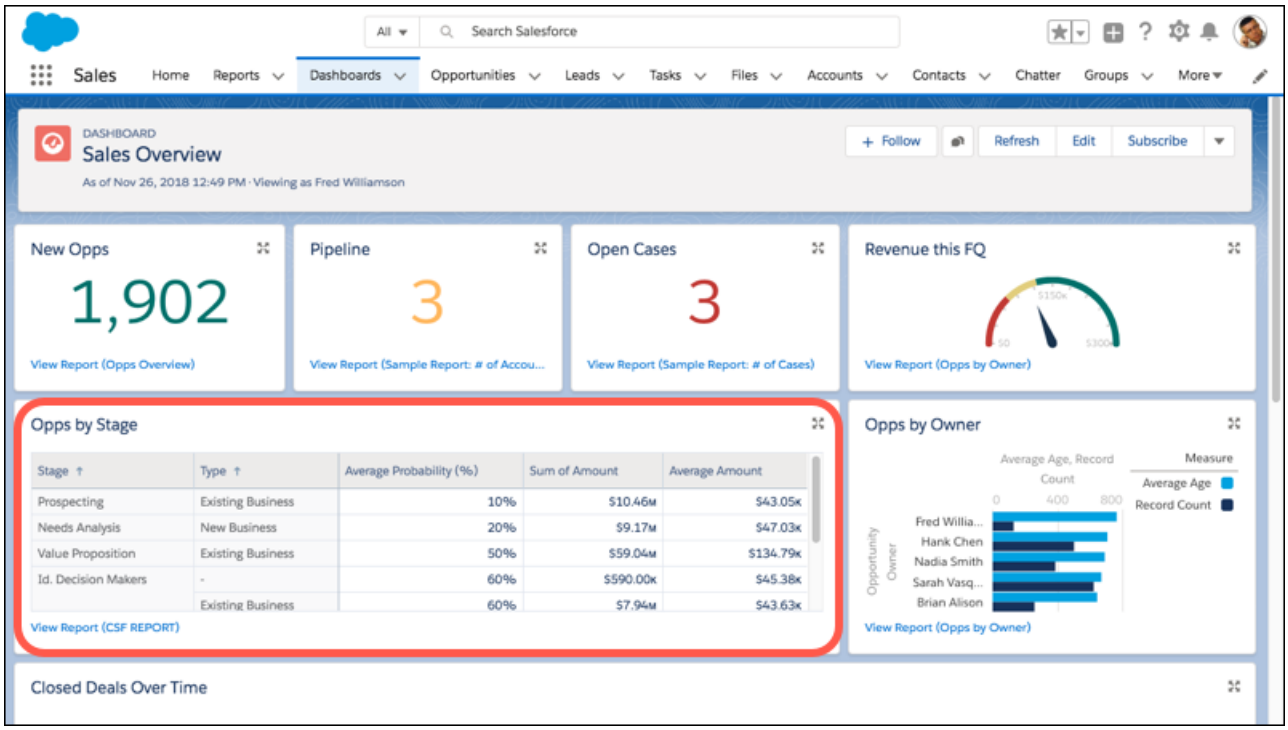
このリリースの主要機能に加えて、ダッシュボードに小さいながら重要な改善がいくつか行われました。

対象: これらの変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 多くの小さな機能強化も大事です。

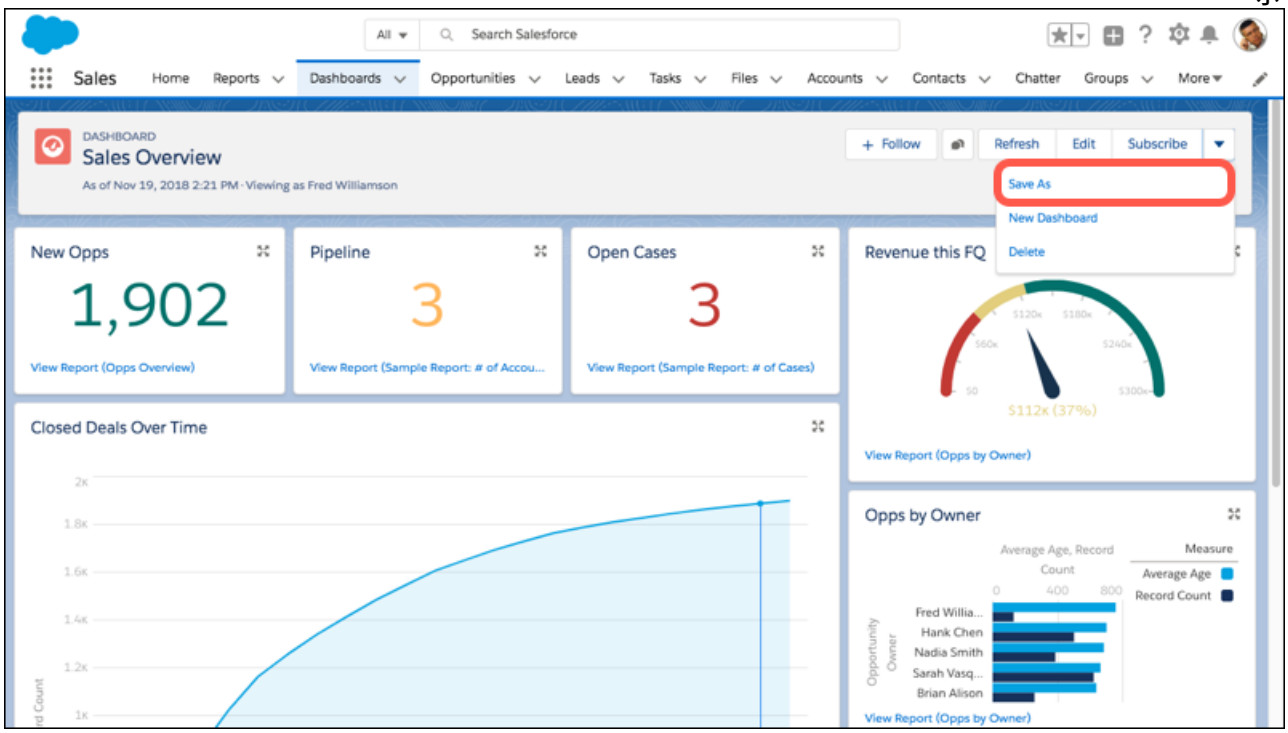
Lightning テーブルへの 2 つのグループの追加

Lightning テーブルで 2 つのグループがサポートされるようになりました。以前は 1 つのみでした。たとえば、次のダッシュボードには、フェーズと種別でグループ化された商談が表示されています。



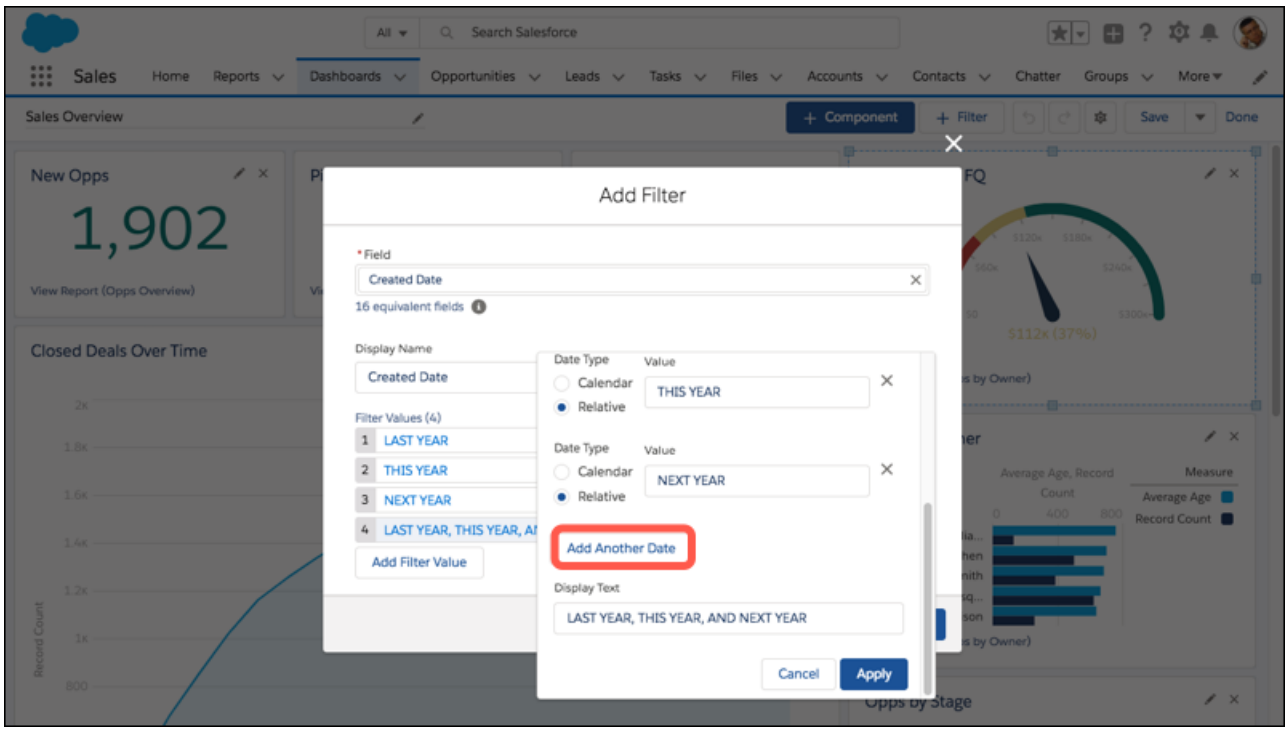
[別名で保存] を使用したダッシュボードのコピー

レポートに合わせて、[コピー] ダッシュボードオプションの表示ラベルが [別名で保存] に変更されました。機能は同じです。



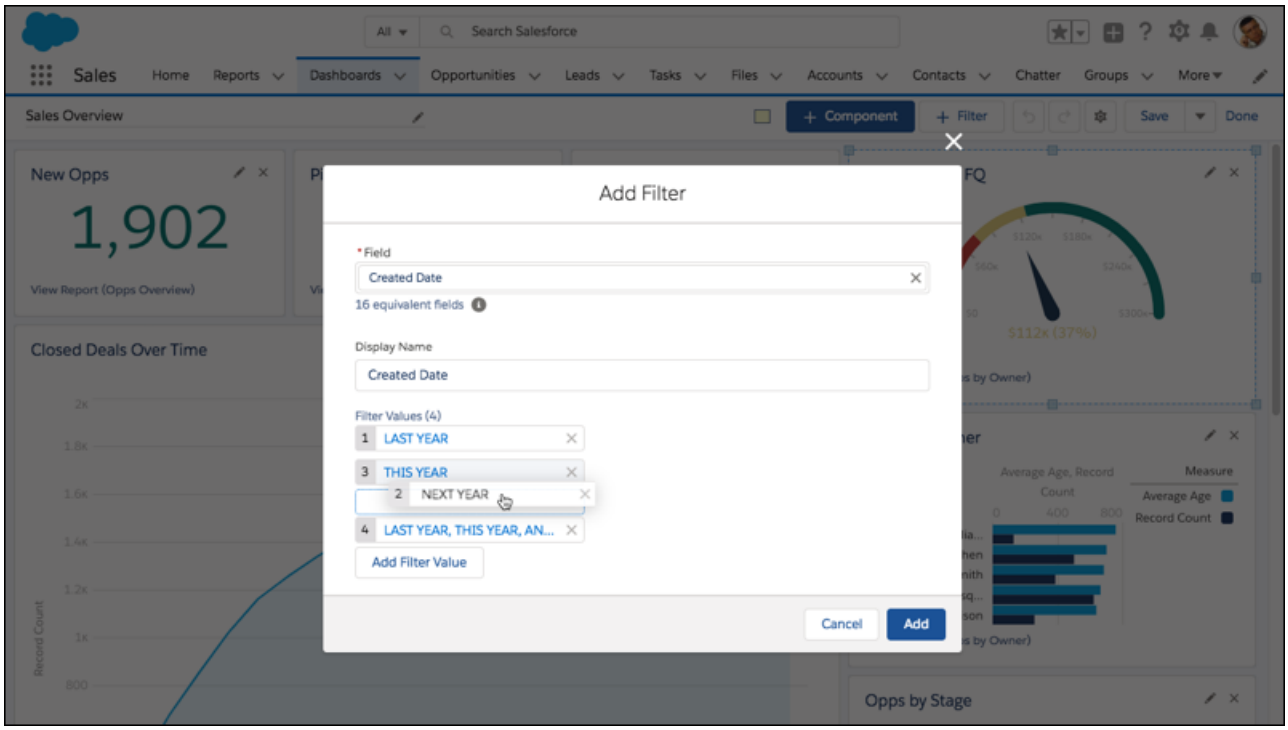
別の日付を追加

検索条件オプションの [日付をさらに追加] の名前が [別の日付を追加] に変更されました。前の表示ラベルは、文法チェッカーの前をコソコソと通り過ぎていきました。機能は同じです。



ドラッグアンドドロップを使用したダッシュボード検索条件値の並び替え

任意の順序でダッシュボード検索条件値をドラッグできます。以前は、検索条件値を削除してから、目的の順序で再度追加する必要がありました。



[整数] から [完全な数] への表示ラベルの変更

完全な数を表示する [表示単位] オプションが [整数] から [完全な数] に変更されました。小数部の精度を設定できるようになったので、[整数] オプションが「最も近い整数に丸めること」と誤って混同される可能性があります。小数を最も近い整数に丸めるには、[小数部の桁数] を [0] に設定します。

登録: ユーザ、グループ、およびロールのレポートおよびダッシュボードの登録

ローカルセールスグループのユーザは、毎週月曜日の朝に Inbox で受信する営業パイプラインダッシュボードに満足しています。数か月前に設定したダッシュボード登録は正常に機能していました。ただし、チームは現在拡大中であり、数人のユーザが別の業務に異動したため、受信者リストが最新でなくなりました。問題ありません。グループまたはロール別にレポートおよびダッシュボードの登録を設定することで、ユーザが異動しても最新の受信者リストを維持できます。

このセクションの内容:

グループまたはロール別のレポートおよびダッシュボードの登録

グループまたはロール別にレポートとダッシュボードの登録者を特定します。これにより、グループメンバーシップやロールが変わっても最新の受信者リストが維持されます。

グループまたはロール別のレポートおよびダッシュボードの登録

グループまたはロール別にレポートとダッシュボードの登録者を特定します。これにより、グループメンバーシップやロールが変わっても最新の受信者リストが維持されます。

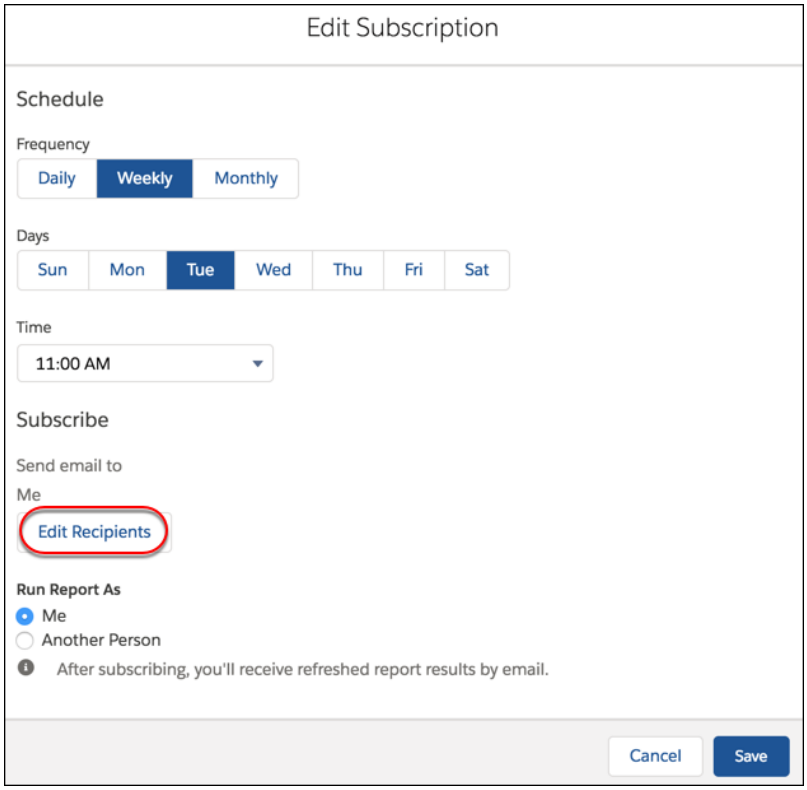
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ダッシュボードに他のユーザを登録するには、「ダッシュボードの登録: グループおよびロールへの送信」権限が必要です。

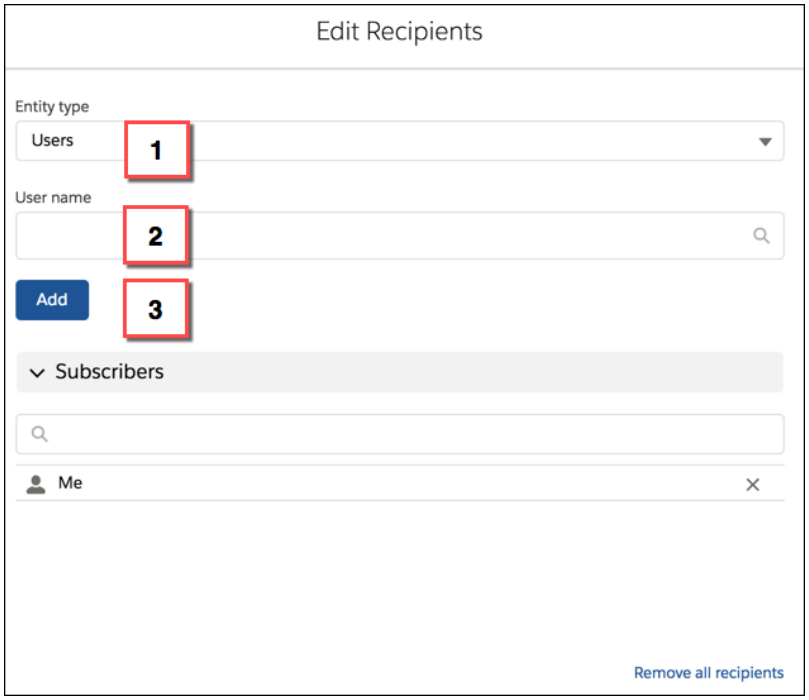
レポートに他のユーザを登録するには、「レポートの登録: グループおよびロールへの送信」ユーザ権限が必要です。レポートの登録でレポートを実行するユーザを指定するには、「レポートを登録:実行ユーザを設定」ユーザ権限が必要です。

理由: グループ登録によって、ユーザがグループに参加したりグループを離れたりしても、最新の登録者リストが維持されます。ロールベースの登録によって、ユーザのロールが変わっても、最新の登録者リストが維持されます。

方法: レポートまたはダッシュボードの登録を設定するときに [メール受信者を編集] をクリックします。



1. [エンティティ種別] で、受信者種別を選択します。
2. 入力を開始すると、選択したエンティティ種別の一致するエントリが表示され、そこから選択できます。
3. [追加] をクリックして、選択した内容を登録者のリストに追加します。



Einstein Analytics: Einstein データインサイト、金融サービステンプレートアプリケーション、コミュニティのアクションメニュー

すべてのユーザに AI を提供します。金融サービスに固有の事前作成済み分析を使用して、データからインサイトをすばやく取得します。コミュニティを離れることなく Salesforce レコードを更新します。

このセクションの内容:

設定およびデータインテグレーション:新しい Google アナリティクスコネクタ、データフロー検索条件での SAQL、イベントベースのデータフロースケジュール

Google アナリティクスコネクタを使用して、Web サイト統計を読み込みます。SAQL を使用して、対象を絞ったデータフロー検索条件を作成します。イベントベースのスケジュールを使用して、データ同期後に実行するデータフローをスケジュールします。

アプリケーションの構築:Analytics アプリケーションおよびスマートダッシュボードテンプレート、ダッシュボードページのリンク、複合グラフのカスタマイズ

新しい Analytics テンプレートを使用して、アプリケーションとダッシュボードをすばやく作成します。他のダッシュボード内のページへのリンクを使用して、アプリケーションのナビゲーションを改善します。複合グラフをカスタマイズして、基準を棒または折れ線として表示します。

Analytics インテリジェンス: Einstein データインサイト (正式リリース)、Einstein Discovery の機能強化

操作レポート内で直接 Einstein データインサイトから、AI 駆動のインサイトで何が起きたか、なぜ起きたかを把握します。Einstein Analytics 内のインテリジェンスは、新しいストーリーツールバー、ストリー作成用の行数の増加、書き戻しの改善、その他いくつかの機能強化を含む、Einstein Discovery の新機能と機能強化により利用しやすくなりました。

Analytics の拡張: コミュニティのアクションメニュー、Salesforce モバイルアプリケーションのサポートの強化

Community Cloud から離れることなく、Analytics ダッシュボードのインサイトに基づいてアクションを実行します。Salesforce モバイルアプリケーションで Analytics ダッシュボードにスムーズにアクセスできるようになりました。

エンドユーザ向け Analytics: Studio ウォークスルー、動画プレイリスト、モバイルアプリケーション

新しいウォークスルー、動画プレイリスト、より多くのアプリケーション動画など、アプリケーションに統合された学習リソースの増加により、ユーザは必要な情報を自分自身で見つけることができます。モバイルユーザには、Spring '19 リリースと同時に新しいバージョンの Analytics for iOS/Android が提供されます。

設定およびデータインテグレーション: 新しい Google アナリティクスコネクタ、データフロー検索条件での SAQL、イベントベースのデータフロースケジュール

Google アナリティクスコネクタを使用して、Web サイト統計を読み込みます。SAQL を使用して、対象を絞ったデータフロー検索条件を作成します。イベントベースのスケジュールを使用して、データ同期後に実行するデータフローをスケジュールします。

このセクションの内容:

Analytics の初回設定の確実な実行

[設定] の更新された [始めましょう] ページで、Analytics の有効化と設定がより直観的になりました。このページには、設定を完了するための各ステップと推奨アクションに関するヘルプが含まれています。

Google アナリティクスコネクタによる Analytics への Web サイト統計の取り込み

Google アナリティクスコネクタを使用して Web サイトに関するデータを取り込み、Einstein Analytics の機能を使用してデータを分析します。

接続の作成時のテスト

接続を作成または更新するときに、接続設定をテストできるようになりました。以前は、接続できないことが判明するのは接続を開始しようとしたときのみで、接続設定に戻って修正する必要がありました。

SAQL を使用したより複雑なデータフロー検索条件の作成

データフローの検索条件ノードは Salesforce Analytics Query Language (SAQL) をサポートするようになったため、より複雑な検索条件を作成してデータセット内で必要なデータのみを取得できます。SAQL には幅広い演算子があります。たとえば、値の配列、部分一致、相対日付で絞り込むことができます。

イベントベースのスケジュールを使用したデータ同期とデータフロー実行の調整

以前は、Salesforce オブジェクトのデータフローのスケジュールには計画が必要で、データ同期にかかる時間が不明な場合はやや複雑でした。今回のリリースで、データ同期の完了時にデータフローを実行するようにイベントベースのスケジュールを設定することで、推測することなくデータフローを連続して実行できるようになりました。イベントベースのスケジュールを使用して、Salesforce Local Connection の同期が完了するたびにデータフローを実行するようにスケジュールします。

スケジュールなしの通知の設定

データフローとコネクタの通知オプションに独自の領域が割り当てられるようになりました。以前は、これらのオプションはスケジュールオプション内に隠れていました。データフローメニューと接続メニューで個別の項目が作成されたため、簡単に見つけられるようになりました。

予想以上に時間がかかっているデータフローの確認

指定した期間後も実行しているデータフローを調べます。予想以上に時間がかかっているデータフローは、その後に実行するようにスケジュールされている連動データフローとレシピに影響する可能性があります。今回のリリースで、経過時間通知を設定し、データフローが長く実行されている場合に通知を受け取り、アクションを実行できるようになりました。

実行可能なデータジョブ数の増加

Analyticsでは、データフローとレシピがデータジョブとして実行されます。使用するデータが増えたときにこれらすべてのジョブを確実に実行できるように、24時間周期で実行可能なデータジョブの数を50から60に増加しました。

データセット編集ページのメタデータビューの改善

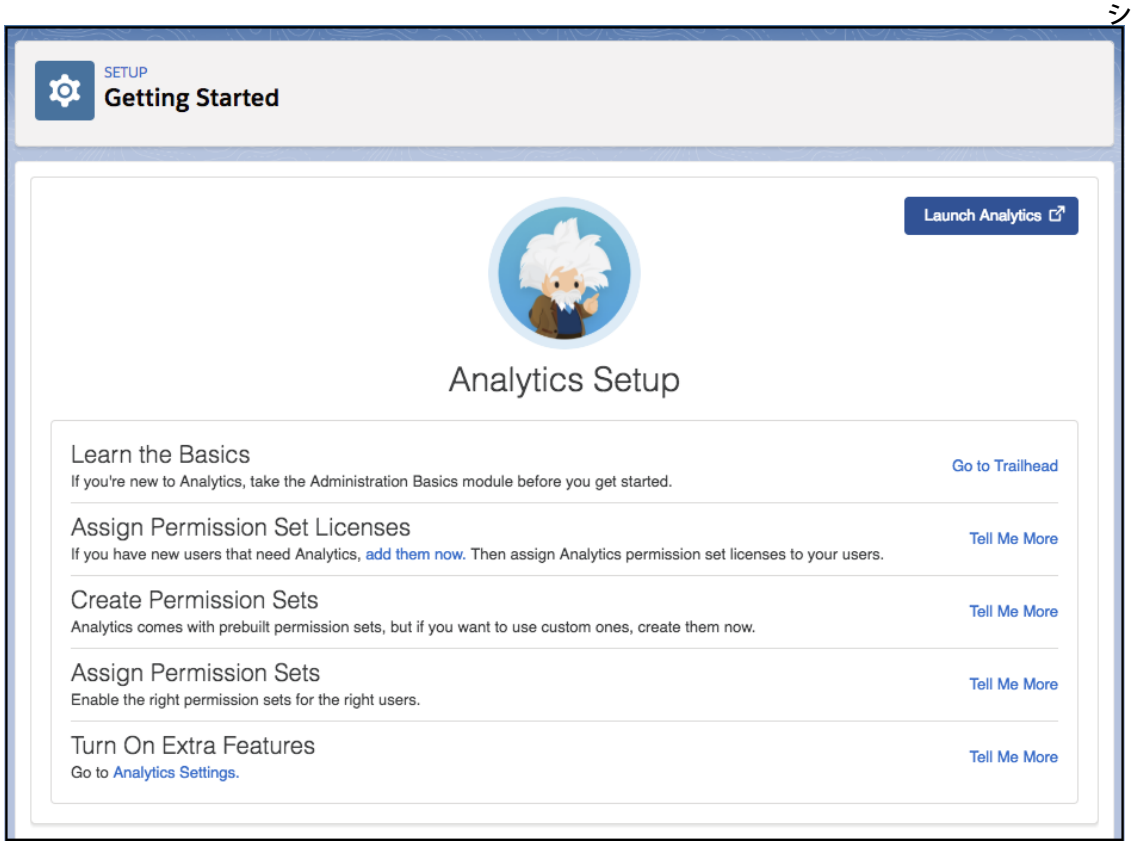
データセットの操作中に一目で完全に把握できるメタデータビューを提供するため、データセット編集ページの上部に最終クエリとサイズ情報が追加されました。この一元化に伴い、拡張メタデータファイル情報も上部に移動されました。

Analytics の初回設定の確実な実行

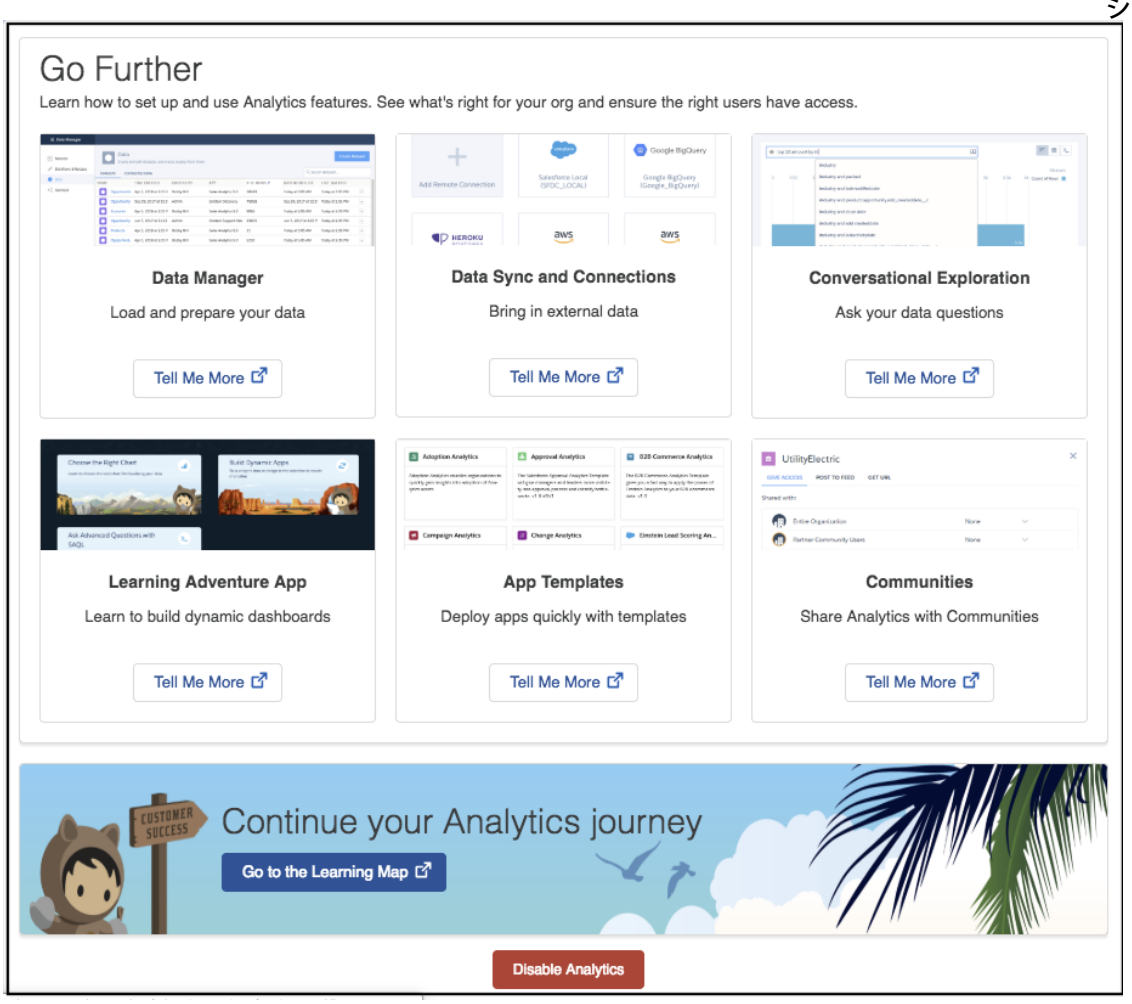
[設定]の更新された[始めましょう]ページで、Analyticsの有効化と設定がより直観的になりました。このページには、設定を完了するための各ステップと推奨アクションに関するヘルプが含まれています。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 設定手順の概要と各ステップの詳細への簡単なアクセスが含まれたこのページには、明確な設定パスが用意されています。



このページには[利用状況統計]セクションと、インストールに応じて考慮すべき追加設定オプションを示すセクションがあります。

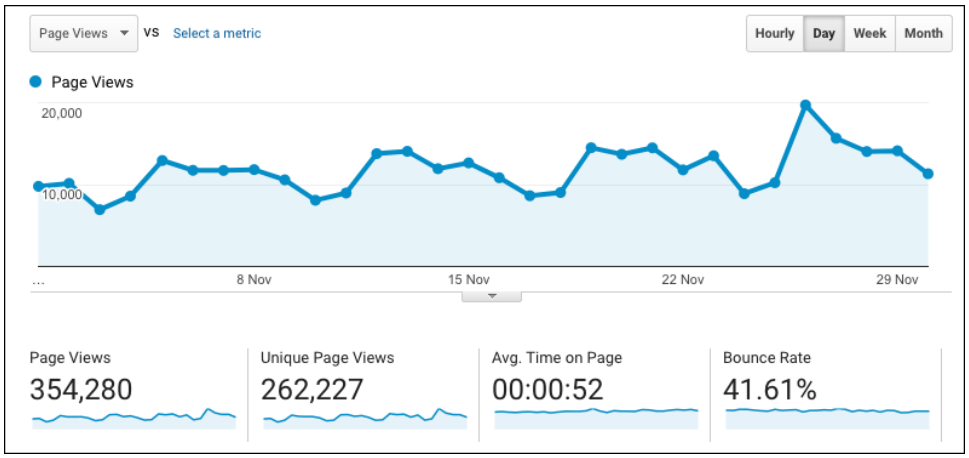


Google アナリティクスコネクタによる Analytics への Web サイト統計の取り込み

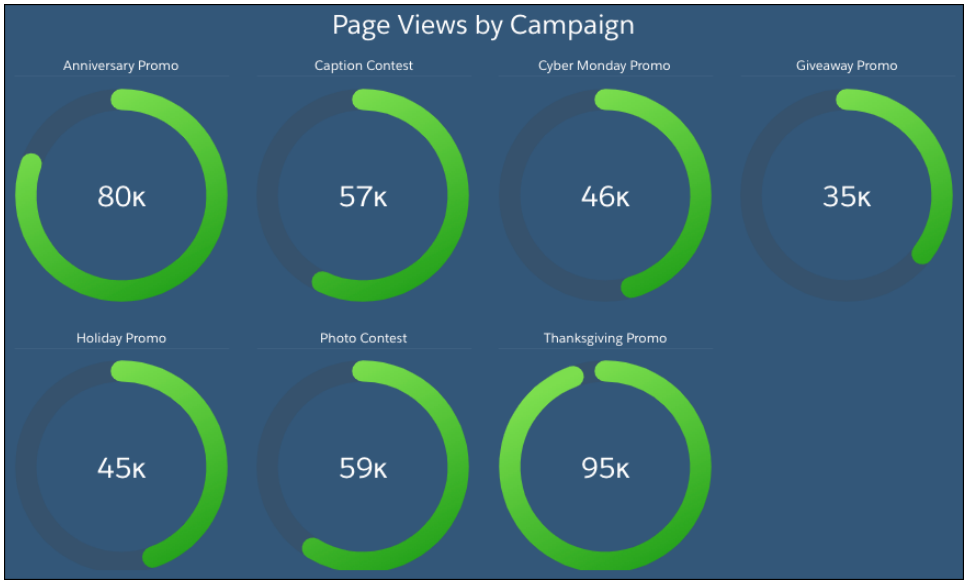
Google アナリティクスコネクタを使用して Web サイトに関するデータを取り込み、Einstein Analytics の機能を使用してデータを分析します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: Google アナリティクスを使用して訪問者による Web サイトの使用方法を追跡する場合、このデータを Analytics に取り込み、その他すべてのデータと組み合わせて分析できるようになりました。例を見てみましょう。マーケティングチームが一連のソーシャルメディアプロモーションを開始し、各プロモーションで Web サイトのページビューを追跡するとします。Google アナリティクスでのページビューレポートを次に示します。



Google アナリティクスコネクタを使用すると、このページビューデータを接続して同期し、Einstein Analytics のマーケティングデータと組み合わせることができます。



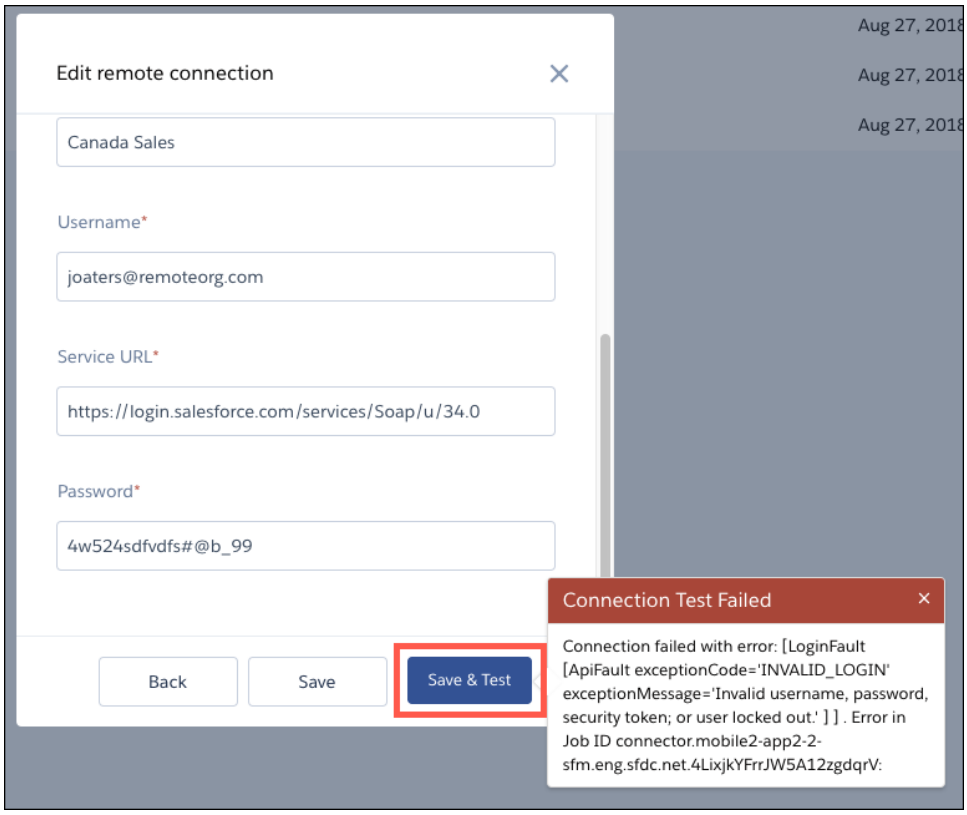
方法:データマネージャの [接続] タブで、Google アナリティクスコネクタとの接続を作成します。Google アナリティクスは、Web サイトデータをバイナリラージオブジェクト (blob) で保存します。SQL ビューを使用して blob を照会し、接続可能な 32 個の仮想オブジェクトを作成します。

接続の作成時のテスト

接続を作成または更新するときに、接続設定をテストできるようになりました。以前は、接続できないことが判明するのは接続を開始しようとしたときのみで、接続設定に戻って修正する必要がありました。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 接続を作成または更新するときに、[保存 & テスト] をクリックします。Analytics によって接続が保存され、指定した設定を使用して接続元への接続が試行されます。接続に失敗すると、考えられる理由が表示されます。



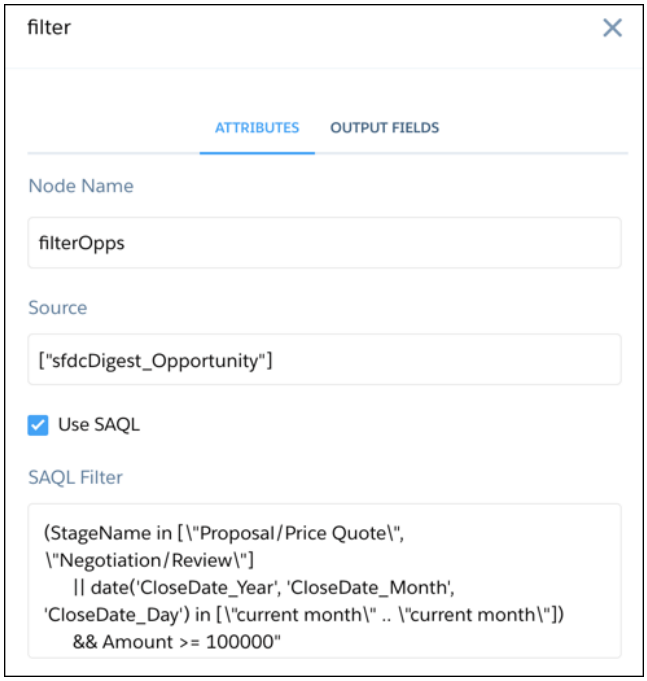
SAQL を使用したより複雑なデータフロー検索条件の作成

データフローの検索条件ノードは Salesforce Analytics Query Language (SAQL) をサポートするようになったため、より複雑な検索条件を作成してデータセット内で必要なデータのみを取得できます。SAQL には幅広い演算子があります。たとえば、値の配列、部分一致、相対日付で絞り込むことができます。

対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: データフローを作成または編集するには、「Analytics データフローの編集」権限が必要です。

方法: データフローエディタで検索条件ノードを追加するときに、デフォルトで SAQL が選択されています。たとえば、まもなく成立する大規模商談のデータセットを作成し、役員の支援が必要な場所を識別するとします。`in` 演算子を使用してこの検索条件を追加し、営業サイクルの最後の 2 フェーズにある商談を含めます。また、相対日付として `current month` を使用し、今月の成立商談を含めます。



データフロー JSON で検索条件ノードを追加する場合、`saqlFilter` パラメータを使用します。検索条件内の二重引用符を \ でエスケープします。

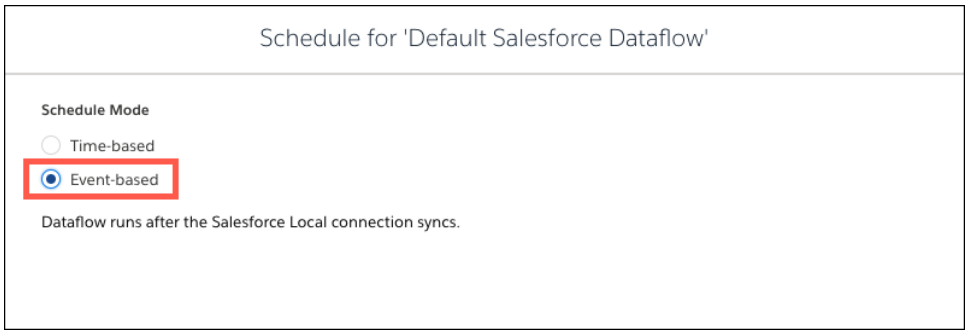
```
"filterOpps": {
    "action": "filter",
    "parameters": {
      "source": "getOpps",
      "saqlFilter": "(StageName in [\"Proposal/Price Quote\", \"Negotiation/Review\"]
      || date('CloseDate_Year', 'CloseDate_Month', 'CloseDate_Day') in [\"current month\"
 .. \"current month\"])
      && Amount >= 100000"
    }
  },
```

イベントベースのスケジュールを使用したデータ同期とデータフロー実行の調整

以前は、Salesforce オブジェクトのデータフローのスケジュールには計画が必要で、データ同期にかかる時間が不明な場合はやや複雑でした。今回のリリースで、データ同期の完了時にデータフローを実行するようにイベントベースのスケジュールを設定することで、推測することなくデータフローを連続して実行できるようになりました。イベントベースのスケジュールを使用して、Salesforce Local Connection の同期が完了するたびにデータフローを実行するようにスケジュールします。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Salesforce Local Connection の同期後にデータフローを実行するようにスケジュールするには、データフローをスケジュールするときに [イベントベース] を選択します。

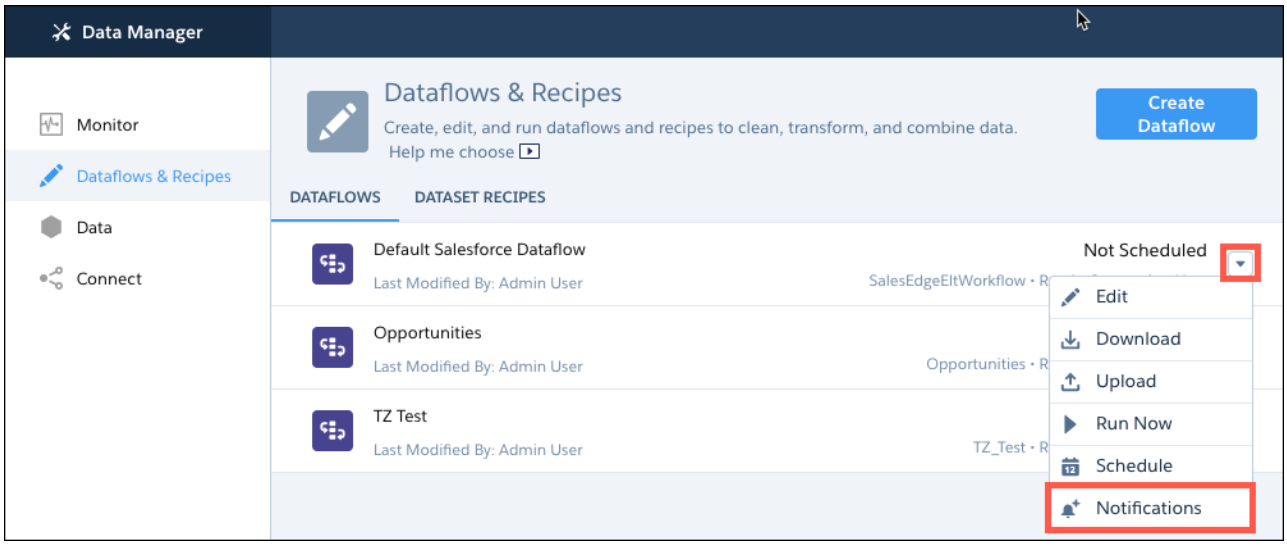


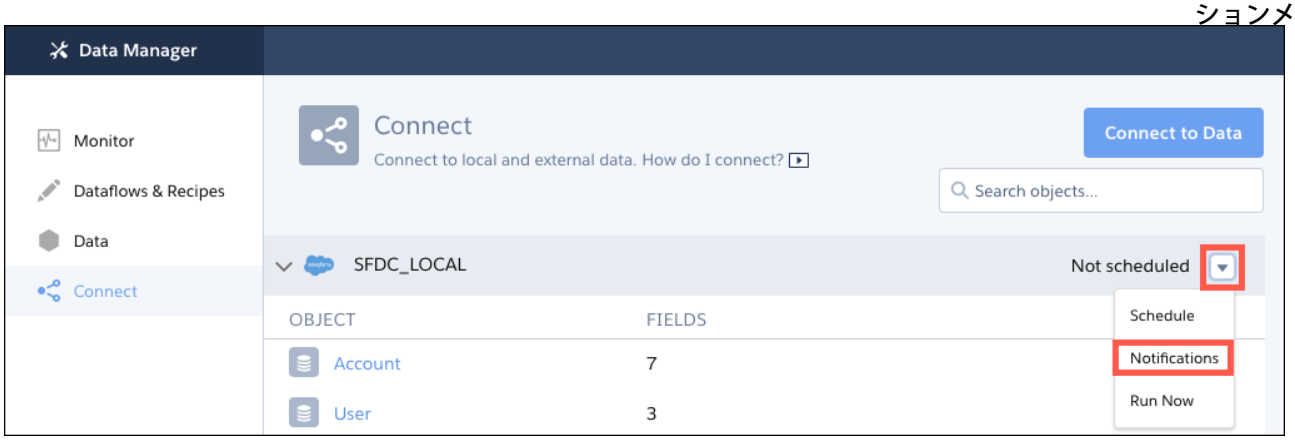
スケジュールなしの通知の設定

データフローとコネクタの通知オプションに独自の領域が割り当てられるようになりました。以前は、これらのオプションはスケジュールオプション内に隠れていました。データフローメニューと接続メニューで個別の項目が作成されたため、簡単に見つけられるようになりました。

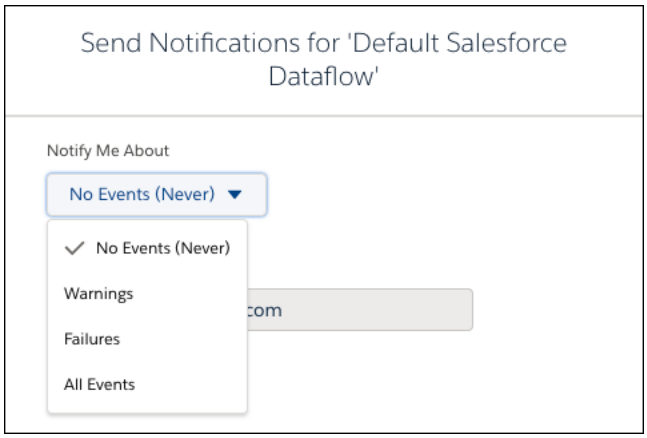
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 通知を設定するには、データフローメニューまたは接続メニューから [通知] を選択します。





通知を受ける内容を選択します。

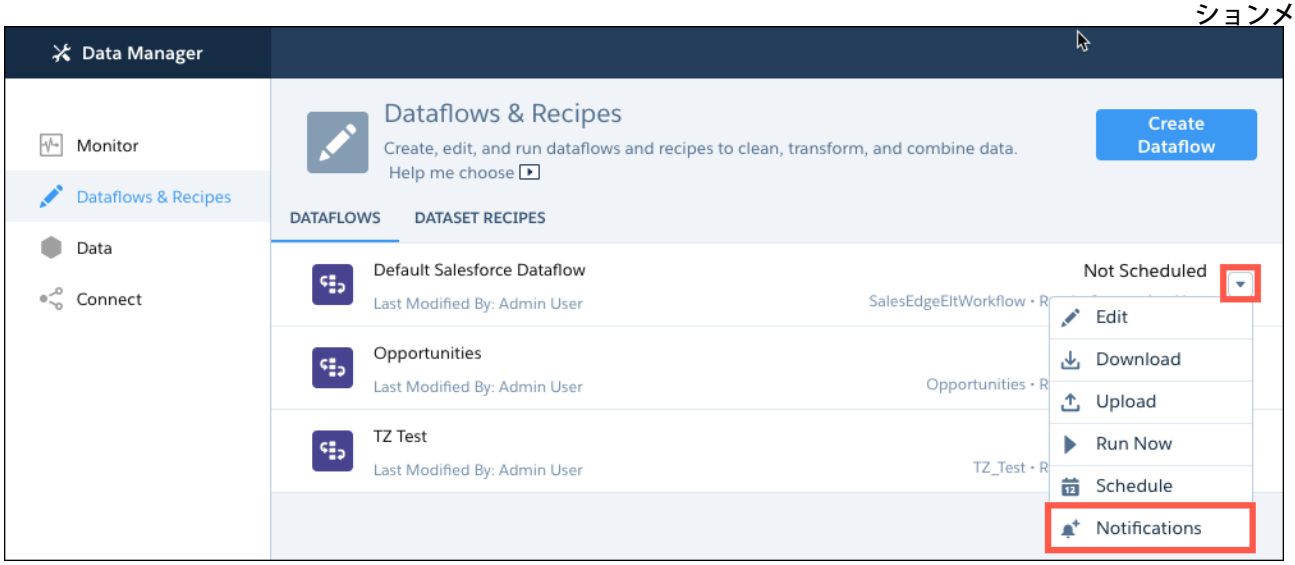


予想以上に時間がかかっているデータフローの確認

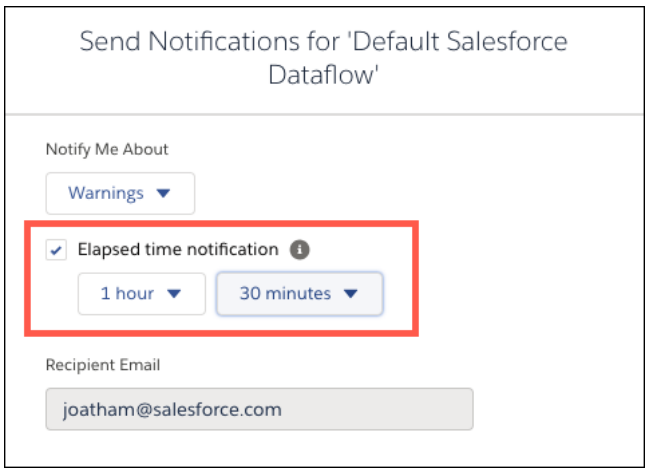
指定した期間後も実行しているデータフローを調べます。予想以上に時間がかかっているデータフローは、その後に実行するようにスケジュールされている連動データフローとレシピに影響する可能性があります。今回のリリースで、経過時間通知を設定し、データフローが長く実行されている場合に通知を受け取り、アクションを実行できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データフローの経過時間通知を設定するには、データフローのメニューから [通知] を選択します。



[経過時間通知] を選択して期間を指定します。



実行可能なデータジョブ数の増加

Analytics では、データフローとレシピがデータジョブとして実行されます。使用するデータが増えたときにこれらすべてのジョブを確実に実行できるように、24 時間周期で実行可能なデータジョブの数を 50 から 60 に増加しました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

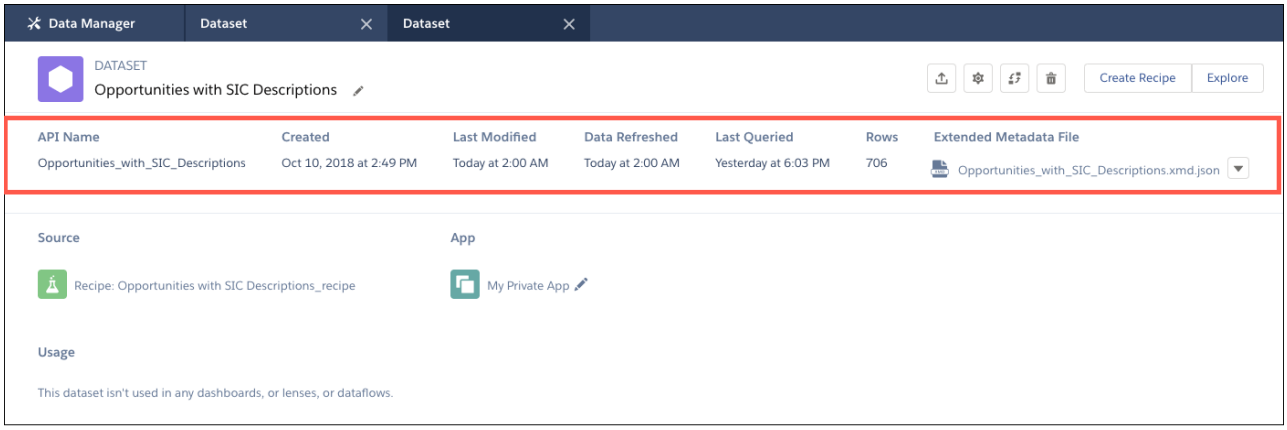
時期: この 24 時間のデータジョブ制限の増加は、Spring '19 リリース時にローリング方式でリリースされます。

データセット編集ページのメタデータビューの改善

データセットの操作中に一目で完全に把握できるメタデータビューを提供するため、データセット編集ページの上部に最終クエリとサイズ情報が追加されました。この一元化に伴い、拡張メタデータファイル情報も上部に移動されました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: データセットを編集するときに、更新されたメタデータセクションが表示されます。



アプリケーションの構築: Analytics アプリケーションおよびスマートダッシュボードテンプレート、ダッシュボードページのリンク、複合グラフのカスタマイズ

新しい Analytics テンプレートを使用して、アプリケーションとダッシュボードをすばやく作成します。他のダッシュボード内のページへのリンクを使用して、アプリケーションのナビゲーションを改善します。複合グラフをカスタマイズして、基準を棒または折れ線として表示します。

このセクションの内容:

Analytics ジャーニーをすぐに開始可能なテンプレートからのアプリケーションの作成

Analytics テンプレートを使用すると、数回クリックするだけでビジネスに適した Analytics アプリケーションを作成できます。公共セクタのケース管理、環境維持、および金融サービスが必要な顧客向けテンプレートが最初に提供され、その他多くのテンプレートも続いて提供されます。

スマートダッシュボードテンプレートを使用した視覚化の迅速な作成

最新のスマートテンプレートを使用して、時系列で総計値の変化を視覚化し、履歴データに基づいて将来の総計値トレンドを予測する、既成のダッシュボードを作成します。

アプリケーションおよびダッシュボードテンプレートピッカーによる目的の対象の検索

増え続ける多数のテンプレートをスクロールする代わりに、テンプレートピッカーの検索機能を使用します。

他のダッシュボードのページへのリンク

他のダッシュボードの特定のページへのリンクを使用して、ダッシュボード閲覧者が移動する必要のあるページに直接移動させることができます。以前は、そのダッシュボード自体へのリンクしかできなかったため、閲覧者は目的のページに移動する方法を自分で見つける必要がありました。今回のリリースで、ダッシュボードの特定のページにリンクできるようになりました。

棒、折れ線、および積み上げを使用した複合グラフのカスタマイズ

複合グラフおよび時間複合グラフでは、以前は最初の基準が棒として表示され、その後の基準が折れ線として表示されていました。今回のリリースで、基準を折れ線と棒のどちらで表示するか選択できるようになりました。すべての棒を積み上げて、全体の一部を表示して比較することもできます。

派生ディメンション値のカスタマイズ

JSON を使用せずに、派生ディメンション値の表示ラベルと色をカスタマイズできます。エクスプローラから直接、値に新しい表示ラベルを割り当てて色を適用します。ディメンションを使用するときのユーザエクスペリエンスに合わせて、ディメンションをカスタマイズするインターフェースも更新されました。ディメンション値をカスタマイズするときに、レンズで同じ使いやすいインターフェースが表示されるようになりました。

エクスプローラからの将来の売上予測

最終損益を最大化して損失を最小化するには、業務経費を計画して売上を予測する必要があります。`timeseries` 関数を比較テーブル数式エディタで使用できるようになったため、それらの数値をすばやく予測できます。

Einstein Analytics Classic デザイナの廃止の計画

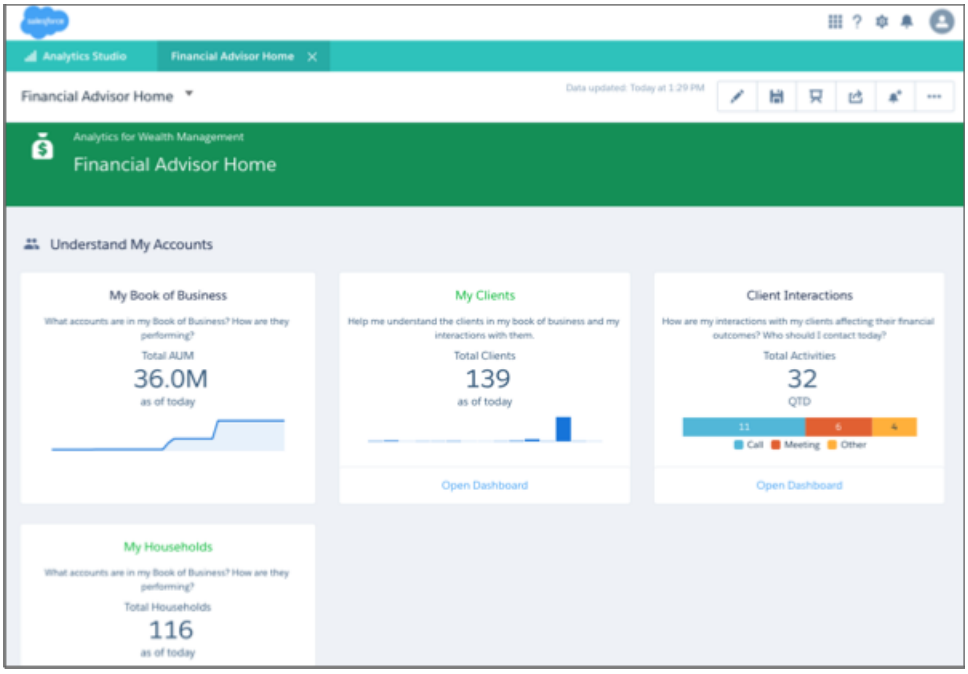
Classic デザイナは、2019 年 7 月にすべての Salesforce 組織で廃止される予定です。Winter '19 以降、Classic デザイナでダッシュボードを作成することはできませんが、編集することはできます。

アプリケーションの構築のその他の機能強化

積み上げ横棒の合計を表示します。切り替えウィジェットで選択されたタブをスタイル設定します。エクスプローラとダッシュボードデザイナのその他の軽微な変更について説明します。

Analytics ジャーニーをすぐに開始可能なテンプレートからのアプリケーションの作成

Analytics テンプレートを使用すると、数回クリックするだけでビジネスに適した Analytics アプリケーションを作成できます。公共セクタのケース管理、環境維持、および金融サービスが必要な顧客向けテンプレートが最初に提供され、その他多くのテンプレートも続いて提供されます。



対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

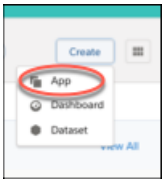
対象ユーザ: テンプレートから Einstein Analytics アプリケーションを作成するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。一部のテンプレートには、各テンプレートのヘルプページで指定されている追加の Salesforce ライセンスが必要です。

理由: Analytics テンプレートを使用すると、Salesforce データに基づいて事前作成済みアプリケーションを作成することで、Analytics ソリューションの構築をすばやく開始できます。アプリケーションには、そのまま使用してアクション可能なインサイトをすぐに取得したり、ビジネスに固有のニーズに合わせてカスタマイズしたりできるダッシュボードが含まれています。直観的な Analytics プラットフォーム機能で独自の視覚化を作成するために使用できる、Analytics データセットも提供されます。

テンプレートには、業種や事業部門全体で必要な既成の Analytics ソリューションが用意されています。

- Case Management Analytics は、公共セクタ組織が社会福祉サービスの提供プログラムを把握するために役立ちます。ケースワーカーはケースとクライアントを追跡して、優先度とパフォーマンスに関するインサイトを取得できます。マネージャは、チームのワークフロー、バックログ、および組織とプログラムの有効性をすぐに表示できます。
- 一連の Analytics アプリケーションで構成される Financial Services Analytics は、ファイナンシャルアドバイザーがクライアントのゴールと満足度、リード、および紹介に関するインサイトを使用して、クライアントリストを管理できます。マネージャは、アプリケーションの既成のダッシュボードとデータセットを使用して、個人と地域のパフォーマンスを確認および評価できます。
- Sustainability Analytics は環境フットプリントの管理に役立ち、環境会計と財務会計を連携させます。エネルギー消費や炭素排出量を含む、投資家レベルの環境影響データを測定し、レポートを作成して開示するためのダッシュボードが含まれます。

カテゴリ	テンプレート
業種テンプレート	• B2B Commerce Analytics • B2B Marketing Analytics • Financial Client Segmentation Analytics • Einstein Analytics for Veeva • Health Cloud Analytics • Financial Services Analytics • Fundraising Analytics • Public Sector Analytics • Retail Banking Analytics
事業部門テンプレート	• Campaign Analytics • Field Service Analytics • Lead Trending Analytics • Multi-Org Sales Analytics • Pricing Analytics • Quoting Analytics • Sales Analytics • Service Analytics • Social Case Analytics • Subscription Analytics • Sustainability Analytics
アナリストの生産性テンプレート	• Adoption Analytics • Approval Analytics • Change Analytics • Event Monitoring Analytics • Pipeline Analytics • Snapshot Analytics

方法: Analytics Studio **に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション]** 

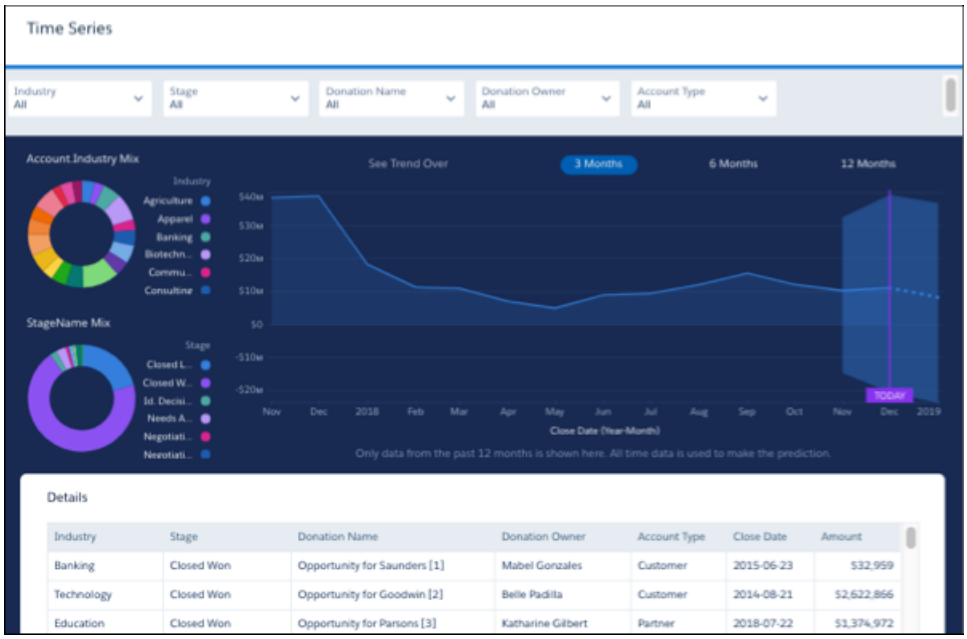
を選択します。次に [テンプレートから開始] をクリックします。



テンプレートピッカーをスクロールするか[検索]項目を使用して、使用するテンプレートを選択します。設定ウィザードに従ってプロセスの残りの手順を進めます。

スマートダッシュボードテンプレートを使用した視覚化の迅速な作成

最新のスマートテンプレートを使用して、時系列で総計値の変化を視覚化し、履歴データに基づいて将来の総計値トレンドを予測する、既成のダッシュボードを作成します。



対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

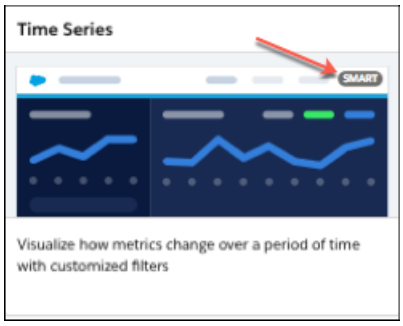
対象ユーザ: スマート Analytics ダッシュボードテンプレートまたは SAQL timeseries 機能を使用するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。

理由: スマートテンプレートは、設定ウィザードで設定した個人設定に従って既存のデータセットを使用し、自動的に Analytics ダッシュボードを作成します。ウィジェットの選択と位置決め、ステップの作成、検索条件の追加、JSON の記述、通常の手動によるダッシュボードの作成作業の実行は必要ありません。Analytics がそれらすべてを行います。

一般的な分析のニーズに対応できるさまざまなスマートテンプレートが構築されています。最新のテンプレートは次のとおりです。

- **TimeSeries:** 履歴データに基づいた将来の総計値トレンドが表示されます。データセット、ディメンション、基準を選択してダッシュボードに含めると、Analytics によって残りの作業が行われます。SAQL を 1 行も記述することなく、SAQL timeseries 機能を使用できます。または、SAQL なしでダッシュボードを作成します。
- **Table Expansion:** ウィザードの選択に基づいてカスタマイズされた検索条件を使用して、時系列で総計値の変化を視覚化します。ダッシュボードの詳細テーブルがページ全体に拡張されるため、完全なデータをすばやく確認できます。

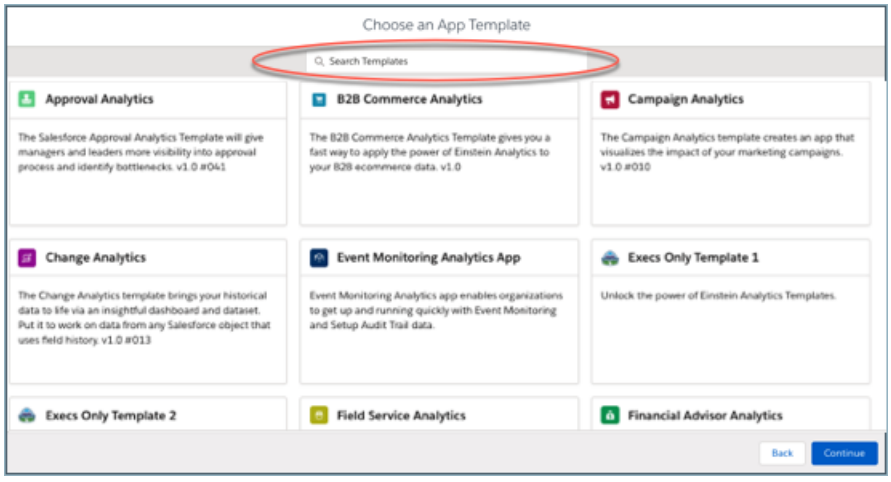
方法: Analytics Studio で、[作成] | [ダッシュボード] を選択します。次に、[テンプレートからダッシュボード] をクリックして「SMART」とマークされたテンプレートを探すか検索を使用し、目的のテンプレートを選択します。



設定ウィザードに従ってプロセスの残りの手順を進めます。

アプリケーションおよびダッシュボードテンプレートピッカーによる目的の対象の検索

増え続ける多数のテンプレートをスクロールする代わりに、テンプレートピッカーの検索機能を使用します。



対象: この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ:テンプレートから Einstein Analytics アプリケーションおよびダッシュボードを作成するには、Analytics Platform ライセンスが必要です。一部のアプリケーションテンプレートには、ヘルプで指定されている追加 Salesforce ライセンスが必要です。

他のダッシュボードのページへのリンク

他のダッシュボードの特定のページへのリンクを使用して、ダッシュボード閲覧者が移動する必要のあるページに直接移動させることができます。以前は、そのダッシュボード自体へのリンクしかできなかったため、閲覧者は目的のページに移動する方法を自分で見つける必要がありました。今回のリリースで、ダッシュボードの特定のページにリンクできるようになりました。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:他のダッシュボードのページにリンクするには、リンク先ダッシュボードを選択し、[ページを指定] をクリックしてページを選択します。[ページを指定]オプションは、複数のページがあるダッシュボードにのみ表示されます。

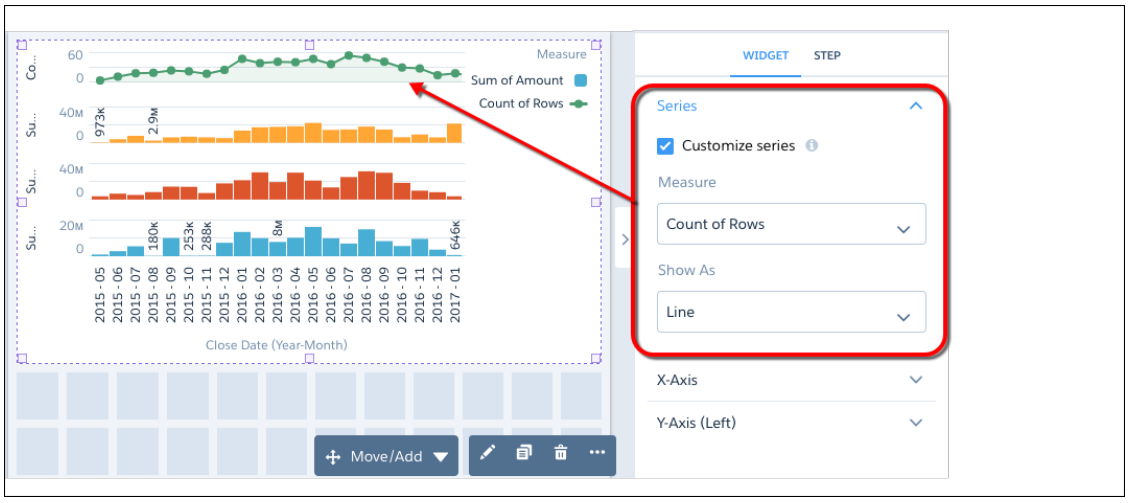


棒、折れ線、および積み上げを使用した複合グラフのカスタマイズ

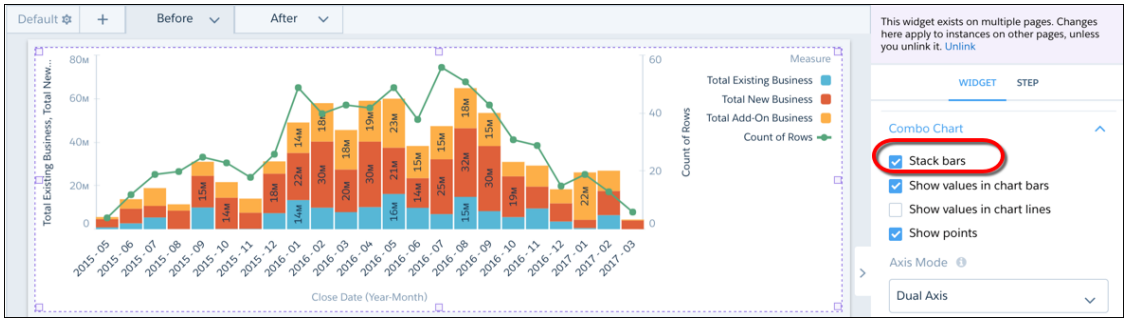
複合グラフおよび時間複合グラフでは、以前は最初の基準が棒として表示され、その後の基準が折れ線として表示されていました。今回のリリースで、基準を折れ線と棒のどちらで表示するか選択できるようになりました。すべての棒を積み上げて、全体の一部を表示して比較することもできます。

対象:この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:ウィジェットのプロパティの [定期的な行動] セクションで各基準を選択し、それを棒または折れ線で表示します。



すべての棒を積み上げるには、複合グラフの [複合グラフ] セクションまたは時間複合グラフの [時間複合グラフ] の [積み上げ横棒] を選択します。



メモ: 積み上げ横棒オプションは、[軸モード] が [小さい複数] ではなく [単一軸] または [二軸] に設定されている場合に使用できます。

派生ディメンション値のカスタマイズ

JSON を使用せずに、派生ディメンション値の表示ラベルと色をカスタマイズできます。エクスプローラから直接、値に新しい表示ラベルを割り当てて色を適用します。ディメンションを使用するときのユーザエクスペリエンスに合わせて、ディメンションをカスタマイズするインターフェースも更新されました。ディメンション値をカスタマイズするときに、レンズで同じ使いやすいインターフェースが表示されるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 派生ディメンションの表示ラベルまたは色をカスタマイズするには、[項目] パネルで、派生ディメンションの横にあるメニューコントロール (v) をクリックします。[値の編集] をクリックします。派生ディメンションの表示ラベルを変更するには、その派生ディメンションをクリックして新しい名前を入力します。値に色を割り当てるには、パレットから色を選択するか、カスタマイズされた色を作成します。

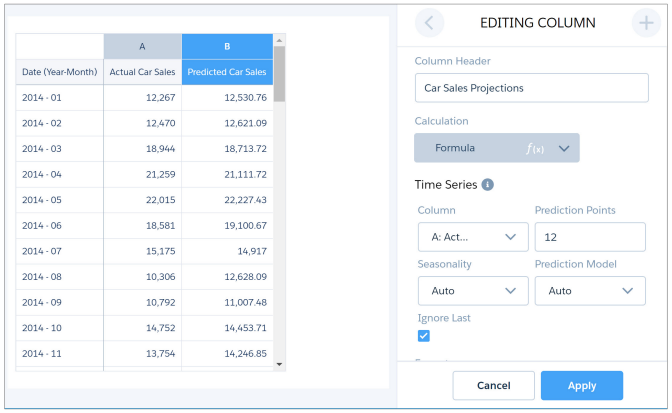
エクスプローラからの将来の売上予測

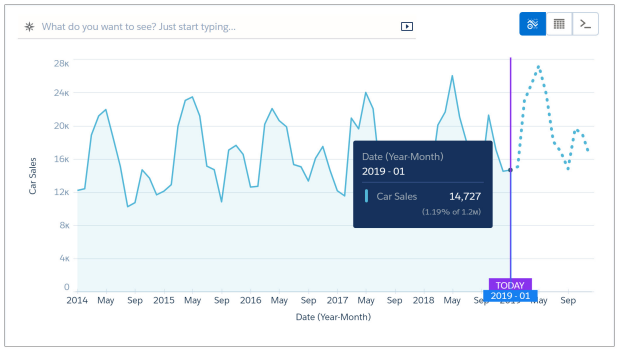
最終損益を最大化して損失を最小化するには、業務経費を計画して売上を予測する必要があります。`timeseries` 関数を比較テーブル数式エディタで使用できるようになったため、それらの数値をすばやく予測できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: エクスプローラで `timeseries` 関数を使用するには、Analytics Growth または Analytics Plus ライセンスが必要です。

理由: `timeseries` 関数を使用して既存のデータに最適なアルゴリズムを適用し、将来の予測を行います。データに最適な季節性および予測モデルが自動的に選択されます。プロットする予測ポイントの数を指定し、季節データと現在のデータを含めるか無視するかを選択できます。





方法: 少なくとも 2 つの基準と 1 つの時間ベースのディメンションを含むレンズに `timeseries` 関数を適用できます。比較テーブルで、売上予測に使用する列を選択します。予測ポイントの数を設定し、適用する予測モデルを指定します。季節データと最新の期間のデータを含めるかどうかを選択します。完了したら、[適用]をクリックします。

Einstein Analytics Classic デザイナの廃止の計画

Classic デザイナは、2019 年 7 月にすべての Salesforce 組織で廃止される予定です。Winter '19 以降、Classic デザイナでダッシュボードを作成することはできませんが、編集することはできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 今すぐ Classic デザイナを新しいダッシュボードデザイナに変換することをお勧めします。詳細は、「Classic Designer ダッシュボードのダッシュボードデザイナへの変換」を参照してください。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: Einstein Analytics Classic ダッシュボードの廃止

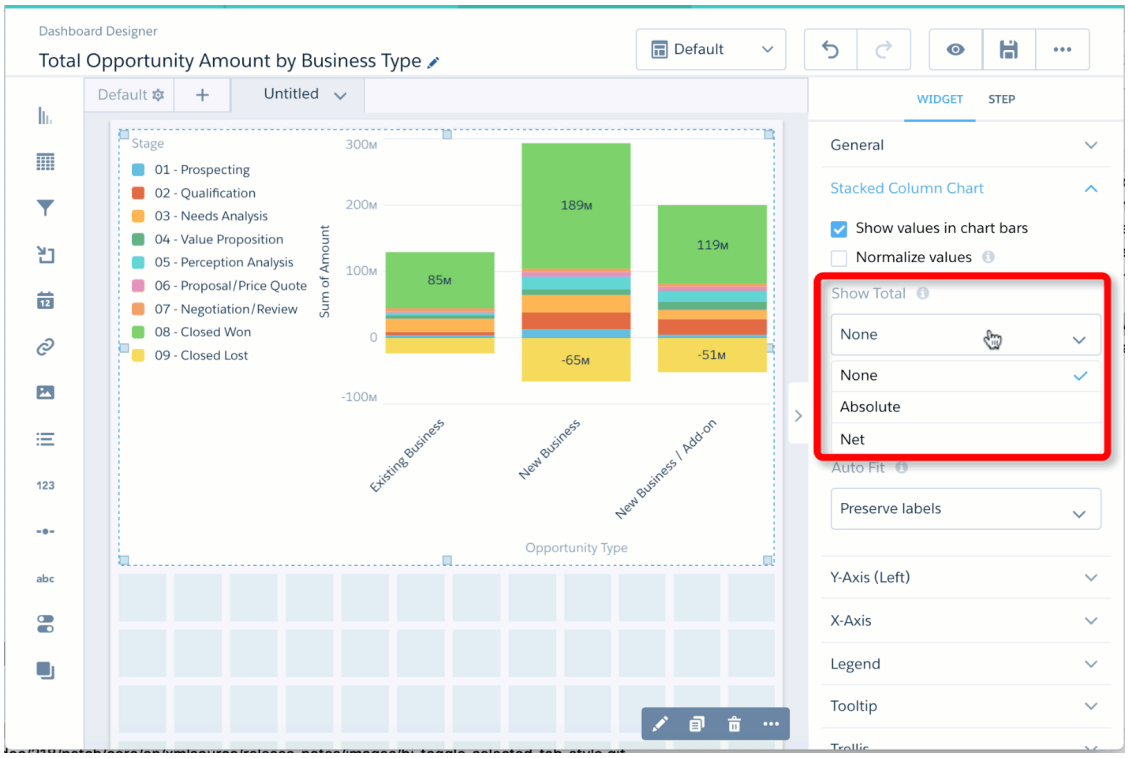
アプリケーションの構築のその他の機能強化

積み上げ横棒の合計を表示します。切り替えウィジェットで選択されたタブをスタイル設定します。エクスプローラとダッシュボードデザイナのその他の軽微な変更について説明します。

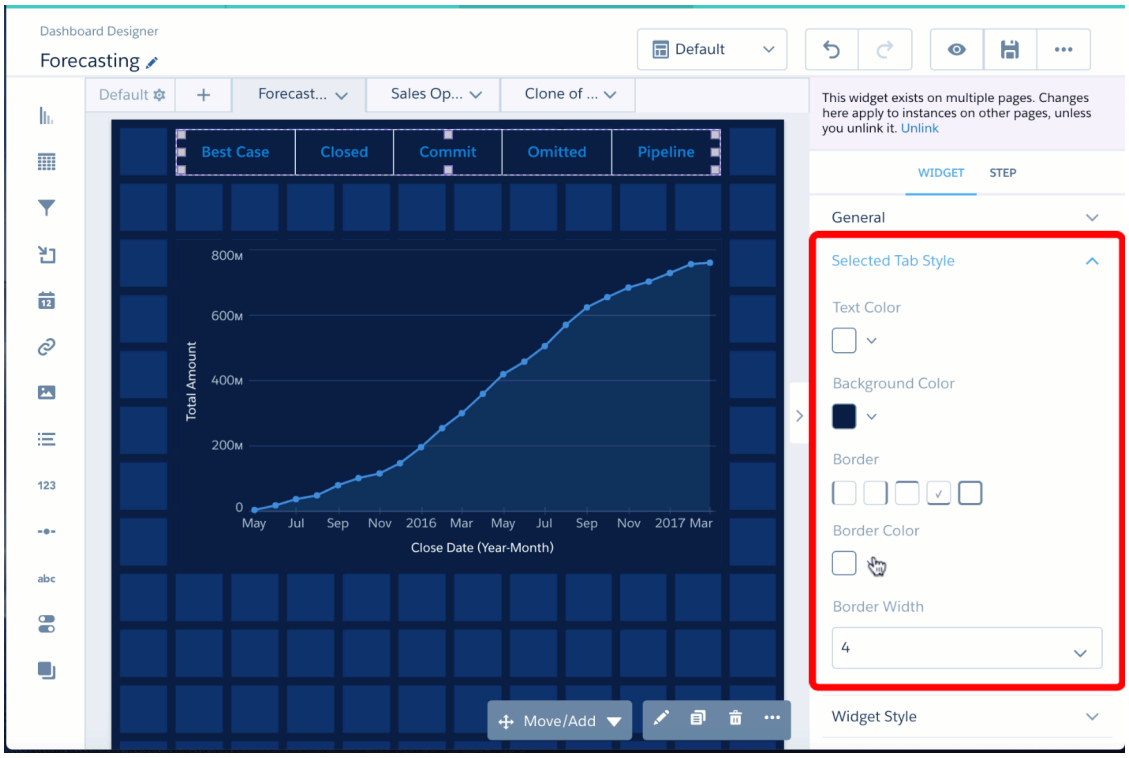
対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: これらの機能強化により、Analytics アプリケーションを構築しやすくなります。

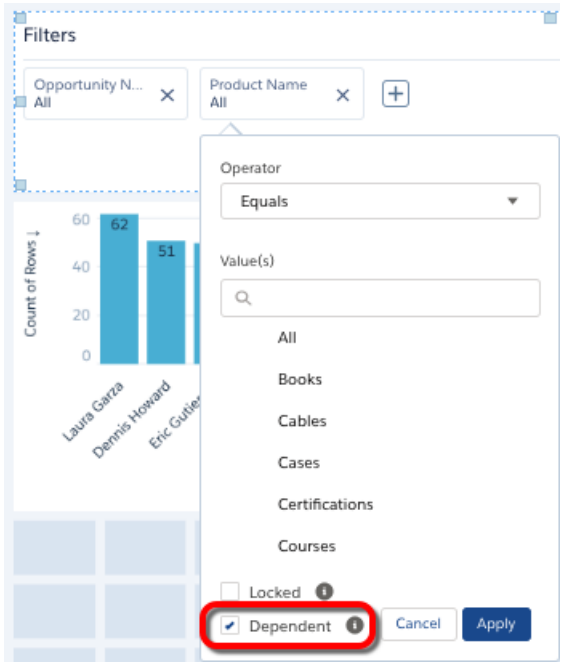
積み上げ横棒の合計: 積み上げ横棒および積み上げ縦棒グラフで各棒の合計を表示します。合計から負の値を減算するには、[正価] を選択します。負の記号を無視して絶対値を追加するには、[絶対] を選択します。



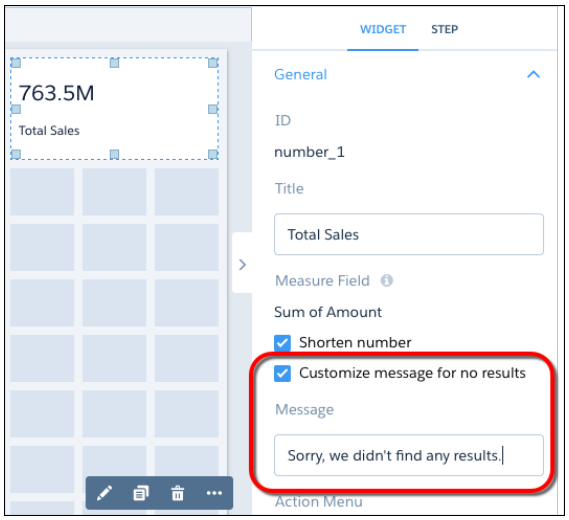
切り替えでの選択されたタブのスタイル設定: 一意のスタイルを適用して、切り替えウィジェットでどのタブが選択されているかを見やすくします。



連動グローバル検索条件:複数のグローバル検索条件を適用して結果が返されなかったことはありませんか?この問題を解決するには、連動グローバル検索条件を使用します。グローバル検索条件を追加するときに、[連動]を選択して他のグローバル検索条件の選択内容に基づいて選択リスト値を制限します。このオプションは、同じデータセットまたは接続されたデータソースを使用するグローバル検索条件に適用されます。たとえば、[商談名] グローバル検索条件で商談を選択します。選択された商談で販売された商品のみが [商品名] グローバル検索条件選択リストに表示されます。

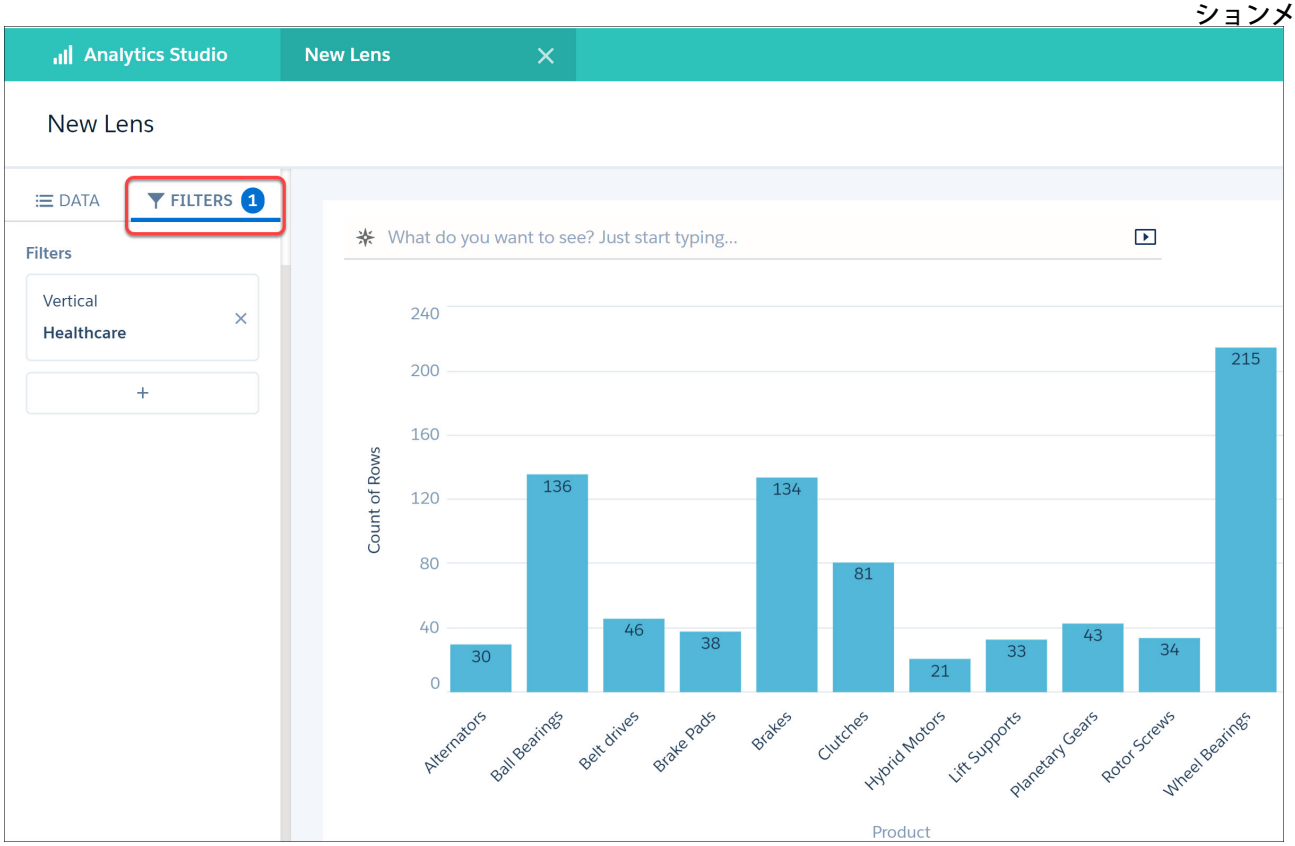


数値ウィジェットで結果が見つからなかった場合のカスタムメッセージ: 結果が見つからなかった場合に表示されるメッセージをカスタマイズします。デフォルトメッセージは「該当する結果がありません。」です。



グラフ内の細い棒の選択の簡易化: 細い棒の周りにパディングが追加され、簡単にマウスポインタを置いて選択できるようになりました。この変更は、横棒、縦棒、複合、ピラミッド、時間複合、および滝グラフの種類に適用されます。

新しい [検索条件] ペイン: [検索条件] ペインにアクセスするために、すべてのデータ項目の最後までスクロールする必要がなくなりました。多くの場合データ探索には検索条件の操作が伴うため、画面内に検索条件独自の領域を用意しました。これにより、今までと同じすべての優れた機能によりすばやくアクセスできます。



Analytics インテリジェンス: Einstein データインサイト (正式リリース)、Einstein Discovery の機能強化

操作レポート内で直接 Einstein データインサイトから、AI 駆動のインサイトで何が起きたか、なぜ起きたかを把握します。Einstein Analytics 内のインテリジェンスは、新しいストーリーツールバー、ストリー作成用の行数の増加、書き戻しの改善、その他いくつかの機能強化を含む、Einstein Discovery の新機能と機能強化により利用しやすくなりました。

このセクションの内容:

- Einstein データインサイトによるレポートからの詳細情報の取得 (正式リリース)
  Einstein データインサイトはレポートが AI で拡張され、データに関する新しい有益なインサイトを取得するために役立ちます。
- 2 倍の行制限による分析可能なデータの増加
  Einstein Discovery は、最大 2 千万行の Einstein Analytics データセットからストーリーを作成できます。
- 追加分析用のストーリーのエクスポート
  データサイエンティストが各自の言語でモデルを分析およびカスタマイズできるように、ストーリーを R にエクスポートします。ストーリーを Quip にエクスポートし、チームのビジネスユーザと共有します。

Salesforce オブジェクトへの簡単なモデルのリリース

モデルと Salesforce オブジェクト間で項目を対応付けて、コードを記述せずに必要なおすすめと予測を取得できます。

Einstein データインサイトによるレポートからの詳細情報の取得 (正式リリース)

Einstein データインサイトはレポートが AI で拡張され、データに関する新しい有益なインサイトを取得するために役立ちます。

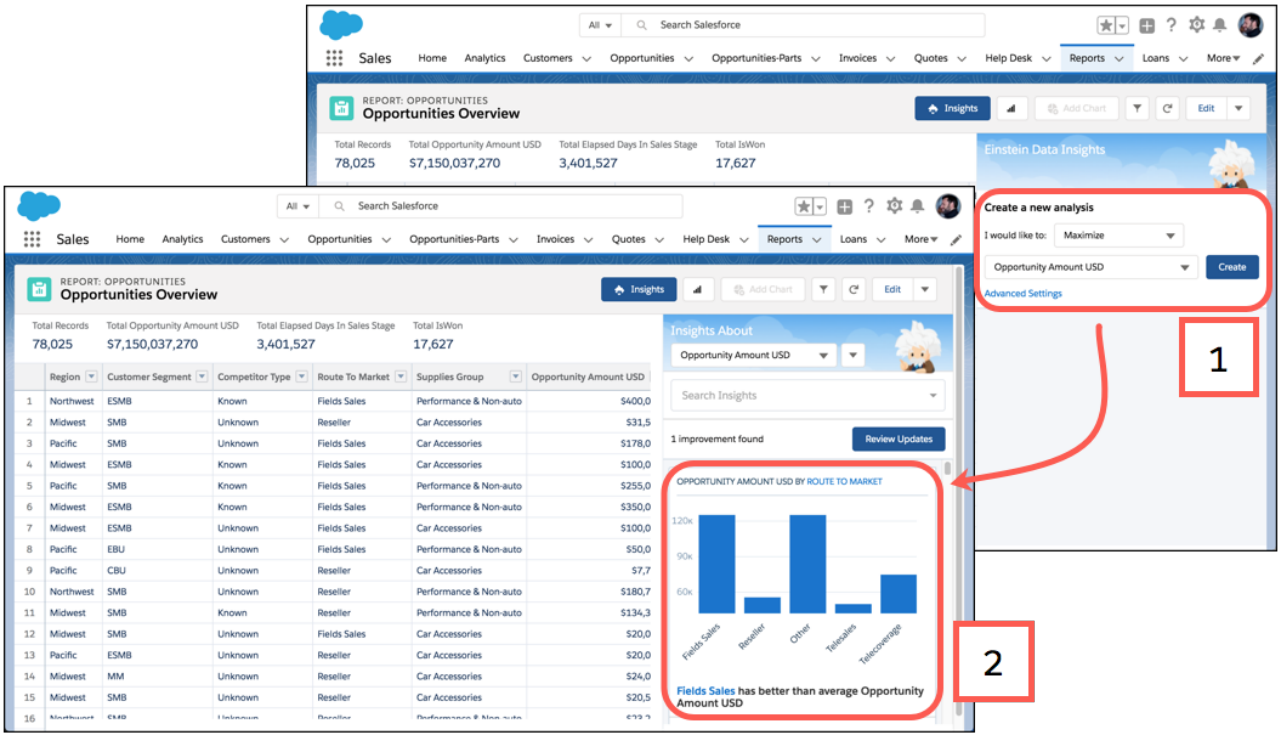
対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics および Einstein データインサイトは、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。Developer Edition でも使用可能。

対象ユーザ: インサイトを表示するには、Einstein Analytics Plus ライセンスに含まれる「Einstein データインサイトの実行」ユーザ権限が必要です。

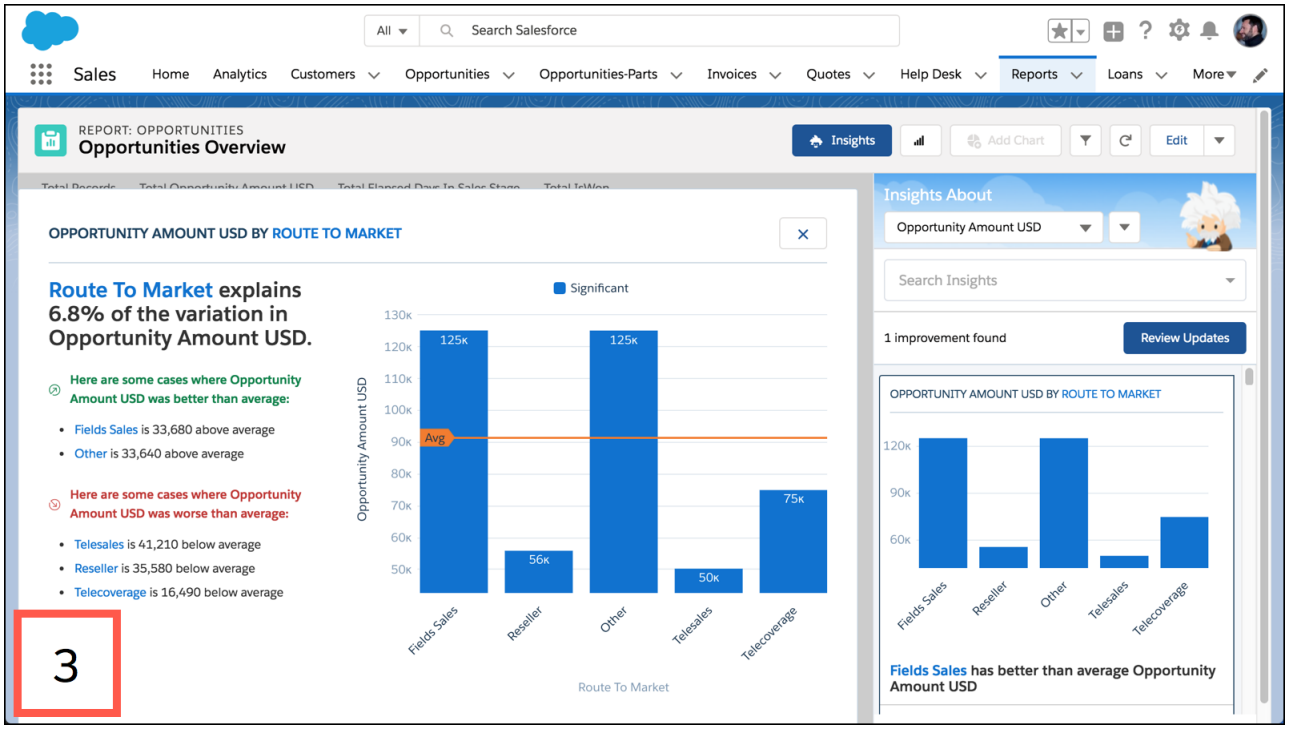
理由: レポートにはデータが表示されますが、データは何を意味しているのでしょうか?もう疑問に思う必要はありません。Einstein データインサイトを導入し、スマートなレポートを手に入れましょう。Einstein ではレポートデータが分析されて、要点、比較、およびトレンドが、洞察に満ちたグラフと総計値でまとめられます。ワンクリックでデータサイエンスを実現します。

たとえば、商談金額の最大化に関心がある場合、Einstein データインサイトの分析が役立ちます。

方法: 商談レポートの Einstein データインサイトでレポートデータを分析するには、レポートの実行後に [インサイト] をクリックします。Einstein データインサイトの目標を指定します。



商談金額の最大化に関心があることを Einstein に伝えましょう (1)。[作成] をクリックすると、商談金額がいつ最大化されているかが表示されます。[Route to Market (市場へのルート)] が [Field Sales (外勤営業)] の場合、[商談金額] は平均よりも高くなっています (2)。



[商談 金額] の分散理由を確認するには、インサイトカード (3) をクリックします。

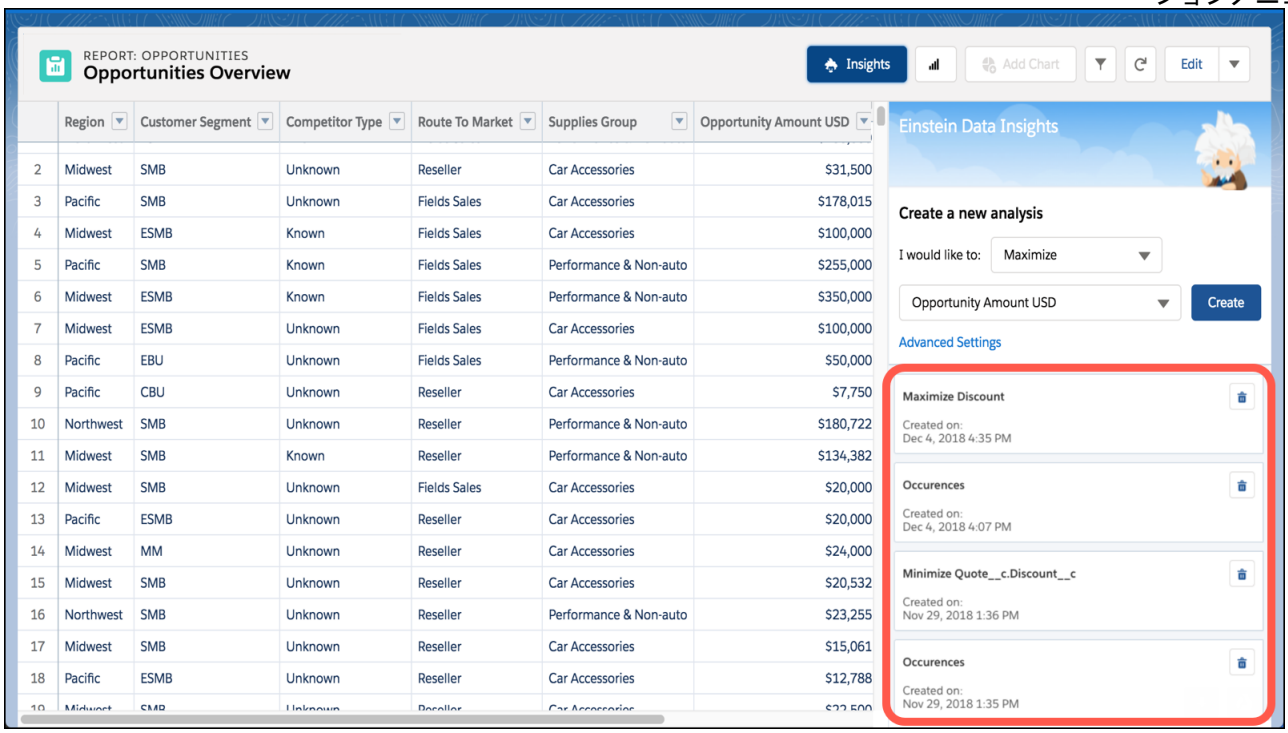
データを探索するために Einstein データインサイトでできる他のことをいくつかご紹介します。

- ストーリーのインサイト (結果変数) を変更する。
- データを絞り込んで特定のインサイトに集中する。
- インサイトの関連性が高くなるようにデータを改善する。
- インサイトリストをスクロールして、関心のあるインサイトを探す。
- インサイトをクリックして展開する。
- グラフの区分やハイパーリンクにマウスポインタを置いてその詳細を表示し、関心のあるインサイトについて詳しく知る。

Einstein データインサイトが正式リリースされたため、これらの機能と機能強化を使用できます。

Einstein データインサイト分析の保存と取得

Einstein データインサイトで実行された分析は自動的に保存されます。レポートで Einstein データインサイトを次回実行したときに、保存された分析のリストが表示されます。分析からすばやくインサイトを表示するには、分析をクリックします。



出現頻度の分析

何に焦点を絞るかを尋ねられたときに、[出現数] を選択します。出現数ベースの分析は、各曜日のケース申請数を知りたい場合などに役立ちます。

Insights のクリックによる Einstein データインサイトの実行

Einstein データインサイトを実行するためにクリックするボタンの名前が変更されました。以前の表示ラベルは [Einstein データインサイト] でした。この表示ラベルが [インサイト] に変更されました。

関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

2 倍の行制限による分析可能なデータの増加

Einstein Discovery は、最大 2 千万行の Einstein Analytics データセットからストーリーを作成できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics と Einstein Discovery は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで使用可能です。また、Developer Edition でも使用可能です。

対象ユーザ: ストーリーを作成するには、Einstein Analytics Plus ライセンスに含まれる「述語でデータセットのストーリーを作成可能」ユーザ権限が必要です。

理由: より大きいデータセットを処理できるため、選択するデータの柔軟性が高まります。より大きいデータセットで作成されたストーリーでは、ビジネスに影響を与えている要素に関するより深いインサイトを取得し、将来のビジネス成果の予測の改善できます。

方法: ストーリーを作成するには、データセットのドロップダウンメニューから **[Create Story (ストーリーを作成)]** を選択します。

関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

追加分析用のストーリーのエクスポート

データサイエンティストが各自の言語でモデルを分析およびカスタマイズできるように、ストーリーをRにエクスポートします。ストーリーを Quip にエクスポートし、チームのビジネスユーザと共有します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics と Einstein Discovery は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで使用可能です。また、Developer Edition でも使用可能です。

対象ユーザ: ストーリーをエクスポートするには、Einstein Analytics Plus ライセンスに含まれる「**Einstein Discovery** ストーリーを共有」ユーザ権限が必要です。

理由: チームのメンバーとストーリーを共有すると役立ちます。ストーリーを R にエクスポートし、データサイエンティストと各自の言語で共有します。ストーリーを Quip にエクスポートすると、ビジネスユーザがコラボレーションできます。

方法: ストーリーをエクスポートするには、ストーリーのドロップダウンメニューから **[Export Story (ストーリーをエクスポート)]** を選択します。

関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

Salesforce オブジェクトへの簡単なモデルのリリース

モデルと Salesforce オブジェクト間で項目を対応付けて、コードを記述せずに必要なおすすめと予測を取得できます。

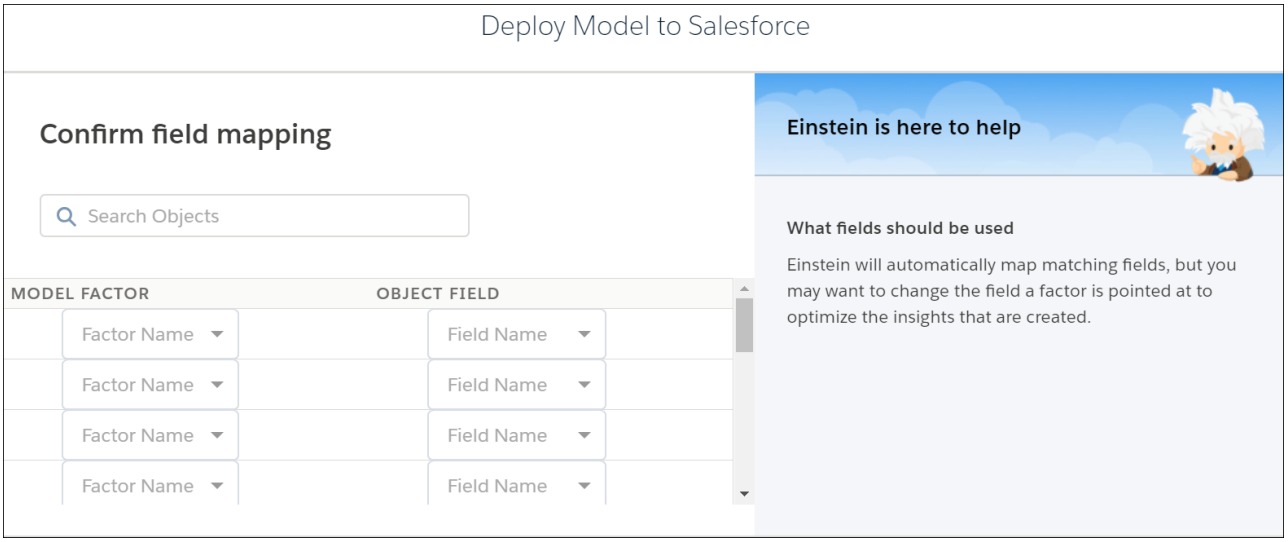
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics と Einstein Discovery は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の有料オプションで使用可能です。また、Developer Edition でも使用可能です。

対象ユーザ: Salesforce オブジェクトにモデルをリリースするには、Einstein Analytics Plus ライセンスに含まれる「**Einstein Discovery** モデルを接続」ユーザ権限が必要です。

理由: Einstein Discovery 予測を Salesforce オブジェクトにリリースすると、必要な場所でデータサイエンスを利用できます。ただし、モデル内の項目名が Salesforce オブジェクトの項目名と完全に一致しないことがあります。対応付け画面を使用して、モデルの項目が Salesforce オブジェクトの項目にどのように対応付けられるかを Einstein Discovery に指示します。

方法: ストーリーツールバーで **[Deploy Model (モデルをリリース)]** をクリックし、指示に従ってモデルとオブジェクトを選択します。**[Confirm field mapping (項目の対応付けの確認)]** 画面で、モデル内の項目を Salesforce オ

ブジェクトの対応する項目に対応付けます。同じ名前の項目は自動的に対応付けられますが、必要に応じてその対応付けを簡単に変更できます。



関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

Analytics の拡張: コミュニティのアクションメニュー、Salesforce モバイルアプリケーションのサポートの強化

Community Cloud から離れることなく、Analytics ダッシュボードのインサイトに基づいてアクションを実行します。Salesforce モバイルアプリケーションで Analytics ダッシュボードにスムーズにアクセスできるようになりました。

このセクションの内容:

コミュニティの Analytics からの Salesforce のアクションの実行

コミュニティの Analytics で、Salesforce レコードを開いてレコードレベルのアクションと一括アクションを実行できるようになりました。データセット、またはテーブルウィジェットの一括アクションで、アクションメニューを設定します。これにより、コミュニティユーザはコミュニティを離れることなく、Analytics ダッシュボードから直接 Salesforce のレコードを開いてアクションを実行できます。

Salesforce モバイルアプリケーションでのスムーズな分析

Salesforce アプリケーションで表示する Analytics ダッシュボードのパフォーマンスの改善により、外出先でのデータインサイトの取得が容易になりました。この改善は、Lightning アプリケーションビルダーを使用して Lightning Experience の [アプリケーション] ページに埋め込まれたダッシュボードコンポーネントに適用されます。

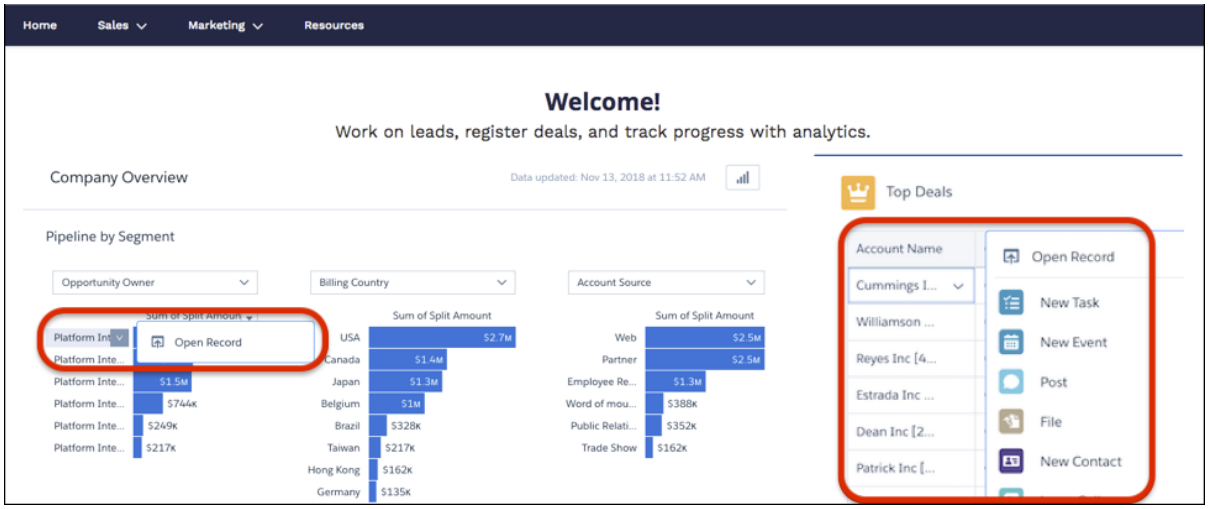
コミュニティの Analytics からの Salesforce のアクションの実行

コミュニティの Analytics で、Salesforce レコードを開いてレコードレベルのアクションと一括アクションを実行できるようになりました。データセット、またはテーブルウィジェットの一括アクションで、アクションメニューを設定します。これにより、コミュニティユーザはコミュニティを離れることなく、Analytics ダッシュボードから直接 Salesforce のレコードを開いてアクションを実行できます。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: Customer Community Plus、Partner Community、または Lightning External Apps Plus ライセンスを所有するユーザがコミュニティの Analytics を使用できます。

理由: ユーザのコミュニティで表示される Analytics ダッシュボードの基盤となる Salesforce レコードをユーザが作成、更新、操作できるようにします。アクションメニューには、ケースの作成、取引先の更新、Chatter への投稿など、Salesforce で定義したオブジェクト固有のアクションやグローバルアクションを含めることができます。



また、一括アクションメニューオプションを設定し、ユーザが 1 回のクリックのみで複数の Salesforce レコードに対するアクションを実行できるようにすることもできます。たとえば、テーブル内の一連のリードを絞り込むダッシュボードを使用すると、ユーザはテーブルのメニュー内の一括アクションを選択してそれらのリードに対するキャンペーンを作成できます。



方法: 基準以外の任意のデータセット項目にアクションメニューを追加します。項目で使用可能なアクションを含めるようにメニューを設定できます。アクションメニューが設定されると、グラフ、グラフの凡例、およびテーブルのセルにドロップダウン矢印が表示されます。ユーザがアクセスするレコードはコミュニティ内の新しいタブで開きます。

Analytics の一括アクションを使用すれば、テーブルに表示されているすべてのレコードに対してアクションを実行できます。一括アクションは、Lightning コミュニティで有効化された Visualforce ページで定義します。アクションの結果やインタラクティブなフォームを表示するように Visualforce ページを設定することもできます。一括アクションが設定されると、ユーザはテーブルのメニューでそのアクションにアクセスできます。

次の考慮事項に注意してください。

- アクションメニューは、コミュニティビルダーベースのテンプレートまたは Salesforce タブ + Visualforce テンプレートのいずれかで埋め込まれたダッシュボード内でアクセスできます。
- コミュニティの Analytics はモバイルではサポートされていません。
- ユーザがダッシュボードのアクションメニューからレコードにアクセスするには、そのオブジェクトと項目へのアクセス権が必要です。
- ユーザのプロファイルで使用可能なアクションのみがユーザに表示されます。
- 一括アクションは値テーブルでのみ使用できます。
- 一括アクションで使用される Visualforce ページおよびコンポーネントは、Lightning コミュニティで使用可能な必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Analytics から Salesforce レコードへのアクションの実行

Salesforce ヘルプ: Analytics から複数の Salesforce レコードへの一括アクションの実行

Salesforce モバイルアプリケーションでのスムーズな分析

Salesforce アプリケーションで表示する Analytics ダッシュボードのパフォーマンスの改善により、外出先でのデータインサイトの取得が容易になりました。この改善は、Lightning アプリケーションビルダーを使用して Lightning Experience の [アプリケーション] ページに埋め込まれたダッシュボードコンポーネントに適用されます。

対象: この変更は、Lightning Experience での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Salesforce アプリケーションでの Analytics ダッシュボードの使用を計画するときに、次の考慮事項を確認します。

- ユーザはモバイルで保存されたダッシュボードビューを表示できますが、スペースの制約により、保存されたビューを管理するメニューにはアクセスできません。
- ダッシュボードにリストセレクタを追加する場合、モバイルで表示するのに十分な幅にします。
- 新しいウィンドウで開くように設定されたダッシュボードリンクは、ネイティブの Analytics モバイルアプリケーションで開きます。
- ウィジェットのドロップダウンメニューはサポートされていないため、[調査]、[共有]、[詳細]、[アノテーションを追加]、[通知を設定]、および (設定されている場合) 一括アクションは使用できません。

- アクションは共有できません。
- テーブルのレコードレベルのアクションと一括アクションはサポートされていません。
- グローバル検索条件は調整できません。
- グラフにカーソルを置いても情報 (ツールチップ) は表示されません。
- 範囲セレクタなどの一部の検索条件は、モバイルタッチ操作用に最適化されていません。

エンドユーザ向け Analytics: Studio ウォークスルー、動画プレイリスト、モバイルアプリケーション

新しいウォークスルー、動画プレイリスト、より多くのアプリケーション動画など、アプリケーションに統合された学習リソースの増加により、ユーザは必要な情報を自分自身で見つけることができます。モバイルユーザには、Spring '19 リリースと同時に新しいバージョンの Analytics for iOS/Android が提供されます。

このセクションの内容:

Analytics Studio ホームのウォークスルー
新規ユーザが Analytics Studio を初めて開くときに、Analytics アセットのわかりやすい紹介が表示されます。リピートユーザは、参照する必要があるウォークスルーをいつでもヘルプメニューから開始できます。

プレイリストから視聴する動画の選択
プレイリストは、連続する学習を提供したり関連情報を見つけやすくするために、関連する動画がグループ化されています。インターフェースのいたるところにあるヘルプメニューと動画プレーヤーアイコンでプレイリストを確認できます。

歓迎メッセージ内でのオンボーディング動画の視聴
歓迎メッセージと動画プレーヤーがコンテンツ配信で統合されました。歓迎メッセージにある動画を視聴するのに別のウィンドウを開く必要はありません。歓迎メッセージと動画プレーヤーがオンデマンドで切り替わります。

その他のオンボーディングの機能強化
Einstein Analytics 学習マップが再編成され、Einstein データインサイトと予測ビルダーが統合されました。新しいページには、ベストプラクティスとリリースを中心とした新しいコンテンツが含まれます。Einstein Analytics 学習体験アプリケーションは、新しい SAQL 使用事例、設計のベストプラクティス、より多くのグラフの種類が含まれるように更新されました。

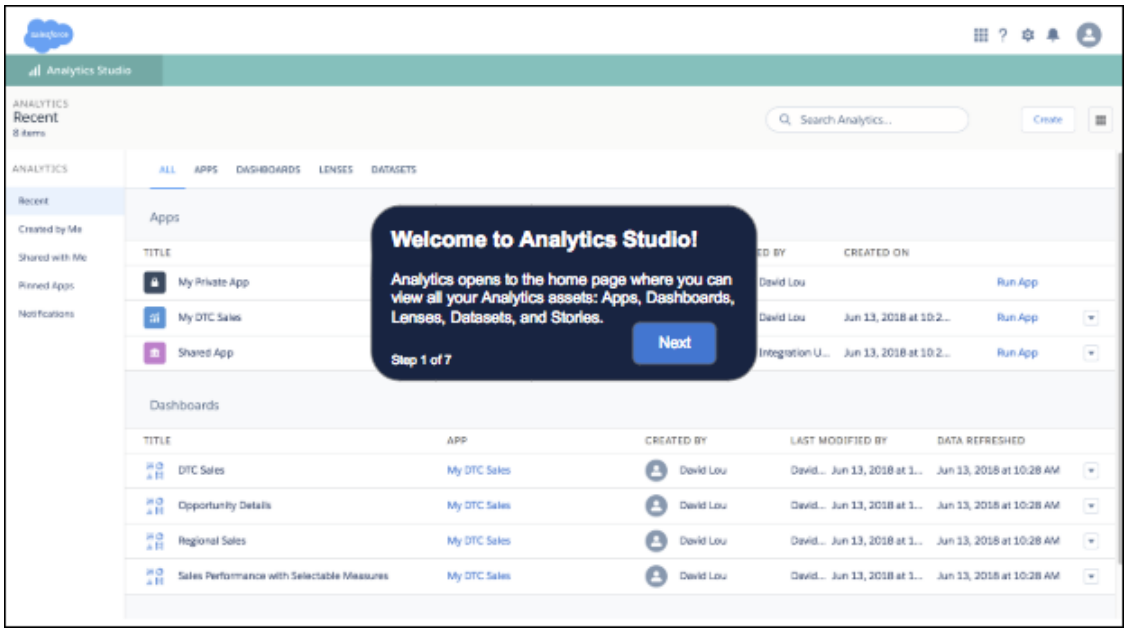
Analytics for iOS/Android の Spring '19 バージョンへのアップグレード
連動グローバル検索条件、切り替えウィジェットのスタイル設定オプション、新しいウィジェットのサポートにより、モバイルでのデータインサイトの取得が簡単になりました。

Analytics Studio ホームのウォークスルー

新規ユーザが Analytics Studio を初めて開くときに、Analytics アセットのわかりやすい紹介が表示されます。リピートユーザは、参照する必要があるウォークスルーをいつでもヘルプメニューから開始できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: ウォークスルーは、新規ユーザに主要な用語、アセットがある場所、およびホームページの使い方を説明します。Einstein Discovery ユーザ権限がある場合、ストーリーに関する情報がウォークスルーに含まれます。

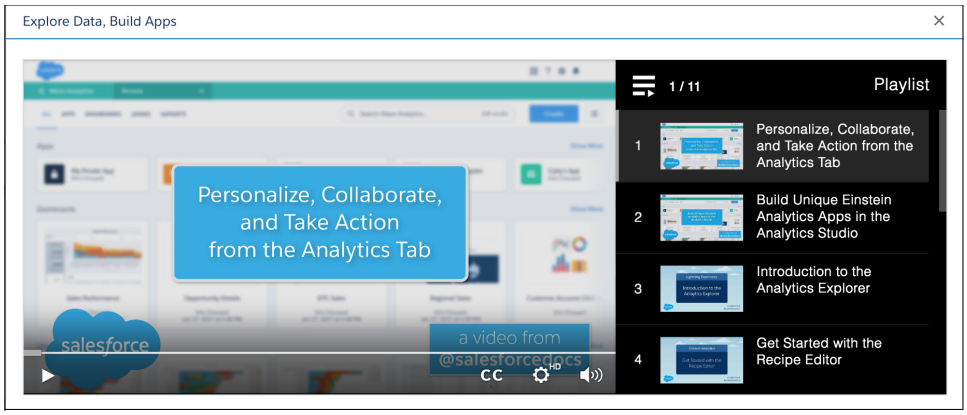


プレイリストから視聴する動画の選択

プレイリストは、連続する学習を提供したり関連情報を見つけやすくするために、関連する動画がグループ化されています。インターフェースのいたるところにあるヘルプメニューと動画プレーヤーアイコンでプレイリストを確認できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: プレイリストはスクロール可能で、機能やページについて視聴できる動画の概要が表示されます。ユーザは最初の動画から開始するか、リスト内の任意の動画を選択できます。

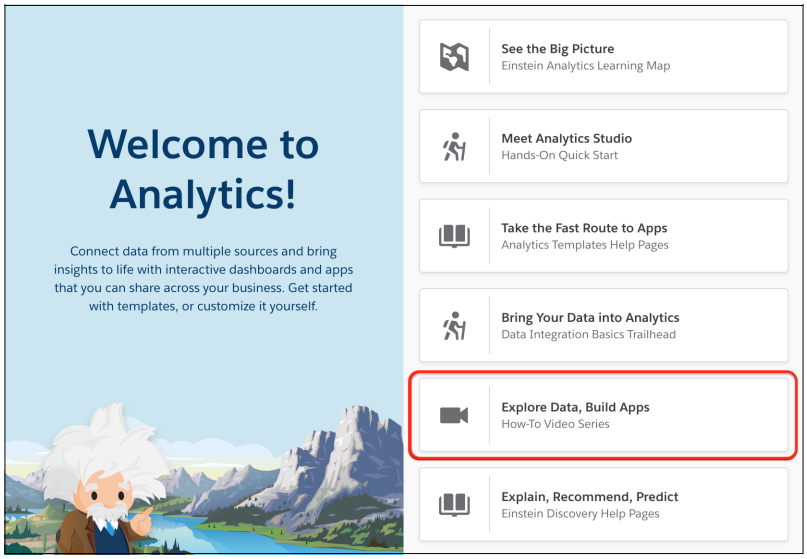


歓迎メッセージ内でのオンボーディング動画の視聴

歓迎メッセージと動画プレーヤーがコンテンツ配信で統合されました。歓迎メッセージにある動画を視聴するのに別のウィンドウを開く必要はありません。歓迎メッセージと動画プレーヤーがオンデマンドで切り替わります。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 動画アイコンのあるタイルをクリックすると、歓迎メッセージが動画プレーヤーに切り替わります。右上にある [X] をクリックすると、元に戻ります。



その他のオンボーディングの機能強化

Einstein Analytics 学習マップが再編成され、Einstein データインサイトと予測ビルダーが統合されました。新しいページには、ベストプラクティスとリリースを中心とした新しいコンテンツが含まれます。Einstein Analytics 学習体験アプリケーションは、新しい SAQL 使用事例、設計のベストプラクティス、より多くのグラフの種類が含まれるように更新されました。

対象: これらの変更は、Lightning Experience での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Analytics for iOS/Android の Spring '19 バージョンへのアップグレード

連動グローバル検索条件、切り替えウィジェットのスタイル設定オプション、新しいウィジェットのサポートにより、モバイルでのデータインサイトの取得が簡単になりました。

このセクションの内容:

Einstein Analytics for iOS のその他の機能強化
新しい改善されたユーザエクスペリエンスを得られます(豊富な視覚効果を備えた推奨グラフやグラフの操作性の向上など)。

Einstein Analytics for Android のその他の機能強化
読み込み時間が短縮され、新しいウィジェットにアクセスし、新しい方法でデータを視覚化するダッシュボードを探索します。

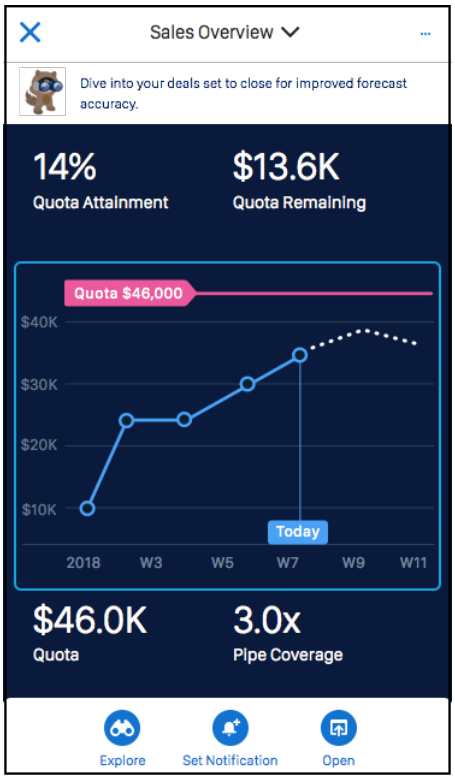
Einstein Analytics for iOS のその他の機能強化

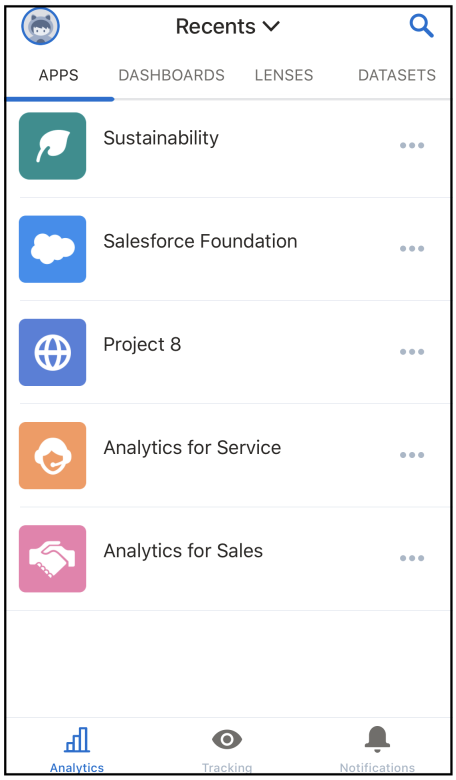
新しい改善されたユーザエクスペリエンスを得られます (豊富な視覚効果を備えた推奨グラフやグラフの操作性の向上など)。

対象: これらの変更は、Einstein Analytics for iOS に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

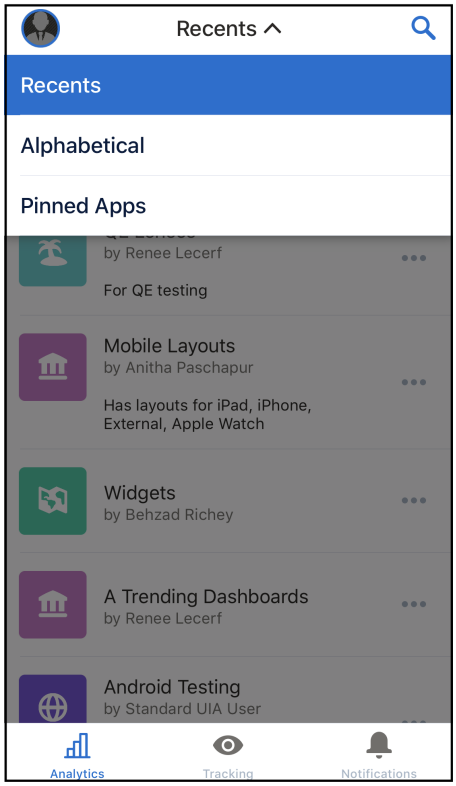
理由: 最新リリースの機能強化には、次の機能が含まれます。

- パフォーマンスの向上: ダッシュボードの読み込み時間が短縮されました。
- テーブル内の画像: テーブル内の画像により、データの豊富な視覚効果を得られます。
- 新しい改善されたユーザインターフェース: ユーザエクスペリエンスの向上のために UI が更新されています。





このドロップダウンメニューを使用して、アセットのビューを変更できるようになりました。



- グラフの操作性の向上:長押ししてから指を移動すると、選択することなくグラフの値をすばやく表示できます。
- 推奨グラフ: モバイルエクスプローラでデータの最適な視覚化が推奨されるようになりました。
- Spring '19 機能 (連動グローバル検索条件や切り替えウィジェットのスタイル設定オプションなど) のサポート。
- リンクウィジェット: 別のダッシュボードにリンクするときのランディングページを指定します。
- 数値ウィジェット: 結果が見つからなかった場合に、カスタムテキストが表示されます。
- バグ修正。

方法: Analytics は iOS 10 以降が実行されているデバイスで使用できます。最新の機能強化を取得するには、App Store から Einstein Analytics をダウンロードします。

Einstein Analytics for Android のその他の機能強化

読み込み時間が短縮され、新しいウィジェットにアクセスし、新しい方法でデータを視覚化するダッシュボードを探索します。

対象: これらの変更は、Einstein Analytics for Android に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 最新リリースの機能強化には、次の機能が含まれます。

- パフォーマンスの向上: ダッシュボードの読み込み時間が短縮されました。
- Spring '19 機能 (連動グローバル検索条件や切り替えウィジェットのスタイル設定オプションなど) のサポート。
- リンクウィジェット: 別のダッシュボードにリンクするときのランディングページを指定します。
- 数値ウィジェット: 結果が見つからなかった場合に、カスタムテキストが表示されます。
- バグ修正。

方法: Analytics は Android 5 以降が実行されているデバイスで使用できます。機能強化された最新のものを取得するには、Google Play™ から Einstein Analytics をダウンロードします。

コミュニティ: Mobile Publisher、パートナー取引先リレーション、フィードの翻訳、Einstein Next Best Action など

Spring '19 には、コミュニティに関する機能と機能強化が数多く含まれています。Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher を使用して既存のコミュニティをモバイルアプリケーションに変換し、App Store または Google Play でリリースします。流通業者や再販業者などのパートナー種別間の共有リレーションを容易に作成できます。Google Cloud Translation API と統合し、コミュニティメンバーが質問、投稿、コメント、回答、返信を 50 の言語にすぐに翻訳できるようにします。Einstein Next Best Action を使用して適切な提案を適切なタイミングで提供します。

ヒント: 今日の Salesforce には多数の Lightning (Lightning Experience、Lightning Bolt、Lightning コンポーネント) が存在しており、各々のコミュニティへの適用方法を理解するのは難しいかもしれません。概要は次のとおりです。

Lightning コミュニティは、Lightning Experience と同様、Lightning プラットフォームと Lightning コンポーネントを基盤としています。ただし、これらを使用するために Lightning Experience を有効にする必要はありません。

このセクションの内容:

モバイルコミュニティ: Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher の概要

Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher を使用してコミュニティをユーザ向けのモバイルアプリケーションに変換します。自社のアプリケーションアイコン、自社の名前、自社の色を利用できます。そして何より、Google Play および Apple App Store に独自のリストを表示できます。コミュニティビルダーを使用してモバイルアプリケーション環境をカスタマイズおよび改善します。

Lightning コミュニティ: Google 翻訳、ミッションバッジ、改善された SEO

Google Cloud Translation API を使用して質問、投稿、コメント、回答、返信を翻訳する機能をコミュニティユーザに提供します。ミッションバッジを使用してメンバーのエンゲージメントを高めます。コンテンツスナップショットと動的 SEO プロパティを使用してコミュニティの検索エンジン最適化 (SEO) を改善し、より多くのオブジェクト詳細ページが検索されるようにします。

コミュニティでの Lightning コンポーネント: Lightning コンテナコンポーネント、Einstein Next Best Action、ケースデフレクションの追跡

サードパーティの UI フレームワーク (React、Vue、Angular 2.0 など) を使用して構築したコンポーネントを作成および再利用し、コミュニティに埋め込みます。Community Cloud 向けに構築された人工知能である Einstein Next Best Action を使用して、適切な提案を適切なタイミングで提供します。デフレクション追跡コンポーネントを使用して、コミュニティのコンテンツがどのように役立っているかについてフィードバックを取得します。

利用者: カスタム数式、より多くの条件、更新されたエディタ

コミュニティビルダーの利用者機能がさらに堅牢になりました。利用者をさらに絞り込むには、カスタム条件数式を作成し、追加の条件種別を使用します。最後に、重要な点ですが、エディタが更新され、読みやすくなりました。

Partner Central: パートナー取引先リレーションとデータ共有ルール、予算階層、取引先管理の機能強化

パートナーリレーションとデータ共有ルールを使用すると、パートナーはコードではなくクリック操作を使用して目的のレコードを互いに安全に共有できます。予算階層を使用すると、チャネル取引先マネージャは複数のパートナー間で予算を分割でき、パートナーは自分の予算の管理と割り当てができます。取引先管理の機能強化によって、内部ユーザとシステム管理者は新しいコミュニティメンバーを作成および編集できます。ユーザは取引先を 1 つの取引先ブランドにシームレスにマージできます。

セキュリティと共有: より多くのオブジェクトでの共有セット、複数の取引先がある取引先責任者での共有セット、CSP 警告の回避、クリックジャックの容易な有効化

キャンペーン、商談、および注文と、複数の取引先の取引先責任者で共有セットを使用します。CMS Connect の CSP 警告を回避し、CSL リソースの問題を検出して解決します。コミュニティビルダーからクリックジャック保護をより容易に有効化します。

Lightning コミュニティのファイル: 権限、ユーザロール、セキュリティ
Lightning コミュニティのファイルに加えられた新機能と更新には、ゲストユーザがファイルをアップロードできる機能と、ユーザ、ロール、および権限を管理する新しい方法が含まれます。

コミュニティのその他の変更
コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

モバイルコミュニティ: Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher の概要

Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher を使用してコミュニティをユーザ向けのモバイルアプリケーションに変換します。自社のアプリケーションアイコン、自社の名前、自社の色を利用できます。そして何より、Google Play および Apple App Store に独自のリストを表示できます。コミュニティビルダーを使用してモバイルアプリケーション環境をカスタマイズおよび改善します。

メモ: この機能を使用するには、組織に Salesforce Mobile Publisher のライセンスを付与する必要があります。詳細は、Salesforce の営業担当にお問い合わせください。

このセクションの内容:

カスタム Salesforce コミュニティモバイルアプリケーションの作成、ブランド設定、配布
1 行のコードの記述方法をご存じなくても、問題ありません。Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher では、全面的にブランド設定した、Lightning コミュニティ用のモバイルアプリケーションを作成できます。Mobile Publisher を使用すると、アプリケーション名、アプリケーションアイコン、色、ブランドや、Google Play Store と Apple App Store への配信をカスタマイズできます。魅力のあるポータル、フォーラム、サイトを標準のテンプレートとテーマから作成します。モバイル開発者は必要ありません。CRM と人工知能を使用してパーソナライズした環境を設計し、パートナーが作成したソリューションにデータを接続します。

コミュニティビルダーを使用してモバイルアプリケーションでコンポーネントを非表示にする
コミュニティをデスクトップと同じようにモバイルデバイスにきれいに表示するように容易にカスタマイズできるようになりました。Community Builder を使用して、モバイルビューでユーザに表示するコンポーネントを制御します。

モバイルでの画像環境の改善
多くの Web サイトで、デスクトップ環境 (大きな画面および高速接続) 用に作成された画像が使用されています。モバイル用に最適化された画像の表示では、小さな画面と低速接続に適した画像のバージョンが作成されます。コミュニティでファイルアセットを使用するユーザは、モバイル用に最適化された画像の表示をモバイルデバイスで使用できるようになりました。

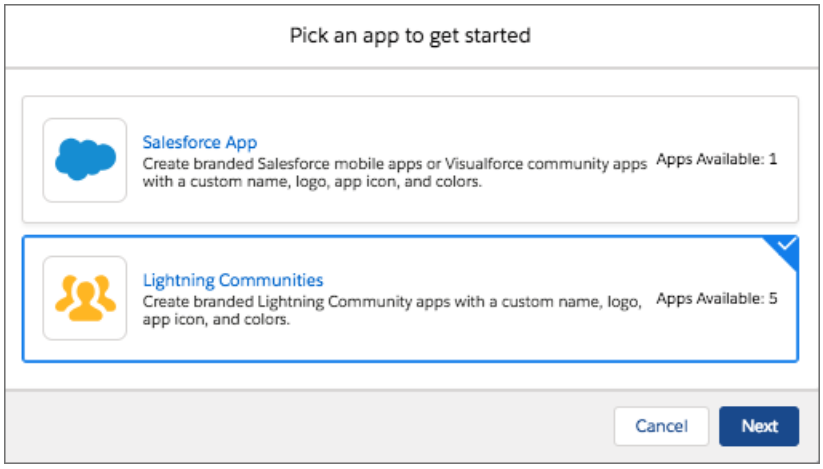
カスタム Salesforce コミュニティモバイルアプリケーションの作成、ブランド設定、配布

1 行のコードの記述方法をご存じなくても、問題ありません。Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher では、全面的にブランド設定した、Lightning コミュニティ用のモバイルアプリケーションを作成できます。Mobile Publisher を使用すると、アプリケーション名、アプリケーションアイコン、色、ブランドや、Google Play Store と Apple App Store への配信をカスタマイズできます。魅力のあるポータル、フォーラム、サイトを標準のテンプレートとテーマから作成します。モバイル開発者は必要ありません。CRM と人工知能を使用してパーソナライズした環境を設計し、パートナーが作成したソリューションにデータを接続します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

時期: Community Cloud 向け Salesforce Mobile Publisher は 2019 年 2 月 11 日以降に利用できます。

方法: この機能を使用するには、まず組織に Salesforce Mobile Publisher のライセンスを付与する必要があります。Mobile Publisher のライセンスが付与されたら、テンプレート、標準またはカスタム Lightning コンポーネント、およびテーマを使用して、モバイルユーザ向けに Lightning コミュニティをカスタマイズします。



コミュニティを作成してカスタマイズしたら、次に Mobile Publisher でプロジェクトを作成します。プロジェクトでは、組織の情報を入力したり、カスタムブランドアセットおよびアイコンをアップロードしたり、ブランドの色を選択したり、ブランド設定したアプリケーションをユーザに配信する方法を選択したりします。Mobile Publisher の手順に従って、アプリケーションを組み合わせて、アプリケーションのベータテストを実行し、Google Play Store または Apple App Store にアプリケーションの承認を申請します。

ブランド設定したカスタムアプリケーションの公開後にブランドが変更されましたか? 問題ありません。そのような場合にも対応します。ブランド設定したアプリケーションはいつでも更新できます。Mobile Publisher を使用すれば、更新したアプリケーションをユーザの手元に簡単に届けることができます。

準備はよいですか? 詳細は、Salesforce の営業担当にお問い合わせください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Mobile Publisher

Trailhead: Mobile Publisher を使用してブランド設定したモバイルアプリケーション

コミュニティビルダーを使用してモバイルアプリケーションでコンポーネントを非表示にする

コミュニティをデスクトップと同じようにモバイルデバイスにきれいに表示するように容易にカスタマイズできるようになりました。Community Builder を使用して、モバイルビューでユーザに表示するコンポーネントを制御します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法:コンポーネントを非表示にするには、ページでコンポーネントを選択し、プロパティエディタで[モバイルで非表示] スイッチをオンにします。

眼のアイコンをオンまたはオフにして、左ナビゲーションペインのコンポーネントを表示または非表示にできます。

モバイルワークスペースでは、デスクトップ環境に表示されるタブは表示されません。デスクトップアプリケーションでは、電話アイコンを使用して、コンポーネントがモバイル環境で非表示になっているか表示されているかを知ることができます。

モバイルでの画像環境の改善

多くの Web サイトで、デスクトップ環境 (大きな画面および高速接続) 用に作成された画像が使用されています。モバイル用に最適化された画像の表示では、小さな画面と低速接続に適した画像のバージョンが作成されます。コミュニティでファイルアセットを使用するユーザは、モバイル用に最適化された画像の表示をモバイルデバイスで使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: モバイル用に最適化された画像が有効になっている場合、ユーザが電話またはタブレットからコミュニティを表示すると、モバイル用に最適化されたバージョンの画像が表示されます。このコミュニティ設定はデフォルトで有効になっていますが、コミュニティの設定から無効にできます。

Lightning コミュニティ: Google 翻訳、ミッションバッジ、改善された SEO

Google Cloud Translation API を使用して質問、投稿、コメント、回答、返信を翻訳する機能をコミュニティユーザに提供します。ミッションバッジを使用してメンバーのエンゲージメントを高めます。コンテンツスナップショットと動的 SEO プロパティを使用してコミュニティの検索エンジン最適化 (SEO) を改善し、より多くのオブジェクト詳細ページが検索されるようにします。

このセクションの内容:

Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新
Lightning コミュニティの改善は常に行われていますが、最新のテンプレートを使用しないと、その利点を得ることができません。まだ更新していない場合は、乗り遅れないようにしてください。

ナビゲーションメニュー、関連記事、トピック別トレンド記事でのセレクタの更新

コミュニティビルダーの更新フラグ  から手動更新を使用してコミュニティテンプレートを Spring '19 に更新する場合、カスタム CSS 上書きを使用していると、一部の CSS セレクタの更新が必要になる場合があります。ナビゲーションメニュー、評価ランキング表、関連記事、トピック別トレンド記事の各コンポーネントで CSS セレクタを更新し、CSS が計画どおりに機能するようにします。

フィード項目をその場で翻訳

共通の関心がある、言語の異なる複数のユーザをサポートできます。コミュニティビルダーの新しい翻訳設定を使用して、[Google による翻訳] メニューをすべてのフィード項目に配置します。投稿、質問、コメント、回答、返信を翻訳します。50 を超える言語を使用して話をすることができます。翻訳は、指定した Google Cloud Translation API キーにより提供されます。

ミッションを使用したメンバーのエンゲージメントレベルの向上

バッジの使用などのゲームのしくみは、ユーザがコミュニティに関与するための優れた方法です。ただし、バッジを手動で割り当てると時間がかかる可能性があります。代わりに、ミッション機能を使用してバッジを自動的に割り当てます。コミュニティマネージャは、バッジを獲得するアクションと、バッジを授与するタイミングについて指示します。後はミッションが自動的に処理します。また、メンバーには、まだ獲得していないミッションバッジが表示されるため、アクションの動機が与えられます。

フィード項目を最適な場所に移動

すばらしい質問やアンケートを、間違ったディスカッションで行ったユーザはいませんか?マーケティングの有益な情報を営業グループに投稿したユーザはいませんか? コミュニティでは、フィード項目 (投稿、質問、アンケートなど)を公開グループフィードから別の公開グループフィードに移動できます。フィード項目のコメント、回答、返信も一緒に移動します。

ユーザがトピックから逸れないようにサポート

質問ボタンを設定して、選択されたトピック下でユーザが質問をするときに新しいトピックの選択をブロックできます。たとえば、ユーザが「新商品」というトピックを選択して質問ボタンをクリックしたのに [投稿先] 項目で別のトピックを選択することがあります。質問の場所について混乱が生じないように、新しいプロパティを使用して、ユーザが焦点を維持し、元の場所に容易に戻ることができるようにします。

Community Cloud 向け CMS のさらなる活用 (ベータ)

CMS コンテンツ (旧称ネイティブコンテンツ) を簡単に選別して選択したり、改善された演算子を使用してコレクションのコンテンツを動的に選択したり、接続をより適切に管理したりできます。

コミュニティでナレッジ記事のファイル関連リストを使用

コミュニティの [記事の詳細] ページでナレッジ記事のファイル関連リストを参照できるようになりました。

プラス投票による影響度カードと、いいね! と言われた数への影響

プラス投票も、いいね! と同じように影響度にカウントされるべきです。投票の信頼性により、プラス投稿がいいね! と同じようにカウントされ、ユーザの影響度カードに表示されるようになりました。

テンプレートおよびテーマのエクスポートの機能強化

ロック済みの領域がある Lightning テンプレートまたはテーマをエクスポートする場合、エクスポートされたバージョンでロック済みの領域が保持されます。以前は、ユーザがエクスポートされた項目からコミュニティまたはテーマを作成すると、領域のロックが解除されていました。また、テンプレートおよびテーマのエクスポートの [パブリッシャー名] 項目が追加されました。この項目は、コミュニティ作成ウィザードや AppExchange に表示されます。以前は、組織名が使用されていました。

ナビゲーション API コールを使用したリンクの将来への対応

コミュニティで `lightning-navigation` がサポートされるようになりました。これにより、Salesforce が今後 URL 形式を変更することがあっても、ナビゲーションの破損を避けられます。

コミュニティでのページの読み込み時間の短縮

静的 Lightning コンポーネント用の Akamai のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) がすべての新規および既存のコミュニティで有効化されるようになりました。CDN では、複数の地理的な場所でキャッシュバージョンが保存され、ページの読み込み時間が短縮されます。

コミュニティの投稿とコメントへのハイパーリンクの追加

メンバーは、コミュニティフィードでリンクを投稿やコメントに追加できるようになりました。

検索エンジンへの最新のコンテンツスナップショットの提供

Salesforce はコミュニティの公開済みの公開コンテンツの週単位のスナップショットを取得しており、これはほとんどの更新で適切に機能します。ただし、たとえば、期間限定セールでの価格の変更など、時間的制約のある重要な情報でページのコンテンツを更新するとします。毎週の更新を待つのではなく、24 時間おきにスナップショットを取得し、検索エンジンに提供するページコンテンツを更新できるようになりました。

より多くのオブジェクト詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加

動的 SEO 値を追加して、検索エンジンの結果を改善し、顧客が探している記事、質問、トピック情報を容易に見つけることができるようにします。

SEO について把握

Lightning コミュニティのどのオブジェクトがインデックス付けされ、検索エンジンで使用できるかを一目で確認します。

Lightning コミュニティテンプレートを最新のテンプレートに更新

Lightning コミュニティの改善は常に行われていますが、最新のテンプレートを使用しないと、その利点を得ることができません。まだ更新していない場合は、乗り遅れないようにしてください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: コミュニティを更新するときがくると、コミュニティビルダーに更新フラグ  が表示されます。応答画面に従ってコミュニティを更新します。

重要: コミュニティを更新する前に、更新によるコミュニティへの影響を理解するために「コミュニティのテンプレートの更新」を参照してください。また、「Migrate CSS Overrides (CSS 上書きの移行)」を参照して、カスタム CSS に影響する可能性のあるセレクタの変更も確認してください。次に、本番組織で更新する前に、Sandbox 組織でテスト実行を行います。Winter '18 からコミュニティを更新していない場合は、このリリースノートで重要な情報を確認してください。このヘルプトピックはリリースプレビュー時に古くなるか、利用できなくなる可能性があります。そのため、更新のすべての影響を必ず把握しておいてください。

関連トピック:

- ナビゲーションメニュー、関連記事、トピック別トレンド記事でのセレクタの更新

ナビゲーションメニュー、関連記事、トピック別トレンド記事でのセレクタの更新

コミュニティビルダーの更新フラグ から手動更新を使用してコミュニティテンプレートを Spring '19 に更新する場合、カスタム CSS 上書きを使用していると、一部の CSS セレクタの更新が必要になる場合があります。ナビゲーションメニュー、評価ランキング表、関連記事、トピック別トレンド記事の各コンポーネントで CSS セレクタを更新し、CSS が計画どおりに機能するようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: 次の CSS セレクタを更新します。

ナビゲーションメニュー

表 1: ホームメニュー項目のリンク

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .homeLink.forceCommunityNavigationMenu .homeButton.comm-navigation .slds-list__item a[data-type="home"]`	`.comm-navigation .comm-navigation__item a[data-type="home"]`

表 2: 最上位メニュー項目

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .menuItem .forceCommunityGlobalNavigation .navigationMenuNode .comm-navigation .comm-navigation__list > .slds-list__item`	`.comm-navigation .comm-navigation__list > .slds-list__item > .comm-navigation__item`

サブメニュートリガが含まれます。

表 3: 現在の最上位メニュー項目のリンク

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .current .forceCommunityGlobalNavigation .menuItem.current .comm-navigation .comm-navigation__list > .slds-list__item > .slds-is-active`	`.comm-navigation .comm-navigation__list > .slds-list__item> .comm-navigation__item > .slds-is-active`

表 4: 最上位メニュー項目のリンク

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .menuItemLink`	
`.forceCommunityNavigationMenu a.menuItemLink`	
`.forceCommunityNavigationMenu .menuItem .menuItemLink`	`.comm-navigation .comm-navigation__list > .slds-list__item> .comm-navigation__item > a`
`.forceCommunityNavigationMenu .menuItem a`	
`.forceCommunityNavigationMenu .menuItem a.menuItemLink`	`.comm-navigation .comm-navigation__list > .slds-list__item> .comm-navigation__item > button`
`.comm-navigation .comm-navigation__list > .slds-list__item > a`	
`.comm-navigation .comm-navigation__list > .slds-list__item > button`	

表 5: サブメニュー項目

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .subMenuItem`	`.comm-navigation .slds-list_vertical.slds-is-nested .comm-navigation__item`
`.comm-navigation .slds-list_vertical.slds-is-nested .slds-list__item`	

表 6: 有効なサブメニュー項目

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .subMenuItem.current`	`.comm-navigation .slds-list_vertical.slds-is-nested .comm-navigation__item .slds-is-active`
`.comm-navigation .slds-list_vertical.slds-is-nested .slds-list__item .slds-is-active`	

表 7: サブメニュートリガのリンク

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .triggerLink`	`.comm-navigation .comm-navigation__item button:enabled`
`..forceCommunityNavigationMenu .triggerLabel`	

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.comm-navigation .slds-list__item button:enabled`	

表 8: サブメニュートリガのリンクアイコン

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .triggerLink .forceIcon` `.comm-navigation .slds-list__item button:enabled .slds-icon_container`	`.comm-navigation .comm-navigation__item button:enabled .slds-icon_container`

表 9: メニュー項目

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .navigationMenu li` `.comm-navigation .slds-list__item`	`.comm-navigation .comm-navigation__item`

最上位およびサブメニューの項目が含まれます。

表 10: メニュー項目のリンク

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu a` `.forceCommunityNavigationMenu a.menuItemLink` `.comm-navigation .slds-list__item a` `.comm-navigation .slds-list__item button`	`.comm-navigation .comm-navigation__item a.comm-navigation .comm-navigation__item button`

最上位およびサブメニューの項目が含まれます。

表 11: サブメニュー項目

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityNavigationMenu .subMenuItem.comm-navigation .slds-list_vertical.slds-is-nested .slds-list__item`	`.comm-navigation .slds-list_vertical.slds-is-nested .comm-navigation__item`

表 12: サブメニュー項目のリンク

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.comm-navigation` `.slds-list_vertical.slds-is-nested` `.comm-navigation__item`	`.comm-navigation` `.slds-list_vertical.slds-is-nested` `.comm-navigation__item a`

評価ランキング表

表 13: 評価ランキング表の行

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.forceCommunityReputationLeaderboardRow.comm-leaderboard li`	`.comm-leaderboard .comm-leaderboard__item`

関連記事

表 14: 記事リスト項目

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.selfServiceSimilarArticles .base-simple-item` `.comm-related-articles li`	`.comm-related-articles` `.comm-related-articles__item`

表 15: 記事リンク

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.selfServiceSimilarArticles .item-title` `.selfServiceSimilarArticles .item-title-link` `.comm-related-articles li a`	`.comm-related-articles` `.comm-related-articles__item a`

トピック別トレンド記事

表 16: 記事リスト項目

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.selfServiceTopicTrendingArticles .base-simple-item` `.comm-topic-trending-articles li`	`.comm-topic-trending-articles` `.comm-topic-trending-articles__item`

表 17: 記事リンク

以前のセレクタ	新しいセレクタ
`.selfServiceTopicTrendingArticles .item-title-link`	`.comm-topic-trending-articles`
`.selfServiceTopicTrendingArticles a`	`.comm-topic-trending-articles__item a`
`.comm-topic-trending-articles li a`	

フィード項目をその場で翻訳

共通の関心がある、言語の異なる複数のユーザをサポートできます。コミュニティビルダーの新しい翻訳設定を使用して、[Google による翻訳] メニューをすべてのフィード項目に配置します。投稿、質問、コメント、回答、返信を翻訳します。50 を超える言語を使用して話をすることができます。翻訳は、指定した Google Cloud Translation API キーにより提供されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: ユーザはフィード項目をデフォルト言語に翻訳したり、別の言語を選択したりできます。

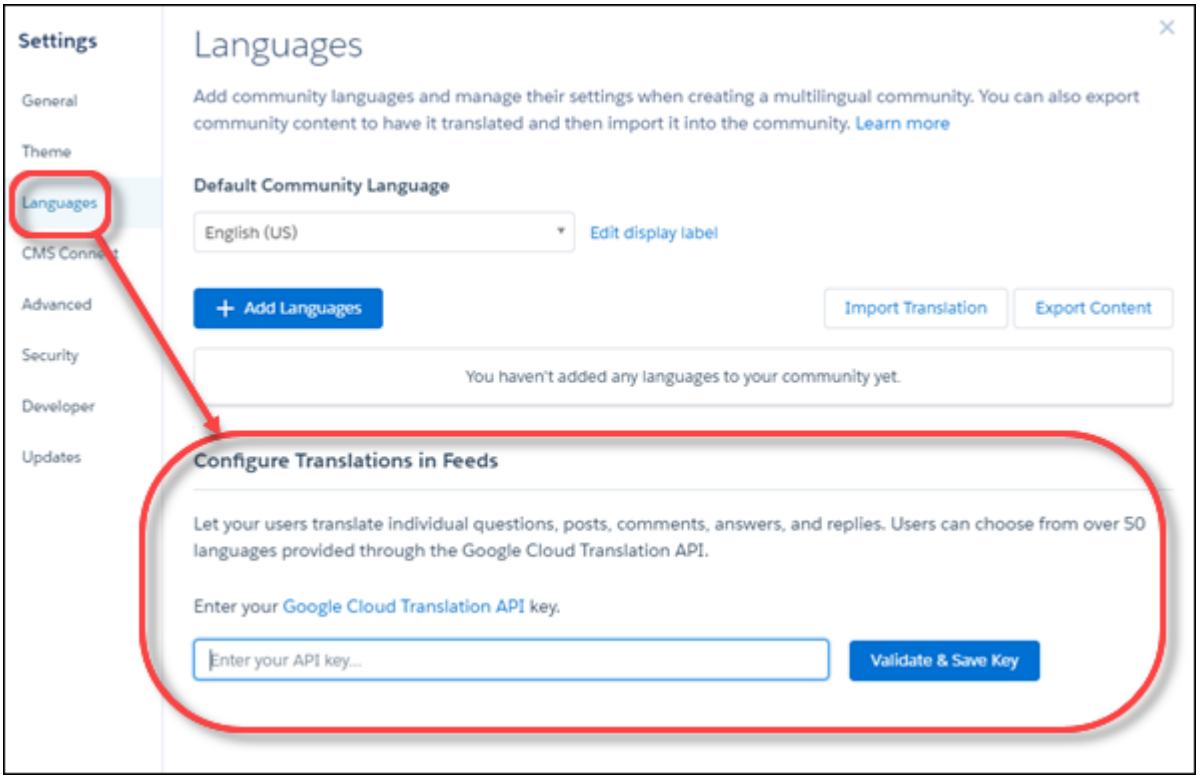
- フィード項目をデフォルト言語に翻訳するには、**[Google による翻訳]** をクリックします。

  コミュニティメンバーの場合、デフォルト言語は、ユーザのプロファイルに設定されたロケールから取得されます。ゲストユーザの場合、ユーザのブラウザに設定されたロケールから取得されます。

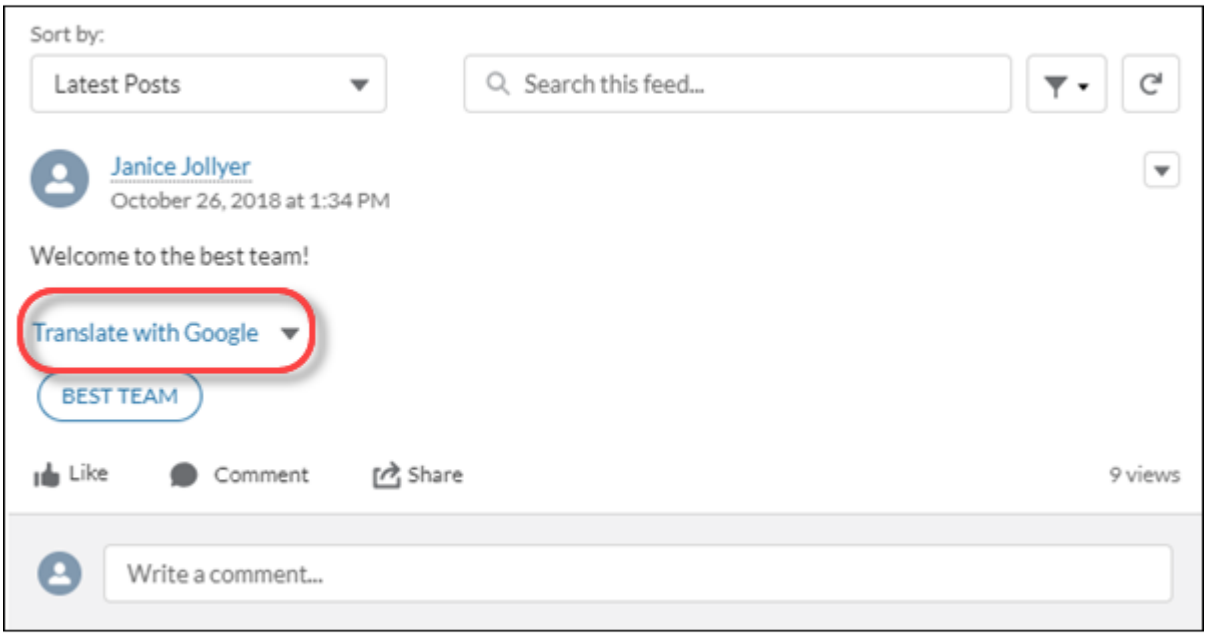
- 言語を選択するには、▼ メニューアイコンをクリックします。

翻訳後は [Google による翻訳] が [オリジナルを表示] に切り替わるため、元の言語に容易に戻ることができます。

方法: コミュニティビルダーで、**[設定]** > **[言語]** に移動し、Google Cloud Translation API キーを入力します。



キーを検証して保存すると、コミュニティのすべてのフィード項目に[Googleによる翻訳]メニューが表示されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Add a Translate Button to Feed Items in Communities (コミュニティのフィード項目への [翻訳] ボタンの追加) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ミッションを使用したメンバーのエンゲージメントレベルの向上

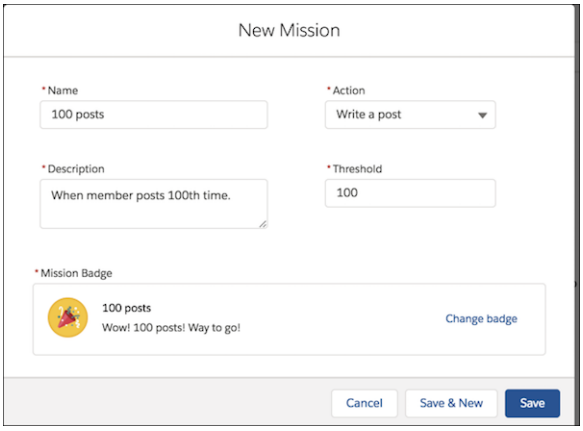
バッジの使用などのゲームのしくみは、ユーザがコミュニティに関与するための優れた方法です。ただし、バッジを手動で割り当てると時間がかかる可能性があります。代わりに、ミッション機能を使用してバッジを自動的に割り当てます。コミュニティマネージャは、バッジを獲得するアクションと、バッジを授与するタイミングについて指示します。後はミッションが自動的に処理します。また、メンバーには、まだ獲得していないミッションバッジが表示されるため、アクションの動機が与えられます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: 次のアクションに基づいてミッションを作成できます。

- プロファイル写真を更新した
- 投稿を作成した、または質問をした
- 投稿にコメントした、または質問に回答した
- いいねを与えた、またはいいねを受け取った
- 最良の回答を受け取った、または最良の回答として回答をマークした

たとえば、100 回投稿したときにユーザにバッジを付与するミッションを作成できます。



メンバーはバッジを受け取ったときに通知され、プロファイルページでバッジを参照できます。バッジカードで[すべて表示]を選択すると、すべてのユーザのバッジ(獲得したバッジと獲得していないバッジの両方)が表示されるページが開きます。

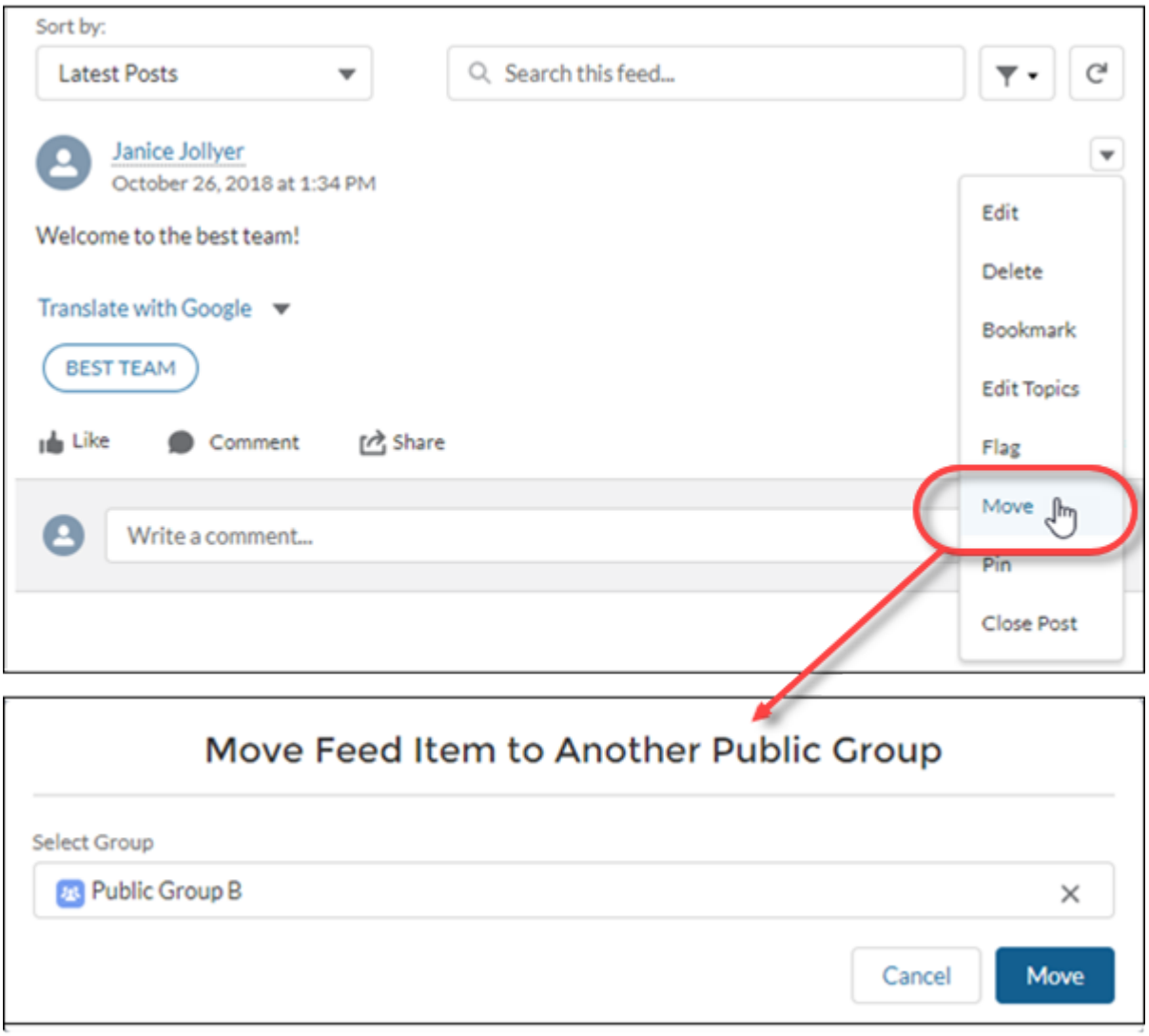
フィード項目を最適な場所に移動

すばらしい質問やアンケートを、間違ったディスカッションで行ったユーザはいませんか? マーケティングの有益な情報を営業グループに投稿したユーザはいませんか?コミュニティでは、フィード項目(投稿、質問、アンケートなど)を公開グループフィードから別の公開グループフィードに移動できます。フィード項目のコメント、回答、返信も一緒に移動します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: システム管理者と、「コミュニティフィードのモデレート」権限を持つユーザはフィード項目を公開グループフィードから別の公開グループフィードに移動できます。

理由: 投稿、質問、アンケートを最適な場所に配置し、関連する情報を共に保持することで、ユーザが最良の利用者を見つけることができるようにします。



方法: 公開グループフィードで、投稿、質問、またはアンケートのオーバーフローメニューに移動し、[移動] を選択します。[移動] ポップアップで、項目の移動先の公開グループフィードを選択して [移動] をクリックします。

メモ: ブロードキャストのみの公開グループにフィード項目を移動したり、これらのグループからフィード項目を移動したりすることはできません。

項目を移動すると次のようになります。

- メンションは保持されます。
- お知らせは、移動先のグループのお知らせになります。
- フィード項目に含まれているか添付されているものは、そのまま含まれるか添付されます。

  たとえば、移動した項目には、その回答、コメント、返信、トピック、ブックマーク、添付、および他の関連エンティティが付随します。回答が最良としてマークされている場合、その状況は保持されます。

メモ: 固定された投稿を移動するには、まず固定を解除します。

ユーザは、設定に従って、移動されたフィード項目に関する通知を受け取ります。たとえば、関連する通知設定をオプトインしているユーザは次のようになります。

- 移動先のグループをフォローしているユーザは通知を受け取ります。
- フィード項目を移動したユーザが移動先のグループのフォロワーでもある場合、そのユーザは通知を受け取ります。
- 移動されたフィード項目でメンションしたユーザは、メンションに関する通知を受け取ります。
- 投稿のアクションに関する通知は作成者に送信されないため、移動された項目の作成者は通知を受け取りません。

Chatter REST API および Chatter in Apex では、公開グループ間の投稿の移動がサポートされます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Move Feed Items from One Public Group Feed to Another (公開グループフィード間のフィード項目の移動) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザがトピックから逸れないようにサポート

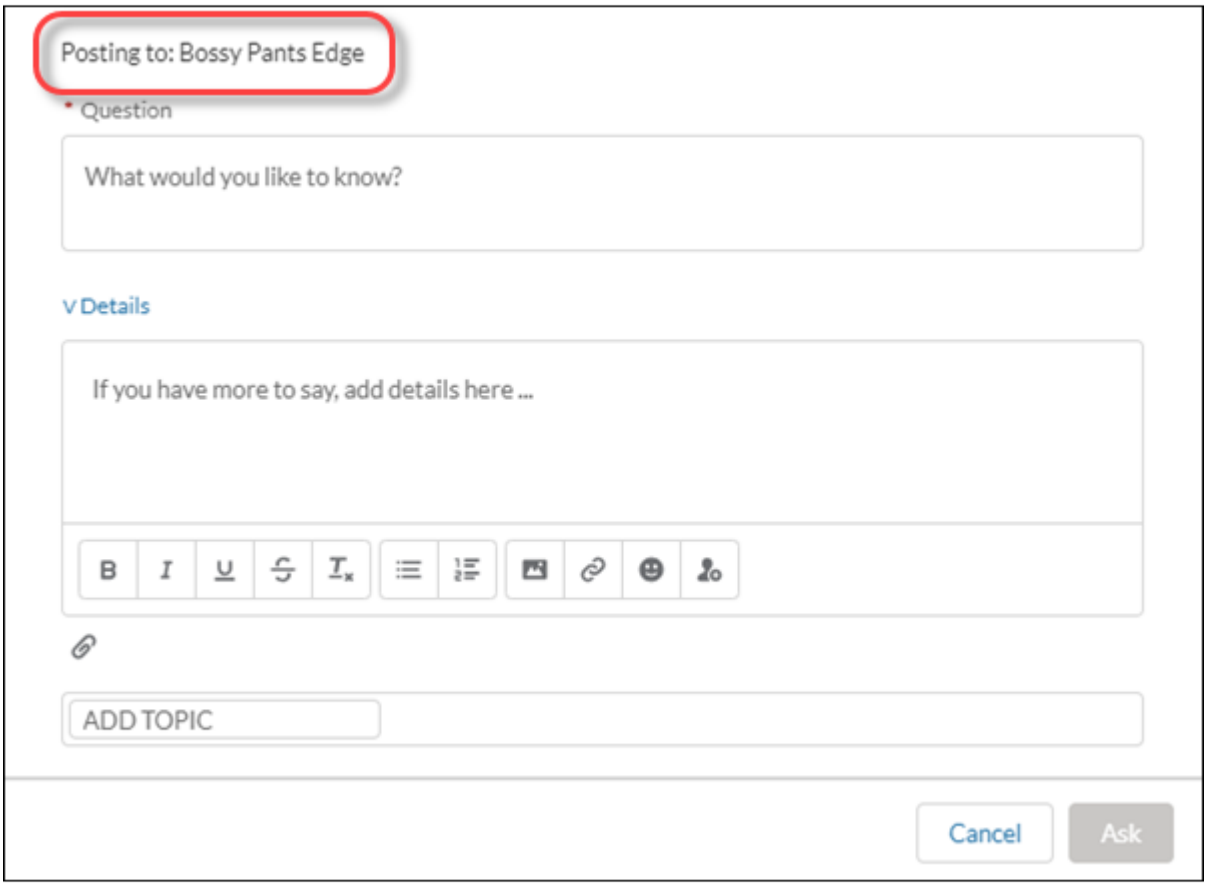
質問ボタンを設定して、選択されたトピック下でユーザが質問をするときに新しいトピックの選択をブロックできます。たとえば、ユーザが「新商品」というトピックを選択して質問ボタンをクリックしたのに [投稿先] 項目で別のトピックを選択することがあります。質問の場所について混乱が生じないように、新しいプロパティを使用して、ユーザが焦点を維持し、元の場所に容易に戻ることができるようにします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: 「コミュニティの作成および設定」および「設定・定義の参照」権限を持つメンバーは、コンポーネントのプロパティを設定できます。

方法: コミュニティビルダーで、[質問ボタン] または [カスタマーサポートおよび質問ボタン] のプロパティマネージャを開き、[トピックの質問でトピックの選択をブロック] を選択します。

ユーザがトピックフィードで質問をする場合、[投稿先] 項目で新しいトピックを選択できなくなります。代わりに、そのトピックは参照のみになります。



Community Cloud 向け CMS のさらなる活用 (ベータ)

CMS コンテンツ (旧称ネイティブコンテンツ) を簡単に選別して選択したり、改善された演算子を使用してコレクションのコンテンツを動的に選択したり、接続をより適切に管理したりできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。このオープンベータは、自動的にすべてのコミュニティで使用できるようになりますが、コミュニティワークスペースのコンテンツ管理を有効にする必要があります。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの Community Cloud 向け CMS が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Community Cloud 向け CMS は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。Community Cloud 向け CMS に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Community Cloud」グループに投稿してください。

時期: 動画を CMS コンテンツに追加する機能が Sandbox 環境で使用できるようになりました。動画を本番環境に追加する機能は、リリース直後に使用できるようになります。

対象ユーザ: コミュニティワークスペースを使用する権限を持つユーザは、コンテンツ管理を使用してコンテンツを作成でき、コミュニティビルダーにアクセスする権限を持つユーザは、コンテンツ管理を使用してコンテンツをページに追加できます。

内容: 新機能や機能強化を次に示します。

- ネイティブコンテンツが **CMS** コンテンツという名前に変更されました。
- コンテンツの作成時にリッチテキストエディタでハイパーリンクやインライン動画を挿入し、テキストを書式設定できるようになりました。
- 動的コレクションで AND 演算子と OR 演算子がサポートされるようになり、適切なコンテンツのみを表示できるようになりました。
- 以前承認された Salesforce CRM オブジェクトへのアクセス権を削除できるようになりました。
- 特定のコンテンツを追加および削除することで、CMS コンテンツのコレクションを手動で作成および制御できるようになりました。
- 古くなったコレクションや不要のコレクションを削除できるようになりました。
- コンテンツコレクションが増大しても、新しい検索条件を使用して結果をさらに絞り込むことで、探しているものをすばやく見つけることができるようになりました。
- 新しいレイアウトオプションから選択できるようになりました。たとえば、タイトルをコンテンツの詳細へのリンクとすることができます。ナビゲーションを提供するためのボタンをレイアウト内で使用する必要はありません。
- ホワイトリストに登録する必要のある外部 URL を識別できるようになりました。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Community Cloud 向け CMS (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: コンテンツセキュリティポリシー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: CMS Connect (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティでナレッジ記事のファイル関連リストを使用

コミュニティの [記事の詳細] ページでナレッジ記事のファイル関連リストを参照できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Knowledge を有効にしている Lightning コミュニティに適用されます。Lightning Knowledge は Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition (Service Cloud 付属) で使用できます。Salesforce ナレッジは、Professional Edition、Enterprise Edition、および Performance Edition でアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: 内部コミュニティユーザは、参照可能なナレッジ記事のファイル関連リストにアップロードされたファイルを参照できます。表示が **[AllUsers]** に設定されている場合、外部コミュニティユーザは、ファイル関連リストにアップロードされたファイルと、関連するナレッジ記事を参照できます。

方法: コミュニティビルダーで、関連レコードリストコンポーネントを [記事の詳細] ページに追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 関連レコードリスト

ナレッジ記事: レコードでの共有するファイルのデフォルトの表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

プラス投票による影響度カードと、いいね! と言われた数への影響

プラス投票も、いいね! と同じように影響度にカウントされるべきです。投票の信頼性により、プラス投稿がいいね! と同じようにカウントされ、ユーザの影響度カードに表示されるようになりました。

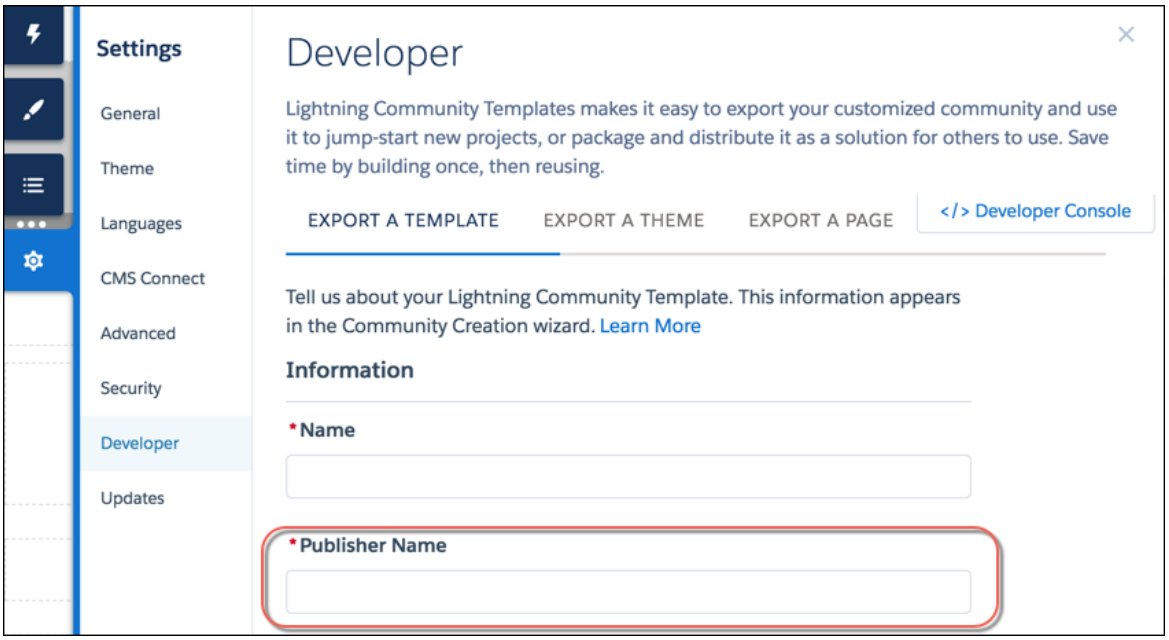
対象: この変更は、Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用され、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

方法: コミュニティでプラス投票を有効にした場合、新しいプラス投票が影響度と、いいね! と言われた数にカウントされます。

テンプレートおよびテーマのエクスポートの機能強化

ロック済みの領域がある Lightning テンプレートまたはテーマをエクスポートする場合、エクスポートされたバージョンでロック済みの領域が保持されます。以前は、ユーザがエクスポートされた項目からコミュニティまたはテーマを作成すると、領域のロックが解除されていました。また、テンプレートおよびテーマのエクスポートの [パブリッシャー名] 項目が追加されました。この項目は、コミュニティ作成ウィザードや AppExchange に表示されます。以前は、組織名が使用されていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。



ナビゲーション API コールを使用したリンクの将来への対応

コミュニティで `lightning-navigation` がサポートされるようになりました。これにより、Salesforce が今後 URL 形式を変更することがあっても、ナビゲーションの破損を避けられます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: ページ参照を使用した Lightning Experience および Salesforce モバイルアプリケーションでのナビゲーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning コンポーネント開発者ガイド: pageReference の型 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティでのページの読み込み時間の短縮

静的 Lightning コンポーネント用の Akamai のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) がすべての新規および既存のコミュニティで有効化されるようになりました。CDN では、複数の地理的な場所でキャッシュバージョンが保存され、ページの読み込み時間が短縮されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。この設定は、どのバージョンの Salesforce アプリケーションにも影響しません。

方法: この設定により、Lightning コンポーネントフレームワークの静的な JavaScript の Lightning CDN 配信が有効になります。CDN では、組織のデータまたはメタデータは配信されません。Lightning CDN はコミュニティの CDN とは異なります。詳細は、「Community Cloud コンテンツ配信ネットワークの設定」を参照してください。

メモ: 問題が発生した場合は、会社で使用しているホワイトリストまたはファイアウォールに `https://static.lightning.force.com` が追加されていることを確認し、会社のファイアウォールで Akamai CDN コンテンツがブロックされていないかどうかを IT 部門に問い合わせてください。

関連トピック:

https://help.salesforce.com/articleView?id=community_builder_cdn.htm&type=5

コミュニティの投稿とコメントへのハイパーリンクの追加

メンバーは、コミュニティフィードでリンクを投稿やコメントに追加できるようになりました。

関連トピック:

投稿とコメントへのハイパーリンクの追加

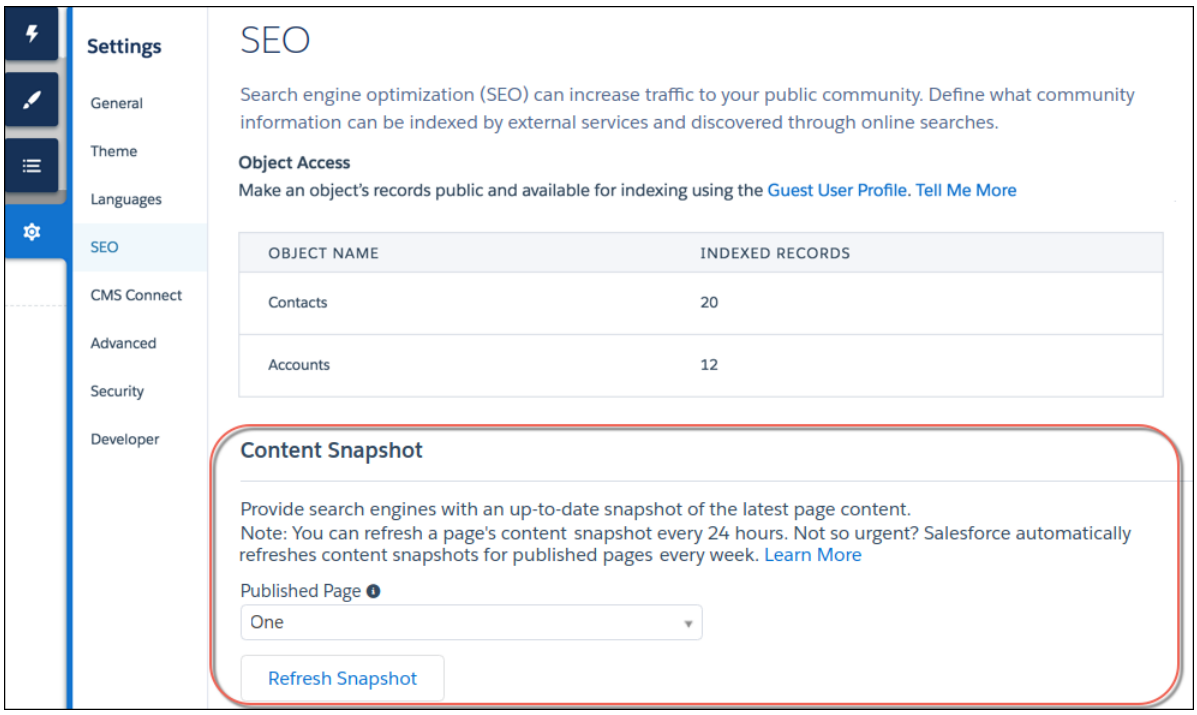
IdeaExchange: Hyperlink button in Lightning for Chatter posts (Lightning での Chatter 投稿のハイパーリンクボタン)

検索エンジンへの最新のコンテンツスナップショットの提供

Salesforce はコミュニティの公開済みの公開コンテンツの週単位のスナップショットを取得しており、これはほとんどの更新で適切に機能します。ただし、たとえば、期間限定セールでの価格の変更など、時間的制約のある重要な情報でページのコンテンツを更新するとします。毎週の更新を待つのではなく、24時間おきにスナップショットを取得し、検索エンジンに提供するページコンテンツを更新できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: コミュニティビルダーの [コンテンツスナップショット] 設定にアクセスするには、まずコミュニティの優先ドメインを設定する必要があります。次に、ページのコンテンツを更新し、変更を公開した後、[SEO] 設定タブの [公開済みページ] ドロップダウンでページを選択し、[スナップショットを更新] をクリックします。

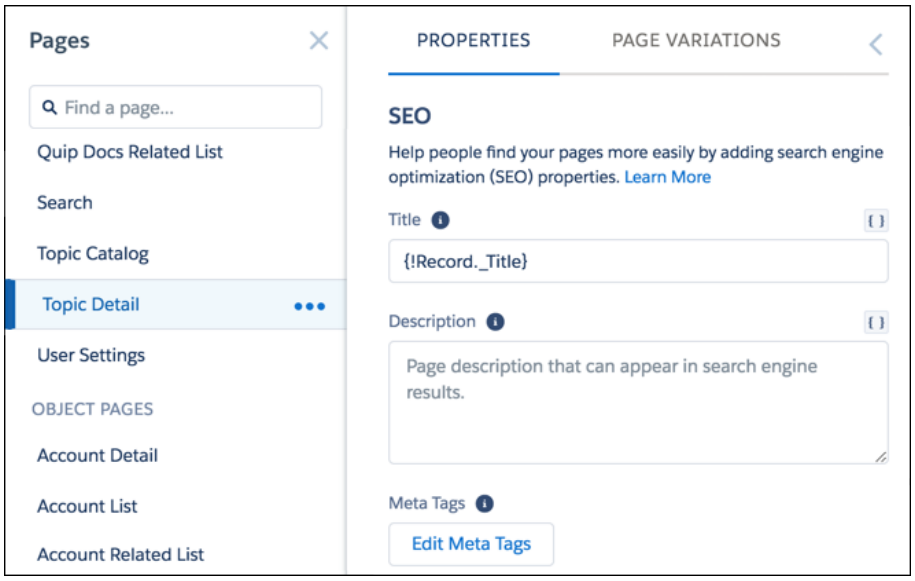


より多くのオブジェクト詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加

動的 SEO 値を追加して、検索エンジンの結果を改善し、顧客が探している記事、質問、トピック情報を容易に見つけることができるようにします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: 数リリース前に、編集可能な動的 SEO プロパティをコミュニティビルダーのオブジェクト詳細ページに追加しましたが、記事、質問、およびトピックの詳細ページではその機能を利用できませんでした。これらのオブジェクトにもこの機能を適用します。ページのプロパティで、式を使用して、関連付けられたレコードから動的ページのタイトルと説明の値を動的メタデータタグと共に追加できます。



SEO について把握

Lightning コミュニティのどのオブジェクトがインデックス付けされ、検索エンジンで使用できるかを一目で確認します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: オブジェクトと項目をインデックス付けできるようにする機能が Summer '18 で追加されましたが、ゲストユーザプロファイルを開かずに、公開されているオブジェクトを把握することは困難でした。アクセス可能なオブジェクトがコミュニティビルダーの [SEO] 設定タブに、インデックス付けされたレコード数と共に表示されるようになりました。



方法: [SEO] 設定タブで、ゲストユーザプロファイルを使用してどのオブジェクトを公開するかを設定し、適切なオブジェクトページを作成します。コミュニティを公開したら、テーブルが表示されるまで数分待ちます。

ヒント: [設定] 領域で [SEO] ページを表示するには、[一般] 設定ページで公開アクセスを有効にします。非公開ページはインデックス付けできません。

コミュニティでの Lightning コンポーネント: Lightning コンテナコンポーネント、Einstein Next Best Action、ケースデフレクションの追跡

サードパーティの UI フレームワーク (React、Vue、Angular 2.0 など) を使用して構築したコンポーネントを作成および再利用し、コミュニティに埋め込みます。Community Cloud 向けに構築された人工知能である Einstein Next Best Action を使用して、適切な提案を適切なタイミングで提供します。デフレクション追跡コンポーネントを使用して、コミュニティのコンテンツがどのように役立っているかについてフィードバックを取得します。

このセクションの内容:

コミュニティでのカスタム Lightning Web コンポーネントの使用

Spring '19 では、Lightning Web コンポーネントと呼ばれる新しい種別の Lightning コンポーネントが導入されます。開発者は、システム管理者がコミュニティページにドラッグできるカスタム Lightning Web コンポーネントを作成できます。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネント (旧称 Lightning コンポーネント) は 1 つのページで同時に機能します。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザに表示されます。

コミュニティで Lightning コンテナコンポーネントを使用してコードを再利用

標準の Lightning コンポーネントを使用している Salesforce コミュニティに容易に複製できないサイト環境や既存のコードがありますか? コミュニティで `lightning:container` がサポートされるようになったため、既存のコードを再利用できるようになりました。React、Angular、Vue、または他のサードパーティ JavaScript フレームワークやオープンソースソフトウェアに組み込まれた既存のまたは新しいアプリケーションを、Lightning アプリケーションで `lightning:container` を使用して容易に統合できます。

ユーザへの推奨アクションと提案 (正式リリース)

Einstein Next Best Action コンポーネントを使用して、アクションを推奨してアイデアを提案します。Lightning レコードページで使用できるこのコンポーネントは、組織のビジネスルールや予測モデルを適用するアクション戦略を使用して、状況に応じた提案やアクション (アップグレード、割引、タスクなど) を表示します。Next Best Action Strategy Builder を使用して、ユーザに表示するおすすめを決定する条件とルールを定義します。このコンポーネントは Einstein Next Best Action の一部として使用可能です。

コミュニティのコンテンツの役立ち度に関するフィードバックの取得

記事をコミュニティで使用できるようにすると、ユーザは火急の問題に対して自分で回答を見つけることができます。では、記事が役立ったかどうかをどうやって見分けることができるでしょうか? コミュニティビルダーでデフレクション追跡コンポーネントを使用して、コンテンツの有効性についてユーザに尋ねます。カスタマイズした回答セットをユーザに表示し、Salesforce 組織でフィードバックを取得します。

ユーザが回答をすばやく得られるように支援し、サポートの負荷を軽減

メンバーに質問がある場合、最適な情報を前面に表示し、メンバーが自分で解決できるようにします。ユーザが質問するときに関連する記事と以前の回答を使用して応答するように [質問] ボタンと [カスタマーサポートおよび質問] ボタンを設定します。メンバーは、応答に満足した場合に質問をキャンセルできます。また、質問の投稿を続けることもできます。

コミュニティメンバーがサポートからの電話を要求できるボタンを追加

メンバーをお待たせしないでください。[連絡要求ボタンおよびフロー] コンポーネントをコミュニティまたはポータルに追加して、メンバーがカスタマーサポートからのコールバックを要求できるようにします。ユーザが [ヘルプを要求] ボタンをクリックすると、ポップアップが表示され、ユーザは問題と連絡先の詳細を入力します。

さまざまなスタイルプロパティを使用してボタンを洗練する

コミュニティビルダーでボタンコンポーネントに輝きを加えました。新しいスタイルプロパティを使用すると、ボタンの外観を詳細に制御でき、ボタンをコミュニティのテーマに完全に合わせることができます。サイズ、形状、テキストの位置、色をボタンのプロパティから直接設定します。

主要トピックへのスタイルの追加

主要トピックのテキストにスタイルを追加し、テキストの背景の幅を設定し、タイルの境界線の形状を設定します。プロパティマネージャの新しいリンクにより、主要トピックコンポーネントのプロパティの設定から、コミュニティの主要トピックの設定に容易に移動できます。

コミュニティビルダーでのデフォルトのフィード並び替え順の定義

意図する初期環境でコミュニティメンバーとゲストに表示するフィードのデフォルトの並び替え順を設定します。ユーザが自分のビューで並び替え順を変更するように選択した場合、その選択内容が固定されます。すべての人が満足します!

レコード詳細でのインライン編集の使用

Lightning Experience の他の場所と同様に、コミュニティのレコードの詳細でインライン編集がサポートされるようになりました。

レコードリストのオプションの制御

最近はレコードリストからより多くのことを行うことができますが、それだけでなく、使用できるオプションを制御することもできます。新しいコントロールにより、同僚をレコードの詳細に送り込まずに同僚がレコードリストを編集できるようにしたり、アクションボタンを表示または非表示にしたり、検索バーを表示または非表示にしたりできます。

カスタマー取引先ポータルテンプレートで使用できるコンポーネントの増加

カスタマー取引先ポータルコミュニティテンプレートでさらに 3 つのコンポーネント (主要トピック、トピックの説明、見出し) が使用できるようになりました。主要トピックと見出しはすべてのページ種別で使用できます。トピックの説明はトピックページで使用できます。

コミュニティでのカスタム Lightning Web コンポーネントの使用

Spring '19 では、Lightning Web コンポーネントと呼ばれる新しい種別の Lightning コンポーネントが導入されます。開発者は、システム管理者がコミュニティページにドラッグできるカスタム Lightning Web コンポーネントを作成できます。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネント (旧称 Lightning コンポーネント) は 1 つのページで同時に機能します。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザに表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント (正式リリース)

Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド): Configure a Component for Lightning Communities (Lightning コミュニティのコンポーネントの設定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティで Lightning コンテナコンポーネントを使用してコードを再利用

標準の Lightning コンポーネントを使用している Salesforce コミュニティに容易に複製できないサイト環境や既存のコードがありますか? コミュニティで `lightning:container` がサポートされるようになったため、既存のコードを再利用できるようになりました。React、Angular、Vue、または他のサードパーティ JavaScript フレームワークやオープンソースソフトウェアに組み込まれた既存のまたは新しいアプリケーションを、Lightning アプリケーションで `lightning:container` を使用して容易に統合できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: Lightning コンテナ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce 開発者ブログ: Lightning コンテナコンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce 開発者ブログ: 新しいコンテンツセキュリティポリシーオプションの導入 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザへの推奨アクションと提案 (正式リリース)

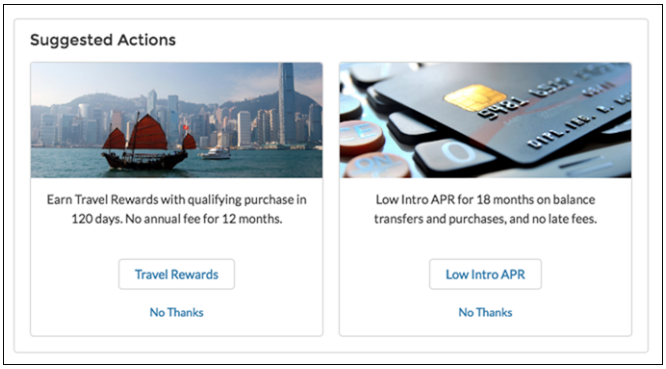
Einstein Next Best Action コンポーネントを使用して、アクションを推奨してアイデアを提案します。Lightning レコードページで使用できるこのコンポーネントは、組織のビジネスルールや予測モデルを適用するアクション戦略を使用して、状況に応じた提案やアクション (アップグレード、割引、タスクなど) を表示します。Next Best Action Strategy Builder を使用して、ユーザに表示するおすすめを決定する条件とルールを定義します。このコンポーネントは Einstein Next Best Action の一部として使用可能です。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: ユーザが提案を受け入れると、画面フローが起動します。フローを実行するには、コミュニティメンバーに「フローを実行」権限があるか、コミュニティメンバーのユーザの詳細ページで「フローユーザ」項目が有効になっている必要があります。

理由: ケースの説明に「credit card benefits」(クレジットカードの利点) という記載がある場合に 2 つの推奨フローを表示するアクション戦略を作成したとします。1 つは旅行限定の新しいカードを提案するフロー、もう 1 つ

は金利と手数料の低い新しいカードを提案するフローです。このキーワードが含まれるケースを顧客が作成すると、2 つの推奨アクションが表示されます。



Chatter REST API および Chatter in Apex は Einstein Next Best Action をサポートします。

関連トピック:

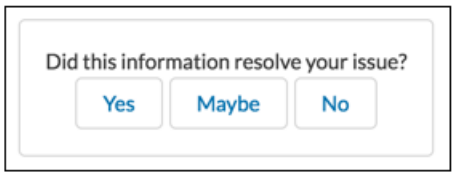
- Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)
- *Salesforce* ヘルプ: 推奨アクション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティのコンテンツの役立ち度に関するフィードバックの取得

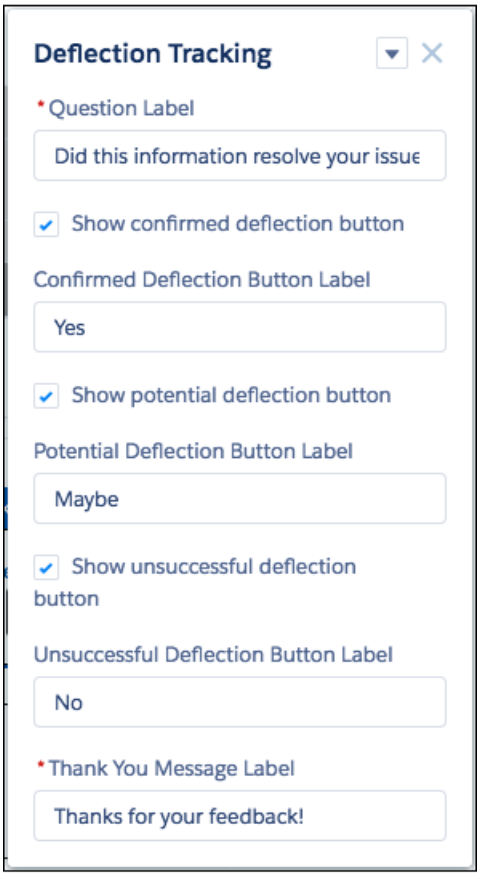
記事をコミュニティで使用できるようにすると、ユーザは火急の問題に対して自分で回答を見つけることができます。では、記事が役立ったかどうかをどうやって見分けることができるでしょうか?コミュニティビルダーでデフレクション追跡コンポーネントを使用して、コンテンツの有効性についてユーザに尋ねます。カスタマイズした回答セットをユーザに表示し、Salesforce 組織でフィードバックを取得します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: 提案されたコンテンツがユーザにとってどの程度役立つのかを確認します。



方法: コミュニティビルダーで、デフレクション追跡コンポーネントをフィードの詳細ページ、質問の詳細ページ、記事の詳細ページにドラッグします。Lightning コミュニティ向け Salesforce Case Deflection Reporting Package を使用してレポートを作成し、記事の有効性を測定します。レポートは、実際のデータに対するコンテンツ戦略の作成に役立ちます。

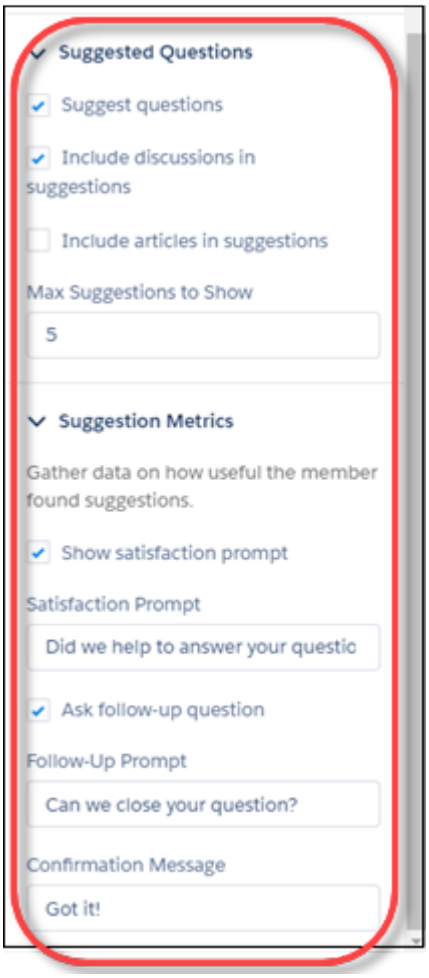


ユーザが回答をすばやく得られるように支援し、サポートの負荷を軽減

メンバーに質問がある場合、最適な情報を前面に表示し、メンバーが自分で解決できるようにします。ユーザが質問するときに関連する記事と以前の回答を使用して応答するように [質問] ボタンと [カスタマーサポートおよび質問] ボタンを設定します。メンバーは、応答に満足した場合に質問をキャンセルできます。また、質問の投稿を続けることもできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: 提案の有効性に関するデータを収集するようにボタンの [提案総計値] プロパティを設定することもできます。この情報を使用して、差異を特定し、知識ベースを微調整します。



方法:コミュニティビルダーで[質問ボタン]または[カスタマーサポートおよび質問ボタン]をページに配置し、そのプロパティを設定します。

コミュニティメンバーがサポートからの電話を要求できるボタンを追加

メンバーをお待たせしないでください。[連絡要求ボタンおよびフロー]コンポーネントをコミュニティまたはポータルに追加して、メンバーがカスタマーサポートからのコールバックを要求できるようにします。ユーザが[ヘルプを要求]ボタンをクリックすると、ポップアップが表示され、ユーザは問題と連絡先の詳細を入力します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **でアクセスする** Lightning **コミュニティに適用されます。**

関連トピック:

- コミュニティ: 顧客がサポートからの電話を要求可能

さまざまなスタイルプロパティを使用してボタンを洗練する

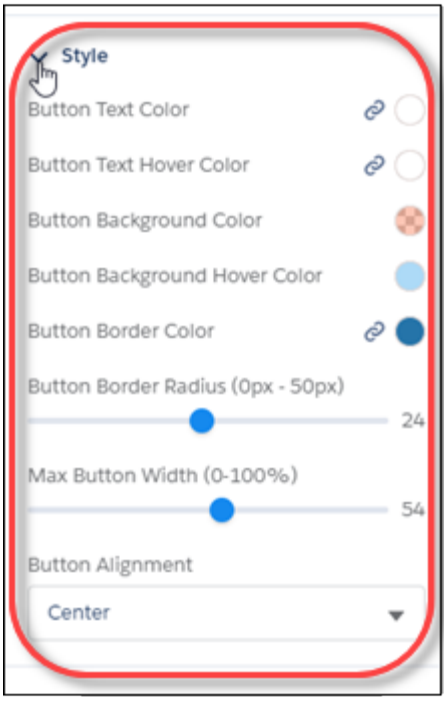
コミュニティビルダーでボタンコンポーネントに輝きを加えました。新しいスタイルプロパティを使用すると、ボタンの外観を詳細に制御でき、ボタンをコミュニティのテーマに完全に合わせることができます。サイズ、形状、テキストの位置、色をボタンのプロパティから直接設定します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: 新しいスタイルプロパティを次のボタンで使用できます

- カスタマーサポートへの連絡
- カスタマーサポートおよび質問
- 質問
- フォロー

次の図は、質問ボタンの新しいプロパティを示しています。



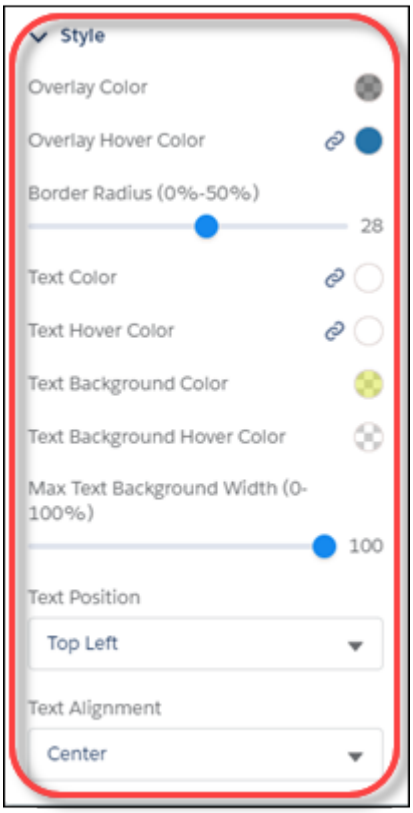
主要トピックへのスタイルの追加

主要トピックのテキストにスタイルを追加し、テキストの背景の幅を設定し、タイルの境界線の形状を設定します。プロパティマネージャの新しいリンクにより、主要トピックコンポーネントのプロパティの設定から、コミュニティの主要トピックの設定に容易に移動できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: コミュニティビルダーで、[主要トピック] または [主要トピック & フィード] コンポーネントを選択し、そのプロパティを設定します。コミュニティの主要トピックを設定する準備ができたら、プロパティマネージャ

で[主要トピックを追加または編集]リンクをクリックします。コンテンツ管理ワークスペースが表示され、ここで、コミュニティの主要トピックの設定に関する作業を行うことができます。



関連トピック:

- さまざまなスタイルプロパティを使用してボタンを洗練する

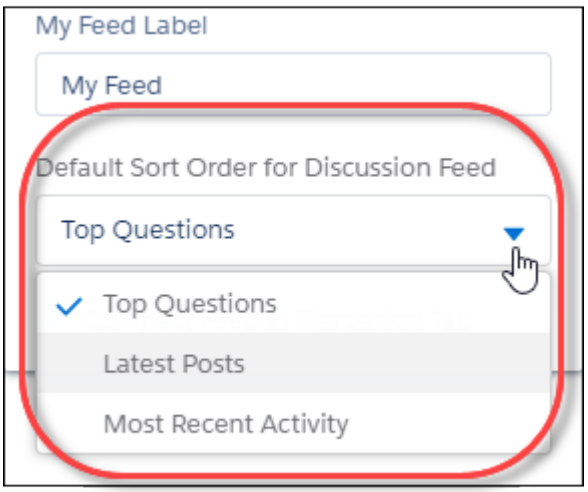
コミュニティビルダーでのデフォルトのフィード並び替え順の定義

意図する初期環境でコミュニティメンバーとゲストに表示するフィードのデフォルトの並び替え順を設定します。ユーザが自分のビューで並び替え順を変更するように選択した場合、その選択内容が固定されます。すべての人が満足します!

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: このコンポーネントの新しいデフォルトの並び替えオプションを確認してください。

- フィード
- フィードコンパクト
- 主要トピック & フィード
- 検索結果



方法:デフォルトの並び替え順を設定するには、コミュニティビルダーで、[フィード]、[フィードコンパクト]、または [主要トピック & フィード] コンポーネントを選択し、そのプロパティを変更します。

関連トピック:

- *IdeaExchange*: "Sort By" choice saved for user or session in Customer Service (Napili) template (ユーザまたはセッションの「並び替え」の選択を [カスタマーサービス (Napili)] テンプレートに保存)
- *IdeaExchange*: Change Default sort order discussions overview community (コミュニティのディスカッション概要のデフォルトの並び替え順を変更)
- *IdeaExchange*: Chatter Answers Default Sorting in Communities (Compact Feed) (コミュニティの Chatter アンサーのデフォルトの並び替え (コンパクトフィード))

レコード詳細でのインライン編集の使用

Lightning Experience の他の場所と同様に、コミュニティのレコードの詳細でインライン編集がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

メモ: この機能はモバイルまたはタブレット用途では使用できません。

関連トピック:

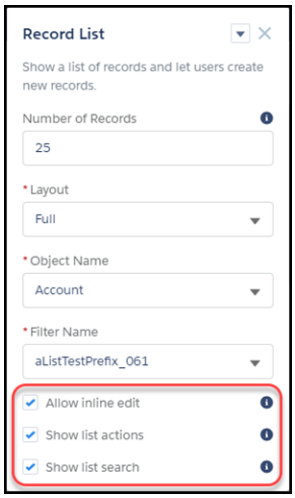
- レコードリストのオプションの制御

レコードリストのオプションの制御

最近はレコードリストからより多くのことを行うことができますが、それだけでなく、使用できるオプションを制御することもできます。新しいコントロールにより、同僚をレコードの詳細に送り込まずに同僚がレコードリストを編集できるようにしたり、アクションボタンを表示または非表示にしたり、検索バーを表示または非表示にしたりできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: 顧客のために含めるコンポーネントオプションを選択します。



メモ: これらのオプションはモバイルまたはタブレット用途では使用できません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: レコードリストコンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタマー取引先ポータルテンプレートで使用できるコンポーネントの増加

カスタマー取引先ポータルコミュニティテンプレートでさらに 3 つのコンポーネント (主要トピック、トピックの説明、見出し) が使用できるようになりました。主要トピックと見出しはすべてのページ種別で使用できます。トピックの説明はトピックページで使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

利用者: カスタム数式、より多くの条件、更新されたエディタ

コミュニティビルダーの利用者機能がさらに堅牢になりました。利用者をさらに絞り込むには、カスタム条件数式を作成し、追加の条件種別を使用します。最後に、重要な点ですが、エディタが更新され、読みやすくなりました。

このセクションの内容:

更新された利用者エディタによる作業効率と使いやすさの向上
更新されたエディタでカスタムロジックを使用して、自由に無制限の行を作成してリンクできます。

カスタム利用者数式の作成
カスタムロジックを使用して条件をリンクし、対象を絞った利用者を作成します。たとえば、サンフランシスコまたはロサンゼルスに住んでいる重要な顧客をすべて対象にします。
新しい条件およびデータ型による利用者の機能強化
ユーザに割り当てられた標準権限やカスタム権限に基づいて、対象利用者を絞り込むことができるようになりました。たとえば、「コミュニティフィードのモデレート」権限を持つすべてのユーザを選択して、モデレータの利用者を作成します。ユーザオブジェクトの項目に基づいて利用者を作成する場合、追加のデータ型を使用することもできます。currency、multipicklist、date が追加されました。

更新された利用者エディタによる作業効率と使いやすさの向上

更新されたエディタでカスタムロジックを使用して、自由に無制限の行を作成してリンクできます。

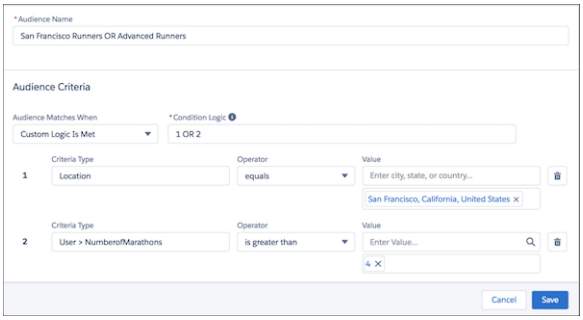
対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

カスタム利用者数式の作成

カスタムロジックを使用して条件をリンクし、対象を絞った利用者を作成します。たとえば、サンフランシスコまたはロサンゼルスに住んでいる重要な顧客をすべて対象にします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: カスタムロジックの作成を開始するには、[次の場合に利用者が一致] ドロップダウンリストで [カスタム条件に一致] を選択します。



新しい条件およびデータ型による利用者の機能強化

ユーザに割り当てられた標準権限やカスタム権限に基づいて、対象利用者を絞り込むことができるようになりました。たとえば、「コミュニティフィードのモデレート」権限を持つすべてのユーザを選択して、モデレータの利用者を作成します。ユーザオブジェクトの項目に基づいて利用者を作成する場合、追加のデータ型を使用することもできます。currency、multipicklist、date が追加されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: ユーザプロファイルや権限セットを使用してユーザに割り当てられた任意の標準権限またはカスタム権限を選択できます。権限条件は、権限を使用してバックエンド機能を制御する場合に特に便利です (対応するフロントエンド環境を作成できるようになったため)。

Partner Central: パートナー取引先リレーションとデータ共有ルール、予算階層、取引先管理の機能強化

パートナーリレーションとデータ共有ルールを使用すると、パートナーはコードではなくクリック操作を使用して目的のレコードを互いに安全に共有できます。予算階層を使用すると、チャネル取引先マネージャは複数のパートナー間で予算を分割でき、パートナーは自分の予算の管理と割り当てができます。取引先管理の機能強化によって、内部ユーザとシステム管理者は新しいコミュニティメンバーを作成および編集できます。ユーザは取引先を 1 つの取引先ブランドにシームレスにマージできます。

このセクションの内容:

パートナー取引先のリレーションおよびデータ共有ルールの作成 (正式リリース)

複数の流通業者を使用していて、オブジェクトレコードへの異なるレベルのアクセス権が各流通業者に必要な場合、共有ルールは複雑になる可能性があります。特定の情報のみを共有することで、パートナー取引先間の共有リレーションの作成と機密データの保護を容易に行うことができます。チャネル取引先マネージャは、取引先リレーションデータ共有ルールと取引先リレーションを使用して、情報の共有方法と情報を共有するユーザを絞り込むことができます。

商談およびリードのパートナー取引先の更新

あなたは、地域部門があるパートナー取引先のチャネルマネージャだとします。パートナー取引先から商談を作成しましたが、現在 1 つの部門が主導して商談を促進しています。商談またはリードのパートナー取引先項目を更新して、誰が商談を促進しているのかをより正確に追跡できるようになりました。

パートナーユーザによる予算階層を使用した各自の予算の管理

予算金額を制御しながら、キャンペーンと自動化に適用される市場開発資金の柔軟性を高めます。パートナーユーザが自分で管理できるようにして、全員の予算の管理からチャネル取引先マネージャを解放します。予算階層を使用すると、チャネル取引先マネージャは、パートナーユーザが管理できる子予算を作成できます。この情報はチャネル取引先マネージャにも積み上げられますが、パートナーユーザには、自分の組織内で割り当てと承認を行う自主性が与えられます。

内部ユーザとシステム管理者による取引先からのコミュニティメンバーの表示および管理

内部ユーザとシステム管理者が取引先からコミュニティメンバーを表示および管理できるようになりました。取引先管理を使用して、ユーザはメンバーを表示したり、メンバーをコミュニティに追加したり、メンバーを無効化および有効化したり、メンバーのパスワードをリセットしたりできます。

重複する取引先の取引先ブランド情報のマージ

重複する取引先をマージすると、マスターレコードの取引先ブランド情報が保持されようになりました。マスターレコードに取引先ブランドがない場合、重複する取引先に関連付けられている最近作成された取引先ブランド情報が接続されます。

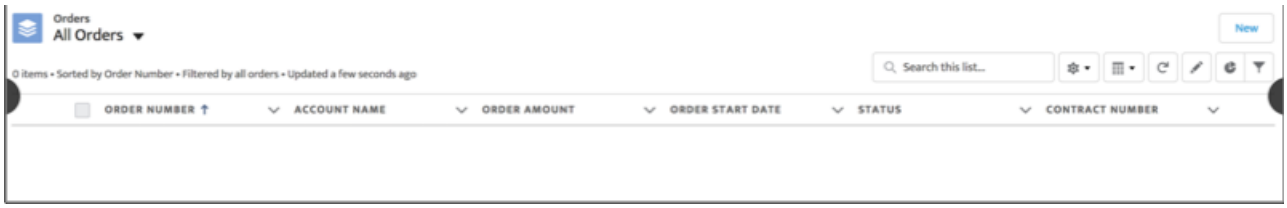
パートナー取引先のリレーションおよびデータ共有ルールの作成 (正式リリース)

複数の流通業者を使用していて、オブジェクトレコードへの異なるレベルのアクセス権が各流通業者に必要な場合、共有ルールは複雑になる可能性があります。特定の情報のみを共有することで、パートナー取引先間の共有リレーションの作成と機密データの保護を容易に行うことができます。チャネル取引先マネージャは、取引先リレーションデータ共有ルールと取引先リレーションを使用して、情報の共有方法と情報を共有するユーザを絞り込むことができます。

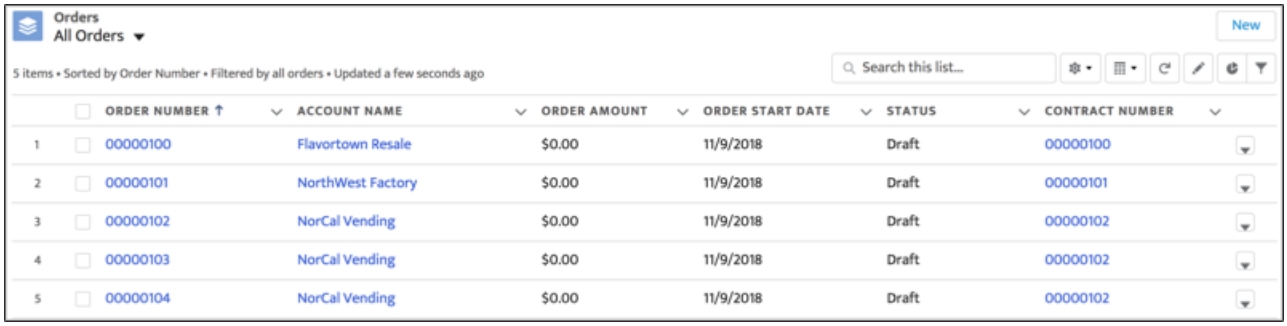
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: Partner Community および Customer Community Plus ライセンスを持つ外部ユーザは取引先リレーションにアクセスできます。取引先リレーションデータ共有ルールを作成および管理する必要があるユーザには「コミュニティの作成および設定」権限が必要です。

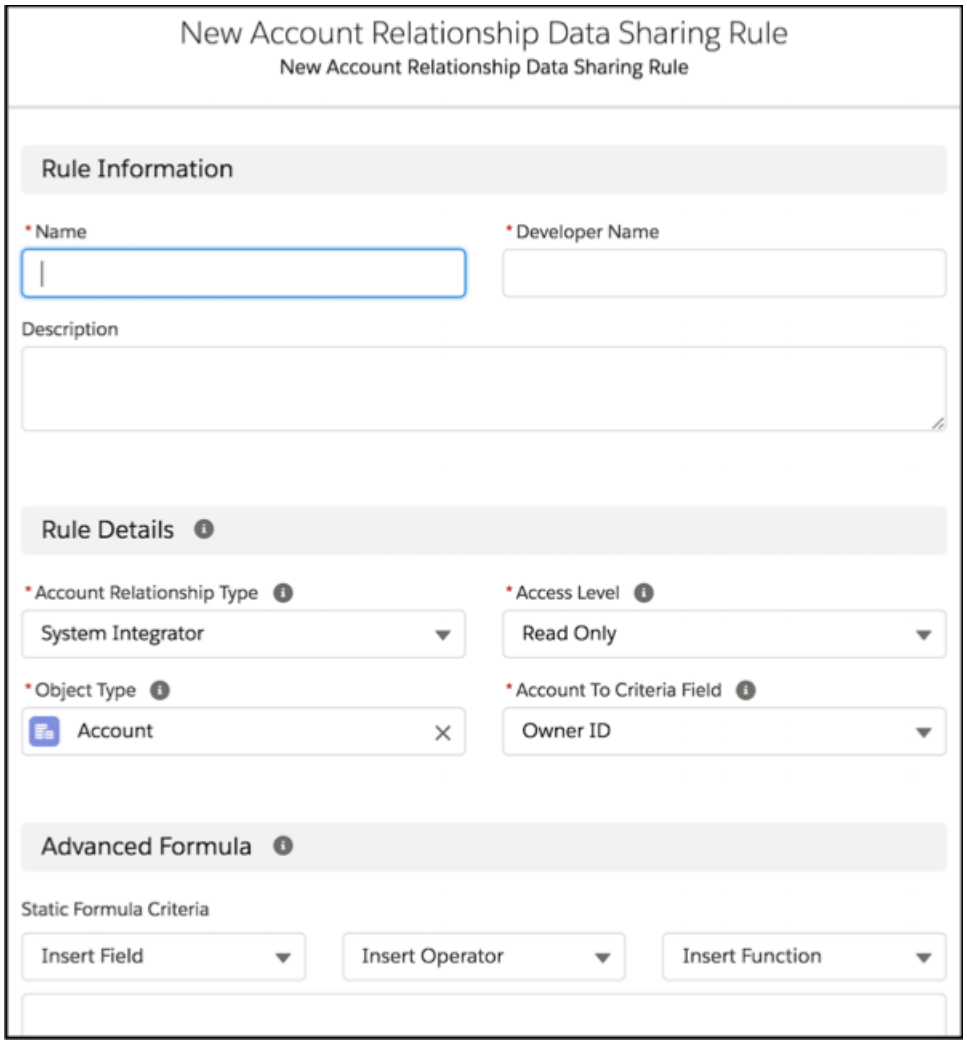
理由: 次の [すべての注文] リストビューは、取引先リレーションおよび取引先リレーションデータ共有ルールを設定する前にパートナーにアクセス権のあった注文のリストです。



次の [すべての注文] リストビューは、取引先リレーションデータ共有ルールが作成されて取引先リレーションに関連付けられた後のリストビューです。



方法: 取引先リレーション種別、情報の共有方法 (所有者または取引先 ID)、付与するアクセス権 (参照または参照・更新)、および共有するオブジェクトレコードを決定する取引先リレーションデータ共有ルールを作成します。取引先リレーションデータ共有ルールは、取引先、取引先責任者、キャンペーン、ケース、リード、商談、注文、カスタムオブジェクトに適用できます。データ共有ルールをさらに絞り込むには、高度な数式を使用します。



同じ取引先リレーション種別の取引先リレーションの場合、このルールを使用してデータを共有できます。

商談およびリードのパートナー取引先の更新

あなたは、地域部門があるパートナー取引先のチャネルマネージャだとします。パートナー取引先から商談を作成しましたが、現在1つの部門が主導して商談を促進しています。商談またはリードのパートナー取引先項目を更新して、誰が商談を促進しているのかをより正確に追跡できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

パートナーユーザによる予算階層を使用した各自の予算の管理

予算金額を制御しながら、キャンペーンと自動化に適用される市場開発資金の柔軟性を高めます。パートナーユーザが自分で管理できるようにして、全員の予算の管理からチャネル取引先マネージャを解放します。予算階層を使用すると、チャネル取引先マネージャは、パートナーユーザが管理できる子予算を作成できます。この情報はチャネル取引先マネージャにも積み上げられますが、パートナーユーザには、自分の組織内で割り当てと承認を行う自主性が与えられます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

方法: 階層内に子予算を 5 レベル作成します。予算総額と階層レベルの最大数を超えない限り、子予算と割り当ての任意の組み合わせを予算から作成できます。

内部ユーザとシステム管理者による取引先からのコミュニティメンバーの表示および管理

内部ユーザとシステム管理者が取引先からコミュニティメンバーを表示および管理できるようになりました。取引先管理を使用して、ユーザはメンバーを表示したり、メンバーをコミュニティに追加したり、メンバーを無効化および有効化したり、メンバーのパスワードをリセットしたりできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

重複する取引先の取引先ブランド情報のマージ

重複する取引先をマージすると、マスターレコードの取引先ブランド情報が保持されようになりました。マスターレコードに取引先ブランドがない場合、重複する取引先に関連付けられている最近作成された取引先ブランド情報が接続されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

セキュリティと共有: より多くのオブジェクトでの共有セット、複数の取引先がある取引先責任者での共有セット、CSP 警告の回避、クリックジャックの容易な有効化

キャンペーン、商談、および注文と、複数の取引先の取引先責任者で共有セットを使用します。CMS Connect の CSP 警告を回避し、CSL リソースの問題を検出して解決します。コミュニティビルダーからクリックジャック保護をより容易に有効化します。

このセクションの内容:

キャンペーン、商談、注文での共有セットの使用 (正式リリース)
共有セットを使用して、ポータルまたはコミュニティユーザに、キャンペーン、商談、注文へのアクセス権を付与できるようになりました。

複数の取引先がある取引先責任者で共有セットを使用 (正式リリース)

取引先と取引先責任者の既存のリレーションを使用して、レコードアクセスを簡素化します。複数の取引先に関連付けられている取引先責任者からコミュニティまたはポータルユーザを作成するとします。次に、共有セットを作成し、その取引先責任者に関連するいずれかの取引先へのルックアップを持つすべてのレコードへのアクセス権を付与できます。

コミュニティまたはポータルを使用する組織の外部組織の共有設定の有効化 (重要な更新)

この更新により、外部共有モデルが有効になり、デフォルトの外部アクセス権設定の確認が必要なオブジェクトのリストがシステム管理者に提供されます。この更新によって外部ユーザにより厳しいアクセスレベルを設定できるようになり、データの保護が促進されます。Spring '19 より前の組織の共有設定では、内部ユーザと外部ユーザに同じデフォルトのオブジェクトアクセス権が割り当てられていました。この更新を有効化すると、コミュニティまたはポータルを使用するすべての組織で外部組織の共有設定が有効になります。

コミュニティへのコンテンツセキュリティポリシーレベルの割り当て

現在、デフォルトのスクリプトセキュリティレベルは、最適なセキュリティを提供する*厳格*です。厳格なコンテンツセキュリティポリシー (CSP) では、サイトでのインラインスクリプトの実行がブロックされます。非スクリプトリソースは許可されます。たとえば、画像の承認、サードパーティホストの表示は許可されます。この厳格なレベルを使用することをお勧めします。

CMS Connect を使用する場合の CSP エラーの回避

コミュニティのコンテンツセキュリティポリシー (CSP) 設定との新しいインテグレーションにより、CMS Connect で公開前に問題を回避しやすくなります。CMS Connect は、外部 URL をホワイトリストに登録しようとし、問題を認識したときに警告します。

CSP リソースの問題の検出と解決

特定のリソースが Lightning コミュニティのコンテンツセキュリティポリシー (CSP) 設定と矛盾していることを知ることは必ずしも容易ではありませんでした。コミュニティビルダーの [セキュリティ] タブにある [CSP エラー] セクションを使用することで、問題の場所を確認し、問題をすばやく解決できるようになりました。

コミュニティビルダーでクリックジャック保護を容易に有効化

Lightning コミュニティのクリックジャック保護レベルをコミュニティビルダーから直接有効化できるようになりました。クリックジャック保護により、ユーザをだましてクリックすべきでないものをクリックさせようとする攻撃を回避できます。

ケースへのコミュニティユーザアクセスの制限 (正式リリース)

カスタマーコミュニティプラスライセンスを持つユーザが、自分が取引先責任者として含まれているケースを参照および編集できるかどうかを制御します。割り当て済みの取引先責任者と、その取引先責任者のロール階層内のすべてのユーザにケースへのアクセス権を付与する標準共有動作を無効にできます。この共有動作を無効にした後、手動共有を作成するか、Apex 管理共有を使用して、ケースへのアクセスを制御できます。

ゲストユーザに何が表示されるかを確認

コミュニティのセキュリティ設計から推測作業を取り除くには、ログインしていない訪問者に Lightning コミュニティがどのように表示されるのかを確認できます。以前は、コミュニティをプレビューした場合、認証されたユーザとしてコミュニティを参照していました。そのため、ゲストユーザに何が表示されるかを正確に確認することは困難でした。

Internet Explorer でサイトおよびコミュニティの iframeDomain Cookie を設定

Internet Explorer でページ間を移動した場合、`_iframeDomain` などの URL 変数は必ずしも保存されません。この動作により、ユーザは一部のページを iframe に埋め込むことができませんでした。`_iframeDomain` が存在しない場合、`iframeDomain` Cookie に設定され、ホワイトリストに登録された URL ドメインで、iframe が許可されるようになりました。

ログイン検出のログイン画面とエラーメッセージのローカライズ

コミュニティでログイン検出ページ種別を使用する場合、カスタム表示ラベルを使用してログイン画面をローカライズできます。Apex でカスタムログインエラーメッセージをローカライズすることもできます。

新規ユーザによるサインアップ前のコミュニティの体験

コミュニティセルフ登録の非同期メール検証が追加されました。非同期メールにより、ユーザはいつでもメールアドレスを検証できます。ユーザに検証リンクをメールメッセージで送信します。ユーザは都合の良いときにリンクをクリックしてメールアドレスを検証できます。遅延なしでコミュニティへのアクセス権を付与して新規メンバーを歓迎できます。また、ユーザがブランドを認識できるようにメールメッセージをカスタマイズすることもできます。

コミュニティサインアップ用の独自の検証ページの作成

ユーザがメールアドレスまたは電話番号でコミュニティにサインアップすると、Salesforce から検証コードが送信され、ユーザが ID を確認するための検証ページが生成されます。ロゴ、色、背景で検証ページをブランド設定できるようになりましたが、Salesforceから取得するフォームはブランド設定できませんでした。今回のリリースでは、Visualforce といくつかの Apex メソッドを使用して検証ページのレイアウトとテキストをカスタマイズできるようになりました。

重要な更新「Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」の延期

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '20 に延期されました。

キャンペーン、商談、注文での共有セットの使用 (正式リリース)

共有セットを使用して、ポータルまたはコミュニティユーザに、キャンペーン、商談、注文へのアクセス権を付与できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コミュニティでの共有セットの使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

複数の取引先がある取引先責任者で共有セットを使用 (正式リリース)

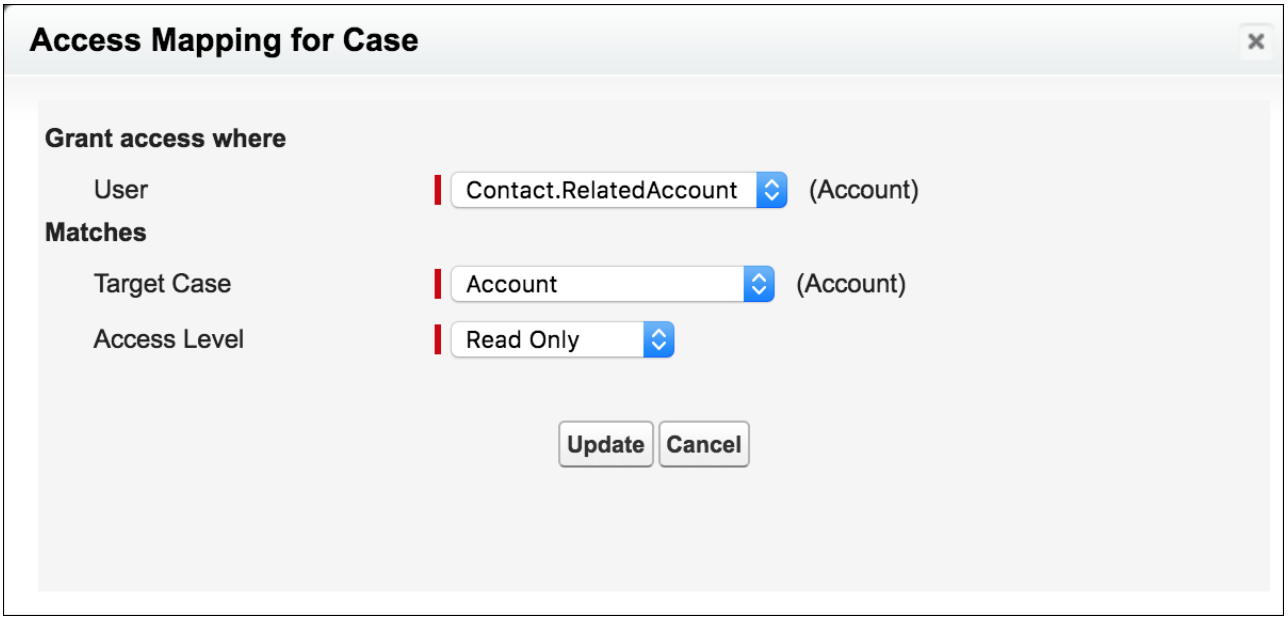
取引先と取引先責任者の既存のリレーションを使用して、レコードアクセスを簡素化します。複数の取引先に関連付けられている取引先責任者からコミュニティまたはポータルユーザを作成するとします。次に、共有セットを作成し、その取引先責任者に関連するいずれかの取引先へのルックアップを持つすべてのレコードへのアクセス権を付与できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

対象ユーザ: 次のライセンスまたはこれらのログインに相当するものを持つユーザは共有セットを使用できます。

- カスタマーコミュニティ
- カスタマーコミュニティプラス
- パートナーコミュニティ
- Lightning External Apps
- Lightning External Apps Plus

方法: [設定]で、[クイック検索]ボックスに「*コミュニティ設定*」と入力し、[コミュニティ設定]を選択します。[共有セット]関連リストで、[新規]をクリックします。[アクセス権の設定]でアクセスマッピングを設定します。[ユーザ]に **[Contact.RelatedAccount]**、[対象オブジェクト]に **[Account]** を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コミュニティでの共有セットの使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 取引先責任者-to-複数取引先の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティまたはポータルを使用する組織の外部組織の共有設定の有効化 (重要な更新)

この更新により、外部共有モデルが有効になり、デフォルトの外部アクセス権設定の確認が必要なオブジェクトのリストがシステム管理者に提供されます。この更新によって外部ユーザにより厳しいアクセスレベルを設定できるようになり、データの保護が促進されます。Spring'19より前の組織の共有設定では、内部ユーザと外部ユーザに同じデフォルトのオブジェクトアクセス権が割り当てられていました。この更新を有効化すると、コミュニティまたはポータルを使用するすべての組織で外部組織の共有設定が有効になります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

時期: この重要な更新は、2019 年 6 月 17 日に適用されます。コミュニティをオンにしている組織は、この日付以降、このデフォルトが有効になります。

理由: 外部組織の共有設定を最初に有効にしたときに、外部アクセスレベルは内部アクセスレベルと一致するように設定されます。この共有設定では、必要以上のデータアクセスが外部ユーザに付与される場合があります。外部ユーザに関する Salesforce のセキュリティ推奨事項を満たしていないオブジェクトのリストが、重要な更新コンソールに提供されています。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[コミュニティまたはポータルを使用する組織で外部組織の共有設定を有効化] の [有効化] をクリックします。

外部組織の共有設定を有効化したら、外部ユーザのアクセスレベルを確認します。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[組織の共有設定] で、デフォルトの外部アクセス権を編集します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 外部組織の共有設定の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティへのコンテンツセキュリティポリシーレベルの割り当て

現在、デフォルトのスクリプトセキュリティレベルは、最適なセキュリティを提供する*厳格*です。厳格なコンテンツセキュリティポリシー (CSP) では、サイトでのインラインスクリプトの実行がブロックされます。非スクリプトリソースは許可されます。たとえば、画像の承認、サードパーティホストの表示は許可されます。この厳格なレベルを使用することをお勧めします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

時期: この変更は、2019 年 2 月に有効になります。

方法: セキュリティレベルは [設定] > [コミュニティビルダのセキュリティ] で変更できます。

メモ: 新しいコミュニティの [インラインスクリプトと、任意のサードパーティホストへのスクリプトアクセスを許可] オプションは削除されました。このオプションは、デフォルトオプションでしたが、既存のコミュニティのオプションとして引き続き使用されます。

CMS Connect を使用する場合の CSP エラーの回避

コミュニティのコンテンツセキュリティポリシー(CSP)設定との新しいインテグレーションにより、CMS Connect で公開前に問題を回避しやすくなります。CMS Connect は、外部URLをホワイトリストに登録しようとし、問題を認識したときに警告します。

対象: この変更は、Lightning Experience や Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

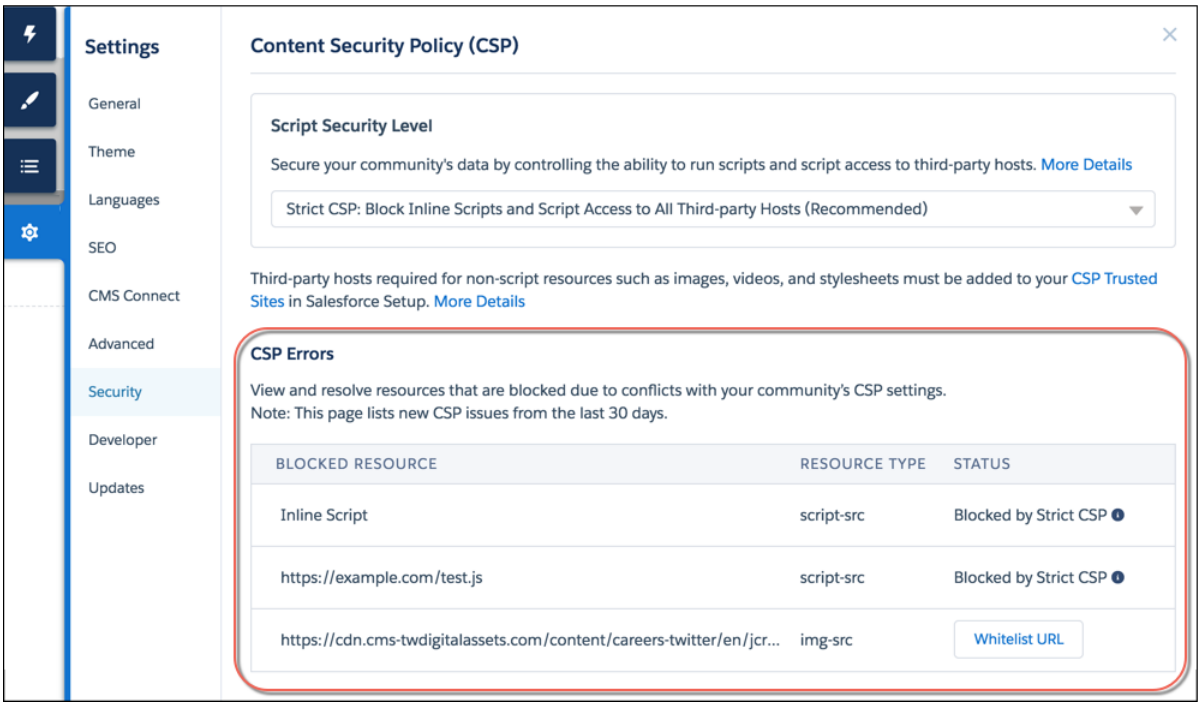
関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: コンテンツセキュリティポリシー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: CMS Connect (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

CSP リソースの問題の検出と解決

特定のリソースが Lightning コミュニティのコンテンツセキュリティポリシー (CSP) 設定と矛盾していることを知ることは必ずしも容易ではありませんでした。コミュニティビルダーの [セキュリティ] タブにある [CSP エラー] セクションを使用することで、問題の場所を確認し、問題をすばやく解決できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

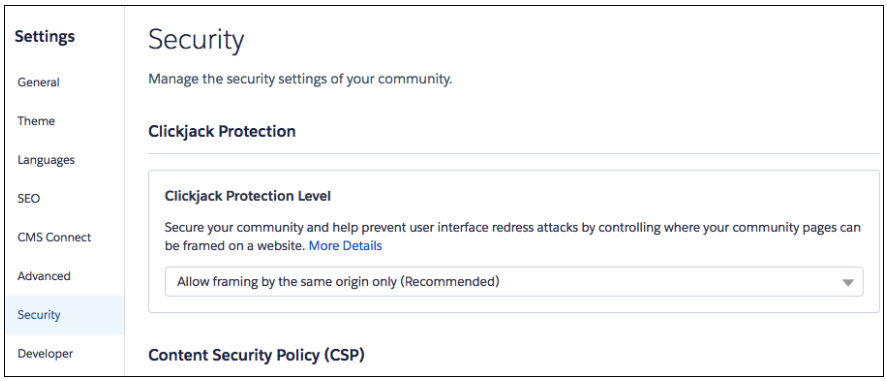


コミュニティビルダーでクリックジャック保護を容易に有効化

Lightningコミュニティのクリックジャック保護レベルをコミュニティビルダーから直接有効化できるようになりました。クリックジャック保護により、ユーザをだましてクリックすべきでないものをクリックさせようとする攻撃を回避できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: [設定] で [セキュリティ] に移動し、ドロップダウンから保護レベルを選択します。



ケースへのコミュニティユーザアクセスの制限 (正式リリース)

カスタマーコミュニティプラスライセンスを持つユーザが、自分が取引先責任者として含まれているケースを参照および編集できるかどうかを制御します。割り当て済みの取引先責任者と、その取引先責任者のロール階層内のすべてのユーザにケースへのアクセス権を付与する標準共有動作を無効にできます。この共有動作を無効にした後、手動共有を作成するか、Apex 管理共有を使用して、ケースへのアクセスを制御できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

理由: たとえば、会社に複数のオフィスがあり、各オフィスの場所内でケースを非公開のままにするとします。標準共有動作を無効にすると、ある場所から別の場所へ異動したコミュニティユーザが自分のケースへのアクセスを自動的に保持することはありません。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。[その他の設定] セクションで、[コミュニティユーザに関連ケースへのアクセス権を付与] をオフにします。

関連トピック:

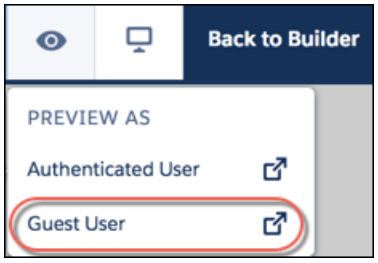
Salesforce ヘルプ: ケースへのコミュニティユーザのアクセスを制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ゲストユーザに何が表示されるかを確認

コミュニティのセキュリティ設計から推測作業を取り除くには、ログインしていない訪問者にLightningコミュニティがどのように表示されるのかを確認できます。以前は、コミュニティをプレビューした場合、認証されたユーザとしてコミュニティを参照していました。そのため、ゲストユーザに何が表示されるかを正確に確認することは困難でした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: コミュニティビルダーで [プレビュー] ボタンをクリックした後、 > [ゲストユーザ] をクリックし、新しいブラウザタブでコミュニティを開き、ゲストユーザとして参照します。コミュニティに1つの公開ページ (ホームページなど) が含まれていれば、[ゲストユーザ] オプションを使用してコミュニティをプレビューできるようになりました。



Internet Explorer でサイトおよびコミュニティの `iframeDomain` Cookie を設定

Internet Explorer でページ間を移動した場合、`_iframeDomain` などの URL 変数は必ずしも保存されません。この動作により、ユーザは一部のページを iframe に埋め込むことができませんでした。`_iframeDomain` が存在しない場合、`iframeDomain` Cookie に設定され、ホワイトリストに登録された URL ドメインで、iframe が許可されるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

方法: `iframeDomain` の値を使用して、`Cookie` クラスを作成します。この Cookie は、`www.example.com` によるフレーム化を許可します。

```
Cookie iframeDomainCookie = ApexPages.currentPage().getCookies().get('iframeDomain');

if (iframeDomainCookie == null) {
    iframeDomainCookie = new Cookie('iframeDomain','www.example.com');

    // Set the new cookie for the page
    ApexPages.currentPage().setCookies(new Cookie[]{iframeDomainCookie});
}
```

関連トピック:

Visualforce 開発者ガイド: Cookie クラス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ログイン検出のログイン画面とエラーメッセージのローカライズ

コミュニティでログイン検出ページ種別を使用する場合、カスタム表示ラベルを使用してログイン画面をローカライズできます。Apex でカスタムログインエラーメッセージをローカライズすることもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティと、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Community Cloud コンテンツ配信ネットワークの設定

新規ユーザによるサインアップ前のコミュニティの体験

コミュニティセルフ登録の非同期メール検証が追加されました。非同期メールにより、ユーザはいつでもメールアドレスを検証できます。ユーザに検証リンクをメールメッセージで送信します。ユーザは都合の良いときにリンクをクリックしてメールアドレスを検証できます。遅延なしでコミュニティへのアクセス権を付与して新規メンバーを歓迎できます。また、ユーザがブランドを認識できるようにメールメッセージをカスタマイズすることもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティと、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

非同期メール検証の送信

コミュニティサインアップ用の独自の検証ページの作成

ユーザがメールアドレスまたは電話番号でコミュニティにサインアップすると、Salesforceから検証コードが送信され、ユーザが ID を確認するための検証ページが生成されます。ロゴ、色、背景で検証ページをブランド設定できるようになりましたが、Salesforceから取得するフォームはブランド設定できませんでした。今回のリリースでは、Visualforce といくつかの Apex メソッドを使用して検証ページのレイアウトとテキストをカスタマイズできるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティと、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

関連トピック:

コミュニティサインアップ用の独自の検証ページの作成

重要な更新「Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」の延期

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '20 に延期されました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Lightning コミュニティのファイル: 権限、ユーザロール、セキュリティ

Lightning コミュニティのファイルに加えられた新機能と更新には、ゲストユーザがファイルをアップロードできる機能と、ユーザ、ロール、および権限を管理する新しい方法が含まれます。

このセクションの内容:

コミュニティのファイル詳細ページで統計を追跡
これは、ユーザがファイルを表示した回数およびダウンロードした回数を把握するのに役立ちます。コミュニティのファイル詳細ページのファイルエンゲージメントカードでこれらの統計を一目で確認できるようになりました。ファイルの通算での表示数とダウンロード数が、API とモバイルを含むすべてのユーザインターフェースでカウントされます。

コミュニティのゲストユーザによるファイルのアップロード
コミュニティでのファイル共有を促進します。ゲストユーザは、lightning:fileUpload コンポーネントを使用してファイルをアップロードできます。

コミュニティのファイル詳細ページで統計を追跡

これは、ユーザがファイルを表示した回数およびダウンロードした回数を把握するのに役立ちます。コミュニティのファイル詳細ページのファイルエンゲージメントカードでこれらの統計を一目で確認できるようになりました。ファイルの通算での表示数とダウンロード数が、API とモバイルを含むすべてのユーザインターフェースでカウントされます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ファイル詳細ページにファイルエンゲージメントカードを追加して、統計を表示します。



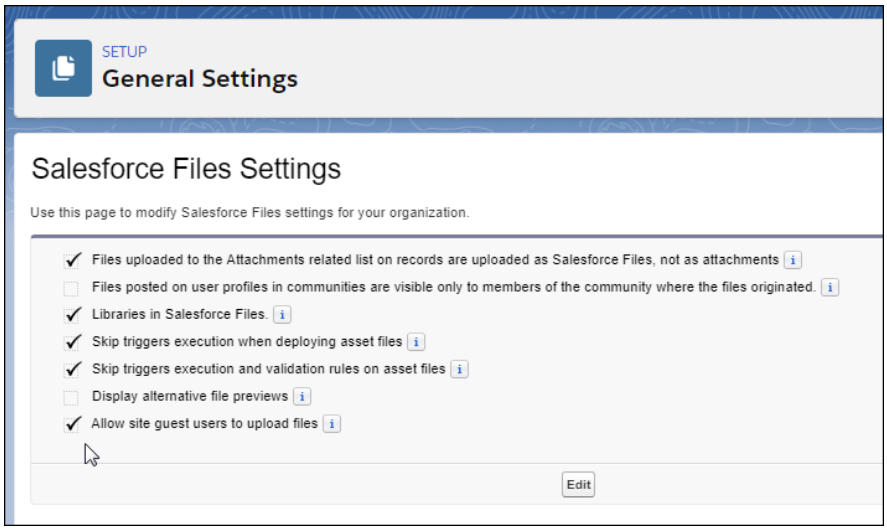
メモ: プレビューが表示されるファイル種別のみがカウントされます。公開リンクまたはコンテンツ配信を使用した表示とダウンロードは、組織のファイルのファイルエンゲージメント統計にカウントされません。

コミュニティのゲストユーザによるファイルのアップロード

コミュニティでのファイル共有を促進します。ゲストユーザは、lightning:fileUpload コンポーネントを使用してファイルをアップロードできます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: デフォルトでは、ゲストユーザのファイルのアップロードはブロックされています。開発者のカスタマイズ (Lightning ページなど) が作成されたら、システム管理者は、ゲストユーザがファイルをアップロードできるように設定を変更できます。有効にするには、[設定]>[一般設定]に移動して、[サイトのゲストユーザにファイルのアップロードを許可] を選択します。



メモ: 未割り当てのファイルはデフォルトで公開されます。ベストプラクティスとして、ゲストユーザによってアップロードされたファイルに所有者を割り当てるトリガを設定することをお勧めします。また、コミュニティファイルモデレーションを使用して、ファイルのアップロードサイズや種類を制限することもできます。

コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

コミュニティユーザ表示の制御 (正式リリース)

非公開にしておくべき情報もあります。メンバーが他のコミュニティのメンバーを表示できるようにするか、自分のコミュニティのメンバーのみを表示できるようにするかを制御できるようになりました。コミュニティユーザ表示を有効にして、メンバーが他のコミュニティのメンバーを表示できるようにします。コミュニティメンバーを非表示にするには、このオプションをオフにします。

コミュニティのトピックの使用状況に関するレポートの作成
コミュニティのすべてのトピックと、トピックが適用されている投稿と質問を表示するようにレポートを設定します。ネットワークを主オブジェクト、トピックの割り当てを第 2 オブジェクト、フィード投稿を第 3 オブジェクトとして使用して、カスタムレポートタイプを作成します。フィードコメントを第 4 オブジェクトとして含めることもできます。この情報を使用して、関連する記事とコンテンツが知識ベースにあるかどうかを確認できます。

Analytics ダッシュボードからの Salesforce のアクションの実行
Wave ダッシュボードコンポーネントで、Salesforce レコードを開いたり、レコードレベルのアクションや一括アクションを実行したりできるようになりました。グラフやテーブルのアクションメニューまたはテーブルウィジェットの一括アクションを設定します。これにより、コミュニティユーザはコミュニティを離れることなく、Analytics ダッシュボードから直接 Salesforce のレコードを開いてアクションを実行できます。アクションメニューには、ケースの作成、取引先の更新、Chatter への投稿など、Salesforce で定義したオブジェクト固有のアクションやグローバルアクションを含めることができます。一括アクションメニューオプションにより、ユーザは 1 回のクリックのみで複数の Salesforce レコードに対するアクションを実行できます。

コミュニティユーザ表示の制御 (正式リリース)

非公開にしておくべき情報もあります。メンバーが他のコミュニティのメンバーを表示できるようにするか、自分のコミュニティのメンバーのみを表示できるようにするかを制御できるようになりました。コミュニティユーザ表示を有効にして、メンバーが他のコミュニティのメンバーを表示できるようにします。コミュニティメンバーを非表示にするには、このオプションをオフにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce でアクセスする Lightning コミュニティと Salesforce タブ + Visualforce コミュニティに適用されます。

コミュニティのトピックの使用状況に関するレポートの作成

コミュニティのすべてのトピックと、トピックが適用されている投稿と質問を表示するようにレポートを設定します。ネットワークを主オブジェクト、トピックの割り当てを第 2 オブジェクト、フィード投稿を第 3 オブジェクトとして使用して、カスタムレポートタイプを作成します。フィードコメントを第4オブジェクトとして含めることもできます。この情報を使用して、関連する記事とコンテンツが知識ベースにあるかどうかを確認できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

Analytics ダッシュボードからの Salesforce のアクションの実行

Wave ダッシュボードコンポーネントで、Salesforce レコードを開いたり、レコードレベルのアクションや一括アクションを実行したりできるようになりました。グラフやテーブルのアクションメニューまたはテーブルウィジェットの一括アクションを設定します。これにより、コミュニティユーザはコミュニティを離れることなく、Analytics ダッシュボードから直接 Salesforce のレコードを開いてアクションを実行できます。アクションメニューには、ケースの作成、取引先の更新、Chatter への投稿など、Salesforce で定義したオブジェクト固有のアクションやグローバルアクションを含めることができます。一括アクションメニューオプションにより、ユーザは 1 回のクリックのみで複数の Salesforce レコードに対するアクションを実行できます。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

対象ユーザ: Customer Community Plus、Partner Community、または Lightning External Apps Plus ライセンスを所有するユーザがコミュニティの Analytics を使用できます。

関連トピック:

- コミュニティの Analytics からの Salesforce のアクションの実行

Chatter: 並び替えの保持、投稿のハイパーリンク、リダイレクト URL の改善、トピックおよび投稿に関するレポート

ユーザのフィードの並び替えオプションは、移動しても保持されます。投稿やコメントにハイパーリンクを追加します。フィードのリダイレクト URL が短くなり、フィード項目 ID が含まれます。特定のトピックが含まれる投稿およびコメントに関するレポートを実行し、投稿およびコメントのコンテンツやその他の詳細を確認します。

このセクションの内容:

並び替えの選択内容の保持

Lightning Experience でユーザがフィードから移動して戻ってきても、ユーザが選択したフィードの並び替えオプションは保持されます。フィードの表示方法をより詳細に制御できるため、ユーザエクスペリエンスが向上します。

投稿とコメントへのハイパーリンクの追加

Chatter で、投稿およびコメントにリンクを追加できるようになりました。

リダイレクト URL の短縮と有益性の向上

Lightning Experience で、ブラウザのアドレス項目に表示されるリダイレクト URL が簡潔で明確になりました。プラットフォーム標準に準拠するようにフィードの URL リダイレクトが修正されました。標準構文は、短くて見やすくなっており、有益なフィード項目 ID が含まれます。

トピックおよびトピックを使用する投稿に関するレポートの作成

特定のトピックが含まれる投稿およびコメントに関するレポートを実行し、投稿およびコメントのコンテンツやその他の詳細を確認できるようになりました。トピックの割り当てを主オブジェクトとして、フィード投稿を第 2 オブジェクトとして使用するカスタムレポートタイプを作成します。また、フィードコメントを第3オブジェクトとして含めることもできます。以前は、特定のトピックが含まれる投稿などのレコードを収集したレポートを作成できましたが、投稿のコンテンツを表示できませんでした。

並び替えの選択内容の保持

Lightning Experience でユーザがフィードから移動して戻ってきても、ユーザが選択したフィードの並び替えオプションは保持されます。フィードの表示方法をより詳細に制御できるため、ユーザエクスペリエンスが向上します。

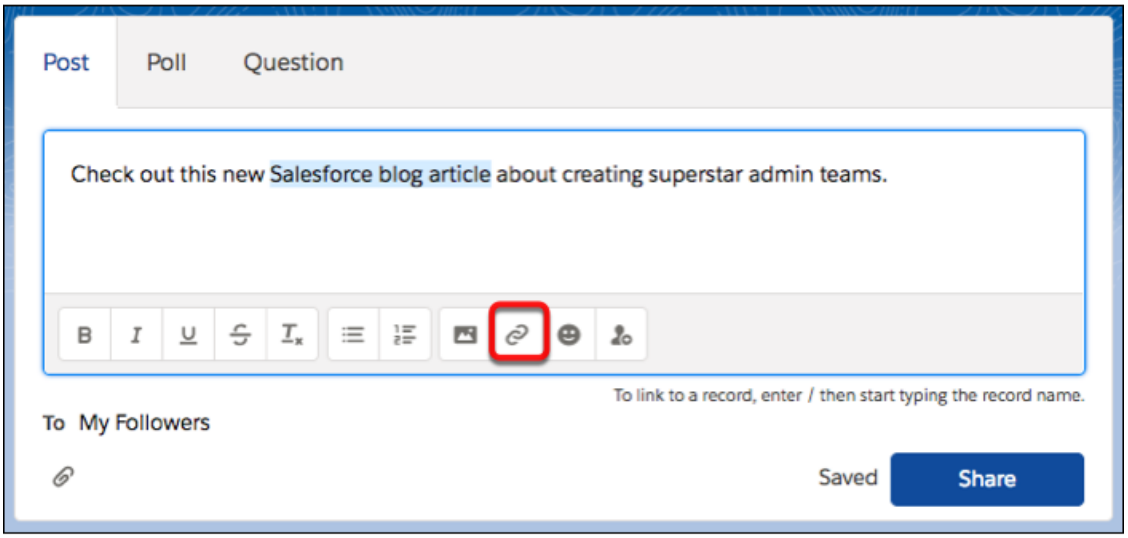
対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

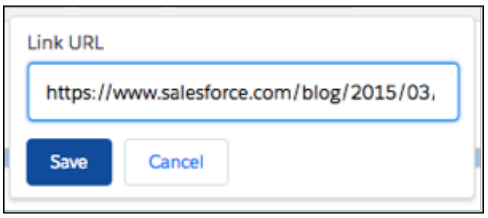
投稿とコメントへのハイパーリンクの追加

Chatter で、投稿およびコメントにリンクを追加できるようになりました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: リッチテキストエディタが有効になっている状態で、投稿またはコメントのリンクテキストを強調表示します。 ハイパーリンクアイコンをクリックし、URL を入力して [保存] をクリックします。





Chatter REST API および Chatter in Apex では、投稿およびコメントのハイパーリンクがサポートされています。

関連トピック:

IdeaExchange: Hyperlink button in Lightning for Chatter posts (Lightning での Chatter 投稿のハイパーリンクボタン)

リダイレクト URL の短縮と有益性の向上

Lightning Experience で、ブラウザのアドレス項目に表示されるリダイレクト URL が簡潔で明確になりました。プラットフォーム標準に準拠するようにフィードの URL リダイレクトが修正されました。標準構文は、短くて見やすくなっており、有益なフィード項目 ID が含まれます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Chatter 通知メール内のリンクで取得する古い構文のリダイレクト URL は長く、フィード項目に関する有益な情報が提供されていませんでした。

```
https://domain.com/one/one.app#eyJjb21wb25lbnREZWYiOiXczmb3
JjZUNoYXR0ZXI6ZL0GVza3RvcENoYXR0ZXIiLCJhdHRyaWJ1dGVzI
jp7ImZlZWRFbGVtZW50SWQiOiIwRDVCMDAwMDAwbFQ5d0ci
```

新しい構文は `/lightning/<feedItemId>/view` です。短くなっており、有益なフィード項目 ID が含まれます。

```
https://domain.com/lightning/r/0D5BZ23000000yN9wGKAS/view
```

トピックおよびトピックを使用する投稿に関するレポートの作成

特定のトピックが含まれる投稿およびコメントに関するレポートを実行し、投稿およびコメントのコンテンツやその他の詳細を確認できるようになりました。トピックの割り当てを主オブジェクトとして、フィード投稿を第 2 オブジェクトとして使用するカスタムレポートタイプを作成します。また、フィードコメントを第 3 オブジェクトとして含めることもできます。以前は、特定のトピックが含まれる投稿などのレコードを収集したレポートを作成できましたが、投稿のコンテンツを表示できませんでした。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic (使用できない組織もあります) に適用されます。

ファイル: 管理パッケージ内のアセットファイルの更新、組織アセットライブラリのフォルダ

管理パッケージ内のアセットファイルを更新し、フォルダを使用して組織アセットファイルを整理します。

このセクションの内容:

管理パッケージ内のアセットファイルの更新
管理パッケージ内の既存のアセットファイルを更新および公開できます。たとえば、ロゴの画質を改善したり商品画像を更新したりすると、登録者のアセットファイルは自動的に更新されます。管理パッケージで、アセットファイルをより詳細に制御できます。開発者組織でアセットファイルとその関連ドキュメントを更新できますが、それらを登録者組織から変更または削除することはできません

フォルダを使用したアセットライブラリの整理
組織アセットライブラリがファイルの 1 つの長いリストになっていますか? それらのアセットファイルを種別または用途別にフォルダに整理し、プロモーションイベントや休日用の特別なアセットファイルを独自のフォルダに保持できるようになりました。デスクトップから、組織アセットライブラリ内のフォルダの作成、名前変更、削除を行います。ライブラリフォルダは、モバイルデバイスから参照できます。

すべてのファイルのクエリ

新しい「すべてのファイルのクエリ」権限では、「すべてのデータの参照」権限を持つユーザが ContentDocument および ContentVersion のクエリを実行し、組織のすべてのファイル(非メンバーライブラリのファイルやリストに記載しないグループのファイルを含む)を取得できます。「すべてのデータの参照」権限単独では、所有するファイルまたはアクセス権のあるファイルしかクエリできません。

完全に機能する Quip 文書を Salesforce に直接埋め込む

新しい Quip 文書コンポーネントを使用して、Quip 文書、スプレッドシート、スライド、チャットルームを Lightning アプリケーションに直接持ち込みます。ユーザはリアルタイム更新、コメント、@メンションなどの Quip 機能を、Salesforce を離れることなく習得できます。また、テンプレートを使用してチームのワークフローを合理化することもできます。

管理パッケージ内のアセットファイルの更新

管理パッケージ内の既存のアセットファイルを更新および公開できます。たとえば、ロゴの画質を改善したり商品画像を更新したりすると、登録者のアセットファイルは自動的に更新されます。管理パッケージで、アセットファイルをより詳細に制御できます。開発者組織でアセットファイルとその関連ドキュメントを更新できますが、それらを登録者組織から変更または削除することはできません

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] から管理パッケージのアセットファイルを更新または追加できます。

リリースまたはベータで管理されるパッケージでは、ユーザがコンテンツアセットを開発者組織で削除できますが、登録者組織では削除できません。リリースで管理されるパッケージでは、新しいバージョンのドキュメントまたはアセットを開発者組織にアップロードできますが、登録者組織にはアップロードできません。

管理パッケージでは、ContentDocumentLink を使用してアセットファイルの既存の共有を更新することはできません。開発者と登録者は両方とも、各組織で新しい共有を追加したり、既存の共有を更新したりできます。

アセットファイルが管理パッケージに含まれる場合、そのアセットファイルに関連付けられた基盤となるファイルを更新または削除することはできません。この動作は、アセットファイルがどこで参照されているかに関係なく発生します。

フォルダを使用したアセットライブラリの整理

組織アセットライブラリがファイルの 1 つの長いリストになっていますか? それらのアセットファイルを種別または用途別にフォルダに整理し、プロモーションイベントや休日用の特別なアセットファイルを独自のフォルダに保持できるようになりました。デスクトップから、組織アセットライブラリ内のフォルダの作成、名前変更、削除を行います。ライブラリフォルダは、モバイルデバイスから参照できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: フォルダは組織アセットライブラリでデフォルトで有効になります。[新規フォルダ] をクリックして整理を開始しましょう。

すべてのファイルのクエリ

新しい「すべてのファイルのクエリ」権限では、「すべてのデータの参照」権限を持つユーザがContentDocumentおよびContentVersionのクエリを実行し、組織のすべてのファイル(非メンバーライブラリのファイルやリストに記載しないグループのファイルを含む)を取得できます。「すべてのデータの参照」権限単独では、所有するファイルまたはアクセス権のあるファイルしかクエリできません。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited EditionのLightning ExperienceおよびSalesforce Classicに適用されます。

方法: [設定]の[システム権限]と[アプリケーション権限]でプロファイル権限を有効にします。

完全に機能するQuip文書をSalesforceに直接埋め込む

新しいQuip文書コンポーネントを使用して、Quip文書、スプレッドシート、スライド、チャットルームをLightningアプリケーションに直接持ち込みます。ユーザはリアルタイム更新、コメント、@メンションなどのQuip機能を、Salesforceを離れることなく習得できます。また、テンプレートを使用してチームのワークフローを合理化することもできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning Experienceに適用されます。この変更はLightningアプリケーションにのみ適用されます。

メモ: Quip文書コンポーネントはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforceとのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対してSalesforceは一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ: Quipエンタープライズプランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: ユーザはアプリケーションを切り替えることなく、作業している場所でドキュメントに対するコラボレーションを行うことができます。Quip文書コンポーネントから作成されたすべてのドキュメントは、ファイルとしてSalesforceレコードに自動的に添付されます。詳細は、「Salesforceレコードに Quip 文書を直接追加(ベータ)」(ページ 407)を参照してください。

モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

場所を問わずより多くの作業を実行できる最新機能を確認してください。

このセクションの内容:

Salesforce アプリケーション: Chatter およびセールス機能の均等化
Salesforce アプリケーションの最新バージョンでは、Chatter のコミュニティフィードの並び替え順がデスクトップと同じになっています。取引先チームまたは商談チームを削除するためのセールス機能を使用すると、ユーザは通常デスクトップで行う ToDo を実行できます。機能の均等化により、ユーザは外出先でより多くの作業ができるようになり、どこにいても各デバイスでシームレスに作業できます。

Salesforce アプリケーション: Chatter およびセールス機能の均等化

Salesforce アプリケーションの最新バージョンでは、Chatter のコミュニティフィードの並び替え順がデスクトップと同じになっています。取引先チームまたは商談チームを削除するためのセールス機能を使用すると、ユーザは通常デスクトップで行う ToDo を実行できます。機能の均等化により、ユーザは外出先でより多くの作業ができるようになり、どこにいても各デバイスでシームレスに作業できます。

このセクションの内容:

Salesforce モバイルアプリケーションへのアクセス
プラットフォームの最小要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce にアクセスする方法は複数あります。Salesforce for Android/iOS をインストールします。ユーザは Google Play または App Store からアプリケーションをダウンロードできます。選択した Android、Apple、または Windows モバイルデバイスでサポート対象モバイルブラウザから Salesforce モバイル Web にアクセスします。この方法では、何もインストールする必要はありません。

Salesforce アプリケーションのすべての新機能
Salesforce アプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce アプリケーションでは機能上の差異があるか使用不可となる Spring '19 の機能
Salesforce モバイルアプリケーションには、組織で Lightning Experience と Salesforce Classic のいずれを使用している場合であっても、Salesforce フルサイトの一部の機能が含まれていません。ここでは、使用できない、フルサイトで使用する場合と機能上の差異がある、またはモバイルアプリケーションでの動作が異なる Spring '19 Salesforce の機能強化について説明します。

Salesforce モバイルアプリケーションへのアクセス

プラットフォームの最小要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce にアクセスする方法は複数あります。Salesforce for Android/iOS をインストールします。ユーザは Google Play または App Store からアプリケーションをダウンロードできます。選択した Android、Apple、または Windows モバイルデバイスでサポート対象モバイルブラウザから Salesforce モバイル Web にアクセスします。この方法では、何もインストールする必要はありません。

対象:現在のプラットフォームの最小要件については、Salesforce ヘルプの「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。

Salesforce アプリケーションのすべての新機能

Salesforce アプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce モバイルアプリケーションは、Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザが使用できる Salesforce データおよび機能が決定します。

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの設定
デバイスおよびブラウザのサポート				
Salesforce アプリケーションの要件の更新	✔	✔	✔	
セールス機能				
Salesforce アプリケーションを使用して取引先を転送するときに維持できる関連レコードの増加	✔	✔	✔	
Salesforce アプリケーションを使用して取引先および商談レコードを削除	✔	✔	✔	
生産性機能				
Lightning Experience の公開カレンダーを使用したチームの連携	✔	✔	✔	✔
行動のリソースの予約	✔	✔	✔	✔
Lightning Sync の設定を使用しない被招集者の追加	✔	✔	✔	✔
行動のプレビューでの詳細の表示	✔	✔	✔	✔
行動に関連するファイルの参照	✔	✔	✔	✔
Chatter				
モバイルでの並び替え順も保持			✔	
Salesforce コミュニティ				
カスタム Salesforce コミュニティモバイルアプリケーションの作成、ブランド設定、配布				✔
質問でのトピックの選択のブロック			✔	✔
コミュニティフィード項目の翻訳			✔	✔
回答をすぐに取得			✔	✔
アクセスおよびセキュリティ				
モバイルデバイスの転送登録の削除	✔	✔		✔

Salesforce アプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの設定
その他の機能強化				
Salesforce モバイルアプリケーションドキュメントの更新				

モバイルでの並び替え順の保持

コミュニティフィードのデフォルトの並び替え順を設定できます。ユーザは他の並び替え順を選択し、フィードを離れて戻ってきてもその並び替え順を保持できます。システム管理者は優れた方法でユーザの初期操作を設計でき、ユーザはフィードの表示方法をより詳細に制御できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- 並び替えの選択内容の保持
- コミュニティビルダーでのデフォルトのフィード並び替え順の定義

モバイルデバイスでのコミュニティフィード項目の翻訳

[Google で翻訳する] ボタンをすべての投稿、質問、コメント、回答、返信に追加し、モバイルでもユーザがコンテンツを翻訳できるようにします。翻訳は、指定した Google Cloud Translation API キーにより提供されます。50 を超える言語を使用して話をすることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- フィード項目をその場で翻訳

質問でのトピックの選択のブロック

ユーザがモバイルデバイスからコミュニティトピックで質問するときにトピックの選択をブロックできます。たとえば、ブロックが有効になっている場合、ユーザがトピックを選択して質問すると、質問ダイアログで新しいトピックを選択できなくなります。代わりに、ダイアログの [投稿先] 項目に参照のみの現在のトピックが表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- ユーザがトピックから逸れないようにサポート

回答をすぐに取得

質問ボタンを設定して、類似質問や関連するディスカッションおよび記事でユーザの質問に対応します。記事にユーザが必要とする回答がある場合、ユーザは質問をクローズできます。回答がない場合、ユーザは質問を続行できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- ユーザが回答をすばやく得られるように支援し、サポートの負荷を軽減

Salesforce アプリケーションの要件の更新

Salesforce は、多くの一般的なモバイルプラットフォームで使用できます。Salesforce は、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web を使用するための要件を改訂しています。モバイルプラットフォーム要件と、Salesforce 環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。

モバイルプラットフォーム要件

ユーザは、次のモバイルプラットフォーム要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce を実行できます。

オペレーティングシステムおよびバージョン要件	モバイルブラウザ要件*
Android 5.0 以降	Android の Google Chrome
iOS 11.3 以降	iOS の Apple Safari

* モバイルブラウザの最新バージョンが必要です。モバイルブラウザ要件は、Salesforce モバイル Web にのみ適用されます。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、プラットフォームの最小要件は事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce テストに使用されるモバイルデバイス

Salesforce は、選択した一連のモバイルデバイスで Salesforce for iOS/Android および Salesforce モバイル Web の自動テストや手動テストを実行します。次に、Summer '18 リリースのテストに使用されるデバイスのリストを示します。

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
Android	• Google Pixel 3 / Pixel 3 XL • Google Pixel 2 / Pixel 2 XL • Google Pixel / Pixel XL	• Samsung Tab A 9.7 • Samsung Tab A 8.0

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
	• Google Nexus 6P • Samsung Galaxy S9 • Samsung Galaxy S8 • Samsung Galaxy S7 • Samsung Galaxy S6 • Samsung Galaxy S5 • Samsung Galaxy Note 5 • Samsung Galaxy Note 4	
iOS	• iPhone XS / XS Max • iPhone XR • iPhone X • iPhone 8/8 Plus • iPhone 7/7 Plus • iPhone 6S/6S Plus • iPhone 6/6 Plus • iPhone 5S • iPhone SE	• iPad Pro 12.9" (第 2 世代) • iPad Pro 12.9" • iPad Pro 9.7" • iPad 2017 (第 5 世代) • iPad Air 2 • iPad Mini 4

お客様は、現在のプラットフォーム要件を満たしていればテスト対象外デバイスでも Salesforce を使用できます。デバイスメーカー固有のカスタマイズが原因で、Salesforce は、テスト対象外デバイスで Salesforce を使用するお客様の問題を再現できない場合があります。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、Salesforce テスト対象デバイスのリストは事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce の更新

お客様のデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしていれば、Salesforce 機能の更新および修正を利用できます。

弊社の目標は、Salesforce の各メジャーリリースに合わせて Salesforce モバイル機能の更新をリリースすることです。この情報は、お客様のリリース計画を支援するために提供されていますが、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce モバイル Web
拡張機能は、Salesforce の各メジャーリリースで自動的に使用できるようになります。

Salesforce for Android/iOS
拡張機能は、メジャーバージョンの更新で提供されます。すべての本番インスタンスに対する Salesforce の各メジャーリリースが完了してから Salesforce for Android および Salesforce for iOS の新しいメジャーバージョンがリリースされる予定です。新しいメジャーバージョンがリリースされる期間は変動し、Apple や Google の

新しい要件または iOS や Android のオペレーティングシステムの変更など、Salesforce が制御できない要素の影響を受ける可能性があります。

お客様のモバイルデバイスが Salesforce の現在のモバイルオペレーティングシステムの最小要件を満たしていれば、App Store や Google Play から新しいメジャーバージョンとバグ修正バージョンをインストールできます。デバイスで古いオペレーティングシステムが実行されている場合、Salesforce の更新バージョンは App Store に表示されません。

Salesforce のカスタマーサポートサービス

Salesforce カスタマーサポートは、次の場合に Salesforce の問題のトラブルシューティングを行うよう商業上合理的な努力を行うものとします。

- ユーザのデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしている
- Salesforce for Android/iOS ユーザが最新バージョンをインストールしている

お客様が Salesforce テスト対象デバイスで Salesforce を実行している場合、問題をより効率的にトラブルシューティングできます。お客様がテスト対象外デバイスを使用している場合、プラットフォームの最小要件を満たしていても、デバイスメーカー固有のカスタマイズのために一部の問題を再現できない可能性があります。

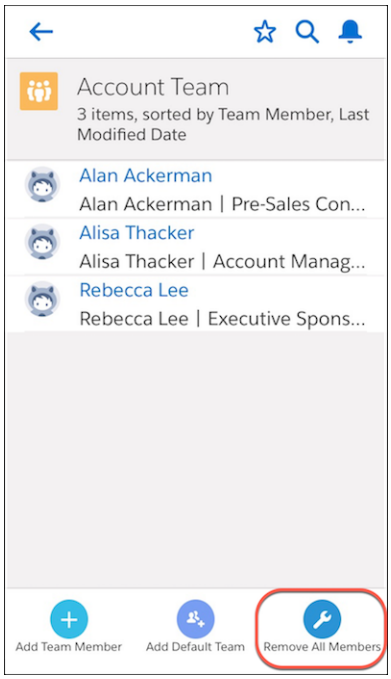
古いデバイスや計算およびメモリ機能が低いデバイスで Salesforce を実行すると、Salesforce テスト対象デバイスと比較して、パフォーマンスが低くなることがあります。

Salesforce アプリケーションを使用して取引先および商談レコードを削除

取引先チームまたは商談チームが必要でない場合、取引先所有者や商談所有者はチーム全体を 1 回のタップで削除できます。以前は、チームのメンバーを 1 人ずつ削除する必要がありました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: チームを削除するには、チームの関連リストで [すべてのメンバーを削除] をタップします。



関連トピック:

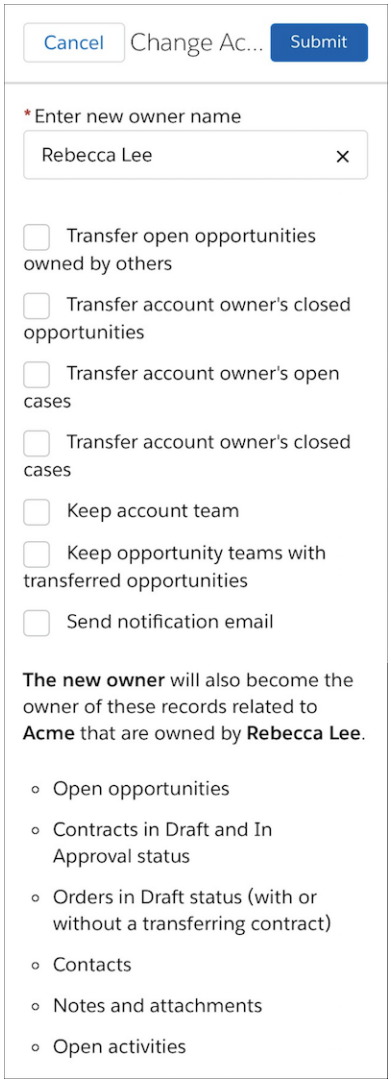
- Lightning Experience での取引先チームの削除
- 商談: Lightning Experience でのチームの削除

Salesforce アプリケーションを使用して取引先を転送するときに維持できる関連レコードの増加

取引先担当者が取引先を別の所有者に転送した場合、新しい所有者に必要とされるより多くの履歴情報も転送されます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **とすべてのバージョンの** Salesforce **アプリケーションに適用されます。**

方法: 取引先所有者は、所有している商談や、オープンケースとクローズケースを転送できます。転送される商談に関連する取引先チームと商談チームを保持または削除できます。



関連トピック:

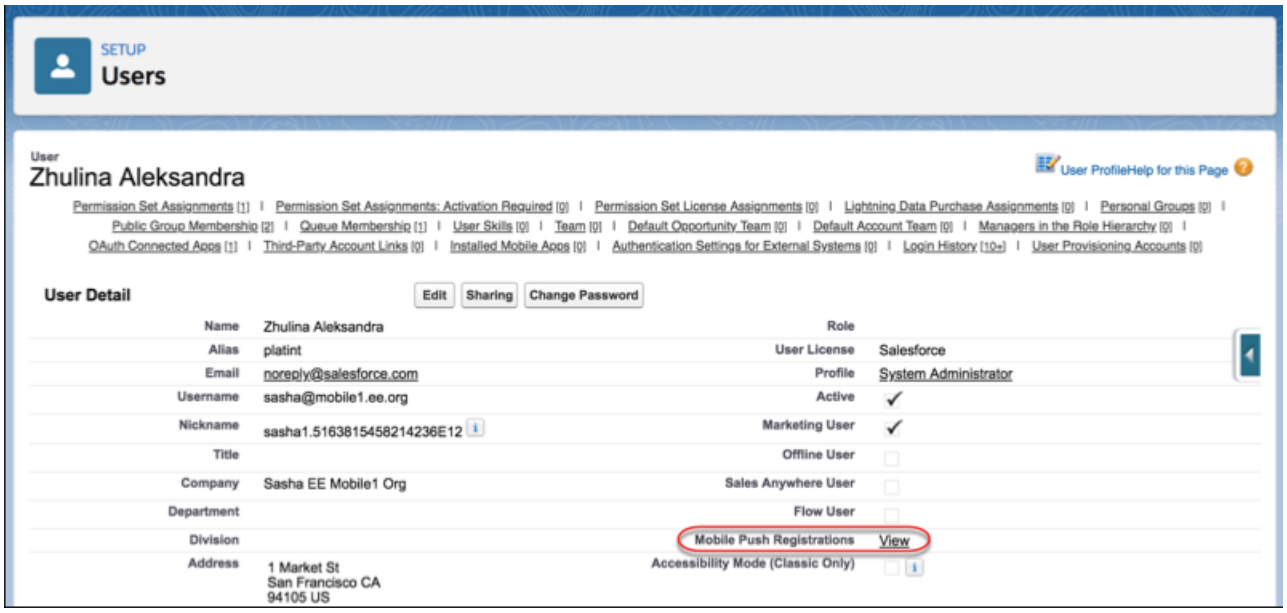
Lightning Experience で取引先を転送する場合により多くの関連レコードを保持

モバイルデバイスの転送登録の削除

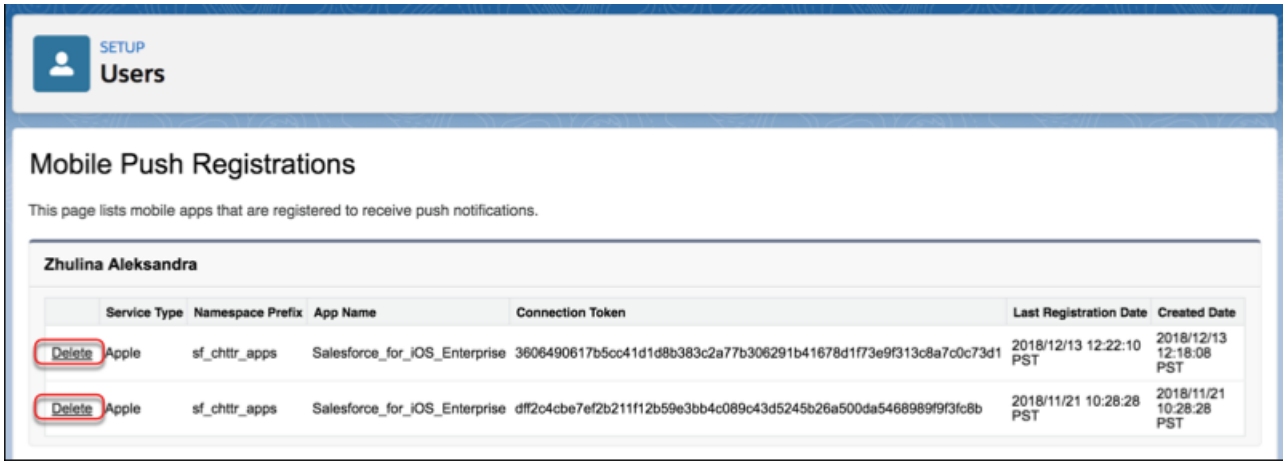
システム管理者は、更新トークンが取り消されたユーザに転送通知が送信されることを回避できるようになりました。モバイルデバイスの転送登録を削除することで、組織の Salesforce データの受信者をさらに細かく制御できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: ユーザの更新トークンを取り消したら、各ユーザの転送登録も削除します。ユーザのレコード詳細ページで、[モバイル転送の登録] に移動し、すべてのデバイスを [参照] します。



トークンが取り消されたアプリケーションの各登録済みデバイスを削除し、転送通知がユーザに送信されないようにします。



メモ: 同じアプリケーションへのアクセス権を取り消すために、[OAuth 接続アプリケーション]の [アプリケーション名] と [モバイル転送の登録] の [アプリケーション名] が同じであることを確認します。書式設定が原因で名前の表示が若干異なる場合があります。

Salesforce モバイルアプリケーションドキュメントの更新

今後数回のリリースで予定されている Salesforce モバイルアプリケーションの大幅な変更では、Salesforce ヘルプのシステム管理者向けコンテンツの移動が容易になっています。すべての Salesforce アプリケーションコンテンツが Salesforce ヘルプ内の 1 か所に集約されました。ここには、ガイド、Trailhead モジュール、およびモバイルユーザの成功を支援するその他のコンテンツへのリンクもあります。新しい Salesforce モバイルアプリケーションページをチェックして、すべての内容を確認してください。

Salesforce アプリケーションでは機能上の差異があるか使用不可となる Spring '19 の機能

Salesforce モバイルアプリケーションには、組織で Lightning Experience と Salesforce Classic のいずれを使用している場合であっても、Salesforce フルサイトの一部の機能が含まれていません。ここでは、使用できない、フルサイトで使用する場合と機能上の差異がある、またはモバイルアプリケーションでの動作が異なる Spring '19 Salesforce の機能強化について説明します。

メモ: Salesforce アプリケーションとフルサイトの相違点を網羅したリストは、Salesforce ヘルプの「Salesforce アプリケーションで使用できない機能とその新機能」を参照してください。

Financial Services Cloud: Lightning Scheduler と Financial Services Analytics

Lightning Scheduler では、顧客や見込み客の予定のスケジュールを簡略化するために必要なツールが提供されます。Financial Services Analytics は、データセット、データフロー、ダッシュボードを備えたアプリケーションスイートで、迅速にデータをインサイトに変換するのに役立ちます。

このセクションの内容:

Lightning Scheduler を使用した顧客の予定のパーソナライズ
Lightning Scheduler は強力な機能セットで、適切な場所と時間で適切なバンカーやアドバイザーとの顧客の予定を簡単にスケジュールできます。

Einstein Analytics for Financial Services を使用して顧客インサイトをすばやく取得
Einstein Analytics for Financial Services はアプリケーションスイートで、ファイナンシャルアドバイザーやパーソナルバンカーがクライアントゴール、クライアントの満足度、リード、紹介に関するインサイトを使用してクライアントリストを管理するのに役立ちます。また、アプリケーションダッシュボードにより、マネージャはより簡単に個々のパフォーマンスや地域のパフォーマンスを確認および評価できます。

Client Segmentation Analytics を使用したルール適用時のアクションの Financial Services 顧客の特定
Client Segmentation Analytics アプリケーションは、ファイナンシャルアドバイザーがアウトリーチの可能性が高い顧客を特定し、クライアントリスト全体のインサイトを取得するのに役立ちます。

Lightning Scheduler を使用した顧客の予定のパーソナライズ

Lightning Scheduler は強力な機能セットで、適切な場所と時間で適切なバンカーやアドバイザーとの顧客の予定を簡単にスケジュールできます。

対象: この機能は、Enterprise Edition および Unlimited Edition で有料で使用できます。

関連トピック:

Lightning Scheduler を使用したパーソナライズされた予定の作成
Salesforce ヘルプ: Manage Appointments with Lightning Scheduler (Lightning Scheduler を使用した予定の管理) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein Analytics for Financial Services を使用して顧客インサイトをすばやく取得

Einstein Analytics for Financial Services はアプリケーションスイートで、ファイナンシャルアドバイザーやパーソナルバンカーがクライアントゴール、クライアントの満足度、リード、紹介に関するインサイトを使用してクライアントリストを管理するのに役立ちます。また、アプリケーションダッシュボードにより、マネージャはより簡単に個々のパフォーマンスや地域のパフォーマンスを確認および評価できます。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で有料で使用できます。

理由: 金融サービスマネージャは、アプリケーションに標準搭載されているダッシュボードとデータセットを使用して、個々のパフォーマンスや地域のパフォーマンスを確認および評価できます。アプリケーションのクライアント顧客離れダッシュボードを次に示します。このダッシュボードでは、顧客離れの危険性があるクライアントが識別されるため、注意を払うことができます。



方法: Analytics Studio で、[作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] を選択します。**[Analytics for Financial Services]** テンプレートを選択し、ウィザードの指示に従います。

Client Segmentation Analytics を使用したルール適用時のアクションの Financial Services 顧客の特定

Client Segmentation Analytics アプリケーションは、ファイナンシャルアドバイザーがアウトリーチの可能性が高い顧客を特定し、クライアントリスト全体のインサイトを取得するのに役立ちます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition に適用されます。

理由: Client Segmentation アプリケーションダッシュボードは、Financial Services Cloud データのサブセットに基づく設定可能なカスタム視覚化を提供します。最新の Analytics デザイナで構築されたこのダッシュボードは、Financial Services Cloud の [Advisor Analytics] タブのダッシュボードを置き換えます。[Advisor Analytics] タブに含まれるダッシュボードは以前のデザイナに基づいています。このデザイナは 2019 年 7 月に廃止される予定です。

たとえば、80/20 ダッシュボードは、クライアントの収益をリレーション構築活動と比較して、最も重要な顧客の主要なアクションを特定します。



方法: Einstein Analytics を使用して Client Segmentation アプリケーションを作成および参照するための権限を設定します。Analytics Studio で、[作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] を選択します。[Client Segmentation] テンプレートを選択し、ウィザードの指示に従います。Analytics Studio でアプリケーションにアクセスします。

メモ: 2019 年 2 月 8 日よりも前に Financial Services Cloud - Einstein Analytics 管理パッケージをインストールしている場合、2019 年 7 月まで Financial Services Cloud の [Advisor Analytics] タブにアクセスできます。Client Segmentation Analytics アプリケーションのインストール後にこのタブを削除することをお勧めします。「Lightning Experience のナビゲーションバーのパーソナライズ」を参照してください。

関連トピック:

https://developersalesforce.com/docs/atlasen-usfinancial_services_cloud_upgrade_guidemeta/financial_services_cloud_upgrade_guide/fsc_admin_postupgrade_tasks.htm
https://help.salesforce.com/articleView?id=user_userdisplay_tabs_lex.htm

Health Cloud: ケアの社会的決定要因、紹介管理など

患者の包括的な支援、患者紹介の合理化、事前承認要請の業界標準コードの提供を行います。患者リレーションやパーソナライズされたジャーニーを構築したり、より柔軟性の高い評価を提供したり、カスタムスマートフォンアプリケーションを作成したりします。

このセクションの内容:

ヘルスインサイトの社会的決定要因による包括的なケアとサポートの提供

患者やメンバーに悪影響を与える社会的要因と環境的要因を把握し、明暗を分ける介入で対応します。決定要因、障壁、介入を識別して、重要な社会的要因と環境的要因 (ホームレス、食料不足、低所得など) をキャプチャし、回避可能な健康に悪影響を与えるイベントを軽減します。

紹介管理による患者紹介の合理化

紹介プロセス全体 (申請、オンボーディング、ケア) で管理とコラボレーションを促進する新しいツールを使用して患者紹介を合理化します。1つの接続されたプラットフォームで、関連する詳細にアクセスし、紹介スコアリングを使用して紹介の優先順位付けと処理をより迅速に行います。

キャンペーンおよびパーソナライズされたジャーニーを使用した患者ケアの設定

ケアコーディネータは、簡単な方法で患者リストの複数ディメンションの絞り込みを活用しながら患者のコホートをキャンペーンに登録できるようになりました。また、患者をキャンペーンに登録することで、Marketing Cloud の Journey Builder および Distributed Marketing の機能を活用して、リッチにパーソナライズされたエンゲージメントをスケールに合わせて動的に行うことができます。

健康評価の代行

評価アンケートは、ケア管理対象者の健康に関する情報を効率的に収集する重要な方法です。ただし、電話審査を実行したり、コミュニティへのアクセス権のない人を管理したりする場合はどうすればよいでしょうか? 管理対象の患者またはメンバーの代わりに評価を開いて質問に回答できるようになりました。

事前承認要請および承認プロセスへのコードセットの追加

提供者が承認要請を申請する場合、要請内容と要請理由のコードを含める必要があります。同様に、支払者は業界標準のコードセットを使用して、承認内容で応答する必要があります。サービスエージェント、提供者のスタッフ、および事前承認要請のその他の関係者に、業界標準の処置/診断コードへのアクセス権を付与します。

Health Cloud アプリケーションテンプレートを使用した患者およびメンバーへの関与

デジタルエンゲージメントを促進し、ヘルスコンシューマが健康上の目標を完全に把握して、情報にすばやくアクセスし、治療計画に準拠して、各自のヘルスジャーニーを制御できるようにする、患者およびメンバー向けのカスタムブランドモバイルアプリケーションを簡単に作成できます。新しい Community Cloud 向け Mobile Publisher を使用して、これらのネイティブアプリケーションをパッケージ化し、Apple および Google のアプリケーションストアで配布します。

Lightning Scheduler を使用した患者およびメンバーの予定のパーソナライズ

Lightning Scheduler は強力な機能セットで、ケアコーディネータやケースマネージャとの予定を簡単にスケジュールできます。

Health Cloud の新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

Health Cloud オブジェクトの変更

次のオブジェクトにカスタム項目が追加されました。

新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント

Health Cloud にコンポーネントが追加されました。

ヘルスインサイトの社会的決定要因による包括的なケアとサポートの提供

患者やメンバーに悪影響を与える社会的要因と環境的要因を把握し、明暗を分ける介入で対応します。決定要因、障壁、介入を識別して、重要な社会的要因と環境的要因 (ホームレス、食料不足、低所得など) をキャプチャし、回避可能な健康に悪影響を与えるイベントを軽減します。

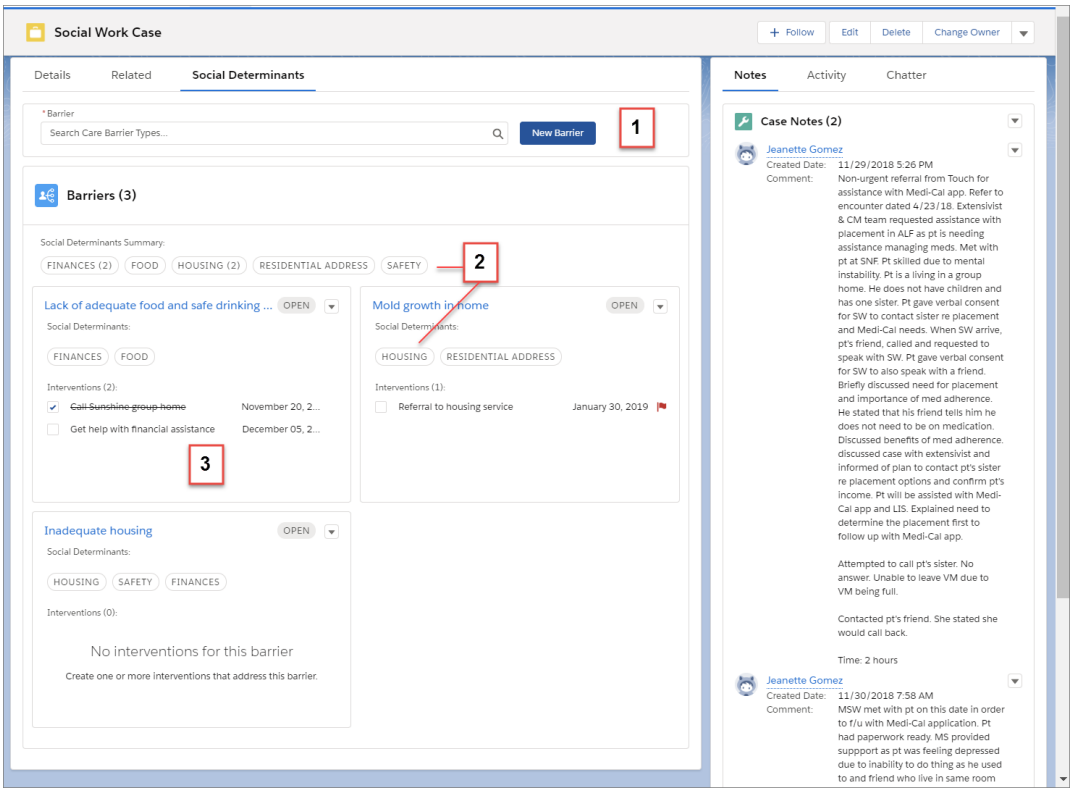
対象: この機能は、Health Cloud **が有効になっている** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **で** Health Cloud **プラットフォーム権限セットライセンスを介して使用できます。**

対象ユーザ: ユーザには、Health Cloud **権限セットライセンスおよび** Health Cloud **プラットフォーム権限セットが割り当てられている必要があります。**

理由: すべてのメンバーまたは患者 (特に要求が多くコストが高い個人) に効果的にサービスを提供するには、健康の社会的決定要因を効率的にキャプチャ、追跡、フォローアップするツールが必要です。Health Cloud **には、問題を識別してソリューションを作成する完全なデータモデルと堅牢な** Lightning Experience **コンポーネントが用意されています。**

方法: ケア決定要因 Lightning **コンポーネントをケースまたは取引先** Lightning **レコードページに追加します。次に、新しい標準オブジェクトを使用して、障壁、社会的決定要因、介入のカスタマイズ可能な内部ライブラリをサポートします。**

ケースまたは取引先から、ケア決定要因 Lightning**コンポーネントを使用して、問題に関する重要な情報をキャプチャし、介入プランを作成して対応できます。**



ケア決定要因コンポーネントを使用して、次の操作を実行できます。

- **人に影響を与える社会問題や環境問題を記述する障壁を作成する** (1)。
- **各障壁に関連する社会的決定要因を選択し、カードリストの上部に決定要因の集約リストを表示する** (2)。
- **障壁に対応する** ToDo **や他の介入を作成して表示する** (3)。

社会的決定要因データモデルには、次の標準オブジェクトが含まれます。

- **ケア障壁種別 — 会社内で使用される障壁の標準の定義済みリスト (関連するコードやコード種別を含む)。**
- **ケア決定要因種別 — 組織で保持されている健康の決定要因のリスト (ドメインや種別を含む)。**

- ケア介入種別—使用可能な紹介、プログラム、または組織で保持されているその他の介入の標準の定義済みリスト。
- ケア障壁 — メンバーや患者に影響を与える状況や障害。
- ケア障壁決定要因。障壁をメンバーや患者の決定要因に関連付けます。
- ケア決定要因 — メンバーや患者に関連する健康の決定要因。

紹介管理による患者紹介の合理化

紹介プロセス全体(申請、オンボーディング、ケア)で管理とコラボレーションを促進する新しいツールを使用して患者紹介を合理化します。1 つの接続されたプラットフォームで、関連する詳細にアクセスし、紹介スコアリングを使用して紹介の優先順位付けと処理をより迅速に行います。

対象: この機能は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスを介して使用できます。紹介管理機能のレポートは、未管理パッケージを介して使用できます。

対象ユーザ: ユーザには、Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットが割り当てられている必要があります。

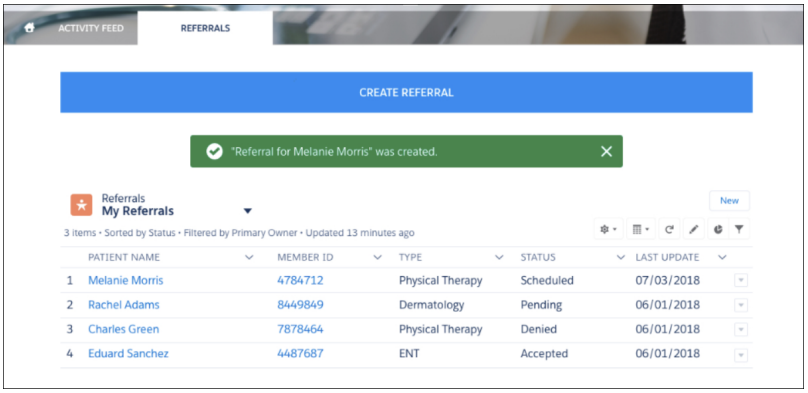
理由: 紹介管理で紹介プロセスのループが完結し、紹介が中断されなくなります。最高の紹介を優先したり、タイムリーに紹介を処理できるようにしたり、紹介医師への最終確認まで紹介を追跡したりします。

- 会社で紹介を受け入れる方法について、複数のチャネル (Fax、提供者コミュニティ、コールセンター) がサポートされています。
- 紹介パターンに関するインテリジェントなインサイト (上位の紹介者のスコア、保険または患者の状態に基づく紹介の優先度、クローズの追跡、紹介の優先度など) を取得します。
- 申請からクローズまで紹介を追跡します (クローズの追跡、エスカレーション、および中断された紹介がないことを確認するアラームなど)。

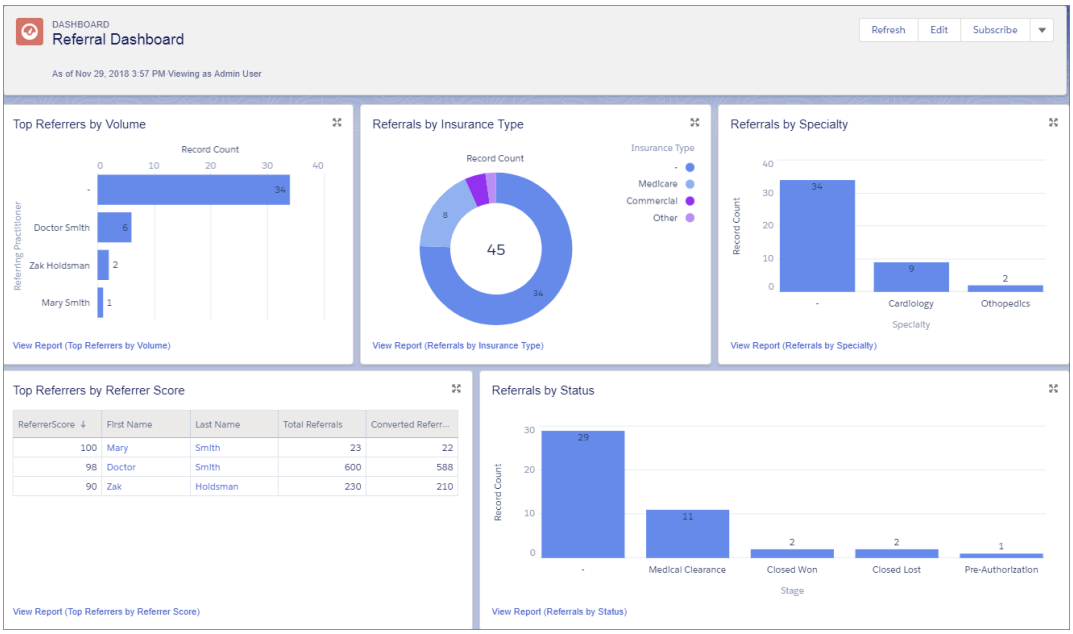
方法: Health Cloud では紹介管理の次のサポートが提供されます。

- 2 つの紹介レコード (一方はリードオブジェクトに基づいており、もう一方は商談オブジェクトに基づいています)
- リードおよび商談オブジェクトの患者紹介のレコードタイプ
- リードおよび商談オブジェクトの紹介の標準ページレイアウトとコンパクトレイアウト
- 未対応の紹介のリードキュー
- 紹介管理をサポートするリード、商談、取引先責任者オブジェクトに追加された新しい項目

紹介リストビューをパートナーコミュニティに追加して、医師やその他の人が組織に紹介を作成できるようにします。



ホームページのダッシュボードに配置できる一連のレポートがパッケージ化されました。未管理パッケージをインストールし、ユーザが1つの便利なダッシュボードで紹介の種別、未対応の紹介、ネットワークの漏洩にドリルインできるようにします。



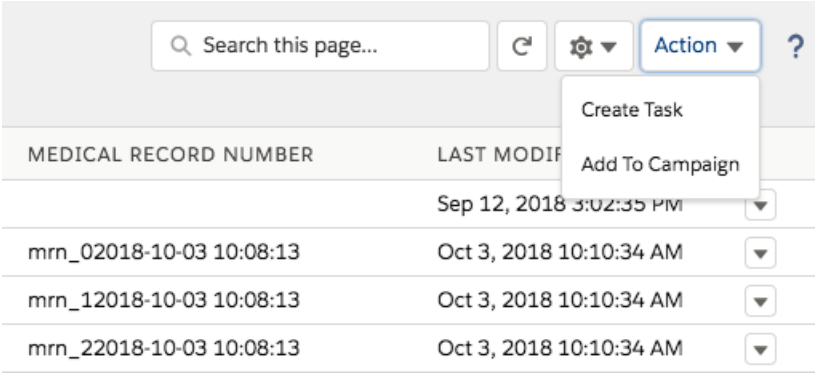
キャンペーンおよびパーソナライズされたジャーニーを使用した患者ケアの設定

ケアコーディネータは、簡単な方法で患者リストの複数ディメンションの絞り込みを活用しながら患者のコホートをキャンペーンに登録できるようになりました。また、患者をキャンペーンに登録することで、Marketing Cloud の Journey Builder および Distributed Marketing の機能を活用して、リッチにパーソナライズされたエンゲージメントをスケールに合わせて動的に行うことができます。

対象: この機能は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。

方法: キャンペーンでは Salesforce Marketing Cloud の機能を利用します。Marketing Cloud を使用すると、ケアコーディネータや他のヘルスケア提供者は簡単にキャンペーンを設定して実行し、その効果を監視できます。

対象ユーザ: Health Cloudユーザにはキャンペーンオブジェクトへのアクセス権が自動的に付与されるため、キャンペーンの作成および編集ができます。



関連トピック:

https://help.salesforce.com/articleView?id=campaigns.htm

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud.meta/health_cloud/admin_campaigns.htm

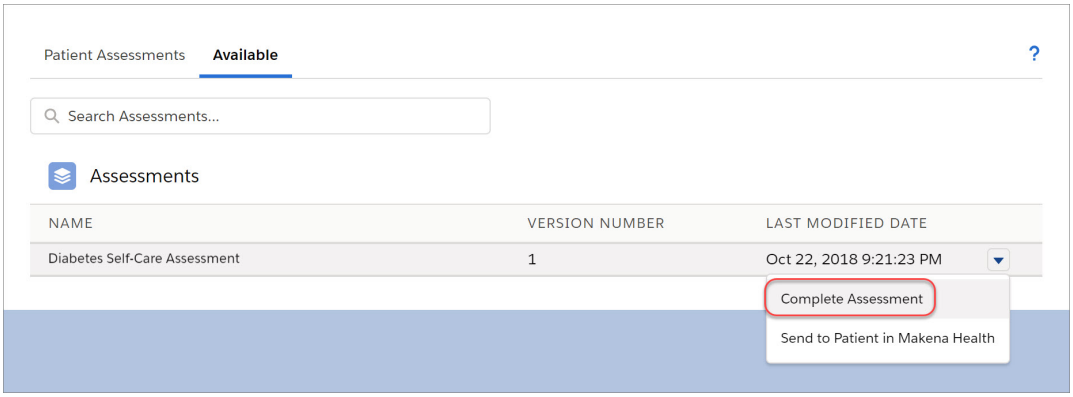
https://help.salesforce.com/articleView?id=mc_ca_campaigns.htm

健康評価の代行

評価アンケートは、ケア管理対象者の健康に関する情報を効率的に収集する重要な方法です。ただし、電話審査を実行したり、コミュニティへのアクセス権のない人を管理したりする場合はどうすればよいでしょうか? 管理対象の患者またはメンバーの代わりに評価を開いて質問に回答できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud **が有効になっている** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience、Salesforce Classic、**およびすべてのバージョンの** Salesforce **アプリケーションに適用されます。**

方法:[利用可]タブで、[評価を実施]を選択して評価アンケートを開き、話をしている相手の代わりに評価を実施できます。自分の名前が評価の申請者として保存されます。



事前承認要請および承認プロセスへのコードセットの追加

提供者が承認要請を申請する場合、要請内容と要請理由のコードを含める必要があります。同様に、支払者は業界標準のコードセットを使用して、承認内容で応答する必要があります。サービスエージェント、提供者のスタッフ、および事前承認要請のその他の関係者に、業界標準の処置/診断コードへのアクセス権を付与します。

対象: この機能は、Health Cloud **が有効になっている** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **と** Salesforce Classic **で** Health Cloud **プラットフォーム権限セットライセンスを介して使用できます。**

対象ユーザ: ユーザには、Health Cloud **および** Health Cloud **プラットフォーム権限セットライセンスが割り当てられている必要があります。また、ユーザには** Health Cloud **権限セットライセンス、**Health Cloud **利用管理、**Health Cloud **メンバーサービスの** 1 **つ以上の権限セットが必要です。**

理由: 新しいデータコードセットデータモデルでは、業界標準の処置/診断コードを Health Cloud **で使用できます。これらのコードは、患者の臨床レコードの一部として個別の処置および診断を保存するため、または利用管理の事前承認要請で使用できます。**

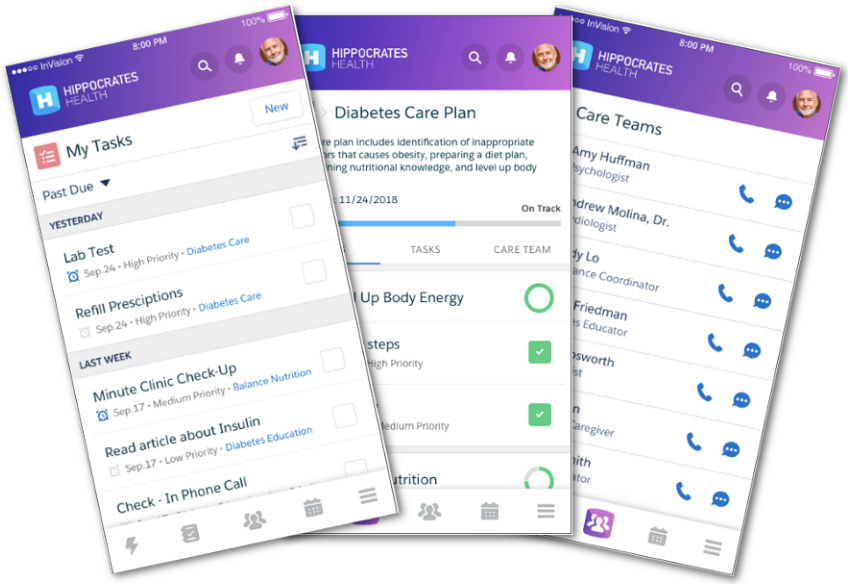
方法: 米国医師会または同様の組織の通用手技用語集 (CPT) **や疾病及び関連保健問題の国際統計分類** (ICD) **などのコードを取得します。データローダを使用してコードをインポートし、診断コード項目を** HealthCareDiagnosis **オブジェクトに、処置コードを** HealthCareProcedure **オブジェクトに対応付けます。会社で使用する情報のみが表示されるように表示されるデータを変更できます。共有ルールを使用して、コードセットを使用する個人にアクセス権を付与します。**

Health Cloud アプリケーションテンプレートを使用した患者およびメンバーへの関与

デジタルエンゲージメントを促進し、ヘルスコンシューマが健康上の目標を完全に把握して、情報にすばやくアクセスし、治療計画に準拠して、各自のヘルスジャーニーを制御できるようにする、患者およびメンバー向けのカスタムブランドモバイルアプリケーションを簡単に作成できます。新しい Community Cloud **向け** Mobile Publisher **を使用して、これらのネイティブアプリケーションをパッケージ化し、**Apple **および** Google **のアプリケーションストアで配布します。**

対象: この機能は、Lightning Experience **および** Salesforce Classic **でアクセスする** Lightning **コミュニティと、**Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **で使用できます。組織に** Health Cloud **管理パッケージがインストールされていて、**Health Cloud **権限セットライセンスが割り当てられている必要があります。**

理由: 知識は力なり。ブランド設定された専用のスマートフォンアプリケーションで患者に知識を提供します。アプリケーションにより、患者は Health Cloud **コンポーネント (目標、ケアプラン、**ToDo**、ケアチームなど) を簡単に操作できるようになるため、効率的に** ToDo **を実行に移し、ケアプランを続け、提供者に連絡することができます。**



方法: Health Cloud には、Bolt テンプレートが含まれる省略可能な未管理パッケージが用意されています。このテンプレートをカスタマイズして Community アプリケーションを作成し、別途購入する新しい Community 向け Mobile Publisher 機能を使用して Apple App Store や Google Play Store に公開します。テンプレートは、Mobile Publisher と連携するように特別に作成されています。

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.health_cloud.meta/health_cloud/admin_campaigns.htm

Lightning Scheduler を使用した患者およびメンバーの予定のパーソナライズ

Lightning Scheduler は強力な機能セットで、ケアコーディネータやケースマネージャとの予定を簡単にスケジュールできます。

対象: この機能は、Enterprise Edition および Unlimited Edition で有料で使用できます。

関連トピック:

Lightning Scheduler を使用したパーソナライズされた予定の作成

Salesforce ヘルプ: Manage Appointments with Lightning Scheduler (Lightning Scheduler を使用した予定の管理) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Health Cloud の新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition に適用されます。

対象ユーザ: オブジェクトにアクセスするには、システム管理者は Health Cloud 管理パッケージをインストールし、Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスをユーザに割り当てる必要があります。

CareBarrier

十分なヘルスケアを受ける妨げとなっている制限や障害を表します。

CareBarrierDeterminant

患者の決定要因に対する障壁のリレーションを表します。

CareBarrierType

組織で保持されている障壁の標準の定義済みリストを表します。

CareDeterminant

患者の健康の決定要因 (安全な住居、十分な雇用、地域の食品市場があるかどうかなど) を表します。

CareDeterminantType

組織で保持されている健康の決定要因の標準の定義済みリストを表します (ドメインや種別を含む)。

CareInterventionType

組織で保持されている介入の標準の定義済みリストを表します。

HealthCareDiagnosis

業界標準ヘルスケア診断コードに関連する情報を表します。

HealthCareProcedure

業界標準ヘルスケア処置コードに関連する情報を表します。

Health Cloud オブジェクトの変更

次のオブジェクトにカスタム項目が追加されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition に適用されます。

対象ユーザ: オブジェクトにアクセスするには、システム管理者は Health Cloud 管理パッケージをインストールする必要があります。次に、Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスをユーザに割り当てる必要があります。

方法: 次のオブジェクトに新規カスタム項目が追加されました。

Lead

次の項目が新規追加されました。

- `Diagnosis__c`
- `InsuranceGroupId__c`
- `InsuranceMemberId__c`
- `InsuranceType__c`
- `IsOutOfNetwork__c`
- `PrimaryInsurance__c`
- `Priority__c`
- `ReasonForOutOfNetworkReferral__c`

- ReasonForReferral__c
- ReferralStatus__c
- ReferredToOrganization__c
- ReferredToPractitioner__c
- ReferredToUser__c
- ReferringOrganization__c
- ReferringPractitioner__c
- ReferringUser__c
- RelatedAccount__c
- Specialty__c
- TypeOfService__c

Opportunity

次の項目が新規追加されました。

- Diagnosis__c
- InsuranceGroupId__c
- InsuranceMemberId__c
- InsuranceType__c
- IsOutOfNetwork__c
- PrimaryInsurance__c
- Priority__c
- ReasonForOutOfNetworkReferral__c
- ReferralReceivedDate__c
- ReferredToOrganization__c
- ReferredToPractitioner__c
- ReferredToUser__c
- ReferringOrganization__c
- ReferringPractitioner__c
- ReferringUser__c
- Specialty__c
- TypeOfService__c

Contact

次の項目が新規追加されました。

- ConvertedReferrals__c
- ReferrerScore__c
- TotalReferrals__c

新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント

Health Cloud にコンポーネントが追加されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **に適用されます。**

対象ユーザ: コンポーネントにアクセスするには、システム管理者は Health Cloud 管理パッケージをインストールし、Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスをユーザに割り当てる必要があります。

方法: 次のコンポーネントが新規追加されました。

ケア決定要因

ケア決定要因 Lightning コンポーネントでは、障壁をオブジェクトに関連付けて、アプリケーションにどのように障壁を表示するのかを設定できます。

カスタマイズ: Einstein Next Best Action、Lightning Flow Builder、Salesforce Connect の機能強化

正式リリースされた Einstein Next Best Action を使用して、組織をスマートにします。新しい Flow Builder で、よりシンプルで合理化されたフローを作成します。新しいツール、既存のツールの改善、制限の緩和により、これまでより簡単に外部データシステムへの接続を作成して操作します。

このセクションの内容:

Einstein: Next Best Action および予測ビルダー
Salesforce Einstein の機能を利用して、顧客に提案とアクションを推奨し、ビジネスで次に何が起こるかを予測します。

Lightning フロー: Flow Builder、プロセスおよびフローテンプレート、外部オブジェクトサポート
いよいよ、Flow Builder が導入されました。これがクラウドフローデザイナの代わりになり、Salesforce Classic と Lightning Experience の両方でフローの作成方法を簡略化および合理化する、まったく新しいインターフェースが使用されます。コピーしてカスタマイズできるテンプレートを介した事前作成済みのビジネスプロセスも提供されます。さらに、Salesforce の外部に保存されているデータを検索、作成、更新可能な 1 つのプロセスまたはフローを作成できるようになりました。

Salesforce Connect: 制限の緩和、接続検証、その他
外部データシステムへの接続を作成してやり取りするためのツールがいくつか追加されました。Odata コールアウトおよび取得または作成された新しい行で、各組織の Salesforce Connect の 1 時間あたりのデフォルト制限が緩和されました。組み込まれた診断ツールの検証を使用して、外部オブジェクト接続のテストとトラブルシューティングを行います。さらに、OData 2.0 アダプタが改善されています。

Lightning アプリケーションビルダー: テンプレートの切り替えと新しいコンポーネント
新しいページを作成することなく、Lightning ページに新しいテンプレートを提供します。新しいコンポーネントを利用して、レコードページやメールアプリケーションペインを強化します。

データ保護とプライバシー: より詳細な同意設定
新しいオブジェクトと項目を使用して、詳細なレベルでデータプライバシー設定を追跡します。新しいメタデータ項目は、顧客の機密データの分類に役立ちます。

グローバリゼーション: 新しい言語と改善された右から左へ記述されるレイアウト
インドや南アフリカの顧客とつながりを持てるように、10 個の新しいプラットフォーム言語が追加されました。また、Lightning Experience の右から左へ記述される言語のサポートが拡張されました。

共有: テリトリーに基づく共有とドキュメントの改善

エンタープライズテリトリー管理では、新しい共有オプションがサポートされます。また、Salesforce ヘルプの共有ルールのドキュメントが更新され、より簡潔で有益なドキュメントになりました。

一般設定: [設定] での Big Object、アプリケーションのデフォルトのホームページ

メタデータ API に制限されることなく、[設定] から直接 Big Object を作成できるようになりました。アプリケーションごとにデフォルトのホームページを割り当てて、ユーザに最も関連性の高いホームページを表示します。

Einstein: Next Best Action および予測ビルダー

Salesforce Einstein の機能を利用して、顧客に提案とアクションを推奨し、ビジネスで次に何が起こるかを予測します。

このセクションの内容:

Einstein 予測ビルダー: 改善されたスコアカード、通知、新しい設定フロー (正式リリース)

ベータプログラムが正常に完了し、Einstein 予測ビルダーが正式リリースされました。スコアカードの各プレディクターの影響についての詳細を確認してください。予測の準備ができたら通知を受け取ります。合理化された設定フローで予測をより効率的に構築します。

Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)

Einstein Next Best Action で適切なおすすめを、適切なタイミングで、適切なユーザに表示します。Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、データを統合し、すべての使用事例で一意の戦略を作成します。特定の条件下でのみ関連を持つ提案(割引やアップグレードなど)はないでしょうか。または、サービスエージェントが顧客をサポートする方法が複数あり、最適なアクションにエージェントを誘導したいと考えていませんか。その場合は、Einstein Next Best Action の使用を検討してください。

推奨アクションと提案を生成するアクション戦略の構築

Strategy Builder を使用して、Lightning レコードページおよびコミュニティページに表示できるアクションと提案のストリームを作成します。Strategy Builder は、Einstein Next Best Action の戦略を作成するためのポイント & クリック自動化ツールです。Strategy Builder では、おすすめの並び替え、絞り込み、優先順位付けを行うことができます。

Einstein 予測ビルダー: 改善されたスコアカード、通知、新しい設定フロー (正式リリース)

ベータプログラムが正常に完了し、Einstein 予測ビルダーが正式リリースされました。スコアカードの各プレディクターの影響についての詳細を確認してください。予測の準備ができたら通知を受け取ります。合理化された設定フローで予測をより効率的に構築します。

このセクションの内容:

モデルの各プレディクターによる影響の理解
プレディクターとは、予測に影響する可能性がある項目値のことです。モデルスコアカードのプレディクターの数に圧倒されていますか? どれに注意を払えばよいかわかりませんか? Einstein が各プレディクターの影響スコアを提供するようになりました。

予測状況に関する通知の受信
予測の構築にはしばらくかかる場合があります。予測が構築されたとき、および何らかの問題が発生したときに、Einstein から通知されるようになりました。予測状況を常に確認する必要はありません。通常の作業に取り掛かり、予測の準備ができたときに知ることができます。

合理化された予測フローによる作業時間の短縮
予測を構築するときに、設定フローの一部のページが並び替えられ、統合されていることに気付くかと思います。たとえば、オブジェクトを選択し、その同じページでセグメンテーションを設定します。

関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

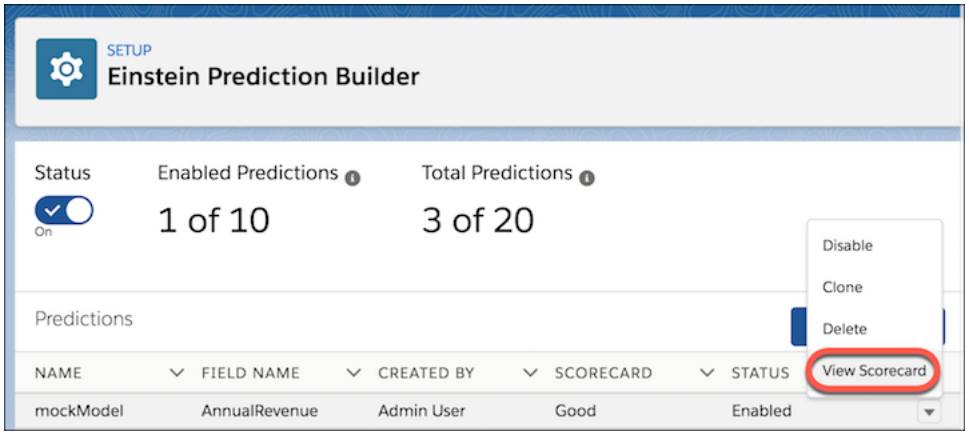
モデルの各プレディクターによる影響の理解

プレディクターとは、予測に影響する可能性がある項目値のことです。モデルスコアカードのプレディクターの数に圧倒されていますか? どれに注意を払えばよいかわかりませんか? Einstein が各プレディクターの影響スコアを提供するようになりました。

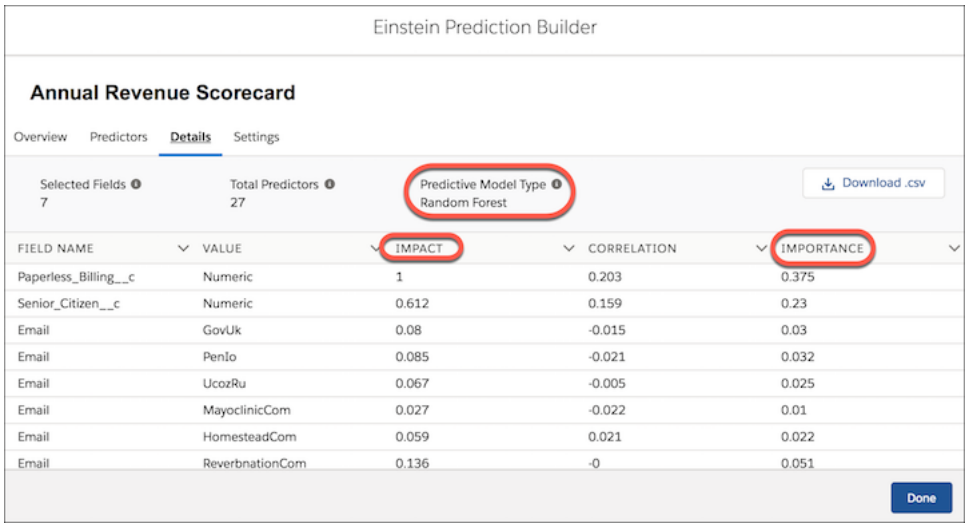
対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus または Einstein 予測ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 予測の構築が完了したら、予測リストでそれを見つけて、アクションメニューから [スコアカードを表示] を選択します。



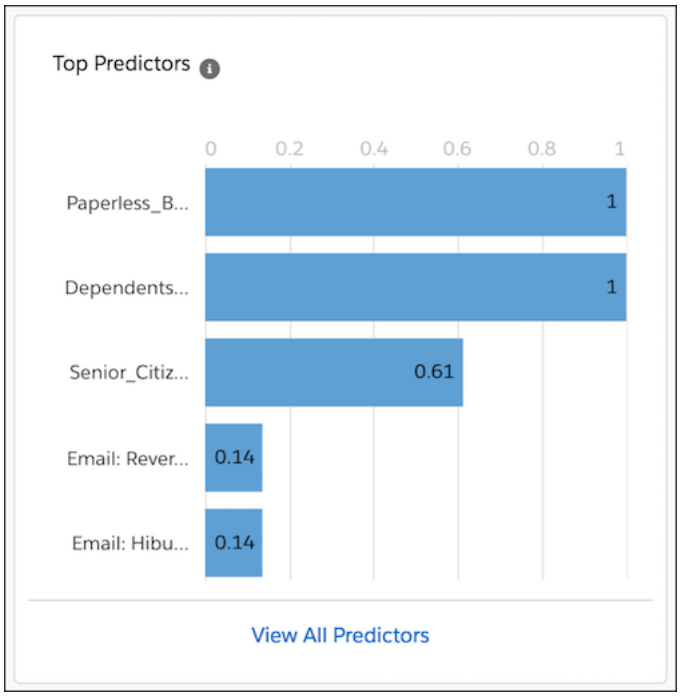
影響は、プレディクターの加重または重要度を表す 0 ～ 1 の数値で示されます。



重要度(またはモデル種別によっては*加重*)は、プレディクターが予測モデルでどの程度重要かを表します。Einsteinは、特定のモデルのデータに最適なモデル種別を使用して、予測モデルを構築します。一部のモデルは重要度を使用し、他のモデルは加重を使用するため、複数のモデル間でプレディクターを比較することは難しい場合があります。そのため、Einsteinは影響スコアを提供します。このスコアは、スコアカードの[詳細]ページに表示されます。

スコアカードには、モデルの構築に使用された予測モデル種別も表示されます。true/falseの項目の場合、Einsteinはランダムフォレストおよびロジスティック回帰のモデル種別をテストします。数値項目の場合、Einsteinはランダムフォレストおよび線形回帰のモデル種別をテストします。

スコアカードの[概要]ページには、プレディクターの影響が視覚的に表示されます。ここで、モデルの上位5件のプレディクターの影響を確認できます。すべてのプレディクターの影響を表示するには、[すべてのプレディクターを表示]をクリックします。



関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

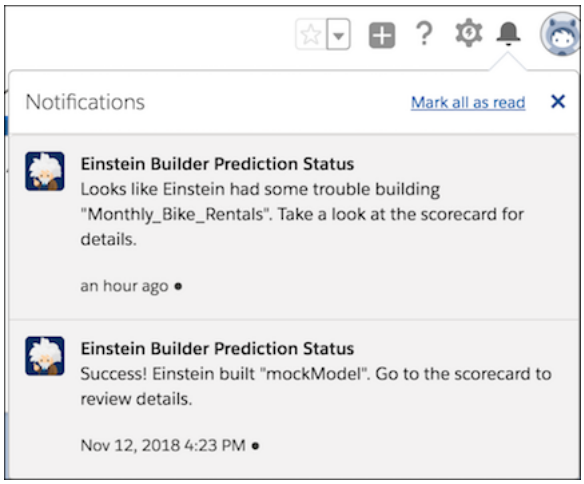
予測状況に関する通知の受信

予測の構築にはしばらくかかる場合があります。予測が構築されたとき、および何らかの問題が発生したときに、Einsteinから通知されるようになりました。予測状況を常に確認する必要はありません。通常の作業に取り掛かり、予測の準備ができたときに知ることができます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus または Einstein 予測ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Salesforce での作業中、通知アイコンの小さい赤色の数値に注目します。それをクリックすると、予測がどうなっているかを確認できます。



関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

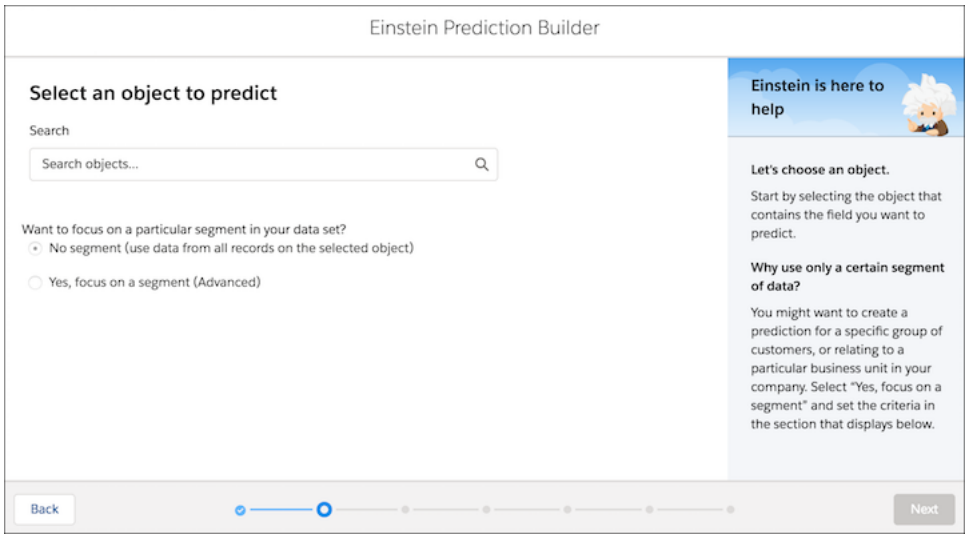
合理化された予測フローによる作業時間の短縮

予測を構築するときに、設定フローの一部のページが並び替えられ、統合されていることに気付くかと思います。たとえば、オブジェクトを選択し、その同じページでセグメンテーションを設定します。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus または Einstein Predictions ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: この新しく軽量化されたフローは、必要なクリック数が減り、作業が楽になっています。



関連トピック:

Salesforce Einstein: ケース分類、インサイトと取引先責任者のレポート、Pardot 行動スコアリング (正式リリース)

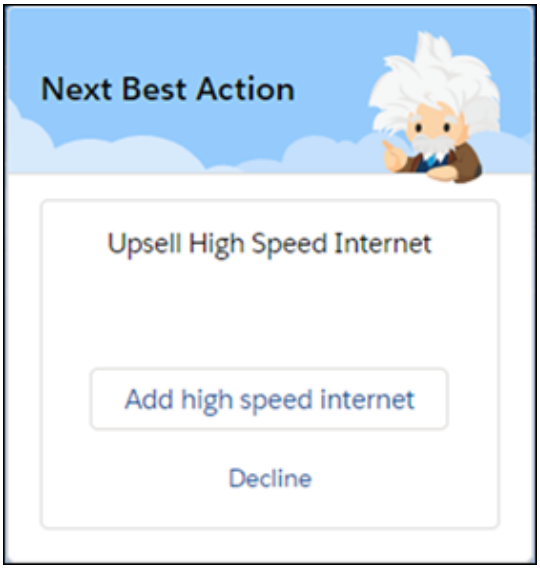
Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)

Einstein Next Best Action で適切なおすすめを、適切なタイミングで、適切なユーザに表示します。Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、データを統合し、すべての使用事例で一意の戦略を作成します。特定の条件下でのみ関連を持つ提案 (割引やアップグレードなど) はないでしょうか。または、サービスエージェントが顧客をサポートする方法が複数あり、最適なアクションにエージェントを誘導したいと考えていませんか。その場合は、Einstein Next Best Action の使用を検討してください。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: たとえば、エージェントが取引先責任者レコードを開くと、Einstein Next Best Action コンポーネントが Strategy Builder からおすすめのセットを要求し、その取引先責任者に対して推奨される提案が表示されます。3 つのアクション候補が提供される可能性があるため、戦略を実行して最適なアクションを選択します。

- 最初のアクションが除外されるのは、顧客の信用度が特定のしきい値より低いためです。
- 2 番目のアクションが除外されるのは、顧客がすでに使用しているサービスのアップセルの提案であるためです。
- 最後のアクションが提供されて推奨されるのは、顧客の満足度スコアが平均を上回り、異なるアップセルの提案が適切であると判断されたためです。



方法: 戦略で絞り込むおすすめを作成します。アクションまたは提案が含まれる画面フローを作成して有効化し、おすすめに関連付けます。ユーザがおすすめを受け入れると、それに関連付けられている画面フローが起動します。

[設定] の [Next Best Action] で [Strategy Builder] を見つけます。おすすめを読み込み、ルール、予測、項目値、外部データに基づいて、それらのおすすめを絞り込んだり並び替えたりする戦略を作成します。

Lightning コンポーネントをレコードページに追加して、特定の戦略に対するおすすめを表示します。Lightning レコードページの場合、Einstein Next Best Action コンポーネントを追加します。Lightning コミュニティページの場合、推奨アクションコンポーネントを追加します。Visualforce ページの場合、Lightning Out を使用して、lightning:nextBestAction コンポーネントを追加します。

関連トピック:

Salesforce Help: Einstein Next Best Action

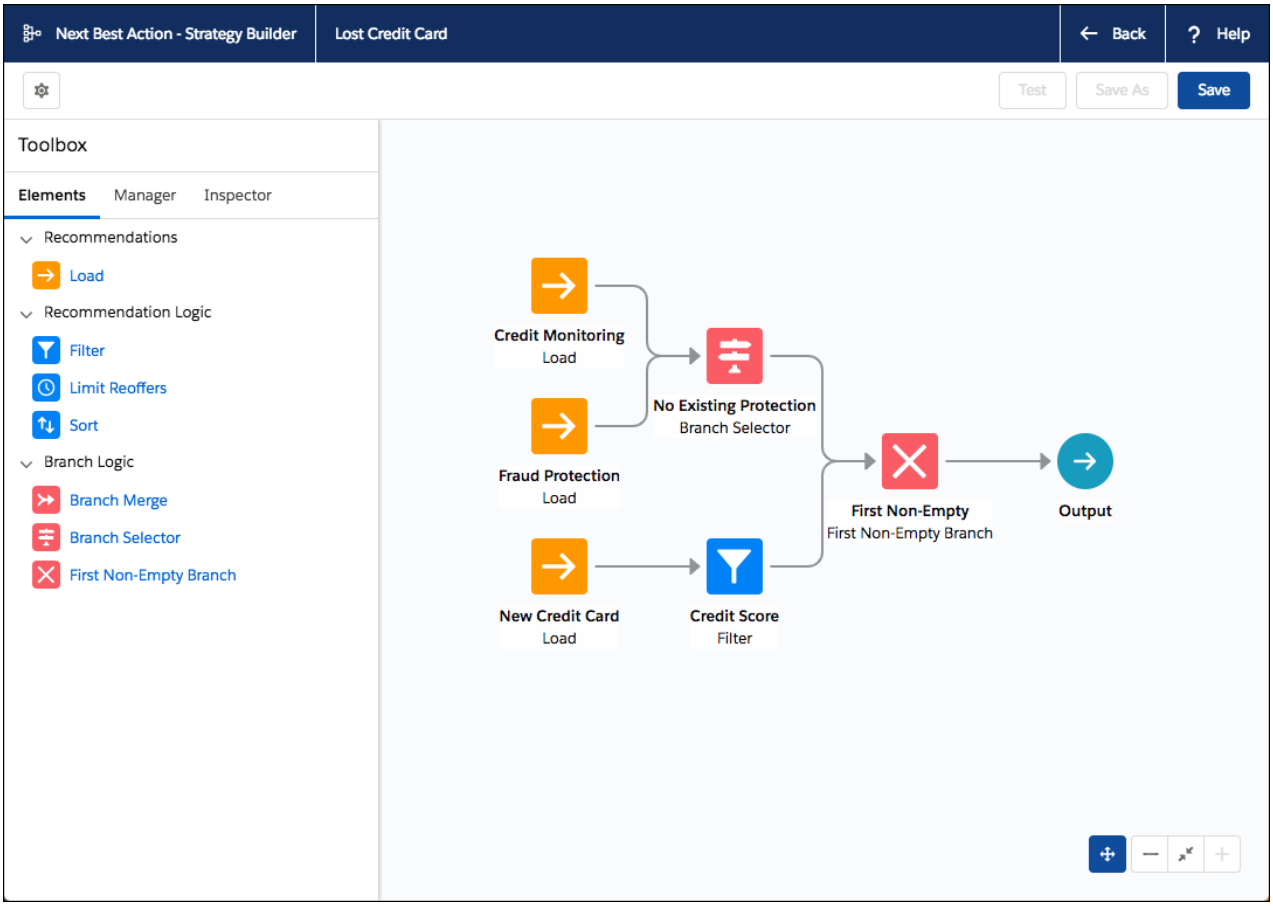
推奨アクションと提案を生成するアクション戦略の構築

Strategy Builder を使用して、Lightning レコードページおよびコミュニティページに表示できるアクションと提案のストリームを作成します。Strategy Builder は、Einstein Next Best Action の戦略を作成するためのポイント & クリック自動化ツールです。Strategy Builder では、おすすめの並び替え、絞り込み、優先順位付けを行うことができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 使用事例に合った戦略を設計して、適切なおすすめを適切なタイミングで提供します。

たとえば、銀行を所有しており、顧客の状況に最も適した提案をサービス担当者に表示したいとします。顧客がクレジットカードを紛失してサポートに連絡してきたときに、サービス担当者は「lost credit card」(クレジットカードの紛失) 種別のケースを作成します。ケース種別を識別して提案を推奨する戦略を作成できます。この戦略では、顧客の信用度に応じて、クレジットの監視、不正からの保護、新しいクレジットカードの提案を推奨します。



Strategy Builder を使用して、すべてのおすすめの候補を取り込み、既存の保護および信用度に基づいて絞り込むことができます。Strategy Builder には、条件に合った提案のみが表示されます。

方法: アクションまたは提案が含まれる画面フローを作成して有効化します。おすすめを作成して、既存のフローに接続します。ユーザがおすすめを受け入れると、それに関連付けられている画面フローが起動します。

Lightning コンポーネントをページに追加して、特定の戦略に対するおすすめを表示します。Lightning ページの場合、Einstein Next Best Action コンポーネントを追加します。Lightning コミュニティページの場合、推奨アクションコンポーネントを追加します。Visualforce ページの場合、Lightning Out を使用して、lightning:nextBestAction コンポーネントを追加します。

関連トピック:

Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)

Lightning フロー: Flow Builder、プロセスおよびフローテンプレート、外部オブジェクトサポート

いよいよ、Flow Builder が導入されました。これがクラウドフローデザイナの代わりになり、Salesforce Classic と Lightning Experience の両方でフローの作成方法を簡略化および合理化する、まったく新しいインターフェースが使用されます。コピーしてカスタマイズできるテンプレートを介した事前作成済みのビジネスプロセスも提供されます。さらに、Salesforce の外部に保存されているデータを検索、作成、更新可能な 1 つのプロセスまたはフローを作成できるようになりました。

このセクションの内容:

Flow Builder を使用したより直感的なフローの作成
フロー作成環境が大幅に改善されました。クラウドフローデザイナは、大幅に迅速化されたツール (Flow Builder) に置き換わります。Flow Builder では、簡略化されたユーザインターフェースでフローの作成やメンテナンスが合理化されます。

プロセスおよびフロー設計:外部データアクセス、プロセスおよびフローテンプレート、コミュニティの支援要求フロー
プロセスの機能強化が発表されました。コピーしてカスタマイズできるテンプレートを介して事前作成済みのビジネスプロセスを取得できます。さらに、プロセスやフローで組織外に保存されているデータにアクセスしたり、Salesforce エラー通知に応答したりできます。すべてのプロセス種別でスケジュール済みアクションがサポートされ、新しいフロー種別が登場しました。

フローの配布: Next Best Action を使用する推奨フロー、ガイド付きアクションリリース、ゲストユーザがフローを実行できるようにする Snap-In
フローが機能するようになる新しい方法があります。Einstein Next Best Action を使用して、適切なユーザに適切なタイミングでスマートに画面フローを推奨します。さらに、ガイド付きアクションリストコンポーネントと Snap-in リリースのフローの動作も改善されています。

Apex を使用したプロセスのスケジュール済みアクションとフローの再開イベントのテスト
バックグラウンドの自動化でテストカバー率を高めるため、`stopTest` Apex メソッドはプロセスの待機中のスケジュール済みアクションを実行し、時間ベースの再開イベントを待機しているフローを再開します。以前は、Apex テストでプロセスと自動起動フローを開始できましたが、スケジュール済みアクションや、フローを再開するかどうかは検証できませんでした。

Flow Builder を使用したより直感的なフローの作成

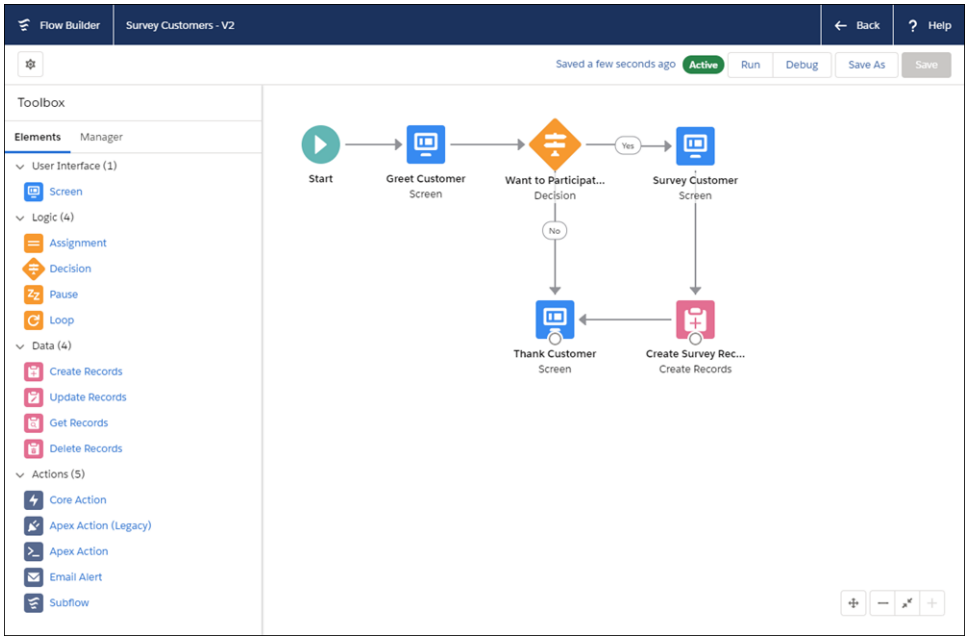
フロー作成環境が大幅に改善されました。クラウドフローデザイナは、大幅に迅速化されたツール (Flow Builder) に置き換わります。Flow Builder では、簡略化されたユーザインターフェースでフローの作成やメンテナンスが合理化されます。

対象: Flow Builder は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。Flow Builder は、Internet Explorer 11 以前ではサポートされていません。

対象ユーザ: クラウドフローデザイナと同様に、Flow Builder は「フローの管理」ユーザ権限を持つシステム管理者が使用できます。

理由: Salesforce プラットフォームの他のビルダー (Lightning アプリケーションビルダーやコミュニティビルダーなど) に精通していれば、使いやすいと感じるはずです。

Flow Builder では、ツールボックスが合理化されているため、フローに合った要素またはリソースをより簡単に選択できます。たとえば、データ要素や、変数の作成方法が統合されています。高速作成とレコード作成のどちらを使用するかや、どの変数種別が必要なのかを把握しておく必要はもうありません。また、いくつかの要素やリソースがより直感的な名称に変更されました。たとえば、sObject データ型は「レコード」と呼ばれるようになりました。



方法: Flow Builder は、Salesforce Classic または Lightning Experience のすべての組織でデフォルトのフロー作成ツールになったため、移行の必要はありません。既存のフローを変更するか、[新規フロー] をクリックすると、Flow Builder が開きます。

Flow Builder を使用する場合の違いは、フローの作成方法または変更方法のみです。新しい Flow Builder は、フローの動作やフロー実行時のユーザ環境には影響しません。

現時点では、どちらのツールでもフローにアクセスできます。クラウドフローデザイナは、デフォルトで無効になっていますが、再度有効にできます。[設定] から、[プロセスの自動化設定] に移動し、[クラウドフローデザイナへのアクセスを無効化] をオフにします。クラウドフローデザイナが再度有効になると、フローページに [クラウドフローデザイナの新規フロー] ボタンが表示されます。両方のツールが有効になっている場合、フローはそのフローを作成したツールで開きます。

メモ:

- フローの作成に Adobe Flash は必要なくなりました。
- クラウドフローデザイナ、メタデータ API、および Tooling API から返されたエラーメッセージを含め、フローのエラーメッセージが、Flow Builder で使用されている用語を反映するように更新されました。特定のエラー文字列があるかどうかを確認するコードを作成している場合、そのコードを更新するこ

とが必要になることがあります。Flow Builder またはクラウドフローデザイナの一部の警告、エラーメッセージ、およびデバッグの詳細内の用語は更新されていません。

プロセスおよびフロー設計: 外部データアクセス、プロセスおよびフローテンプレート、コミュニティの支援要求フロー

プロセスの機能強化が発表されました。コピーしてカスタマイズできるテンプレートを介して事前作成済みのビジネスプロセスを取得できます。さらに、プロセスやフローで組織外に保存されているデータにアクセスしたり、Salesforce エラー通知に応答したりできます。すべてのプロセス種別でスケジュール済みアクションがサポートされ、新しいフロー種別が登場しました。

このセクションの内容:

カスタマイズ可能な事前作成済みのビジネスプロセスの作成またはインストール

プロセスまたはフローテンプレートが基本ビジネスプロセスとなり、それをコピーしてカスタマイズされたビジネスプロセスを作成できます。非テンプレートプロセスおよびフローとは異なり、管理パッケージからテンプレートをインストールした場合、それを開いてコピーできます。独自のテンプレートを作成して管理パッケージを使用しない場合でも、プロセスまたはフローをテンプレートとしてマークすると、基本ビジネスプロセスとして明確に識別されます。

プロセスまたはフローを使用した Salesforce エラーへの応答

Salesforce プラットフォームで提供される標準プラットフォームイベントがプロセスおよびフローでサポートされるようになりました。Apex 一括処理プラットフォームイベント (`BatchApexErrorEvent`) とプラットフォーム状況アラートイベント (`PlatformStatusAlertEvent`) の両方で Salesforce のエラーに関する情報をキャプチャします。カスタムプラットフォームイベントのように、これらの標準プラットフォームイベントのイベントメッセージを受信したときにプロセスの開始またはフローの再開を行うことができます。以前は、プロセスおよびフローでサポートされているプラットフォームイベントはカスタムイベントのみでした。

コミュニティユーザが支援を要求できるようにするフローの作成

フローを使用して、コミュニティメンバーがサポートチームから折り返し連絡するように要求できるようにします。フローを作成する場合、新しい [連絡要求フロー] 種別と [顧客問い合わせ要求を作成] アクションを探します。フローを作成したら、コミュニティビルダーを使用してコンポーネントをページに追加します。

フローでのより簡単な画像の表示と住所情報のキャプチャ

2つの新しい画面コンポーネントでフローが改善されます。表示画像コンポーネントを使用して、フロー画面に画像を挿入します。住所コンポーネントを使用して、設定に合わせてカスタマイズされた完全な住所フォームを表示します。

プロセスおよびフローによる外部オブジェクトを介した Salesforce 外部のデータへのアクセス

Salesforce データと Salesforce の外部にあるデータの両方にアクセスできる 1 つのプロセスを自動化します。Salesforce Connect 外部オブジェクトを使用して、外部システムに保存されているデータを検索、作成、更新できるプロセスまたはフローを作成できます。外部オブジェクトは、イベントプロセス、呼び出し可能なプロセス、画面フロー、自動起動フローのすべてでサポートされています。レコード変更プロセスでは、外部オブジェクトがサポートされていないため、プラットフォームイベントメッセージを受信したときにプロセスを開始します。

イベントプロセスでのスケジュール済みアクションの実行

プラットフォームイベントを受信したときに開始するプロセスを作成する場合、アクションを実行する時間を設定できます。以前は、レコード変更プロセスでのみスケジュール済みアクションがサポートされていましたが、イベントプロセスでスケジュール済みアクションに対してより多くの操作を実行できるようになりました。これらのスケジュール済みアクションでは、外部オブジェクトを介して Salesforce の外部に保存されているデータを作成または更新できます。レコード変更プロセスでは、外部オブジェクトはサポートされていません。

プロセスのアクションをすぐに実行するスケジュール

待機時間/日数が 0、つまり、待機中のアクションができるだけ早く実行されるスケジュールをプロセスビルダーで作成できるようになりました。以前は、待機中のスケジュール済みアクションの最小時間は現在時刻から1時間でした。スケジュール済みアクションはルール適用時のアクションとは別のトランザクションで実行されるため、スケジュール済みアクションを使用してガバナ制限を回避できます。

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (重要な更新)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

重要な更新「自動項目更新によるメール通知の抑制の防止」の延期

この重要な更新は、Summer '17 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、2020 年 3 月 1 日 (GMT) に延期されました。

カスタマイズ可能な事前作成済みのビジネスプロセスの作成またはインストール

プロセスまたはフローテンプレートが基本ビジネスプロセスとなり、それをコピーしてカスタマイズされたビジネスプロセスを作成できます。非テンプレートプロセスおよびフローとは異なり、管理パッケージからテンプレートをインストールした場合、それを開いてコピーできます。独自のテンプレートを作成して管理パッケージを使用しない場合でも、プロセスまたはフローをテンプレートとしてマークすると、基本ビジネスプロセスとして明確に識別されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 事業を展開している国ごとに若干異なるプロセスまたはフローが必要だとします。基本ビジネスプロセスのテンプレートを作成またはインストールし、それをコピーして各国固有のビジネスプロセスを作成できます。

方法: プロセスをテンプレートにするには、プロセスビルダーで開いて[プロパティを編集]をクリックします。[テンプレート] で [はい] を選択します。フローをテンプレートにするには、[設定] のフローリストページに移動します。フローを見つけて [編集] をクリックし、[テンプレート] を選択します。

テンプレートを有効にして他のプロセスやフローと同じように実行できますが、通常はテンプレートを無効のままにします。テンプレートをコピーしてそのコピーをカスタマイズしたら、組織でコピーを有効にします。管理パッケージからテンプレートをインストールした後にアップグレードをインストールすると、テンプレートはアップグレードバージョンで上書きされますが、コピーはその影響を受けません。

メモ:

- パッケージからプロセステンプレートをインストールする場合、プロセスを組織で実行する必要がない限り、プロセスが無効になっていることを確認します。パッケージにプロセステンプレートを追加する場合、インストーラでのインストール時に組織でプロセスを有効化することが明確でない限り、

最初にプロセスを無効にします。プロセスの状況はプロセス管理ページで確認できます。プロセスを無効にするには、プロセスビルダーで開いて [無効化] をクリックします。

- クラウドフローデザイナでフローテンプレートを開くことはお勧めしません。これを行うと、フローの [テンプレート] 項目が選択解除されます。フローの詳細ページで [テンプレート] 項目を再選択できます。

開発者のための関連更新

メタデータ API

Flow メタデータ型に `isTemplate` 項目が追加されました。

Tooling API

Flow オブジェクトに `IsTemplate` 項目が追加されました。

関連トピック:

登録者が開いたり、作成元として使用したりできる事前作成済みのビジネスプロセスのパッケージ化
無効なプロセスおよびフローのパッケージ化

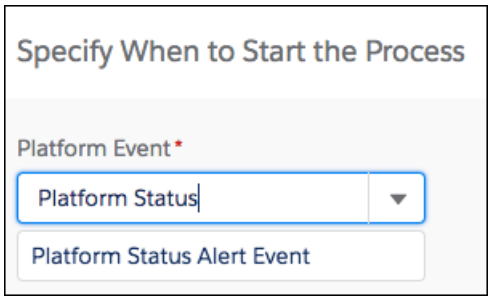
プロセスまたはフローを使用した Salesforce エラーへの応答

Salesforce プラットフォームで提供される標準プラットフォームイベントがプロセスおよびフローでサポートされるようになりました。Apex 一括処理プラットフォームイベント (`BatchApexErrorEvent`) とプラットフォーム状況アラートイベント (`PlatformStatusAlertEvent`) の両方で Salesforce のエラーに関する情報をキャプチャします。カスタムプラットフォームイベントのように、これらの標準プラットフォームイベントのイベントメッセージを受信したときにプロセスの開始またはフローの再開を行うことができます。以前は、プロセスおよびフローでサポートされているプラットフォームイベントはカスタムイベントのみでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: プロセスの開始またはフローの再開を行うプラットフォームイベントを選択する場合、組織のカスタムプラットフォームイベントと共に Apex 一括処理プラットフォームイベントとプラットフォーム状況アラートイベントを使用できます。

たとえば、Einstein Next Best Action 戦略のエラー通知の受信者をカスタマイズしたいとします。これらのエラーは、[プラットフォーム状況アラートイベント]プラットフォームイベントで通知されます。プラットフォーム状況アラートイベントからイベントメッセージを受信したときに開始するプロセスを作成します。次に、条件とアクションを使用して、エラーを適切なユーザに送信します。



開発者のための関連更新

Tooling API

EventType 項目の新しい値で EventSubscription オブジェクトが更新されました。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: Apex 一括処理からのプラットフォームイベントの起動

コミュニティユーザが支援を要求できるようにするフローの作成

フローを使用して、コミュニティメンバーがサポートチームから折り返し連絡するように要求できるようにします。フローを作成する場合、新しい [連絡要求フロー] 種別と [顧客問い合わせ要求を作成] アクションを探します。フローを作成したら、コミュニティビルダーを使用してコンポーネントをページに追加します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

コミュニティ: 顧客がサポートからの電話を要求可能

フローでのより簡単な画像の表示と住所情報のキャプチャ

2 つの新しい画面コンポーネントでフローが改善されます。表示画像コンポーネントを使用して、フロー画面に画像を挿入します。住所コンポーネントを使用して、設定に合わせてカスタマイズされた完全な住所フォームを表示します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。画面コンポーネントは、Lightning フローランタイムでのみサポートされます。

方法: 表示画像または住所をフローに追加するには、Flow Builder で画面要素を開くか追加します。目的のコンポーネントを画面のキャンバスにドラッグし、そのプロパティを設定します。

願ってもないことです! 住所画面コンポーネントでは、州/国/テリトリー選択リストを利用できます (組織で有効にしている場合)。

表示画像画面コンポーネントを使用するには、画像を静的リソースとして組織にアップロードします。その後、コンポーネントの設定時にそれらを参照できます。

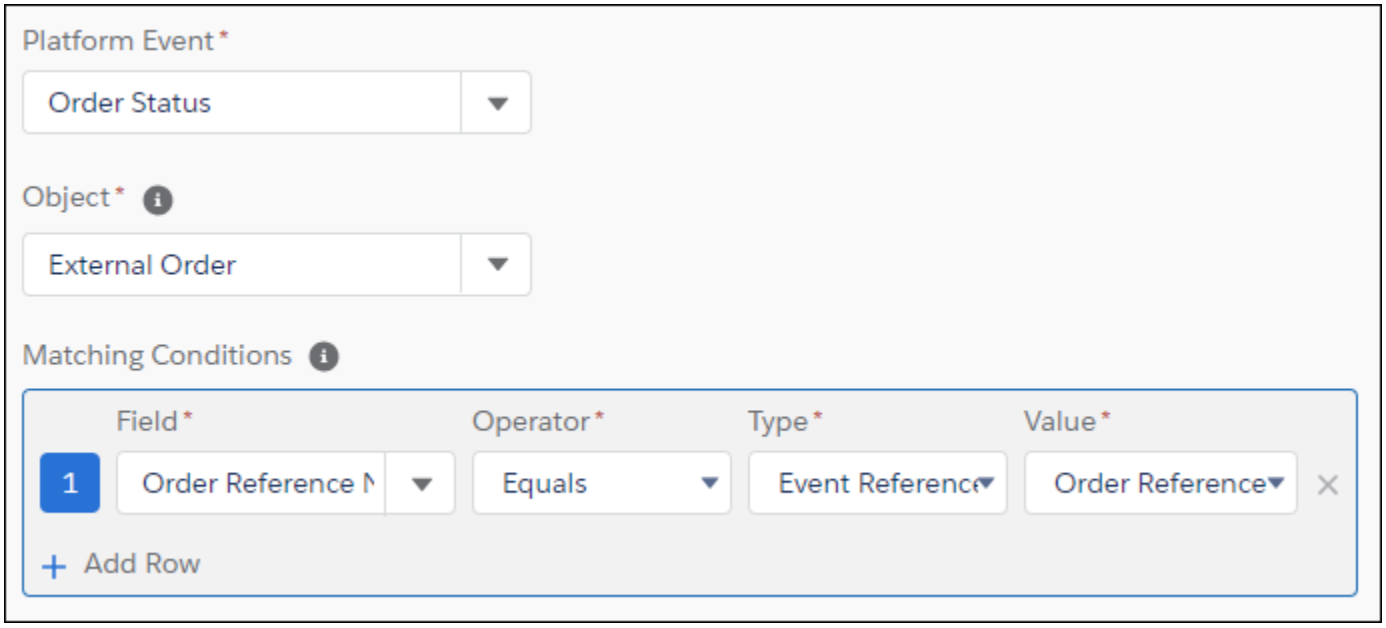
プロセスおよびフローによる外部オブジェクトを介したSalesforce外部のデータへのアクセス

Salesforceデータと Salesforceの外部にあるデータの両方にアクセスできる1つのプロセスを自動化します。Salesforce Connect 外部オブジェクトを使用して、外部システムに保存されているデータを検索、作成、更新できるプロセスまたはフローを作成できます。外部オブジェクトは、イベントプロセス、呼び出し可能なプロセス、画面フロー、自動起動フローのすべてでサポートされています。レコード変更プロセスでは、外部オブジェクトがサポートされていないため、プラットフォームイベントメッセージを受信したときにプロセスを開始します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Salesforce Connect は、Developer Edition では無料、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition では有料オプションで使用できます。

理由: たとえば、注文が更新されたときに、サードパーティの注文管理システムは注文状況のプラットフォームイベントメッセージを公開します。プロセスは、イベントメッセージを受信すると、外部注文レコードの注文参照番号とイベントメッセージの注文参照番号を照合します。この例では、組織でプラットフォームイベントと外部オブジェクトが定義されていることを前提としています。

イベントプロセスで Salesforce データが変更された場合、Salesforce外部のデータを更新する前に新しいトランザクションを開始する必要があります。この作業は、スケジュール済みアクションで行うことができます。できる限り迅速に外部データを更新するには、スケジュールを [{0} 時間後] に設定します。



方法: アクセスするプロセスまたはフローのオブジェクトを選択するときに、標準オブジェクト、カスタムオブジェクト、外部オブジェクトがオプションとして表示されます。

関連トピック:

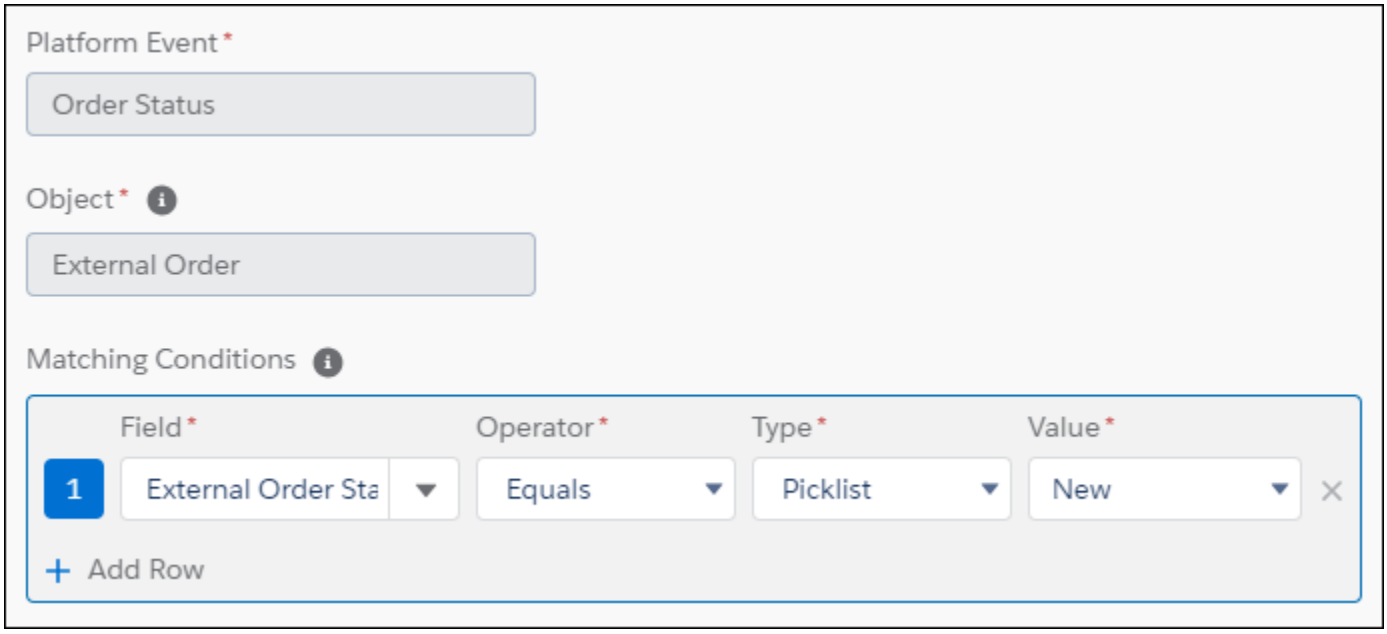
Platform Events Developer Guide (プラットフォームイベント開発者ガイド)
イベントプロセスでのスケジュール済みアクションの実行
プロセスのアクションをすぐに実行するスケジュール

イベントプロセスでのスケジュール済みアクションの実行

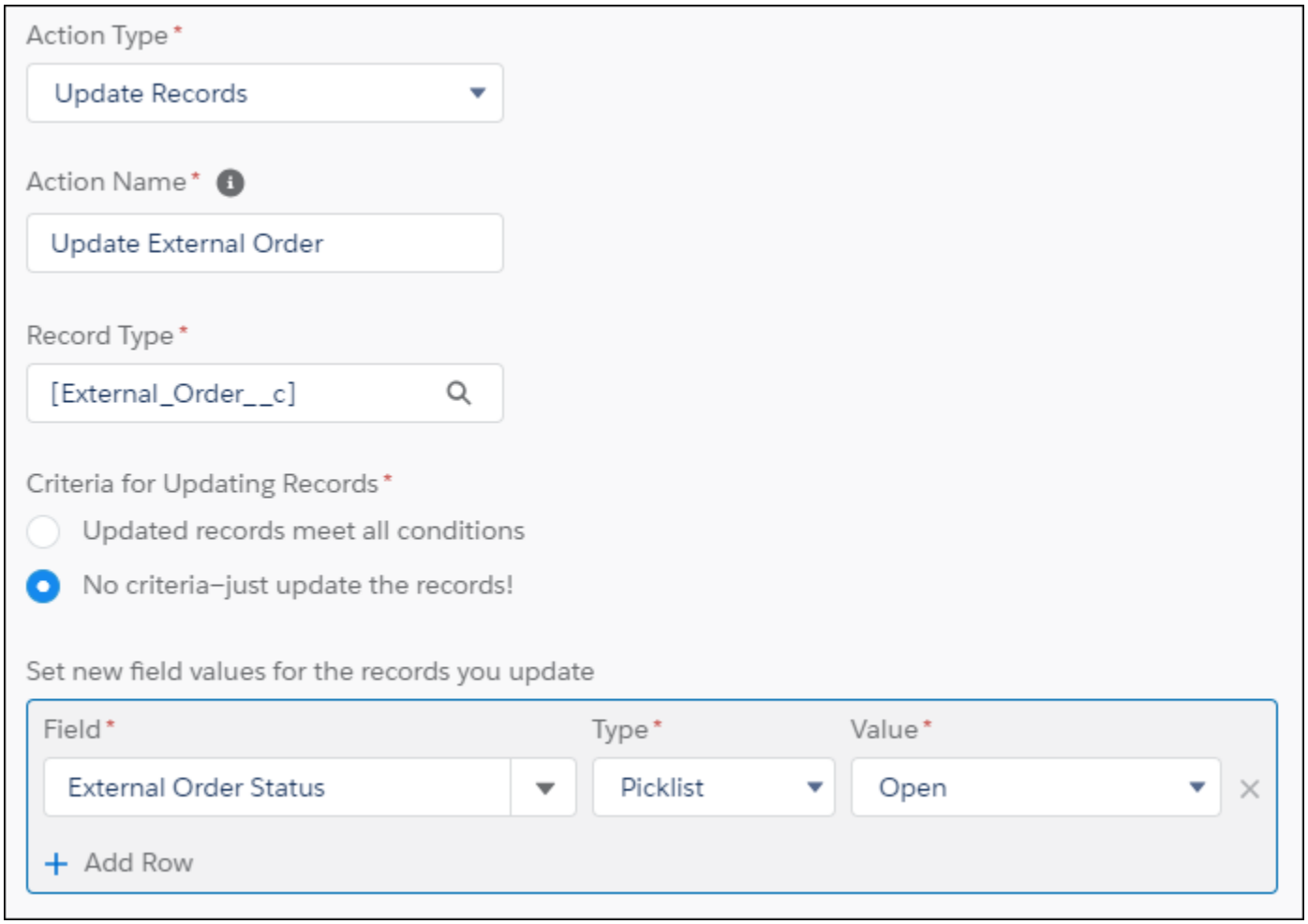
プラットフォームイベントを受信したときに開始するプロセスを作成する場合、アクションを実行する時間を設定できます。以前は、レコード変更プロセスでのみスケジュール済みアクションがサポートされていましたが、イベントプロセスでスケジュール済みアクションに対してより多くの操作を実行できるようになりました。これらのスケジュール済みアクションでは、外部オブジェクトを介してSalesforceの外部に保存されているデータを作成または更新できます。レコード変更プロセスでは、外部オブジェクトはサポートされていません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning Experienceおよび Salesforce Classic に適用されます。

理由: たとえば、注文が作成されたときに、サードパーティの注文管理システムは注文状況のプラットフォームイベントメッセージを公開します。プロセスは、イベントメッセージを受信すると、外部注文状況が[新規]であるかどうかをチェックします。外部注文は外部オブジェクトです。



次に、プロセスはSalesforceの取引先責任者レコードを作成し、外部注文状況を更新するアクションをスケジュールします。



メモ: イベントプロセスで Salesforce データが変更された場合、Salesforce 外部のデータを更新する前に新しいトランザクションを開始する必要があります。この作業は、スケジュール済みアクションで行うことができます。できる限り迅速に外部データを更新するには、スケジュールを [{0} 時間後] に設定します。

方法: イベントプロセスを作成するときに、ルール適用時のアクションとスケジュール済みアクションの両方がオプションとして表示されます。

関連トピック:

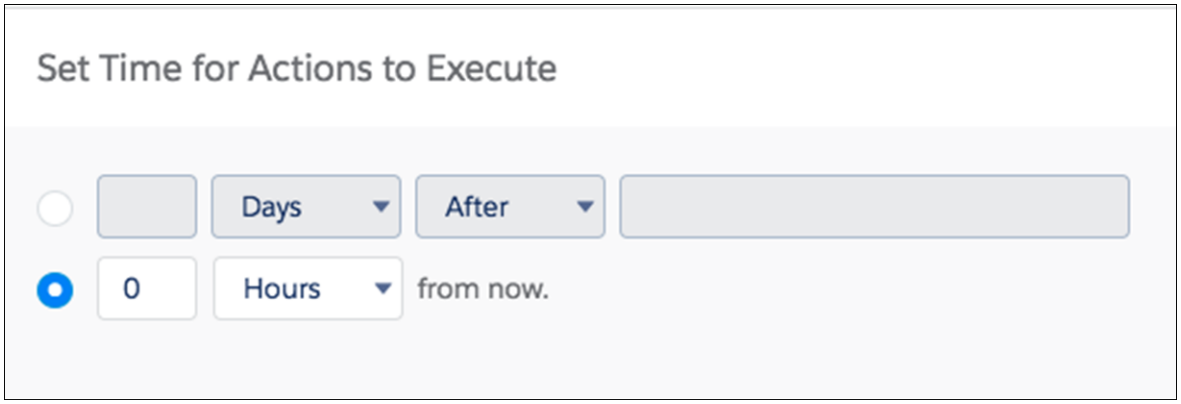
- プロセスおよびフローによる外部オブジェクトを介した Salesforce 外部のデータへのアクセス
- プロセスのアクションをすぐに実行するスケジュール

プロセスのアクションをすぐに実行するスケジュール

待機時間/日数が 0、つまり、待機中のアクションができるだけ早く実行されるスケジュールをプロセスビルダーで作成できるようになりました。以前は、待機中のスケジュール済みアクションの最小時間は現在時刻から 1 時間でした。スケジュール済みアクションはルール適用時のアクションとは別のトランザクションで実行されるため、スケジュール済みアクションを使用してガバナ制限を回避できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: プロセスにスケジュールを追加するときに、アクションの実行時間を [0 時間 (今から)] に設定します。



メモ: アクションは 1 時間以内に実行されますが、Salesforce が現在処理中のアクションの数によってはもっと早く実行される可能性があります。

関連トピック:

プロセスおよびフローによる外部オブジェクトを介した Salesforce 外部のデータへのアクセス

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (重要な更新)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: プロセスおよびフローで、数式はレコード変数や参照関係項目を介してレコードの項目を参照できます。実行時に、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で null が返されることがあります。それ以外の場合は、未対応の例外が返されます。この更新により、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で常に null 値が返されるようになります。この更新は差し込み項目には影響しません。

たとえば、取引先を更新すると、プロセスが開始され、アクションを実行する前に条件がチェックされます。条件には、取引先の [親取引先] 項目を介して親取引先の名前を参照する数式が含まれています。[親取引先] 項目は参照関係項目です (`[Account].Parent.Name`)。

参照関係項目の値が null の場合、数式で null が返されます。この更新を行わないと、数式で null ではなく未対応の例外が返されることがあります。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「重要な更新」* と入力します。次に、[重要な更新] を選択します。重要な更新「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」の詳細を確認し、[有効化] をクリックします。参照関係項目やレコード変数項目を参照するすべてのプロセスおよびフローの数式をテストします。プロセスの

場合、条件やアクションに数式があります。フローの場合、リソースや入力コンポーネントの入力規則に数式があります。

関連トピック:

重要な更新

重要な更新「自動項目更新によるメール通知の抑制の防止」の延期

この重要な更新は、Summer '17 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、2020 年 3 月 1 日 (GMT) に延期されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

重要な更新

Summer '17 リリースノート: 自動項目更新によるメール通知の抑制の防止 (重要な更新)

フローの配布: Next Best Action を使用する推奨フロー、ガイド付きアクションリリース、ゲストユーザがフローを実行できるようにする Snap-In

フローが機能するようになる新しい方法があります。Einstein Next Best Action を使用して、適切なユーザに適切なタイミングでスマートに画面フローを推奨します。さらに、ガイド付きアクションリストコンポーネントと Snap-in リリースのフローの動作も改善されています。

このセクションの内容:

アクション戦略および Einstein Next Best Action を使用してユーザとコミュニティメンバーにフローを推奨 (正式リリース)

適切なユーザに、適切なタイミングで、適切な情報と共にフローを表示します。Einstein Next Best Action を使用して、Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、データを統合し、適切なユーザに最適なフローが表示されるようにします。

[ガイド付きアクションリスト] 設定の再利用と一時停止中のフローの表示

コールスクリプトやガイド付きアクションリストなどの複数ステップの手順でユーザを誘導するフローを作成します。リストをより簡単に設定できるように、[設定] で管理するリリースが追加されました。リリースにより、設定 (実行時にリストに追加できるフローなど) を各種レコードページで再利用できます。ユーザが一時停止中のフローをすばやく見つけて完了できるように、リストにはレコードのすべての一時停止中のフローが表示されます。

ゲストユーザがフローを実行できるようにするための Snap-In の使用

認証されていないユーザは、Web サイトからフローを実行できます。フローを選択または作成し、Snap-in リリースを使用してサイトに埋め込みます。

アクション戦略および Einstein Next Best Action を使用してユーザとコミュニティメンバーにフローを推奨 (正式リリース)

適切なユーザに、適切なタイミングで、適切な情報と共にフローを表示します。Einstein Next Best Action を使用して、Salesforce の内部および外部のビジネスルール、予測モデル、データを統合し、適切なユーザに最適なフローが表示されるようにします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)

[ガイド付きアクションリスト] 設定の再利用と一時停止中のフローの表示

コールスクリプトやガイド付きアクションリストなどの複数ステップの手順でユーザを誘導するフローを作成します。リストをより簡単に設定できるように、[設定] で管理するリリースが追加されました。リリースにより、設定 (実行時にリストに追加できるフローなど) を各種レコードページで再利用できます。ユーザが一時停止中のフローをすばやく見つけて完了できるように、リストにはレコードのすべての一時停止中のフローが表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

サービスの Lightning フロー: 再利用可能なリリースと見つけやすい一時停止中のフロー

ゲストユーザがフローを実行できるようにするための Snap-In の使用

認証されていないユーザは、Web サイトからフローを実行できます。フローを選択または作成し、Snap-in リリースを使用してサイトに埋め込みます。

対象: この変更は、Snap-in コードスニペットバージョン 5.0 以降を使用する Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

ゲストユーザによるフローの実行の許可

Apex を使用したプロセスのスケジュール済みアクションとフローの再開イベントのテスト

バックグラウンドの自動化でテストカバー率を高めるため、`stopTest` Apex メソッドはプロセスの待機中のスケジュール済みアクションを実行し、時間ベースの再開イベントを待機しているフローを再開します。以前は、Apex テストでプロセスと自動起動フローを開始できましたが、スケジュール済みアクションや、フローを再開するかどうかは検証できませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: `stopTest` メソッドは、テストコード内のテストが終了するポイントをマークします。`stopTest` を実行する場合、すべての非同期プロセスが同期して実行されます。

レコード変更プロセス (プロセスビルダーで作成) をトリガする Apex テストの場合、`stopTest` メソッドは条件グループに複数のスケジュールが含まれる場合でも、すべての日付のスケジュール済みアクションを実行します。イベントプロセス (プロセスビルダーで作成) をトリガする Apex テストの場合、イベントを公開し、`Test.getEventBus().deliver()` を使用してプロセスを開始します。関連付けられたスケジュール済みアクションを実行するには、`stopTest` メソッドを使用します。

一時停止要素のある自動起動フローをトリガする Apex テストの場合、`stopTest` メソッドはフローを再開し、残りの要素を実行します。時間ベースの再開イベントを待機している各一時停止要素で、フローはパスに沿ってすべての要素を再開して実行します。

開発者のための関連更新

Apex

`System.Test` で変更されたメソッド: stopTest()

Salesforce Connect: 制限の緩和、接続検証、その他

外部データシステムへの接続を作成してやり取りするためのツールがいくつか追加されました。Odata コールアウトおよび取得または作成された新しい行で、各組織の Salesforce Connect の 1 時間あたりのデフォルト制限が緩和されました。組み込まれた診断ツールの検証を使用して、外部オブジェクト接続のテストとトラブルシューティングを行います。さらに、OData 2.0 アダプタが改善されています。

このセクションの内容:

外部オブジェクトのデータ変更のより簡単な追跡 (ベータ)
外部変更データキャプチャを使用して、Salesforce 組織外に保存されているデータの変更を追跡します。以前は、Salesforce カスタマーサービスに連絡していましたが、有効にするとデフォルトでオンになるようになりました。外部変更データキャプチャは、Winter '18 パイロットリリースで外部データ変更追跡と呼ばれていましたが、Spring '19 ベータリリースで名前が変更されました。

1 時間あたりの制限の緩和による、ユーザが接続可能な外部データ量の増加
Odata コールアウトおよび取得または作成された新しい行で、各組織の Salesforce Connect の 1 時間あたりのデフォルト制限が緩和されました。制限の緩和により、Salesforce 組織外に保存されているデータをユーザが表示および変更できる回数が増えます。

外部オブジェクトデータへの接続の検証
組み込まれた診断ツールの検証を使用して、外部オブジェクト接続のテストとトラブルシューティングを行います。数回クリックするだけで、Apex および OData データソースの外部オブジェクトが接続済みで、正常に応答していることを検証で確認できます。テストが失敗した場合、接続を修正するためのわかりやすいメッセージが表示されます。

Salesforce Connect の OData 2.0 アダプタの改善

Salesforce Connect で OData 2.0 アダプタを使用している場合、改善が適用されます。準備を整えるため、OData 2.0 アダプタを使用して接続する外部データソースが符号化された URL を復号化できることを確認してください。HTTP 規格に従っている場合は、すでに準拠しています。

プロセスおよびフローでの外部オブジェクトの使用

フローおよびプロセス (レコード変更プロセス以外) で、外部データを使用できるようになりました。このサポートにより、コードを使用しないクリックのみのツールボックスで、Salesforce および外部データを使用したサポートエージェント用のコールスクリプトの作成、外部データを組み込んだ自動メールの作成などを実行できるようになります。

開発者のための関連更新

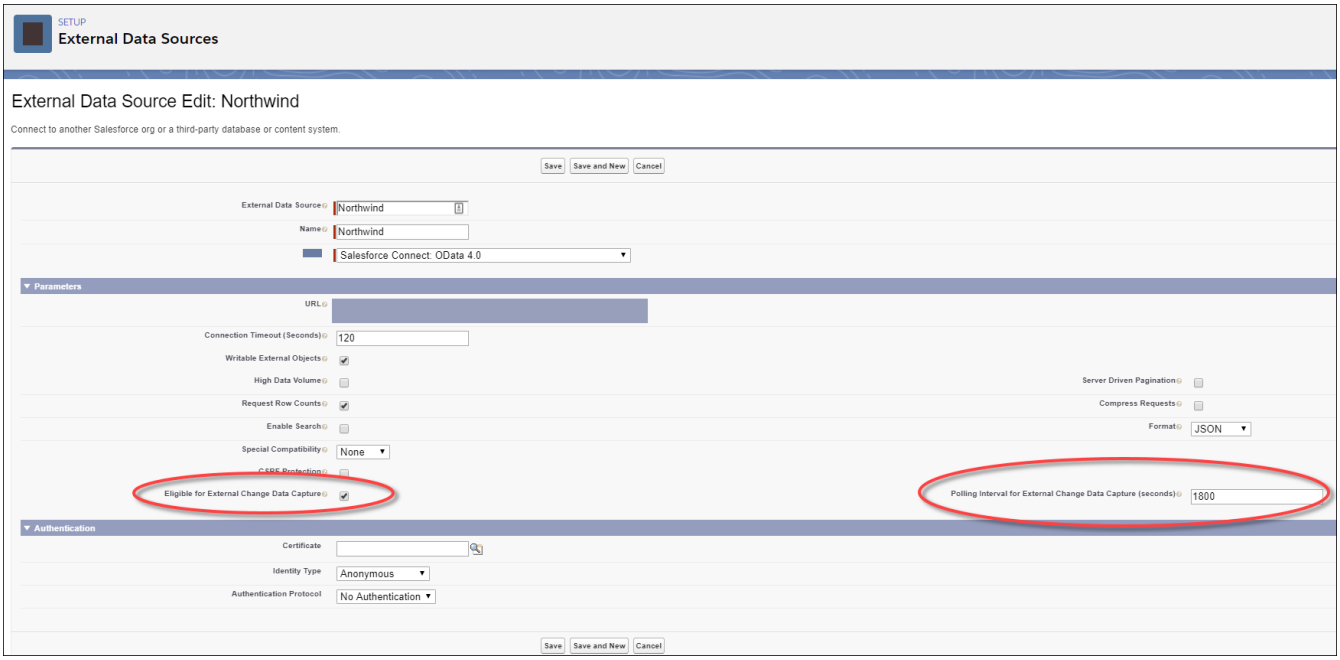
外部オブジェクトのデータ変更のより簡単な追跡 (ベータ)

外部変更データキャプチャを使用して、Salesforce 組織外に保存されているデータの変更を追跡します。以前は、Salesforce カスタマーサービスに連絡していましたが、有効にするとデフォルトでオンになるようになりました。外部変更データキャプチャは、Winter '18 パイロットリリースで外部データ変更追跡と呼ばれていましたが、Spring '19 ベータリリースで名前が変更されました。

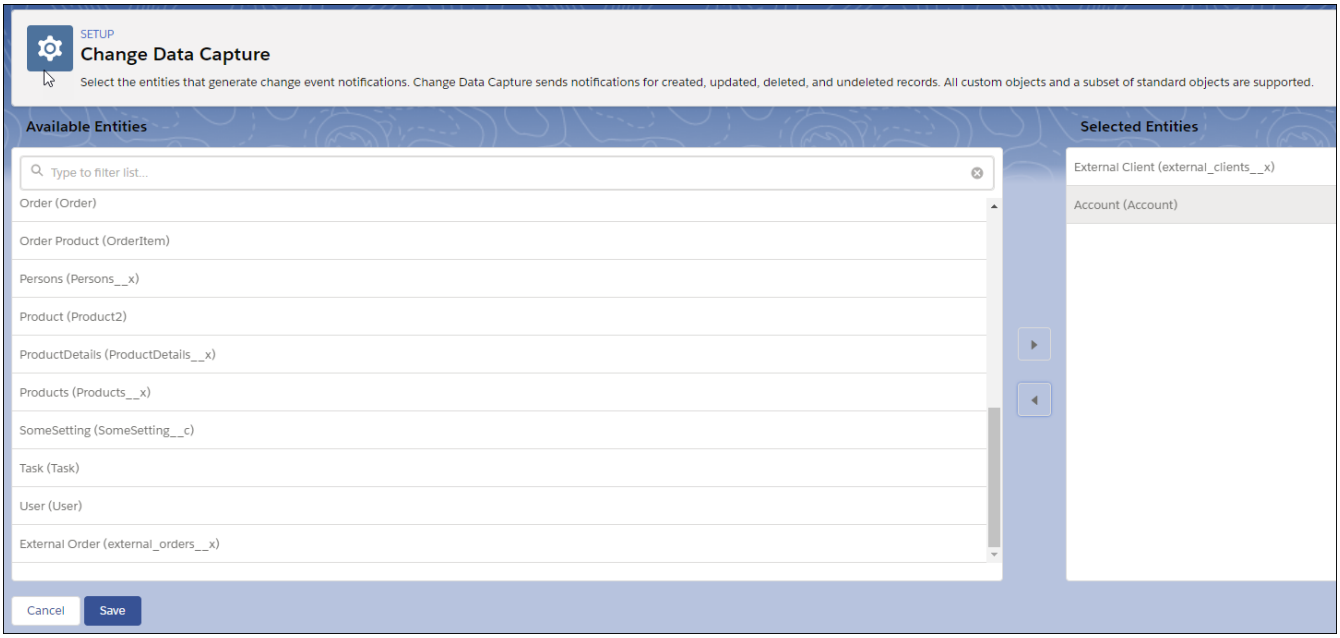
対象: この変更は、OData 4.0 アダプタを使用する Salesforce Connect の一部として Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Salesforce Connect は、Developer Edition では無料、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition では有料オプションで使用できます。

メモ: 外部データ変更追跡はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。組織でこの機能を有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

方法: 変更追跡のデータソースを有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*外部データソース*」と入力し、[外部データソース] を選択します。外部データソースを選択し、[外部変更データキャプチャの対象] を選択します。次に、ポーリング間隔を入力します。



また、外部オブジェクトの[データ変更を追跡]チェックボックスをオンにすると、[変更データキャプチャ]画面で選択したエンティティを表示できるようになりました。



1時間あたりの制限の緩和による、ユーザが接続可能な外部データ量の増加

Odataコールアウトおよび取得または作成された新しい行で、各組織のSalesforce Connectの1時間あたりのデフォルト制限が緩和されました。制限の緩和により、Salesforce組織外に保存されているデータをユーザが表示および変更できる回数が増えます。

対象: この変更は、Salesforce Connect **の一部として** Lightning Experience **と** Salesforce Classic **に適用されます。**Salesforce Connect **は、**Developer Edition **では無料、**Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **では有料オプションで使用できます。**

1 **時間あたりの最大** OData **コールアウト数。**	20,000
1**時間あたりにアクセスできる新しい行の最大数。この制限は次には適用されません。** • **大量データの外部データソース** • **検索結果としてのみ取得され、開いたり編集されたりしない行** • **すでに取得されているその他の行** **予期せずにこの制限に達することを避けるため、**Lightning REST API limits **リソースで** HourlyLongTermIdMapping **制限を使用して、**1 **時間あたりのコールアウト制限を追跡します。**	100,000

外部オブジェクトデータへの接続の検証

組み込まれた診断ツールの検証を使用して、外部オブジェクト接続のテストとトラブルシューティングを行います。数回クリックするだけで、Apex **および** OData **データソースの外部オブジェクトが接続済みで、正常に応答していることを検証で確認できます。テストが失敗した場合、接続を修正するためのわかりやすいメッセージが表示されます。**

対象: この変更は、Salesforce Connect **の一部として** Lightning Experience **と** Salesforce Classic **に適用されます。**Salesforce Connect **は、**Developer Edition **では無料、**Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **では有料オプションで使用できます。**

Salesforce Connect の OData 2.0 アダプタの改善

Salesforce Connect **で** OData 2.0 **アダプタを使用している場合、改善が適用されます。準備を整えるため、**OData 2.0 **アダプタを使用して接続する外部データソースが符号化された** URL **を復号化できることを確認してください。**HTTP **規格に従っている場合は、すでに準拠しています。**

対象: この変更は、Salesforce Connect **の一部として** Lightning Experience **と** Salesforce Classic **に適用されます。**Salesforce Connect **は、**Developer Edition **では無料、**Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **では有料オプションで使用できます。**

プロセスおよびフローでの外部オブジェクトの使用

フローおよびプロセス (レコード変更プロセス以外) で、外部データを使用できるようになりました。このサポートにより、コードを使用しないクリックのみのツールボックスで、Salesforce**および外部データを使用したサポートエージェント用のコールスクリプトの作成、外部データを組み込んだ自動メールの作成などを実行できるようになります。**

対象: この変更は、Salesforce Connect **の一部として** Lightning Experience **と** Salesforce Classic **に適用されます。**Salesforce Connect **は、**Developer Edition **では無料、**Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **では有料オプションで使用できます。**

開発者のための関連更新

Limits リソース

limits リソースに新規制限 HourlyLongTermIdMapping および HourlyShortTermIdMapping が追加されました。

更新されたアクセスレベル

ExternalDataSource、BackgroundOperation、NamedCredential、ExternalDataUserAuth オブジェクトで、一意のログイン情報が定義されていないユーザのアクセスレベルが変更されました。外部データソースの再同期では、再同期を開始したユーザと同じプロファイルを持つユーザに項目レベルセキュリティアクセス権が付与されるようになりました。ユーザに適切な権限が付与されていることを項目レベルのアクセス権で確認してください。

Lightning アプリケーションビルダー: テンプレートの切り替えと新しいコンポーネント

新しいページを作成することなく、Lightningページに新しいテンプレートを提供します。新しいコンポーネントを利用して、レコードページやメールアプリケーションペインを強化します。

このセクションの内容:

Lightning ページから別のテンプレートへの切り替え
Lightningページのレイアウトが気に入らない場合や、ビジネスニーズが変わった場合、数回のクリックで、Lightning ページのテンプレートを切り替えることができるようになりました。

Lightning Experience ユーザへのおすすめと提案の推奨 (パイロット)
Einstein Next Best Action コンポーネントでユーザを最適な次のステップに転送します。Lightning レコードページで使用できるこのコンポーネントは、組織のビジネスルールを適用する戦略を使用して、状況に応じた提案やアクション (アップグレード、割引、サービスなど) を表示します。ユーザに表示するおすすめを決定する条件とルールを定義します。このコンポーネントは Einstein Next Best Action の一部として使用可能です。

Salesforce レコードへの Quip 文書の直接追加 (ベータ)
新しい Quip 文書コンポーネントを使用して、Quip 文書、スプレッドシート、スライド、チャットルームをLightningアプリケーションに直接持ち込みます。ユーザはリッチ編集、リアルタイム更新、コメント、@メンションなどのQuip機能を、Salesforceを離れることなく習得できます。また、テンプレートを使用してチームのワークフローを合理化することもできます。

メールアプリケーションペインへの作業キューコンポーネントの追加
Salesforce で使用している High Velocity Sales 作業キューを営業担当が Microsoft® Outlook® および Gmail™ で直接使用できるようにします。

リッチテキストコンポーネントでの Quill テキストエディタの使用
リッチテキストコンポーネントがLightning Lockerとスムーズに連携できるように、そのテキストエディタが CKEditor から Quill に変更されました。

Lightning ページテンプレートの標準の表示ラベルの変更

Lightningページテンプレートの切り替え機能の一部として、一部のページテンプレートのタイトル、説明、範囲名が改訂されました。[列]が[範囲]に置き換わり、テンプレートの説明テキストが改善されました。これは外見上の変更です。テンプレートの構造や機能に変更はありません。

コンポーネントの表示ルールのフォーム要素の表示ラベルの改善

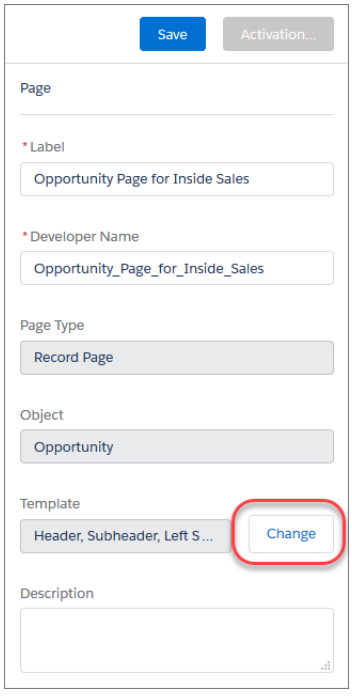
Salesforce は、コンポーネントの表示ルールを作成するときのフォーム要素値がより直感的になるように取り組んできました。まず、Winter '19 で [値] 項目のフォーム要素値を [小]、[中]、[大] から [電話]、[タブレット]、[デスクトップ] に変更し、Spring '19 で [電話]、[タブレット]、[デスクトップ] の値が反映されるように検索条件のテキストを更新しました。

Lightning ページから別のテンプレートへの切り替え

Lightning ページのレイアウトが気に入らない場合や、ビジネスニーズが変わった場合、数回のクリックで、Lightning ページのテンプレートを切り替えることができるようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで Lightning ページのプロパティを表示するときに、[テンプレート] 項目の横にある [変更] をクリックし、テンプレート切り替えプロセスを開始します。



Lightning Experience ユーザへのおすすめと提案の推奨 (パイロット)

Einstein Next Best Action コンポーネントでユーザを最適な次のステップに転送します。Lightning レコードページで使用できるこのコンポーネントは、組織のビジネスルールを適用する戦略を使用して、状況に応じた提案やアクション(アップグレード、割引、サービスなど)を表示します。ユーザに表示するおすすめを決定する条件とルールを定義します。このコンポーネントは Einstein Next Best Action の一部として使用可能です。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: ユーザが提案を受け入れると、画面フローが起動します。フローを実行するには、ユーザに「フローの実行」権限があるか、ユーザの詳細ページで [フローユーザ] 項目が有効になっている必要があります。

関連トピック:

- Einstein Next Best Action: 戦略を使用した提案アクションと提案 (正式リリース)
- *Salesforce* ヘルプ: Einstein Next Best Action コンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce レコードへの Quip 文書の直接追加 (ベータ)

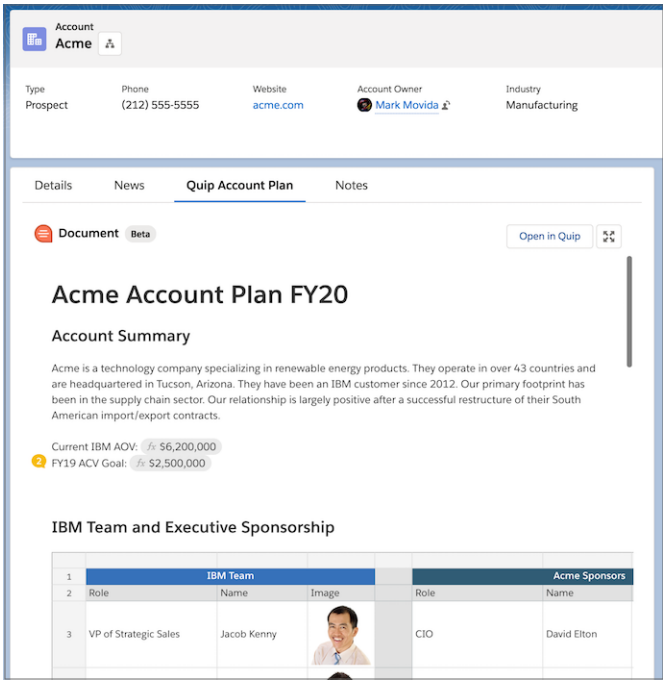
新しい Quip 文書コンポーネントを使用して、Quip 文書、スプレッドシート、スライド、チャットルームを Lightning アプリケーションに直接持ち込みます。ユーザはリッチ編集、リアルタイム更新、コメント、@メンションなどの Quip 機能を、Salesforce を離れることなく習得できます。また、テンプレートを使用してチームのワークフローを合理化することもできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この変更は Lightning アプリケーションにのみ適用されます。

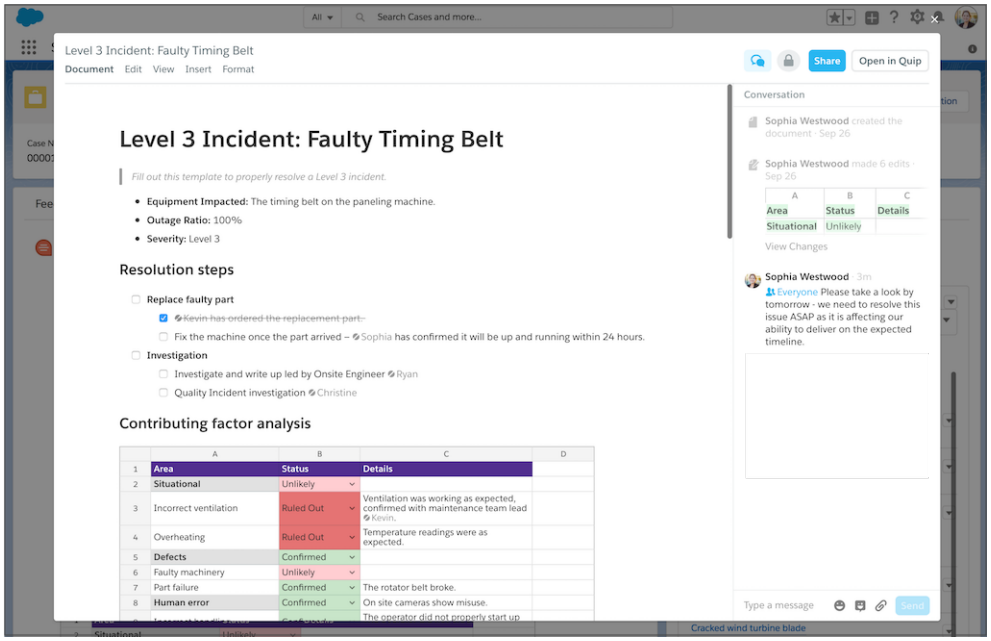
メモ: Quip 文書コンポーネントはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ: Quip エンタープライズプランまたは無料トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: ユーザはアプリケーションを切り替えることなく、作業している場所でドキュメントに対するコラボレーションを行うことができます。Quip 文書コンポーネントから作成されたすべてのドキュメントは、ファイルとして Salesforce レコードに自動的に添付されます。

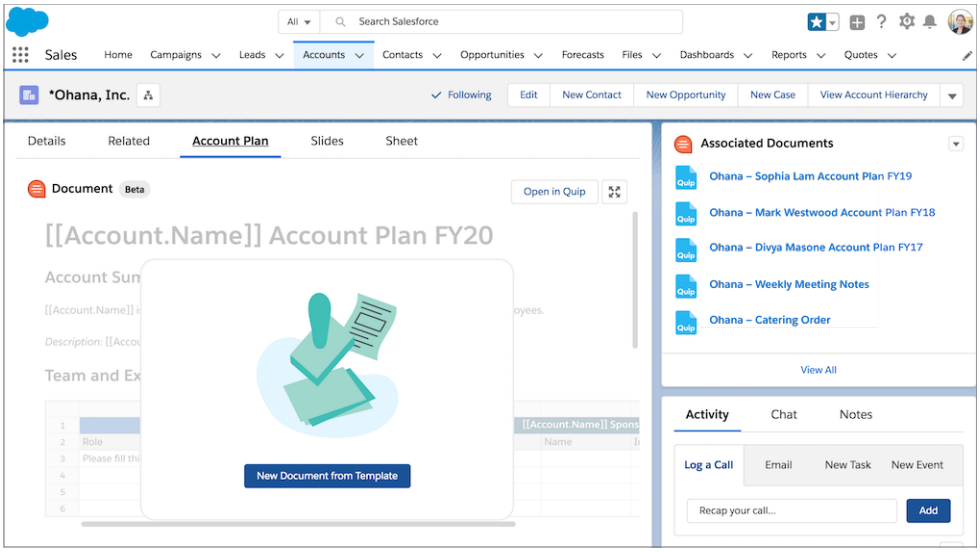


ドキュメントをレコード上で直接更新するか、よりリッチな編集環境のモーダルビューに展開します。ブラウザタブから離れることなくドキュメントの編集履歴を表示したり、会話に貢献したり、ドキュメントを新しいコラボレータと共有したりします。コメント、@メンション、ライブアプリケーション、およびQuipの他のインタラクティブ機能の動作は、Quip の Web およびデスクトップアプリケーションでの動作とまったく同じです。



ワークフローを実際に加速化し、合理化するには、テンプレートを作成します。任意のQuip文書をテンプレートとして設定すると、チームでそのテンプレートを使用してSalesforceレコードでドキュメントをすばやく作成できます。また、差し込み印刷構文を使用して、レコードから取得した標準項目とカスタム項目を新しいド

キュメントに自動的に挿入することもできます。たとえば、情報収集を標準化したり、営業活動を追跡したり、チームのチェックリストを作成したりできます。



方法: Quip のガイド付き設定に従って、Salesforce 組織を Quip サイトに接続します。[設定] の [クイック検索] ボックスで [Quip] を検索し、手順に従います。Lightning アプリケーションビルダーを開き、Quip 文書コンポーネントをレコードページにドラッグします。Lightning アプリケーションビルダーで、コンポーネントの設定を完了します。

メールアプリケーションペインへの作業キューコンポーネントの追加

Salesforce で使用している High Velocity Sales 作業キューを営業担当が Microsoft® Outlook® および Gmail™ で直接使用できるようにします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: High Velocity Sales および Inbox が有効になっている会社では、作業キューコンポーネントをメールアプリケーションペインに追加できます。

方法: 最適な操作性を得るために、タブを Outlook インテグレーションタブコンポーネントに追加して、作業キューコンポーネントをその新しいタブに配置することをお勧めします。High Velocity Sales 機能を使用している社内営業担当に割り当てられた各ペインにコンポーネントを追加します。

リッチテキストコンポーネントでの Quill テキストエディタの使用

リッチテキストコンポーネントが Lightning Locker とスムーズに連携できるように、そのテキストエディタが CKEditor から Quill に変更されました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Quill テキストエディタの相違点を次に示します。

- Quill エディタでは、CKEditor とは異なるフォントのセットがサポートされています。コンポーネントのテキストは、編集するまで古いフォントのままになります。Quill でサポートされているフォントは、Arial、Courier、Garamond、Salesforce Sans、Tahoma、Times New Roman、Verdana です。
- Quill API では、 タグでテキストの各行がラップされます。テキストを保存すると、このタグによってリッチテキスト API 値の文字数が増加する場合があります。最大文字数の警告が表示された場合、テキストを 2 つのリッチテキストコンポーネントに分割します。
- Quill のリンクエディタパネルのオプションは CKEditor よりも少なくなっています。たとえば、Quill パネルには [リンク種別] または [対象] メニューオプションがありません。ただし、これらのオプションは手動で指定できます。
- Quill の場合、エディタではテキストのデフォルトの色は灰色ですが、出力ではテキストが黒色で表示されます。
- Cmd+A などのキーボードショートカットを使用してテキストを選択し、新しいテキストを入力すると、既存のテキストの書式設定がリセットされます。

Lightning ページテンプレートの標準の表示ラベルの変更

Lightning ページテンプレートの切り替え機能の一部として、一部のページテンプレートのタイトル、説明、範囲名が改訂されました。[列] が [範囲] に置き換わり、テンプレートの説明テキストが改善されました。これは外見上の変更です。テンプレートの構造や機能に変更はありません。

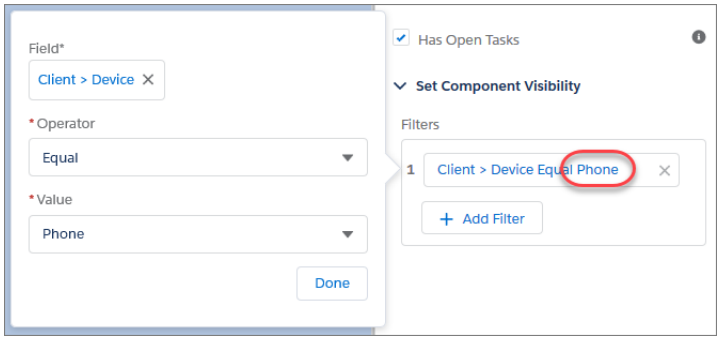
対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

コンポーネントの表示ルールのフォーム要素の表示ラベルの改善

Salesforce は、コンポーネントの表示ルールを作成するときのフォーム要素値がより直感的になるように取り組んできました。まず、Winter '19 で [値] 項目のフォーム要素値を [小]、[中]、[大] から [電話]、[タブレット]、[デスクトップ] に変更し、Spring '19 で [電話]、[タブレット]、[デスクトップ] の値が反映されるように検索条件のテキストを更新しました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: たとえば、ルール条件の値として [電話] を選択すると、その値が検索条件のテキストに反映されるようになりました。



データ保護とプライバシー: より詳細な同意設定

新しいオブジェクトと項目を使用して、詳細なレベルでデータプライバシー設定を追跡します。新しいメタデータ項目は、顧客の機密データの分類に役立ちます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトを使用したデータプライバシー追跡の調整
新しいオブジェクト (連絡先種別承諾、データ使用目的、データ使用の法的根拠) を使用して、より詳細な方法でデータプライバシー設定を追跡します。たとえば、顧客がメールによる連絡を許可しているが、電話や郵便による連絡は許可していないことを示すことができます。また、カテゴリを設定して、連絡が正当とみなされる目的 (請求など) を指定することもできます。さらに、顧客の意に反して連絡する法的根拠を指定できます。

複数アクションエンドポイントを使用した 1 つのコールへの Consent API 要求の統合
Consent API の複数アクションエンドポイントを使用して複数の要求を 1 つのコールに統合できるようになりました。1つのコールを使用して顧客に対してメール、プロファイル、追跡を行うことができかどうかを確認できます。

Lightning Experience でのデータプライバシーレコードのマージ
リードや取引先責任者などの他のレコードをマージするのと同じ方法で、個人オブジェクトに基づいているデータプライバシーレコードをマージできるようになりました。

データプライバシーレコードへのデモグラフィック情報の追加
個人オブジェクトに基づいているデータプライバシーレコードには、職業、自宅所有、兵役などのデモグラフィック情報を保存する項目が含まれるようになりました。データプライバシーレコードのページレイアウトを設定するときに、これらの項目にアクセスできます。

データプライバシーレコードの項目履歴に関するレポート
新しい個人履歴レポートを使用して、個人オブジェクトに基づいてデータプライバシーレコードの項目履歴を収集できるようになりました。この標準レポートタイプは、[データ保護とプライバシー]が有効になっている組織で使用できます。

データ管理ポリシーをサポートするための機密データの分類 (ベータ)
データ管理ポリシーを順守できるようにデータを分類します。データ所有者、項目の使用状況、および項目に含まれるデータの機密性を記録します。その後、デフォルトのデータ機密レベル値をすべての取引先責任者、リード、個人取引先、ユーザに適用できます。

新しいオブジェクトを使用したデータプライバシー追跡の調整

新しいオブジェクト (連絡先種別承諾、データ使用目的、データ使用の法的根拠) を使用して、より詳細な方法でデータプライバシー設定を追跡します。たとえば、顧客がメールによる連絡を許可しているが、電話や郵便による連絡は許可していないことを示すことができます。また、カテゴリを設定して、連絡が正当とみなされる目的 (請求など) を指定することもできます。さらに、顧客の意に反して連絡する法的根拠を指定できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*データ保護とプライバシー*」と入力し、[データ保護とプライバシー] を選択します。[編集] をクリックし、[データ保護の詳細をレポートで利用できるようにする] を選択して、[保存] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 同意管理オブジェクト

複数アクションエンドポイントを使用した 1 つのコールへの Consent API 要求の統合

Consent API の複数アクションエンドポイントを使用して複数の要求を 1 つのコールに統合できるようになりました。1 つのコールを使用して顧客に対してメール、プロファイル、追跡を行うことができかどうかを確認できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Consent API では、「すべてのデータの参照」または「プライバシーデータへのユーザのアクセスを許可」ユーザ権限のいずれかが必要です。

Lightning Experience でのデータプライバシーレコードのマージ

リードや取引先責任者などの他のレコードをマージするのと同じ方法で、個人オブジェクトに基づいているデータプライバシーレコードをマージできるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: 個人オブジェクトに基づくデータプライバシーレコードにアクセスするには、[データ保護とプライバシー] を有効にします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*データ保護とプライバシー*」と入力し、[データ保護とプライバシー] を選択します。[編集] をクリックし、[データ保護の詳細をレポートで利用できるようにする] を選択して、[保存] をクリックします。

データプライバシーレコードへのデモグラフィック情報の追加

個人オブジェクトに基づいているデータプライバシーレコードには、職業、自宅所有、兵役などのデモグラフィック情報を保存する項目が含まれるようになりました。データプライバシーレコードのページレイアウトを設定するときに、これらの項目にアクセスできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 個人オブジェクトに基づくデータプライバシーレコードにアクセスするには、[データ保護とプライバシー] を有効にします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*データ保護とプライバシー*」と入力し、[データ保護とプライバシー] を選択します。[編集] をクリックし、[データ保護の詳細をレポートで利用できるようにする] を選択して、[保存] をクリックします。

データプライバシーレコードの項目履歴に関するレポート

新しい個人履歴レポートを使用して、個人オブジェクトに基づいてデータプライバシーレコードの項目履歴を収集できるようになりました。この標準レポートタイプは、[データ保護とプライバシー]が有効になっている組織で使用できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 個人オブジェクトに基づくデータプライバシーレコードにアクセスするには、[データ保護とプライバシー] を有効にします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*データ保護とプライバシー*」と入力し、[データ保護とプライバシー] を選択します。[編集] をクリックし、[データ保護の詳細をレポートで利用できるようにする] を選択して、[保存] をクリックします。

関連トピック:

Salesforce Help: 標準レポートタイプ

データ管理ポリシーをサポートするための機密データの分類 (ベータ)

データ管理ポリシーを順守できるようにデータを分類します。データ所有者、項目の使用状況、および項目に含まれるデータの機密性を記録します。その後、デフォルトのデータ機密レベル値をすべての取引先責任者、リード、個人取引先、ユーザに適用できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: データ分類はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。データ分類に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Data Classification」グループに投稿してください。

対象ユーザ: データ分類項目の編集や表示を行うには、「アプリケーションのカスタマイズ」または「データ分類の変更」権限が必要です。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*データ分類*」と入力します。その後で、[データ分類メタデータ項目を有効化] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: データ管理ポリシーをサポートするための機密データの分類

グローバリゼーション:新しい言語と改善された右から左へ記述されるレイアウト

インドや南アフリカの顧客とつながりを持てるように、10 個の新しいプラットフォーム言語が追加されました。また、Lightning Experience の右から左へ記述される言語のサポートが拡張されました。

このセクションの内容:

新しいプラットフォーム言語によるつながりを持てる顧客の増加
南アフリカやインドの顧客のために 10 個の言語およびロケールが追加されました。次の言語がプラットフォーム言語として使用できます。

右から左へ記述される言語による適切な表示 (ベータ)
右から左へ記述される (RTL) 言語のユーザが快適に作業できるように、列やサイドバーが右から左に記述され、テキストが適切に配置されます。この右から左へ記述されるレイアウトは、アラビア語、ヘブライ語、ウルドゥー語で使用できます。アラビア語とヘブライ語は Lightning Experience のエンドユーザ言語として使用できるようになり、ウルドゥー語はプラットフォーム言語としてサポートされるようになりました。

トランスレーションワークベンチでのアンケートの翻訳のサポート
顧客の言語で表示できます。10 を超える言語でアンケートが翻訳されるため、世界中の利用者とつながることができます。組織の参加者には、自動的にデフォルト言語でアンケートが表示されます。組織外の参加者は、アンケートが翻訳されている言語のリストから選択できます。

新しいプラットフォーム言語によるつながりを持てる顧客の増加

南アフリカやインドの顧客のために10個の言語およびロケールが追加されました。次の言語がプラットフォーム言語として使用できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: 次の言語およびロケールがサポートされるようになりました。

- アフリカーンス語 (南アフリカ)
- グジャラート語 (インド)
- カンナダ語 (インド)
- マラヤーラム語 (インド)
- マラーティー語 (インド)
- ロシア語 (カザフスタン)
- スワヒリ語 (ケニア)
- テルグ語 (インド)
- コーサ語 (南アフリカ)

- ズールー語 (南アフリカ)

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: サポート言語
Salesforce ヘルプ: サポートされているロケール
Salesforce ヘルプ: サポートされている日付と時刻の形式

右から左へ記述される言語による適切な表示 (ベータ)

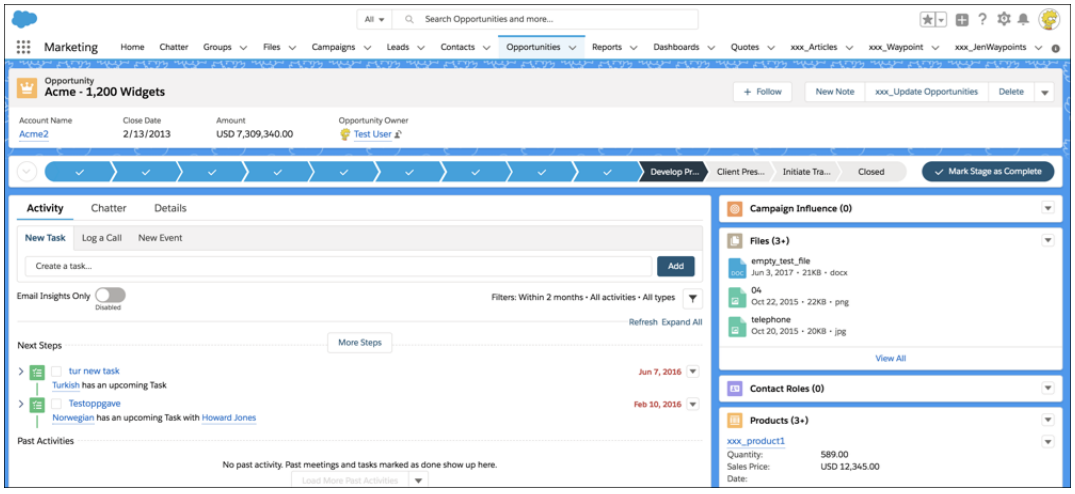
右から左へ記述される (RTL) 言語のユーザが快適に作業できるように、列やサイドバーが右から左に記述され、テキストが適切に配置されます。この右から左へ記述されるレイアウトは、アラビア語、ヘブライ語、ウルドゥー語で使用できます。アラビア語とヘブライ語は Lightning Experience のエンドユーザ言語として使用できるようになり、ウルドゥー語はプラットフォーム言語としてサポートされるようになりました。

対象: この変更は、**Database.com** を除くすべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

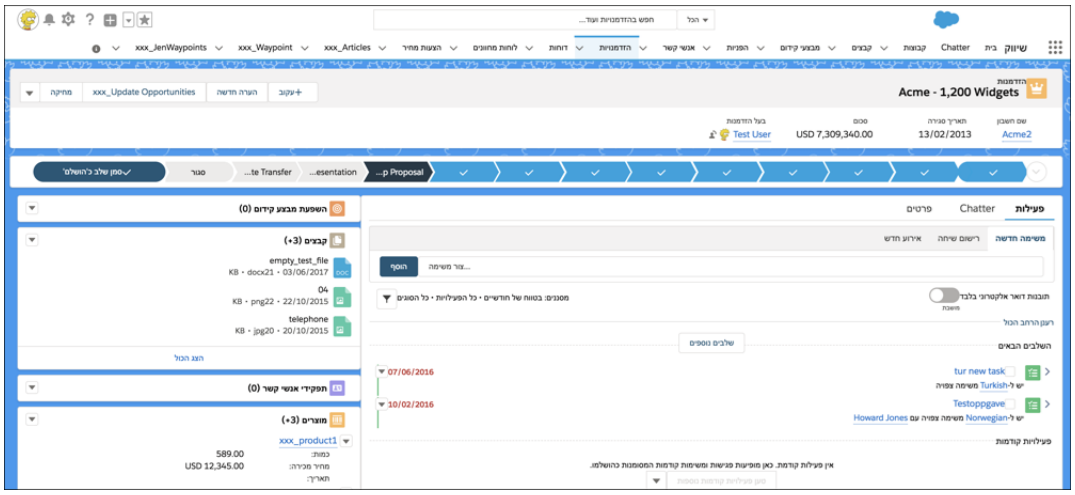
右から左への記述のサポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。右から左へ記述される言語のサポートに関するフィードバックや提案を提供するには、[?] をクリックして [Salesforce に関するフィードバックを送信] を選択してください。

理由: より自然なデザインになるように RTL 言語のレイアウトが改善されました。

たとえば、Lightning Experience の左から右へ記述される英語のレイアウトは次のようになります。



右から左へ記述されるヘブライ語の同じビューは次のようになります。



方法: Lightning Experience で RTL 言語のサポートを有効にするには、[設定] で [クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。次に、**[Lightning の右から左への記述のサポートを有効化 (ベータ)]** を選択します。

RTL 言語のサポートを有効にしたら、ユーザは RTL レイアウトを使用するかどうかを決定できます。個人設定で、[クイック検索] ボックスに「言語とタイムゾーン」と入力し、[言語とタイムゾーン] を選択します。**[Lightning の右から左への記述 (RTL) のサポートを有効化 (ベータ)]** を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 言語およびロケール設定の編集

トランスレーションワークベンチでのアンケートの翻訳のサポート

顧客の言語で表示できます。10を超える言語でアンケートが翻訳されるため、世界中の利用者とつながることができます。組織の参加者には、自動的にデフォルト言語でアンケートが表示されます。組織外の参加者は、アンケートが翻訳されている言語のリストから選択できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

アンケートの翻訳

共有: テリトリーに基づく共有とドキュメントの改善

エンタープライズテリトリー管理では、新しい共有オプションがサポートされます。また、Salesforceヘルプの共有ルールのドキュメントが更新され、より簡潔で有益なドキュメントになりました。

このセクションの内容:

エンタープライズテリトリー管理に追加された新しい共有オプション
エンタープライズテリトリー管理を使用する場合、特定のテリトリーに割り当てられたユーザに基づいて共有ルールを定義できるようになりました。テリトリー割り当てに基づいて、営業担当をグループやキューに追加できます。テリトリーごとにレポートフォルダ、ダッシュボードフォルダ、リストビューを共有できます。

共有ルールのドキュメントの改善
Salesforce ヘルプの共有ルールのドキュメントが更新され、必要な情報を見つけやすくなりました。

エンタープライズテリトリー管理に追加された新しい共有オプション

エンタープライズテリトリー管理を使用する場合、特定のテリトリーに割り当てられたユーザに基づいて共有ルールを定義できるようになりました。テリトリー割り当てに基づいて、営業担当をグループやキューに追加できます。テリトリーごとにレポートフォルダ、ダッシュボードフォルダ、リストビューを共有できます。

対象: これらの変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。これらのエディションの Salesforce Classic では、営業担当はテリトリーごとに手動でレコードを共有することもできます。

関連トピック:

テリトリー別のレコード、レポートおよびダッシュボードフォルダ、リストビューへのアクセス権の付与
テリトリー割り当てに基づいたグループおよびキューへの営業担当の追加
テリトリー別の個々のレコードの共有
エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新)

共有ルールのドキュメントの改善

Salesforce ヘルプの共有ルールのドキュメントが更新され、必要な情報を見つけやすくなりました。

対象: 共有ルールは、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

理由: 次のドキュメントが改善されました。

- オブジェクトごとに繰り返される説明ページが、共有ルールの作成と編集に関するより簡潔な説明に置き換わりました。
- 所有者に基づく共有ルールと条件に基づく共有ルールに関する情報が追加されました。

- 共有ルールを使用できるかどうかに関する情報が統合されました。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:共有ルール(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:共有ルールの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Edit Sharing Rules (共有ルールの編集)(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Sharing Rule Types (共有ルールタイプ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ:共有ルールの考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一般設定: [設定] での Big Object、アプリケーションのデフォルトのホームページ

メタデータ API に制限されることなく、[設定] から直接 Big Object を作成できるようになりました。アプリケーションごとにデフォルトのホームページを割り当てて、ユーザに最も関連性の高いホームページを表示します。

このセクションの内容:

[設定] からのカスタム Big Object の作成

Big Object は、Salesforce プラットフォーム上で大量のデータを保存して管理します。他のオブジェクトのデータをアーカイブしたり、外部システムの膨大なデータセットを Big Object に取り込んで顧客の全容を把握したりできます。Big Object では、100 万レコード、1 億レコード、10 億レコードでも一貫したパフォーマンスを提供します。以前は、Big Object の作成にはメタデータ API を使用する必要がありました。今回のリリースで、API の使用に慣れていない場合は [設定] で Big Object を作成し、その項目を定義し、Big Object のクエリ方法を定義するインデックスを作成できるようになりました。

Lightning アプリケーションに基づくデフォルトのホームページの割り当て

アプリケーションごとにデフォルトのホームページを割り当てて、ユーザに最も関連性の高いホームページが表示されるようにします。アプリケーションのデフォルトのホームページは、アプリケーションのユーザの組織のデフォルトのホームページよりも優先されます。また、アプリケーションとプロファイルの割り当てを作成した場合、そのホームページの割り当てが他のすべての割り当てよりも優先されます。

Lightning で参照可能な Classic アプリケーションのホームページプロファイルの割り当てが編集不可に変更

アプリケーション別にデフォルトのホームページを割り当てる機能を提供する一環として、Lightning Experience で参照可能な Classic アプリケーションで作業をしているユーザがカスタム Lightning ホームページの割り当てを設定できるかどうかに変更が加えられました。Spring '19 以前のカスタム Lightning ホームページプロファイルの割り当てがある場合、Lightning Experience で参照可能な Classic アプリケーションでの作業時には、これまでと同様のプロファイルベースのホームページが表示されます。ただし、Classic アプリケーションのホームページプロファイルの割り当ては参照のみに変更されたため、編集できなくなりました。

項目の参照を編集前に確認 (ベータ)

Sandbox組織で、ボタンをクリックするだけで、数式、レイアウト、Apexクラスなどのカスタム項目への参照を表示できます。新しい [使用場所] ボタンでは、項目が使用されている場所と項目への変更が表示される場所がリストされます。数式や他のコンテキストで、項目を使用する他のユーザに変更を知らせることができます。

外部サービススキーマへの予約済み Apex 名の追加

避ける単語のリストが不要になります。外部サービススキーマの変数名で「end」、「number」、「object」、「transaction」などが含まれる単語を使用できるようになりました。

pageReference.state プロパティとクエリパラメータへの名前空間プレフィックスの追加

Spring '19 リリースノートに記載されているように、この重要な更新はパッケージコンポーネント間の名前の競合の問題に対応します。名前空間プレフィックスは、パッケージおよびそのコンテンツとその他の開発者のパッケージを区別します。名前空間プレフィックスは state またはクエリパラメータ名でのコンポーネント間の競合を防ぎます。クエリパラメータおよび `pageReference.state` プロパティには名前空間プレフィックスが必要です。ない場合、この重要な更新でそれらが組織の URL から削除されます。この重要な更新は、2019 年 5 月 17 日に Summer '19 で有効になります。

アウトバウンドメッセージでのセッション ID の安全な送信

機密のセッションデータを保護するため、セッション ID を含むアウトバウンドメッセージ通知に HTTPS プロトコルが適用されるようになりました。[送信セッションID]オプションを有効にしてアウトバウンドメッセージを設定する場合、エンドポイント URL を必ず `https://` で始めます。

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

この重要な更新は、Summer '16 でリリースされ、Spring '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '19 に延期されました。

[設定] からのカスタム Big Object の作成

Big Object は、Salesforce プラットフォーム上で大量のデータを保存して管理します。他のオブジェクトのデータをアーカイブしたり、外部システムの膨大なデータセットを Big Object に取り込んで顧客の全容を把握したりできます。Big Object では、100 万レコード、1 億レコード、10 億レコードでも一貫したパフォーマンスを提供します。以前は、Big Object の作成にはメタデータ API を使用する必要がありました。今回のリリースで、API の使用に慣れていない場合は [設定] で Big Object を作成し、その項目を定義し、Big Object のクエリ方法を定義するインデックスを作成できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「Big Object」* と入力し、**[Big Object]** を選択します。[新規] をクリックし、ウィザードに従って手順を進めます。

Lightning アプリケーションに基づくデフォルトのホームページの割り当て

アプリケーションごとにデフォルトのホームページを割り当てて、ユーザに最も関連性の高いホームページが表示されるようにします。アプリケーションのデフォルトのホームページは、アプリケーションのユーザの組織のデフォルトのホームページよりも優先されます。また、アプリケーションとプロファイルの割り当てを作成した場合、そのホームページの割り当てが他のすべての割り当てよりも優先されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

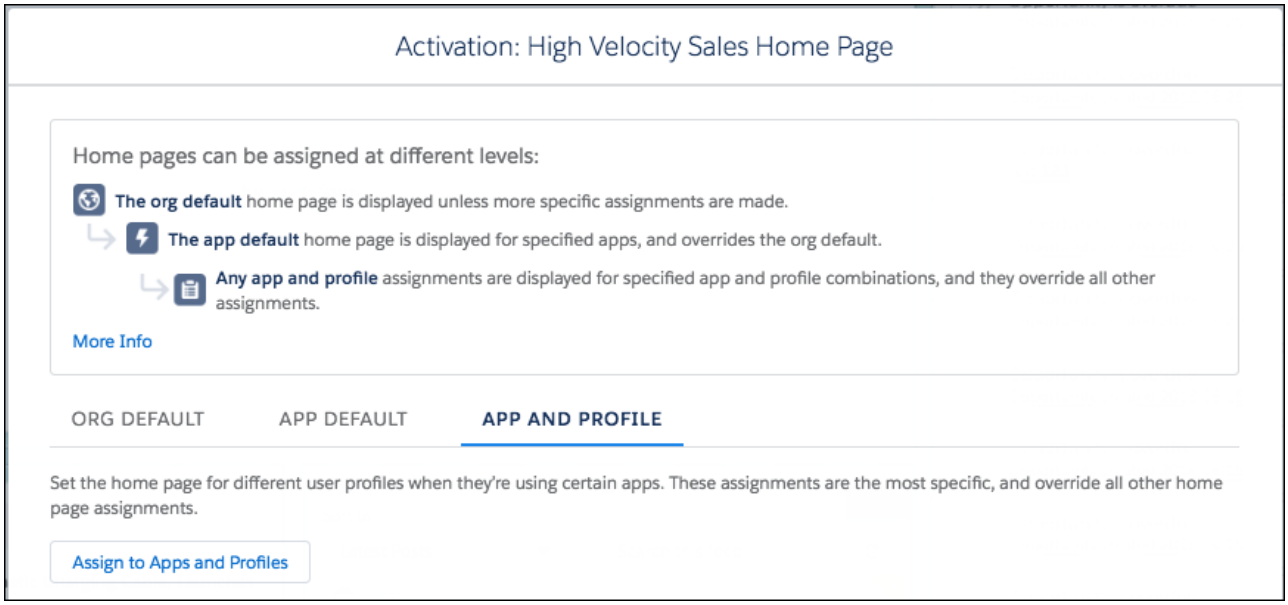
メモ: この変更は Lightning アプリケーションにのみ適用されます。Lightning Experience では、Classic アプリケーションを表示することはできますが、特定のアプリケーションおよびプロファイルに割り当てられた異なるホームページを表示することはできません。Lightning Experience の機能を利用するには、アプリケーションマネージャで Classic アプリケーションを Lightning アプリケーションにアップグレードしてください。

理由: 異なるアプリケーションのユーザが同じレイアウトを使用しないように、アプリケーションごとにカスタムホームページを割り当てます。この割り当ての追加レイヤにより、ホームページの設計が簡単になり、アプリケーションユーザごとに異なるカスタマイズを指定できます。

たとえば、セールスアプリケーション内の組織のホームページに、フィールドセールスアプリケーションのホームページとは異なるレイアウトとコンポーネントを設定できます。それぞれホームページでは、各分野の営業担当と必要なツールおよび情報を結び付けることに主眼を置いています。

アプリケーションのデフォルトのホームページを設定しても、既存のプロファイルの割り当てには影響しません。既存のプロファイルの割り当ては、アプリケーションの割り当てのレイヤの下にネストされます。そのため、ユーザのプロファイルに応じて、同じアプリケーション内に異なるホームページを表示できます。

方法: ホームページをアプリケーションのデフォルトとして割り当てるには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「ホーム」と入力し、[ホーム] を選択します。Lightning アプリケーションビルダーから特定のホームページを割り当てることもできます。



関連トピック:

Lightning で参照可能な Classic アプリケーションのホームページプロファイルの割り当てが編集不可に変更

IdeaExchange: Assign Lightning Home Pages by App (Lightning ホームページをアプリケーション別に割り当て) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning で参照可能な Classic アプリケーションのホームページプロファイルの割り当てが編集不可に変更

アプリケーション別にデフォルトのホームページを割り当てる機能を提供する一環として、Lightning Experience で参照可能な Classic アプリケーションで作業をしているユーザがカスタム Lightning ホームページの割り当てを設定できるかどうかに変更が加えられました。Spring '19 以前のカスタム Lightning ホームページプロファイルの割り当てがある場合、Lightning Experience で参照可能な Classic アプリケーションでの作業時には、これまでと同様のプロファイルベースのホームページが表示されます。ただし、Classic アプリケーションのホームページプロファイルの割り当ては参照のみに変更されたため、編集できなくなりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この変更は Lightning で参照可能とマークされた Classic アプリケーションにのみ適用されます。

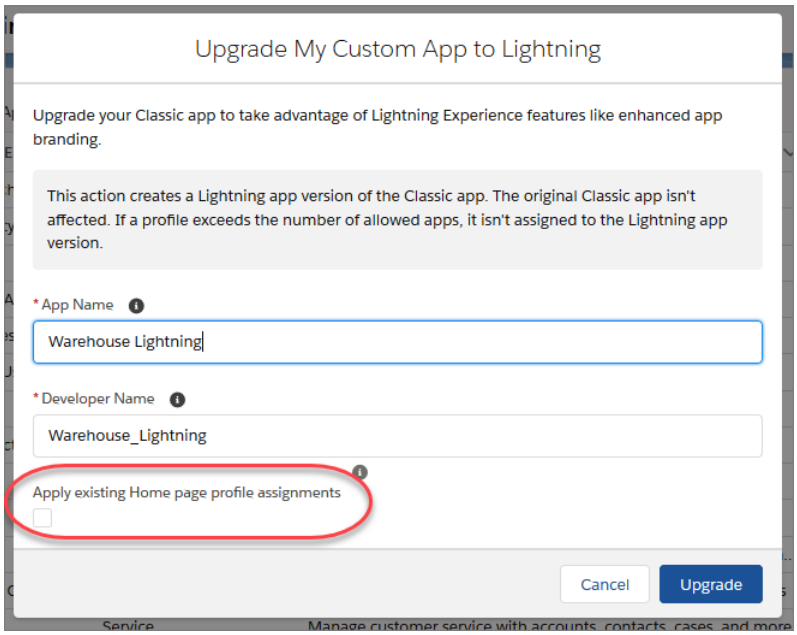
理由: Lightning 対応の Classic アプリケーションのカスタム Lightning ホームページプロファイル割り当てを変更するには、Lightning アプリケーションにアップグレードする必要があります。

組織に Spring '19 がリリースされる前に Classic アプリケーションをアップグレードすると、既存のカスタム Lightning ホームページプロファイル割り当てが自動的に更新され、Classic アプリケーションと連動するようになります。

組織に Spring '19 がリリースされた後に Classic アプリケーションをアップグレードする場合は、アップグレードしたアプリケーションに対して既存のカスタム Lightning ホームページプロファイル割り当てを各自で適用する必要があります。これを行うためのチェックボックスがアプリケーションアップグレードダイアログに追加されています。

Lightning Experience で参照可能な Classic アプリケーションをアップグレードしない場合、ユーザには Winter '19 でプロファイルに割り当てられていたホームページが表示されます。アップグレードされていないアプリケーションのプロファイル割り当ては引き続き参照のみとなります。新しい Lightning 対応 Classic アプリケーションを作成した場合でも、これらのアプリケーションのユーザには引き続き、各自のプロファイルに割り当てられた Winter '19 カスタム Lightning ホームページが表示されます。

方法: Classic アプリケーションをアップグレードしてホームページプロファイル割り当てを移行するには、[設定] でアプリケーションマネージャに移動し、Classic アプリケーションの ▾ をクリックして、[アップグレード] を選択します。アップグレードダイアログで、[Apply existing Home page profile assignments (既存のホームページプロファイルの割り当てを適用)] を選択します。



このチェックボックスが表示されるのは Summer '19 リリースまでです。Summer '19 のリリース後は、Lightning にアップグレードされた Classic アプリケーションには手動でホームページの割り当てを設定する必要があります。

関連トピック:

- Lightning アプリケーションに基づくデフォルトのホームページの割り当て
- *Salesforce* ヘルプ: Classic アプリケーションから Lightning アプリケーションへのアップグレード

項目の参照を編集前に確認 (ベータ)

Sandbox 組織で、ボタンをクリックするだけで、数式、レイアウト、Apex クラスなどのカスタム項目への参照を表示できます。新しい [使用場所] ボタンでは、項目が使用されている場所と項目への変更が表示される場所がリストされます。数式や他のコンテキストで、項目を使用する他のユーザに変更を知らせることができます。

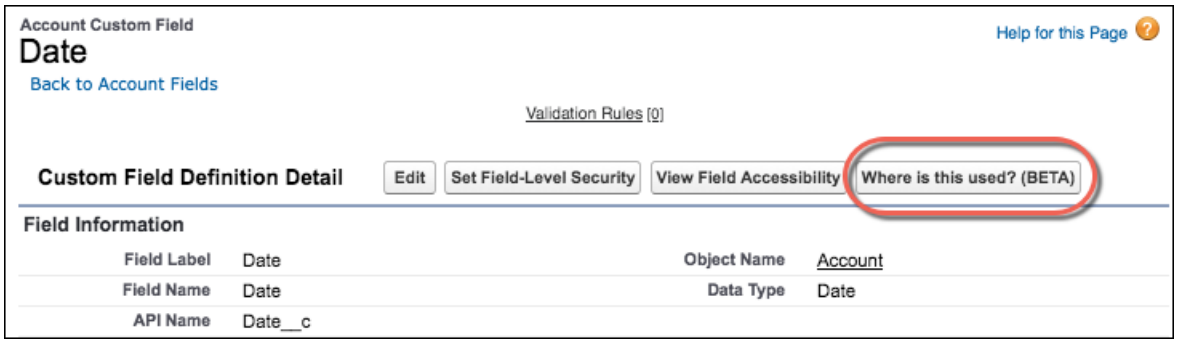
対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic の Sandbox のみに適用されます。

メモ: [使用場所] ボタンはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様

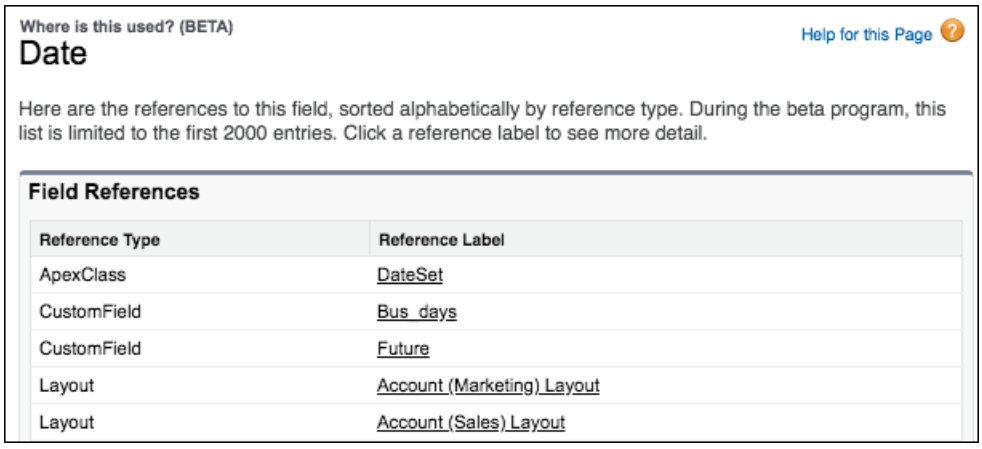
に適用されます。[使用場所] ボタンに関するフィードバックや提案は、「Dependency API / Field Usage」Trailblazer Community に投稿してください。

対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つシステム管理者は、カスタム項目の [使用場所] ボタンを使用できます。

方法: [使用場所] ボタンは、カスタム項目の詳細ページにあります。



このボタンをクリックすると、項目参照の詳細が表示されます。



このリストには次の参照が含まれます。参照表示ラベルをクリックすると、レイアウト、数式、その他の参照の設定が表示されます。

- 入力規則
- レイアウト
- 数式項目
- Visualforce ページ
- Apex クラス
- Apex トリガ
- メールテンプレート (Salesforce Classic、テキストベース)
- 項目セット

- フロー (クエリ)
- Lightning コンポーネントのマークアップ (属性)
- プロセスビルダー (条件)
- URL ボタン (数式)
- Lightning ページ (単一関連リスト)
- ルックアップ検索条件 (ルックアップと主従関係)

参照表示ラベルをクリックすると、そのレイアウト、数式、その他の参照の設定が表示されます。

管理パッケージ内の参照は、登録者組織内のリストには含まれません。たとえば、数式で参照されている数値項目があるとします。その項目をパッケージに追加して登録者組織にパッケージをインストールした場合、登録者組織の項目参照の詳細ページには、この数値項目が数式項目で参照されていることが示されません。

ただし、登録者組織に管理パッケージをインストールした後に作成した新しい参照は表示されます。たとえば、管理パッケージをインストールした後にその数値項目を登録者組織の別の数式に追加した場合、その新しい参照が表示されます。

外部サービススキーマへの予約済み Apex 名の追加

避ける単語のリストが不要になります。外部サービススキーマの変数名で「end」、「number」、「object」、「transaction」などが含まれる単語を使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

pageReference.state プロパティとクエリパラメータへの名前空間プレフィックスの追加

Spring'19 リリースノートに記載されているように、この重要な更新はパッケージコンポーネント間の名前の競合の問題に対応します。名前空間プレフィックスは、パッケージおよびそのコンテンツとその他の開発者のパッケージを区別します。名前空間プレフィックスは state またはクエリパラメータ名でのコンポーネント間の競合を防ぎます。クエリパラメータおよび `pageReference.state` プロパティには名前空間プレフィックスが必要です。ない場合、この重要な更新でそれらが組織の URL から削除されます。この重要な更新は、2019 年 5 月 17 日に Summer '19 で有効になります。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce アプリケーションに適用されます。この変更は、Visualforce または Salesforce Classic URL、コミュニティ、または非カスタムクエリパラメータが含まれるレポート URL には影響しません。

メモ: 組織で自動有効化日付として 2019 年 1 月 10 日と表示されたとしても、無視してください。この日付は延期前の重要な更新の有効化日です。組織が Spring '19 に更新されると、正しい自動有効化日付が表示されます。

方法: 管理パッケージの名前空間プレフィックスを追加するには、「名前空間プレフィックスの登録」を参照してください。登録済みの名前空間がない場合、デフォルトの名前空間 `c__` を追加します。テストして、名前空間プレフィックスが機能していることを確認するには、この重要な更新を有効にします。カスタムクエリパラメータが含まれ、`/lightning/` が含まれる URL に移動するページがあれば、すべてテストしてください。管理パッケージがある場合は、管理パッケージ内外からのページをテストします。問題が発生した場合、名前

空間がプレフィックスとして値に付けられていることを確認します。問題が継続する場合は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

名前空間プレフィックスを追加したら、重要な更新を有効にします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。次に、[重要な更新] を選択します。[名前空間プレフィックスをクエリパラメータと pageReference.state プロパティに追加] で、[承認] をクリックします。

アウトバウンドメッセージでのセッション ID の安全な送信

機密のセッションデータを保護するため、セッション ID を含むアウトバウンドメッセージ通知に HTTPS プロトコルが適用されるようになりました。[送信セッション ID] オプションを有効にしてアウトバウンドメッセージを設定する場合、エンドポイント URL を必ず `https://` で始めます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: アウトバウンドメッセージの設定を作成または編集するには、[設定] で、[クイック検索] ボックスに「アウトバウンドメッセージ」と入力して、[アウトバウンドメッセージ] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: セッションセキュリティ

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

この重要な更新は、Summer '16 でリリースされ、Spring '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '19 に延期されました。

関連トピック:

Winter '17 リリースノート: 「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

重要な更新

セキュリティと ID: 新しいログインオプション、デバイス管理、キャッシュのみの鍵の正式リリース

ユーザはメールアドレス、電話番号などを使用してログインできます。デバイス管理を使用して、デバイスアクセスの追跡と取り消しを行います。また、キャッシュのみの鍵サービスが正式にリリースされました。

このセクションの内容:

認証と ID: ログインオプションの追加、厳格なセキュリティの機能強化、簡単になった設定とメンテナンス
Salesforce の新しい認証および ID 機能により、より多くのログインオプションがユーザに提供されます。たとえば、ユーザは、メールアドレス、電話番号、またはデジタル証明書を使用してログインできます。パスワードのセキュリティも強化されたほか、ユーザは組織にアクセスするデバイスを表示および管理することで組織をさらに保護できます。接続アプリケーションと、連絡先のない外部ユーザを動的に作成および管理できるようになりました。

Salesforce Shield: 項目監査履歴オブジェクトのサポート、キャッシュのみの鍵の正式リリース、新しい Apex イベント
Shield Platform Encryption でキャッシュのみの鍵サービスが正式にリリースされました。また、セルフサービスバックグラウンド暗号化を自由に行うことができ、より多くのクラウドとの互換性が確保されます。イベント監視の 2 つの新しい EventLogFile イベント種別は、Apex 例外と実行時間が長い Apex 要求情報を取得します。また、項目監査履歴で、より多くのオブジェクトの自動アーカイブがサポートされます。

認証と ID: ログインオプションの追加、厳格なセキュリティの機能強化、簡単になった設定とメンテナンス

Salesforceの新しい認証および ID 機能により、より多くのログインオプションがユーザに提供されます。たとえば、ユーザは、メールアドレス、電話番号、またはデジタル証明書を使用してログインできます。パスワードのセキュリティも強化されたほか、ユーザは組織にアクセスするデバイスを表示および管理することで組織をさらに保護できます。接続アプリケーションと、連絡先のない外部ユーザを動的に作成および管理できるようになりました。

このセクションの内容:

[私のドメイン] のログイン検出を使用した ID ファーストログインページの作成
ログイン検出を使用して [私のドメイン] を設定し、ユーザのログインプロセスを簡略化します。このログインプロセスは、インタビューベースログインまたは ID ファーストログインと呼ばれることがあります。[私のドメイン] のログイン検出ページでは、ユーザにユーザ名とパスワードを使用してログインするように求める代わりに、メールアドレスや電話番号などの一意の識別子を入力するように求めます。その後、ユーザは入力した識別子に基づいて認証するように促されます。SSOが設定されている場合、選択する必要はありません。[私のドメイン] のログイン検出によって、ID プロバイダ (IdP) のログインページに直接送信されて認証されます。

証明書によるユーザの認証
証明書ベースの認証が提供されるようになりました。Salesforce の [設定] または API を使用して、一意の PEM エンコード X.509 デジタル証明書をアップロードし、組織に対して個々のユーザを認証できます。

ログイン検出のログイン画面とカスタムエラーメッセージのローカライズ
[私のドメイン] およびコミュニティでログイン検出ページ種別を使用する場合、カスタム表示ラベルを使用してログイン画面をローカライズできます。Apex でカスタムログインエラーメッセージをローカライズすることもできます。たとえば、ユーザが会社のメールアドレスではなく個人のメールアドレスでログインしようとしたときにアラートを表示できます。

OAuth 2.0 エンドポイントと接続アプリケーションのインテグレーションの合理化 (正式リリース)

Mulesoft などの OAuth クライアントは、動的なクライアント登録エンドポイントに要求を送信し、新しい子の OAuth 2.0 接続クライアントアプリケーションを Salesforce に自動的に登録できるようになりました。登録が成功すると、Salesforce は新しいクライアント ID と、新しく登録された子アプリケーションに関するメタデータを返します。OAuth 2.0 接続アプリケーションはそのアクセストークンと更新トークンの現在の状態を確認できます。OAuth クライアントは自身および子アプリケーションのアクセストークンと更新トークンの現在の状態を確認できます。また、システム管理者は 1 つの接続アプリケーションを承認して組織全体のすべてのアクセストークンと更新トークンを調査できます。

OAuth 2.0 接続アプリケーションクライアントの秘密に必要な文字数の増加

接続アプリケーションを作成すると、Salesforce によってコンシューマの秘密 (OAuth 2.0 ではクライアントの秘密) の値が生成されます。セキュリティ上の理由により、最小サイズ要件が 8 文字以上から 32 文字以上に増加しました。また、生成される秘密の形式も変更されました。Spring '19 以降、メタデータ API を使用して、Salesforce によって生成された秘密を独自の秘密に置き換える場合、サイズが 32 文字以上であることを確認してください。この変更は、既存の OAuth 2.0 接続アプリケーションには影響しません。

コミュニティサインアップ用の独自の検証ページの作成

ユーザがメールアドレスまたは電話番号でコミュニティにサインアップすると、Salesforce から検証コードが送信され、検証ページが生成されます。ユーザは検証ページで自分の ID を検証します。以前は、ロゴ、色、背景でページをブランド設定できましたが、Salesforceから取得するフォームは変更できませんでした。今回のリリースでは、Salesforce 検証ページを、Visualforce といくつかの Apex メソッドを使用して作成する独自のページに置き換えることができるようになりました。

非同期メール検証の送信

新しい Salesforce Identity 非同期メール機能により、ユーザはいつでもメールアドレスを検証できます。ユーザに検証リンクをメールメッセージで送信します。ユーザは都合の良いときにリンクをクリックしてメールアドレスを検証できます。作業を中断する必要はありません。また、ユーザがブランドを認識できるようにメールメッセージをカスタマイズすることもできます。

軽量な、連絡先のない External Identity ユーザの作成 (正式リリース)

連絡先情報のないユーザを作成して、外部 ID ユーザ管理のオーバーヘッドを軽減します。連絡先がなければ、ユーザと連絡先レコードを常に同期する手間が省かれます。ユーザデータベースを ID のみを目的として管理できます。ユーザが評価済みリードになった場合など、必要に応じて、後で連絡先を追加できます。また、コミュニティライセンスを最大限活用するために、既存のユーザから連絡先を削除することもできます。

デバイス管理を使用したデバイスの表示および取り消し (ベータ)

デバイス管理を使用して、Salesforce 組織にアクセスするデバイスを追跡および監視できるようになりました。これで、データのセキュリティをより詳細に制御できます。API または Apex コールを使用して、紛失したまたは盗難にあったデバイスからのアクセスおよび関連付けられた更新トークンを取り消すことができます。また、組織へのデバイスのアクセス方法を定義するプロセスおよびポリシーを作成することもできます。たとえば、ログインを承認する前にデバイスからの承認要求を必要とすることができます。さらに、カスタムレポートを作成してデバイス管理の統計情報 (組織にアクセスするデバイスの種別など) を確認します。

ログアウト時にユーザをカスタム URL に転送

Salesforce がサービスプロバイダの場合、シングルログアウト (SLO) 中にユーザをカスタム URL に転送できるようになりました。

セルフ登録後の Web サイトへのユーザのリダイレクト

セルフ登録を完了したユーザを Web サイトに戻すように Salesforce Identity の埋め込みログインを設定できるようになりました。以前は、Web サイトでセルフ登録を行ったユーザはコミュニティページにリダイレクトされていました。

パスワードに含める特殊文字の追加

パスワードをより柔軟に作成できます。次の特殊文字がサポートされるようになりました: ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ~

更新されたパスワードブラックリストによるセキュリティの強化

パスワードブラックリストを更新して、組織のセキュリティを強化しました。たとえば、ユーザは「1234567」という文字列を使用して組織にログインできなくなりました。

セッションへのアクセス時にユーザログインが安全であることを確認

セッションのログインで使用された HTTP メソッド (POST、GET、または不明) を参照できるようになりました。この情報を使用して、ユーザが GET 要求を介してユーザログイン情報を不用意に公開していないかどうかを確認します。たとえば、ユーザがログインページでユーザ名とパスワードを入力した場合、ログインの HTTP メソッドは安全な POST 要求です。ただし、ユーザがユーザ名とパスワードを URL に GET 要求として指定してログインした場合、ログイン情報は公開されます。

ロールの編集へのアクセスを保護するようにセッションセキュリティポリシーを設定

[ロール設定] ページのロール設定、UserRole オブジェクト、およびメタデータ API のロールオブジェクトへのユーザのアクセスを許可する前にユーザに高保証セッションレベルを要求できるようになりました。高保証セッションレベルを設定することで、機密情報の操作を保護できます。これらの設定は、これらの操作にアクセスするためのユーザ権限を持つユーザにのみ適用されます。ログイン後に高保証セッションがユーザに割り当てられていれば、機密情報の操作に高保証が必要な場合でも同じセッションで ID の検証が要求されることはありません。

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新) の延期

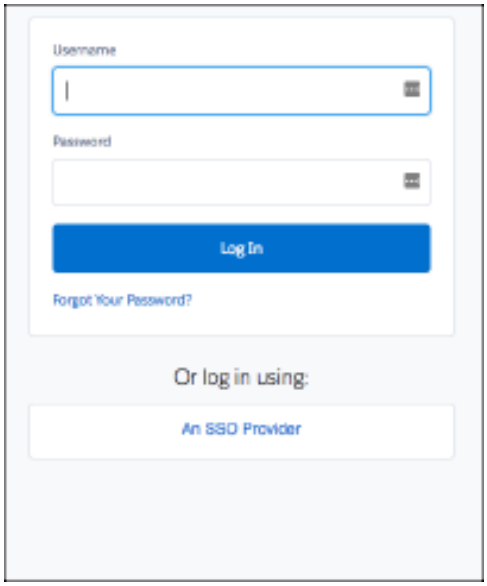
この重要な更新は、Summer '18 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '20 に延期されました。

[私のドメイン] のログイン検出を使用した ID ファーストログインページの作成

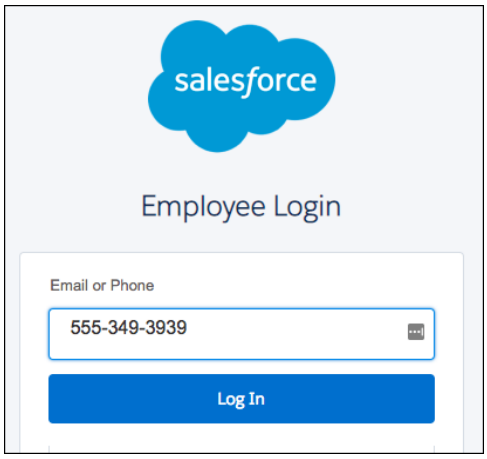
ログイン検出を使用して [私のドメイン] を設定し、ユーザのログインプロセスを簡略化します。このログインプロセスは、インタビューベースログインまたは ID ファーストログインと呼ばれることがあります。[私のドメイン] のログイン検出ページでは、ユーザにユーザ名とパスワードを使用してログインするように求める代わりに、メールアドレスや電話番号などの一意の識別子を入力するように求めます。その後、ユーザは入力した識別子に基づいて認証するように促されます。SSO が設定されている場合、選択する必要はありません。[私のドメイン] のログイン検出によって、ID プロバイダ (IdP) のログインページに直接送信されて認証されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: ログイン検出により、さまざまな認証シナリオ (複数のログインオプションや複数の IdP など) が簡略化されます。通常、顧客にはログイン情報を入力したり、SSO ボタンをクリックしたりできるログインページが表示されます。顧客によっては、SSO ボタンに気付かなかったり、その目的がわからなかったりする可能性があります。複数のログインオプションがあるログインページの例を次に示します。



[私のドメイン]のログイン検出ページの例を次に示します。このページには、ユーザが識別子を入力するための 1 つのオプションがあります。次に、ログイン検出は Salesforce のパスワードページを表示するか、ユーザを ID プロバイダのログインページにリダイレクトします。



方法: [私のドメイン]のログイン検出を実装するには、Apex でハンドラを作成し、[私のドメイン]の [設定] ページからハンドラを参照します。Apex クラスで `MyDomainLoginDiscoveryHandler` インターフェースを実装します。次に、[設定] から、「私のドメイン」と入力し、[私のドメイン] を選択します。[認証設定] で [編集] を

クリックします。ログインページ種別に[検出]を選択します。ログイン画面にテキストまたはカスタム表示ラベルを入力します。次に、作成した Apex ハンドラを選択します。

関連トピック:

- ログイン検出のログイン画面とカスタムエラーメッセージのローカライズ
- Apex: 新規および変更された項目
- *Salesforce* ヘルプ:私のドメイン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

証明書によるユーザの認証

証明書ベースの認証が提供されるようになりました。Salesforce の [設定] または API を使用して、一意の PEM エンコード X.509 デジタル証明書をアップロードし、組織に対して個々のユーザを認証できます。

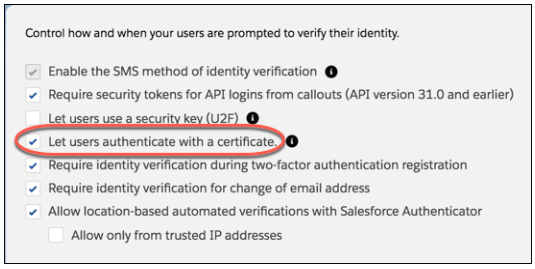
対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用され、[私のドメイン] で設定された組織でのみ使用できます。

理由: この新しい認証方法は、FedRAMP デジタル ID 要件および個人 ID 確認カードによる認証に準拠します。また、組織は認証機関によって署名された証明書をこの認証方法と共に使用できます。

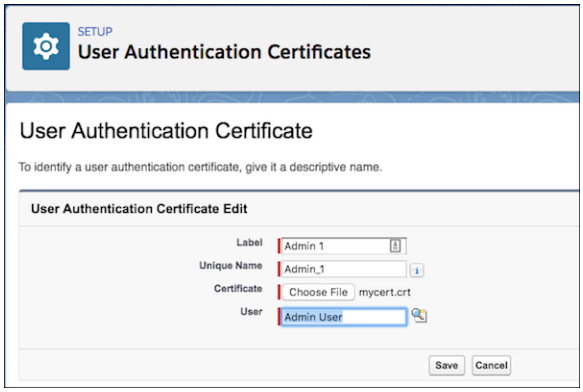
方法: Salesforce の [設定] または API から証明書ベースの認証を有効にします。

API を使用して証明書ベースの認証を設定する場合、アップロードしたユーザ証明書をデータローダなどの外部 API ツールと統合できます。外部 API ツールはユーザ証明書の管理に役立つ場合があります。新しい UserAuthCertificate オブジェクトを設定するには、REST API、SOAP API、および標準 API のオブジェクト作成を使用できます。

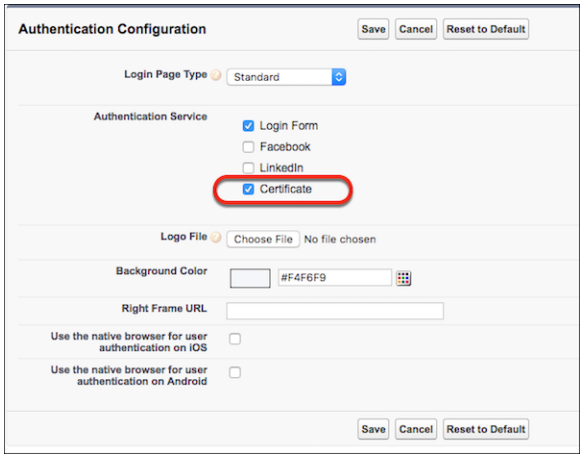
Salesforce の [設定] の [セッションの設定] から証明書ベースの認証を有効にします。



[ユーザ認証証明書] で証明書をアップロードします。



[私のドメイン] で証明書ベースの認証を有効にします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:証明書ベースの認証の設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ログイン検出のログイン画面とカスタムエラーメッセージのローカライズ

[私のドメイン]およびコミュニティでログイン検出ページ種別を使用する場合、カスタム表示ラベルを使用してログイン画面をローカライズできます。Apex でカスタムログインエラーメッセージをローカライズすることもできます。たとえば、ユーザが会社のメールアドレスではなく個人のメールアドレスでログインしようとしたときにアラートを表示できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。これは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティで使用できます。

方法: ログイン画面をローカライズするには、`$Label.loginPrompt` のように `$Label` グローバル変数を使用します。

Apex `Auth.LoginDiscoveryHandler` または `Auth.MyDomainLoginDiscoveryHandler` でカスタムエラーメッセージをローカライズするには、`Auth.DiscoveryCustomErrorException` 例外を使用して、カスタム表示ラベルとしてエラーメッセージを作成します。この例の `CustomError` は、カスタム表示ラベルです。

```
throw new
   Auth.DiscoveryCustomErrorException(Label.CustomError)
```

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:カスタム表示ラベル (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:カスタム表示ラベルの翻訳 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- [私のドメイン] のログイン検出を使用した ID ファーストログインページの作成

OAuth 2.0 エンドポイントと接続アプリケーションのインテグレーションの合理化 (正式リリース)

Mulesoft などの OAuth クライアントは、動的なクライアント登録エンドポイントに要求を送信し、新しい子の OAuth 2.0 接続クライアントアプリケーションを Salesforce に自動的に登録できるようになりました。登録が成功すると、Salesforce は新しいクライアント ID と、新しく登録された子アプリケーションに関するメタデータを返します。OAuth 2.0 接続アプリケーションはそのアクセストークンと更新トークンの現在の状態を確認できます。OAuth クライアントは自身および子アプリケーションのアクセストークンと更新トークンの現在の状態を確認できます。また、システム管理者は 1 つの接続アプリケーションを承認して組織全体のすべてのアクセストークンと更新トークンを調査できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: このソリューションは OAuth 2.0 Dynamic Client Registration Protocol (OAuth 2.0 動的クライアント登録プロトコル) と OAuth 2.0 Token Introspection (OAuth 2.0 トークンイントロスペクション) の仕様に従います。OAuth 2.0 エンドポイントと接続アプリケーションのインテグレーションを設定するには、次の手順を実行します。

接続アプリケーションを作成したら、初期アクセストークンを生成し、新しいエンドポイントを設定します。初期アクセストークンを登録したことを確認し、OAuth 2.0 エンドポイントを MuleSoft などの OAuth 2.0 クライアントと統合します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:接続アプリケーションの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:動的クライアント登録の準備(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:初期アクセストークンの生成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: OpenID Connect 動的クライアント登録エンドポイント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: OpenID Connect トークンイントロスペクションエンドポイント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

OAuth 2.0 接続アプリケーションクライアントの秘密に必要な文字数の増加

接続アプリケーションを作成すると、Salesforce によってコンシューマの秘密 (OAuth 2.0 ではクライアントの秘密) の値が生成されます。セキュリティ上の理由により、最小サイズ要件が 8 文字以上から 32 文字以上に増加しました。また、生成される秘密の形式も変更されました。Spring '19 以降、メタデータ API を使用して、Salesforce によって生成された秘密を独自の秘密に置き換える場合、サイズが 32 文字以上であることを確認してください。この変更は、既存の OAuth 2.0 接続アプリケーションには影響しません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

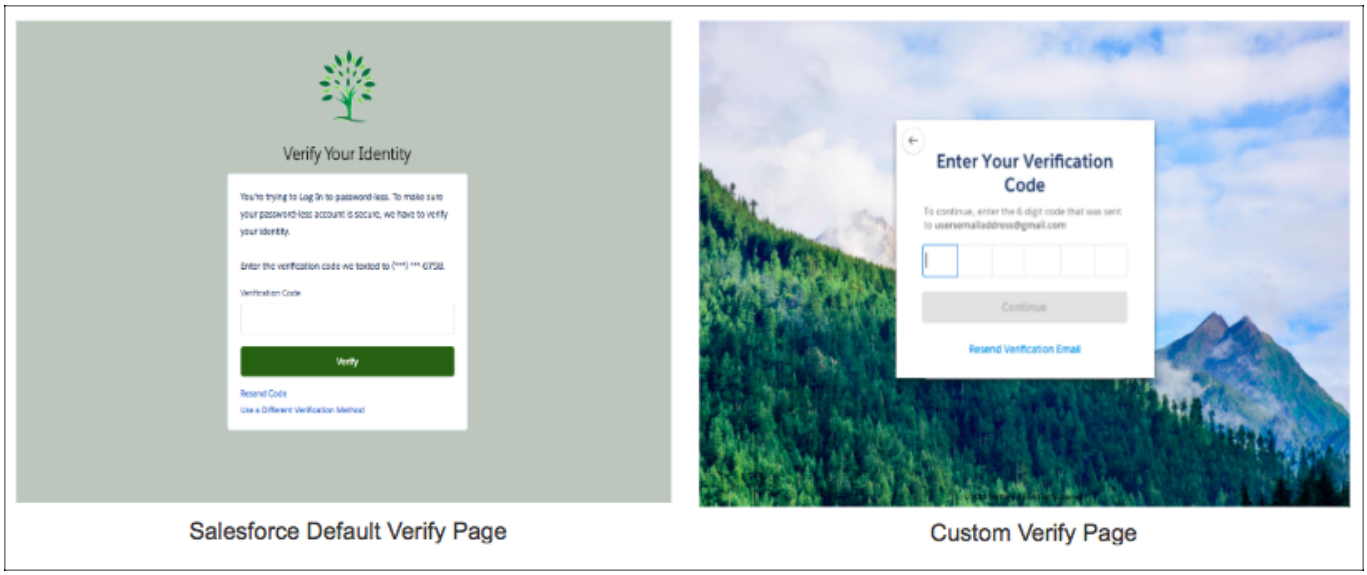
- *Salesforce* ヘルプ:接続アプリケーションの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティサインアップ用の独自の検証ページの作成

ユーザがメールアドレスまたは電話番号でコミュニティにサインアップすると、Salesforce から検証コードが送信され、検証ページが生成されます。ユーザは検証ページで自分の ID を検証します。以前は、ロゴ、色、背景でページをブランド設定できましたが、Salesforce から取得するフォームは変更できませんでした。今回のリリースでは、Salesforce 検証ページを、Visualforce といくつかの Apex メソッドを使用して作成する独自のページに置き換えることができるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。コミュニティは Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition で使用できます。

方法: Salesforce が生成したデフォルトの検証ページと Visualforce で作成したカスタムページをここで比較できます。Visualforce ページでは、異なるフォント、色、レイアウトが使用されています。また、ユーザが確認コードを入力する方法もカスタマイズされています。



Salesforce Default Verify Page　　Custom Verify Page

セルフ登録用の独自の検証ページを生成するには、Visualforce ページを作成し、Apex メソッド `System.UserManagement.initSelfRegistration` および `System.UserManagement.verifySelfRegistration` を追加します。まず、`initSelfRegistration` をコールし、登録の成功後に挿入されるユーザオブジェクトを追加します。ユーザの識別子が文字列として返されます。

```
global String initSelfRegistration(Auth.VerificationMethod method, User u)
```

次に、`verifySelfRegistration` をコールし、`initSelfRegistration` から返された識別子とユーザが入力した検証コードを渡します。このメソッドから、セッション ID と検証状況が含まれる検証結果が返されます。

```
global Auth.VerificationResult verifySelfRegistration(Auth.VerificationMethod method,
String identifier, String code, String startUrl)
```

この例では、電話番号を入力するユーザの ID を検証します。

```
User u = new user;
u.name = 'Tom'; // get input from the signup form
String id = initSelfRegistration(Auth.VerificationMethod.SMS, u);
VerificationResult res = verifySelfRegistrationAuth.VerificationMethod.SMS, id, '123456',
 null);
if(res.status == SUCCESS){
//redirect
}
```

Apex メソッドでは、メールおよび SMS による検証がサポートされています。制御するのは、セルフ登録プロセスの検証のみです。ログインプロセスには適用されません。

ユーザの[設定]ページからリストビューを作成して、ユーザがメールアドレスや電話番号を検証したかどうかをチェックできます。たとえば、次の検証関連の項目を追加します。

- 管理者の信頼済み携帯番号
- ワンタイムパスワードアプリケーション
- Salesforce Authenticator
- 仮のコード
- U2F セキュリティキー
- ユーザの検証済みメール
- ユーザの検証済み携帯番号

関連トピック:

Apex: 新規および変更された項目

非同期メール検証の送信

新しい Salesforce Identity 非同期メール機能により、ユーザはいつでもメールアドレスを検証できます。ユーザに検証リンクをメールメッセージで送信します。ユーザは都合の良いときにリンクをクリックしてメールアドレスを検証できます。作業を中断する必要はありません。また、ユーザがブランドを認識できるようにメールメッセージをカスタマイズすることもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。これは、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティで使用できます。

理由: コミュニティサインアップ用の非同期メール検証を設定すると、顧客はメールアドレスを検証する前でもコミュニティにすぐにアクセスできます。顧客に検証リンクをメールメッセージで送信できます。リンクをクリックすると、メールアドレスが検証されます。そのため、顧客は次のアクセス時にそのメールアドレスを使用してログインできるようになります。また、外部ユーザはメールアドレスの検証後にのみパスワードなしでログインできます。

外部ユーザと内部ユーザのどちらの場合も、時々、非同期メール検証を送信することをお勧めします。メール検証を送信すると、ユーザが所有する有効なメールアドレスで登録されていることを確認できます。

方法: 検証リンクをメールメッセージで送信する Apex メソッド `asyncEmailConfirmation` を使用して、メール ID 検証を設定します。次に例を示します。

```
System.UserManagement.sendAsyncEmailConfirmation('005RM000001a0Ox', '00XRM000000hxnG',
'0DBRM000000015i', '/s/contactsupport');
```

[コミュニティ:ユーザ確認メール] テンプレートを変更するか、API Network オブジェクトの AsyncVerificationLink 項目を使用して API で検証メールメッセージをカスタマイズできます。検証リンクが記載されたメールの受信者

を特定するには、[ユーザの検証済みメール] ビットが設定されているかどうかを確認します。[ユーザの検証済みメール] ビットは、[設定] または API で見つけることができます。

関連トピック:

- Apex: 新規および変更された項目
- *Salesforce* ヘルプ: コミュニティから送信されるメールのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 非同期メール検証の送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

軽量な、連絡先のない External Identity ユーザの作成 (正式リリース)

連絡先情報のないユーザを作成して、外部IDユーザ管理のオーバーヘッドを軽減します。連絡先がなければ、ユーザと連絡先レコードを常に同期する手間が省かれます。ユーザデータベースを ID のみを目的として管理できます。ユーザが評価済みリードになった場合など、必要に応じて、後で連絡先を追加できます。また、コミュニティライセンスを最大限活用するために、既存のユーザから連絡先を削除することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、External Identity ライセンスを持つユーザ (顧客やパートナーの製品の ID を持つユーザ) に適用されます。また、External Identity ライセンスにダウングレードするコミュニティユーザも使用できます。この機能を有効にするには、Salesforce カスタマーサポートにご連絡ください。

方法: 連絡先のない External Identity ユーザを作成するには、Apex、SOAP、Bulk API を使用してユーザレコードを作成します。

```
User u = new User();
   u.FirstName = 'Jane';
   u.LastName = 'Doe';
   u.Email = 'janedoe@test.com';
   u.Alias = 'jane';
   u.Username = 'janedoe@test.com';
   u.CommunityNickname = 'Jane';
   u.LocaleSidKey = 'en_US';
   u.TimeZoneSidKey = 'GMT';
   u.ProfileID = '00exx000000jvN4'; // Profile that's associated with the EI license
   u.LanguageLocaleKey = 'en_US';
   u.EmailEncodingKey = 'UTF-8';
   insert u;
```

連絡先のない External Identity ユーザに連絡先を追加するには、連絡先を作成し、連絡先をユーザに関連付けます。

```
Account a = [SELECT Id FROM Account WHERE Id = '001xx000003DIyf'];
   Contact c = new Contact();
   c.FirstName = 'Sonia';
   c.LastName = 'James';
   c.AccountId = a.id;
   insert c;
```

```
User u =  [SELECT Id FROM User WHERE Id = '005xx000001TLlf'];
u.ContactId=c.id;
update u;
```

External Identity ライセンスを持つユーザのみが連絡先のないユーザになれます。そのため、Communities ライセンスを持つユーザから連絡先を削除する場合、まずユーザを External Identity ライセンスにダウングレードします。その後、連絡先を削除できます。

関連トピック:

顧客およびパートナー向けの Salesforce Identity: 外部ユーザのコミュニティの管理(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

デバイス管理を使用したデバイスの表示および取り消し (ベータ)

デバイス管理を使用して、Salesforce 組織にアクセスするデバイスを追跡および監視できるようになりました。これで、データのセキュリティをより詳細に制御できます。API または Apex コールを使用して、紛失したまたは盗難にあったデバイスからのアクセスおよび関連付けられた更新トークンを取り消すことができます。また、組織へのデバイスのアクセス方法を定義するプロセスおよびポリシーを作成することもできます。たとえば、ログインを承認する前にデバイスからの承認要求を必要とすることができます。さらに、カスタムレポートを作成してデバイス管理の統計情報 (組織にアクセスするデバイスの種別など) を確認します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: デバイス管理はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。組織でこの機能を有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

対象ユーザ: Salesforce にアクセスするデバイスを表示するには、「デバイスを表示」権限が必要です。デバイスアクセスを取り消すには、「デバイスを管理」権限が必要です。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: デバイス管理 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ログアウト時にユーザをカスタム URL に転送

Salesforce がサービスプロバイダの場合、シングルログアウト (SLO) 中にユーザをカスタム URL に転送できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: ID プロバイダの SLO URL とカスタムログアウト URL の両方を [SAML シングルサインオン設定] ページで設定します。

Salesforce がサービスプロバイダであり、ログアウト要求を開始した場合、ID プロバイダはログアウト応答を投稿して、ユーザを Salesforce にリダイレクトして戻すことができます。このシナリオでは、Salesforce はログアウト時にユーザをカスタム URL に転送します。ID プロバイダがログアウト応答でユーザを Salesforce に戻さない場合、ID プロバイダは SLO リダイレクト URL をログアウト時に決定します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: シングルログアウト用の SAML 設定 (Salesforce がサービスプロバイダの場合) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セルフ登録後の Web サイトへのユーザのリダイレクト

セルフ登録を完了したユーザを Web サイトに戻すように Salesforce Identity の埋め込みログインを設定できるようになりました。以前は、Web サイトでセルフ登録を行ったユーザはコミュニティページにリダイレクトされていました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce Web 開発者は新しい salesforce-self-register-starturl-enabled メタタグをユーザの Web サイトの埋め込みログインに追加できます。このメタタグは開始 URL を自動生成して、セルフ登録のエンドポイントに追加します。ユーザが Web サイトでセルフ登録を行うと、自動生成された開始 URL が OAuth ユーザエージェントフローを開始して、ユーザを Web サイトに戻します。

関連トピック:

Salesforce External Identity Implementation Guide (Salesforce External Identity 実装ガイド): 埋め込みログイン: 訪問者による Web ページへのログインを許可 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce External Identity Implementation Guide (Salesforce External Identity 実装ガイド): 埋め込みログインのメタタグリファレンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

パスワードに含める特殊文字の追加

パスワードをより柔軟に作成できます。次の特殊文字がサポートされるようになりました: ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ~

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

更新されたパスワードブラックリストによるセキュリティの強化

パスワードブラックリストを更新して、組織のセキュリティを強化しました。たとえば、ユーザは「1234567」という文字列を使用して組織にログインできなくなりました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

セッションへのアクセス時にユーザログインが安全であることを確認

セッションのログインで使用された HTTP メソッド (POST、GET、または不明) を参照できるようになりました。この情報を使用して、ユーザが GET 要求を介してユーザログイン情報を不用意に公開していないかどうかを確認します。たとえば、ユーザがログインページでユーザ名とパスワードを入力した場合、ログインの HTTP メソッドは安全な POST 要求です。ただし、ユーザがユーザ名とパスワードを URL に GET 要求として指定してログインした場合、ログイン情報は公開されます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Performance Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [ログイン履歴] ページで HTTP ログインメソッドを参照します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:ログイン履歴の監視 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ロールの編集へのアクセスを保護するようにセッションセキュリティポリシーを設定

[ロール設定] ページのロール設定、UserRole オブジェクト、およびメタデータ API のロールオブジェクトへのユーザのアクセスを許可する前にユーザに高保証セッションレベルを要求できるようになりました。高保証セッションレベルを設定することで、機密情報の操作を保護できます。これらの設定は、これらの操作にアクセスするためのユーザ権限を持つユーザにのみ適用されます。ログイン後に高保証セッションがユーザに割り当てられていれば、機密情報の操作に高保証が必要な場合でも同じセッションで ID の検証が要求されることはありません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*ID 検証*」と入力し、[ID 検証] を選択します。[セッションセキュリティレベルポリシー] セクションに移動し、[ロールを管理] 設定を更新します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:機密情報の操作への高保証セッションセキュリティの要求 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新) の延期

この重要な更新は、Summer '18 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '20 に延期されました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

Salesforce Shield: 項目監査履歴オブジェクトのサポート、キャッシュのみの鍵の正式リリース、新しい Apex イベント

Shield Platform Encryption でキャッシュのみの鍵サービスが正式にリリースされました。また、セルフサービスバックグラウンド暗号化を自由に行うことができ、より多くのクラウドとの互換性が確保されます。イベント監視の 2 つの新しい EventLogFile イベント種別は、Apex 例外と実行時間が長い Apex 要求情報を取得します。また、項目監査履歴で、より多くのオブジェクトの自動アーカイブがサポートされます。

このセクションの内容:

項目監査履歴での追加オブジェクトのサポート
データは絶えず変化しています。システム管理者と監査人は 18 か月をはるかに超える期間、履歴データにアクセスする必要があります。組織が項目とオブジェクトの変更を最大 10 年間キャプチャできるように、項目監査履歴で、新しい個人オブジェクトを含め、より多くのオブジェクトの自動アーカイブがサポートされるようになりました。キャンペーン、個人、注文、および注文商品の各オブジェクトに対して項目履歴保持ポリシーを設定できるようになりました。

Shield Platform Encryption: キャッシュのみの鍵の正式リリース、セルフサービスバックグラウンド暗号化、クラウド間の互換性の向上
Shield Platform Encryption を使用すると、より多くの機能を使用して暗号化データにアクセスできます。キャッシュのみの鍵サービスを使用すると、より多くの方法で鍵素材を制御できます。また、ユーザがすばやく作業できるように、管理パッケージとバックグラウンド暗号化サービスに対してセルフサービスオプションを追加しました。

イベント監視: Apex トラブルシューティング用の新しいイベント種別、改善されたトランザクションポリシーウィザード
2 つの新しい EventLogFile イベント種別は、Apex 例外と実行時間が長い Apex 要求情報を取得します。また、トランザクションセキュリティポリシーを作成するときに有効化できるようになり、よりわかりやすいポリシーエラーメッセージが追加されました。

項目監査履歴での追加オブジェクトのサポート

データは絶えず変化しています。システム管理者と監査人は 18 か月をはるかに超える期間、履歴データにアクセスする必要があります。組織が項目とオブジェクトの変更を最大 10 年間キャプチャできるように、項目監査履歴で、新しい個人オブジェクトを含め、より多くのオブジェクトの自動アーカイブがサポートされるようになりました。キャンペーン、個人、注文、および注文商品の各オブジェクトに対して項目履歴保持ポリシーを設定できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Salesforce Classic **に適用されます。**

Shield Platform Encryption: キャッシュのみの鍵の正式リリース、セルフサービスバックグラウンド暗号化、クラウド間の互換性の向上

Shield Platform Encryption **を使用すると、より多くの機能を使用して暗号化データにアクセスできます。キャッシュのみの鍵サービスを使用すると、より多くの方法で鍵素材を制御できます。また、ユーザがすばやく作業できるように、管理パッケージとバックグラウンド暗号化サービスに対してセルフサービスオプションを追加しました。**

このセクションの内容:

キャッシュのみの鍵サービス (正式リリース) を使用して鍵の制御を維持

鍵素材の一連の過程をより強力に制御します。Platform Encryption**のキャッシュのみの鍵サービスを使用すると、任意の鍵サービスを使用して** Salesforce **の外部に鍵素材を保存できます。キャッシュのみの鍵サービスでは、鍵素材をオンデマンドで取得します。鍵サービスはユーザの鍵素材を、ユーザが設定した安全なチャネルに送信します。その後、鍵素材は暗号化され、即時の暗号化操作および複合化操作用のキャッシュに保存されます。**

セルフサービスバックグラウンド暗号化によるデータの同期

項目を暗号化ポリシーに追加したり、異なる暗号化スキームを項目に適用したり、鍵素材を循環したりすることがあります。このような場合、暗号化データを暗号化ポリシーおよび有効な鍵素材と同期することが重要です。ほとんどの項目のデータだけでなく項目履歴とフィード追跡の変更を [設定] から同期できるようになりました。セルフサービスバックグラウンド暗号化を使用すると、暗号化ポリシーを独自のスケジュールで自主的に維持できるため、Salesforce **カスタマーサポートへの問い合わせが減ります。**

インストール済み管理パッケージのカスタム項目のセルフサービス暗号化

Salesforce**カスタマーサポートは便利ですが、セルフサービスはさらに便利です。組織の [管理パッケージのカスタム項目を暗号化] 設定を [設定] から直接オンにできるようになりました。これ以上、サポートに電話する必要はありません。インストール済み管理パッケージで暗号化がサポートされている場合、自分(および顧客)のデータのセキュリティを一層強化するといった重要な業務にすぐに取りかかることができます。**

カスタムリッチテキストエリア項目の暗号化 (正式リリース)

すべての Shield Platform Encryption **ユーザはカスタムリッチテキストエリア項目を暗号化できるようになり、より広範なデータのセキュリティとコンプライアンスが一層強化されました。カスタムオブジェクトと標準オブジェクトのカスタムリッチテキストエリア項目を暗号化できます。**

一連の行動と暗号化の互換性

[行動の説明] 項目を暗号化した場合、Lightning Experience **と** Salesforce **アプリケーションの一連の行動も暗号化されます。**

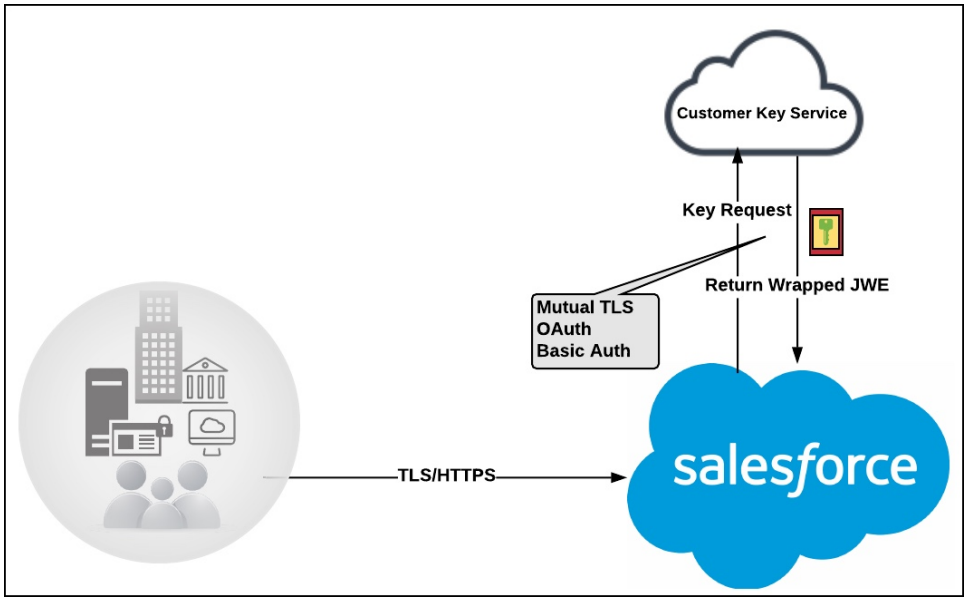
キャッシュのみの鍵サービス (正式リリース) を使用して鍵の制御を維持

鍵素材の一連の過程をより強力に制御します。Platform Encryption のキャッシュのみの鍵サービスを使用すると、任意の鍵サービスを使用して Salesforce の外部に鍵素材を保存できます。キャッシュのみの鍵サービスでは、鍵素材をオンデマンドで取得します。鍵サービスはユーザの鍵素材を、ユーザが設定した安全なチャネルに送信します。その後、鍵素材は暗号化され、即時の暗号化操作および複合化操作用のキャッシュに保存されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic、Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: キャッシュのみの鍵サービスのアドオンサブスクリプションを購入したユーザが使用できます。購入するには、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: キャッシュのみの鍵サービスは、保持されない鍵素材に対する独自のニーズに対処します。キャッシュのみの鍵は、どの Salesforce システムのレコードまたはバックアップにも保持されません。代わりに、鍵サービスは、選択された社内鍵サービス、クラウドベースの鍵サービス、またはクラウドベースの鍵仲介ベンダーのいずれかから鍵を取得します。鍵素材が取得されると、鍵素材は暗号化され、暗号化操作および複合化操作用のキャッシュに保存されます。



鍵素材をオンデマンドで破棄および循環し、キャッシュのみの鍵イベントを追跡できるため、鍵素材を完全に制御できます。

方法: キャッシュ互換の鍵を作成およびホストするには、Salesforce の内部と外部で設定が必要です。鍵素材の生成と準備が終了したら、指定ログイン情報を作成して安全なチャネルとして使用します。サービスはこの安全なチャネル経由で鍵素材を取得します。次に、[設定] の [鍵の管理] ページで接続を設定します。

[コールアウトチェック]ページを使用して、鍵サービスへのコールアウト接続が動作していることを確認します。動作していない場合、適切な調整のための必要な情報がページに表示されます。また、[コールアウトチェック] ページを使用して接続を監視し、鍵サービスでの鍵の取得を妨げる可能性がある鍵サービスの中断にすばやく対応できます。

Spring '19 の新機能

- Enterprise API を使用して、キャッシュのみの鍵の循環、生成、および更新をプログラムで実行します。
- リプレイ検出をオプトインして、セキュリティを向上します。キャッシュのみの鍵のコールアウトの一部として nonce を受け入れるように鍵サービスを更新します。[設定] の [高度な設定] ページで、[キャッシュのみの鍵のリプレイ検出を有効化] をオンにします。
- キャッシュのみの鍵サービスの関連付けられた証明書と指定ログイン情報をすばやく更新します。[鍵の管理] ページで、[詳細] をクリックします。[コールアウト接続の詳細] セクションで、[編集] をクリックします。コールアウトの最新の [証明書の一意の名前] と [指定ログイン情報] を選択して保存します。これらの項目は Enterprise API を使用して更新することもできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:キャッシュのみの鍵サービス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

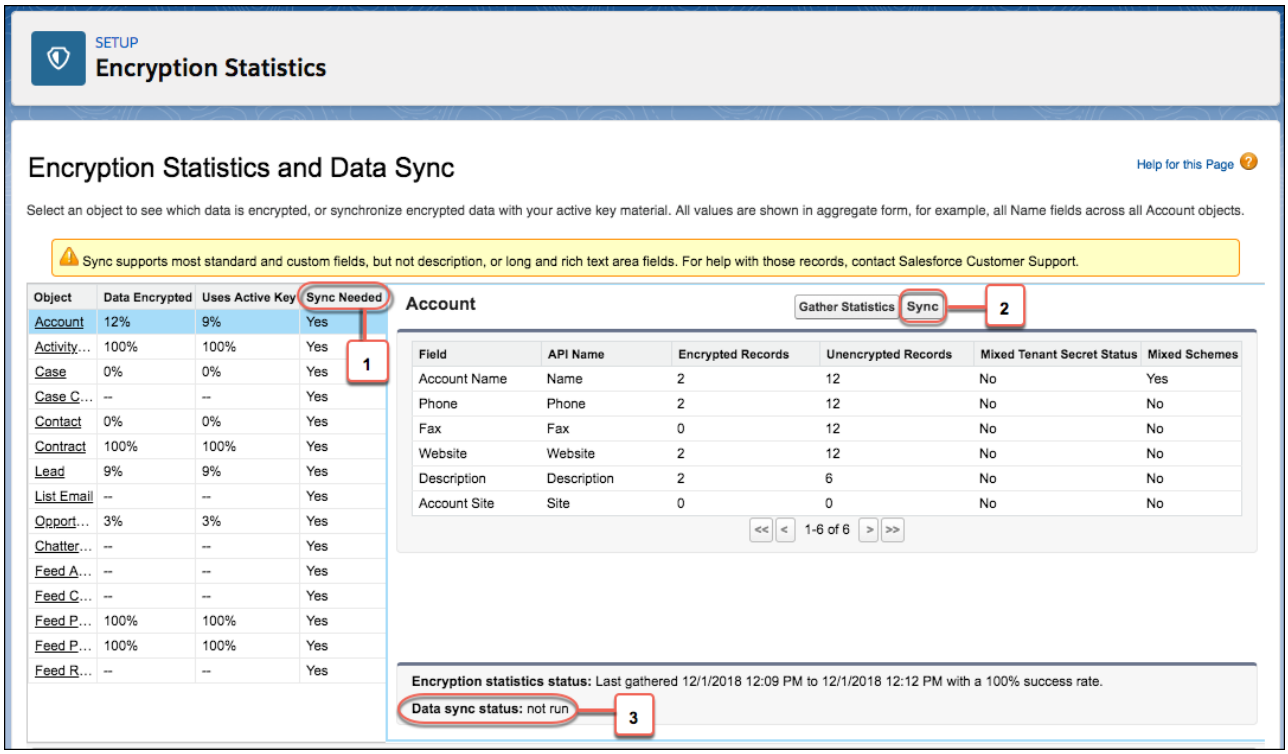
変更されたオブジェクト

セルフサービスバックグラウンド暗号化によるデータの同期

項目を暗号化ポリシーに追加したり、異なる暗号化スキームを項目に適用したり、鍵素材を循環したりすることがあります。このような場合、暗号化データを暗号化ポリシーおよび有効な鍵素材と同期することが重要です。ほとんどの項目のデータだけでなく項目履歴とフィード追跡の変更を [設定] から同期できるようになりました。セルフサービスバックグラウンド暗号化を使用すると、暗号化ポリシーを独自のスケジュールで自主的に維持できるため、Salesforce カスタマーサポートへの問い合わせが減ります。

対象: この変更は、Sandbox プレビューとして Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

方法: データを同期するには、[設定] で [暗号化統計] ページに移動します。



新しい [同期が必要] 列は、データを同期する必要があるかどうかを示します (1)。[同期] (2) をクリックすると、Salesforce がバックグラウンドでオブジェクトのデータを同期します。ページの下部で暗号化プロセスの状況を確認するか (3)、ジョブの完了を通知するメールを待ちます。データの同期が終了すると、統計情報が自動的に収集されるため、暗号化データの最新の詳細を確認できます。

[設定] からデータを同期する場合、項目履歴とフィード追跡の変更も暗号化できます。[高度な設定] ページで [項目履歴およびフィード追跡の値を暗号化] をオンにします。[設定] からデータを同期する場合、項目履歴とフィード追跡の値も有効な鍵素材によって暗号化されるようになりました。

セルフサービスバックグラウンド暗号化は一部のデータ要素で使用できません。標準の説明項目、ロングテキストエリア項目、リッチテキストエリア項目、およびデータ要素 (ファイルや添付ファイルなど) と、Chatter データは [設定] から同期できません。これらのデータの同期については、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。Salesforce カスタマーサポートに項目履歴とフィード追跡の値の暗号化を要求することもできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: セルフサービスバックグラウンド暗号化を使用したデータの同期 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

インストール済み管理パッケージのカスタム項目のセルフサービス暗号化

Salesforce カスタマーサポートは便利ですが、セルフサービスはさらに便利です。組織の [管理パッケージのカスタム項目を暗号化] 設定を [設定] から直接オンにできるようになりました。これ以上、サポートに電話する必要はありません。インストール済み管理パッケージで暗号化がサポートされている場合、自分 (および顧客) のデータのセキュリティを一層強化するといった重要な業務にすぐに取りかかることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic、Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] の [高度な設定] ページで [管理パッケージのカスタム項目の暗号化] をオンにします。これ以降、インストール済み管理パッケージで暗号化がサポートされている場合、そのパッケージのカスタム項目を暗号化できます。

> **メモ:** アプリケーションで暗号化項目がサポートされているかどうかわかりませんか? AppExchange のリストで、Shield との互換性のフラグを探してください。このフラグが見つからない場合は、アプリケーションベンダーにお問い合わせください。

Salesforce がこの機能をすでに有効化している場合は、[高度な設定] ページで再度オプトインしてください。オプトインしない場合、インストール済み管理パッケージ内で暗号化されたカスタム項目は、暗号化されたままです。ただし、インストール済み管理パッケージ内のその項目に対して暗号化を有効または無効にすることはできません。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: 暗号化できるカスタム項目は? (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *Salesforce* ヘルプ: カスタムオブジェクトの項目とカスタム項目の暗号化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタムリッチテキストエリア項目の暗号化 (正式リリース)

すべての Shield Platform Encryption ユーザはカスタムリッチテキストエリア項目を暗号化できるようになり、より広範なデータのセキュリティとコンプライアンスが一層強化されました。カスタムオブジェクトと標準オブジェクトのカスタムリッチテキストエリア項目を暗号化できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic、Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: リッチテキストエリア項目を作成または編集するときに暗号化を有効にします。

Lightning Experience では、[オブジェクトマネージャ] からカスタムまたは標準オブジェクトを選択して、[項目とリレーション] を選択します。リッチテキストエリア項目を作成または編集するときに、項目の詳細ページで [暗号化] を選択します。

Salesforce Classic では、[設定] でオブジェクトに移動し、[項目] を選択します。[カスタム項目 & リレーション] セクションで [新規] または [編集] をクリックし、項目の詳細ページで [暗号化] を選択します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: カスタムオブジェクトの項目とカスタム項目の暗号化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一連の行動と暗号化の互換性

[行動の説明] 項目を暗号化した場合、Lightning Experience と Salesforce アプリケーションの一連の行動も暗号化されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] の [暗号化ポリシー] ページで、[項目の暗号化] をクリックし、[活動 (ToDo および行動) の説明] 項目を暗号化します。これ以降、Lightning Experience と Salesforce アプリケーションの一連の行動も暗号化されます。

Shield Platform Encryption を有効にした後、一連の行動の履歴データは暗号化されずに残ります。Lightning Experience の既存の一連の行動データを暗号化するには、一連の行動レコードを更新します。更新により、既存の一連の行動データは有効な鍵素材を使用して同期されます。

関連トピック:

- 一連の行動のスケジュール (正式リリース)

イベント監視: Apex トラブルシューティング用の新しいイベント種別、改善されたトランザクションポリシーウィザード

2 つの新しい EventLogFile イベント種別は、Apex 例外と実行時間が長い Apex 要求情報を取得します。また、トランザクションセキュリティポリシーを作成するときに有効化できるようになり、よりわかりやすいポリシーエラーメッセージが追加されました。

このセクションの内容:

- 実行時間が長い同時 Apex 要求の終了時に詳細を取得
  EventLogFile オブジェクトの実行時間が長い同時 Apex 制限イベント種別は、同時実行制限に達した後に Salesforce によって終了された、組織内の実行時間が長い同時 Apex 要求に関する情報を取得します。たとえば、ログ数を監視してベンチマークを取得したり、時間単位で件数をプロットしたりできます。そのログデータを使用して、どこで制限に達したかを識別できます。終了された要求の URI を識別することもできます。
- 予期しない例外に関する情報の取得
  EventLogFile オブジェクトの新しい Apex の予期しない例外イベント種別は、Apex コード実行での予期しない例外に関する情報を取得します。例外情報を取得する標準の方法は、生成されたメールからの取得です。ただし、スタック追跡を含む、EventLogFile オブジェクトの Apex 例外情報の分析も選択できるようになりました。
- トランザクションポリシーのより容易な作成と管理
  ポリシー作成ウィザードで、ポリシーの作成時にポリシーを有効にできるようになりました。Apex 以外のポリシーでは実行ユーザを指定しません。また、ポリシーの作成または更新時に発生した問題に対してわかりやすいエラーメッセージが表示されます。ポリシーの概要ページでポリシーを並び替えてポリシーを容易に見つけます。

実行時間が長い同時 Apex 要求の終了時に詳細を取得

EventLogFile オブジェクトの実行時間が長い同時 Apex 制限イベント種別は、同時実行制限に達した後に Salesforce によって終了された、組織内の実行時間が長い同時 Apex 要求に関する情報を取得します。たとえば、ログ数を監視してベンチマークを取得したり、時間単位で件数をプロットしたりできます。そのログデータを使用して、どこで制限に達したかを識別できます。終了された要求の URI を識別することもできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

理由: 確立された Apex コンテキストが 5 秒間実行される要求は、実行時間が長い同時要求の組織の制限にカウントされます(非同期要求は制限にカウントされません)。実行時間が長い要求数がデフォルトの組織制限である 10 を超えた場合、その他の実行時間が長い要求は終了されます。

方法: お客様がイベント監視を使用している場合は、組織が同時 Apex 要求の制限を超え、要求実行時間全体の制限よりも長い時間がかっているときに、実行時間が長い同時 Apex 制限イベントログデータを自動的に受け取ります。

どこで制限を超えたかを確認するには、REQUEST_URI 項目を参照します。平均 RUN_TIME が 5 秒を超える Apex 実行イベントデータとこのデータを相互参照できます。

同期要求のみを特定するには、Apex実行イベントデータのQUIDDITY項目を使用してイベントデータを相互参照します。例: QUIDDITY NOT IN (A,BA,F,Q,S) および CALLOUT_TIME (>5000)

メモ: 実行時間が長い要求のデフォルトの制限を変更するには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

関連トピック:

Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: 実行時間が長い同時 Apex 制限イベント種別(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

Salesforce Developer の制限および割り当てクイックリファレンス: Apex ガバナ制限(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Web 要求の制限

ナレッジ記事: 同時 Apex エラーのプロアクティブなアラート監視

Salesforce 開発者ブログ:同時要求制限に達することを回避する Force.com アプリケーションの開発

予期しない例外に関する情報の取得

EventLogFile オブジェクトの新しい Apex の予期しない例外イベント種別は、Apex コード実行での予期しない例外に関する情報を取得します。例外情報を取得する標準の方法は、生成されたメールからの取得です。ただし、スタック追跡を含む、EventLogFile オブジェクトの Apex 例外情報の分析も選択できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。このイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

方法: イベント監視のお客様の場合、未対応の例外が原因で Analytics 操作が終了した場合、例外データを受信します。

関連トピック:

Salesforce および Lightning Platform のオブジェクトリファレンス: 予期しない Apex 例外イベント種別(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

トランザクションポリシーのより容易な作成と管理

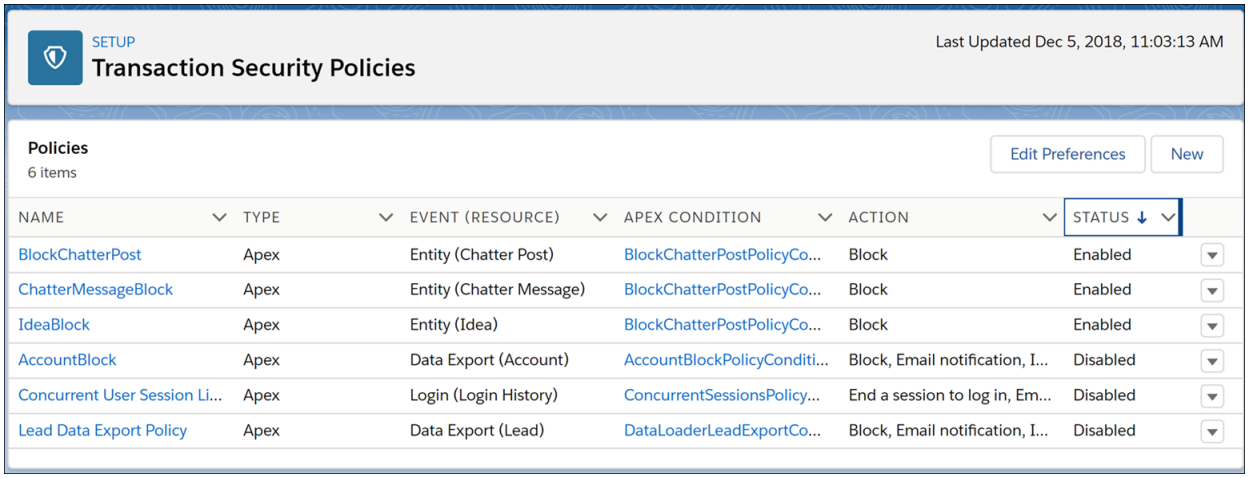
ポリシー作成ウィザードで、ポリシーの作成時にポリシーを有効にできるようになりました。Apex以外のポリシーでは実行ユーザを指定しません。また、ポリシーの作成または更新時に発生した問題に対してわかりやすいエラーメッセージが表示されます。ポリシーの概要ページでポリシーを並び替えてポリシーを容易に見つけます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

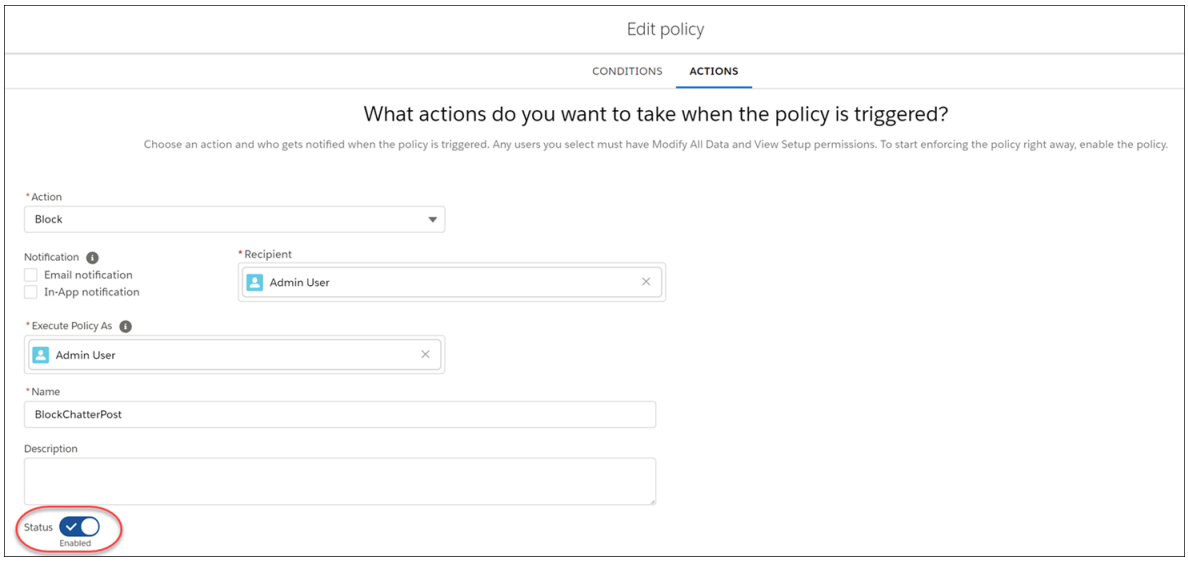
対象ユーザ: Salesforce Shield または Salesforce Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。トランザクションセキュリティポリシーを作成して管理するには、「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限が必要です。

重要: リアルタイムイベントのパイロットに参加している場合、パイロットでサポートされているイベントに対して Apex ポリシーを作成したり、無効化された Apex ポリシーを編集したりできません。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「トランザクションセキュリティ」と入力し、[トランザクションセキュリティポリシー] を選択します。



ポリシーを作成するには、[新規]をクリックします。ポリシーを更新するには、右のドロップダウンメニューをクリックし、[編集] を選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: トランザクションセキュリティ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リリース: 変更セット操作のクリック数の削減

変更セットの詳細ページを読み込まずに、変更セットに対するアクションを実行できます。

このセクションの内容:

より少ないクリック数での変更セットのコピー、リリース、アップロード、検証

これらの操作を開始するときに、変更セットの詳細ページを読み込む必要がなくなりました。リリース済みの変更セットと未リリースの変更セット両方で検証およびリリース操作を開始するために使用できる、[受信変更セット] ページへのリンクが追加されました。変更セットがそのリリース元組織から削除された場合、これらの操作リンクは使用できなくなります。変更セットのリリースが処理中の場合、これらの操作リンクはリリースが完了するまで使用できません。変更セットのアップロードまたはコピーに使用できる、[送信変更セット] ページへのリンクも追加されました。変更セットにコンポーネントが含まれない場合、[アップロード] リンクは使用できません。

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。

より少ないクリック数での変更セットのコピー、リリース、アップロード、検証

これらの操作を開始するときに、変更セットの詳細ページを読み込む必要がなくなりました。リリース済みの変更セットと未リリースの変更セット両方で検証およびリリース操作を開始するために使用できる、[受信変更セット] ページへのリンクが追加されました。変更セットがそのリリース元組織から削除された場合、これらの操作リンクは使用できなくなります。変更セットのリリースが処理中の場合、これらの操作リンクはリリースが完了するまで使用できません。変更セットのアップロードまたはコピーに使用できる、[送信変更セット] ページへのリンクも追加されました。変更セットにコンポーネントが含まれない場合、[アップロード] リンクは使用できません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Professional Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。

Aura コンポーネントバンドル
: 組織の Aura コンポーネントを表します。

  この変更は、表示ラベルの変更のみです。以前のバージョンでは、このコンポーネントは Lightning コンポーネントバンドルと呼ばれていました。変更セットを更新する必要はありません。

Lightning Web コンポーネントバンドル
: 組織の Lightning Web コンポーネントを表します。

Salesforce IoT: Field Service Lightning for Android で使用可能な IoT Insights、Service Cloud の IoT、改善されたコンテキスト設定プロセス

派遣作業員は IoT Insights を使用して Field Service Lightning for Android で Salesforce IoT データを表示できるようになりました。Salesforce IoT が Unlimited Edition の Service Cloud の一部として提供されるようになりました。また、プロセスを簡略化するウィザードやプロセスのナビゲーションを効率化するその他の機能が追加され、コンテキスト設定フローが改善されました。

このセクションの内容:

Service Cloud Unlimited Edition の IoT を使用したカスタマーエクスペリエンスの向上

Salesforce IoT の制限付きバージョンが追加費用なしで Service Cloud に含まれるようになりました。IoT データを Service Cloud に配信することで、ユーザは顧客の接続デバイスに関するより多くの診断情報にアクセスできます。エージェントは、問題をすばやく分析して解決し、顧客により良いサービスを提供できます。

より簡単にコンテキストを作成できる設定プロセス

IoT コンテキスト設定プロセスの改善やコンテキスト作成の簡略化と合理化が行われ、すべての設定ステップが 1 つのウィザードベースのプロセスに移行しました。

Field Service Lightning Mobile for Android での Salesforce IoT データの表示
Field Service Lightning for Android の IoT Insights を使用すると、派遣作業員は顧客の接続デバイスの貴重な IoT データにあらゆる場所からアクセスできるようになりました。

Service Cloud Unlimited Edition の IoT を使用したカスタマーエクスペリエンスの向上

Salesforce IoT の制限付きバージョンが追加費用なしで Service Cloud に含まれるようになりました。IoT データを Service Cloud に配信することで、ユーザは顧客の接続デバイスに関するより多くの診断情報にアクセスできます。エージェントは、問題をすばやく分析して解決し、顧客により良いサービスを提供できます。

対象: この変更は、Unlimited Edition (Service Cloud 付属) の Lightning Experience に適用されます。

方法: 組織に Service Cloud ライセンスがある場合、[設定] の [機能設定] で Salesforce IoT を見つけることができます。

メモ: 詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

より簡単にコンテキストを作成できる設定プロセス

IoT コンテキスト設定プロセスの改善やコンテキスト作成の簡略化と合理化が行われ、すべての設定ステップが 1 つのウィザードベースのプロセスに移行しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 設定フローをさらに簡略化するために、他の変更も行われました。プラットフォームイベントと Salesforce オブジェクトのキー項目を選択する 2 つのステップが 1 つの画面に統合されました。プラットフォームイベントとオブジェクトのキー項目のオプションを並べて表示できます。復元オプションもあるため、いつでもコンテキストのライブバージョンに戻ることができます。

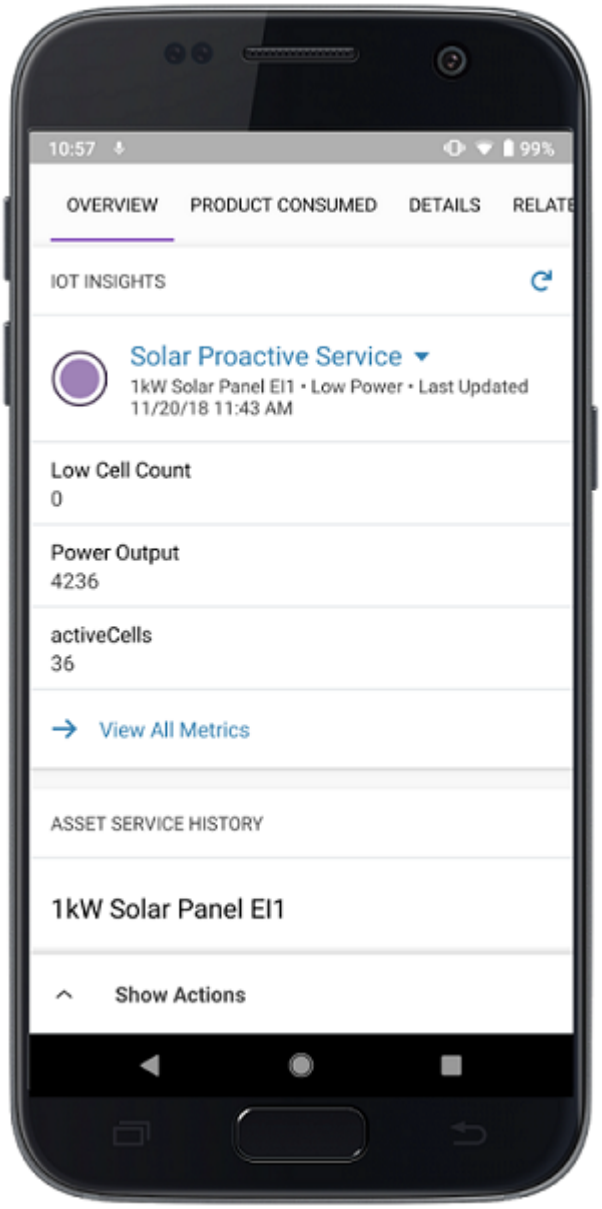
Field Service Lightning Mobile for Android での Salesforce IoT データの表示

Field Service Lightning for Android の IoT Insights を使用すると、派遣作業員は顧客の接続デバイスの貴重な IoT データにあらゆる場所からアクセスできるようになりました。

対象: Field Service Lightning for Android の Salesforce IoT Insights を使用して、顧客の接続デバイスの Salesforce IoT データを派遣作業員に表示できるようになりました。

対象ユーザ: 親レコードにアクセスできるユーザは Salesforce IoT Insights コンポーネントでデータを表示できます。Field Service Lightning ユーザライセンスを持ったユーザのみが Field Service Mobile の IoT Insights にアクセスできます。

理由: たとえば、顧客のデバイスの状況に関する診断データにアクセスできる場合、フィールドサービス技術者は現場にいる間に問題をすばやく分析し、解決できます。



方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*接続アプリケーション*」と入力し、[接続アプリケーションを管理する] を選択します。[Salesforce Field Service for Android] の横にある [編集] をクリックします。`ENABLED_IOT` が `[TRUE]` に設定されていることを確認するか、[編集] をクリックしてこの属性を `[TRUE]` に変更します。[保存] をクリックします。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用する、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでも、Lightning プラットフォームの次の機能強化は、別の組織に再販するための優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

メモ: このリリースで新規追加および変更されたオブジェクト、クラス、コンポーネントなどについてどこを調べればよいか疑問に思っていませんか?新規追加および変更された項目のリストは、リリースノートの「開発」セクションの最後に記載されています。知っておくべき変更は引き続きすべてカバーされています。新規追加および変更された項目の長いリストに中断されなくなり、新しい開発機能について確認しやすくなっています。ご意見をお寄せください。リリースノートのトピックのフィードバックフォームを使用するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: Lightning Web コンポーネントの概要

Lightning Web コンポーネントは、Web コンポーネント標準に構築される新しいプログラミングモデルです。Lightning Web コンポーネントにより、最新の JavaScript および Web 標準が Lightning コンポーネントフレームワークに提供され、開発者の生産性とパフォーマンスが向上します。また、Locker Service の名称が Lightning Locker に変わりました。

Visualforce: JavaScript でのトーストの表示、コンポーネントの互換性の改善、重要な更新の延期

新しい JavaScript 関数を使用して、トーストメッセージを表示します。カスタムオブジェクトを使用する場合の `<apex:detail>` および `<apex:enhancedList>` コンポーネントの互換性が改善しました。ビューステートサイズの上限が増加しました。URL からインスタンス名を削除する重要な更新は Winter '20 に延期されました。

Apex

`WITH SECURITY_ENFORCED` 句を使用して、`SOQL SELECT` クエリで項目およびオブジェクトレベルのセキュリティ権限を確認できるようになりました。新しい `OrgLimit` および `OrgLimits` Apex クラスには、SOAP API 要求、Bulk API 要求、ストリーミング API の制限など、すべての `OrgLimit` インスタンスのリストまたは対応付けを取得するメソッドが含まれます。新しい `System.SObject.isSet()` メソッドは、項目が照会されたか、Apex 割り当てによって設定されたかを確認します。新しい Apex の予期しない例外イベント種別が EventLogFile オブジェクトに追加されました。

API

Tooling API の FlexiPage オブジェクトでは、1 つの要求で同じ sObject 型に属する複数のレコードに対してアクションを実行できます。

カスタムメタデータ: カスタムメタデータ型を使用したデフォルト項目値の設定

デフォルト値でカスタムメタデータ型レコードを参照し、項目の更新を簡略化します。デフォルト項目値が変更された場合、複数の項目参照を更新する代わりに、カスタムメタデータ型で更新できます。

Salesforce CLI: プレリリースバージョン、Salesforce プラグインジェネレータ

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) は、Salesforce DX 開発モデルをサポートする機能やコマンドが追加され、進化し続けています。Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) を使用することで、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクル全体の制御が容易になります。

AppExchange パートナー (ISVforce): ビジネスプロセスのテンプレート、パッケージの無効なプロセスおよびフロー、Trialforce Web フォームのサポートの終了

パートナー向けのツールを使用して、AppExchange でアプリケーション、サービス、およびその他のソリューションを配布します。登録者が表示およびカスタマイズできるプロセスやフローを開発します。インストールしたプロセスまたはフローを有効化するかどうか、いつ有効化するのかを登録者が決定できるようにします。Trialforce Web フォームのサポートは 2019 年 3 月 1 日に終了しますが、SignupRequest API を使用すれば、見込み客のトライアル組織をプロビジョニングできます。

エンタープライズメッセージング:変更データキャプチャおよび大規模プラットフォームイベントの正式リリース

イベントを使用すると、ビジネスシステム間の通信が簡略化されます。変更データキャプチャおよび大規模プラットフォームイベントが正式リリースされました。

Sandbox: コピーの正式リリース、ユーザの新しいメールアドレス形式

Sandbox のコピーを使用してアプリケーション開発を改善します。また、Sandbox にコピーしたユーザのメールアドレスに新しい形式を導入します。

VS Code 向け Salesforce 拡張機能: Lightning Web コンポーネントのサポート、Apex のリファクタリング、予定されている Force.com IDE の廃止

毎週のリリースに加えられた変更のほかに、VS Code v45 向け Salesforce 拡張機能にはいくつかの重要な機能強化が含まれます。VS Code の Lightning Web コンポーネント拡張機能が Salesforce 拡張機能パックに含まれるようになりました。この拡張機能を使用して Lightning Web コンポーネントの開発を加速します。Apex 記号の名前が変更されます。2019 年 10 月の Force.com IDE の廃止に備えて今すぐ準備を開始してください。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

Lightning コンポーネント: Lightning Web コンポーネントの概要

Lightning Web コンポーネントは、Web コンポーネント標準に構築される新しいプログラミングモデルです。Lightning Web コンポーネントにより、最新の JavaScript および Web 標準が Lightning コンポーネントフレームワークに提供され、開発者の生産性とパフォーマンスが向上します。また、Locker Service の名称が Lightning Locker に変わりました。

詳細は、*『Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド)』* を参照してください。

メモ: 新規追加および変更された Lightning Web コンポーネント、Aura コンポーネント、Aura コンポーネントインターフェースを探していますか?「開発」セクションに記載されている新機能が参照しづらいというフィードバックが寄せられました。今回のリリースで、新規追加および変更された項目のリストが「開発」セクションの最後に統合されました。知っておくべき変更は引き続きすべてカバーされています。ご意見をお寄せください。リリースノートのトピックのフィードバックフォームを使用するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

このセクションの内容:

Lightning Web コンポーネント (正式リリース)

Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネント (元のモデル) の 2 つのプログラミングモデルを使用して、Lightning コンポーネントを作成できるようになりました。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントは 1 つのページで共存および相互運用できます。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザに表示されます。

Locker Service から Lightning Locker への名称変更

Lightning プラットフォームで実行されるコードを保護する目的であることがより適切に反映されるように、Locker Service の名前が Lightning Locker に変更されました。

Lightning Locker の変更

Lightning Locker では、新しい Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルがサポートされるようになり、Locker API Viewer が改善されて、多くのバグ修正とセキュリティ強化が図られています。

配列、設定、リスト属性の角括弧のないデフォルト値の廃止

角括弧のないデフォルト値の設定が廃止されるため、予期しない動作が発生する可能性があります。これらの属性型のデフォルト値を設定するには、`default="['red', 'green', 'blue']"` のようにカンマ区切り値を `[]` で囲みます。

保存されていない変更に関する通知の受信

`lightning:unsavedChanges` Aura コンポーネントを使用して、コンポーネントの保存されていない変更について UI に通知します。標準およびコンソールナビゲーションアプリケーションで `lightning:unsavedChanges` を使用できます。その後、コントローラを使用して変更を保存または破棄できます。

$ContentAsset グローバル値プロバイダを使用したアセットファイルの参照

`$ContentAsset` グローバル値プロバイダにより、Lightning コンポーネントのアセットファイルとして使用される画像、スタイルシート、JavaScript を参照できます。扱いにくいファイルパスや URL の代わりに名前を使用して、`$ContentAsset` アセットファイルを参照します。`$ContentAsset` では、すべてのアセットファイルの共有、バージョン設定、アクセス制御や、モバイルの最適化と画像ファイルのサイズ変更のオプションが提供されます。`$ContentAsset` は、Lightning コンポーネントのマークアップおよび JavaScript コントローラやヘルパーコード内で使用できます。

日時の新しい $Locale 属性

`$Locale` グローバル値プロバイダに、日時形式の新しい属性が追加されました。`$Locale` では、現在のユーザが選択しているロケールに関する情報が返されます。

コミュニティのパフォーマンスの改善

Akamai のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) がすべての新規および既存のコミュニティで有効化されるようになりました。CDN では、複数の地理的な場所でキャッシュバージョンが保存され、ページの読み込み時間が短縮されます。

Aura ページテンプレートコンポーネントへの領域の表示ラベルの追加

Lightning アプリケーションビルダーの新しいテンプレート切り替え機能の一部として、表示ラベルを Aura ページテンプレートコンポーネントの各領域に追加できるようになりました。ユーザが領域のコンテンツを新しいテンプレートに対応付けると、これらの表示ラベルは Lightning アプリケーションビルダーのテンプレート切り替えウィザードに表示されます。

変更される可能性がある DOM 検査テスト

Lightning Experience の HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする UI テストには、継続したメンテナンスが必要です。これは Spring '19 の変更ではありません。下位互換性のある HTML、CSS、および DOM が保証されていないためです。Lightning Experience は最新の Web 標準に合わせて進化し続けるため、このリリースでの変更によるこのテストの脆弱性を再度指摘しています。Salesforce は、顧客が自動 UI テストから得られる価値と、顧客にかかるメンテナンスの負荷を理解しています。

動的に作成されたコンポーネントでのスクリプトタグのブロック

`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` により動的に作成されたコンポーネントに `<script>` タグを追加できなくなりました。この制限はコンポーネントの新機能ではありませんが、動的に作成されたコンポーネントには適用されていませんでした。Spring '19 でこのセキュリティの脆弱性が閉じられます。

standard__webPage のページ参照データ型を使用した URL への移動

ナビゲーションサービスは `PageReference` オブジェクトを使用してページを記述します。`standard__webPage` の新しい `PageReference` 型では、未加工の URL がラップされるため、ユーザは外部 Web サイトに移動できます。

Lightning Data サービスで返される新しいエラー値

Lightning Data サービスは、サーバのリソース (レコード、オブジェクトなど) にアクセスできない場合にエラーを返します。新しいエラーオブジェクトには、レスポンスボディ、状況コード、メッセージが含まれます。

関連トピック:

- Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド)
- Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド)
- Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

Lightning Web コンポーネント (正式リリース)

Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネント (元のモデル) の 2 つのプログラミングモデルを使用して、Lightning コンポーネントを作成できるようになりました。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントは 1 つのページで共存および相互運用できます。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザに表示されます。

対象: この機能は、Lightning Experience、Lightning コミュニティ、およびすべてのエディションのモバイルアプリケーションの全バージョンで使用できます。Lightning Web コンポーネントを作成するには、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition を使用します。

理由: Lightning Web コンポーネントにより、最先端の JavaScript および Web 標準が Lightning コンポーネントフレームワークに提供されます。2014 年に Lightning コンポーネントフレームワークが導入されてから、Web スタックがアプリケーション開発プラットフォームへと進化し、フレームワークを必要とする多くの機能が標準になりました。この進化を利用するために、Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルが開発されました。Salesforce エンジニアは、TC39 (ECMAScript (JavaScript) を定義するコミュニティ) で先導的な役割に寄与しました。

Lightning Web コンポーネントは、コア Web コンポーネント標準を使用し、Salesforce でサポートされているすべてのブラウザで適切に動作するために必要な機能のみを提供します。Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルは、ブラウザでネイティブに実行されるコード上に構築されるため、軽量で卓越したパフォーマンスを発揮します。記述するコードの大部分は、標準の JavaScript および HTML です。

Lightning プラットフォームの開発を容易にするコンポーネント、ツール、サービス (Lightning 基本コンポーネント、Lightning Design System、Lightning アプリケーションビルダー、コミュニティビルダー、Lightning データサービス、Lightning Locker) を使用することもできます。

この Lightning Web コンポーネントは、6 行の JavaScript で作成された完全に編集可能なフォームです。



次にいくつかコードを見てみましょう。各 Lightning Web コンポーネントは、HTML テンプレートと JavaScript クラスで構成されています。このコンポーネントには、Lightning データサービス上に構築されるベース `<lightning-record-form>` コンポーネントが含まれます。コンポーネントの属性は、`object-api-name`、`record-id`、`fields` です。

```
<!-- recordFormDynamicContact.html -->

<template>

    <lightning-card title="RecordFormDynamicContact" icon-name="standard:contact">

        <div class="slds-m-around_medium">
            <lightning-record-form object-api-name={objectApiName}
                                   record-id={recordId}
                                   fields={fields}>
            </lightning-record-form>
        </div>

    </lightning-card>

</template>
```

コンポーネントの JavaScript クラスでは、`recordId`、`objectApiName`、`fields` プロパティが宣言されており、HTML テンプレートにバインドされています。

`@api` が表示されているプロパティは、公開されているリアクティブプロパティです。これらの値が変更されると、新しい値でコンポーネントが再表示されます。このコンポーネントは、このコンポーネントが含まれる Lightning レコードページからその公開プロパティの値を取得します。優れものですよね?

```
// recordFormDynamicContact.js

import { LightningElement, api } from 'lwc';
```

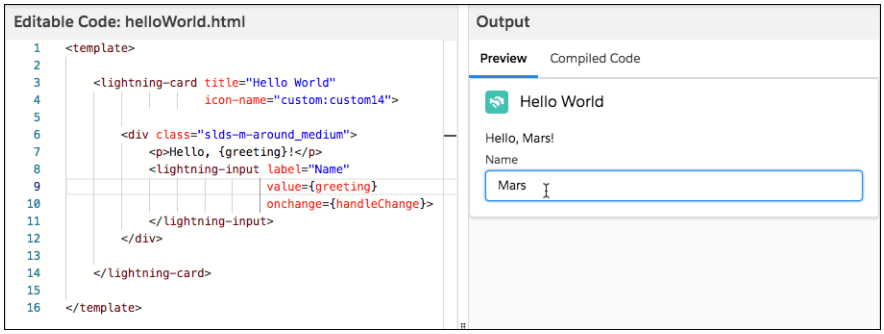
```
export default class RecordFormDynamicContact extends LightningElement {

    @api recordId;
    @api objectApiName;
    fields = ['Name', 'Title', 'Phone', 'Email'];

}
```

方法: Salesforce CLI を使用して、Salesforce とお気に入りのコードエディタ間で Lightning Web コンポーネントのソースコードを同期します。Salesforce 拡張機能パックには、Salesforce CLI コマンド、コード補完、リンティングが含まれており、コーディングの迅速化と円滑化を実現できるため、Visual Studio Code をお勧めします。

Playground (Salesforce の対話型コードエディタ) を試すこともできます。JavaScript、HTML、CSS コードを記述し、開発しながら出力をプレビューします。Playground アプリケーションを保存し、組織の他の開発者と共有します。



関連トピック:

- 新しい Lightning Web コンポーネント
- コンポーネントライブラリ
- クイックスタート: Lightning Web コンポーネント

Locker Service から Lightning Locker への名称変更

Lightning プラットフォームで実行されるコードを保護する目的であることがより適切に反映されるように、Locker Service の名前が Lightning Locker に変更されました。

Lightning Locker の変更

Lightning Locker では、新しい Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルがサポートされるようになり、Locker API Viewer が改善されて、多くのバグ修正とセキュリティ強化が図られています。

Lightning Locker アーキテクチャレイヤでは、個々の Lightning コンポーネントが各自のコンテナで分離され、安全なコーディングプラクティスが適用されるため、セキュリティが向上します。

Lightning Web コンポーネントのサポート

新しい Lightning Web コンポーネントは、Lightning Locker によって保護されます。

SVG ファイルのセキュリティの向上

Lightning Locker では SVG ファイルがサニタイズされ、潜在的に悪意のある JavaScript コードが削除されます。これにより、クロスサイトスクリプティング攻撃で SVG ファイルを使用できなくなります。

Locker API Viewer の変更

- Locker API Viewer では、ネイティブブラウザ API と Locker API の違いがより正確にレポートされます。API が存在していて Lightning Locker によって保護されていることを示すオレンジ色の強調表示が増えました。
- `documentation.auraframework.org` にあった元の Locker API Viewer は廃止されます。そのサイトは、現在の Locker API Viewer にリンクされるようになっています。

配列、設定、リスト属性の角括弧のないデフォルト値の廃止

角括弧のないデフォルト値の設定が廃止されるため、予期しない動作が発生する可能性があります。これらの属性型のデフォルト値を設定するには、`default="['red', 'green', 'blue']"` のようにカンマ区切り値を `[]` で囲みます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

方法: 配列、リスト、設定の属性の例を次に示します。

```
<aura:attribute name="colorArray" type="String[]" default="['red', 'green', 'blue']" />
<aura:attribute name="colorList" type="List" default="['red', 'green', 'blue']" />
<aura:attribute name="colorSet" type="Set" default="['red', 'green', 'blue']" />
```

保存されていない変更に関する通知の受信

`lightning:unsavedChanges` Aura コンポーネントを使用して、コンポーネントの保存されていない変更について UI に通知します。標準およびコンソールナビゲーションアプリケーションで `lightning:unsavedChanges` を使用できます。その後、コントローラを使用して変更を保存または破棄できます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

`$ContentAsset` グローバル値プロバイダを使用したアセットファイルの参照

`$ContentAsset` グローバル値プロバイダにより、Lightning コンポーネントのアセットファイルとして使用される画像、スタイルシート、JavaScript を参照できます。扱いにくいファイルパスや URL の代わりに名前を使用して、`$ContentAsset` アセットファイルを参照します。`$ContentAsset` では、すべてのアセットファイルの共有、バージョン設定、アクセス制御や、モバイルの最適化と画像ファイルのサイズ変更のオプションが提供されます。`$ContentAsset` は、Lightning コンポーネントのマークアップおよび JavaScript コントローラやヘルパーコード内で使用できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: コンポーネントのマークアップで特定のアセットファイルを参照するには、`$ContentAsset.yourNamespace__assetName` を使用します。名前空間が設定されていない組織では、`$ContentAsset.assetDeveloperName` を使用できます。認証されたセッションのアセットなのか、認証されていないセッションのアセットなのかに関係なくこの構文を使用します。アーカイブ内のコンテンツアセットを参照するには、`$ContentAsset.yourNamespace__assetName + 'pathinarchive=images/sampleImage.jpg'` のように `pathinarchive` をパラメータとして基本構文に追加します。

`<ltng:require>` タグを使用して、カスケードスタイルシートまたは JavaScript ライブラリをコンポーネントに含めます。

メモ: `$ContentAsset` グローバル値プロバイダでは、バージョンまたはスケールパラメータはサポートされていません。アセットファイルは最新バージョンのみが提供され、画像は元のサイズのみが返されます。

日時の新しい `$Locale` 属性

`$Locale` グローバル値プロバイダに、日時形式の新しい属性が追加されました。`$Locale` では、現在のユーザが選択しているロケールに関する情報が返されます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

方法: 新しい属性と英語 (米国) のサンプル出力を次に示します。

属性	説明	サンプル出力
`longDateFormat`	長い日付形式。	「MMMM d, yyyy」
`shortDateFormat`	短い日付形式。	「M/d/yyyy」
`shortDatetimeFormat`	短い日時形式。	「M/d/yyyy h:mm a」
`shortTimeFormat`	短い時間形式。	「h:mm a」

関連トピック:

Lightning Aura Components Developer Guide (Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド)

コミュニティのパフォーマンスの改善

Akamai のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) がすべての新規および既存のコミュニティで有効化されるようになりました。CDN では、複数の地理的な場所でキャッシュバージョンが保存され、ページの読み込み時間が短縮されます。

関連トピック:

コミュニティでのページの読み込み時間の短縮

Aura ページテンプレートコンポーネントへの領域の表示ラベルの追加

Lightning アプリケーションビルダーの新しいテンプレート切り替え機能の一部として、表示ラベルを Aura ページテンプレートコンポーネントの各領域に追加できるようになりました。ユーザが領域のコンテンツを新しいテンプレートに対応付けると、これらの表示ラベルは Lightning アプリケーションビルダーのテンプレート切り替えウィザードに表示されます。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントを使用する組織に適用されます。

方法: 次のように、コンポーネントのデザインファイルで `label` 属性を `flexipage:region` タグに追加します。

```
<design:component label="Two Region Custom App Page Template">
    <flexipage:template >
        <!-- The default width for the "left" region is "MEDIUM". In tablets,
        the width is "SMALL" -->
            <flexipage:region name="left" label="Left Region" defaultWidth="MEDIUM">
                <flexipage:formfactor type="MEDIUM" width="SMALL" />
            </flexipage:region>
            <flexipage:region name="right" label="Right Region" defaultWidth="SMALL" />
       </flexipage:template>
</design:component>
```

領域の表示ラベルは、次のいずれかのインターフェースを実装する Aura コンポーネントでのみサポートされます。

- `lightning:appHomeTemplate`
- `lightning:homeTemplate`
- `lightning:recordHomeTemplate`

関連トピック:

Lightning ページから別のテンプレートへの切り替え

変更される可能性がある DOM 検査テスト

Lightning Experience の HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする UI テストには、継続したメンテナンスが必要です。これは Spring '19 の変更ではありません。下位互換性のある HTML、CSS、および DOM が保証されていないためです。Lightning Experience は最新の Web 標準に合わせて進化し続けるため、このリリースでの変更によるこのテストの脆弱性を再度指摘しています。Salesforce は、顧客が自動 UI テストから得られる価値と、顧客にかかるメンテナンスの負荷を理解しています。

対象: このリリースノートは、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: Lightning Experience の一部では、Web コンポーネント標準に基づいている Lightning Web コンポーネントが使用されています。この標準には、コンポーネントのマークアップ、スタイル、動作を他のコンポーネントから見えないようにする Shadow DOM が含まれます。このカプセル化により、特に DOM をグローバル検索したり、カスタム要素の内部にアクセスしたりするテストの場合に UI テストが困難になります。

方法: Spring '19 では、要素の DOM サブツリーをカプセル化する `shadowRoot` プロパティを導入するための大幅な変更が行われました。この `shadowRoot` は、DOM で `DocumentFragment` として表され、この DOM サブツリー内の要素は従来の DOM クエリ方法では使用できません。Lightning Web コンポーネントで表示される要素には、この新しい `shadowRoot` プロパティが含まれます。また、この要素は通常の DOM クエリでは非表示になっています。

個別の Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントのテストでは単体テストツールを使用し、エンドツーエンドのテストでのみ、UI テストツールを使用することをおすすめします。

Aura コンポーネントの場合は、Lightning Testing Service を使用して、コンポーネントが期待どおりに動作することを確認する単体テストを記述します。Lightning Testing Service では、標準の JavaScript テストフレームワークを使用したテストがサポートされます。Jasmine および Mocha 用の使いやすいラッパーが用意されています。

Lightning Web コンポーネントの場合は、lwc-jest を使用して単体テストを記述します。

エンドツーエンドの UI テストの場合は、Shadow DOM 用に既存のテストを調整する必要があります。この方法はツールごとに異なり、急速に進化しています。現時点では、Selenium WebDriver の適切な例としてこの記事を参照することをお勧めします。

動的に作成されたコンポーネントでのスクリプトタグのブロック

`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` により動的に作成されたコンポーネントに `<script>` タグを追加できなくなりました。この制限はコンポーネントの新機能ではありませんが、動的に作成されたコンポーネントには適用されていませんでした。Spring '19 でこのセキュリティの脆弱性が閉じられます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

方法: JavaScript ライブラリを参照するには、そのライブラリを静的リソースとしてアップロードし、`.cmp` または `.app` マークアップ内で `<ltng:require>` タグを使用して参照する必要があります。

アプリケーションのテンプレート (`aura:template` を拡張する特別な種類のコンポーネント) には、引き続き `<script>` タグを追加できます。

standard__webPage のページ参照データ型を使用した URL への移動

ナビゲーションサービスは `PageReference` オブジェクトを使用してページを記述します。`standard__webPage` の新しい `PageReference` 型では、未加工の URL がラップされるため、ユーザは外部 Web サイトに移動できます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Lightning コミュニティ、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

`standard__webPage` 型が `force:navigateToURL` イベントに置き換わります。Spring '19 の『Lightning コンポーネント開発者ガイド』の「pageReference の型」を参照してください。

Lightning Data サービスで返される新しいエラー値

Lightning Data サービスは、サーバのリソース (レコード、オブジェクトなど) にアクセスできない場合にエラーを返します。新しいエラーオブジェクトには、レスポンスボディ、状況コード、メッセージが含まれます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Lightning コミュニティ、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションで Lightning Web コンポーネントを使用する組織に適用されます。Lightning Web コンポーネントを作成するには、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition を使用します。

理由: UI API と他の Salesforce API をサポートするように新しいエラーオブジェクト (取得 API の応答オブジェクトの後にモデル化される) の形式が簡素化されています。

方法: 以前は、`error.message` と次のようなエラーオブジェクトを使用して、エラーメッセージを取得していました。

```
//Before Spring '19
{
    type: enum<string>;
    message: string;
    details: object;
}
```

エラーメッセージを返す API に応じて `error.body.message` または `error.body[].message` を使用して、エラーメッセージを取得するようになりました。エラーオブジェクトは次のように変更されました。

```
//After Spring '19
{
    body: object|array;
    ok: boolean;
    status: number;
    statusText: string
}
```

- `body` (object|array) — 基になる API により定義されたレスポンスボディ。
- `ok` (boolean) — 応答が成功であったかどうかを示します。`ok` は常に `false` に設定されます。
- `status` (number) — 応答の状況コードが含まれます。たとえば、リソースが見つからない場合は 404、内部サーバエラーでは 500 が含まれます。
- `statusText` (string) — 状況コードに対応する状況メッセージが含まれます。たとえば、状況コード 404 では `Not Found` が含まれます。

エラーのレスポンスボディは、そのエラーを返す API によって異なります。

- `getRecord` ワイヤアダプタなどの UI API 読み取り操作では、`error.body` はオブジェクトの配列として返されます。
- `createRecord` ワイヤアダプタなどの UI API 書き込み操作では、`error.body` はオブジェクトとして返され、多くの場合、オブジェクトレベルおよび項目レベルのエラーを伴います。
- Apex の読み取りおよび書き込み操作では、`error.body` はオブジェクトとして返されます。
- オフラインエラーなどのネットワークエラーでは、`error.body` はオブジェクトとして返されます。

Visualforce: JavaScript でのトーストの表示、コンポーネントの互換性の改善、重要な更新の延期

新しい JavaScript 関数を使用して、トーストメッセージを表示します。カスタムオブジェクトを使用する場合の `<apex:detail>` および `<apex:enhancedList>` コンポーネントの互換性が改善しました。ビューステートサイズの上限が増加しました。URL からインスタンス名を削除する重要な更新は Winter '20 に延期されました。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、*『Visualforce 開発者ガイド』*を参照してください。

このセクションの内容:

新しい New JavaScript 関数を使用したトーストの表示

`sforce.one.showToast()` 関数を使用して、トーストを表示します。トーストはビューの上部にあるヘッダーの下にメッセージを表示します。

Visualforce ページの外部 iframe をクリックジャック保護で許可

クリックジャック保護を有効にしたまま、iframe を使用して外部 Web ページに Visualforce ページを含めます。信頼する外部ドメインをホワイトリストに登録し、Visualforce コンテンツを Salesforce ドメインの外部に持ち出します。以前は、オールオアナッシング、つまり、Visualforce ページの iframe をすべての外部ドメインで許可するか許可しないかのどちらかでした。

<apex:detail> コンポーネントと <apex:enhancedList> コンポーネントの区別

カスタムオブジェクトの標準コントローラを使用する Visualforce ページで `<apex:detail>` コンポーネントと `<apex:enhancedList>` コンポーネントが連携するようになりました。以前は、これらのコンポーネントをカスタムオブジェクトと共に使用すると、これらのコンポーネントが競合していました。

ビューステートの制限の緩和によるより複雑な Visualforce ページの作成

ビューステートサイズの上限が 135KB から 170KB に増加しました。増加した上限を超えない限り、より複雑な Visualforce ページの作成および読み込みができるようになりました。ビューステートは、コンポーネント、コントローラ、項目値の状態を記録する非表示のフォームです。ビューステートが大きくなると、処理時間が長くなります。

重要な更新「Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」の延期

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '20 に延期されました。

空白ページの問題の修正にはテスト更新が必要

Lightning Experience の Visualforce ページで発生する空白ページの問題の解決策が導入されました。この解決策を適用すると、Visualforce ページが埋め込まれた Lightning Experience ページを対象とする UI テストオートメーションが壊れる可能性があります。Lightning Experience の HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする UI テストには、継続したメンテナンスが必要です。これは Spring '19 の変更ではありません。下位互換性のある HTML、CSS、および DOM が保証されていないためです。Lightning Experience は最新の Web 標準に合わせて進化し続けるため、このリリースでの変更によるこのテストの脆弱性を再度指摘しています。Salesforce は、顧客が自動 UI テストから得られる価値と、顧客にかかるメンテナンスの負荷を理解しています。

新しい New JavaScript 関数を使用したトーストの表示

`sforce.one.showToast()` 関数を使用して、トーストを表示します。トーストはビューの上部にあるヘッダーの下にメッセージを表示します。

対象: この変更は、Lightning Experience、Lightning コミュニティ、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。この関数は、API バージョン 45.0 に設定された Visualforce ページで使用できます。

方法: 関数の構文を次に示します。

```
sforce.one.showToast({toastParams})
```

`toastParams` オブジェクトでは、トーストのタイトルやメッセージなど、トーストの属性を設定します。`force:showToast` Aura イベントで使用できる任意の属性を使用します。

`sforce.one.showToast` 関数は `force:showToast` Aura イベントのラッパーです。すべての使用可能な属性の詳細は、「コンポーネントライブラリ」の `force:showToast` を参照してください。

例: `sforce.one.showToast` を使用して、Visualforce ページにトーストを表示します。

```
sforce.one.showToast({
    "title": "Success!",
    "message": "The record was updated successfully."
});
```

Visualforce ページの外部 iframe をクリックジャック保護で許可

クリックジャック保護を有効にしたまま、iframe を使用して外部 Web ページに Visualforce ページを含めます。信頼する外部ドメインをホワイトリストに登録し、Visualforce コンテンツを Salesforce ドメインの外部に持ち出します。以前は、オールオアナッシング、つまり、Visualforce ページの iframe をすべての外部ドメインで許可するか許可しないかのどちらかでした。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: [設定] で、「*セッション設定*」を検索します。[クリックジャック保護] で、[ヘッダーが無効化された **Visualforce** ページのクリックジャック保護を有効化] または [標準ヘッダーがある **Visualforce** ページのクリックジャック保護を有効化] を選択します。この両方のオプションで、ホワイトリストに登録された外部ドメインでのフレーム化が許可され、クリックジャック保護が提供されます。

次に、[Visualforce インラインフレームのホワイトリストのドメイン] で、フレーム化を許可する信頼できる外部ドメインを追加します。

関連トピック:

Visualforce 開発者ガイド: 外部ドメインへの Visualforce ページの配置 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

<apex:detail> コンポーネントと <apex:enhancedList> コンポーネントの区別

カスタムオブジェクトの標準コントローラを使用する Visualforce ページで <apex:detail> コンポーネントと <apex:enhancedList> コンポーネントが連携するようになりました。以前は、これらのコンポーネントをカスタムオブジェクトと共に使用すると、これらのコンポーネントが競合していました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

ビューステートの制限の緩和によるより複雑な Visualforce ページの作成

ビューステートサイズの上限が 135KB から 170KB に増加しました。増加した上限を超えない限り、より複雑な Visualforce ページの作成および読み込みができるようになりました。ビューステートは、コンポーネント、コントローラ、項目値の状態を記録する非表示のフォームです。ビューステートが大きくなると、処理時間が長くなります。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

Visualforce 開発者ガイド: Visualforce のパフォーマンスのベストプラクティス

重要な更新「Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」の延期

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '20 に延期されました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

空白ページの問題の修正にはテスト更新が必要

Lightning Experience の Visualforce ページで発生する空白ページの問題の解決策が導入されました。この解決策を適用すると、Visualforce ページが埋め込まれた Lightning Experience ページを対象とする UI テストオートメーションが壊れる可能性があります。Lightning Experience の HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする UI テストには、継続したメンテナンスが必要です。これは Spring '19 の変更ではありません。下位互換性のある HTML、CSS、および DOM が保証されていないためです。Lightning Experience は最新の Web 標準に合わせて進化し続けるため、このリリースでの変更によるこのテストの脆弱性を再度指摘しています。Salesforce は、顧客が自動 UI テストから得られる価値と、顧客にかかるメンテナンスの負荷を理解しています。

対象: このリリースノートは Lightning Experience に適用されます。

方法: Visualforce 埋め込みページに、[キャンセル] ボタンや `<apex:commandButton>` など、ページナビゲーションをトリガする `<apex:form>` が含まれる場合、[キャンセル] をクリックするか、ページナビゲーションがトリガされた後に空白ページが表示されていました。

UI オートメーションテストに合格するには、API として DOM 構造に依存するのではなく、この Selenium WebDriver の例のようなメソッドを呼び出すようにテストコードを更新します。操作によって Visualforce ページから POST がトリガされるたびに、有効な Visualforce iFrame に切り替わります。

```
public void switchToNewActiveVFIframe() {
   driver.switchTo().defaultContent();
   WebElement newActiveIframe = wdUtil.waitForElementVisible("Can't find the new active
VF iframe", By.cssSelector("iframe[name^=vfFrameId]"), 10000);
   driver.switchTo().frame(newActiveIframe);
}
```

詳細は、「変更される可能性がある DOM 検査テスト」を参照してください。

Apex

`WITH SECURITY_ENFORCED` 句を使用して、`SOQL SELECT` クエリで項目およびオブジェクトレベルのセキュリティ権限を確認できるようになりました。新しい `OrgLimit` および `OrgLimits` Apex クラスには、SOAP API 要求、Bulk API 要求、ストリーミング API の制限など、すべての `OrgLimit` インスタンスのリストまたは対応付けを取得するメソッドが含まれます。新しい `System.SObject.isSet()` メソッドは、項目が照会されたか、Apex 割り当てによって設定されたかを確認します。新しい Apex の予期しない例外イベント種別が EventLogFile オブジェクトに追加されました。

これらの機能強化についての詳細は *『Apex 開発者ガイド』* を参照してください。

メモ: Apex と ConnectAPI (Chatter in Apex) の新規および変更されたクラス、インターフェース、Enum をお探しですか?「開発」セクションに記載されている新機能が参照しづらいというフィードバックが寄せられました。今回のリリースで、新規追加および変更された項目のリストが「開発」セクションの最後に統合されました。知っておくべき変更は引き続きすべてカバーされています。ご意見をお寄せください。リリースノートのトピックのフィードバックフォームを使用するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

このセクションの内容:

SOQL クエリの項目レベルセキュリティ権限の適用 (ベータ)

`WITH SECURITY_ENFORCED` 句を使用して、`SOQL SELECT` クエリ (サブクエリとクロスオブジェクトリレーションを含む) の項目およびオブジェクトレベルセキュリティ権限を確認できます。前のリリースでもこの確認の実行は可能でしたが、この句はクエリ操作の冗長性と技術的な複雑性を大幅に削減します。この機能は、セキュリティを含む開発経験が少ない Apex 開発者と、権限エラーのグレースフルデグラデーションが不要なアプリケーション向けです。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Summer '19 に延期されました。この重要な更新によって、組織スキーマの詳細の改善されたキャッシュを有効にし、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

関連トピック:

Apex: 新規および変更された項目

SOQL クエリの項目レベルセキュリティ権限の適用 (ベータ)

`WITH SECURITY_ENFORCED` 句を使用して、`SOQL SELECT` クエリ (サブクエリとクロスオブジェクトリレーションを含む) の項目およびオブジェクトレベルセキュリティ権限を確認できます。前のリリースでもこの確認の実行は可能でしたが、この句はクエリ操作の冗長性と技術的な複雑性を大幅に削減します。この機能は、セキュリティを含む開発経験が少ない Apex 開発者と、権限エラーのグレースフルデグラデーションが不要なアプリケーション向けです。

メモ: ベータ機能である `SELECT WITH SECURITY_ENFORCED` はプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は現状のまま提供され、サポートの対象外です。この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: `SELECT` 句で `WITH SECURITY_ENFORCED` を使用して参照されている項目またはオブジェクトへのアクセス権限がユーザにない場合、例外が発生し、データは返されません。

メモ: `WITH SECURITY_ENFORCED` 句は Apex でのみ使用できます。45.0 より前の API バージョンの Apex クラスまたはトリガで `WITH SECURITY_ENFORCED` を使用することはお勧めしません。

例: `LastName` または `Description` 項目いずれかの項目レベルセキュリティが非表示の場合、次のクエリでは権限が不十分であることを示す例外が発生します。

```
SELECT Id, (SELECT LastName FROM Contacts),
   (SELECT Description FROM Opportunities)
   FROM Account WITH SECURITY_ENFORCED
```

例: `Website` の項目レベルセキュリティが非表示の場合、次のクエリでは権限が不十分であることを示す例外が発生します。

```
SELECT Id, Parent.Name, Parent.Website FROM Account WITH SECURITY_ENFORCED
```

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Summer '19 に延期されました。この重要な更新によって、組織スキーマの詳細の改善されたキャッシュを有効にし、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: この重要な更新は、標準オブジェクト、カスタムオブジェクト、およびそれらの項目を含む組織スキーマを定義してキャッシュする内部システムを改善することで、既知のバグを修正します。ドキュメントに記載された組織のスキーマの動作に変更はありません。この更新では、ドキュメントが既知の動作と一致しないバグが修正されます。また、ドキュメントに記載されていないオブジェクト種別が Apex の Describe Result メソッドに表示されたり、バージョン固有のスキーマの詳細が不適切に再利用されるという、まれに発生する断続的な問題も解決されます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。この更新についての詳細を確認するには、[確認] をクリックします。この更新を有効化するには、[有効化] をクリックします。

API

Tooling API の FlexiPage オブジェクトでは、1 つの要求で同じ sObject 型に属する複数のレコードに対してアクションを実行できます。

メモ: 新規追加および変更された API オブジェクト、型、REST リソースをお探しですか?「開発」セクションに記載されている新機能が参照しづらいというフィードバックが寄せられました。今回のリリースで、新規追加および変更された項目のリストが「開発」セクションの最後に統合されました。知っておくべき変更は引き続きすべてカバーされています。ご意見をお寄せください。リリースノートのトピックのフィードバックフォームを使用するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

このセクションの内容:

呼び出し可能アクション
呼び出し可能アクションとは、API を使用して Salesforce で実行できるアクションのことです。

sObject コレクションを使用した FlexiPage オブジェクトの往復回数の減少
Tooling API を使用して、1 つの要求で FlexiPage オブジェクトに属する複数のレコードに対してアクションを実行できるようになりました。操作をオブジェクト種別ごとにグループ化することで、クライアントとサーバ間の往復回数が減少します。sObject コレクションは XML および JSON 形式をサポートします。FlexiPage オブジェクトのみがサポートされています。

関連トピック:

API: 新規および変更された項目

呼び出し可能アクション

呼び出し可能アクションとは、API を使用して Salesforce で実行できるアクションのことです。

呼び出し可能アクションは、REST API を介して使用できます。次のアクションが追加されました。

assignTargetToSalesCadence
セールスケイデンスにリードまたは取引先責任者レコードを追加します。このアクションには次の項目が必要です。

- `salesCadenceNameOrId` — セールスケイデンスの名前または ID。
- `targetId` — リードまたは取引先責任者の ID。

removeTargetFromSalesCadence
指定されたセールスケイデンスから指定されたリードまたは取引先責任者レコードを削除します。このアクションには次の項目が必要です。

- `targetId` — リードまたは取引先責任者の ID。
- `completionReasonCode` — リードまたは取引先責任者が削除された理由。この項目で有効な値は `ManuallyRemoved` のみです。

呼び出し可能アクションについての詳細は、*『Actions Developer's Guide (アクション開発者ガイド)』* を参照してください。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

sObject コレクションを使用した FlexiPage オブジェクトの往復回数の減少

Tooling API を使用して、1 つの要求で FlexiPage オブジェクトに属する複数のレコードに対してアクションを実行できるようになりました。操作をオブジェクト種別ごとにグループ化することで、クライアントとサーバ間の往復回数が減少します。sObject コレクションは XML および JSON 形式をサポートします。FlexiPage オブジェクトのみがサポートされています。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: POST 要求を使用して最大 200 個のレコードを追加するか、PATCH 要求を使用して最大 200 個のレコードを更新します。この操作を行うと、SaveResult オブジェクトのリストが返されます。

```
/vXX.X/tooling/composite/sobjects
```

GET 要求で ID を指定して、同じオブジェクト種別の 1 つ以上のレコードを取得します。

```
/vXX.X/tooling/composite/sobjects/sobjectType?ids=recordId1,recordId2&fields=fieldname1,fieldname2
```

DELETE 要求で ID を指定して、最大 200 個のレコードを削除します。この操作を行うと、DeleteResult オブジェクトが返されます。

```
/vXX.X/tooling/composite/sobjects/?ids=recordId1,recordId2
```

詳細は、*『Tooling API Reference and Developer Guide (Tooling API リファレンスおよび開発者ガイド)』* を参照してください。

メモ: sObject コレクションでのサポートを希望する Tooling API オブジェクトについて、IdeaExchange でお知らせください。

関連トピック:

Success コミュニティの IdeaExchange

カスタムメタデータ: カスタムメタデータ型を使用したデフォルト項目値の設定

デフォルト値でカスタムメタデータ型レコードを参照し、項目の更新を簡略化します。デフォルト項目値が変更された場合、複数の項目参照を更新する代わりに、カスタムメタデータ型で更新できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Professional Edition 組織では、カスタムメタデータレコードのみをインストール済みパッケージの型から作成、編集、および削除できます。

理由: あなたの組織は異なる割引率を商談に適用しているとします。

1. カスタムメタデータ型を作成します。この例では、DiscountPercent という名前を付けます。
2. 使用する型のカスタム項目を作成し、discount (割引) という名前を付けます。
3. レコードを作成し、IT (情報技術) という名前を付けます。
4. 商談オブジェクトにカスタム項目を作成し、Discount Rate (割引率) という名前を付けます。

メモ: 数式エディタには、カスタムメタデータ項目のデータ型は含まれません。カスタムメタデータ項目値を手動で参照します。選択リストの `TEXT()` 関数はサポートされていません。

完了したら、デフォルト値としてカスタムメタデータ項目値を参照し、[Discount Rate (割引率)] 項目を入力できます。構文は次のとおりです。

```
$CustomMetadata.CustomMetadataTypeAPIName.RecordAPIName.FieldAPIName
```

正しいサフィックスを使用してください。カスタムメタデータ型には、`__mdt` を使用します。項目には、`__c` を使用します。レコードにはサフィックスは必要ありません。この例は次のようになります。

```
$CustomMetadata.DiscountPercent__mdt.IT.discount__c
```

最大割引金額が変更されたら、1 か所で更新できます。

ヒント: 項目設定を参照のみにしない場合、ユーザはデフォルト値を上書きできます。

Salesforce CLI: プレリリースバージョン、Salesforce プラグインジェネレータ

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) は、Salesforce DX 開発モデルをサポートする機能やコマンドが追加され、進化し続けています。Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) を使用することで、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクル全体の制御が容易になります。

Salesforce CLI の変更は定期的にリリースされます。コア CLI プラグインの v44 の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。プレリリースバージョンの詳細は、Salesforce CLI コマンドリファレンスの v45 を参照してください。

メモ: 新規または変更された Salesforce CLI コマンドをお探しですか? 「開発」セクションに記載されている新機能が参照しづらいというフィードバックが寄せられました。今回のリリースで、新規追加および変更された項目のリストが「開発」セクションの最後に統合されました。知っておくべき変更は引き続きすべてカバーされています。ご意見をお寄せください。リリースノートのトピックのフィードバックフォームを使用するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

このセクションの内容:

Salesforce CLI での Lightning Web コンポーネントの拡張機能の活用
Salesforce CLI のプレリリースバージョンを使用して Lightning Web コンポーネントを作成します。

オープンソースツールを使用した独自の Salesforce CLI プラグインの作成
プラグインは Salesforce CLI に機能を追加します。顧客とパートナーの一般的なニーズを満たすためのコマンドと機能を提供する CLI をインストールする場合は、Salesforce にいくつかのプラグインがあります。Salesforce や Salesforce 以外で作成された他のプラグインをインストールすることもできます。ただし、既存のプラグインでは満たされない要件がある場合は、Salesforce プラグインジェネレータで Node.js を使用して独自のプラグインを容易に作成できます。Salesforce プラグインジェネレータと CLI `@salesforce/core` および `@salesforce/command` ライブラリはオープンソースです。

関連トピック:

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド

Salesforce CLI での Lightning Web コンポーネントの拡張機能の活用

Salesforce CLI のプレリリースバージョンを使用して Lightning Web コンポーネントを作成します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: `salesforcedx` 集計プラグインの v45 は 2019 年 2 月 9 日にリリースされます。v45 のプレリリースバージョンを利用できるようになりました。

CLI のプレリリースバージョンのインストール

`salesforcedx` v45 で利用できる新しいコマンドとパラメータを使用するには、プレリリースバージョンをインストールします。

メモ: Lightning Web コンポーネントを試す場合は、プレリリースバージョンをインストールします。インストールしない場合も、ほとんどの新機能は Salesforce CLI の毎週のリリースに追加されているため、それらをすでに使用できます。

```
sfdx plugins:install salesforcedx@pre-release
```

プレリリースバージョンがあることを確認します。

```
sfdx plugins --core
salesforcedx 45.0.1-xx
```

2019 年 2 月に v45 が正式にリリースされたら、プレリリースバージョンをアンインストールして `update` コマンドを実行してください。

```
sfdx plugins:uninstall salesforcedx
```

```
sfdx update
```

関連トピック:

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド

オープンソースツールを使用した独自の Salesforce CLI プラグインの作成

プラグインは Salesforce CLI に機能を追加します。顧客とパートナーの一般的なニーズを満たすためのコマンドと機能を提供する CLI をインストールする場合は、Salesforce にいくつかのプラグインがあります。Salesforce や Salesforce 以外で作成された他のプラグインをインストールすることもできます。ただし、既存のプラグインでは満たされない要件がある場合は、Salesforce プラグインジェネレータで Node.js を使用して独自のプラグインを容易に作成できます。Salesforce プラグインジェネレータと CLI `@salesforce/core` および `@salesforce/command` ライブラリはオープンソースです。

対象: この機能は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: Salesforce プラグインジェネレータへの変更は定期的にリリースされています。毎週のリリースについての詳細は、変更ログを参照してください。

方法: Salesforce プラグインジェネレータを使用して独自のプラグインを作成する方法についての詳細は、*『Salesforce CLI プラグイン開発者ガイド』* を参照してください。プラグインジェネレータのオープンソースリポジトリやその連動関係など、役に立つリソースについては、このガイドの「Salesforce CLI プラグイン開発のリソース」を参照してください。

AppExchange パートナー (ISVforce): ビジネスプロセスのテンプレート、パッケージの無効なプロセスおよびフロー、Trialforce Web フォームのサポートの終了

パートナー向けのツールを使用して、AppExchange でアプリケーション、サービス、およびその他のソリューションを配布します。登録者が表示およびカスタマイズできるプロセスやフローを開発します。インストールしたプロセスまたはフローを有効化するかどうか、いつ有効化するのかを登録者が決定できるようにします。Trialforce Web フォームのサポートは 2019 年 3 月 1 日に終了しますが、SignupRequest API を使用すれば、見込み客のトライアル組織をプロビジョニングできます。

このセクションの内容:

登録者が開いたり、作成元として使用したりできる事前作成済みのビジネスプロセスのパッケージ化
登録者が表示やコピーを行うことができるプロセスおよびフローテンプレートを作成します。これらは、パッケージアップグレードで管理できます。管理パッケージからインストールされた場合、知的財産 (IP) の保護により、登録者はプロセスとフローの参照やコピーを行うことができません。ただし、プロセスやフローがテンプレートの場合、登録者はそれをビルダーで開いたり、コピーしたり、カスタマイズしたりできます。登録者のコピーに影響を与えることなく、必要に応じてテンプレートをアップグレードできます。

無効なプロセスおよびフローのパッケージ化
登録者が有効なプロセスまたはフローが含まれるパッケージをインストールすると、そのプロセスまたはフローは有効なままになります。ただし、有効な各プロセスまたはフローを有効化するかどうか、いつ有効化するのかを登録者が決定したい場合もあります。たとえば、登録者の多くは、インストール時にレコード変更プロセステンプレートを有効にしたくないと考えています。無効なプロセスおよびフローをパッケージ化して、登録者の都合の良いときに有効化できるようになりました。

Trialforce Web フォームのサポートの終了
2019 年 3 月 1 日に Trialforce Web フォームのサポートが終了します。Trialforce Web フォームを使用したトライアル組織のプロビジョニングは、2009 年に導入されたシンプルなソリューションでしたが、老朽化してきました。Web フォームでは、プロビジョニング要求の成功または失敗に関するフィードバックが提供されず、見込み客から追加情報を収集できません。しかし、SignupRequest API を使用すれば、プログラムでトライアル組織をプロビジョニングしたり、ビジネス組織のすべてのサインアップについての詳細な情報を収集して分析したりできます。

登録者が開いたり、作成元として使用したりできる事前作成済みのビジネスプロセスのパッケージ化

登録者が表示やコピーを行うことができるプロセスおよびフローテンプレートを作成します。これらは、パッケージアップグレードで管理できます。管理パッケージからインストールされた場合、知的財産 (IP) の保護により、登録者はプロセスとフローの参照やコピーを行うことができません。ただし、プロセスやフローがテンプレートの場合、登録者はそれをビルダーで開いたり、コピーしたり、カスタマイズしたりできます。登録者のコピーに影響を与えることなく、必要に応じてテンプレートをアップグレードできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 保険会社のプロセスおよびフローを作成してパッケージ化するとします。保険の法律や規制は変更される可能性があり、場所によって異なるため、登録者は必要に応じて事前作成済みのビジネスプロセスを変更したいと考えています。

方法: プロセスをテンプレートにするには、プロセスビルダーで開いて [プロパティを編集] をクリックします。[テンプレート] で [はい] を選択します。

フローをテンプレートにするには、[設定] のフローリストページに移動します。フローを見つけて [編集] をクリックし、[テンプレート] を選択します。

登録者がインストール時にプロセスを有効にすることが確実な場合以外は、無効なプロセステンプレートのみをパッケージ化することをお勧めします。

開発者のための関連更新

メタデータ API

Flow メタデータ型に `isTemplate` 項目が追加されました。

Tooling API

Flow オブジェクトに `IsTemplate` 項目が追加されました。

関連トピック:

無効なプロセスおよびフローのパッケージ化

無効なプロセスおよびフローのパッケージ化

登録者が有効なプロセスまたはフローが含まれるパッケージをインストールすると、そのプロセスまたはフローは有効なままになります。ただし、有効な各プロセスまたはフローを有効化するかどうか、いつ有効化するのかを登録者が決定したい場合もあります。たとえば、登録者の多くは、インストール時にレコード変更プロセステンプレートを有効にしたくないと考えています。無効なプロセスおよびフローをパッケージ化して、登録者の都合の良いときに有効化できるようになりました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 登録者がそのまま使用せずにコピーしてカスタマイズする可能性の高いプロセステンプレートを作成するとします。そのようなテンプレートは、パッケージで無効なままにすることをお勧めします。

方法: プロセスまたはフローが含まれるパッケージをアップロードすると、プロセスまたはフローの有効なバージョンが登録者に配布されます。プロセスまたはフローに有効なバージョンがない場合は、最新バージョンが登録者に配布されます。

関連トピック:

登録者が開いたり、作成元として使用したりできる事前作成済みのビジネスプロセスのパッケージ化

Trialforce Web フォームのサポートの終了

2019 年 3 月 1 日に Trialforce Web フォームのサポートが終了します。Trialforce Web フォームを使用したトライアル組織のプロビジョニングは、2009年に導入されたシンプルなソリューションでしたが、老朽化してきました。Web フォームでは、プロビジョニング要求の成功または失敗に関するフィードバックが提供されず、見込み客から追加情報を収集できません。しかし、SignupRequest API を使用すれば、プログラムでトライアル組織をプロビジョニングしたり、ビジネス組織のすべてのサインアップについての詳細な情報を収集して分析したりできます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

時期: 2019 年 3 月 1 日以降も、顧客が既存の Web フォームを使用してトライアル組織を要求することはできますが、Salesforce に新しい Web フォームを要求したり、既存のフォームを編集したりすることはできなくなります。

関連トピック:

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: SignupRequest (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

エンタープライズメッセージング:変更データキャプチャおよび大規模プラットフォームイベントの正式リリース

イベントを使用すると、ビジネスシステム間の通信が簡略化されます。変更データキャプチャおよび大規模プラットフォームイベントが正式リリースされました。

このセクションの内容:

変更データキャプチャを使用した外部データの最新の状態の維持 (正式リリース)

Salesforce レコードのほぼリアルタイムの変更を取得し、外部データストアの対応するレコードを同期します。変更データキャプチャは、Salesforce レコードの変更を表す変更イベントを公開します。変更には、レコードの作成、レコードの更新、レコードの削除、レコードの復元が含まれます。変更データキャプチャは、前回のリリースで開発者プレビューとパイロットして提供され、このリリースで機能が強化されました。

大規模プラットフォームイベントによるイベントベースのアプリケーションの拡張 (正式リリース)

大規模プラットフォームイベントを使用して、数百万件のイベントを効率的に公開および処理します。リアルタイムに通知を受信したり、イベント駆動型プログラミングモデルを使用してプロセスを自動化したり、アプリケーションを外部ビジネスプロセスと統合したりします。大規模プラットフォームイベントでは、標準量イベントよりも適切にアプリケーションが拡張し、最大 3 日間保持されるイベントメッセージを取得できます。大規模プラットフォームイベントが新しいイベント定義のデフォルトのイベント種別になりました。

標準量プラットフォームイベントの利用状況の監視

以前に定義した標準量イベントで、CometD クライアントへのイベント配信の利用状況を検査して、制限に達することを回避できるようになりました。`limits` REST API リソースの `DailyStandardVolumePlatformEvents` 応答値を使用して、24 時間の利用状況を監視します。

イベント公開の失敗の新しい状況コード

公開サービスが使用できなくなっているか、制限を超えていることが原因でイベントメッセージの公開に失敗すると、エラーと状況コードが含まれる SaveResult が返されます。

プロセスおよびフローでの標準プラットフォームイベントの登録

標準プラットフォームイベントメッセージの受信時にプロセスの開始やフローの再開ができるようになりました。Apex 一括処理プラットフォームイベント (`BatchApexErrorEvent`) とプラットフォーム状況アラートイベント (`PlatformStatusAlertEvent`) の標準プラットフォームイベントがプロセスおよびフローでサポートされるようになりました。

変更データキャプチャを使用した外部データの最新の状態の維持 (正式リリース)

Salesforce レコードのほぼリアルタイムの変更を取得し、外部データストアの対応するレコードを同期します。変更データキャプチャは、Salesforce レコードの変更を表す変更イベントを公開します。変更には、レコードの作成、レコードの更新、レコードの削除、レコードの復元が含まれます。変更データキャプチャは、前回のリリースで開発者プレビューとパイロットして提供され、このリリースで機能が強化されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: たとえば、Salesforce の従業員カスタムオブジェクトレコードのコピーを使用した人事 (HR) システムがあるとします。Salesforce から変更イベントを受信することで、HR システムの従業員レコードを同期できます。イベントを受信したら、HR システムの対応する挿入、更新、削除、または復元操作を処理できます。変更はほぼリアルタイムで受信されるため、HR システムのデータは常に最新の状態になります。

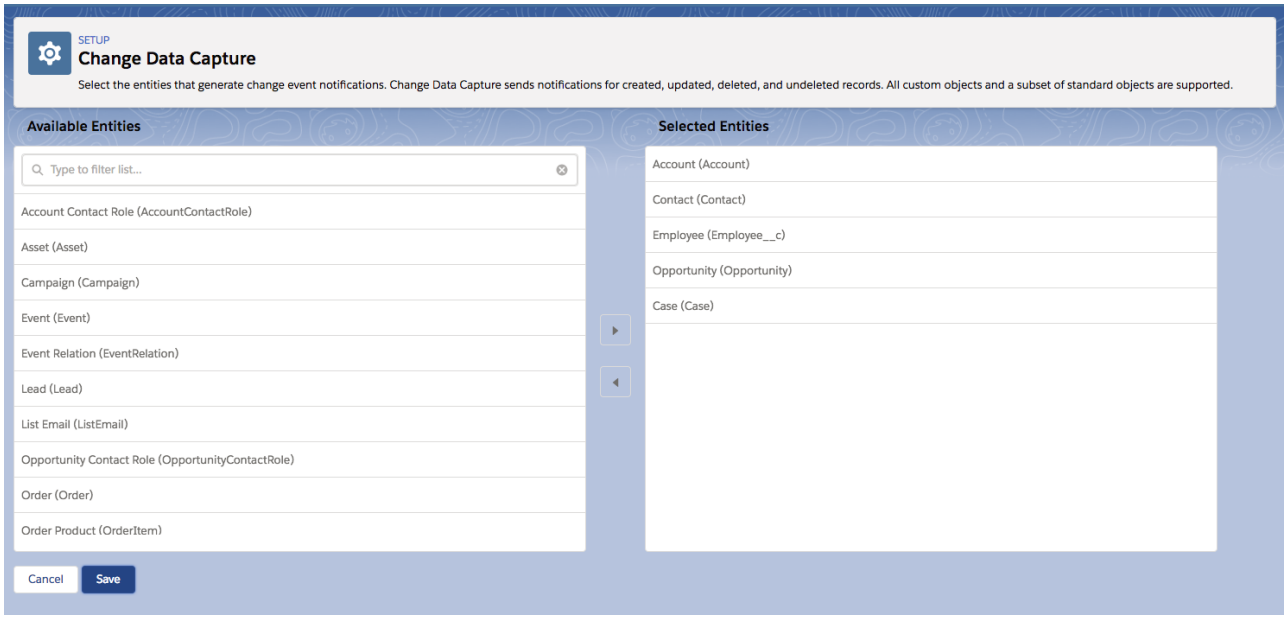
方法: 変更イベントは、プラットフォームイベントに基づいており、いくつかの特性を共有します。たとえば、最大 3 日間保存される過去のイベントのストリームを再生できます。また、変更イベントは CometD イベント配信の使用量ベースのエンタイトルメントを大規模プラットフォームイベントと共有します。

Salesforce 組織で定義されたすべてのカスタムオブジェクト、および標準オブジェクトのサブセットで変更イベントを使用できます。[設定] の新しい [変更データキャプチャ] ページで、通知を取得するオブジェクトを選択します。次の標準オブジェクトが変更イベントをサポートしています。

- Account (個人取引先を含む)
- AccountContactRole
- Asset
- Campaign
- Case
- Contact
- ContractLineItem
- Entitlement
- Event
- EventRelation
- Lead
- ListEmail
- LiveChatTranscript
- Opportunity
- OpportunityContactRole
- Order
- OrderItem
- Product2
- Quote
- QuoteLineItem
- ServiceContract
- Task

- TaskRelation
- User (パートナーユーザを含む)

[設定] でオブジェクトを選択するには、[クイック検索] ボックスに「変更データキャプチャ」と入力し、[変更データキャプチャ] をクリックします。



Shield Platform Encryption サポート

変更データキャプチャは、Shield Platform Encryption が有効な場合にサポートされます。Salesforce レコード項目が Shield Platform Encryption で暗号化されている場合、暗号化された項目の値を変更するとイベントが変更されます。変更イベントメッセージのデータは、セキュアなトランスポートレイヤ (HTTPS および TLS) で配信されます。

変更イベントは、Salesforce の個別のデータストアに 3 日間保存されます。保存される前に暗号化されます。また、イベントバステナントの秘密を作成する必要があります。変更イベントの暗号化と配信を有効にするには、最初に [設定] の [鍵の管理] ページでイベントバステナントの秘密を作成します。次に、[暗号化ポリシー] ページで [変更データキャプチャイベントの暗号化と配信] を選択します。

このリリースでは、次の機能強化が追加されました。

このセクションの内容:

メタデータ API による変更データキャプチャの選択済みエンティティの移行

PlatformEventChannel メタデータ API 種別を使用して、変更通知の選択済みエンティティを取得およびリリースします。

データ型の変換によるデータ変更のキャプチャ

カスタム項目のデータ型の変換によってデータが変わる場合、変更イベントまたはギャップイベントが生成されます。以前は、これらの変更はキャプチャされませんでした。

レコードの選択リスト値のデータ変更のキャプチャ

選択リスト値の名前変更または置換による選択リストレコード項目値の更新がキャプチャされるようになりました。以前は、これらの変更は無視されていました。変更イベントは、効率化のためにグループ化されることがあります。これが行われると、`recordIds` ヘッダー項目にレコード ID の配列が含まれます。

関連トピック:

Change Data Capture Developer Guide (変更データキャプチャ開発者ガイド)

メタデータ API による変更データキャプチャの選択済みエンティティの移行

PlatformEventChannel メタデータ API 種別を使用して、変更通知の選択済みエンティティを取得およびリリースします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: この PlatformEventChannel コンポーネントは、選択した 3 つのオブジェクト (Account、Contact、Employee__c カスタムオブジェクト) を表します。対応するオブジェクトのイベント名が含まれます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<PlatformEventChannel xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
    <channelMembers>
        <selectedEntity>AccountChangeEvent</selectedEntity>
    </channelMembers>
    <channelMembers>
        <selectedEntity>ContactChangeEvent</selectedEntity>
    </channelMembers>
    <channelMembers>
        <selectedEntity>Employee__ChangeEvent</selectedEntity>
    </channelMembers>
    <channelType>data</channelType>
    <label>ChangeEvents</label>
</PlatformEventChannel>
```

データ型の変換によるデータ変更のキャプチャ

カスタム項目のデータ型の変換によってデータが変わる場合、変更イベントまたはギャップイベントが生成されます。以前は、これらの変更はキャプチャされませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: たとえば、互換性のないデータ型間で変換を行うと、対応するレコードの項目データが null に設定されます。この変換により、影響を受けるすべてのレコードの変更イベントが生成されます。次に、互換性のない項目の変換をいくつか示します。

- 日付または日付/時間項目を別のデータ型に変更する (またはその逆)
- チェックボックス項目を別のデータ型に変更する
- 選択リスト (複数選択) 項目を別のデータ型に変更する

その他の変換 (項目値を保持または切り捨てる変換など) ではイベントは生成されません。

レコードの選択リスト値のデータ変更のキャプチャ

選択リスト値の名前変更または置換による選択リストレコード項目値の更新がキャプチャされるようになりました。以前は、これらの変更は無視されていました。変更イベントは、効率化のためにグループ化されることがあります。これが行われると、`recordIds` ヘッダー項目にレコード ID の配列が含まれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

大規模プラットフォームイベントによるイベントベースのアプリケーションの拡張 (正式リリース)

大規模プラットフォームイベントを使用して、数百万件のイベントを効率的に公開および処理します。リアルタイムに通知を受信したり、イベント駆動型プログラミングモデルを使用してプロセスを自動化したり、アプリケーションを外部ビジネスプロセスと統合したりします。大規模プラットフォームイベントでは、標準量イベントよりも適切にアプリケーションが拡張し、最大3日間保持されるイベントメッセージを取得できます。大規模プラットフォームイベントが新しいイベント定義のデフォルトのイベント種別になりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: API バージョン 44.0 以前で作成された標準量イベントは引き続きサポートされますが、新しい標準量イベントは定義できません。ユーザインターフェースまたはメタデータ API から大規模プラットフォームイベントを定義できます。

UI の場合、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「プラットフォームイベント」と入力し、[プラットフォームイベント] を選択します。標準項目の入力時に、[イベント種別] で [大量] を選択します。

メタデータ API の場合、イベント定義は `eventType` が `HighVolume` に設定された CustomObject で表されます。

大規模プラットフォームイベントは、標準プラットフォームイベントを公開および登録する場合と同じ方法で公開および登録します。プロセスビルダーやフローなどの宣言型ツールを使用したり、Apex や CometD API アプリケーションでコードを記述したりできます。

大規模プラットフォームイベントは非同期で公開されるため、システムで大量のイベントを効率的に処理できます。公開コールによって、公開要求がキューに配置されます。イベントメッセージは、コールが返された直後に公開されないこともありますが、システムリソースが使用可能になったときに公開されます。

使用量ベースのイベントエンタイトルメント

Salesforce エディションごとに、CometD クライアントに配信される大規模イベント数のデフォルトの割り当てが提供されます。アドオンライセンスを購入して、日次 CometD イベント配信割り当てを増やすことができます。アドオンライセンスでは、CometD イベント配信割り当てが月次エンタイトルメントに応じて拡張されます。アドオンにより、月次エンタイトルメントの日次相当割り当てを 24 時間の期間で一定量超過できます。イベントの超過はカレンダー月で計算され、計算はその月の初日または契約開始日から始まります。

`limits` REST API リソースで大規模イベント配信の利用状況とエンタイトルメントを監視します。`MonthlyPlatformEvents` 応答値でエンタイトルメントと利用状況情報が返されます。

使用量ベースのエンタイトルメントと日次割り当ては、CometD 登録者にのみ適用されます。Apex トリガ、プロセス、フローなどの他の登録者には適用されません。

関連トピック:

Platform Events Developer Guide (プラットフォームイベント開発者ガイド)

標準量プラットフォームイベントの利用状況の監視

以前に定義した標準量イベントで、CometD クライアントへのイベント配信の利用状況を検査して、制限に達することを回避できるようになりました。`limits` REST API リソースの `DailyStandardVolumePlatformEvents` 応答値を使用して、24 時間の利用状況を監視します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

新規、変更、および廃止されたコール

イベント公開の失敗の新しい状況コード

公開サービスが使用できなくなっているか、制限を超えていることが原因でイベントメッセージの公開に失敗すると、エラーと状況コードが含まれる SaveResult が返されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

次の状況コードが追加されました。

`PLATFORM_EVENT_PUBLISHING_UNAVAILABLE`
サービスが一時的に使用できなくなっているため、プラットフォームイベントメッセージの公開に失敗しました。しばらくしてからもう一度お試しください。

イベントメッセージの公開が制限を超えた場合、次の状況コードが返されます。以前は、不特定のエラーが返されていました。

`LIMIT_EXCEEDED`
公開されたプラットフォームイベントメッセージの数が 1 時間の公開制限を超えたか、Apex テストコンテキストから公開されるイベントメッセージのテスト制限を超えました。

プロセスおよびフローでの標準プラットフォームイベントの登録

標準プラットフォームイベントメッセージの受信時にプロセスの開始やフローの再開ができるようになりました。Apex 一括処理プラットフォームイベント (`BatchApexErrorEvent`) とプラットフォーム状況アラートイベント (`PlatformStatusAlertEvent`) の標準プラットフォームイベントがプロセスおよびフローでサポートされるようになりました。

関連トピック:

プロセスまたはフローを使用した Salesforce エラーへの応答

Sandbox: コピーの正式リリース、ユーザの新しいメールアドレス形式

Sandboxのコピーを使用してアプリケーション開発を改善します。また、Sandboxにコピーしたユーザのメールアドレスに新しい形式を導入します。

このセクションの内容:

Sandbox のコピーによる時間の節約 (正式リリース)
Sandboxのコピーにより、アプリケーションライフサイクルでの複数の同時作業ストリームの管理が簡素化されます。開発、テスト、ステージングなどの作業種別ごとに既存の Sandbox をコピーします。1 つの開発フェーズから次のフェーズに移行する場合、本番組織を作成元として使用するのではなく、既存のSandbox をコピーします。このパターンによって個々の Sandbox のカスタマイズが簡素化されます。同僚は個々の Sandboxを簡単にコピーできるため、1つのSandboxを共有する必要がなく、お互いの作業を妨げずに済みます。

Sandbox でのユーザのメールアドレスの形式の簡素化
Sandbox を作成または更新すると、Salesforce は .invalid をすべてのユーザのメールアドレスに追加します。このメールの無効化により、Sandboxで自動作成されたメッセージが本番ユーザに送信されることがなくなります。

Sandbox のコピーによる時間の節約 (正式リリース)

Sandbox のコピーにより、アプリケーションライフサイクルでの複数の同時作業ストリームの管理が簡素化されます。開発、テスト、ステージングなどの作業種別ごとに既存のSandboxをコピーします。1つの開発フェーズから次のフェーズに移行する場合、本番組織を作成元として使用するのではなく、既存の Sandbox をコピーします。このパターンによって個々の Sandbox のカスタマイズが簡素化されます。同僚は個々の Sandbox を簡単にコピーできるため、1 つの Sandbox を共有する必要がなく、お互いの作業を妨げずに済みます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: コピーした各Sandbox内で、アプリケーションライフサイクルのフェーズ(テスト、ステージングなど)に対応するようにデータとメタデータをカスタマイズします。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「Sandbox」* と入力し、**[Sandbox]** を選択します。完了済みの Sandbox の名前の横にある **[コピー]** をクリックします。または、**[新規 Sandbox]** を選択し、[作成元] ドロップダウンメニューで、コピーする Sandbox を選択します。

新しい Sandbox の準備ができたら、他の Sandbox のように本番組織から管理できます。

Tooling API を使用して Sandbox をコピーするには、新しい SandboxInfo オブジェクトの `SourceId` 項目で ID を指定します。

Sandbox でのユーザのメールアドレスの形式の簡素化

Sandbox を作成または更新すると、Salesforce は `.invalid` をすべてのユーザのメールアドレスに追加します。このメールの無効化により、Sandbox で自動作成されたメッセージが本番ユーザに送信されることがなくなります。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Sandbox を作成し、ユーザのメールアドレスがどのように変わるかを確認してください。たとえば、アドレス `name@email.com` は `name@email.com.invalid` になります。以前は、アドレスは `name=email.com@example.com` に変わりました。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Sandbox の設定に関する考慮事項

VS Code 向け Salesforce 拡張機能: Lightning Web コンポーネントのサポート、Apex のリファクタリング、予定されている Force.com IDE の廃止

毎週のリリースに加えられた変更のほかに、VS Code v45 向け Salesforce 拡張機能にはいくつかの重要な機能強化が含まれます。VS Code の Lightning Web コンポーネント拡張機能が Salesforce 拡張機能パックに含まれるようになりました。この拡張機能を使用して Lightning Web コンポーネントの開発を加速します。Apex 記号の名前が変更されます。2019 年 10 月の Force.com IDE の廃止に備えて今すぐ準備を開始してください。

VS Code 向け Salesforce 拡張機能の使用を開始する方法については、Visual Studio Code マーケットプレイスで「Salesforce Extensions for VS Code (VS Code 向け Salesforce 拡張機能)」のドキュメントを参照してください。Salesforce が公開しているすべての VS Code 拡張機能を参照するには、Visual Studio Code マーケットプレイスの公開者ページを参照してください。

毎週のリリースに加えられた機能強化についての詳細は、VS Code 向け Salesforce 拡張機能の変更ログを参照してください。

このセクションの内容:

VS Code 拡張機能パックを使用した Lightning Web コンポーネントの開発の簡素化

VS Code 向け Salesforce 拡張機能パックをインストールし、Lightning Web コンポーネント拡張機能を取得してコンポーネントの開発を加速します。個別の拡張機能をインストールまたは管理したり、Salesforce 拡張機能のインストール順序や更新順序について心配したりする必要はなくなりました。

Visual Studio Code での Apex 記号の名前変更

VS Code 向け Salesforce 拡張機能に Apex Refactor: Rename 機能が含まれるようになりました。このツールを使用して、メソッド、ローカル変数、項目、プロパティ、コンストラクタ、タイプ (クラス、トリガ、列挙) の名前を変更します。記号の名前を変更すると、その記号を参照するコードが更新されます。外部タイプまたはそれらのコンストラクタの名前を変更すると、それらのファイルの名前が変更されます。

2019 年 10 月に廃止される Force.com IDE

Eclipse の Force.com IDE プラグインは、メンテナンスのみの状態にあります。商品のサポートは、2019 年 10 月 12 日の廃止日までオフィシャルチャネルで引き続き提供されますが、廃止日までに生じた重要なセキュリティの問題のみが更新の対象になります。

VS Code 拡張機能パックを使用した Lightning Web コンポーネントの開発の簡素化

VS Code 向け Salesforce 拡張機能パックをインストールし、Lightning Web コンポーネント拡張機能を取得してコンポーネントの開発を加速します。個別の拡張機能をインストールまたは管理したり、Salesforce 拡張機能のインストール順序や更新順序について心配したりする必要はなくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この変更は、2019 年 2 月 9 日の VS Code v45 向け Salesforce 拡張機能のリリース時に使用可能になります。VS Code 向け Salesforce 拡張機能の変更ログで最新情報を見逃さないでください。

方法: VS Code マーケットプレイスから Salesforce Extension Pack (Salesforce 拡張機能パック) をインストールします。VS Code v45 向け Salesforce 拡張機能パックのリリース前に VS Code で Lightning Web コンポーネントを操作するには、拡張機能パック、Lightning Web Component (Lightning Web コンポーネント) 拡張機能、および Salesforce CLI のプレリリースバージョンをインストールします。

関連トピック:

- Salesforce CLI での Lightning Web コンポーネントの拡張機能の活用

Visual Studio Code での Apex 記号の名前変更

VS Code 向け Salesforce 拡張機能に Apex Refactor: Rename 機能が含まれるようになりました。このツールを使用して、メソッド、ローカル変数、項目、プロパティ、コンストラクタ、タイプ(クラス、トリガ、列挙)の名前を変更します。記号の名前を変更すると、その記号を参照するコードが更新されます。外部タイプまたはそれらのコンストラクタの名前を変更すると、それらのファイルの名前が変更されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: Apex Refactor: Rename の正式リリースは、2019 年 2 月 9 日です。

方法: Apex Refactor: Rename については、Visual Studio Marketplace の Apex 拡張機能のページを参照してください。

2019 年 10 月に廃止される Force.com IDE

Eclipse の Force.com IDE プラグインは、メンテナンスのみの状態にあります。商品のサポートは、2019 年 10 月 12 日の廃止日までオフィシャルチャネルで引き続き提供されますが、廃止日までに生じた重要なセキュリティの問題のみが更新の対象になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: 2019 年 10 月 12 日に、Force.com IDE のあらゆる種類のサポートまたは更新が提供されなくなります。その日に、ドキュメントのアーカイブや商品のダウンロードリンクの削除も開始されます。

方法: Visual Studio Code 向け Salesforce 拡張機能またはパートナーによって作成されたいずれかの優れたツールへの移行を開始することをお勧めします。詳細は、Salesforce 開発者ブログの「The Future of Salesforce IDEs (Salesforce IDE の今後)」を参照してください。

https://github.com/forcedotcom/idecore リポジトリは、2019 年 10 月 12 日にアーカイブされます。リポジトリでは、ソースコードは引き続き使用できますが、プル要求は受け入れられなくなります。リポジトリのアーカイブ後に Force.com IDE に貢献するには、フォークを作成します。アーカイブされたリポジトリについての詳細は、GitHub ヘルプの「About archiving repositories (リポジトリのアーカイブについて)」を参照してください。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目
新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI をすばやく作成します。

Apex: 新規および変更された項目
次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

API: 新規および変更された項目
API バージョン 45.0 で、メタデータ型、データオブジェクト、REST リソースなどにアクセスします。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド
Salesforce CLI の変更は定期的にリリースされます。コア CLI プラグインの v44 の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。プレリリースバージョンの詳細は、Salesforce CLI コマンドリファレンスの v45 を参照してください。

Dev Hub: 新しい Limited Access ライセンス
Salesforce ユーザライセンスを持っていないけれども、本番組織またはビジネス組織で Dev Hub を使用することを検討されていますか? これ以上探す必要はありません。開発者は、Salesforce Limited Access - Free ライセンスを使用して Dev Hub にアクセスし、スクラッチ組織を作成および管理します。

スクラッチ組織: 設定可能な Salesforce 環境
一時的に使用し、簡単に再作成できるように設計されたスクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI をすばやく作成します。

このセクションの内容:

新しい Lightning Web コンポーネント
Spring '19 では、Lightning Web コンポーネントと呼ばれる新しい種別の Lightning コンポーネントが導入されます。以前の Lightning コンポーネントは、Aura コンポーネントと呼ばれるようになりました。Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントは連携し、どちらも Lightning コンポーネントフレームワークの一部です。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
Spring '19 では、Lightning Web コンポーネントと呼ばれる新しい種別の Lightning コンポーネントが導入されます。以前の Lightning コンポーネントは、Aura コンポーネントと呼ばれるようになりました。Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントは連携し、どちらも Lightning コンポーネントフレームワークの一部です。

新しい Aura コンポーネントインターフェース
Aura コンポーネントインターフェースを使用すると、コンポーネントをさまざまなコンテキストで使用したり、コンポーネントで追加のコンテキストデータを受信したりできます。

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント (正式リリース)

新しい Lightning Web コンポーネント

Spring '19 では、Lightning Web コンポーネントと呼ばれる新しい種別の Lightning コンポーネントが導入されます。以前の Lightning コンポーネントは、Aura コンポーネントと呼ばれるようになりました。Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントは連携し、どちらも Lightning コンポーネントフレームワークの一部です。

使用可能なコンポーネント

以下の Lightning Web コンポーネントがすべての開発者に正式リリースされます。

ボタン

以下のコンポーネントはさまざまなボタンの種類を提供します。

lightning-button
アクションを実行するボタン要素。

lightning-button-icon
アイコンのみの HTML ボタン。

lightning-button-icon-stateful
状態を保持するアイコンのみのボタン。

lightning-button-group
ボタンのグループを表します。このコンポーネントは `lightning-button` コンポーネントのコンテナであり、集合的にナビゲーションバーを作成します。

lightning-button-menu
アクションまたは関数のリストを含むドロップダウン。このコンポーネントは `lightning-menu-item` をネストして、ドロップダウンのメニュー項目を作成します。

lightning-button-stateful
状態を切り替えるボタン。

データ入力

データ入力では、以下のコンポーネントを使用します。

lightning-checkbox-group
単一または複数のオプションを選択できます。

lightning-combobox
選択可能なオプションのドロップダウンを含む参照のみの入力項目を提供するウィジェット。

lightning-dual-listbox
選択可能なオプションのリストボックスを含む入力リストボックスを提供するウィジェット。

lightning-file-upload
ファイルをアップロードしてレコードに添付するためのファイルアップローダ。

lightning-helptext
ツールヒントとして使用するテキストのポップオーバーがあるアイコン。

lightning-input
type 属性に応じてユーザ入力を受け入れる対話型コントロール。

lightning-input-address
町名・番地や市区郡などの項目を含む住所複合項目。

lightning-input-location
緯度値と経度値を受け入れる地理位置情報の複合項目。

lightning-input-name
敬称や肩書きなどの項目を含む名前複合項目。

lightning-input-rich-text
カスタマイズ可能なツールバーを備えた、リッチテキスト入力用の WYSIWYG エディタ。

lightning-radio-group
単一のオプションを選択できます。

lightning-slider
指定した 2 つの数字間の値を指定するための入力範囲スライダ。

lightning-textarea
複数行のテキスト入力項目。

データの表示

データを表示するには、以下のコンポーネントを使用します。

lightning-click-to-dial
Open CTI および Voice 用に有効化または無効化されたクリック-to-ダイヤルである、書式設定された電話番号。

lightning-datatable
型に応じて書式設定されたデータの列を表示するテーブルです。

lightning-formatted-address
Google マップ上の特定の場所へのリンクを提供する、書式設定された住所。

lightning-formatted-date-time
さまざまな形式で表示できる日時。

lightning-formatted-email
`mailto:` URL スキームが付いているハイパーリンクとしてのメール。

lightning-formatted-location
［緯度，経度］の形式を使用した 10 進度 (DD) の地理位置情報。

lightning-formatted-name
敬称と肩書きを含めることができる、書式設定された名前。

lightning-formatted-number
10 進数、通貨、パーセントとして表示できる数字。

lightning-formatted-phone
`tel:` URL スキームが付いているハイパーリンクとしての電話番号。

lightning-formatted-rich-text
ホワイトリストに登録されているタグと属性を使用して書式設定されたリッチテキスト。その他のタグと属性は削除され、そのテキストコンテンツのみが表示されます。

lightning-formatted-text
改行 (newline) を改行 (line break) で置き換えて、`href` リンクをサポートするテキスト。

lightning-formatted-time
さまざまな形式で表示できる時刻。

lightning-formatted-url
URL をハイパーリンクとして表示します。

lightning-relative-date-time
参照元の日時と指定された日時の相対的な時差を表示します。

lightning-tree
Web サイトのサイトマップや組織のロール階層など、構造階層を視覚的に表示するネストされたツリー。

lightning-tree-grid
テーブル内のデータの階層ビュー。

フォーム

レコードを編集および表示するには、以下のコンポーネントを使用します。

lightning-record-edit-form
1 つ以上の項目を表示するレコード編集レイアウト。

このコンポーネントは `lightning-input-field` をネストして、項目を表示します。

lightning-record-form
レコードの編集可能なフォームまたは表示フォーム。

lightning-record-view-form
1 つ以上の項目を表示するレコードビュー。このコンポーネントは `lightning-output-field` をネストして、項目を表示します。

レイアウト

さまざまなレイアウトでコンテンツを整理するには、以下のコンポーネントを使用します。

lightning-accordion
複数のコンテンツ領域を含むセクションを縦に積み上げたコレクション。このコンポーネントは `lightning-accordion-section` をネストして、セクションを作成します。

lightning-card
情報の関連グループを囲むコンテナ。

lightning-layout
ページにコンテナを配置するための反応型グリッドシステム。このコンポーネントは `lightning-layout-item` をネストして、ビジュアルグリッド、間隔、およびセクションを定義する情報をグループ化します。

lightning-tabset
タブのリスト。このコンポーネントは `lightning-tab` をネストして、関連コンテンツを 1 つのコンテナに保持します。

lightning-tile
レコードに関連付けられた関連情報のグループ。

ナビゲーション

ナビゲーションには、以下のコンポーネントを使用します。

lightning-breadcrumbs
Web サイトまたはアプリケーション内で現在アクセスしているページの階層パス。このコンポーネントは `lightning-breadcrumb` をネストして、階層パスの項目を作成します。

lightning-navigation
Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのページに移動するための特定の pageReference の URL を生成します。

lightning-vertical-navigation
縦方向のリンクのリストです。ユーザは別のページまたは現在のページの別の部分に移動できます。このコンポーネントは以下のコンポーネントをネストして、リンク項目とセクションを作成します。

- `lightning-vertical-navigation-item`
- `lightning-vertical-navigation-item-badge`
- `lightning-vertical-navigation-item-icon`
- `lightning-vertical-navigation-overflow`
- `lightning-vertical-navigation-section`

ユーティリティ

開発を簡略化するには、以下のコンポーネントを使用します。

platform-resource-loader
静的リソースを使用してサードパーティの JavaScript または CSS ライブラリをインポートします。

lightning-platform-show-toast-event
トーストを使用してメッセージを表示します。

ビジュアル

ビジュアルコンテキストを追加するには、以下のコンポーネントを使用します。

lightning-avatar
取引先やユーザの画像など、オブジェクトの視覚的表現。

lightning-badge
未読通知の数など、少量の情報を保持する表示ラベル。

lightning-carousel
1 つずつ表示する画像のコレクション。このコンポーネントは `lightning-carousel-image` をネストして、カルーセル画像を作成します。

lightning-dynamic-icon
さまざまな状態で表示されるアニメーションアイコン。

lightning-icon
コンテキストを提供して使いやすくするビジュアル要素。

lightning-map
1 つ以上のロケーションの地図を表示します。

lightning-pill-container
コンテナ内でグループ化されたピルのリスト。このコンポーネントは、個々のピルを作成するための `lightning-pill` のコンテナです。ピルには、ビューから削除できるリンク付きの表示ラベルが含まれます。

lightning-progress-indicator
特定のプロセスの進行状況を視覚的に示します。このコンポーネントは `lightning-progress-step` をネストして、進行状況ステップを作成します。

lightning-spinner
アニメーションスピナーを表示します。

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント (正式リリース)
コンポーネントライブラリ

新規追加または変更された Aura コンポーネント

Spring '19 では、Lightning Web コンポーネントと呼ばれる新しい種別の Lightning コンポーネントが導入されます。以前の Lightning コンポーネントは、Aura コンポーネントと呼ばれるようになりました。Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントは連携し、どちらも Lightning コンポーネントフレームワークの一部です。

新しい Aura コンポーネント

次のコンポーネントは新規追加されたもので、API バージョン 45.0 以降が必要です。

lightning:unsavedChanges
コンポーネントの未保存の変更について UI に通知します。

変更された Aura コンポーネント

次のコンポーネントの `tabindex` 属性が変更されました。

- lightning:button
- lightning:buttonIcon
- lightning:buttonMenu
- lightning:buttonIconStateful
- lightning:buttonStateful
- lightning:checkboxGroup
- lightning:combobox
- lightning:dualListbox
- lightning:input
- lightning:inputRichText
- lightning:menuItem
- lightning:radioGroup
- lightning:select
- lightning:tab
- lightning:textarea

`tabindex` は、`0` または `-1` にのみ設定できます。`tabindex` のデフォルト値は `0` です。これは、コンポーネントはフォーカス可能で、順次キーボードナビゲーションに含まれることを意味します。`-1` は、コンポーネントはフォーカス可能だが、キーボードナビゲーションに含まれないことを意味します。`0` より大きい `tabindex` 値は使用できなくなりました。使用すると、支援技術によるページコンテンツのナビゲーションが難しくなります。

次のコンポーネントが変更されました。

aura:unescapedHtml
このコンポーネントに `<style>`、`<script>`、または `<meta>` タグを渡すことはできなくなりました。この変更により、クロスサイトスクリプティング (XSS) の脆弱性のリスクが軽減します。

lightning:buttonMenu
次の属性が変更されています。

- `menuAlignment` — `auto` の配置がサポートされるようになりました。`auto` 属性は、viewport を使用してドロップダウンを配置し、画面に収まらない非表示の要素を処理します。

lightning:combobox
次の属性が新規追加されました。

- `spinnerActive` — ドロップダウンリストの読み込みアクティビティを示すスピナーを表示します。デフォルトは `false` です。

lightning:datatable
次の属性が新規追加されました。

- `suppressBottomBar` — [保存] ボタンと [キャンセル] ボタンが表示されるフッターをインライン編集中に非表示にするかどうかを指定します。デフォルトは `false` です。

lightning:dualListbox
次の属性が新規追加されました。

- showActivityIndicator — リストボックスのアクティビティを示すスピナーを表示します。デフォルトは false です。
- size — リストボックスで垂直スクロールバーが表示される前に表示する項目数。デュアルリストボックスの縦のサイズを決定します。

lightning:formattedAddress

リンクとして表示されている住所をクリックしたときに、地図が新しいタブで開くようになりました。

次の属性が新規追加されました。

- showStaticMap — 場所の静的地図を表示します。デフォルトは false です。

lightning:formattedDateTime

timeZone 属性では、IANA タイムゾーンデータベースのタイムゾーン名が必要です。以前に PST などのショートコードを使用していた場合、一部のブラウザでは動作していたかもしれませんが、ECMAScript 国際化 API を使用するブラウザでは、ショートコードをするとエラーが発生する可能性があります。timeZone="America/Los_Angeles" などの IANA タイムゾーンを使用するようにコンポーネントを更新してください。

lightning:inputAddress

次の属性が新規追加されました。

- showLookupAddress — Google マップを使用した住所検索を有効にするかどうかを指定します。デフォルトは false です。

lightning:inputRichText

次の属性が新規追加されました。

- formats — テキストエディタで使用できる形式のリスト。デフォルトでは、このリストは有効化されたカテゴリに基づいて決定されます。テーブルのコピーと貼り付けをサポートするため、テーブル形式は常に有効になります。形式を指定する場合、使用するすべての形式を指定する必要があります。リストから形式を除外すると、対応するボタンが削除されます。

lightning:navigation

ナビゲーションサービスは PageReference オブジェクトを使用してページを記述します。新しい PageReference 型の standard__webPage は、外部 Web サイトに移動できるように未加工の URL をラップします。「standard__webPage のページ参照データ型を使用した URL への移動」を参照してください。

lightning:nextBestActions

このコンポーネントは戦略を実行し、結果として作成されたおすすめを表示します。

lightning:select

次のメソッドが新規追加されました。

- checkValidity — ValidityState オブジェクトの valid プロパティ値 (Boolean) を返して、選択に有効性エラーがあるかどうかを示します。

lightning:tab

次の属性が新規追加されました。

- iconName — タブの表示ラベルの横に表示するユーティリティアイコンを指定します。
- iconAssistiveText — iconName で指定されたアイコンの補助テキスト。
- showErrorIndicator — タブのコンテンツにエラーがあるかどうかを示します。タブの表示ラベルの右にエラーアイコンが表示されます。

lightning:utilityBarAPI
`disableUtilityPopOut` メソッドが新規追加されました。「Lightning コンソール JavaScript API」を参照してください。

lightning:workspaceAPI
ワークスペースタブとサブタブのメソッドが新規追加されました。「Lightning コンソール JavaScript API」を参照してください。

lightningsnapin:minimizedAPI
次の eventName 値が新規追加されました。

- `chatConferenceState` —エージェントがチャット会議に参加しているか退席しているかに関わらず、チャット会議内のエージェントのリストと、参加または退席しているエージェントの名前を渡します。

次の eventName 値が変更されています。

- `queueUpdate` — このイベントは次のような状況で起動するようになりました。
  - 訪問者がチャットを要求してエージェントを待機している。
  - チャットの要求後、訪問者が別のページに移動して引き続きエージェントを待機している。
  - 訪問者が以前に接続を失い (`reconnectingState` を参照)、再接続している。
  - 訪問者がキュー内で前進し、エージェントがチャット要求を受け入れるのを待機している。
  - ボットまたはエージェントがチャット転送を要求し、別のエージェントが受け入れるのを待機している。
  - チャット転送中、訪問者が別のページに移動して引き続き転送を待機している。
  - 訪問者がキュー内で前進し、エージェントがチャット転送を受け入れるのを待機している。

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント (正式リリース)
コンポーネントライブラリ

新しい Aura コンポーネントインターフェース

Aura コンポーネントインターフェースを使用すると、コンポーネントをさまざまなコンテキストで使用したり、コンポーネントで追加のコンテキストデータを受信したりできます。

新しいインターフェース

次のインターフェースが新規追加されました。

lightning:utilityItem
コンポーネントをユーティリティバーに追加できるようにします。

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント (正式リリース)
コンポーネントライブラリ

Apex: 新規および変更された項目

次のクラス、Enum、およびインターフェースが新規追加または変更されています。

詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』を参照してください。

このセクションの内容:

Apex: 新規および変更されたクラスおよびインターフェース
次のクラスおよびインターフェースが新規追加または変更されています。

ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum
Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。投稿にハイパーリンクを追加したり、ユーザの活動目的アクティビティを消去したり、正式リリースされた Next Best Action を利用したりします。

関連トピック:

[私のドメイン] のログイン検出を使用した ID ファーストログインページの作成

Apex: 新機能

Apex: 新規および変更されたクラスおよびインターフェース

次のクラスおよびインターフェースが新規追加または変更されています。

このセクションの内容:

新規 Apex クラス
このリリースでは、次のクラスが新規追加されました。

変更された Apex クラス
次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

新規 Apex Enum
次の Enum が今回のリリースで導入されました。

新規 Apex 例外
次の例外が今回のリリースで導入されました。

新しい Apex インターフェース
次のインターフェースが今回のリリースで導入されました。

新規 Apex クラス

このリリースでは、次のクラスが新規追加されました。

Auth 名前空間のクラス

VerificationResult クラス

System.UserManagement.verifySelfRegistration メソッドの結果を保存します。このメソッドは、独自の検証ページを作成したときに呼び出す検証の結果を返します。ユーザが正常に作成された場合、検証状況とセッション ID が含まれます。

System 名前空間のクラス

OrgLimit クラス

System.OrgLimit クラスには、インスタンスの名前、現在の値、および最大制限を返すメソッドが含まれます。

getName()
制限の名前を返します。

getValue()
使用制限値を返します。

getLimit()
制限の最大値を返します。

OrgLimits クラス

System.OrgLimits クラスには、すべての組織制限のリスト、またはすべての組織制限の名前と値の対応付けが含まれます。

getAll()
OrgLimit インスタンスのリストを返します。

getMap()
すべての OrgLimit インスタンスと制限名の対応付けをキーとして返します。

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.api_rest.meta/api_rest/resources_limits.htm

変更された Apex クラス

次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

AppLauncher.LoginFormController クラス

新しいメソッド

loginGetPageRefUrl(username, password, startUrl)
特定のユーザ名とパスワードを使用してユーザをログインします。Lightning 環境でログインに成功した場合、ユーザは startUrl で指定されたページにリダイレクトされます。非 Lightning 環境では、メソッドによって返される startUrl を使用してリダイレクトをプログラムします。ログインに失敗すると、エラー文字列が返されます。

Auth.AuthConfiguration クラス

新しいメソッド

getCertificateLoginEnabled(domainUrl)
証明書ベースの認証が [私のドメイン] の URL で有効になっている場合、true を返します。

getCertificateLoginUrl(domainUrl, startUrl)
組織で証明書ベースの認証が有効になっている場合、[私のドメイン] の URL の証明書ベースの認証エンドポイントを返します。

Auth.SessionManagement クラス

新しいメソッド

finishLoginDiscovery(method, userId)
[私のドメイン] のログイン検出ログインプロセスを完了します。

System.Test クラス

変更されたメソッド

stopTest()
レコード変更プロセスおよびイベントプロセス (プロセスビルダーで作成) のスケジュール済みアクションを実行し、時間ベースの再開イベントを待機しているフローを再開します。

System.SObject クラス

新しいメソッド

isSet(fieldName)
クエリ対象の sObject 項目に関する情報を返します。sObject 項目が直接割り当てか SOQL クエリへの追加によって入力される場合、`true` を返します。sObject 項目が設定されていない場合、`false` を返します。無効な項目が指定されている場合、SObjectException が発生します。

isSet(field)
クエリ対象の sObject 項目に関する情報を返します。sObject 項目が直接割り当てか SOQL クエリへの追加によって入力される場合、`true` を返します。sObject 項目が設定されていない場合、`false` を返します。無効な項目が指定されている場合、SObjectException が発生します。

System.String クラス

変更されたメソッド

format(stringToFormat, formattingArguments)
formattingArguments パラメータ種別は、パラメータとして非文字列オブジェクトを許可するために List<String> の代わりに List<Object> を使用するようになりました。第 1 引数をパターンとして扱い、第 2 引数を置換および形式設定に使用して文字列を返します。この置換および形式設定は、`apex:outputText` および Java `MessageFormat` クラスと同じ方法です。第 2 引数の List の非文字列型は、その型に存在する toString() メソッド上書きを適用して暗黙的に文字列に変換されます。

System.UserManagement クラス

新しいメソッド

initSelfRegistration(method, user)
コミュニティセルフ登録用の独自の検証ページを作成するときに、このメソッドを使用して検証を呼び出します。

sendAsyncEmailConfirmation(userId, emailTemplateId, networkId, startUrl)
ユーザのメールアドレスに検証用のメールメッセージを送信します。このメッセージには、ユーザが後でメールアドレスを検証するためにクリックする検証リンク (URL) が含まれます。メール検証を一括で送信できます。

verifySelfRegistration(method, identifier, code, startUrl)
コミュニティセルフ登録用の独自の検証ページを作成するときに、このメソッドを使用して検証を完了します。登録を行っている人が検証コードを正常に入力すると、ユーザが作成されてログインされます。

新規 Apex Enum

次の Enum が今回のリリースで導入されました。

Auth.LoginDiscoveryMethod 列挙
ユーザの ID の検証に使用するメソッドが含まれます。

新規 Apex 例外

次の例外が今回のリリースで導入されました。

Auth 名前空間

DiscoveryCustomErrorException
この例外を発生させて、`MyDomainLoginDiscoveryHandler`、`LoginDiscoveryHandler`、および `ConfigurableSelfRegHandler` に表示するエラーメッセージをカスタマイズします。

新しい Apex インターフェース

次のインターフェースが今回のリリースで導入されました。

Auth.MyDomainLoginDiscoveryHandler インターフェース
インタビューベース (2 ステップ) のログインプロセスである、[私のドメイン] のログイン検出ページを実装するために使用するハンドラ。まず、メールアドレスや電話番号などの一意の識別子をユーザに要求します。次に、このハンドラがユーザの認証方法を決定 (検出) します。ユーザはパスワードを入力するか、ID プロバイダのログインページにリダイレクトされます。

login(identifier, startUrl, requestAttributes)
メールや電話番号などの一意の識別子が指定された Salesforcec ユーザのログインを行います。成功した場合、開始 URL で指定されたページにユーザをリダイレクトします。

ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。投稿にハイパーリンクを追加したり、ユーザの活動目的アクティビティを消去したり、正式リリースされた Next Best Action を利用したりします。

`ConnectApi` 名前空間の Apex クラスでは、多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の `ConnectApi` クラスが使用されます。`ConnectApi` 名前空間は、*Chatter in Apex* と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、`ConnectApi` クラスでは Chatter データをより簡単に公開できます。データは、表示用にローカライズされ、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、複数のコールではなく 1 回のコールで行うことができます。

メモ: モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Chatter やコミュニティに統合するには、Chatter REST API を使用します。

このセクションの内容:

新規および変更された Chatter in Apex クラス
次のクラスが新規追加または変更されました。

新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス
次の入力クラスが新規追加または変更されました。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス
次の出力クラスが新規追加または変更されました。

新規および変更された Chatter in Apex Enum
次の Enum が新規追加または変更されました。

新規および変更された Chatter in Apex クラス

次のクラスが新規追加または変更されました。

Chatter フィード

これらの既存のメソッドは、`ConnectApi.ChatterFeeds` クラスに含まれます。

投稿へのハイパーリンクの追加

更新された `ConnectApi.MarkupBeginSegmentInput` および `ConnectApi.MarkupEndSegmentInput` クラスを指定して、この既存のメソッドを使用します。

- `postFeedElement(communityId, feedElement)`

コメントへのハイパーリンクの追加

更新された `ConnectApi.MarkupBeginSegmentInput` および `ConnectApi.MarkupEndSegmentInput` クラスを指定して、この既存のメソッドを使用します。

- `postCommentToFeedElement(communityId, feedElementId, comment, feedElementFileUpload)`

公開グループ間の投稿の移動

この既存のメソッドを使用して、既存の `ConnectApi.FeedElementInput` クラスの `subjectId` プロパティを新しい公開グループ ID に設定します。

- `updateFeedElement(communityId, feedElementId, feedElement)`

活動目的

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.Missions` クラスに含まれます。

ユーザの活動目的アクティビティのエクスポート

- `exportUserMissionsActivities(communityId, userId)`

ユーザの活動目的アクティビティを消去するジョブの開始

- `purgeUserMissionsActivities(communityId, userId)`

ユーザの活動目的アクティビティ数の更新

- `updateUserMissionActivityCount(activityType, activityCount, communityId, userId)`

Next Best Action (正式リリース)

すべての Next Best Action メソッドは、バージョン 43.0 および 44.0 で導入されたメソッドでも最小バージョンは 45.0 に設定されるようになりました。関連する入力クラスと出力クラスのすべてのプロパティも、最小バージョンは 45.0 になります。

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.NextBestAction` クラスに含まれます。

おすすめの取得

- `getRecommendation(recommendationId)`

  メモ: `getProposition(propositionId)` **メソッドは、このメソッドに置き換えられます。**

おすすめ戦略の実行と追跡情報の要求

- `executeStrategy(strategyName, maxResults, contextRecordId, debugTrace)`

おすすめの反応の取得

- `getRecommendationReactions(onBehalfOfId, createdById, targetId, contextRecordId, pageParam, pageSize)`

  「Next Best Action Recommendations の管理」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザはおすすめの反応を取得できます。

おすすめの反応の取得

- `getRecommendationReaction(reactionId)`

  「Next Best Action Recommendations の管理」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザはおすすめの反応を取得できます。

おすすめの反応の削除

- `deleteRecommendationReaction(reactionId)`

  「Next Best Action Recommendations の管理」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザはおすすめの反応を削除できます。

ソーシャルエンゲージメント

これらの新しいメソッドは、`ConnectApi.SocialEngagement` クラスに含まれます。

ソーシャル投稿の使用可能なインテントの取得

- `getIntents(socialPostId)`

ソーシャル人格のフォロー

- `followSocialPersona(socialPersonaId, socialAccountId)`

  `socialPersonaId` **はフォローする人格の** ID **で、**`socialAccountId`**は人格をフォローするアカウントの** ID **です。**

- `followSocialPostPersona(socialPostId, socialAccountId)`

socialPostId はフォローする人格によって作成された投稿で、socialAccountId は人格をフォローするアカウントの ID です。

ソーシャル人格のフォローの停止

- unfollowSocialPersona(socialPersonaId, socialAccountId)

  socialPersonaId はフォローを停止する人格の ID で、socialAccountId は人格のフォローを停止するアカウントの ID です。

- unfollowSocialPostPersona(socialPostId, socialAccountId)

  socialPostId はフォローを停止する人格によって作成された投稿で、socialAccountId は人格のフォローを停止するアカウントの ID です。

ユーザ

これらの新しいメソッドは、ConnectApi.ChatterUsers クラスに含まれます。

ユーザのグループに関する詳細情報の取得

- getUserGroups(communityId, userId)
- getUserGroups(communityId, userId, pageParam, pageSize)

メモ: getGroups(communityId, userId) および getGroups(communityId, userId, pageParam, pageSize) メソッドは、これらのメソッドに置き換えられます。

ユーザのグループの検索および詳細情報の取得

- searchUserGroupDetails(communityId, userId, q)
- searchUserGroupDetails(communityId, userId, q, pageParam, pageSize)

メモ: searchUserGroups(communityId, userId, q) および searchUserGroups(communityId, userId, q, pageParam, pageSize) メソッドは、これらのメソッドに置き換えられます。

新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス

次の入力クラスが新規追加または変更されました。

Chatter フィード

ConnectApi.MarkupBeginSegmentInput

この入力クラスには、次の新規追加および変更されたプロパティがあります。

- altText — Hyperlink セグメントの代替テキスト。
- markupType — ハイパーリンクマークアップがサポートされるようになりました。
- url — Hyperlink セグメントの URL。サポートされているハイパーリンク URL は、http:// または https:// で始まります。

ConnectApi.MarkupEndSegmentInput

この入力クラスには、次の変更されたプロパティがあります。

- markupType — ハイパーリンクマークアップがサポートされるようになりました。

Next Best Action (正式リリース)

ConnectApi.NBAStrategyInput
この入力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- `debugTrace` — 応答で追跡情報やデバッグ情報を返すか (`true`)、否か (`false`) を指定します。指定されていない場合、デフォルトは `false` です。

ConnectApi.RecommendationReactionInput
この入力クラスの以前の名前は `ConnectApi.NBAReactionInput` でした。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

次の出力クラスが新規追加または変更されました。

Chatter フィード

ConnectApi.MarkupBeginSegmentOutput
この出力クラスには、次の新規追加および変更されたプロパティがあります。

- `altText` — セグメントの代替テキスト (使用可能な場合)。
- `markupType` — ハイパーリンクマークアップがサポートされるようになりました。
- `url` — セグメントの URL (使用可能な場合)。

ConnectApi.MarkupEndSegmentOutput
この出力クラスには、次の変更されたプロパティがあります。

- `markupType` — ハイパーリンクマークアップがサポートされるようになりました。

コミュニティ

ConnectApi.Community
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- `memberVisibilityEnabled` — コミュニティメンバーが他のコミュニティメンバーを表示できるか (`true`)、否か (`false`) を示します。

活動目的

ConnectApi.UserMissionActivitiesJob
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `jobToken` — 活動目的のユーザアクティビティジョブを識別するトークン。
- `jobType` — ユーザアクティビティジョブの種別 (`export` または `purge`)。
- `message` — ジョブの状況と想定される結果を表すメッセージ。

ConnectApi.UserMissionActivity
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `activityCount` — 指定されたユーザ種別の活動目的アクティビティの数。
- `activityType` — ユーザの活動目的アクティビティの種別。

ConnectApi.UserMissionActivityCollection
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `community` — ユーザがアクティビティを実行したコミュニティ。
- `userId` — ユーザの ID。
- `userMissionActivities` — ユーザが実行した活動目的アクティビティのリスト。
- `userName` — ユーザの名前。

ConnectApi.UserMissionActivityStatus
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `message` — 成功またはエラーメッセージ。
- `status` — ユーザの活動目的アクティビティの状況。

Next Best Action (正式リリース)

ConnectApi.NBANativeRecommendation
この出力クラスの以前の名前は `ConnectApi.NBAPropositionRecommendation` でした。

ConnectApi.NBARecommendation
この出力クラスから次のプロパティが削除されました。

- `actionReference`
- `id`
- `name`
- `url`

ConnectApi.NBARecommendations
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- `trace` — おすすめ戦略実行の追跡情報 (要求された場合)。

ConnectApi.Recommendation
この出力クラスの以前の名前は `ConnectApi.Proposition` でした。

ConnectApi.RecommendationReaction
この出力クラスの以前の名前は `ConnectApi.NBAReaction` でした。次の 1 つの新規プロパティがあります。

- `url` — おすすめの反応への URL。

ConnectApi.RecommendationReactions
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `currentPageUrl` — コレクションの反応の現在のページへの URL。
- `nextPageUrl` — コレクションの反応の次のページへの URL。
- `reactions` — おすすめの反応のコレクション。

ConnectApi.StrategyTrace
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `messages` — 戦略実行のメッセージおよびエラー
- `nodes` — デバッグに使用された戦略実行のノード。

ConnectApi.StrategyTraceNode
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- inputCount — ノードに配置された項目の数。
- messages — ノードの実行中に発生したメッセージ。
- nodeName — ノードの名前。
- nodeTime — ノード内の処理に費やした時間。
- nodeType — ノードの種別。
- outputCount — ノードから返された項目の数。
- outputs — ノードから返されたおすすめ。
- totalTime — 処理に費やした合計時間。

ソーシャルエンゲージメント

ConnectApi.ApprovalIntent
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- isRecallable — ソーシャル投稿が取り消し可能か (true)、否か (false) を示します。

ConnectApi.DeleteIntent
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- managedSocialAccount — ソーシャル投稿を削除する管理ソーシャル取引先。

ConnectApi.DeleteIntents
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- deletes — ソーシャル投稿の削除インテントのリスト。

ConnectApi.FollowIntents
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- follows — ソーシャル人格のフォローインテントのリスト。

ConnectApi.FollowSocialPersonaIntent
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- managedSocialAccount — ソーシャル人格をフォローする管理ソーシャル取引先。
- socialPersonaId — フォローするソーシャル人格の ID。

ConnectApi.HideSocialPostIntent
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- isHidden — 管理ソーシャル取引先がソーシャル投稿を非表示にしたか (true)、否か (false) を示します。
- managedSocialAccount — ソーシャル投稿を非表示する管理ソーシャル取引先。

ConnectApi.LikeIntent
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- isLiked — 管理ソーシャル取引先がソーシャル投稿にいいね! と言ったか (true)、否か (false) を示します。
- managedSocialAccount — ソーシャル投稿にいいね! と言う管理ソーシャル取引先。

ConnectApi.LikeIntents
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `likes` — ソーシャル投稿のいいね! インテントのリスト。

ConnectApi.ReplyIntent
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `managedSocialAccount` — ソーシャル投稿に返信する管理ソーシャル取引先。

ConnectApi.ReplyIntents
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `replies` — ソーシャル投稿の返信インテントのリスト。

ConnectApi.SocialPostIntents
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `approvalIntent` — ソーシャル投稿の承認インテントのリスト。
- `deleteIntent` — ソーシャル投稿の削除インテントのリスト。
- `followIntent` — ソーシャル人格のフォローインテント。
- `hideIntent` — ソーシャル投稿の非表示インテントのリスト。
- `likeIntent` — ソーシャル投稿のいいね! インテントのリスト。
- `replyIntent` — ソーシャル投稿の返信インテントのリスト。

ユーザ

ConnectApi.UserGroupDetailPage
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `currentPageUrl` — 現在のページの URL。
- `groups` — ユーザがメンバーであるグループのコレクション。
- `nextPageUrl` — 次のページへの URL。次のページがない場合は `null`。
- `previousPageUrl` — 前のページへの URL。前のページがない場合は `null`。
- `total` — ユーザがメンバーであるグループの合計数。

新規および変更された Chatter in Apex Enum

次の Enum が新規追加または変更されました。

これらの Enum についての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

ConnectApi.MarkupType
この Enum には、次の 1 つの新しい値があります。

- `Hyperlink` — ハイパーリンクアンカータグ。

ConnectApi.NBATargetType
この Enum には、名前が変更された次の 1 つの値があります。

- `Proposition` は `Recommendation` になりました。

`ConnectApi.RecommendationReactionType`
この Enum の以前の名前は `ConnectApi.NBAReactionType` でした。

`ConnectApi.UserMissionActivityType`
この新しい Enum には次の値があります。

- `FeedItemAnswerAQuestion` — ユーザが質問に回答しました。
- `FeedItemLikeSomething` — ユーザが投稿またはコメントにいいね! しました。
- `FeedItemMarkAnswerAsBest` — ユーザが回答を最良の回答としてマークしました。
- `FeedItemPostQuestion` — ユーザが質問を投稿しました。
- `FeedItemReceiveAComment` — ユーザが投稿に対するコメントを受け取りました。
- `FeedItemReceiveALike` — ユーザが投稿またはコメントに対するいいね! を受け取りました。
- `FeedItemReceiveAnAnswer` — ユーザが質問に対する回答を受け取りました。
- `FeedItemWriteAComment` — ユーザが投稿に対してコメントしました。
- `FeedItemWriteAPost` — ユーザが投稿しました。
- `FeedItemYourAnswerMarkedBest` — ユーザの回答が最良の回答としてマークされました。

API: 新規および変更された項目

API バージョン 45.0 で、メタデータ型、データオブジェクト、REST リソースなどにアクセスします。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

REST API

REST API には、新規、変更、および廃止されたコールが含まれます。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。投稿にハイパーリンクを追加したり、ユーザの活動目的アクティビティを消去したり、正式リリースされた Next Best Action を利用したりします。

レポートおよびダッシュボード REST API

Lightning Experience の履歴追跡レポートの機能強化 (ベータリリース) をサポートするようにレポートとダッシュボードの REST API が強化されました。この機能をサポートするため、`/analytics/report-types/` リソースに新しいプロパティが追加され、`/analytics/report-types/`***`type`*** リソースで新しいレポートタイプがサポートされます。

ユーザインターフェース API

Salesforce が Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web を構築するときに使用するのと同じ API を使用して、Salesforce UI を構築できます。レコード、リストビュー、アクション、お気に入りなどをユーザが操作できるユーザインターフェースを構築します。

Tooling API

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

Lightning クイックアクションおよび Salesforce Classic パブリッシャーの JavaScript API

新しいウィンドウで開くユーティリティで Lightning クイックアクション JavaScript API および Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API を使用します。クイックアクション API の `getAvailableActionFields` メソッドの応答の形式も変更されました。

Lightning コンソール JavaScript API

Lightning コンソール JavaScript API は、従来の Salesforce コンソールインテグレーションツールキットで最も頻繁に使用されるメソッドおよびイベントと同等になりました。タブの色の設定、ユーティリティポップアウトの無効化、ブラウザタブのタイトルの編集ができます。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクト
次のオブジェクトが新規追加されました。

変更されたオブジェクト
次のオブジェクトが変更されました。

新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

AccountInsight
取引先レコードに関連する個々のインサイト (主要なビジネス開発または重要な瞬間) を表します。

AccountRelationship
2 つの取引先間の特定の種別のリレーションを表します。

AccountRelationshipFeed
取引先リレーションレコードのフィード活動を表します。

AccountRelationshipHistory
取引先リレーションの項目の値に対する変更履歴を表します。

AccountRelationshipShare
取引先リレーションの共有エントリを表します。このエントリにより、取引先リレーションにアクセス可能なユーザをシステムが把握できます。

AccountRelationshipShareRule
共有されるオブジェクトレコード、その共有方法、レコードを共有する取引先リレーション種別、レコードに付与されるアクセスレベルを決定するルールを表します。

ActivityMetric
Einstein 活動キャプチャによって自動的に、またはユーザによって手動で Salesforce に追加された活動を表します。

AppointmentSchedulingPolicy

Lightning Scheduler で新しい予定をスケジュールするときに適用されるルールのセットを表します。

Calendar

カレンダーを表します。デフォルトのユーザカレンダー、公開カレンダー、リソースカレンダー、休日カレンダーのいずれかを使用できます。

ContactPointTypeConsent

連絡先種別 (メールや電話など) の同意を表します。

ContactRequest

問題についてサポートから折り返し連絡するように求める顧客の要求を表します。このオブジェクトは、API バージョン 45.0 以降で使用できます。

ContactRequestShare

アクセスレベルの説明と共に ContactRequest へのアクセスレベルのリストを表します。このオブジェクトは、API バージョン 45.0 以降で使用できます。

ContactSuggestionInsight

新しい取引先責任者レコードの提案を表します。

CustomHelpMenuItem

システム管理者が組織固有のカスタムヘルプリソースを表示するために追加した Lightning Experience ヘルプメニューのセクション内の項目を表します。

CustomHelpMenuSection

システム管理者が組織固有のカスタムヘルプリソースを表示するために追加した Lightning Experience ヘルプメニューのセクションを表します。

DataUseLegalBasis

顧客に連絡するための法的根拠 (請求や契約など) を表します。

DataUseLegalBasisHistory

データ使用の法的根拠の項目の値に対する変更履歴を表します。

DataUseLegalBasisShare

アクセスレベルの説明と共にデータ使用の法的根拠へのアクセスレベルのリストを表します。

DataUsePurpose

見込み客または顧客に連絡する理由 (請求、マーケティング、アンケートなど) を表します。

DataUsePurposeHistory

データ使用目的の項目の値に対する変更履歴を表します。

DataUsePurposeShare

アクセスレベルの説明と共にデータ使用目的へのアクセスレベルのリストを表します。

IframeWhiteListUrl

Visualforce ページのフレーム化を許可する外部ドメインのリストを表します。

MyDomainDiscoverableLogin

[私のドメイン] ログインページ種別が [検出] の場合の設定を表します。ログイン検出は ID ファーストのログイン環境を提供し、ログインページには識別子項目のみが含まれます。入力された識別子に基づき、ハンドラがユーザの認証方法を決定します。このオブジェクトは、API バージョン 45.0 以降で使用できます。

MessagingChannel
エンドユーザがエージェントへのメッセージ送信に使用できるコミュニケーションチャネルを表します。コミュニケーションチャネルには、SMS 番号、Facebook ページ、その他のサポート対象メッセージングチャネルを使用できます。このオブジェクトは、API バージョン 45.0 以降で使用できます。

MessagingChannelSkill
MessagingChannel と Skill との間の関連を表す連結オブジェクト。このオブジェクトは、API バージョン 45.0 以降で使用できます。

OpportunityContactRoleSuggestionInsight
新しい取引先責任者の役割の提案を表します。

OpportunityInsight
商談レコードに関連する個々のインサイト (案件予測、フォローアップアラーム、または重要な瞬間) を表します。

PermissionSetTabSetting
権限セットのタブ設定を表します。「設定の参照」権限が必要です。このオブジェクトを使用して、権限セットのすべてのタブ設定を照会します。このオブジェクトは、API バージョン 45.0 以降で使用できます。

Recommendation
Einstein Next Best Action の提案とアクションとして表示されるおすすめを表します。このオブジェクトは、以前は Next Best Action パイロットで Propositions と呼ばれていました。

ServiceTerritoryWorkType
Lightning Scheduler の予定でのサービステリトリーと作業種別間のリレーションを表します。

ServiceTerritoryWorkTypeFeed
サービステリトリー作業種別レコードのフィード活動 (投稿とコメントを含む) を表します。

ServiceTerritoryWorkTypeHistory
サービステリトリー作業種別レコードの項目の値に対する変更履歴を表します。

SurveyQuestionScore
ランキング、評価、スコアリング、スライダ、Net Promoter Score® (NPS®) の質問種別のスコアを表します。

UserAuthCertificate
組織のユーザ認証証明書を表します。ユーザ証明書は、組織で個々のユーザを認証するための一意の PEM エンコード X.509 デジタル証明書です。このオブジェクトは、API バージョン 45.0 以降で使用できます。

WorkTypeGroup
Lightning Scheduler で使用できる予定種別を分類するために使用される、作業種別のグルーピングを表します。

WorkTypeGroupFeed
作業種別グループレコードのフィード活動 (投稿とコメントを含む) を表します。

WorkTypeGroupHistory
作業種別グループレコードの項目の値に対する変更履歴を表します。

WorkTypeGroupMember
作業種別とそれが属する作業種別グループ間のリレーションを表します。

WorkTypeGroupMemberFeed

作業種別グループメンバーレコードのフィード活動 (投稿とコメントを含む) を表します。

WorkTypeGroupMemberHistory

作業種別グループメンバーレコードの項目の値に対する変更履歴を表します。

WorkTypeGroupShare

作業種別グループレコードの共有エントリを表します。

変更されたオブジェクト

次のオブジェクトが変更されました。

変更されたオブジェクト

AccountShare

`RowCause` 項目にサポート対象値として `Territory2AssociationManual` が追加されました。エンタープライズテリトリー管理 API バージョン 44.0 以前では、取引先をテリトリーに手動で割り当てたときに `TerritoryManual` 理由コードが AccountShare レコードに書き込まれていました。API バージョン 45.0 以降では、`TerritoryManual` のすべてのインスタンスが `Territory2AssociationManual` に置き換わり、取引先をテリトリーに手動で割り当てたときに `Territory2AssociationManual` 理由コードが AccountShare レコードに書き込まれます。

AccountUserTerritory2View

このオブジェクトで SOQL クエリを実行するときに 1 つの `AccountId` が含まれる検索条件が必要になりました。

Audience

`FormulaFilterName` 項目にサポート対象値として `CustomLogicMatches` が追加されました。

AuthConfig

`AuthOptionsCertificate` 項目が新規追加されました。この項目が `true` に設定されている場合、[私のドメイン] ログインページで証明書ベースのログインが表示されます。

BackgroundOperation

一意のログイン情報が定義されていないユーザのアクセスレベルが変更されました。

ChannelProgramMember

次の項目が新規追加されました。

- `LastReferencedDate` — 最後に参照された日付を表示します。
- `LastViewedDate` — 最後に表示された日付を表示します。

ContentDocument および ContentVersion

新しい「すべてのファイルのクエリ」権限では、ContentDocument および ContentVersion のクエリを実行し、組織のすべてのファイルを取得できます。「すべてのファイルのクエリ」権限では、すべてのファイル (非メンバーライブラリのファイルやリストに記載しないグループのファイルを含む) が返されます。「すべてのデータの参照」権限単独では、所有するファイルまたはアクセス権のあるファイルしかクエリできません。

ConversationEntry

API バージョン 43.0 で導入されたこのオブジェクトは『*Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス*』に追加されています。

EmailDomainKey

次の項目が新規追加されました。

- `KeySize` — RSA 鍵サイズを示します。

EmailMessage

メールに関連付けられているケイデンスステップを使用して追跡できるように、`ActionCadenceStepTrackerId` 項目が追加されました。

メールに使用されたテンプレートを追跡できるように、`EmailTemplateId` 項目が追加されました。

EmailMessageRelation

`RelationType` 項目にサポート対象値として `OtherAddress` が追加されました。メールの送信者または受信者でなかった人 (取引先責任者やユーザなど) のメールアドレスに使用されます。

EmailTemplate

メールテンプレートが含まれるフォルダを追跡できるように、`FolderName` が追加されました。以前は、Public または Private のみが使用可能でした。

Event

`GroupEventType` 項目で、値 `3` の表示ラベルが [非表示] から [IsRecurrence2 の定期的な行動パターン] に変更されました。

`OwnerId` 項目の `Assigned to ID` 値は、行動を所有するユーザまたは公開カレンダーに対応します。以前は、行動を所有できるのはユーザのみでした。

EventLogFile

次のイベント種別が新規追加されました。

- EventLogFile オブジェクトの実行時間が長い同時 Apex 制限イベント種別は、同時実行制限に達した後に Salesforce によって終了された、組織内の実行時間が長い同時 Apex 要求に関する情報を取得します。たとえば、ログ数を監視してベンチマークを取得したり、時間単位で件数をプロットしたりできます。そのログデータを使用して、どこで制限に達したかを識別できます。終了された要求の URI を識別することもできます。
- EventLogFile オブジェクトの新しい Apex の予期しない例外イベント種別は、Apex コード実行での予期しない例外に関する情報を取得します。例外情報を取得する標準の方法は、生成されたメールからの取得です。ただし、スタック追跡を含む、EventLogFile オブジェクトの Apex 例外情報の分析も選択できるようになりました。

ExternalDataSource

一意のログイン情報が定義されていないユーザのアクセスレベルが変更されました。

ExternalDataUserAuth

一意のログイン情報が定義されていないユーザのアクセスレベルが変更されました。

FieldHistoryArchive

項目監査履歴で、より多くのオブジェクトに対して項目履歴データ保持ポリシーを設定できます。FieldHistoryType 選択リストには、`Campaign`、`Individual`、`Order`、`OrderItem` のオプションが含まれるようになりました。

フォルダ

Type 項目にサポート対象値として EmailTemplate が追加されました。これは、Lightning メールテンプレートフォルダで使用されます。

メモ: Classic メールテンプレートフォルダでは Email を使用します。

ForecastingShare

次の項目が新規追加されました。

- RoleType — 売上予測共有に関連付けられた階層の種別。

ForecastingType

次の項目が変更されました。

- DeveloperName — 値 ***Territory_Model_Name***_ProductFamily が追加されました。*Territory_Model_Name* は、有効なテリトリーモデルの名前です。

KnowledgeArticle

次の項目が新規追加されました。

- MigratedToFromArticle — 対応する移行前または移行後の記事の ID。この項目には、Salesforce Classic のナレッジから Lightning Knowledge に移行する組織でのみ値が含まれます。

KnowledgeArticleVersion

次の項目が新規追加されました。

- MigratedToFromArticleVersion — 対応する移行前または移行後の記事のバージョン。この項目には、Salesforce Classic のナレッジから Lightning Knowledge に移行する組織でのみ値が含まれます。

LiveChatButton

この項目は非推奨です。

- CustomRoutingClassId

次の項目が新規追加されました。

- QueueId — このチャットボタンに使用されるキューのレコード ID。
- RoutingConfigurationId — このチャットボタンに使用されるルーティング設定のレコード ID。

LiveChatTranscript

次の項目が新規追加されました。

IsChatBotSession — 訪問者がチャットボットとチャットしているかどうかを示します。

LoginEvent

CipherSuite 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- ECDHE-RSA-AES128-SHA
- ECDHE-RSA-AES256-SHA

LoginHistory

次の項目が新規追加されました。

- OptionsIsGET — セッションログインに使用される HTTP メソッドは GET 要求です。
- OptionsIsPost — セッションログインに使用される HTTP メソッドは POST 要求です。

MacroHistory

Macro オブジェクトの項目値の変更を表します。API バージョン 32.0 で導入されたこのオブジェクトは『*SOAP API 開発者ガイド*』に追加されています。

MacroInstruction

`Operation` 項目にサポート対象値として `Close` が追加されました。Lightning コンソールアプリケーションの有効なタブを閉じるマクロ命令を作成するために使用します。

MacroShare

Macro オブジェクトの共有エントリを表します。API バージョン 32.0 で導入されたこのオブジェクトは『*SOAP API 開発者ガイド*』に追加されています。

MaintenancePlan

次の項目が新規追加されました。

- `WorkOrderGenerationMethod` — 作業指示の生成方法。納入商品ごとに 1 つの作業指示を作成するか、納入商品ごとに 1 つの作業指示品目を作成するかを選択できます。
- `SvcApptGenerationMethod` — サービス予定の生成方法。作業指示ごとに 1 つのサービス予定を作成するか、作業指示品目ごとに 1 つのサービス予定を作成するかを選択できます。

NamedCredential

一意のログイン情報が定義されていないユーザのアクセスレベルが変更されました。

NavigationLinkSet

このオブジェクトには、`create()`、`delete()`、`update()`、`upsert()` コールのサポートが新規追加されました。

Create プロパティと Update プロパティが次の項目に追加されました。

- `DeveloperName`
- `MasterLabel`
- `NetworkId`

Create、Defaulted on create、Nillable、Update プロパティが `Language` 項目に追加されました。

Network

次の項目が新規追加されました。

- `OptionsMemberVisibility` — コミュニティ単位でコミュニティユーザ表示を制御します。true の場合、選択したコミュニティで [コミュニティユーザ表示] 設定が有効になります。

NetworkActivityAudit

`ParentEntityType` 項目に新しい選択リスト値が追加されました。

OwnerChangeOptions

`type` 項目に次のオプションが追加されました。

- `TransferOwnedClosedOpportunities`: 取引先で、取引先所有者が所有する完了済み商談を新しい所有者に移行します。
- `TransferOwnedOpenCases`: 取引先で、取引先所有者が所有するオープンケースを新しい所有者に移行します。
- `TransferAllOwnedCases`: 取引先で、取引先所有者が所有するすべてのケース (オープンとクローズ) を新しい所有者に移行します。

以前は常に true だった 2 つのオプションは、true または false に設定できるようになりました。

- KeepAccountTeam:true の場合、所有者が変更されたときに取引先と共に取引先チームが保持されます。false の場合、取引先チームは削除されます。
- KeepSalesTeam: true の場合、所有者が変更されたときに商談と共に商談チームが保持されます。false の場合、商談チームは削除されます。

次の表示ラベルが変更されました。

- [自分が所有しない進行中の商談を移行] は [他のユーザが所有する進行中の商談を移行] に変更されました。
- [スタンドアロンおよび移行済み契約のドラフト注文] は [ドラフト状況の注文 (移行する取引先責任者を含むまたは含まない)] に変更されました。

PackageSubscriber

次の項目が新規追加されました。

- ParentOrg — Sandbox が作成された本番組織。

PartnerMarketingBudget

次の項目が新規追加されました。

- ChannelPartnerId — チャネルパートナーの ID。

PermissionSet

次の項目が新規追加されました。

- PermissionsHasUnlimitedNBAExecutions — ユーザに無制限の Einstein Next Best Action の実行を許可します。

PermissionSetAssignment

次の項目が新規追加されました。

- PermissionSetGroupId — 権限セットグループに関連付けられている場合、これはそのグループの ID です。この項目は、パイロットの一部として API バージョン 45.0 以降で使用できます。

PricebookEntry

次の項目が新規追加されました。

- isArchived — PricebookEntry がアーカイブされたかどうかを示します。

Profile

次の項目が新規追加されました。

- PermissionsHasUnlimitedNBAExecutions — ユーザに無制限の Einstein Next Best Action の実行を許可します。

QueueRoutingConfig

次の項目が新規追加されました。

- IsAttributeBased — このルーティングが属性ベースかどうかを示します。

RecordAction

次の項目が新規追加されました。

- IsUiRemoveHidden — ガイド付きアクションを削除する機能を UI で非表示にするかどうかを指定します。

次の項目が更新されました。

- `Status` — この項目に新しい値 `Unlinked` が追加されました。この値は、フローインタビューに関連付けられている現在のレコードが変更されたことを示します。

RecordActionHistory

次の項目が更新されました。

- `State` — この項目に新しい値 `Unlinked` が追加されました。この値は、フローインタビューに関連付けられている現在のレコードが変更されたことを示します。

RemoteKeyCalloutEvent

次の項目が新規追加されました。

- `RequestIdentifier` —キャッシュのみの鍵のリプレイ検出が有効なときに、すべてのコールアウトで送信される一意の自動生成マーカー。このマーカーは、FIPS 準拠のセキュアな乱数生成機能を使用して生成された 128 ビットの乱数です。

ReputationPointsRule

`Type` 項目で、アクションとしてプロファイル写真のアップロード (`ProfilePhotoUpload`) がサポートされるようになりました。

ScratchOrgInfo

次の項目が新規追加されました。

- `LoginUrl` — スクラッチ組織にログインする URL。この項目は参照のみです。

SiteDetail

SiteDetail 項目は、SOAP API バージョン 45.0 以降で公開されます。API バージョン 44.0 以前では、Tooling API を使用してゲストユーザモードで SiteDetail 項目をクエリできます。API バージョン 45.0 以降では、SOAP API を使用してゲストユーザモードでこのデータを取得します。SiteDetail は、引き続き Tooling API で「設定を参照」権限のあるユーザプロファイルに公開されます。

SurveyQuestionResponse

次の項目が新規追加されました。

- `Rank`

Task

Cadence は `Subtype` 項目の新しいエントリです。

TenantSecret

次の項目が新規追加されました。

- `RemoteKeyCertificate` — リモート鍵のコールアウト中に `SecretValue` を暗号化する公開鍵が含まれる証明書の名前。
- `RemoteKeyIdentifier` — リモート鍵サービスから取得した鍵素材の一意の識別子。
- `RemoteKeyServiceID` — リモート鍵サービスからリモート鍵素材を取得するために使用される指定ログイン情報。

Topic

新しい `ManagedTopicType` 項目では、トピックリストビューの管理トピックの種別(`Content`、`Featured`、`Navigational` など) を指定します。

WorkOrderLineItem

次の項目が新規追加されました。

- `SuggestedMaintenanceDate` — メンテナンス作業が計画されている日付。

- `IsGeneratedFromMaintenancePlan` — 作業指示品目がメンテナンス計画から生成されるかどうかを示します。
- `SuggestedMaintenanceDate` — 作業指示品目に関連付けられたメンテナンス計画。

Feed オブジェクトに追加された BestCommentId 項目

`BestCommentId` 項目がすべての *x*`Feed` オブジェクトに追加されました。

- AccountFeed
- ArticleType__Feed
- AssetFeed
- CampaignFeed
- CaseFeed
- ChannelProgramFeed
- ChannelProgramLevelFeed
- CollaborationGroupFeed
- ContactFeed
- ContentDocumentFeed
- ContractFeed
- DashboardComponentFeed
- DashboardFeed
- EntitlementFeed
- EventFeed
- GoalFeed
- LeadFeed
- LinkedArticleFeed
- LocationFeed
- MetricFeed
- NewsFeed
- OperatingHoursFeed
- OpportunityFeed
- OrderFeed
- OrderItemFeed
- PartnerFundAllocationFeed
- PartnerFundClaimFeed
- PartnerFundRequestFeed
- PartnerMarketingBudgetFeed
- Product2Feed
- ProductRequestFeed
- ProductTransferFeed
- ProfileSkillEndorsementFeed
- ProfileSkillFeed

- ProfileSkillUserFeed
- QuoteFeed
- ReportFeed
- ResourceAbsenceFeed
- ResourcePreferenceFeed
- ReturnOrderFeed
- ReturnOrderLineItemFeed
- ServiceAppointmentFeed
- ServiceContractFeed
- ServiceCrewFeed
- ServiceCrewMemberFeed
- ServiceResourceCapacityFeed
- ServiceResourceFeed
- ServiceResourceSkillFeed
- ServiceTerritoryFeed
- ServiceTerritoryMemberFeed
- SkillRequirementFeed
- SolutionFeed
- SurveyFeed
- TaskFeed
- TimeSheetEntryFeed
- TimeSheetFeed
- TopicFeed
- UserFeed
- UserProfileFeed
- WorkCoachingFeed
- WorkFeedbackRequestFeed
- WorkGoalFeed
- WorkOrderFeed
- WorkOrderLineItemFeed
- WorkPerformanceCycleFeed
- WorkTypeFeed

関連トピック:

キャッシュのみの鍵サービス (正式リリース) を使用して鍵の制御を維持

REST API

REST API には、新規、変更、および廃止されたコールが含まれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition と Unlimited Edition の Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンに適用されます。

新規、変更、および廃止されたコール

新しいコール

vXX.X/sobjects/Event/{EventId}/fromThisEventOnwards
発生した残りすべての IsReccurrence2 イベントを削除します。

/vXX.X/support/embeddedservice/configuration/{EmbeddedServiceConfigDeveloperName}
記述用の組み込みサービス設定は、ブランドの色、フォント、サイト URL を含む Snap-in リリース設定の値を取得します。

変更されたコール

/vXX.X/limits/
limits リソースで CometD クライアントに配信される日次標準プラットフォームイベント最大割り当てと残りの割り当てが返されるようになりました。

次の例は、Developer Edition 組織の返される割り当てを示しています。

```
"DailyStandardVolumePlatformEvents" : {
    "Max" : 10000,
    "Remaining" : 10000
},
```

/vXX.X/limits/
limits リソースで長期的な外部レコード ID の対応付けの最大および残りの 1 時間ごとの割り当てが返されるようになりました。

次の例は、Developer Edition 組織の返される割り当てを示しています。

```
"HourlyLongTermIdMapping" : {
    "Max" : 100000,
    "Remaining" : 99999
},
```

/vXX.X/limits/
limits リソースで短期的な外部レコード ID の対応付けの最大および残りの 1 時間ごとの割り当てが返されるようになりました。

次の例は、Developer Edition 組織の返される割り当てを示しています。

```
"HourlyShortTermIdMapping" : {
    "Max" : 100000,
    "Remaining" : 99999
},
```

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。投稿にハイパーリンクを追加したり、ユーザの活動目的アクティビティを消去したり、正式リリースされた Next Best Action を利用したりします。

メモ: カスタム Chatter とコミュニティの環境を Salesforce で作成するには、ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum を使用します。

このセクションの内容:

新規および変更された Chatter REST API リソース
次のリソースが新規追加または変更されました。

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ
新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ
新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

新規および変更された Chatter REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

Chatter フィード

投稿へのハイパーリンクの追加
更新された Message Segment Input: Markup Begin および Message Segment Input: Markup End リクエストボディを指定して、既存の `/chatter/feed-elements` リソースに対し POST 要求を実行します。

コメントへのハイパーリンクの追加
更新された Message Segment Input: Markup Begin および Message Segment Input: Markup End リクエストボディを指定して、既存の `/chatter/feed-elements/feedElementId/capabilities/comments/items` リソースに対し POST 要求を実行します。

公開グループ間の投稿の移動
既存の Feed Item Input リクエストボディを指定して、既存の `/chatter/feed-elements/`***`feedElementId`*** リソースに対し PATCH 要求を実行します。Feed Item Input リクエストボディの `subjectId` プロパティを新しい公開グループ ID に設定します。

活動目的

ユーザの活動目的アクティビティのエクスポート
新規 `/connect/communities/`***`communityId`***`/missions/users/`***`userId`***`/activities/export-job` リソースに対して GET 要求を実行します。

ユーザの活動目的アクティビティを消去するジョブの開始
新規 `/connect/communities/`***`communityId`***`/missions/users/`***`userId`***`/activities/purge-job` リソースに対して POST 要求を実行します。

メモ: POST は、要求パラメータもリクエストボディも取りません。

ユーザの活動目的アクティビティ数の更新
新規 User Mission Activity Input リクエストボディを指定して、新規 `/connect/communities/`***`communityId`***`/missions/users/`***`userId`*** リソースに対して PATCH 要求を実行します。

Next Best Action (正式リリース)

すべての Next Best Action リソース (バージョン 43.0 および 44.0 で導入されたリソースを含む) は、最小バージョンが 45.0 に設定されるようになりました。関連するリクエストボディとレスポンスボディのすべてのプロパティも、最小バージョンは 45.0 になります。

おすすめの取得

新規 `/connect/recommendations/recommendationId` リソースに対して GET 要求を実行します。

メモ: このリソースは、`/connect/propositions/propositionId` の代わりになるものです。

戦略の実行と追跡情報の要求

更新された Next Best Action Strategy Input リクエストボディを指定するか、新規 `debugTrace` パラメータを `true` に設定して、既存の `/connect/recommendation-strategies/strategyName/recommendations` リソースに対して POST 要求を実行します。

おすすめの反応の取得

既存の `/connect/recommendation-strategies/reactions` リソースに対して GET 要求を実行します。

「Next Best Action Recommendations の管理」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザはおすすめの反応を取得できます。

おすすめの反応の取得

新規 `/connect/recommendation-strategies/reactions/reactionId` リソースに対して GET 要求を実行します。

「Next Best Action Recommendations の管理」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザはおすすめの反応を取得できます。

おすすめの反応の削除

新規 `/connect/recommendation-strategies/reactions/reactionId` リソースに対して DELETE 要求を実行します。

「Next Best Action Recommendations の管理」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザはおすすめの反応を削除できます。

ソーシャルエンゲージメント

ソーシャル投稿の使用可能なインテントの取得

新規 `/connect/social-engagement/social-posts/socialPostId/intents` リソースに対して GET 要求を実行します。

ソーシャル人格のフォロー

新規 `/connect/social-engagement/social-persona/socialPersonaId/intents/follow/socialAccountId` リソースに対して PUT 要求を実行します。

socialPersonaId はフォローする人格の ID で、*socialAccountId*は人格をフォローするアカウントの ID です。

新規 `/connect/social-engagement/social-posts/socialPostId/intents/follow/socialAccountId` リソースに対して PUT 要求を実行します。

socialPostId はフォローする人格によって作成された投稿で、*socialAccountId* は人格をフォローするアカウントの ID です。

ソーシャル人格のフォローの停止

新規
`/connect/social-engagement/social-persona/`***`socialPersonaId`***`/intents/follow/`***`socialAccountId`***
リソースに対して DELETE 要求を実行します。

socialPersonaId はフォローを停止する人格の ID で、*socialAccountId* は人格のフォローを停止するアカウントの ID です。

新規
`/connect/social-engagement/social-posts/`***`socialPostId`***`/intents/follow/`***`socialAccountId`***
リソースに対して DELETE 要求を実行します。

socialPostId はフォローを停止する人格によって作成された投稿で、*socialAccountId* は人格のフォローを停止するアカウントの ID です。

ソーシャルエンゲージメントの設定

ソーシャルカスタマーサービス設定の取得

新規 `/connect/social-engagement/setup/config` リソースに対して GET 要求を実行します。

ソーシャルカスタマーサービス設定の更新

既存の Social Customer Service Configuration リクエストボディを指定して、新規 `/connect/social-engagement/setup/config` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

ユーザ

ユーザのグループの取得と検索およびグループの詳細情報の取得

既存の `/chatter/users/`***`userId`***`/groups` リソースに対して GET 要求を実行します。このリソースで User Group Detail Collection レスポンスボディが返されるようになりました。

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

Chatter フィード

Message Segment Input: Markup Begin

このリクエストボディには、次の新規追加および変更されたプロパティがあります。

- `altText` — `Hyperlink` セグメントの代替テキスト。
- `markupType` — ハイパーリンクマークアップがサポートされるようになりました。
- `url` — `Hyperlink` セグメントの URL。サポートされているハイパーリンク URL は、`http://` または `https://` で始まります。

Message Segment Input: Markup End

このリクエストボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- `markupType` — ハイパーリンクマークアップがサポートされるようになりました。

活動目的

User Mission Activity Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `activityCount` — 指定されたユーザ種別の活動目的アクティビティの数。
- `activityType` — ユーザの活動目的アクティビティの種別。値は次のとおりです。
  - `FeedItemAnswerAQuestion` — ユーザが質問に回答しました。
  - `FeedItemLikeSomething` — ユーザが投稿またはコメントにいいね! しました。
  - `FeedItemMarkAnswerAsBest` — ユーザが回答を最良の回答としてマークしました。
  - `FeedItemPostQuestion` — ユーザが質問を投稿しました。
  - `FeedItemReceiveAComment` — ユーザが投稿に対するコメントを受け取りました。
  - `FeedItemReceiveALike` — ユーザが投稿またはコメントに対するいいね! を受け取りました。
  - `FeedItemReceiveAnAnswer` — ユーザが質問に対する回答を受け取りました。
  - `FeedItemWriteAComment` — ユーザが投稿に対してコメントしました。
  - `FeedItemWriteAPost` — ユーザが投稿しました。
  - `FeedItemYourAnswerMarkedBest` — ユーザの回答が最良の回答としてマークされました。

Next Best Action (正式リリース)

Next Best Action Strategy Input

このリクエストボディには、1 つの新規プロパティがあります。

- `debugTrace` — 応答で追跡情報やデバッグ情報を返すか (`true`)、否か (`false`) を指定します。指定されていない場合、デフォルトは `false` です。

Recommendation Reaction Input

このリクエストボディの以前の名前は Next Best Action Reaction Input でした。

ソーシャルエンゲージメントの設定

Social Customer Service Configuration Input

このリクエストボディには、1 つの新規プロパティがあります。

- `providerSettings` — 特定のソーシャルネットワークの動作に関連するソーシャルカスタマーサービス設定のリスト。

Social Customer Service Message Type Settings Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `enable` — メッセージ種別をソーシャルカスタマーサービスに送信するか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `messageType` — `PrivateMessage` などのメッセージ種別を指定します。

Social Customer Service Provider Settings Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `messageTypeSettings` — 特定のメッセージ種別の動作に関連するソーシャルカスタマーサービス設定のリスト。

- provider — Facebook などのソーシャルネットワークプロバイダを指定します。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

Chatter フィード

Message Segment: Markup Begin

このレスポンスボディには、次の新規追加および変更されたプロパティがあります。

- altText — セグメントの代替テキスト (使用可能な場合)。
- markupType — ハイパーリンクマークアップがサポートされるようになりました。
- url — セグメントの URL (使用可能な場合)。

Message Segment: Markup End

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- markupType — ハイパーリンクマークアップがサポートされるようになりました。

コミュニティ

コミュニティ

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- memberVisibilityEnabled — コミュニティメンバーが他のコミュニティメンバーを表示できるか (true)、否か (false) を示します。

活動目的

User Mission Activities Job

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- jobToken — 活動目的のユーザアクティビティジョブを識別するトークン。
- jobType — ユーザアクティビティジョブの種別 (export または purge)。
- message — ジョブの状況と想定される結果を表すメッセージ。

User Mission Activity

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- activityCount — 指定されたユーザ種別の活動目的アクティビティの数。
- activityType — ユーザの活動目的アクティビティの種別。

User Mission Activity Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- community — ユーザがアクティビティを実行したコミュニティ。
- userId — ユーザの ID。
- userMissionActivities — ユーザが実行した活動目的アクティビティのリスト。
- userName — ユーザの名前。

User Mission Activity Status
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `message` — 成功またはエラーメッセージ。
- `status` — ユーザの活動目的アクティビティの状況。

Next Best Action (正式リリース)

Next Best Action Native Recommendation
このレスポンスボディの以前の名前は Next Best Action Proposition Recommendation でした。

Next Best Action Recommendation
このレスポンスボディから次のプロパティが削除されました。

- `actionReference`
- `id`
- `name`
- `url`

Next Best Action Recommendations
このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- `trace` — おすすめ戦略実行の追跡情報 (要求された場合)。

Recommendation Object
このレスポンスボディの以前の名前は Proposition でした。

Recommendation Reaction
このレスポンスボディの以前の名前は Next Best Action Reaction でした。次の 1 つの新規プロパティがあります。

- `url` — おすすめの反応への URL。

Recommendation Reactions
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currentPageUrl` — コレクションの反応の現在のページへの URL。
- `nextPageUrl` — コレクションの反応の次のページへの URL。
- `reactions` — おすすめの反応のコレクション。

Strategy Trace
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `messages` — 戦略実行のメッセージおよびエラー
- `nodes` — デバッグに使用された戦略実行のノード。

Strategy Trace Node
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `inputCount` — ノードに配置された項目の数。
- `messages` — ノードの実行中に発生したメッセージ。
- `nodeName` — ノードの名前。
- `nodeTime` — ノード内の処理に費やした時間。

- nodeType — ノードの種別。
- outputCount — ノードから返された項目の数。
- outputs — ノードから返されたおすすめ。
- totalTime — 処理に費やした合計時間。

ソーシャルエンゲージメント

Approval Social Post Intent

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- isRecallable — ソーシャル投稿が取り消し可能か (true)、否か (false) を示します。

Delete Intent

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- managedSocialAccount — ソーシャル投稿を削除する管理ソーシャル取引先。

Delete Social Post Intents

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- deletes — ソーシャル投稿の削除インテントのリスト。

Follow Social Persona Intent

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- managedSocialAccount — ソーシャル人格をフォローする管理ソーシャル取引先。
- socialPersonaId — フォローするソーシャル人格の ID。

Follow Social Persona Intents

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- follows — ソーシャル人格のフォローインテントのリスト。

Hide Social Post Intent

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- isHidden — 管理ソーシャル取引先がソーシャル投稿を非表示にしたか (true)、否か (false) を示します。
- managedSocialAccount — ソーシャル投稿を非表示する管理ソーシャル取引先。

Like Intent

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- isLiked — 管理ソーシャル取引先がソーシャル投稿にいいね! と言ったか (true)、否か (false) を示します。
- managedSocialAccount — ソーシャル投稿にいいね! と言う管理ソーシャル取引先。

Like Social Post Intents

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- likes — ソーシャル投稿のいいね! インテントのリスト。

Reply Social Post Intent

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- managedSocialAccount — ソーシャル投稿に返信する管理ソーシャル取引先。

Reply Social Post Intents
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `replies` — ソーシャル投稿の返信インテントのリスト。

Social Post Intents
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `approvalIntent` — ソーシャル投稿の承認インテントのリスト。
- `deleteIntent` — ソーシャル投稿の削除インテントのリスト。
- `followIntent` — ソーシャル人格のフォローインテント。
- `hideIntent` — ソーシャル投稿の非表示インテントのリスト。
- `likeIntent` — ソーシャル投稿のいいね! インテントのリスト。
- `replyIntent` — ソーシャル投稿の返信インテントのリスト。

ソーシャルエンゲージメントの設定

Social Customer Service Configuration
このリクエストボディには、1 つの新規プロパティがあります。

- `providerSettings` — 特定のソーシャルネットワークの動作に関連するソーシャルカスタマーサービス設定のリスト。

Social Customer Service Message Type Settings
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `enable` — メッセージ種別がソーシャルカスタマーサービスに送信されるか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `messageType` — `PrivateMessage` などのメッセージ種別を指定します。

Social Customer Service Provider Settings
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `messageTypeSettings` — 特定のメッセージ種別の動作に関連するソーシャルカスタマーサービス設定のリスト。
- `provider` — `Facebook` などのソーシャルネットワークプロバイダを指定します。

ユーザ

User Group Detail Collection
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currentPageUrl` — 現在のページの URL。
- `groups` — ユーザがメンバーであるグループのコレクション。
- `nextPageUrl` — 次のページへの URL。次のページがない場合は `null`。
- `previousPageUrl` — 前のページへの URL。前のページがない場合は `null`。
- `total` — ユーザがメンバーであるグループの合計数。

レポートおよびダッシュボード REST API

Lightning Experience の履歴追跡レポートの機能強化 (ベータリリース) をサポートするようにレポートとダッシュボードの REST API が強化されました。この機能をサポートするため、`/analytics/report-types/` リソースに新しいプロパティが追加され、`/analytics/report-types/`***type*** リソースで新しいレポートタイプがサポートされます。

詳細は *『Reports and Dashboards REST API Developer Guide (Salesforce レポートおよびダッシュボード REST API 開発者ガイド)』* を参照してください。

変更されたリソース:

Lightning Experience の履歴追跡レポートの機能強化をサポートするようにレポートとダッシュボードの REST API が更新されました。

レポート (`/analytics/report-types/`)

`/analytics/report-types/` リソースに新しいプロパティが追加されました。

プロパティ	型	説明
`isHistorical`	Boolean	省略可能。このプロパティがない場合、値は `false` とみなされます。履歴追跡レポートタイプでは、この値は `true` です。 API バージョン 45.0 以降で利用できます。

レポート (`/analytics/report-types/`*type*)

`/analytics/report-types/`***type*** リソースで新しいレポートタイプがサポートされます。

型	説明
Opportunities_with_Historical_Trending_c	履歴トレンドが関連する商談レポートタイプの `GET` 出力を提供し、レポートのデフォルトビュー用のレポートメタデータを読み込んでコンパイルします。 API バージョン 45.0 以降で利用できます。

ユーザインターフェース API

Salesforce が Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web を構築するときに使用するのと同じ API を使用して、Salesforce UI を構築できます。レコード、リストビュー、アクション、お気に入りなどをユーザが操作できるユーザインターフェースを構築します。

すべてのナビゲーション項目の表示

ユーザがアクセスできるすべてのナビゲーション項目を取得するには、新しい UI API リソース `GET /ui-api/nav-items` をコールします。`formFactor` で結果を絞り込み、結果を表示するための `pageSize` および `page` を指定します。

`/ui-api/nav-items` リソースは、2 つの string 型のプロパティを `navItems` オブジェクトに追加します。

- `currentPageUrl` — ナビゲーション項目の現在のページへの URL。

- `nextPageUrl` — ナビゲーション項目の次のページへの URL。

レコード取得時の省略可能な項目のみの要求

`optionalFields` パラメータのみを `/ui-api/records/{recordId}` リソースに渡せるようになりました。

```
GET /ui-api/records/001d000000AtfRIAAZ?optionalFields=Name,Id,AccountNumber,AnnualRevenue
```

コンテキストユーザに `optionalFields` パラメータで渡される項目へのアクセス権がない場合でも要求は成功します。

以前の API バージョンでは、要求で `fields` または `layoutTypes` パラメータが必要です。コンテキストユーザに `fields` パラメータで渡される項目へのアクセス権がない場合、エラーが返されます。

Tooling API

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

新しいオブジェクト

LightningComponentBundle

Lightning Web コンポーネントバンドルを表します。バンドルには、Lightning Web コンポーネントとそれに関連するリソースが含まれます。

LightningComponentResource

Lightning Web コンポーネントリソース (HTML マークアップ、JavaScript コード、CSS ファイル、SVG リソース、XML 設定ファイルなど) を表します。

CustomHelpMenuSection

システム管理者が組織固有のカスタムヘルプリソースを表示するために追加した Lightning Experience ヘルプメニューのセクションを表します。

変更されたオブジェクト

CleanRule

次の項目が新規追加されました。

`MatchConfidence`

Lightning Data レコードが Salesforce レコードにどの程度近似しているかを示します。設定されている最小値が大きいほど、一致の精度が高くなります。この項目は、サードパーティデータの一致スコアをサポートするパッケージで使用されます。

EmbeddedServiceConfig

次の項目が新規追加されました。

`AreGuestUsersAllowed`

ユーザが Snap-in にアクセスするときにログインする必要があるかどうかを指定します。

EventSubscription

次の項目が変更されました。

`EventType`

値 `StandardPlatformEvent` が追加されました。標準プラットフォームイベント種別を表します。

FieldDefinition

次の項目が新規追加されました。

`businessOwnerId` (ベータ)
この項目に関連付けられた人またはグループを示します。

`businessStatus` (ベータ)
項目が使用中かどうかを示します。

`SecurityClassification` (ベータ)
この項目に含まれるデータの機密性を示します。

FieldMappingRow

次の項目が変更されました。

`Operation`
`Operation` 項目は参照のみではなくなりました。新しい `Overwrite` 値により、空の項目が入力され、すでにデータが含まれる項目が更新されます。`Overwrite` に設定された項目では履歴管理が必要です。

Flow

次の項目が新規追加されました。

`IsTemplate`
プロセスまたはフローがテンプレートであるかどうかを示します。管理パッケージからインストールされた場合、知的財産 (IP) の保護により、登録者はプロセスとフローの参照やコピーを行うことができません。ただし、プロセスやフローがテンプレートの場合、登録者はそれをビルダーで開いたり、コピーしたり、カスタマイズしたりできます。

次の項目が変更されました。

`ProcessType`
新しい `ContactRequest` 値により、顧客はカスタマーサポートに折り返し連絡するように要求できます。

PackageInstallRequest

次の項目が新規追加されました。

`UpgradeType`
パッケージのアップグレードの場合、削除されたすべてのコンポーネントを廃止としてマークする (`DeprecateOnly`) か、削除されたコンポーネントのうち安全に削除できるコンポーネントを削除してそれ以外のコンポーネントを廃止する (`Mixed`) かを指定します。デフォルトは `Mixed` です。

SiteDetail

SiteDetail 項目は、SOAP API バージョン 45.0 以降で公開されます。API バージョン 44.0 以前では、Tooling API を使用してゲストユーザモードで SiteDetail 項目をクエリできます。API バージョン 45.0 以降では、SOAP API を使用してゲストユーザモードでこのデータを取得します。SiteDetail は、引き続き Tooling API で「設定を参照」権限のあるユーザプロファイルに公開されます。

TabDefinition

次の項目が新規追加されました。これらの項目では、Salesforce アプリケーションのタブのフォーム要素がサポートされています。

`IsAvailableInDesktop`
タブがデスクトップユーザインターフェースで使用できる場合、`true` に設定します。

`IsAvailableInMobile`
タブが Salesforce アプリケーションで使用できる場合、`true` に設定します。

`MobileUrl`
タブがモバイルで使用できる場合、これはタブで Salesforce アプリケーションのユーザが転送される URL になります。タブがモバイルで使用できない場合、これは null に設定されます。

QuickActionDefinition
次の項目が変更されました。

StandardLabel
新しい `ScheduleAppointment` 値により、顧客は Lightning Scheduler を使用して予定をスケジュールできます。

関連トピック:

Tooling API: sObject コレクションを使用した FlexiPage オブジェクトの往復回数の減少

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

新しいメタデータ型

CustomHelpMenuSection
システム管理者が組織固有のカスタムヘルプリソースを表示するために追加した Lightning Experience のヘルプメニューのセクションを表します。カスタムセクションには、システム管理者が追加したヘルプリソースが含まれます。

EmbeddedServiceFlowConfig
フロー Snap-in を作成するための設定ノードを表します。

LightningComponentBundle
Lightning Web コンポーネントと呼ばれる新しい Lightning コンポーネントの種類を表します。バンドルには、Lightning Web コンポーネントリソース (HTML、JavaScript、CSS ファイルなど) が含まれます。

元の Lightning コンポーネントは、Aura コンポーネントと呼ばれるようになりました。メタデータ型は AuraDefinitionBundle のままです。

RecommendationStrategy
おすすめ戦略を表します。おすすめ戦略はデータフローに似たアプリケーションで、データ取得、分岐、および論理演算を使用してクライアントに提供されるおすすめのセットを決定します。

RecordActionDeployment
ガイド付きアクションリストの設定が含まれるリリースを表します。リリースでは、チャネルのデフォルトとユーザが実行時に追加できるアクションを指定します。

PlatformEventChannel
Salesforce の [変更データキャプチャ] ページで変更データキャプチャ通知に選択されたエンティティのコレクションを表します。変更データキャプチャでは、選択されたエンティティの作成、更新、削除、復元されたレコードの通知のみが送信されます。

更新されたメタデータ型

次のメタデータ型が変更され、メタデータ項目も新規追加または変更されました。

Audience

次の項目が新規追加または変更されました。

- `formula` — この新規項目は、利用者を決定するために使用する数式を示します。
- `formulaFilterType` — この項目は、`CustomLogicMatches` 値が含まれるようになりました。

AudienceCriterion (Audience サブタイプ)

次の項目が新規追加または変更されました。

- `criteriaNumber` — この新規項目は、数式内の条件に関連付けられた数値を示します。
- `operator` — この項目は、値 `Includes` および `NotIncludes` が含まれるようになりました。
- `type` — この項目は、値 `Permission` が含まれるようになりました。

AudienceCriteriaValue (AudienceCriterion サブタイプ)

この項目が新規追加されました。AudienceCriterion `type` 項目の値が `Permission` の場合にのみ使用できます。

- `isEnabled` — この項目は、ユーザの権限が有効かどうかを示します。
- `permissionName` — この項目は、標準ユーザまたはカスタム権限の有効な API 参照名を示します。
- `permissionType` — この項目は、権限タイプが標準かカスタムかを示します。

Bot

次の項目が新規追加されました。

`contextVariableMappings` (ConversationContextVariable サブタイプ)

コンテキスト変数、チャネル種別、および sObject 項目間の対応付けを表します。

`contextVariables`

チャネルに関係なくボットで顧客情報を収集できるようにするコンテキスト変数を表します。

`dataType` (ConversationContextVariable サブタイプ)

コンテキスト変数のデータ型を表します。

`developerName` (ConversationContextVariable サブタイプ)

コンテキスト変数の名前を表します。

`fieldName` (ConversationContextVariableMapping サブタイプ)

対応付けの一部として使用する sObject 項目の API 参照名。

`label` (ConversationContextVariable サブタイプ)

Salesforce ユーザインターフェース全体でコンテキスト変数を識別する表示ラベル。

`messageType` (ConversationContextVariableMapping サブタイプ)

チャネル (SMS メッセージまたは Live Agent チャットのいずれか) を表します。

`SObjectType` (ConversationContextVariableMapping サブタイプ)

対応付けの一部として定義する項目プロパティの sObject 型。

BotVersion

次の項目が新規追加または変更されました。

dataType (ConversationVariable サブタイプ)
新しい `Id` 値は、ID データ型 (取引先責任者 ID やユーザ ID など) を表します。

leftOperandType (BotStepCondition サブタイプ)
新しい値 `ConversationVariable` および `ContextVariable` は、ボットステップ条件で使用する変数種別を表します。

sourceType (BotVariableOperand サブタイプ)
この項目の有効な値 `StandardConversationVariable`、`ConversationVariable`、`ContextVariable`、`MlSlotClass`、`StandardMlSlotClass`、`Value` がドキュメントに記載されました。

targetType (BotStepCondition サブタイプ)
値 `ConversationVariable` および `ContextVariable` が追加されました。

type (BotNavigation サブタイプ)
`EndChat` 値が削除されました。

variableType (BotInvocationMapping サブタイプ)
値 `ConversationVariable` および `ContextVariable` が追加されました。

CommunityThemeDefinition
次の項目が新規追加されました。

publisher
コミュニティ作成ウィザードで表示されるパブリッシャーの名前を定義します。名前が指定されていない場合、パッケージのエクスポート元組織の名前になります。

CommunityTemplateDefinition
次の項目が新規追加されました。

publisher
コミュニティ作成ウィザードで表示されるパブリッシャーの名前を定義します。名前が指定されていない場合、パッケージのエクスポート元組織の名前になります。

CustomField
次の項目が新規追加されました。

businessOwnerGroup (ベータ)
この項目に関連付けられたグループを示します。

businessOwnerUser (ベータ)
この項目に関連付けられた人を示します。

businessStatus (ベータ)
項目が使用中かどうかを示します。

securityClassification (ベータ)
この項目に含まれるデータの機密性を示します。

EmbeddedServiceConfig
次の項目が新規追加されました。

areGuestUsersAllowed
ユーザが Snap-in にアクセスするときにログインする必要があるかどうかを指定します。

embeddedServiceFlowConfig
Snap-in フローを作成するための設定ノードを表します。

embeddedServiceFlows
Snap-in リリースで使用されるフローをリストします。

FlexiPage
次の項目が変更されました。

appendable、**replaceable**、および **prependable** (**FlexiPageRegion** サブタイプ)
これらの項目をコミュニティで使用し、FlexiPage のロック済みおよびロック解除済みの領域を制御できるようになりました。

type
新しい `CommFlowPage` 値は、コミュニティで使用できる標準のフローページを表します。

Flow
次の項目が新規追加されました。

isTemplate
プロセスまたはフローがテンプレートであるかどうかを示します。管理パッケージからインストールされた場合、知的財産 (IP) の保護により、登録者はプロセスとフローの参照やコピーを行うことができません。ただし、プロセスやフローがテンプレートの場合、登録者はそれをビルダーで開いたり、コピーしたり、カスタマイズしたりできます。

textTemplates (**FlowTranslation** サブタイプ)
フロー内のテキストテンプレートの翻訳の詳細が含まれます。`FlowTextTemplateTranslation` は、Salesforce アンケートで作成されたフローでのみ使用できます。

次の項目が変更されました。

processType
新しい `ContactRequestFlow` 値により、顧客はカスタマーサポートに折り返し連絡するように要求できます。

actionType (**FlowActionCall** サブタイプ)
次の値が追加されました。

- `archiveKnowledgeArticles` — このアクションでは、公開ナレッジ記事のリストがアーカイブされます。
- `contactRequestAction` — このアクションでは、連絡要求レコードが作成されます。
- `createDraftFromOnlineKnowledgeArticle` — このアクションでは、公開ナレッジ記事からドラフトが作成されます。
- `restoreKnowledgeArticleVersion` — このアクションでは、ナレッジ記事のアーカイブバージョンが復元されます。

limit (**FlowDynamicChoiceSet** サブタイプ)
この項目は Nillable になりました。

ForecastingSettings
次の項目が変更されました。

name
値 ***Territory_Model_Name***_ProductFamily が追加されました。*Territory_Model_Name* は、有効なテリトリーモデルの名前です。

IoTSettings
組織の IoT 設定 (IoT または IoT インサイトが有効かどうかなど) を表します。この型は、API バージョン 44.0 で導入され、『*メタデータ API 開発者ガイド*』に追加されました。

LiveChatAgentConfig
次の項目が『*メタデータ API 開発者ガイド*』に追加されました。

customAgentName
エージェントのカスタム名を指定します (設定されている場合)。API バージョン 29.0 以降で利用できます。

enableChatMonitoring
サポートスーパーバイザのチャット監視が有効になっているかどうかを示します。API バージョン 29.0 以降で利用できます。

enableChatTransferToAgent
エージェントがチャットを他のエージェントに転送できるかどうかを示します。API バージョン 36.0 以降で利用できます。

enableChatTransferToButton
エージェントがチャットをボタンに転送できるかどうかを示します。API バージョン 36.0 以降で利用できます。

enableChatTransferToSkill
エージェントがチャットをスキルグループに転送できるかどうかを示します。API バージョン 36.0 以降で利用できます。

enableWhisperMessage
サポートスーパーバイザがチャット中に示唆メッセージをエージェントに送信できるかどうかを示します。API バージョン 29.0 以降で利用できます。

LiveMessageSettings
組織の LiveMessage 設定を表します。この型は、API バージョン 42.0 で導入され、『*メタデータ API 開発者ガイド*』に追加されました。

MacroSettings
次の項目が変更されました。

macrosInFolders
API バージョン 44.0 で導入されたこの項目は、ユーザがフォルダを使用してマクロを整理および共有できるかどうかを示します。この MacroSettings 型は、『*メタデータ API 開発者ガイド*』に追加されました。

Network
次の項目が新規追加されました。

enableMemberVisibility
コミュニティ単位でコミュニティユーザ表示を制御します。true の場合、選択したコミュニティで [コミュニティユーザ表示] 設定が有効になります。

ProfileActionOverride

API バージョン 45.0 以降、このメタデータ型は Profile で定義できません。代わりに、ProfileActionOverride には、これを含む CustomApplication からアクセスします。より詳細なホームページの割り当てがサポートされるように、ユーザプロファイルに関連するホームページの割り当てには、対応するアプリケーションの割り当ても含めることが必要になりました。そのため、ProfileActionOverride は、Profile ではなく CustomApplication で定義されます。

Queue

次の項目が変更されました。

`sobjectType`

新しい `ContactRequest` 値では、連絡要求のキューを作成できます。

SharingSet

次の項目が変更されました。

`object`

`Campaign`、`Opportunity`、および `Order` 値が正式リリースされました。

`userField`

`Contact.RelatedAccount` ユーザ値が正式リリースされました。

QuickAction

次の項目が変更されました。

standardLabel

新しい `ScheduleAppointment` 値により、顧客は Lightning Scheduler を使用して予定をスケジュールできます。

Lightning クイックアクションおよび Salesforce Classic パブリッシャーの JavaScript API

新しいウィンドウで開くユーティリティで Lightning クイックアクション JavaScript API および Salesforce Classic パブリッシャー JavaScript API を使用します。クイックアクション API の `getAvailableActionFields` メソッドの応答の形式も変更されました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 変更の詳細を次に示します。

- `lightning:quickActionAPI` コンポーネントでは、ユーティリティのポップアウトがサポートされています。ただし、getCustomAction メソッドはまだユーティリティのポップアウトでは機能しません。
- Salesforce Classic パブリッシャー API でも、ユーティリティバーで使用される Visualforce ページに配置すれば、ユーティリティのポップアウトがサポートされます。`customActionMessage` では、ユーティリティのポップアウトはサポートされません。
- `getAvailableActionFields` メソッドで fields 配列の応答が返されるようになりました。この例を次に示します。

```
success: true,
fields:
    {fieldName: "Subject", type: "textEnumLookup"}
    {fieldName: "Description", type: "TextArea"}
```

```
    {fieldName: "WhoId", type: "Lookup"},
errors: []
```

関連トピック:

パブリッシャーおよびクイックアクション開発者ガイド(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning コンソール JavaScript API

Lightning コンソール JavaScript API は、従来の Salesforce コンソールインテグレーションツールキットで最も頻繁に使用されるメソッドおよびイベントと同等になりました。タブの色の設定、ユーティリティポップアウトの無効化、ブラウザタブのタイトルの編集ができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 次のメソッドが API バージョン 45.0 で新規追加または変更されました。

Live Agent

`endChat()`
API バージョン 43.0 で導入されたこのメソッドは、エージェントが現在参加しているチャットを終了します。このメソッドは、『*Salesforce コンソール開発者ガイド*』に追加されました。

`getChatLog()`
API バージョン 43.0 で導入されたこのメソッドは、特定の recordId に関連付けられたチャットのチャットログを返します。このメソッドは、『*Salesforce コンソール開発者ガイド*』に追加されました。

`sendCustomEvent()`
API バージョン 43.0 で導入されたこのメソッドは、特定のチャットキーを持つチャットのクライアント側のチャットウィンドウにカスタムイベントを送信します。このメソッドは、『*Salesforce コンソール開発者ガイド*』に追加されました。

`sendMessage()`
API バージョン 43.0 で導入されたこのメソッドは、特定のチャットキーを持つチャットにエージェントから新しいチャットメッセージを送信します。このメソッドは、『*Salesforce コンソール開発者ガイド*』に追加されました。

ワークスペースタブとサブタブ

`setTabHighlighted()`
新しい引数は、強調表示されるタブの色を変更します。

`addToBrowserTitleQueue()`
3 秒ごとに回転するブラウザのタイトルバーのタイトルリストに文字列を追加します。

`removeFromBrowserTitleQueue()`
3 秒ごとに回転するブラウザのタイトルバーのタイトルリストから文字列を削除します。

`setTabLink()`
ブラウザのナビゲーションの固定 URL を設定します。この Salesforce コンソールインテグレーションツールキット API メソッドは、Lightning コンソール JavaScript API でサポートされるようになりました。

ユーティリティ

disableUtilityPopOut()
ユーティリティのポップアウトを無効にします。

その他

lightning:unsavedChanges
このコンポーネントは Lightning コンソール JavaScript API の一部ではありませんが、Salesforce コンソールインテグレーションツールキット API とのギャップを埋めます。

関連トピック:

保存されていない変更に関する通知の受信

Salesforce コンソール開発者ガイド: Lightning コンソール API でサポートされている Classic コンソール API メソッド

Salesforce コンソール開発者ガイド: setTabLink()

Salesforce コンソール開発者ガイド: Lightning Experience の setTabHighlighted()

Salesforce コンソール開発者ガイド: Lightning Experience の addToBrowserTitleQueue()

Salesforce コンソール開発者ガイド: Lightning Experience の removeFromBrowserTitleQueue()

Salesforce コンソール開発者ガイド: Lightning Experience の disableUtilityPopOut ()

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド

Salesforce CLI の変更は定期的にリリースされます。コア CLI プラグインの v44 の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。プレリリースバージョンの詳細は、Salesforce CLI コマンドリファレンスの v45 を参照してください。

Lightning Web コンポーネントの新しいコマンドとパラメータを `salesforcedx` v45 で使用できます。Lightning Web コンポーネントを試すには、プレリリースバージョンをインストールします。プレリリースバージョンの詳細は、Salesforce CLI コマンドリファレンスの v45 を参照してください。

新しいコマンド

以下の新しいコマンドは `salesforcedx` v44 (バージョン 44.4) の毎週のリリースで追加されました。

force:mdapi:deploy:cancel
進行中のメタデータリリースをキャンセルします。

廃止されたコマンド

以前に廃止としてマークされた以下のコマンドが `salesforcedx` v44 (v44.3.0 以降) の毎週のリリースで削除されました。

- `force:package2:create`
- `force:package2:list`
- `force:package2:update`
- `force:package2:version:create`

- `force:package2:version:create:get`
- `force:package2:version:create:list`
- `force:package2:version:get`
- `force:package2:version:list`
- `force:package2:version:update`
- `force:package:install:get` (`force:package:install:report` を使用)
- `force:package:uninstall:get` (`force:package:uninstall:report` を使用)

新しいパラメータ

以下のパラメータは v45 のプレリリースで新規追加されました。

`force:lightning:component:create --type`
Aura コンポーネント (`--type aura`、デフォルト) または Lightning Web コンポーネント (`--type lwc`) を作成するかどうかを指定します。

以下のパラメータは `salesforcedx` v44 (v44.3.0 以降) の毎週のリリースで追加されました。

`force:mdapi:deploy --validatedeployrequestid | -q`
Apex テストを実行せずに最近検証されたコンポーネントセットをリリースします。

`force:package:install --securitytype | -s`
インストール済みパッケージへのアクセスを示します。デフォルトでは、インストール済みパッケージはすべてのユーザプロファイルにアクセスできます。システム管理者のプロファイルおよび「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つすべてのプロファイルへのアクセスを制限できます。

`force:package:install --upgradetype | -t`
パッケージのアップグレードの場合、削除されたすべてのコンポーネントを廃止としてマークする (`DeprecateOnly`) か、削除されたコンポーネントのうち安全に削除できるコンポーネントを削除してそれ以外のコンポーネントを廃止する (`Mixed`、デフォルト) かを指定します。

変更されたパラメータ

以下のパラメータは `salesforcedx` v44 (v44.3.0 以降) の毎週のリリースで変更されました。

`force:package:install --package | -p`
短縮名 `-p` を追加しました。

`force:package:install --publishwait | -b`
短縮名 `-b` を追加しました。

廃止されたパラメータ

以前に廃止としてマークされた以下のパラメータが `salesforcedx` v44 (v44.3.0 以降) の毎週のリリースで削除されました。

コマンド	廃止されたパラメータ
`force:package:install`	--id | -i

コマンド	廃止されたパラメータ
`force:package:uninstall`	--id | -i

関連トピック:

Salesforce CLI での Lightning Web コンポーネントの拡張機能の活用

Dev Hub: 新しい Limited Access ライセンス

Salesforce ユーザライセンスを持っていないけれども、本番組織またはビジネス組織で Dev Hub を使用することを検討されていますか? これ以上探す必要はありません。開発者は、Salesforce Limited Access - Free ライセンスを使用して Dev Hub にアクセスし、スクラッチ組織を作成および管理します。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: Salesforce システム管理者は、Salesforce Limited Access - Free ライセンスを標準の Salesforce ライセンスにいつでもアップグレードできます。Free Limited Access ライセンスを要求するには、Salesforce の担当者にお問い合わせください。

Dev Hub 組織へのフルアクセス権を付与するには、権限セットに次の権限を含める必要があります。詳細は、『*Salesforce DX 設定ガイド*』の「Salesforce DX ユーザの追加」を参照してください。

- [オブジェクト設定] -> [スクラッチ組織情報] -> [参照]、[作成]、[削除]
- [オブジェクト設定] -> [有効なスクラッチ組織] -> [参照]、[削除]
- [オブジェクト設定] -> [名前空間レジストリ] -> [参照] (スクラッチ組織でリンクした名前空間を使用するため)

スクラッチ組織: 設定可能な Salesforce 環境

一時的に使用し、簡単に再作成できるように設計されたスクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。

詳細は、『Salesforce DX 開発者ガイド』を参照してください。

このセクションの内容:

新機能を含むスクラッチ組織の設定

スクラッチ組織のより多くのアドオン機能が提供されています。

組織設定の廃止のタイムライン

Winter '19 で組織設定の廃止が発表されましたが、時期尚早でした。組織設定は、今後のリリースで廃止が発表されるまで引き続き使用できます。

新機能を含むスクラッチ組織の設定

スクラッチ組織のより多くのアドオン機能が提供されています。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: 本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、またはトライアル Dev Hub 組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。

方法: 機能をスクラッチ組織定義ファイルに追加します。

- ChatterAnswers
- CustomerNotificationType
- DevelopmentWave
- EinsteinAssistant
- Pardot
- TerritoryManagement
- TimeSheetTemplateSettings
- UIplugin

サポートされる機能の完全なリストについては、『*SalesforceDX 開発者ガイド*』の「スクラッチ組織定義の設定値」を参照してください。

廃止されるスクラッチ組織の機能

- CustomApps (AddCustomApps:<value> に置換済み)
- CustomTabs (AddCustomTabs:<value> に置換済み)

組織設定の廃止のタイムライン

Winter'19 で組織設定の廃止が発表されましたが、時期尚早でした。組織設定は、今後のリリースで廃止が発表されるまで引き続き使用できます。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: 本番組織で Dev Hub を有効にした場合、Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、またはトライアル Dev Hub 組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。

理由: 特定の組織設定でスクラッチ組織を作成したいと思ったのに、サポートされていないことに気付いたことはありませんか? スクラッチ組織設定では、任意のメタデータ API 設定を使用してスクラッチ組織を設定できます。スクラッチ組織定義ファイルで、組織設定を設定に変換することをお勧めします。

方法: 組織設定から設定への変換については、『*SalesforceDX 開発者ガイド*』の「スクラッチ組織定義の設定値」を参照してください。

マーケティング: Google Analytics 360 利用者の有効化、Social Studio の Instagram エンゲージメントおよびストーリー

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを1か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

最新機能と機能強化の詳細は、Marketing Cloud リリースノートを参照してください。

- 2019 年 1 月リリース
- 2018 年 10 月リリース
- 2018 年 8 月リリース
- 2018 年 6 月リリース
- 2018 年 4 月リリース

関連トピック:

Marketing Cloud の概要

Marketing Cloud: 以前のリリースノート

Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ

重要な更新

このリリースには、Lightning Experience ユーザ、ユーティリティ、コミュニティおよびポータル、プロセスおよびフロー、エンタープライズテリトリー管理、ガイド付きアクションリストコンポーネント、組織スキーマに関する新しい重要な更新が含まれています。URL のインスタンス名、および自動項目更新によるメール通知に関する重要な更新は延期されました。

新しいリリースに円滑に移行できるように、それぞれの重要な更新には選択期間が用意されています。この選択期間は、[設定] の [重要な更新] ページに表示される自動有効化日付になると終了します。この期間中は、更新の有効化および無効化を必要に応じて手動で何度でも行って組織への影響を評価し、更新によって影響を受けるカスタマイズを修正することができます。選択期間を過ぎると、更新は有効になります。詳細は、「重要な更新への対応」を参照してください。

新しい重要な更新

Spring '19 の新しい重要な更新を次に示します。

Lightning Experience の有効化 (重要な更新)

Salesforce は、ユーザがより迅速に多くの作業を行い、生産性を高めることができるように、Winter '20 からローリング方式で Lightning Experienc を有効化していきます。新機能で提供されるすべてをユーザが利用できるように、すぐに Lightning Experience への移行準備を始めることをお勧めします。Salesforce のユーザエクスペリエンスとプラットフォームの未来は Lightning Experience にかかっています。今後、すべてのイノベー

ションは Lightning Experience で行われます。Lightning Experience が有効になる前にリードタイムを利用して、新しいインターフェースで組織の機能とカスタマイズがどのように動作するかを理解し、変更管理を使用してユーザの準備を整えてください。後で Lightning Experience が有効になたっときに全員のエクスペリエンスが向上するように、今すぐ開始しましょう。できればこの更新が自動的に有効になる前に、チームのユーザの Lightning Experience を管理して有効にしてください。

ポップアウトユーティリティを使用して生産性を高めるウィンドウを開く (重要な更新)

ユーティリティバーからユーティリティを個別のウィンドウにポップアウトします。ポップアウトしたユーティリティを配列したり、別のモニターに移動したりできます。メインウィンドウと共にポップアウトしたユーティリティを操作できるため、マルチタスクが容易になります。ユーティリティの使用を終了する場合、ユーティリティバーに再度ポップインするか、ウィンドウを閉じます。

コミュニティまたはポータルを使用する組織の外部組織の共有設定の有効化 (重要な更新)

この更新により、外部共有モデルが有効になり、デフォルトの外部アクセス権設定の確認が必要なオブジェクトのリストがシステム管理者に提供されます。この更新によって外部ユーザにより厳しいアクセスレベルを設定できるようになり、データの保護が促進されます。Spring '19 より前の組織の共有設定では、内部ユーザと外部ユーザに同じデフォルトのオブジェクトアクセス権が割り当てられていました。この更新を有効化すると、コミュニティまたはポータルを使用するすべての組織で外部組織の共有設定が有効になります。

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (重要な更新)

この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

エンタープライズテリトリー管理での取引先の手動共有の有効化 (重要な更新)

この更新により、AccountShare レコードの `TerritoryManual` 理由コードが `Territory2AssociationManual` に変更されます。この更新は、ユーザが手動でアカウントをテリトリーグループと共有できるようにする場合に必要になります。本番環境で更新を有効化してから変更が表示されるまで最大 2 週間かかる場合があります。

[ガイド付きアクションリスト] 設定から [設定] のリリースへの変換 (重要な更新)

既存の [ガイド付きアクションリスト] 設定から [設定] で管理するリリースに移行します。その後、別のレコードページおよび組織で [ガイド付きアクションリスト] 設定を再利用できます。Spring '19 以降、コンポーネントのプロパティでこれらの設定を定義できなくなります。代わりに、[設定] で管理するリリースを使用します。移行を簡略化するには、既存の設定からリリースへの 1 回限りの移行を実行します。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Summer '19 に延期されました。この重要な更新によって、組織スキーマの詳細の改善されたキャッシュを有効にし、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

既存の重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新を依然として利用できます。

pageReference.state プロパティとクエリパラメータへの名前空間プレフィックスの追加

Spring '19 リリースノートに記載されているように、この重要な更新はパッケージコンポーネント間の名前の競合の問題に対応します。名前空間プレフィックスは、パッケージおよびそのコンテンツとその他の開発者のパッケージを区別します。名前空間プレフィックスは state またはクエリパラメータ名でのコンポー

ネント間の競合を防ぎます。クエリパラメータおよび `pageReference.state` プロパティには名前空間プレフィックスが必要です。ない場合、この重要な更新でそれらが組織の URL から削除されます。この重要な更新は、2019 年 5 月 17 日に Summer '19 で有効になります。

数式項目でハイパーリンクを正しく開く

Spring '19 リリースノートに記載されているように、この重要な更新は数式項目でハイパーリンクを開いたときの問題に対応します。`HYPERLINK` 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この重要な更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この重要な更新は、2019 年 5 月 17 日に Summer '19 で有効になります。

延期された重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新の自動有効化日付が延期されました。

重要な更新「Visualforce、コミュニティビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」の延期

この重要な更新は、Spring '18 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '20 に延期されました。

重要な更新「自動項目更新によるメール通知の抑制の防止」の延期

この重要な更新は、Summer '17 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、2020 年 3 月 1 日 (GMT) に延期されました。

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

この重要な更新は、Summer '16 でリリースされ、Spring '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Spring '19 に延期されました。

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (重要な更新) の延期

この重要な更新は、Summer '18 でリリースされ、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '20 に延期されました。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (重要な更新、延期)

この重要な更新は、Spring '19 で自動的に有効化される予定でしたが、Summer '19 に延期されました。この重要な更新によって、組織スキーマの詳細の改善されたキャッシュを有効にし、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。

ヘルプ & トレーニング

CLI プラグイン開発者ガイドの導入、Outlook および Gmail インテグレーションの機能に関するコンテンツの追加、省略されていたサポート言語に関するドキュメントの追加が行われました。Trailhead のモジュール、トレイル、プロジェクトが追加され、手順動画が作成および更新されました。また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

このセクションの内容:

新しい開発者ガイドを使用した独自の Salesforce CLI プラグインの作成
Salesforce CLI の独自のプラグインを開発する方法を確認します。Salesforce CLI アーキテクチャを探索します。Salesforce プラグインジェネレータを使用してプラグインを生成する方法を確認し、Salesforce のライブラリを使用して機能をプラグインに追加し、問題をデバッグします。命名とメッセージの推奨されるスタイルガイドラインやプラグインの推奨されるベストプラクティスを確認します。

Outlook および Gmail インテグレーションの追加されたコンテンツ
機能の使用可能状況とメール追跡の動作に関するよくある質問への回答のコンテンツを Salesforce ヘルプの Outlook および Gmail インテグレーションセクションに追加しました。

言語サポートドキュメントの更新
CustomObjectTranslation を説明する『*メタデータ API 開発者ガイド*』の付録でいくつかのサポート言語が文書化されていませんでした。

Trailhead で機能を探索
楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

動画を見る (英語のみ)
ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し
新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

新しい開発者ガイドを使用した独自の Salesforce CLI プラグインの作成

Salesforce CLI の独自のプラグインを開発する方法を確認します。Salesforce CLI アーキテクチャを探索します。Salesforce プラグインジェネレータを使用してプラグインを生成する方法を確認し、Salesforce のライブラリを使用して機能をプラグインに追加し、問題をデバッグします。命名とメッセージの推奨されるスタイルガイドラインやプラグインの推奨されるベストプラクティスを確認します。

『*Salesforce CLI プラグイン開発者ガイド*』は、[Salesforce 開発者] にあります。

関連トピック:

オープンソースツールを使用した独自の Salesforce CLI プラグインの作成

Outlook および Gmail インテグレーションの追加されたコンテンツ

機能の使用可能状況とメール追跡の動作に関するよくある質問への回答のコンテンツを Salesforce ヘルプの Outlook および Gmail インテグレーションセクションに追加しました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。この変更も、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションで使用可能な、Salesforce Inbox モバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 営業担当が確実に成功するには、機能に関する情報の共有が不可欠です。このため、機能を使用できる場所について説明するコンテンツと、インテグレーションからのメールの追跡方法に関する質問に回答するコンテンツを作成しました。

- Salesforce データの操作には柔軟性があり、営業担当は Salesforce データを Outlook や Gmail で直接操作したり、iOS や Android の Salesforce Inbox アプリケーションを使用して操作したりできます。各環境で使用できる機能は異なります。デスクトップまたはモバイルデバイスで使用可能な機能についての詳細は、「Outlook インテグレーションと Salesforce Inbox で使用可能な機能」または「Gmail インテグレーションと Salesforce Inbox で使用可能な機能」を参照してください。
- Outlook または Gmail インテグレーションに Inbox 機能を追加すると、営業担当は受信者がいつメールを開封し、メール内のリンクを開いたかを追跡できます。メールの追跡に関する主な考慮事項については、「Outlook インテグレーションのメールの追跡に関する考慮事項」または「Gmail インテグレーションのメールの追跡に関する考慮事項」を参照してください。

言語サポートドキュメントの更新

CustomObjectTranslation を説明する『*メタデータ API 開発者ガイド*』の付録でいくつかのサポート言語が文書化されていませんでした。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition、Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 次の言語の情報と項目値を見つけることができるようになりました。

完全サポート対象言語
: ノルウェー語、スペイン語 (メキシコ)、スウェーデン語

エンドユーザ言語
: ポルトガル語 (ポルトガル)、スロバキア語、スロベニア語、クロアチア語

Trailhead で機能を探索

楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

https://trailhead.salesforce.com で Trailhead を確認し、適切なトレイルを見つけてください。最新のモジュール、トレイル、プロジェクトは次のとおりです。

モジュール

Advertising Studio Implementation Basics (Advertising Studio の実装の基礎)
: Advertising Studio を使用してマルチチャネル広告キャンペーンを実装する方法について説明します。

トレイル

Build Your Marketing Cloud Consulting Practice (Marketing Cloud コンサルティング業務の構築)
Marketing Cloud 実装プロジェクトを使用して、成功するコンサルティング業務を構築します。

サービスの Lightning フロー
エージェントがケースを常にすばやく解決できるようにオンボーディングおよびガイドを簡略化します。

プロジェクト

Create a Customer Account Portal with a Self-Registration Flow (セルフ登録フローを使用したカスタマー取引先ポータルの作成)

ログインフローと Lightning Knowledge を使用してポータルを設定します。

動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

- 新しい動画「Give Your Community Style with Pre-Built Themes (事前作成済みのテーマを使用したコミュニティのスタイル設定)」では、事前作成済みのテーマの概要と、コードではなくクリックでコミュニティのスタイルを調整する方法について説明します。
- 機能強化と新機能を反映して動画「Connecting to Salesforce in Outlook (Outlook での Salesforce への接続)」が更新されました。
- 機能強化と新機能を反映して動画「Connecting to Salesforce in Gmail (Gmail での Salesforce への接続)」が更新されました。
- 更新されたウィザードを反映して動画「Connect to a Service Using a Wizard (ウィザードを使用したサービスへの接続)」が更新されました。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

Infrastructure and Sub-Processors

ドキュメント『**Infrastructure and Sub-Processors**』に次の変更が加えられました。

Sales Cloud、Service Cloud、Community Cloud、Chatter、Force.com、IoT Explorer (IoT Plus を含む)、Site.com、Database.com、Einstein Analytics (Einstein Discovery を含む)、Work.com、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce CPQ and Salesforce Billing

- **Scope:** どの IoT 製品がこのドキュメントの対象なのかが明記されました。2018 年 10 月 16 日以降に販売された Einstein Discovery には別のドキュメントが適用されることが明記されました。
- **Customer Data Processing:** サブプロセッサとして Heroku, Inc. を使用するツールまたは機能として、メッセージング、Lightning Experience 準備状況チェック、Salesforce Optimizer、Lightning Experience 設定コンバータ、Lightning Experience の歓迎メッセージ、Sales Cloud Einstein の準備状況評価、Visualforce チェックが追加されました。

B2B Commerce

- 更新なし。

Commerce Cloud

- **Infrastructure - Customer Data Storage:** 顧客データの保存に関与する国および法人が記載される表の説明が明記されました。

Data.com

- 更新なし。

Einstein Discovery Classic

- **Scope:** 2018 年 10 月 16 日以降に販売された Einstein Discovery には別のドキュメントが適用されることが明記されました。

「Einstein」(Sales Cloud Einstein、Pardot Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision、Einstein Language、Einstein ボット、Service Cloud Einstein、Einstein 予測ビルダー)

- **Scope:** Pardot Einstein、Service Cloud Einstein、Einstein 予測ビルダーサービスが追加されました。
- **Customer Data Storage:** Einstein エンゲージメントスコアリングについては、EMEA 顧客地域と、関連する保存の詳細 (顧客データの保存場所を決定する方法の説明など) が追加されました。Einstein ボットについては、顧客データの保存方法が追加されました。

Heroku

- 更新なし。

Desk.com、Einstein Discovery、LiveMessage、Quip、SalesforceIQ CRM サービス

- **Scope:** どの Salesforce サービスがこのドキュメントの対象で、どの関連サービスが他の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの対象なのかが明記されました。
- **Infrastructure - Customer Data Storage:**
  - Lightning LiveMessage は、他の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの対象であるため削除されました。
  - Einstein Discovery Classic および LiveMessage の名前とエディションが明記されました。

IoT Cloud

- 更新なし。

Marketing Cloud

- **Scope:** Datorama および Interaction Studio サービスが各所に追加されました。Live Weather Block および予測インテリジェンス機能が追加されました。
- **Infrastructure - Customer Data Storage:** Datorama および Interaction Studio サービスが追加されました。保存地域がアメリカ & APAC 顧客地域と EMEA 顧客地域に分割され、関連する保存の詳細 (顧客データの保存場所を決定する方法の説明など) が追加されました。
- **Customer Data Processing:** Datorama サードパーティプロバイダが追加されました。
- **Content Delivery Networks:** Datorama CDN が追加されました。

MuleSoft

- **Infrastructure- Customer Data Storage:** AWS のリリース国としてアルゼンチンが削除されました。

- **Customer Data Processing:** Salesforce アフィリエイトの国リストが修正されました。顧客データを処理する MuleSoft エンティティが明記されました。Amplitude, Inc.、Segment.io, Inc.、Sumo Logic, Inc.、The Rocket Science Group LLC d/b/a MailChimp が保存以外の目的で顧客データを処理していることが明記されました。Sumo Logic, Inc. がイギリスの顧客データを処理していることを反映して更新されました。Epidata S.A. および The Rocket Science Group LLC d/b/a MailChimp の法人名が修正されました。Great Software Laboratory, Inc. が米国にあることを反映して更新されました。Anypoint Partner Manager が MuleSoft でサポートされていることが明記されました。

Pardot

- 更新なし。

Salesforce DMP

- 更新なし。

通知およびライセンス

ドキュメント『**Notices and Licenses**』に次の変更が加えられました。

Salesforce

- **Services Covered:** どの IoT サービスがこのドキュメントの対象なのかが明記されました。
- サービスに接続できるサードパーティプラットフォームに関する追加情報が含まれるように更新されました。現在のブランドとの一貫性を保つために配布ソフトウェアの名前が更新されました。

B2B Commerce

- 更新なし。

Commerce Cloud

- 更新なし。

Data.com

- 更新なし。

Desk.com

- 更新なし。

Einstein Analytics

- 2018 年 10 月 16 日以降に販売された Einstein Discovery にはこのドキュメントが適用されることが明記されました。

Einstein Discovery Classic

- 2018 年 10 月 16 日以降に販売された Einstein Discovery には別のドキュメントが適用されることが明記されました。

「Einstein」(Sales Cloud Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision および Language サービス、Einstein ボット)

- **Scope:** Pardot Einstein、Service Cloud Einstein、Einstein 予測ビルダーサービスが追加されました。
- **Sales Cloud Einstein Third-party Notices:** すべての Account Intelligence 機能ではなく取引先ニュース機能のみが Sales Cloud Einstein の一部として提供されることが明記されました。

Heroku

- 更新なし。

IoT Cloud

- 更新なし。

LiveMessage およびメッセージング

- メッセージング製品が NLI の対象範囲に追加されました。

Marketing Cloud

- **ExactTarget NLI:**
  - **Services Covered:** Interaction Studio が含まれるように更新されました。
  - **Third Party Notices:** Live Weather Block 機能について Accuweather が含まれるように更新されました。Bitly 利用規約が更新されました。
  - **Distributed Software:** Marketing Cloud モバイルアプリケーションの注文書補足条項が含まれるように更新されました。
- **Datorama NLI:**
  - Datorama サービスを対象とする NLI が新しく追加されました。
- 予測インテリジェンス **NLI:**
  - **Scope:** 機能リストが更新されました。
- **Social Studio NLI:**
  - **Third Party Notices:** Coremetrics が追加されました。Shutterstock CustomFlashtock が削除されました。

MuleSoft

- **Third Party Notices:** MuleSoft Premium および Select Connectors を介して MuleSoft サービスに接続するサードパーティプラットフォームへの参照が含まれるように更新されました。
- **MuleSoft Services Policies:** Salesforce プライバシーポリシーへの参照が削除されました。

Pardot

- 更新なし。

Quip

- 更新なし。

Salesforce DMP

- **Third-Party Notices:** Google Cloud Storage への参照が削除されました。

SalesforceIQ (SalesforceIQ CRM)

- 更新なし。

Security, Privacy, and Architecture

ドキュメント『**Security, Privacy, and Architecture**』に次の変更が加えられました。

Sales Cloud、Service Cloud、Community Cloud、Chatter、Force.com、IoT Explorer (IoT Plus を含む)、Site.com、Database.com、Einstein Analytics (Einstein Discovery を含む)、Work.com、Financial Services Cloud、Health Cloud、Salesforce CPQ and Salesforce Billing、メッセージング

- **Services Covered:** メッセージングが追加されました。どの IoT サービスがこのドキュメントの対象なのかが明記されました。2018 年 10 月 16 日以降に販売された Einstein Discovery にはこのドキュメントが適用されることが明記されました。
- **Audits and Certifications:** Einstein Discovery および IoT Explorer (IoT Plus を含む) は HITRUST で認証されないことが明記されました。
- **Sensitive Data:** 個人の身体的健康または精神的健康に関連する情報や、ヘルスケアの提供および支払に関連する情報は、IoT Explorer (IoT Plus を含む) に送信できますが、メッセージングまたは Einstein Discovery サービスには送信できません。
- **Third Party Functionality:** メッセージングのサードパーティ情報が追加されました。

B2B Commerce

- 更新なし。

Commerce Cloud

- 更新なし。

Data.com

- 更新なし。

「Einstein」(Sales Cloud Einstein、Pardot Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision、Einstein Language、Einstein ボット、Service Cloud Einstein、Einstein 予測ビルダー)

- **Services Covered:** Pardot Einstein、Service Cloud Einstein、Einstein 予測ビルダーサービスが追加されました。
- **Architecture and Data Segregation:** Einstein Vision と Einstein Language で、異なる機能に対応する個別の環境 (特にテストと本番) が提供されることが明記されました。
- **Security Policies and Procedures:** 顧客が API を介して Einstein Vision と Einstein Language のデータにアクセスする方法についての詳細が追加されました。

Heroku

- SOC 認証が追加されました。

IoT Cloud

- 更新なし。

Desk.com、Einstein Discovery Classic、LiveMessage、Quip、SalesforceIQ CRM サービス

- **Services Covered:** どの Salesforce サービスがこのドキュメントの対象なのかが明記されました。2018 年 10 月 16 日以降に販売された Einstein Discovery には別のドキュメントが適用されることが明記されました。
- **Audits and Certifications:** 特定の対象サービスの ISO 認証が追加されました。
- **Deletion of Customer Data:** Salesforce IQ CRM ユーザのデータは、契約解除の 30 日後に Salesforce によって削除される可能性があります。

Marketing Cloud

- **Services Covered:** Datorama および Interaction Studio サービスが各所に追加されました。Live Weather Block および予測インテリジェンス機能が追加されました。
- **Audits and Certifications:** Datorama 認証が含まれるように更新されました。EMEA で ExactTarget に送信されるバックアップ顧客データをホストするための GCP のセキュリティ対策や、Datorama および Interaction Studio に送信される顧客データをホストするための Azure のセキュリティ対策へのリンクが提供されるように更新されました。

- **Security Controls:** Datorama および Interaction Studio のセキュリティコントロールを反映し、GCP および Azure のセキュリティドキュメントへのリンクを追加するために更新されました。
- **Reliability and Backup**: Datorama および Interaction Studio のバックアップを反映して更新されました。
- **Disaster Recovery:** Datorama が含まれるように更新されました。標準対象回復目標が削除されました。
- **Viruses:** Datorama および Interaction Studio が含まれるように更新されました。
- **Data Encryption:** Datorama および Interaction Studio が含まれるように更新されました。
- **Return of Customer Data:** Datorama および Interaction Studio が含まれるように更新されました。
- **Deletion of Customer Data:** Social Studio の顧客データの削除を反映し、Datorama および Interaction Studio が含まれるように更新されました。
- **Sensitive Data:** Datorama および Interaction Studio が含まれるように更新されました。

MuleSoft

- **Audits and Certifications:** Salesforce のプライバシーシールド認証を参照するように更新されました。

Pardot

- **Audits and Certifications:** ISO 認証が追加されました。

Salesforce DMP

- **Audits and Certifications:** ISO 認証が追加されました。
- **Physical Security:** Salesforce オフィスの物理的なセキュリティとパブリッククラウドプロバイダの物理的なセキュリティを区別するために記述が更新されました。

その他の Salesforce 製品とサービス

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「Heroku Changelog」を参照してください。

Success Cloud

Salesforce Success Cloud の認定エキスパート、コンサルタント、革新的なツールが、プロフェッショナルサービス、具体的なアドバイス、専門知識を通じて、さまざまな場面をサポートします。